ISBN4-8329-5821-6
C3087 P9991E

定価9991円[本体9700円]
北海道大学図書刊行会



ウイルタ語辞典
Uilta Kəsəni Bičixəni
池上二良編
北海道大学図書刊行会

Uilta
Kəsəni Bičixəni
ウイルタ語辞典

池上二良
編



北海道大学図書刊行会

60頁　*ərі* の項の最後の 。をとり，かわりにつぎの記述をつけ加える
／*ərrii tarrii* これとそれ，だれもかれも。

103頁　*koliga* の項は追加を入れて記述全体をつぎのようにする
N　s. [acc. *koligamba*, pl. *koligal*], *kolee* U　s. むし (虫)
(*xapinau*, *sipsii*, *wəərə* など N)　－ insect : *isal koligani*
目のなかにいるというむし N.

107頁　*kəpčəənu* の項の 干す)　と　[の間につぎの記述を挿入する
(燻製 U)

121頁　*məŋu* の項の最後の . をとり，かわりにつぎの記述をつけ加える
: *məŋumə xunaaptu* 銀製の指輪。

140頁　*nuŋji-ni* の項の最後につぎの記述を加える
／*nuŋjimi aldurixani*. かれはゆびさして知らせた。

141頁　*nuuksə* の項の最後の . をとり，かわりにつぎの記述をつけ加える
: *nuuksəəməli* すすだらけの。

198頁　*takkuramji* の項の　－　と servant の間につぎの記述を挿入する
employee,

204頁　*təkkərə* の項の最後につぎの記述を加える
[<ニ<満 tenggeri]

215頁　*tuujji-ni* の項の最後につぎの記述を加える
／*suun tuujjijjeeni* 日の入る方，西。

3）項目の記述の改訂

116頁　*mambakka* の項の記述全体をつぎのように改める
NJG s.　[acc. *mambakkaa* N] (*wambakka* と言う人もある NG)
ふたまたの厚い手袋－ mittens.

4）誤字訂正

		<誤>	<正>
iii頁	凡例3行，5行	方向格	指向格
48頁	*Doronneeni*	*Doronneeni*	*Doronnee-ni*
172頁	*Sačigari*	c.	o.
255頁	16行	(*məučča*)	(*meučča*)
260頁	9行	*joonopu*	*joodopu*

正誤　103頁　下から3行　　誤　pl. *koliga*　　正　pl. *koligal*

池上二良編「ウイルタ語辞典」（北海道大学図書刊行会 1997年発行）の第2刷の発行に際して，凡例に補記を付し，13の見出し語に新たな記述を加え，1語は記述を改め，ほかに6箇所の誤字を正しました。第1刷の本書には，これらの点を記したこの紙片を添付して頂ければ幸甚に存じます。

平成九年十二月　　編　者

1）凡例の末尾（ix頁）に以下の補記を追加

<補記>

名詞の見出し語において，*-nnee* (人) を第二構成要素として含む語に接尾する第3人称語尾 *-ni* がその語の内の第一構成要素と照応する語例では，*-ni* が他の語と照応する通常の語例と区別するために，*ni* のまえに - を挿入してない。

数詞には，基本数詞およびこれに接尾辞がついた数を表す名詞的語が含められており，その他エウェンキー語の基本数詞に接尾辞がついたエウェンキー語からの借用語である数を表す名詞的語も入れてある。ただし，*geedannee* (一人) などのように数詞と *-nnee* (人) からなる一種の複合語ともみられる語は名詞としている。

動詞語幹形成接尾辞については池上 (1973) 参照。

語形が同じ二つの語を，同じ語として扱うか，別の語として扱うかについては，その扱いがむずかしい場合が少なくないが，一応，品詞が相異なる語，語構成や語変化が相異なるか，またはその異同が不明の語，また，品詞などが一致しても同じ報告者から得たものでない語などを，通例，語形の肩に異なる数字をつけて区別してある。ただし，この区別の仕方をはずれた語例が若干ある。

2）項目の記述の追加

9頁　*andaxa* の項の最後の . をとり，かわりにつぎの記述をつけ加える
: *andaxaŋumuna* 客連れ。

22頁　*bojjee-ni* の項の かんが (考) える の前に 1. を入れ，一番あとにつぎの記述を加える
2. 人のあとに付いて行く，あとを追う。

43頁　*dawaska*[2]　の項の最後の . をとり，かわりにつぎの記述をつけ加える
(ふかば)。

49頁　*dəərisi-ni* の項の最後につぎの記述を加える
／*oksooji dəərisini*. そりでかれは運んでいる。

A DICTIONARY
OF
THE UILTA LANGUAGE
SPOKEN ON SAKHALIN
by
Jirô IKEGAMI

Hokkaido University Press
Sapporo
1997

ウイルタ語辞典

池上二良
編

北海道大学図書刊行会

Satoo mamaŋunee
sittəi jəə bičixxəə bөөmi
agdapsee unǰiwi.
I. J.

まえがき

ウイルタ語（旧称オロッコ語）はサハリン（樺太）の土着民族の一つウイルタ族（旧称オロッコ族）が話す言語である。それを書き表す固有の文字はない。ウイルタという名称は，ウイルタが自分の名称として使うものであり，この民族を呼ぶのにオロッコの名称のかわりに今はこれが用いられる。なお，自称については，ウイルタのほかウルタ（ウリタ）という語形を使う人もいる。ウイルタ族は人口300人ないし400人の少数民族で，ポロナイスク市（もとの敷香）や北部のワール村に居住する。今日，ウイルタは日常ロシヤ語を話すようになって，本来のウイルタ語は使われなくなり，これを話す人は非常に少ない。ウイルタ語は，地域による方言差が少ないともいえるが，ワール地方の北方言とポロナイスク地方の南方言に大別することができよう（池上1994a参照）。なお，ポロナイスク地方の少数のウイルタは，戦後北海道へ移住した。このウイルタは，ウイルタ語のほか日本語を話すが，若い世代は日本語しか話さない。

ウイルタ語は，系統的には，ツングース・満洲語とまとめてよばれる一群の言語のうちの一つである。この一群の言語のなかには，ウイルタ語のほか，エウェンキー語，オルチャ語，満洲語その他があり，その各言語は同一の言語の相異なる個々の方言のような関係にある。ツングース・満洲語は，さらにチュルク語（トルコ共和国のトルコ語など）・蒙古語（モンゴル国のモンゴル語など）とともに互に類似点をもち，この三言語は合せてアルタイ諸語とよばれる。

ウイルタ語のもっとも古い採録は，江戸時代末期（19世紀なかごろ）にオロッコ語，ニクブン語，サンタン語を採録した語彙「ヲロツコ語」（北海道庁蔵『カラフト西奥地里数書』所収）（池上1971）に載るものであろう。その筆者は松浦武四郎であることが谷澤尚一氏によって指摘された。369項目が載る。その後1904年ポーランド人ピウスツキ（B. Pilsudski）が採録した「オロッコ語・ポーランド語語彙」があり，その資料としての価値は高い（津曲1985b参照）。大正年代になって金田一京助『日本国内諸人種の言語』（金田一1912）と中目覚『オロッコ文典』（中目1917b）にそれぞれウ

イルタ語語彙が載る。昭和に入って，いくつかのウイルタ語彙が川村秀弥氏（川村 1983）やほかの採録者によって残されたが，その後，一層進歩したつぎの両辞典が刊行された。ツィンツィウス（V. I. Tsintsius）その他の研究者の編集した『ツングース・満州諸語比較辞典』（1975, 1977）はウイルタ語の多数の単語を収録しており，澗潟久治『ウイルタ語辞典』（澗潟１９８１）も収録語とその例文がともに豊富である。また，北川源太郎（*Geeldaanu*）『ウイルタのことば』（北川 1986, 1988, 1990, 1991）は，ウイルタ自身の仮名書きによる貴重なウイルタ語資料である。ウイルタ語研究の歴史については池上（1993b）参照。

この小辞典の成り立ちについて記すと，筆者は，戦後北海道へ移住したウイルタの人びとからウイルタ語南方言の資料をなが年にわたって採集してきた。その間，昭和20年代から昭和54年度までたびたび文部省科学研究費補助金を受けた。昭和52－54年度には成果の一部として『ウイルタ語基礎語彙』（池上 1980）を作成した。さらに，北海道教育委員会が昭和53－60年度，昭和62年－平成2年度におこなった「ウイルタ民俗文化財緊急調査」にたずさわり，その報告書の一部として『ウイルタ民俗語彙』（池上 1985），『ウイルタ語生活語彙』（池上 1989），『ウイルタ語生活語彙補編』（池上 1992）（これらについてはそれぞれの「はしがき」または「まえがき」を参照）を作成した。この辞典は，これら4種の語彙を一つにまとめ，所載単語についての記述を補訂し，また掲載の単語をさらに増加したものである。見出し語の数は約4500である。ウイルタ語の資料は，筆者がつぎのかたがたから採録したものである。以下（　）内はウイルタ名。

故佐藤チヨ（*Napka*）様
故北川五郎（*Gərgələ*）様
故中川カヨ様
故中川和四郎（*Jəuriŋənu*）様
小川ウメ（*Ǝəktəŋgu*）様
北川アイ子様
故北川厚子様
故北川平吉（*Xiranaka*）様
小川ウメ様息女様

とりわけ，佐藤チヨ様には大変お世話になり，佐藤様から得た資料は

もっとも多く，この辞典においても大量にふくまれている。そして，主として北川五郎，中川カヨ，中川和四郎，小川ウメの四氏から得た資料がそれを補足している。

この語彙の刊行にあたり，なが年にわたってウイルタ語をきかせてもらい，ウイルタ語を教えていただき，お世話になったこのかたがたに深く感謝の意を表す。特に，すでに故人となったかたがたを追憶するとき，感慨は深く，心から御冥福を祈る。

この資料提供者の生年（本辞典中の各ウイルタ名の項参照，なお中川カヨ様は佐藤チヨ様より一歳若い，ウイルタ名のないかたがたは大体新しい世代）からもわかるように，本書のウイルタ語語彙に反映するウイルタの生活・ウイルタの文化は，年代を幅ひろくとってみてほぼ大正年代から昭和20年ごろまで，言い換えれば南樺太の日本統治時代，すなわち20世紀前半の南サハリンのウイルタのそれであると言うことができよう。この間，それまでのロシヤ人からの影響のかわりに，日本人の文化と世界的な近代文明の影響を受け，ウイルタの生活形態は変化していった。ウイルタは幌内川河口に近いオタスに集合して居住するようになり，1930年には同地に敷香教育所が開設され，学校教育がおこなわれることになった。また，一方，その間昭和初期ごろか，となかいの個人飼育が消滅したという。しかし，各自が出生して所属する氏族についての氏族意識は，この時期のあとまでも強く保たれたようにみえる。

上述のように，このウイルタ語辞典は，南方言にもとづくものである。しかし，南方言内においても，敷香とその東方の野頃などの地方との間には方言差があるようである。ウイルタ語全体の妥当な方言区分はさらに精察を要する問題である。

本書のウイルタ語の音形は，音韻表記によっている。その実際の発音は，発音の説明の条をみられたい。語形の表記については，正確に記すことにつとめたが，なお誤りのあることを恐れている。

ウイルタ語の文法については，拙文（池上 1956, 1959, 1973, 1993a, 1994b, 1995）を参照されたい。

語義の記述については，資料採取の際，日本語によって説明を得，またときによりウイルタ語をまぜた説明を得た。本書の語義の記述においては，その説明をまとめるように整理して記したが，場合により報告者の説明におけるもとの表現をそのまま残すことにした。

『川村秀弥採録カラフト諸民族の言語と民俗』（川村 1983）の人名表には

ウイルタの人名が載り，生年も記されている。そのうち若い方は大正10年，さらに昭和2年生まれまで載る。この辞典に載せた人名のうち，約70人の名は，それを佐藤チヨ氏の発音によって表記したものであり，いずれの氏族かも記録した。

親族名称各語の意義についてくわしくは，池上（1970）を参照されたい。

こよみの月名の訳は『ウイルタ語基礎語彙』（池上1980）では中目覚『樺太の話』（中目1917a）によったが，この辞典では佐藤チヨ氏によって記し，これに中川和四郎氏の異なる点だけを添えて記した。北川五郎氏は，月名はわからないとのことであった。

あざらしの種類などの和名は，犬飼哲夫「樺太オロッコの海豹猟」（犬飼1941）によった。

植物の和名の人名略号のない片仮名書きのものは，「マスフレップ」を除いて，菅原繁蔵『樺太植物誌』（菅原1975）によったものである。

辞典中のウイルタの物質文化に関する記述については，「参考文献」の欄にあげた関係諸文献を参照されたい。池上（1979, 1982）の記述も，所載の古画・写真とともに本書の説明を多くの点で補っている。

基礎的な単語など一部の単語には，簡単な英語訳をつけてある。これについては，池上（1980 iiiページ，1985 iiページ）にふれた。

借用語のもとの語は，［　］のなかに記して，＜の記号のあとにおいたが，エウェンキー語は，ワシレーヴィチ（G. M. Vasilevich）『エウェンキー語・ロシヤ語辞典』（1958）からはロシヤ字のまま，ロマーノヴァ（A. V. Romanova）・ムィレーエヴァ（A. N. Myreeva）『エウェンキー語方言辞典』（1968）からはローマ字にかえて引用した。ヤクート語はスレプツォフ（P. A. Sleptsov）『ヤクート語・ロシヤ語辞典』（1972）から引用した。ニブフ語は，サヴェリエヴァ（V. N. Savel'eva）・タクサミ（Ch. M. Taksami）『ニブフ語・ロシヤ語辞典』（1970）からロシヤ字のまま，ただ一部の文字を印刷の便のためにかえて引用し，また，高橋盛孝『樺太ギリヤク語』（1942）からローマ字を基本とする表記をそのまま引用した。アイヌ語は，バチラー（J. Batchelor）『アイヌ英和辞典』（1938），知里真志保『分類アイヌ語辞典』（1953, 1954, 1962）などから引用したが，表記は統一した。

古語・廃語も，このことを記して載せてある。これらのなかには，同じ語が満洲語にあるものがあり，注意に値する。たとえば，あとの世代は使わないという *jali*, *sumala* は満洲語の *yali*（肉），*sumala*（袋）と同じ語である。

なお，語によっては，得られた用例が少なく，ある文脈における意味しか記してない語も少なくない。また，語義のまだ明確でないものもあるが，これらの語があることだけでも示すために記載してある。不十分な点がなおもあるが，これまでの調査資料を一応まとめ，ここに刊行する。二方言をあわせたウイルタ語全体の今後の調査研究への一つの踏み台とはなろう。

本書の巻末には，「ウイルタ語分類語彙」を付録とした。ウイルタの生活という見地から分類したものであるが，ただし，そこに分類されている語および語句は，本書に収録の語・語句のうちの約二千だけである。

巻末には，また「基礎単語日本語索引」をつけ加えてある。これは，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所刊『アジア・アフリカ言語調査票　上・下』（1966, 1967）および服部四郎編『基礎語彙調査表』（1957）の日本語語彙項目から意味がそれに相当するとみられるウイルタ語単語を示す索引である。ただし，そのウイルタ語単語のなかには，日本語のその単語と意味の一部が一致するだけのものもある。

巻末の最後には，ウイルタ族およびウイルタ語に関しておもに日本人やウイルタ自身が記した文献の表を「参考文献」として付した。なお，そこに挙げなかった他の文献については池上（1982）の「引用文献」も参照されたい。本書で姓名と西暦年を記したのは，論文・著書を挙げるのにその筆者名と発行年を略記したものであり，その論文題名・書名等についてはこの「参考文献」をみられたい。

本書の出版刊行については，小樽商科大学言語センター教授の津曲敏郎氏と北海道立北方民族博物館学芸員笹倉いる美氏の両氏が，原稿の整理・入力に多大の労をいとわず盡力して下さった。津曲氏には，また，出版までの種々の用件を処理していただいた。本書上梓は，両氏の大きな助力によっており，深甚の謝意を表す。また北海道大学図書刊行会の前田次郎氏にも出版の労を謝す。

なお，本書の刊行には，平成8年度文部省科学研究費補助金「研究成果公開促進費」の交付を受けた。

平成八年十一月　　池上二良　識

第2刷の発行に際して，凡例に補記を付し，13の見出し語に新たな記述を加え，1語は記述を改め，ほかに6箇所の誤字を正した。

平成九年十一月　　編　者

目　次

まえがき	i
凡例	viii
略語一覧	x
ウイルタ語の発音概略	xi
ウイルタ語の音韻と発音	xii
ウイルタ語辞典　*a-x*	1
ウイルタ語分類語彙	251
基礎単語日本語索引	263
樺太南部ウイルタ居住地方略図	288
参考文献	290

凡　例

各見出し語について，通例，品詞名を記し，そのあとにその語義を記載してある。

名詞（実詞）については，見出し語形は主格形であり，一般にはその品詞名と語義の間に［］に入れて対格の形を挙げ，一部の名詞にはさらに指向格などの斜格形を記してある。ウイルタ語の名詞について，その名詞変化を知ろうとすれば，主格（語幹に *a*, *ɔ*, *o*, *ɵ* をふくまない語については指向格）と対格の二形をみると，普通それが知られる。拙文「オロッコ語の名詞変化」（「参考文献」参照）の表Ⅰ－Ⅴを参照されたい。

若干の名詞については，複数形（多くは不規則形）も［］に入れて挙げる。

見出し語において語幹末尾に *-ni*（第３人称語尾）をつけてある名詞，代名詞は，その語幹がいつも人称語尾をとることを示す。固有名詞はかしらを大文字で記してある。

動詞については，見出し語形は不完了連体形であり，一般にはその品詞名と語義の間に［］に入れて完了連体形を挙げ，一部の動詞にはさらに完了連用形，まれに命令形を記してある。挙げたこれらの連体形には第３人称語尾 *-ni* をつけてある。ウイルタ語の動詞について，その動詞変化（活用）を知ろうとすれば，不完了連体形と完了連体形（語幹に *a*, *ɔ*, *o*, *ɵ* をふくまない語についてはたとえば完了連用形）の二形を見ると，普通それが知られる。拙文「オロッコ語の動詞変化」（「参考文献」参照）の表Ⅰ－Ⅸを参照されたい。不規則動詞の変化はその動詞変化語例表に載る。

形容詞は，一般に同じ形で名詞ともなり，その形容詞が表わす性質などそのもの，またはそれを属性として有するものを表わすが，本辞典においては，形容詞と同じ形の名詞は，たまたま採取したものだけを，通例その形容詞のあとに記載してある。

［］に入れて ant. とあるのは，見出し語に対する反義語である。

［］に入れて＜の記号ではじまる記載は，その見出し語が［］のなかに記された言語の単語からの借用語であることを示す。

また，ウイルタ語の単語に対して，ほかの言語における同源語かもしれない語は，［］のなかに cf. をつけて挙げている。

：のあとには，見出し語をふくむ例文または句や合成語，派生語をあげてある。

（）に入っている語形または語形の部分はそれがないことがある。×はその動詞が不規則変化をおこなうことを示す。

なおまた，各見出し語と例文には報告者名を略号で記したが，ただし，Nの記号は，特に他と区別を示す必要がある場合以外は省いてある。したがって，報告者略号を記してない単語，例文は佐藤チヨ氏によるものである。なお，同氏から得たと同じ資料を他の報告者からも得ている場合，一部の例を除いては，このことを記すことを省略している。

＜補記＞

名詞の見出し語において，*-nnee*（人）を第二構成要素として含む語に接尾する第３人称語尾 *-ni* がその語の内の第一構成要素と照応する語例では，*-ni* が他の語と照応する通常の語例と区別するために，*ni* のまえに - を挿入してない。

数詞には，基本数詞およびこれに接尾辞がついた数を表す名詞的語が含められており，その他エウェンキー語の基本数詞に接尾辞がついたエウェンキー語からの借用語である数を表す名詞的語も入れてある。ただし，*geedannee*（一人）などのように数詞と *-nnee*（人）からなる一種の複合語ともみられる語は名詞としている。

動詞語幹形成接尾辞については池上（1973）参照。

語形が同じ二つの語を，同じ語として扱うか，別の語として扱うかについては，その扱いがむずかしい場合が少なくないが，一応，品詞が相異なる語，語構成や語変化が相異なるか，またはその異同が不明の語，また，品詞などが一致しても同じ報告者から得たものでない語などを，通例，語形の肩に異なる数字をつけて区別してある。ただし，この区別の仕方をはずれた語例が若干ある。

略語一覧

a.	形容詞（adjectivum）	num.	数詞（numerale）
acc.	対格（accusativus）	part.	小詞（付属語）（particula）
adv.	副詞（adverbium）	perf.	完了連体形（nomen perfecti）
all.	指向格（allativus）	pl.	複数（pluralis）
ant.	反義語（antonymia）	prol.	縦走格（沿格）（prolativus）
conv.perf.	完了連用形（converbum perfecti）	pron.	代名詞（pronomen）
dat.	位置格（与格）（dativus）	s.	名詞（実詞）（substantivum）
imp.	命令形（imperativus）	v.	動詞（verbum）
imperf.	不完了連体形（nomen imperfecti）	voc.	呼びかけ形（vocativum）
instr.	道具格（instrumentalis）		
int.	間投詞（interjectio）		
loc.	場所格（locativus）		

日	日本語	エ	エウェンキー語
漢	漢語（中国語）	ニ	ニブフ語（樺太のニクブン方言をふくむ）（ギリヤク語）
朝	朝鮮語（韓国語）	ヤ	ヤクート語
満	満洲語	ロ	ロシヤ語
蒙	蒙古語（モンゴル語）		
ア	アイヌ語		

< 単語の借用　　cf. 参照　　sic ママ

報告者名

A	故　北川厚子様	M	小川ウメ様息女様
G	故　北川五郎（*Gərgələ*）様	N	故　佐藤チヨ（*Napka*）様
I	北川アイ子様	U	小川ウメ（*Ǝəktəŋgu*）様
J	故　中川和四郎（*Jəuriŋənu*）様	X	故　北川平吉（*Xiranaka*）様
K	故　中川カヨ様		

ただし，Nの記号はただ他の報告者と特に対照する場合にだけ記す。

ウイルタ語の発音概略

ウイルタ語音素一覧

母音音素　*a ə o ɵ u i e*

子音音素　*p t k b d g m n ɲ ŋ l r s x w j č ǰ*

発音についての略記

ə［ə］英語にあるいわゆるあいまい母音のような母音。

o［ɔ］日本語のオより舌をやや低くさげて発音する。

ɵ［o］または［o̱］日本語のオより舌をやや高くあげて発音する。

p t k b d g これらはいずれも閉鎖音に発音されるが、母音のまえでは破裂音であり，子音のまえや語末では破裂をともなわない内破音である。ただし，*p*は*s*のまえでは摩擦音であり，また*g*は母音間では多くよわい摩擦音である。

ɲ 日本語のニ，ニャ，ニュ，ニョの子音のような音に発音される。

ŋ 日本語のガ行鼻濁音に等しい音で発音される。

s *a*や*o*のまえではほぼ日本語のサの子音のように発音され，その他の母音が前か後にあるとシの子音のように発音される。

x この音は口の天井の後部でつくる無声の弱い摩擦音である。

j 日本語のヤ行子音のような音に発音される。

č ǰ *č*の音は日本語のチの子音のような音である。*ǰ*の音はその有声音である。

ウイルタ語の音韻と発音

ウイルタ語にはつぎの音素が認められる。

母音音素 / *a, ə, o, ɵ, u, i , e* /
子音音素 / *p, b, t, d, č, ǰ, k, g, m, n, ɲ, ŋ, l, r, s, x, w, j* /

以下に各音素およびそれに該当する音声，ならびに例をあげる。

母音音素

/ *a* / [ɑ]（後舌）または [a]（前舌） ひろい平唇母音。/ *aŋma* / [ɑŋmɑ] ‘ロ’。しかし，歯・歯茎音や硬口蓋音のような子音音素に隣接する位置では，前寄りとなる。/ *aja* / [ɑjɑ] ‘よい’ の母音は中舌母音であり，/ *čaččabi* / [tʃattʃabi] ‘切り開いて干したます（魚）’ の / *a* / は前舌母音に発音される。（以下，簡略にはいずれも [ɑ] で表す。）

/ *ə* / [ə] 比較的せまい中開き中舌平唇母音。/ *əmə* / [əmə] ‘貝の一種’，/ *dəgǰini* / [dəgdʒini] ‘かれが焼く’。ただし，歯・歯茎音，硬口蓋音の子音音素が隣接する位置などでは，その母音は上掲の例におけるより前寄りである。/ *dəpčini* / [dəptʃini] ‘かれが食べる’ や / *jədu* / [jədu] ‘ここに’ の / *ə* / は前寄りの [ə] である。さらに / *dətu* / [dətu] ‘湿地’，/ *tətuwə* / [tətuwə] ‘きもの’ の第1音節の / *ə* / はむしろあと寄りの [e] である。（以下，簡略にはいずれも [ə] で表す。）

/ *o* / [ɔ] 日本語の「オ」よりややひろい。/ *omo* / [ɔmɔ] ‘巣’。

/ *ɵ* / [ȯ]（前寄りの [o]）または [o] 日本語の「オ」よりせまい。/ *bɵjɵ* / [bȯjȯ] ‘獣’。

/ *u* / [u] / *utə* / [utə] ‘戸口’，/ *xunu* / [xunu] ‘へそ’。ただし，まえか，あとに / *a, o* / があると，舌の位置が低く，[ʊ] である。/ *ulaa* / [ʊlɑ:] ‘となかい’，/ *namu* / [nɑmʊ] ‘海’。（以下，簡略にはいずれも [u] で表す。）

円唇母音音素 / *o, ɵ, u* / の母音の唇のまるめは，左右上下からのせばめが非常に弱い。

/ *i* / [i] / *ixərə* / [ixərə] ‘あかり’，/ *sinu* / [ʃinu] ‘舌’。ただし，まえか，あとに / *a, o* / があると，舌の位置が低く，[ɪ] である。/ *ixa* / [ɪxɑ] ‘牛’。（以

下，簡略にはいずれも [i] で表す。）

/ *e* / [ę]（以下，簡略には [e] で表す。） / *ǰeluska* / [dʒeluśkɑ] ‘よだれ’，/ *peskini* / [peʃkini] ‘かれが発熱をひやす’。

/ *aa* / [ɑ:] / *naa* / [nɑ:] ‘土地’。

/ *əə* / [ə:] / *əəktə* / [ə:ktə] ‘女’。

/ *oo* / [ɔ:] / *doorima* / [dɔ:rimɑ] ‘みち’。

/ *ɵɵ* / [ȯ:] / *ɵɵrɵ* / [ȯ:rȯ] ‘ます（魚）’。

/ *uu* / [u:] / *duuru* / [du:ru] ‘切りきざめ（命令）’。ただし，まえか，あとに / *a, o* / があると，舌の位置は低く，[ʊ:] である。/ *paamalduu* / [pɑ:maldʊ:] ‘鳥の一種’。（以下，簡略にはいずれも [u:] で表す。）

/ *ii* / [i:] / *iirini* / [i:rini] ‘かれがはいる’。ただし，まえか，あとに / *a, o* / があると，舌の位置は低く，[ɪ:] である。/ *ǰiimasini* / [dʒɪ:mɑʃini] ‘かれはごちそうになる’。また，/ *ii* / (返答) は [ɪ:]。（簡略にはいずれも [i:] で表す。）

/ *ee* / [ɛ:]（ややせまい [ɛ:]） / *bee* / [bɛ:] ‘月’，/ *dappee* / [dappɛ:] ‘つかむ’。ただし，/ *ə* / が近くにあると，舌の位置は高く，[e:] である。/ *ŋənnee* / [ŋənne:] ‘行く’，/ *əsini bee* / [əʃini be:] ‘かれはいない’。（以下，簡略にはいずれも [e:] で表す。）

/ *ai* / [ǎi] / *aisi* / [ǎiʃi] ‘金’。

/ *əi* / [əǐ] / *səiktə* / [ʃəǐktə] ‘針葉’。

/ *oi* / [ǒi] / *loima* / [lǒimɑ] ‘魚の一種’。

/ *ɵi* / [ȯǐ] / *ɵɵtɵini* / [ȯ:tȯǐni] ‘かれの発疹へ’。

/ *ui* / [uǐ] / *uitə* / [uǐtə] ‘ひじ’。/ *uilta* / [uǐl̥tɑ] ‘ウイルタ人（自称）’。

/ *au* / [ɑŭ] / *kaura* / [kɑŭra] ‘夏小屋’，/ *dausu* / [daŭʃu] ‘しお’。

/ *əu* / [əŭ] / *səul* / [ʃəŭl] ‘（舟の）ともがい’。

/ *ou* / [ɔŭ] / *toktourini* / [tɔktɔŭrini] ‘かれがきめる’。

/ *ɵu* / [ȯŭ] / *bɵjjɵurini* / [bȯjjȯŭrini] ‘かれが猟をする’。

/ *eu* / [ęŭ] （以下，簡略には [eŭ] で表す。） / *keuri* / [keŭri] ‘胃袋’。

上記の /VV/ は，間に音節の境があるとみられる二つの母音に該当することもある。

なお，/ *a* / と / *ə* /，/ *o* / と / *ɵ* / に区別があるように，/ *u, i* / についてもそれぞれに2種があって，/ *u* / と / *ʊ* /，/ *ɪ* / と / *i* / のような区別があるのではないかということは重要な問題である。しかし，母音音素としては / *i, ii, u, uu, ui* / のいずれしか含んでいない語において，これらの音素のそれぞれが，ある語では舌の位置の低い [ɪ, ɪ:, ʊ, ʊ:, ʊǐ] として，他の語では舌の位置の高い [i, i:, u, u:, uǐ] として発音されてそれらの語の間でその発音が常に明確に区別されるということはないようである。事情は，/ *e, ee, eu* / についても似ていて，問題である。以前は / *u* / と / *ʊ* /，/ *i* / と / *ɪ* /，また / *e* / と / *ɛ* / の音

韻差異を仮定して記述したが，その後はこの音韻差異を認めずに記述している。ただし，これらの音韻的区別がウイルタ語にまったくないか，条件によってはあるのか，個人によってはあるのか，またこの言語を通時論的にみるとき，その区別が消滅していく過程にあって今日はその途中の一段階であるのか，なお疑問が残り，その区別がないことがまったく明白であるとはいまだ言いきれない。特に，/ *e, ee, eu* /については疑問が強く，なお精察の必要があろう。

子音音素

/ *p* / [p] / *pana* / [pɑnɑ] ‘手のひら’, / *isaaptu* / [isɑ:ptu] ‘めがね’。ただし，/ *s* /のまえでは [$^{p}\Phi$]。/ *agdapsee* / [ɑgdɑ$^{p}\Phi$śe:] ‘ありがとう’。

/ *b* / [b] / *baja* / [bɑjɑ] ‘裕福な’, / *dabǰeeni* / [dabdʒe:ni] ‘かれがまける’。

/ *t* / [t] (歯・歯茎音) / *toxo* / [tɔxɔ] ‘ボタン’。

/ *d* / [d] (歯・歯茎音) / *dawa* / [dɑwɑ] ‘さけ（魚）’。

/ *k* / [k] (調音点はまえ，またはあとに立つ母音に応じて異なる。[i] のまえの [k] が一番まえで硬口蓋後部。[ɑ, ɔ] のまえの [k] が一番奥，日本語の「カ・コ」の [k] より奥で，軟口蓋後部の前寄り，[q] とも表記する。) / *kɵɵdɵ* / [kɵ̇:dɵ̇] ‘ふいご’, / *okto* / [ɔqtɔ] ‘薬’。なお，つぎのような語では / *ee* / [ɛ:] と / *k* / [q] の間に [^{ɑʁ}] または [^{ɑ}] [^{ʁ}] の音が短く入る。/ *eekkuччeeni* / [ɛ:^{ɑʁ}qqʊttʃe:ni] ‘かれが舟のかじをとる’, / *peekta* / [pɛ:$^{ɑ(ʁ)}$qtɑ] ‘獣の足のうら’。

/ *g* / [g, ɣ] (調音点は上記の [k] と同様。軟口蓋後部の前寄りの音は [ɢ, ʁ] とも表記する。母音音素間では，普通，摩擦音である。摩擦音の噪音は極弱いことがある。) / *gilәa* / [gilə:] ‘ギリヤク人’, / *taagda* / [tɑ:ɢdɑ] ‘白い’, / *әgɵ* / [әɣɵ] ‘ねえさん’, / *kučigɵ* / [kutʃiɣɵ] ‘小刀’, / *ačiga* / [ɑtʃiʁɑ] ‘ねずみ’。ただし，/ *l, j* /のまえでは [^{g}ɣ, ^{G}ʁ]。/ *duglu* / [du^{g}ɣlu] ‘家のある’, / *jogjo* / [jɔ^{G}ʁjɔ] ‘歌の発声のしかたの一種’。

/ *č* / [tʃ] / *čiktɵ* / [tʃiktɵ] ‘しらみ’, / *nuuči* / [nu:tʃi] ‘小さい’。

/ *ǰ* / [dʒ] / *ǰolo* / [dʒɔlɔ] ‘石’, / *әǰi* / [ədʒi] ‘夫’。

上記の [p, b, t, d, k ,g] は母音のまえでは破裂音，そのほかの位置ではだいたい内破音である。また上記の [p, t, k, tʃ] は少くとも第一音節の初頭では弱い有気音であり，第二音節以下ではほとんど無気音のことがある。

/ *m* / [m] / *mama* / [mɑmɑ] ‘老婆’, / *tamna* / [tɑmnɑ] ‘濃霧’。

/ *n* / [n] (歯・歯茎音) (ただし前舌母音のまえでは口蓋化する。) / *naa* / [nɑ:] ‘土地’, / *ǰoon* / [dʒɔ:n] ‘十’, / *ŋənəxəni* / [ŋənəxəni] ‘かれが行った’。

/ *ɲ* / [ɲ] (硬口蓋音) / *moɲo* / [mɔɲɔ] ‘さる（獣）’。

/ *ŋ* / [ŋ] / *ŋaala* / [ŋɑ:lɑ] ‘手’, / *tuŋdɵ* / [tuŋdɵ] ‘やなぎ’。

/ *l* / [l, l̥] (後者の無声音は無声子音のまえに現れる。) / *luča* / [lutʃɑ] ‘ロシヤ人’, / *xala* / [xɑlɑ] ‘氏族’, / *maalta* / [mɑ:l̥tɑ] ‘くじら’。

/ *r* / [r, r̥] (弾き音または摩擦音。概して母音間では前者，その他の位置では後者。[r̥] は無声子音のまえに現れる。) / *xara* / [xɑrɑ] ‘カバンのひも’, / *irga* / [ɪrgɑ] ‘文様’, / *orki* / [ɔr̥kɪ] ‘悪い’。

/ *s* / [s, ś (口蓋化音) , ʃ] ([ɑ, ɔ] のまえで [s, ś], [i] のまえで [ʃ], その他の母音のまえでは [ʃ, ś]) / *sisa* / [ʃiśɑ] ‘日本人’, / *sәәpәskә* / [ʃə:pəʃkə] ‘てん（獣）の皮’。

/ *x* / [x] (人によりその摩擦的噪音はかなり弱い。調音点は上記の [k, g] のようにまえまたはあとの母音に応じて異なる。軟口蓋後部の音は [χ] とも表記する。) / *xaǰa* / [χɑdʒɑ] ‘はさみ’, / *xәjә* / [xəjə] ‘流れ’。

/ *w* / [w] ただし，/ *u* /などの円唇母音音素のまえまたはあとでは軟口蓋化音の [w] ([^{w}ɣ] または [^{w}ɣ], [ʁ] と表記する。/ *u* /のまえでは通常きわめて弱い。/ *waŋita* / [wɑŋɪtɑ] ‘とど松’, / *tawa* / [tɑwɑ] ‘火’, / *tuwә* / [tu^{w}ɣə] ‘冬に’, / *duwa* / [du^{w}ʁɑ] ‘夏に’。

/ *j* / 弱い [j] / *i* /のまえでは通常聞き取れないほど短く弱い。 / *jaaja* / [jɑ:jɑ] ‘歌’。

同一子音音素の重複/CC/は母音（短か母音，特に第一音節の短か母音）のあとの重子音（ただし重子音の前半には喉頭の緊張があるとみられる）に該当するか，または母音（第一音節の短か母音を除く，特に/VV/に該当する母音）のあとの喉頭の緊張（ないし声門閉鎖）（[ʔ] で表す）プラス子音に該当する。例，/ *puttɵ* / [puttɵ] ‘子’, / *paallini* / [pɑ:ʔlini] ‘かれを叱る’。/ *čč, ǰǰ* / もそれぞれ [ttʃ, ddʒ] または [ʔtʃ, ʔdʒ] に該当する。ただし，この喉頭の緊張プラス子音が母音をはさんでくりかえされるような場合は，その一方の喉頭の緊張は弱いことがあるようである。

音韻構造

一音節に該当する音素または音素連続にはつぎのものがある。

(1) /V, CV, VC, CVC/　(2) /VV, CVV, VVC, CVVC/ （Vは母音音素，Cは子音音素）

ただし，*bujalpčini* ‘それは壊すことができる’ におけるように/(C)(V)VCC/がまれにある。

語形（これに該当する音声には前後にとぎれがあることがあるが，中間に通常とぎれがない）は (2) のうちの一つから成るか，または (1), (2) のうちのいくつかの連続から成る。(1) のうちの一つだけから成る語形はない。ただし感動詞および音象徴の場合は除く。なお，上記の (C)(V)VCのあとにV(V)(C)が直接つづくことは普通ない。*mamʾ ənnə* ‘祖母’ のような語はまれである。

語形の初頭に立ちうるのは母音音素と / *r* / 以外の子音音素である。語形の末尾には母音音素および / *m*, *n*, *l* / が立ちうるが，なお音象徴の場合は / *p*, *t*, *k*, *ŋ*, *r* / も立ちうる。/ *t*, *d*, *ɲ* / はそれぞれ / *i*, *e* / のまえには立つことができない。

また，母音調和が行なわれ，母音音素は

(1) / *a*, *aa*, *ai*, *au*, *o*, *oo*, *oi*, *ou* /

(2) / *ə*, *əə*, *əi*, *əu*, *ɵ*, *ɵɵ*, *ɵi*, *ɵu* /

(3) / *u*, *uu*, *ui*, *i*, *ii*, *e*, *ee*, *eu* /

の三類にわかれる。一つの語形のなかに (1) と (2) の母音音素は通常共存しない。しかし，(3) の母音音素は (1) の母音音素とも，(2) の母音音素とも共存する。ただし，例外となる語形もある。たとえば，*mamʾ ənnə* ‘祖母’（複合語），*čiŋagəəpči* ‘ずっとまえの’，*aanǰeekkəə*（*aanǰee* ‘右’ の並列形）（*aanǰeekkəə dəunǰeekkəə* ‘右と左’）。また，語の第一音節に該当する位置に / *e*, *ee*, *eu* / が立つ語にふくまれるほかの母音音素は，ほとんどの語例で (1), (3) の母音音素であるが，きわめて少数の語例では (2) である。なおまた，一つの語形のなかの母音音素の配列に関して制限があり，/ *o* / は / *a*, *u* / のあとに続きえないし，/ *ɵ* / は / *ə*, *u* / のあとに続きえない。ただし，母音音素連続 / *oo* / と / *ɵɵ* / は，それぞれ / *a*, *u* /，/ *ə*, *u* / のあとに続くことができる。たとえば / *sugboo* / ‘魚皮を’。

付図説明

母音の音響スペクトログラム（被調査者　佐藤チヨ氏）

1. / *aa turrau* /（あーと口をあけなさい）の / *aa* /
2. / *əə* /（名を呼ばれてなどの応答）
3. / *oo* /（すみ，かど）
4. / *ɵɵ* /（発疹）
5. / *uu osu* /（ほほずりして［こどもへ言う］）の / *uu* /
6. / *ii* /（質問への返答）
7. / *ee osu* /（えーって舌を出しなさい）の / *ee* /
8. / *bali* /（盲目の），/ *uuwuǰi* /（上で），/ *čakkagəə* /（ぎっしりいっぱい）

セクション図形は▼の個所のもの。なお，セクション図形の尺度は上下逆。8. の各単語の発音は▲からはじまる。

母音の口形（唇の形）写真（被調査者　中川カヨ氏）

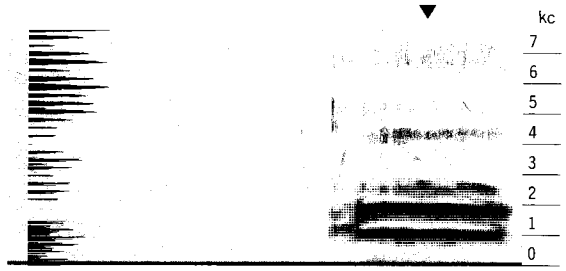
1. — 7. は，上記の音響スペクトログラフの場合と同じ語を使う。
8. は発音せず両唇を閉じた状態。

子音の人工口蓋図（被調査者　中川カヨ氏）

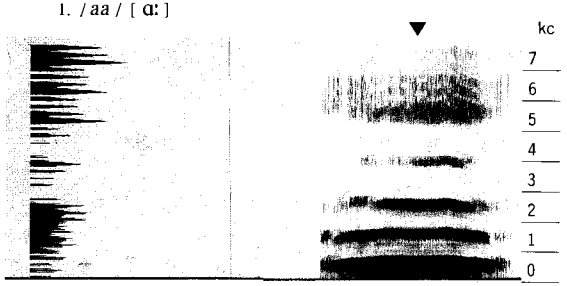
1. / *toxo* /（ボタン）
2. / *daa* /（ひろ［尋］）
3. / *naa* /（土地）
4. / *xala* /（氏族）
5. / *xara* /（カバンのひも）

これらの単語を使ったが，その［t, d, n, l］は舌端音（前歯のうらのさきに粉をぬって発音すると舌端に粉がつく），［ɾ］（弾き音）は舌先音（歯茎に粉をぬって発音すると舌先に粉がつく）である。調査は，パラフィン板を使った即席の簡便な人工口蓋によった。なお，発音者は上右の第３大臼歯を欠く。

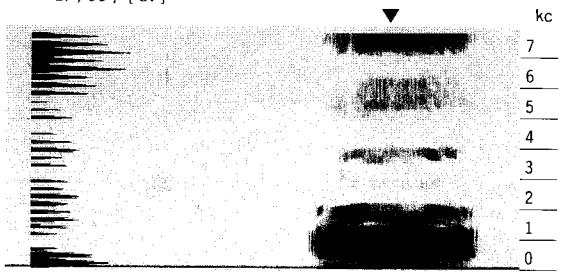
母音の音響スペクトログラム



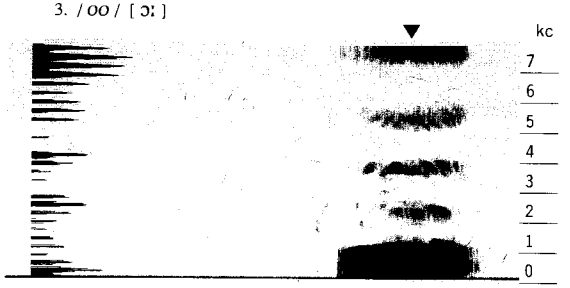
1. / aa / [ɑː]



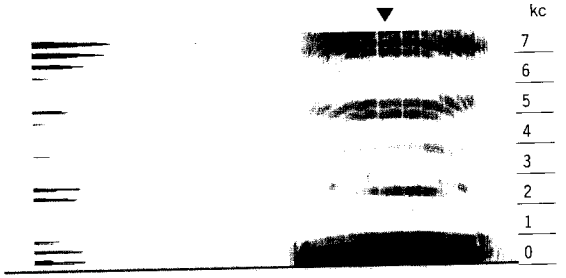
2. / ɔɔ / [əː]



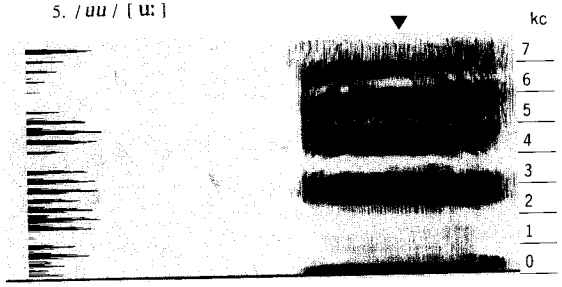
3. / oo / [ɔː]



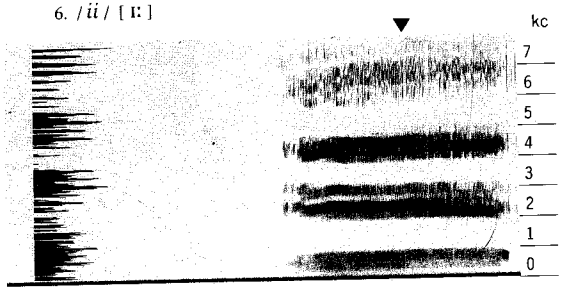
4. / ɵɵ / [ɵ̇ː]



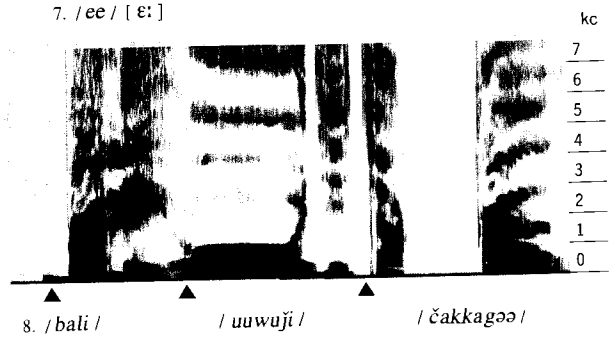
5. / uu / [ʊː]



6. / ii / [ɪː]



7. / ee / [ɛː]



8. / bali / / uuwuǰi / / čakkagəə /

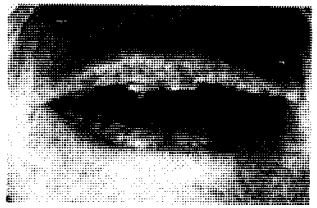
母音の口形写真



1. / *aa* / [ɑː]



5. / *uu* / [uː]



2. / *əə* / [əː]



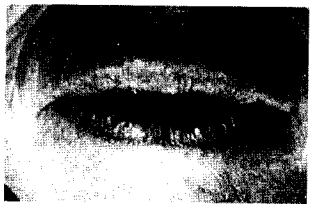
6. / *ii* / [ɪː]



3. / *oo* / [ɔː]



7. / *ee* / [ɛː]

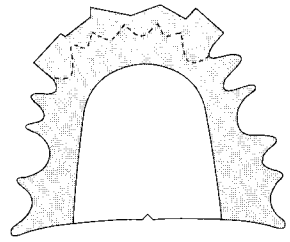


4. / *өө* / [oː]

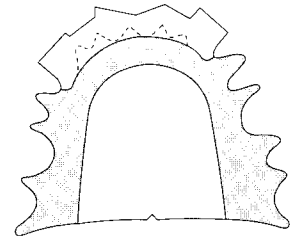


8. 両唇の閉鎖

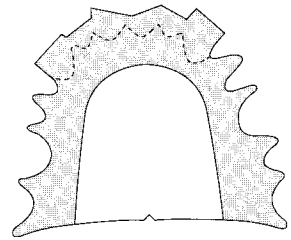
子音の人工口蓋図



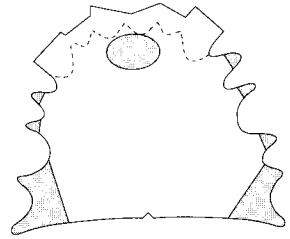
1. / *toxo* / の / *t* / [t]



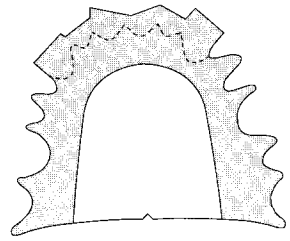
4. / *xala* / の / *l* / [l]



2. / *daa* / の / *d* / [d]



5. / *xara* / の / r / [ɾ]



3. / *naa* / の / *n* / [n]

a

aa [1] adv. 口を大きく開けるさま: *aŋmabi aa turrau.* 自分の口をあーとあけろ。

aa [2] int. 突然思い出したときなどに発する音: *aa oŋboxombi.* あー，おれは忘れた。／ *aa siniŋŋee oŋboxombi.* あー，おまえのをおれは忘れた。

aaji s. [acc. *aajimba*] となかいぞりの最後尾の横木 (木は *səŋətturə*, 木の内皮でしばりつけてある，これにあとのそりをつなぐ)。

Aakču s. [acc. *Aakčumba*] 人名 (男，*Muigəttə* 氏族，*Loǰiŋgeenu* さんの弟，*Aakču* の妻は巫者)。

aalammi-ni U v. [perf. *aalamixa-ni*] なにやかやととめどなくしゃべる。

aalasi s. [acc. *aalassee*] , *aalaxi* U s. 巫者のかぶりもの (削りかけでつくる)。

aalli-ni v. [perf. *aalixa-ni*] つか (疲) れる－ be tired: *tuksami aalixani.* かれは走ってつかれた。

aalluu s. [acc. *aalluumba*, *aallukkoo*] 低木の一種 (液果をつける) (トガスグリ)。

aaltaalli-ni v. [perf. *aaltaalixa-ni*] なかなおりする，わび (詫) る－ apologize: *orkisigačči aaltaalixani.* かれはある人を悪く思っていたがなかなおりした。／ *aburaxambi aaltaallini.* かれは自分が悪口を言ったことをわびる。

aamaa a. ねむいなー。

aamasi-ni v. [perf. *aamači-ni*] ねむ (眠) い－ be sleepy (feel sleepy) .

aamauli a. ねむ (眠) い。

aambi-ni NU v. [perf. *aambuxa-ni* N] 水がおかへあがる: *muu aambuxani.* (川の) 水が増水しておかへあがった。U／ *laata aambuxani.* なみがおかへあがった (浜へよせた)。NU

aami NJ s. [acc. *aammee* N] 1. 睡眠 NJ－ sleep; 2. 眠らせる臓器 (肺と肝臓の間にあり，これがあるから眠るという) N: *aami maŋga nari* 眠ってばかりいる人 J.

aaňee s. [acc. *aaňeepa*] みぎ (右) － right [ant. *dəunǰee*]: *aaňee isal* 右の目／ *aattai* 右へ。

aaŋasa-ni s. [acc. *aaŋassaa-ni*, pl. *aaŋasal*] 死んだ兄－ deceased elder brother.

aaŋgallee-ni v. [perf. *aaŋgalaxa-ni*] け (蹴) る (となかいが): *ulaa narree aaŋgalaxani.* となかいが人を蹴った。

aaŋgee-ni v. [perf. *aaŋgaxa-ni*] 足でほる (となかいが) (たとえば雪の下の草をた

べるために)。

aaŋ-ni s. [acc. *aagba-ni*, pl. *aajil*] あに (兄) (またはひろく同世代で年上の傍系男子) − elder brother: *aagduma* s. [acc. *aagdummaa*] 兄の方 (弟に対して)。

aaŋŋee-ni NU v. [perf. *aaŋaxa-ni*] 1.銃の安全装置をとく N; 2.重ねてつんである (トランプの) カードの上のと下のを入れかえてまぜる U.

aapči-ni v. [perf. *aaptuxa-ni*] つ (着) く − arrive, reach: *čaa naawa aapčini.* その土地にかれは着く。／ *tətukkəə aapčini.* それはきものをつくるのにたりる。

aapoonǰi-ni v. [perf. *aapoočči-ni* N] 間に合わせる (用がたりるようにする): *andumi aapoonǰini.* かれは作って間に合わせる。N／ *suŋdattaa borimi aapoonǰini.* さかなを人に分けてかれは間に合わせる。U／ *aapoonǰisui.* あんたら間に合うか。U

aaptuǰǰi-ni v. [perf. *aaptuduxa-ni*] 自分のところへ帰り着く。

aapu s. [acc. *aapumba*] 耳覆いのついたとなかいの毛皮の帽子，帽子− cap, hat.

aapullee-ni v. [perf. *aapulaxa-ni*] 帽子をかぶる− put on a cap: *aapunǰi aapulleewi.* おれは自分の帽子をかぶる。

aarŋee-ni U v. [perf. *aarŋaxa-ni*] きれいにする，掃除する (ふいたり，はいたりして)。

aasi s. [acc. *aassee*] ポロナイぶき (蕗) − butterbur.

Aatu s. 人名 (女，*Wasilai* さんの先妻の子，*Napka* さんと同じ歳くらい)。

aawučči-ni v. [perf. *aawučixa-ni*] (女が夫でない男を) 寝せている: *narree aawuččini.* 男をかの女はいっしょに寝せている。

aawwi-ni v. [perf. *aawixa-ni*] 雪のなかをぬかってあるく: *simattaa aawwini.* 雪のなかをかれはぬかりながらあるく。

Aba s. 人名 (男): *Aba mapaačča* アバじいさん。

abakkee-ni v. [perf. *abaaxa-ni*] となかいがそりにつんであるさかなをなめるようにして食う: *oksookki suŋdattaa abakkeeni.* そりから (そりにつんである) さかなをとなかいがなめるように食う。／ *ulaa abaaxani.* となかいがそりのさかなをなめるようにして食った。

Abbaŋgi s. 人名 (男，*Waaleetta* 氏族，*Kačuru* さんの弟)。

abdu NU s. [acc. *abdumba* N, *abdoo* U] 家財道具 (移動の際これが荷物 (*ojosko*) となる)。

abulli-ni [perf. *abulixa-ni*] たりない，たりなくなる: *əri busu abullini.* この布はたりない。

aburree-ni v. [perf. *aburaxa-ni*] ののしる (相手を，*sorimačči-či* や *taktuumačči-či* のときも) − abuse (verbally): *narree aburreeni.* 人をかれはののしる。

ačarai N s. [acc. *ačaraimba*], *ačirai* JU s. ごみ− rubbish, trash: *ačaraimba məətəlleeni.* ごみをかれがすてる。N

ačaraimasi-ni v. [perf. *ačaraimači-ni*] こまかいものをあつめる: *ačaraimami aburreeni.* 心のなかでこまかいことをならべたててかの女は怒る。

aččaraxi s. [acc. *aččaraxxee*] 草の一種 (乾燥した実は振るとおとがし，これでこどもがあそぶ) (海辺に生じる J)。

ačči-ni v. [perf. *atuxa-ni*] ほど (解) く，ぬ (脱) ぐ− untie, (樹皮を) はぐ，(貝から身を) はなす: *uipulləə ačči-ni.* しばってあるのをかれはほどく。N／ *uttabi ačči-ni.* かれは自分のくつを (ひもをといて) ぬぐ。N／ *tətuwəbi ačči-ni.* かれは自分のきものをぬぐ。N／ *seemba ačči-ni.* くまの耳をかれはきりとる。N／ *aapumbi atuxani.* 自分の帽子をかれはぬいだ。U

ači s. [acc. *ačči-ee*, pl. *ačinil*] 男子に対して，妻の母と妻の直系尊属の女子および妻の傍系の女子 (妻より年長)。女子に対して，しゅうとめと夫の直系尊属の女子および夫の傍系者の妻 (その傍系者は夫よりかなり年長) − mother-in-law, etc.

ačiga N s. [acc. *ačigamba*], *ačee* J ねずみ− rat: *ačiga ŋəəlleeni orokto* ねずみのこわがる草 (草の名) G.

ačigalduu s. [acc. *ačigaldukkoo*, *ačigalduuwa*] 鳥の一種 (ねずみをとる U) (羽角があり，ふくろうの類だろう)。

ačika s. [acc. *ačikamba*] おもちゃ (幼児語) − toy.

ačikta s. [acc. *ačiktaa*] ポクト服 (*pokto*) のすそに一列につけた小さい金属片のかざり: *xəsiktə ačikta* うろこのようなかざり金属片。

ada[1] J s. かじか (魚) の一種。

ada[2] NJ s. [acc. *addaa* N] 大きい帆船 (ウイルタがつくったものではない) (この語は，母が使ったが，自分は使わず，かわりに *poroxootu* と言う N)。

adau s. [acc. *adakkoo*] ふたご− twin.

aduli s. [acc. *adullee*] 魚をとるあみ，あみ (網) − net: *isal nuuči aduli* めの小さい網／ *təənənǰi adulini* くもの巣。

aduliganǰi-ni v. [perf. *aduligačči-ni*] 網を張る，くもが巣をはる: *aduliǰi aduliganǰi-ni.* あみをかれははる。／ *utəkki təənənǰi aduligačči-ni.* 戸口へくもが巣をはった。

adulimmee-ni v. [perf. *adulimaxa-ni*] 網をおこしに行く，網へ入った魚をとりに行く: *adulitai adulimaxani.* 網へかれはおこしに行った。

agbinduǰǰi-ni v. [perf. *agbinduxa-ni*, *agbinduduxa-ni* (この二形は意味のふく

みに多少ちがいがあるようである)] また現れる，出て来る：*pəətə agbinduxani.* あざらしがまた水中からかおを出した。／*pəətə agbinduduxani.* あざらしがまた水中からかおを出した。(前の文は二度出て来たとき，後の文は二度三度出て来たときともいう。)

agbinǰi-ni v. [perf. *agbičči-ni*] あらわ (現) れる，出現する (たとえば，あざらしが水の中から現れる) − appear, come out：*suun agbinǰini.* 日が出る。／*bee agbinǰini.* 月が出る。新月が出る (ひと月がはじまる)。

agbummi-ni v. [perf. *agbumuxa-ni*] そとへ出す：*xuldadu əksəxəmbi agbummini.* はこに自分が入れたものをかれは出す。

agdapsee a. ありがとう (述語としてつかわれる) − Thank you：*mastaa agdapsee.* 本当にありがとう。

agdapsuuli a. ありがたい：*tariddaa agdapsuuli.* それでもありがたい。

agǰee-ni v. [perf. *agdaxa-ni*] よろこぶ，うれしい，感謝する − rejoice, be glad, thank：*čanneetai agǰeeni.* その人にかれは感謝する。

agǰi s. [acc. *agǰee*] かみなり (雷) − thunder.

ailiga G s. [acc. *ailigamba*] くずり (食肉類のけだもの) (なき声・前足のうら・肉がくまに似る G)。

aisi s. [acc. *aisimba*] 金 − gold.

aja a. いい，うつく (美) しい，きれい (綺麗) な − good, beautiful, fine, pretty；s. [acc. *ajjaa*]； U adv. 非常に：*aja əəktə* 美しい女／*əri tətuwə aja.* このきものはいい。／*patala ajani patala* 一番いいむすめ／*inəŋi ajani inəŋi* 大変天気のいい日／*mindu mastaa aja biini.* わたしのところに大変いいものがある。／*ŋuiddə ajaa.* だれでもいいよ。／*ajaǰi biini.* かれは元気 (無事) でいる。以上の例はすべて N／*sini duxusi aja saŋnauli.* おまえの家はずいぶんけむい。U

ajaačči-ni NJU v. [perf. *ajaačixa-ni* NU] おこ (怒) っている (人間，いぬ，となかいが)。

Ajaaŋgu s. [acc. *Ajaaŋgumba*] 人名 (女)。

ajaikku s. [acc. *ajaikkoo*] いいこと：*ajaikkoo tolčičixasii.* いいことをおまえはゆめにみたか。

ajakaanǰi adv. よく − well：*ajakaanǰi ŋənnəu.* 無事に行け，さようなら (旅立つ人へのこる人が言う)。− Good-bye.／*ajakaanǰi bissəəri.* 達者でいろ，さようなら (旅立つ人がのこる人へ言う)。− Good-bye.

ajakta a. らんぼうな (短気で，おこりやすい) − rowdy, violent； s. [acc. *ajaktaa*]：*ajakta nari* らんぼうな人。

ajamaŋu a. はや (速) い：*ajamaŋu ulaa* 速いとなかい (*kəələ ulaa*)。

ajari G a. よい：*əsinəŋi mastaa ajari inəŋi.* きょうはいい天気だ。

ajii GU adv. じーっと，しげしげ (見るさま)：*nari dərəltəini ajii itəččini.* 人のかおをしげしげとかれは見ている。G／*ajii xaiwa itəččisee.* じーっとなにをおまえは見ているのか。U

ajjaulli-ni NU v. [perf. *ajjaulixa-ni*] (女が) きれいにみせる (きれいな衣服を着たり，飾ったりして)：*əəktə durumbi ajjaullini.* 女が自分の姿をきれいにみせる。N

ajji-ni NG v. [perf. *aixa-ni* N] あざらしに向けて銛の柄をつぎたしてのばす (柄は水面に浮かび，あざらしにとどくようにのばす) N，もりで狩猟する G.

aǰi s. [acc. *aǰǰee*] オルチャ族 (*Maŋbu*) の住む地方の川にいるさかな (食用)。

aǰǰeekta s. [acc. *aǰǰeektaa*] 草の一種 (十三号の島 (*Məgdəmə buwaatani*) にある)。

akaari a. おろ (愚) かな − stupid：*akaari nari* たりない人。

akčee-ni v. [perf. *aktaxa-ni*] たよる，あてにする，依存する − depend on；*simbee akčeeni.* 君にかれがたよる。

akkaanoo s. voc. 兄や自分より年上の男を呼ぶとき言う (歌謡のなかで使われる語)。

akkoolli-ni U v. [perf. *akkoolixa-ni*] トランプの一つの遊び方をする (9，10，1の数のカードと絵カードだけを通常4人に分配し，残りは順次とるため場におき，順番に各人がカードを場に出す。優位のカードを出すのが有利で，手もとのカードがはやくなくなった者が勝つ。ウイルタのトランプの遊び方はほとんどこれだけという)。

akpakkiččee-ni v. [perf. *akpakkitaxa-ni*] よこになろうとする。

akpanǰi-ni v. [perf. *akpačči-ni*] ね (寝) る (よこになる) − lie down：*aaligačči* (または *aamami*) *akpanǰini.* かれはつかれて (またはねむくて) よこになる。

akpanni-ni v. ね (寝) に行く。

aksee-ni NJU v. [perf. *aksaxa-ni*] 気を悪くする，(ある人に) うっ憤があっても言わない，交わらない：*sittəi akseeni.* おまえに対しかれは気を悪くしている。NU／*əǰǰee aksaa.* 気を悪くするな。N／*čanneetai aksaxambi.* あの人におれは遺恨があって絶交した。J

alaaǰi s. [acc. *alaaǰǰee*] 麦粉をこねてうすくまるくしたものをなべで油をすこしつけて焼いたもの [<ロ оладья，pl. оладьи]．

alaaǰǰi-ni v. [perf. *alaaǰixa-ni*] 麦粉をこねてうすくまるくしたものをなべで油をすこしつけて焼く：*upamba alaaǰǰini.* こなをかの女はこねてなべで油をつけて

焼く。

alamačči-ni v. [perf. *alamačixa-ni*] まねる－ imitate : *tari nari tari əəktə kəssəəni alamaččini.* その人はその女のことばをまねる。N／*mimbee alamačimi andusini.* かれはおれをまねしてつくる。U

alamu a. かわいい (かわいがって言う) (この語は述語として使う) : *alamoo.* めんこいねー。

alamusi-ni v. [perf. *alamuči-ni*] かわいいと思う : *tari nari čaa puttəə alamusini.* その人はそのこどもをかわいいと思う。

alamuuli a. かわいい，あい (愛) らしい－ lovely, s. [acc. *alamuullee*] : *alamuuli puttə* かわいいこども。

alasi-ni v. [perf. *alači-ni*, imp. *alasu*] かわいがる，あやす : *puttəə alasini.* こどもをかれはかわいがる (あやしたりして)。

alaxa s. [acc. *alaxxaa*] くらかけあざらし－ a species of seal.

albee-ni v. [perf. *albaxa-ni*] できない : *ŋootomi* (または *tuksami* または *gəimi*) *albaxani.* かれは相撲をとって (または走ってまたは競争して) どうしても勝てなかった。

alči s. [acc. *alčee*] 胸囲。

alčirri-ni v. [perf. *alčirixa-ni*] 胸囲をはかる : *nari bəjəbi alčirrini.* 人が自分のからだの胸囲をはかる。

aldaa s. [acc. *aldaappa*] あいだ－ space between : *xurigə aldaani* 山のあいだ／*aldaandu* 途中で－ on the way／*aldaačču* 途中から。

aldoo a. 惜しい : *aldoo nari bučči.* 惜しい人が死んだ。

aldooči-ni v. [perf. *aldooči-ni*] し (知) らせる－ inform : *aburaxambani əjitəkki aldooči-ni.* ほかの人が悪口を言ったのをかの女は夫に知らせた。N／*xaiddaa gəlbəəni aldooči-ni.* なにかの名をかれはおしえる。G

aldu s. [acc. *aldoo*] 便り : *xai alduni biinigə.* 何の便りがあるか。／*aldoo saaxambi.* 便りをわたしはきいた。

aldurinǰee-ni v. [perf. *aldurindaxa-ni*] 知らせに行く。

aldurri-ni v. [perf. *aldurixa-ni*] し (知) らせる－ inform : *kəəčči-mbəni* *ənittəkki aldurrini.* ほかの人が話したことをかれは母へ知らせる。

alimatu s. [acc. *alimattoo*] 子宮－ uterus.

alinasi-ni v. [perf. *alinači-ni*] なんども受ける : *mooǰi alinasini.* 棒でかれはなんども受けとめている (打ち合い (*mindəməči*) のときに)。

aliptaŋi s. 魚・肉・飯など食べものを受けとるいれもの。

allaunni-ni U v. [perf. *allaunixa-ni*] 教えに行く。

allausi-ni v. [perf. *allauči-ni*] おし (教) える－ instruct, teach : *kitaanǰi urpəəmi allausini.* かの女ははりで縫わせて教える (針仕事を教える)。／*puttəə bičixxəə allausini.* こどもに字をかれは教えている。／*allausi nari* 教師，先生－ teacher／*allaumusi-ni* v. おし (教) えたい／*allaupoonǰi-ni* v. おし (教) えさせる。

alli-ni v. [perf. *alixa-ni*] うける，うけとる－ receive, accept, うけとめる (たとえば，*čurga* を手をあげてうけとめ避ける J) : *ulissəə allini.* 肉をかれはうけとる。／*alukkuǰi allini.* 入れもので (ごはんや酒を) かれはうける。／*ŋaalijǰi allini.* かれは手でうける。／*mooǰi allini.* 棒でかれはうけとめる。

alta NJ s. [acc. *altamba* N] 鉄板 (ブリキ，トタンもいう) N，ブリキ板 (多来加の人が言う) J : *altami baanikka* ブリキ製の缶 N.

alukku s. [acc. *alukkoo*] (たべものの) 入れもの (せとものの茶碗など) － cup, bowl.

amba s. [acc. *ambamba*] 妖怪，まもの (魔物) (むかしばなしにあらわれる) : *ambam(ba) baaxa* 妖怪があたまに入ってばかになった (*orki* になった)，気狂いの－ mad／*amba siduxuni* 人間の食べられない植物の液果。

ambaa adv. いくらか : *ambaa daaji očči-ni.* (こどもが) いくらか大きくなった。／*tari ulaa ambaa kusal.* そのとなかいの方がいくらか速い。／*ambaa maŋga.* いくらかつよい。

ambalǰi-ni G v. [perf. *ambalduxa-ni*] 人を殺すばけものを殺す (*narree waari ambamba waarini*)。

ambamaikku s. [acc. *ambamaikkoo*] 凶事・変事の兆し : *ambamaikkoo tolčičixambi.* わるいことをわたしはゆめにみた。／〔言い習わし〕 *pəuktə balǰini ambamaikku.* いぼができるのは不吉なきざし。

Ambamaitu s. : *Ambamaitu xurigəni* 敷香岳 (樺太山脈のなかの高山，約 1300 メートル)。

ambambusu s. 布の一種 (厚い) (この語はいまは使われないという)。

ambaram(ǰi) adv. うんと，一所懸命 : *ambaram(ǰi) uilləu.* うんとはたらけ。／*ambaram(ǰi) gittu.* 一所懸命歩け。

amina s. [acc. *aminamba*] おす (雄) (とり，さかな，あざらし，うさぎ，きつねの) － male.

aminaska s. [acc. *aminaskaa*] おすのさかなの皮。

ami-ni s. [acc. *amimba-ni*, pl. *aminil* G] ちち (父) － father : *daaji ami-ni* [acc. *daaji amimba-ni*] 祖父および同じ氏族内の尊属男子 (父より年長) － grandfather, uncle／*nuuči ami-ni* [acc. *nuuči amimba-ni*] 同じ氏族内の叔

父および傍系尊属男子（父より若い）－ uncle.

amiŋasa-ni s. [acc. *amiŋassaa-ni*] 亡父－ deceased father.

amira s. [acc. *amiramba*] ままちち，継父－ stepfather.

amǰee-ni v. [perf. *amdaxa-ni*] まねる－ imitate: *jaajjeewani amdami jaajjeeni.* ほかの人が歌うのをかれはまねて歌う。／ *amdami andusini.* かれはまねてつくる。

amma s. [acc. *ammamba*] おとうさん－ papa (father, informal familiar term): *daaji amma* [acc. *daaji ammamba*] おじいさん－ grandpapa ／ *nuuči amma* [acc. *nuuči ammamba*] おじさん－ uncle／ *ammaa* こどもが父親を，また父親がこどもをよぶとき言う。

ammaŋasa s. 死んだおとうさん。

Ammarikka s. 人名（女），俗称。

amu s. [acc. *amumba*] 大便，糞－ stool (excrement): *nari amuni* 人間の大便／ *tuksa amuni* うさぎの糞／ *gasa amuni* とりの糞。

amučči-ni v. [perf. *amučixa-ni*] 大便をしている: *amučču̇ri* 大便をすること。

Amuči s. 人名（男），俗称（本名は *Ǝləksəi*）。

amučuu s. [acc. *amučukkoo*] 便所－ toilet.

Amuǰikaanu s. 人名（男，ウイルタの *Maŋbu* 氏族，母の兄は *Kiitəŋənu*）。

Amunaana s. 人名（男），俗称（本名は *Loǰiŋgeenu*）。

amuničče-ni v. [perf. *amunitaxa-ni*] 大便をしに行って来る。

amunǰi-ni v. [perf. *amučči-ni*] 大便する－ void excrement.

amunni-ni v. [perf. *amunixa-ni*] 大便をしに行く。

amurau s. [acc. *amurakkoo*] 妊婦の衣服やくつ（冷えるから魚皮のくつをはく）。

amuspi s. [acc. *amuspee*] あごひげあざらしの当歳のもの。

anaa [1] s. [acc. *anaamba*] くびかざり（玉（*suurakta*）をひも（*tokpo*）か皮ひも（*xarapsa*）でつないである）－ necklace.

anaa [2] a. ない－ *does not exist*; s. [acc. *anakkaa*]: *buda anaa.* 米はない。／ *dugla anaa.* 家がない。／ *anaa əsiwi ŋənnəə.* いや，おれは行かぬ。

anaallee-ni v. [perf. *anaalaxa-ni*] くびかざりなどをくびにかける。

Anaapa s. 人名（女）。

anačče-ni v. [perf. *anataxa-ni*] 押したままいる: *ŋaalaǰǰi anačče-eni.* 自分の手でかれは押したままいる（おさえている）。U

ananaa U a. ほしいなー。

ananasi-ni v. [perf. *ananači-ni*] すきだ，ほしい－ like, wish for: *čaa əəktəə ananasini.* かれはあの女がすきだ。／ *čaa ulaaba ananasini.* かれはあのとなかいがすきだ（ほしい）。

ananauli a. す（好）きな－ beloved: *ananauli nari* 好きなひと／ *ananauli naa* 好きな土地。

anani s. [acc. *anannee*] とし，年，年令－ year, age: *geeda anani* 一年，一歳／ *jəə anannee* ことし－ this year／ *jəə anannee ŋənneewi.* ことしわたしは行く。／ *jəə anannee xəkkuuli.* ことしは暑い。／ *anani anani* 毎年－ every year／ *sini ananiŋusi xasukkaa.* おまえのとしはいくつか。－ How old are you?／ *mini ananiŋubi xori anani.* おれのとしは二十歳だ。－ I am twenty years old.／〔禁忌〕 *ananiŋubi taumburi ənnəuri.* 自分の歳を数えることはばちのあたることだ。

anapooččі-ni v. [perf. *anapoočixa-ni*] 鉄砲を試しうちする（銃がまっすぐか（*toŋdo*），まがっている（*mokčuu*）かみるためにまとをうつ）（何回も）: *moiččamba anapooččini.* 鉄砲をかれは試しうちしている。

anapoollee-ni N v. [perf. *anapoolaxa-ni*] まとをおいて鉄砲を試しう（撃）ちする（一回）U.

anda s. [acc. *andaa*, pl. *andail*] とも（友）（おとなの男同士がよぶとき言う）[pl. *andasal* も使う]; ある女子に対して，夫の傍系女子および傍系男子の妻（年令はその女子とあまりはなれていない）。

andail s. [acc. *andailba*] ともだち（一人でもいう）－ friend: *andailči biinii.* きみのともだちはいるか。

andasi NJ s. [acc. *andassee* N] 1. よこつら（頭部の側面），2.（魚の）えらぶた。

andaxa s. [acc. *andaxxaa*] 客－ guest: *andaxaŋumuna* 客連れ。

andaxarree-ni v. [perf. *andaxaraxa-ni*] 1. もてなす: *andaxxaa andaxarreeni.* 客をかれはもてなす; 2. 遠慮する: *andaxa andaxarreeni.* 客が遠慮する（出されたものを食べなかったりして）。

andu s. [acc. *andoo*] 手でつくったもの: *ŋui andunee.* だれのつくったものか。

andučči-ni v. [perf. *andutuxa-ni*] なおす，修繕する: *oksokkoo anduččini.* そりをかれはなおす。

anduma s. [acc. *andummaa*] 四角い食物容器（樺皮製，肉・さかなやこけももの実を入れる）（樺皮はその裏面を容器の外側にして使う J）－ birch-bark vessel.

andunni-ni v. [perf. *andunixa-ni*] つくりに行く。

andusi-ni v. [perf. *anduči-ni*] つくる－ make: *dugba andusini.* 家をかれはつくる。／ *orkimba andučini.* かれはわるいことをした。／ *andumusi-ni* v. つくりたい／ *andupoonǰi-ni* v. つくらせる。

annee-ni v. [perf. *anaxa-ni*] お（押）す－ push: *oksokkoo anneeni.* そりをかれ

は押す。

anni-ni v. [perf. *anuxa-ni*] なにかする：*xaiwaddaa annini.* かれはなにかする。／*anuwačči* えーとあれして（ことばが出ないとき言う）。

anu s. [acc. *annoo* U] えーとあれ（名称をおもい出せないとき言う）：*anujjaa* あれたち（なん人かの人たちについてなまえが急に口に出ないとき言う） N／*mini anubi* おれのえーとあれ J／*məənə anubi* 自分のえーとあれを J.

aŋada a. 親または配偶者の死んだ－ bereaved：*aŋada puttə* 親の死んだ子，みなしご－ orphan／*aŋada əəktə* 夫の死んだ女。

aŋdai s. 自分の氏族と異なる氏族（嫁ぐと実家は *aŋdai* となる。G)：*aŋdainnee* s. [acc. *aŋdainneepa*] 自分の氏族と異なる氏族の人（*oisail* も *aŋdainnee* である)。

aŋma s. [acc. *aŋmaa*] くち（口）－ mouth：*puutaa aŋmani* 袋の口。

aŋmamačči-ni v. [perf. *aŋmamačiga-ni*] ちょっと口げんかする（二人が)。

aŋmapu s. [acc. *aŋmapumba*] 吸い口（きせるの）－ mouthpiece of a tobacco pipe.

apaačči-ni v. [perf. *apaačixa-ni*] よこになっている－ lie：*baajimi apaaččini.* かれはなまけてよこになっている。／*aaligačči apaaččini.* かれはつかれてよこになっている。

apai NJ s. [acc. *apakkee* N] 後頭部（*poro* の下，*utumuu* の上の部分)。

apala NJ s. [acc. *apalamba, apallaa* N] となかいの二歳のおす（春生まれて翌年秋がきたおすのとなかい J)。

apči s. [acc. *apčee*] かもの一種（食用 G)。

aptaa a. おいしいなー。

aptallee-ni v. [perf. *aptalaxa-ni*] あじをみる（試食する)：*ojuukamba aptalleeni.* ちょっとたべてかの女は味をみる。

aptasi-ni NU v. [perf. *aptači-ni* N] す（好）く，すきだ N，おいしくてすきだ U：*tari nari jəə dəppee aptasini.* その人はこの食べものがすきだ。U

aptauli a. おいしい－ delicious： s. [acc. *aptaullee*]：*ulisə aptauli.* 肉はおいしい。

araa int. あわてて言う。

arakki s. [acc. *arakkee*] さけ（酒）－ spirits, wine.

Araklainu s. 人名（男，*Tataari* さんの子)。

arga s. いつわりだますこと：*argani maŋga nari* 奸策にたけた人 I／*arga nari*（または *əəktə*) うそをついたりだます人（または女） N.

argallee-ni v. [perf. *argalaxa-ni*] だます－ deceive：*narree argalleeni.* 人をかれはだます。／*mimbee argalaxani.* おれをかれはだました。

ari s. [acc. *arree*] バターー butter [<エ apī<ヤ арыы] .

arku s. [acc. *arkoo*] きうりうお（魚)。

asarree-ni v. [perf. *asaraxa-ni*] 大切にする：*məəniŋŋi asarreeni.* 自分のものをかれは大切にする。／*biiwə asarreeni.* 有るものをかの女は大事にする。

asi s. [acc. *assee*] つま（妻）－ wife：*asimuna* 妻帯。

asilačče-ni v. [perf. *asilataxa-ni*] 妻の死ぬまえに別の女と親しくしている：*asibi ujuunduni asilataxani.* 自分の妻が生きているときにかれはほかの女と親しくしていた。

asilajji-ni v. [perf. *asiladuxa-ni*] 死んだ兄の妻を妻にめとる：*aagbi bulkutənnee aagbi asiĭini asilajjini.* 男が自分の兄が死んだあと兄の妻をめとる。(levirate 婚)

asillee-ni v. [perf. *asilaxa-ni*] 妻にめとる：*čaa əəktəji asilleeni.* その女をかれはめとる。／*asibi nəuĭini asilleeni.*（死んだ）妻の妹をかれはめとる。

asiŋasa s. [acc. *asiŋassaa*] 死んだ妻－ deceased wife.

askallee-ni v. [perf. *askalaxa-ni*] 腰に小刀をさげる：*kučigəmbi askalaxani.* 自分の小刀をかれは腰にさげた。

askuttu s. [acc. *askuttoo*] いか，たこ（軟体動物)。

ataalimačči-ni NU v. [perf. *ataalimačixa-ni* N] 出会う（たとえば，道で人に)。

ataalli-ni v. [perf. *ataalixa-ni*] あ（会）う－ meet：*čaa narree ataalixani.* その人にかれは出会った。

atadajji-ni NJ v. [perf. *atadaduxa-ni*] はげしい状態にまたもどる：*jaajami*（または *məumi*) *atadaduxani.*（歌またはおどりの好きな人が）うた（またはおどり）をまたやりだした。N／*gitumi atadaduxani.* 出て行きまたはじまった（酒に酔った人が一旦帰宅してからまた酒をのみに出て行ったときに言う U)。J

atajjee-ni v. [perf. *atadaxa-ni*] はげしい状態にある（病気，仕事などについていう)：*bultai atadami uilleeni.* かれは一所懸命はたらいている。N／*uiləmi atajjeeni.* かれははたらいて一所懸命だ。NJ／*bokkoni ənumi atajjeeni.* かれの腹がいたんでひどい。U／*suunəmi atajjeeni.* 日が照ってひどい。N

ataku s. 目 *(isal)*（幼児語)。

ataptaali a. 向かい合った：*ataptaali duxu* 向かいの家／*ataptaalinji təəsiči.* 向かい合いにかれらはすわっている。

ataptai adv. まっすぐ向って：*mimbee ataptai sindaxani.* それはおれに向ってまっすぐ来た。／*ataptai sinjeewani moiččalaxambi.* まっすぐ向って来るのをおれは撃った。

atta s. [acc. *attamba*] せなか－ back : *attanjee* うしろの方。

attaanǰi-ni U v. 向こうから来た人と出会う，人を迎えに行ってその人に途中で会う : *čaa narree attaanǰini.* 人を迎えに行ってその人に途中でかれは出会う。／ *poktodu attaanǰini.* 人を迎えに行ってその人にみちでかれは出会う。

attoonǰi-ni NU v. [perf. *attoočči-ni* U] ぬがせる。

atučči-ni v. [perf. *atučixa-ni*] ほど (解) く (何回も)，ほどいている。

atuǰǰee-ni G v. [perf. *atudaxa-ni*] ほどける : *səəksəsi atudaxani.* おまえのくつのひもがほどけた。

atuǰǰi-ni v. はずしてもどす : *adulibi atuǰǰini.* 仕掛けた自分のさかなのあみをかれははずす (おこす)。

atunǰee-ni v. [perf. *atundaxa-ni*] 脱ぎに行く : *tətukki atunǰeeni.* 自分の着物をぬぎにかれは行く。／ *adullee atundaxani.* 漁網をおこしにかれは行った。

aujaačči-ni v. [perf. *aujaačixa-ni*] 結婚後しばらく (一月か一年か) 妻の家で労働 (漁労など) して生活する。(労働婚とみられよう。)

aǔjaa G s. 魚の一種，口が大きく，海から入って川にいる。

aukku s. [acc. *aukkoo*] けだもののねぐら，寝台 (ロシア人の) － lair, bed.

aun s. [acc. *aumba*] 宿泊すること ; 一昼夜 : *geeda aun* 一昼夜／ *dəə aun* 二昼夜／ *čadu geeda aumba biini.* そこにかれは一泊している。

aundačči-ni v. [perf. *aundačixa-ni*] とま (泊) っている，逗留する－ stay : *aundačču̇ri duxu* 旅館－ hotel.

aundalasi-ni G v. [perf. *aundalači-ni*] 一晩泊まる。

aundanǰee-ni v. [perf. *aundandaxa-ni*] と (泊) まりに行く : *nimətəi aundanǰeeni.* 近所へかれは泊まりに行く。

aundau s. [acc. *aundakkoo*] 円錐形家屋 (主に冬期に使用，ウイルタはこの家屋が本居と考える) (*aundau* の戸口 (*utə*) は，海・川の近くではその方を向く，やま (*purə*) では日の出る方を向く，日の入る方を向くのは禁忌 (*ənnəuri*) G) － conical hut.

aunǰee-ni v. [perf. *aundaxa-ni*] とま (泊) る (よその家に) － stay (lodge at) : *tari nari dugduni aundaxambi.* その人の家にわたしはとまった。／ *aundamusi-ni* v. と (泊) まりたい／ *aundaunǰi-ni* v. と (泊) まらせる。

auŋga s. [acc. *auŋgaa*] あうな (かもの一種) (食用 G)。

aupsa J s. [acc. *aupsaa*] 手負いになったくまがやすむところ : *geedara aupsani* 手負いのくまが最初にやすむところ／ *dəəjjee* (または *illee*) *aupsani* 手負いのくまが二度めに (または三度めに) やすむところ。

auri-ni v. [perf. *auxa-ni*] ねむる－ sleep : *aamami aurini.* かれはねむくてねむる。

ausee GJ s. しぎの一種かあるいはしぎに似た鳥 (食用 G)。

auxi U s. におい : *orokto auxini* 草のにおい／ *moo auxini* 木のにおい。

axa s. [acc. *axamba*] にいさん (またはひろく同世代で年上の傍系男子) － elder brother.

axaŋasa s. 死んだ兄さん。

axirikku s. [acc. *axirikkoo*] 掃く道具 (一時的に使う葉のついた枝や鳥の羽のほうき)。

axirri-ni v. [perf. *axirixa-ni*] は (掃) く－ sweep : *beewa axirrini.* すわるところをかの女は掃く。

b

baačči-ni NGJ v. [perf. *baačixa-ni*] はりあう，競争する，(ばけものやくまと) たたかう : *naritai baačči̇ni.* かれは人と競争する。N／ *buu dəənnee ŋootomori baačči̇su.* おれたちふたりは相撲をしてあらそおう。N／ *ŋootomi baačči̇ni.* かれはすもうをとって競争する。JU／ *kəələnǰi baačči̇ni.* かれははやく走ることで競争する。JU

baačikka s. [acc. *baačikkaa*] (ロシヤ正教会の) 神父 (むかしウイルタ人のところへ来たことがあるという) [< ロ батька] : *luča baačikkani* ロシヤ人の神父。

baačinǰee-ni G v. [perf. *baačindaxa-ni*] 競争に来る (行く)。

baada GU s. かお (顔) (*baadani* は *dərəlni* のこと G，よいことばではない U) : *baaddaani.* あの人のかおはまあ (よごれていたようなとき言う)。U

baajee a. 退屈だなー。

baajisi-ni v. [perf. *baajiči-ni*] なま (怠) ける－ be lazy, idle : *uiləmi baajisiwi.* おれははたらきたくない。

baajuu a. なまける－ lazy ; s. [acc. *baajukkoo*] なまけもの : *baajuu nari* なまけもの。

baaǰee N adv., *baaǰii* G adv. だんだん : *baaǰee orki osini.* (病人が) だんだん悪くなる。

baal s. [acc. *baalba*] 誕生の月 (*balǰixani bee*) － month of birth : *baalbi aaptuduxani.* その子が自分の生まれた月に達した (一年めだけ言う)。

baalaŋada s. [acc. *baalaŋaddaa*] ごまふあざらしの二歳のもの。

baalli-ni v. [perf. *baalixa-ni*] あ (会) う，であ (出会) う－ meet : *čadu baaligači*. そこでかれらは出会った。／ *aŋdaimuna baaligači*. かれはほかの氏族の人と会った。／ *ǰeemuna čadu baaligapu*. おれたちあいぼう同士はそこで会った。／ *ǰeewi čadu baalixambi*. 自分のあいぼうとそこでおれは会った。

baanikka s. [acc. *baanikkaa*] かん (缶) (石油缶 J) － tin [< ロ банка] .

baaŋǰee-ni v. [perf. *baaŋdaxa-ni*] みつけに行く : *puttəə baaŋdaxani*. かの女はこどもをうみに行った。

baapu s. [acc. *baapumba*] たば (束) － bunch : *saŋna baapuni* たばこの葉のたば。

baapullee-ni v. [perf. *baapulaxa-ni*] たば (*baapu*) にする。

baaru-ni (の) 方へ，(の) よう (似ている) : *mini baaruwwee* ぼくのほうへ N／ *məənə baarroori* 自分たちの方へ N／ *tari gasa səgǰeeni baaruni* その鳥が飛んでいる方へ N／ *xotton baaruni ŋənəxəni*. まちの方へかれは行った。N／ *amin* (または *ənin*) *baaruni biini*. かれは父親に (または母親に) 似ている。N／ *ənimbi baarunee biini*. かの女はかっこうが自分の母親のようだ。N／ *məənə baarri ŋənnu*. 自分の方へ帰れ。J／ *səbdənuuli baaruni*. おもしろいものだ。G

baasallee-ni v. [perf. *baasalaxa-ni*] け (蹴) る－ kick : *narree baasalleeni*. 人をかれはける。／ *nari asibi baasalleeni*. 人が自分の妻をける。

baatana GJ s. 二歳のくま (満一年すぎたもの *balǰixambi baalbi aaptuxa* G) : *baatana siroo* 二歳のくま G／ *xusə* (または *əəktə*) *baatana* おす (またはめす) の二歳のくま J.

baawui s. [acc. *baawukkee*] ごまふあざらし－ a species of seal.

baawunǰi NU adv. わかっていないのにわかったふりして U : *baawunǰi kəənǰini*. わからぬのにわかっているようにかれはしゃべる。U

babuu s. [*babukkoo*] 女子陰部－ female pubic region.

badaari J s. 猟に使う道具 (てんやかわうそをとる) [cf. ヤ бадаар] .

baduu s. [acc. *badukkoo*] むこう (がわ)，対岸，敵，かたき－ opposite side, enemy, foe : *jəə baduukki pəətə agbiččini*. このむこうにあざらしがあらわれた。／ *badukkooni dapaxani*. ある人のかたきをかれはつかまえた。

bagballee-ni v. [perf. *bagbalaxa-ni*] つ (突) く (一回) － poke, 刺す (たとえば刺し網の棒 (*gusa*) を) : *mooǰi bagballeeni*. 棒でかれはつく。

bagbee-ni v. [perf. *bagbaxa-ni*] つ (突) く (何回も) － poke : *sorimi utəkki bagbeeni*. けんかして戸をかれはつく。

bagduxu s. [acc. *bagduxxoo*] 身につけるもの (衣服，くつなど) : *xusənnee* (または *əəktənnee*) *bagduxuni* 男の (または女の) 身につけるもの。

bagduxxi-ni v. [perf. *bagduxuxa-ni*] 身支度をする－ equip (oneself for a journey, etc.) : *ŋənəbuǰǰi bagduxxini*. かれは行くために身支度をする。

bai a. ただの (普通の)，無料の，だめな : *bai nari* ただの人 (*ǰaŋgee* や *əlləu* に対する) ／ *bai alukku* 無料のちゃわん／ *bai bai*. だめだ。／ *bai biinnee* ただいる人／ *bai bəərini*. ただでかれはくれる。／ *čadu biwwiləxəmbə bai bai isuxambi*. おれはそこにいればよかったものを，だめだめ，帰って来てしまった。

baija NGJ s. [acc. *baijjaa* N] 番屋 (漁場のやとい人の宿泊所 J) [< 日 ばんや]。

baijaakki s. [acc. *baijaakkee*] (天などからの) さずかりもの : *baijaakkee baaxani*. さずかりものをかれはみつけた。

baita NJ s. [acc. *baittaa* N] 殺人，ぬすみなどの犯罪 N，事故 J : *baitala anakki*. おれはわるいことをしたことがない。N

baja a. と (富) んだ，裕福な (となかいなどたくさんもっている) － rich [ant. *ǰobbee*] : s. [acc. *bajamba*] 金持。

bajanǰi-ni v. [perf. *bajačči-ni*] 裕福になる－ grow rich.

baǰǰee s. [acc. *baǰǰeepa*] 川向こう，向こう岸，向こう側－ other side : *uni baǰǰeeni* 川の向こう側／ *pokto baǰǰeeni* みちの向こう側／ *baǰǰee muirə* 横にのばした手のさきより反対側の肩のさきまでの長さ／ *baisai* 向こう側へ／ *baisai daurini*. 向こう岸へかれは渡る。

baǰǰeetaali a. 川向こうの，*s.* : *baǰǰeetaali duxu* 川向こうの家／ *nari baǰǰeetaalinǰi biiči*. 人が川向かいにいる。

Bakaanu s. 人名 (男，*Muigəttə* 氏族)。

bakkaa part. も : *bii bakkaa ŋənneewi*. おれも行く。／ *sii bakkaa sooru*. おまえも水をくめ。／ *mittəi bakkaa bəərisii*. おれにもあんたはくれるか。

bakkee-ni v. [perf. *baaxa-ni*] みつける (自分のものでないものを G)，あ (会) う，(子を) もうける，う (産) む－ find, see, get (a child) , give birth to : *ənukkəə bakkeeni* (かれが) 病気になる N － become ill／ *baittaa baaxani*. かれはわるいことをした (*orkimba andučini*)。N／ *tolčimbi baaxani*. かれは自分のゆめがあたった。J／ *puttəə bakkeeni*. かれ (またはかの女) は子をもうける。N／ *baamusi-ni* v. みつけたい／ *bakkaunǰi-ni* v. みつけさせる。

bakki-ni G v. [perf. *bauxa-ni*] みつける : *wəədəptuxəmbə bakkini*. なくなったものをかれはみつける。

bala (*bal* U) adv. はやく : *saa bala təərisu*. さあはやく起きよう。／ *bala bala* (*bal bal* U) *ŋənneesu*. はやく行こう。／ *bala bala* (*bal bal* U) *ŋənneesu*. はやく行こ

う。

balapči a. むかしの：*balapčee panusini.* むかしのことをかれはたずねる。

balda s. [acc. *baldamba*] 毛皮製の衣服 (*tətuwə*) (貴重品，むかしオルチャ人 (*Maŋbu*) が満洲人から買ったのをオルチャ人からさらに買ったもの，片側に玉のようなボタンが上から下へ一列についている。外套として着た)。

bali a. めくらの－ blind, s. [acc. *ballee*] 盲人：*bali nari* めくらの人。

balǰi-ni v. [perf. *balǰixa-ni*] う (生) まれる，くら (暮) す，生活する－ be born, live：*uliŋgaǰi* (または *orkinǰi*) *balǰini.* かれはよい (または貧しい) くらしをしている。／*balǰixa puttə* 赤ん坊／〔言い習わし〕*sabuuwwəə xunigambəə əksəxəni. puttə sabukkoo dapautannee xusə puttə balǰini. xurigamba dapautannee əəktə puttə balǰini.* 箸とさじをおいて，あか子が箸をとったら男の子が生まれる。さじをとったら女の子が生まれる。

balǰiǰǰi-ni v. [perf. *balǰiduxa-ni*] 生まれてくる (魚やけだものが)，子が死んでまた子が生まれる (死んだ子が再び生まれてくるという)：*ǰee balǰiǰǰini.* また (その死んだ子は) 生まれて来る。

balǰimakta a. 生まれたばかりの：*balǰimakta puttə* 生まれたばかりの子，赤ん坊－ baby.

balǰoonǰi-ni v. [perf. *balǰoočči-ni*] 出産させる：*dooktori balǰooččini puttə* 医師が出産させた子 (難産で)。

balǰuuri-ni v. [perf. *balǰuuxa-ni*] 繁殖させる，ふやす (たとえば，草や人間を)：*nari balǰuuxani moo* 人が植樹してそだてた木／*narree balǰuurini.* 人間をふやす。／*suŋdattaa balǰuurini.* 魚を人が養殖する。

balli-ni v. [perf. *balixa-ni*] 盲目になる：*isal ballini.* 目がみえなくなる。

bambee-ni v. [perf. *bambaxa-ni*] ちらかす：*əəktənnee duxubi dooduni bambeeni.* 女の人が自分の家のなかをちらかす。U

Banǰai s. 人名 (男)，俗称 (本名は *Təŋəpeelə*、酒に酔うと万歳を唱えたよし)〔< 日 万歳〕。

baŋ adv. ちょっと：*baŋ xalačču.* ちょっと待て。N／*baŋ sinjeesinda.* ちょっとおまえ来るんだ (来い) と。N／*baŋ aumǰikəə meelčimbi.* ちょっとねむっていておれはめをさました。N／*baŋ baŋ* 気軽になんども U／*baŋ baŋ xaimi pulisisee.* ちょくちょく (気軽になんども) なにしにあんた来るの。U

bara a. たくさんの－ many [ant. *ojuuka*]，s. [acc. *baramba*] たくさん：*bara nari* たくさんの人 N／*nari barani nari* 大勢の人 NJ／*bəjə barani bəjə* たくさんのけもの J／*xulduu məəwə baramba bəəru.* 熱い湯をたくさんくれ。N

baralga s. [acc. *baralgaa*] 銃の茄子環。

bargi-ni v. [perf. *bargixa-ni*] 支度する－ prepare：*dəppee bargini.* たべものをかの女が支度する (たとえば *ələsini*)。／*bargimusi-ni* v. 支度したい／*bargoonǰi-ni* v. 支度させる。

barginǰee-ni v. [perf. *bargindaxa-ni*] 支度しに行く。

bauǰǰi-ni G v. [perf. *bauduxa-ni*] 再びみつける。

bauree a. つるつるすべるねー。

baurikpanǰi-ni v. [perf. *baurikpačči-ni*] すべる－ slip：*baurikpami tuuxəni.* かれはすべってころんだ。

baurisi-ni v. [perf. *bauríči-ni*] つるつるすべる－ slip：*nari baurisini.* つるつるして人がすべる。

bauruuli a. すべる－ slippery； s. [acc. *bauruullee*]：*bəlu bauruuli.* たいらな氷がつるつるしている。

bee s. [acc. *beewa*] 1.家のなかのすわったり，ねたりする場所，座－ seat；2.つき (天体の月，年月の月) － moon, month：*xunniin* (*xunnin* J) *beeni* 五月 (この月を *nuuči sillaa* ともいう) － May／*tuulimən beeni* 七月－ July／*gooduman beeni* 八月－ August／*bədəl beeni* 一月－ January (J によれば十一月，*bədəl* はしばれてぬからぬ意という－ November) ／*girraun beeni* 十二月－ December／〔言い伝え〕*beetai əǰǰee itəččee. bee tupinǰillaa.* 月を見ているな。月がつばをかけるから。／以下の月のみちかけは G による－ *agbinǰi bee(ni)* 新月／*kaltaa bee(ni)* 半月／*čeeso bee(ni)* 満月－ full moon／*sikkəu bee (ni)* そのあとのかけた月 (下弦) ／*dakpa bee(ni)* そのあと新月となるまでの月 (*buǰi bee* (死んでいる月) という語もあり，*dakpa bee* のことという) (こよみの月は月のみちかけにより，新月から月がなくなるまでをひと月とする J)。

Beel(ik)ka s. [acc. *Beel(ik)kaa*] いぬの名 (白いいぬ)〔< ロ белый (白い)〕。

beelbi-ni v. [perf. *beelbuxa-ni*] ことわ (断) る－ refuse：*səsučči wəni beelbini.* ほかの人がたのんでいることをかれはことわる。

beelči-ni v. [perf. *beeltuxa-ni*] し (敷) く (敷物などを) － spread (a quilt, matting)：*naatammee beelčini.* 敷きぶとんをかれが敷く。

beelta s. 月あかり：*bee beeltani* 月のあかり N／*bee beeltattaini pulisini.* 月夜であかるいのでかれは (となかいで) あるく。NU

beeltu s. [acc. *beeltumba*] 敷きもの (毛皮) (*orokto* の上に *səiktə* をおき，その上に敷く) － carpet (fur)．

beeltučči-ni v. [perf. *beeltučixa-ni*] 敷いている：*naatamibi beeltuččini.* 自分

の敷ぶとん（となかい皮）をかれは敷いている。

beettəəri-či J v. [perf. *beettəəxə-či*] トランプの遊び方の一つをする（この遊び方は五人または七人でおこなう）: *beettəəriwi.* ぼくはトランプの上記の遊び方をする。

beewuččee-ni v. [perf. *beewutaxa-ni*] 反対する－ oppose: *allausiwani beewuččeeni.* 他人が教えてもかれはちがうという。

beewutamačči-ni v. [perf. *beewutamačixa-ni*] あらそ（争）う（ことばで）。

bədu s. [acc. *bəddəə*] まな板（木製，両端に文様が刻まれている，食台にも使う）－ chopping board.

bəə s. [acc. *bəəwə*] さかなつりのえさ（餌）（*ločoo*につける，これで*keewu*や*čaččari*をとることもある）－ bait.

bəəbə, bəəbəkə NK s. ゆりかご（*əmuwə*）（幼児語）。

bəəbəčči-ni v. [perf. *bəəbəčixə-ni*] 神へそなえものをする（山の神や海の神にけずり花やたべもの（*moni*や*musi*）を（一年に一度）あげる）－ present offerings to the gods: *bəəbəčču̇ri illau* お供えのけずりかけ／*naatai bəəbəčči̇ni.* かれは山の神へものをあげる。*məətəi bəəbəčixəni.* かれは海の神へものをあげた。（山の神へ黒いいぬを，海の神へ白いいぬを，病気治癒のためにあげる）。

bəəbəəčči-ni v. [perf. *bəəbəəčixə-ni*] 横にゆれる: *naa bəəbəəčči̇ni.* 地が地震でゆれる。

bəəbəəkki-ni v. [perf. *bəəbəəkkuxə-ni*] ゆれる（ゆらす道具は名詞道具格であらわす，たとえば*bəəbəəkkuji*（ぶらんこで））－ swing: *tari puttə bəəbəəkkini.* そのこどもは（つなにつかまって）ゆられる。／*bəəbəəkkumi xuppini.* かれは（ぶらんこで）ゆられてあそぶ。

bəəbəəkku s. [acc. *bəəbəəkkəə*] ぶらんこ。

bəəldə NU s. [acc. *bəəldəə*] 坐った人の体形の上脚の上面（幼児はそこに坐る）。

bəəldəsi-ni NJU v. [perf. *bəəldəči-ni*] 坐った体形で上脚の上に坐らせている: *putəə bəəldəsiwi.* こどもをわたしは坐って上脚の上に坐らせている。J

bəəpiji-ni v. [perf. *bəəpičči-ni*] やりでかまえる。

bəəsi s. [acc. *bəəssee*] 布の一種（*jiligəri*より薄い，これで蚊帳（*dappa*）をつくる）。

bəgji s. [acc. *bəgjee*] あし（足，脚）－ foot, leg: *bəgjini kusal.* かれのあしははやい。

bəi s. [acc. *bəimbə*] 長（たとえば部落長）－ chief, head,（トランプの）王様: *Kuuji bəini* アイヌの長老。

bəičči-ni NG v. [perf. *bəičixə-ni*] 猟をする（猟具や鉄砲などで）（泊まりがけで行く G）。

bəiččəənji-ni v. [perf. *bəiččəəčči-ni*] 猟をさせる。

bəičuu NJ s. [acc. *bəičukkəə* N] 仕掛け弓（*dəəŋgurə*）・わな（*puta*）・はさみ（*kapkaa*）などの猟具（鉄砲は別）。

bəičuučči-ni NG v. [perf. *bəičuučixə-ni*] 猟具（*bəičuu*）を仕掛けている。

bəičuukku s. [acc. *bəičuukkəə*] いつも猟をする場所。

bəiŋə U s. [acc. *bəiŋŋəə*] けだもの（うさぎ，きつね，てん，野生となかいなど）（くまは*bəiŋə*といわぬ）。

bəiŋji-ni NG v. [perf. *bəiŋdəxə-ni*] 猟に行く（Gはこの語はキーリン（*Kiilləə*）の語かと言う）。

bəipči-ni v. [perf. *bəiptuxə-ni*] 凍傷になる: *bəgji bəipči̇ni.* あしが凍傷になる。

bəisə s. [acc. *bəisəmbə*] 猟犬，貂をとるいぬ（またぎの上手ないぬ（*pakči ŋinda*）G）。

bəjə s. [acc. *bəjjəə*] からだ（体）－ body: *tari əəktə ənini bəjəni.* その婦人がかれの実の母親だ。

bəjji-ni v. [perf. *bəixə-ni*] 凍らせる，凍傷にする: *ŋaalibi bəjjini.* かれは自分の手を凍傷にする。

bəji J s. 魚を裂いて骨をとったもの。

bəjiku s. 足（*bəgji*）（幼児語）。

bəjjəə int. おいで（こどもが，または，こどもへ言う）。

bəkkəi s. [aac. *bəkkəkkee*] さけ・ますを三枚におろしたあと背骨の両側からのこった肉を切りとったもの（ほして食べるが，なまのは煮て食べる）。*mauri*ともいう。

bəktə s. [acc. *bəktəmbə*] そりのはしらになる木（白樺をつかう）。

bəktəə adv. すこしの間: *jədu bəktəə bigəčči ŋənneeni.* かれはここにもうすこしいてから行く。

bəldun s.（の）代わり: *amma bəldunduni ŋənneewi.* お父さんの代わりにぼくが行く。／*mini bəldunduwwee nurru.* おれの代わりに書け。

bələčči-ni v. [perf. *bələčixə-ni*] てつだ（手伝）う－ help: *kəərreewəni bələčči̇ni.* 引き網をするのをかれはてつだう。

bələinjee-ni v. [perf. *bələindəxə-ni*] てつだいに行く。

bəliičči-ni v. [perf., *bəliičixə-ni*] 支度をしている: *guppəə bəliičči̇ni.* 毎日かの女が食事の支度をしている（たとえば，女手がたくさんある家でかの女だけが）。

bəlikki-ni v. [perf. *bəliixə-ni*] 旅行や食事の支度をする－ prepare: *ojoskombi bəlikki̇ni.* 生活用具のにもつを支度する。

bəljə int. おいで：*bəljə bəljə*. おいでおいで。／*bəljəə bəljəə*. おいでよ，おいでよ。／*əwəsəi bəljəə bəljəə*. こっちへおいでおいで。

bəllee-ni v. [perf. *bələxə-ni*] てつだう－help；兄弟の結婚の際宝物などを贈る：*əəktəə gaǰiwani bəlleeni*. ほかの人がよめをもらうときかれは贈りものをする。／*ulaaǰi bələxəni*. (ほかの人の結婚に) となかいをかれは贈った。

bəlu s. [acc. *bəlloo*] つるつるたいらなひかっている氷。

bəluǰǰee-ni v. [perf. *bəludəxə-ni*] 氷の上をすべる／*bəlloo bəluǰǰeeni*. かれはつるつるの氷の上をすべる。

Bənduŋənu s. [acc. *Bənduŋənumbə*] 大川三郎氏のウイルタ名。戦後北海道に移住。

bəpii NG s. [acc. *bəpikkee* N] 腰巻き (女が *pəruu* の上に着用)，見たことはないよしN；女の布製のスカート，見たことはないよしG.

bərəmi [1] s. [acc. *bərəmmee*] ばかどり，かまばね (鎌羽) 雷鳥 (ばかやまどり GJ，くろやまどり J) －a species of wild grouse.

bərəmi [2] G a. おとなしい，ばかしょうじきな：*bərəmi nari* ばかしょうじきな人。

bərəu a. おとなしい，やさしい－gentle, mild：*bərəu nari* おとなしい人。

bətəxə s. [acc. *bətəxxəə*] いぬやとりのあし－leg (of a dog or bird)：*gaksee bətəxə* 片方のあし。

bəultə G. s. 仕掛け弓の台木がとりつけてある棒。

bəxə s. [acc. *bəxxəə*] すみ (墨)，インク－ink, Chinese ink；いろ (色) －colour.

bičixə s. [acc. *bičixxəə*] 書いたもの，手紙，本，字－writing, letter, book, character.

bii pron. [acc. *mimbee*, all. *mittəi*] わたし－I：*miniŋŋi* N, *miniŋi* U pron. [acc. *miniŋŋee* NU] わたしのもの／*minǰee* ぼくの方，ぼくの方に。

biiččee-ni v. [perf. *biitəxə-ni*] い (居) たい，いようとする：*jədu biiččeeni*. ここにかれはいたくていようとする。

biigəčči-ni v. [perf. *biigəčixə-ni*] ふねが浅いところで動かなくなる：*ugda paajitai ŋənəgəčči biigəčixəni*. ふねが浅いところへ行って動かなくなった。U

bii-ni v. [× perf. *bičči-ni*, conv. perf. *bigəčči*] ある，いる，す (住) む，だ－be, exist, live, dwell, copula：*tari nari nuuči bičči*. あの人は小さかった。／*jədu biini billəə*. ここにかれはいるでしょう。／*sinǰeeniddaa billəə*. かれは来るかもしれない。／*ojuuka biŋəttə*. 少しでいい。／*bimusi-ni* v. い (居) たい／*biwwəənǰi-ni* v. い (居) させる。

biiri-ni v. [perf. *biixə-ni*] (ふねが) 浅いところへつきあたる (浅瀬にのり上げる)：*ugda paajikki biirini*. ふねが浅瀬へのり上げる。

biǰila J s. 西風 (*toŋdo biǰila*)：*toŋdo biǰila* 西風 J／*mokčuu biǰila* 西南西風 J／*biǰila xəduni* 南西風 G.

bikku G s. 毎年 (たとえば夏ごとに) 来て滞在する場所：*mini bikkubi* おれが毎年来ているところ。

bilaatu s. [acc. *bilaattoo*] ぬのぎれ (かぶったり，ものを包んだりする)，頭布－kerchief [＜ロ платт、платок]

bilaatullee-ni v. [perf. *bilaatulaxa-ni*] 頭布をかぶる：*bilaatuǰi bilaatulleeni*. 頭布をかの女はかぶる。／*bilaatullaunǰi-ni* v. [*bilaatullaučči-ni*] 頭布をかぶらせる。

bilda [1] s. [acc. *bildaa*] のど－throat.

bilda [2] a. けちな－miserly：*bilda nari* けちな人／*tari nari bilda*. その人はけちだ。

bildaǰǰee-ni NG v. [perf. *bildadaxa-ni*] 1. お (惜) しむ，おしがる NG：*məəniŋŋi bildaǰǰeeni*. 自分のものをかれはおしむ。N／*əəktəə bildaǰǰeeni*. 女 (むすめ) がよめにゆくのをかれはおしがる N；2. また (股) をひろげる G.

bildam U adv. また (股) をひろげて：*bildam təəxəni*. 股をひろげてかの女はすわった。

bildaŋa G a.：*bildaŋa oksoo* 上より下の方が横幅の広いそり (*darami oksoo*) (となかいぞり (*ulaa oksoo*) は *bildaŋa*，いぬぞり (*ŋinda tuči*) はそうでない)。

billi-ni v. [perf. *biluxə-ni*] い (居) はじめる (これからいる)：*jədu biluwəčči ŋənuxəni*. ここにいるつもりだったがかれは帰った。／*tuwəniduuni biluxə*. その冬からずっといる。

binni-ni v. [perf. *binixə-ni*] い (居) に行く：*čala binixəni*. そこにかれはいるために行った。

bipči-ni v. いることができる：*jədu bipčinii*. ここにいられるか。／*jədu bipčini*. ここにいられる (だれでも)。

biri GJ s. めすのくま G，五歳のめすのくま J.

biro s. [acc. *birombo*] ちか (魚)。

boččo s. [acc. *boččoo*] 顔立ち：*boččoni aja*. かの女の顔立ちはいい。／*boččoni orki*. かの女の顔立ちは悪い。／〔言い習わし〕 *suun ittəəjini nari boččoni orkinda*. 太陽が見ると人の顔立ちは悪いんだと (まぶしがって)。*bee ittəəjini nari boččoni ajanda*. 月が見ると人の顔立ちはいいんだと。

boddouri-ni v. [perf. *boddouxa-ni*] 騎乗する (*əməənǰee-ni*): *ulaaǰi boddourini.* となかいにかれは乗って行く。／*murinǰi boddourini.* 馬にかれは乗って行く。

bodočči-ni v. [perf. *bodočixa-ni*] 女の方から男のもとへ行って妻になる: *əəktə bodočixani.* 女が女の方から男のところへおしかけて行って妻となった。

boipu s. [acc. *boipumba*] くさり－ chain.

boita s. [acc. *boittaa*] はい松－ creeping pine.

bojji-ni v. [perf. *boixa-ni*] しばる (人を): *narree boixani.* 人を (巡査が) しばった。／*bəgǰeeni boixani.* ほかの人の足をかれはしばった。／*boipula nari* しばられた人。

bojokkee-ni v. [perf. *bojooxo-ni*] かみのけをもってひっぱったり，ふりまわす NU: *tari əəktə bojokkeewani itəxəmbi.* (女同士のけんかで) その女が相手の女のかみの毛をつかんでひっぱるのをおれは見た。U／*ǰilleeni bojokkeeni.* 相手のあたまをかの女はかみの毛をもってふりまわす。N

boǰǐǰipsi a. ごたごたしてきたない: *boǰǐǰipsee* 家のなかがごたごたしてきたないなー。

boǰǐǰipsuuli a. ごたごたしてきたない (家のなかなどが)。

boǰǐǰǰi-ni NJU v. [perf. *boǰǐǰixa-ni* NU] ごたごたきたなくしている N，苦労する (生計上) J: *boǰǐǰixa puttə* きたなくしたこども N／*boǰǐǰim balǰini.* かれは貧乏して暮らしている。JU

boǰǰee-ni v. [perf. *bodoxo-ni*] 1. かんが (考) える－ think: *ŋənəbuǰǰi bodoxombi.* わたしは行こうかと考えた。2. 人のあとに付いて行く，あとを追う。

bokko s. [acc. *bokkombo*] はら (腹) － belly: *bokkondaaji* おなかの大きい (妊娠して) ／*geeda bokkokki balǰixa naril* 一つ腹から生まれた人ら (兄弟，はらから)。

Boksiiri s. 人名 (男，*Sөөktө* の氏族)。

bolǰee-ni NGJ v. [perf. *bolǰoxo-ni* NG] あわてる N，おどろく GJ (たとえば，人の死んだことを聞いて J): *čaǰi bolǰeeni.* かれはそれにおどろく。G

bollee-ni G v. [perf. *boloxo-ni*] 秋になる。

bollookto s. [acc. *bollooktoo*] 低木の一種 (茎のなかに *xumalda* があり，これをとって茎をきせるに用いる)。

bolo adv. あき (秋) － in autumn: *əsi bolo* この秋。

bolodo s. [acc. *boloddoo*] 漁労や狩猟のための秋の居住地 (円錐形家屋があり，多くは川・海に近い)。

Bolodo s. [acc. *Bolodombo*] 地名 (幌内川沿岸，さけ・ますを引き網でとるところ)。

bolodokku s. [acc. *bolodokkoo*] 秋の居住地。

bolojǰee-ni v. [perf. *bolodoxo-ni*] 秋いる場所にいる: *čadu bolodoxoni.* かれはそこで秋をすごした。

bolojǰi-ni U v. [perf. *boloduxa-ni*] 秋になる (秋がめぐって来る): *jəə anannee boloduxani.* 今年も秋が来た。

boloni s. [acc. *bolonnee*] あき (秋) － autumn, fall: *jəə bolonnee* この秋に。

bolootu s. [acc. *boloottoo*] いかだ－ raft [< ロ плот].

bolori a. 秋の: *bolori natta* 秋の獣皮。

boŋgo s. [acc. *boŋgoo*] 男のよい子: *boŋgoo baaxani.* よい男の子をかの女は生んだ。N／*boŋgo səəpə* 黒いてん (*saari səəpə*) G.

boo s. [acc. *boowo*] そら (空)，天気，天地－ sky, weather, world; [acc. *booppo*] そと (戸外): *boo aja.* 天気がいい。／*boo osini.* しけてくる，天気がわるくなる (陸でもいう)。／*boo čiktəni* 野生となかい (*sirө*) (天からおちたしらみ) ／*booppo giččini.* そとをかれが歩いている。

Boobi G s. 地名 (大陸とカラフト (サハリン) 島が最も接近しているところ)。

boočikka s. [acc. *boočikkaa*] ドラムかん，たる [< ロ бочка].

boočimačči-ni v. [perf. *boočimačixa-ni*] とり合う (二人で) (たとえば，こどもがおもちゃを U)。

bookkee s. [acc. *bookkeepa*] そと (外) － outside: *duxu bookkeepani giččini.* 家のそとをかれは歩く。

bookkeenneeni NG s. 天人 (現世界の上の世界の人，おびをむねにしめている)。

bookto s. [acc. *booktoo*] はい松の実，球果。

bool s. [acc. *boolbo*] 女がよめに行くときつれて行く女の召使い。

boollee-ni U v. [perf. *booloxo-ni*] 分配するはずのものをわすれる，ほかの人の分まで全部食べる: *ǝǰǰee boolloo.* ほかの人の分までみんな食べるな，ほかの人の分を残しておけ。

boono s. [acc. *boonnoo*] あられ (霰)。

boori NJ s. 高い木はなく，こけもものはえている山。

boorosi-ni v. [perf. *booroči-ni*] あばれる (たとえば，となかいが前方にこわいものがあって進まずに): *čadu mini ulaabi booročini.* そこでおれのとなかいがあばれた。

bootoo s. [acc. *bootoombo*] 木の実，木の芽－ tree bud, cone: *xasikta bootooni* えぞ松の実／*kəkkə bootooni* えぞごぜんたちばなの実／*aasi bootooni* ふきのとう。

bootoočikku s. [acc. *bootoočikkoo*] 鳥の一種 (ひばり), 春朝はやく鳴く，これがさえずれば天気になるといい，小鳥の巫者 (*nəəčigə samani*) という N:〔言い習わし〕 *bootoočikku jildandaini inəŋi aja osini.* ひばりがさえずれば天気がよくなる。U

bootoonǰi-ni v. [perf. *bootoočči-ni*] (木の実が) なる: *bootoo bootoonǰini.* 木の実がなる。

boowo GJ s. 仕掛け弓の矢の柄 G.

boowu s. そと。

bopira s. [acc. *bopirraa*] (衣服の) ひだ－ fold.

bopiraktu s. ひだをとってつくったもの: *bopiraktu tətuwə* ひだをつけた衣服。

bopirree-ni v. [perf. *bopiraxa-ni*] ひだをとる: *bopirapula* ひだをとったもの。

borgee-ni U v. [perf. *borgoxo-ni*] (文様の型紙をおいてなぞり) 形を線でつける。

borimačči-ni v. [perf. *borimačixa-ni*] 分けあう，みんなで分ける: *borimačči či.* かれらは分け合う。

borkookto s. [acc. *borkooktoo*] 銃架をとりつける銃身の部分。

boročči-ni G v. [perf. *boročixa-ni*] 神像の口へたべものをつける，くままつりのときくまの心臓の血を *maglii* の口につけて食わせる。

boropči-ni v. [perf. *boroptuxa-ni*] つく (血やあか (*naŋisa*) が): *səəksə boropčini.* 血がつく。／*səəksəǰi boroptuxani.* (どこかに) 血がついた。／*ŋaalani səəksəǰi boropčini.* かれの手に血がつく／*ŋaalani səəksə boropčini.* かれの手には血がつく。

borree-ni v. [perf. *boroxo-ni*] ぬる，ぬりつける (たとえば，色を鉛筆でつける，女が文様を *xulməu, guidə* 等につける) － smear: *bəxəǰi borreeni.* 色をかれはぬる。 NU／*talukki irgamba borreeni.* 樺皮へ文様をかの女はつける (炭で)。U／*səəksəǰǰi borreeni.* けんかの際出た自分の血を相手にかれがぬりつける。N／*xausalikki borreeni*: 紙へかれはぬる (たとえば炭で)。N／*munəskəə kamdunǰi borowočči kumultəə bullini.* かれは (スキーにはりつける) 毛皮ににかわをぬりスキーをなでる。N

borri-ni v. [perf. *borixa-ni*] 分配する－ distribute: *suŋdattaa borrini.* さかなをかれは分配する。

bosokto s. [acc. *bosoktoo*] 腎臓－ kidney.

bədə a. ふとった－ fat [ant. *xumana*]; s. [acc. *bəddəə*] .

bəjjəuri-ni v. [perf. *bəjjəuxə-ni*] 猟をする，えものをさがしてあるく (家からかよって G) － hunt／*bəjjəuwuri* 猟－ hunting.

bəjə s. [acc. *bəjəmbə*] けだもの (野獣)，くま (熊) (熊の意の *bəjə* の語はまたぎでは口にしないし，普段もあまり使わない) － wild mammal, bear.

bəjəlmee-ni v. [perf. *bəjəlməxə-ni*] くまをとりに行く。

bəjəskə s. [acc. *bəjəskəə*] くまの皮。

bəǰǰee-ni v. [perf. *bədəxə-ni*] ふとる。

bəkkə s. [acc. *bəkkəə*] せむし: *bəkkənnee* s. [acc. *bəkkənneepə*] せむしの人。

bənərəsi-ni v. [perf. *bənərəči-ni*] もがく: *bokkonǰi ənumi bənərəsini.* はらがいたくてかれはもがく。／*bulmi bənərəsini.* 死ぬときかれは苦しんでもがく。

bəə adv. いぬの長く引くなき声。

bəəčči-ni v. [perf. *bəəčixə-ni*] あた (与) える (何回も)。

bəəǰǰi-ni U v. [perf. *bəəduxə-ni*] 返す。

bəəŋǰee-ni v. [perf. *bəəŋdəxə-ni*] 与えに行く。

bəəri-ni v. [perf. *bəəxə-ni*] あた (与) える，やる，おく (贈) る，嫁にやる－ give, present: *suŋdattaa bəərini.* さかなをかれは与える。／*bəəwuri suŋdatta* くれるさかな／*čaa naritai bəəru.* その人にやれ。／*čalaa bəəru.* それ (その人) にやれ。／*bəəmusi-ni* v. 与えたい／*bəəwəənǰi-ni* v. 与えさせる。

bəətə NJU s. [acc. *bəəttəə* N] (巫者のもつ G) 神像の一つ (頭がとがっている): *xasalu bəətə* 羽のあるボート神像 (この語は聞いたことがあるという) N.

bətər adv. ぽとん (水滴，ボタンなどがおちるおと)。

bučča s. うなじが痛いときつくるいぬの歯のような形の神像。

buda [1] s. [acc. *buddaa*] こめ (米)，めし (飯) － rice.

buda [2] J s. 小高い川ぶち (*məgǰi*) の上: *uni budani* 川沿いの小高い岸の上の土地／*buda nəəčeeni* 小高い川ぶちの上の土地の小鳥。

bugǰi: *bugǰi ulaa* 足の色が体の色とちがうとなかい (足が黒，上部が白のように)。

bugǰiiri-ni v. [perf. *bugǰiixə-ni*] 女の子が大きくなって成人する (*patala* になる)。

buisi-ni v. [perf. *buiči-ni*] 貯蔵する，保存する，しまっておいている－ keep, preserve: *dəppee buisini.* たべものをかれは貯蔵している。／*daludu buisini.* 高倉にかれは貯蔵している。／*sosokkee* (または *sosoimba*) *buisini.* いつも下痢している人をかれは家においている。

bujaa a. こわれた，こわれている; s. [acc. *bujakkaa*]: *bujakkaa məətələxəmbi.* こわれたのをおれはすてた。

bujačči-ni v. [perf. *bujačixa-ni*] こわしている: *dugba bujačči ni.* 家をかれはこ

わしている。

bujajjee-ni v. [perf. *bujadaxa-ni*] こわれる－ be broken: *čaasi bujadaxani.* 時計がこわれた。

bujaldujji-ni v. [perf. *bujalduxa-ni, bujalduduxa-ni*] つくったものをまたこわす (たとえば，となかいぞりを)。

bujalji-ni v. [perf. *bujalči-ni*] こわ (壊) す－ break, destroy: *alukkoo məətələmi bujalčini.* 入れものをかれは投げてこわした。／ *bujalmusi-ni* v. こわしたい／ *bujalboonji-ni* v. こわさせる。

bujalkiččee-ni v. [perf. *bujalkitaxa-ni*] こわしにかかっている: *tari puttə bujalkiččeeni.* そのこどもはこわそうとしてやっている。

bujalni-ni v. [perf. *bujalnixa-ni*] こわしに行く。

bujalpči-ni v. [perf. *bujalptuxa-ni*] こわせる: *əri girapsa bujalpčini.* この骨は折ることができる。

bujji-ni v. [perf. *buixa-ni*] よごす－ stain, dirty: *tətukki buixani.* かれが自分のきものをよごした。／ *amukki buixani.* (こどもが) 大便でよごした。

bujji-ni v. [× perf. *bučči-ni*, conv. perf. *bulkəčči*] 死ぬ－ die: *bulpuri* 死－ death／ *buččinnee* s. [acc. *buččinneepə*] 死人－ dead person／ *suun bujini.* 日食がおこる。／ *bee bujini.* 月がかけてなくなる。／ *bee buččini.* ひと月がおわった。／ *bučči beela* 月がないときに／ *məələ bujini.* 川などで人が死ぬ。／ *bulmusi-ni* v. 死にたい／ *bulbəənji-ni* v. 死なせる。

bukkə s. [acc. *bukkəmbə*] 氷のくだけたの。

bukpaa s. [acc. *bukpakkaa*] さけやます (*goodu* G) を，頭を除き，切りめを入れ，一匹のまま縦にくしにさして焼き，火だなにねかせて干したもの，やきぼし。

bukpakkee-ni v. [perf. *bukpaaxa-ni*] さかなのやきぼしをつくる: *bukpaa bukpakkeeni.* かの女はやきぼしをつくる。

buldum G adv. たいらに: *buldum očči naa* たいらな土地。

buli s. [acc. *bulimbə*] めだま，眼球－ eyeball: *isal bulini* めだま。

buligə G s. やり (槍) の柄: *gida buligəni* 槍のつかむところ。

buljji-ni v. [perf. *buljixə-ni*] かた (固) まる－ become hard: *puttə buljini.* こどもが (胎内で) かたまる。／ *naa buljiŋəsseeni* 地が固まりつつあったときに (語り物中の表現) ／ *musi buljixəni. musi* (調理物の一つ) がかたまった。

bulkiččee-ni NU v. [perf. *bulkitəxə-ni* N] 死のうとおもう。

bulli-ni v. [perf. *bulixə-ni*] なで (撫) る－ stroke: *puttə jilleeni bulimi alasini.* こどものあたまをかれはなでてかわいがる。／ *bussoo bullini.* きれをかの女はなでる。

bulpəčči-ni v. [perf. *bulpəčixə-ni*] めまいがする。

bultai adv. 一所懸命，大いに: *bultai tuksaxani.* 一所懸命かれは走った。／ *geedara bultai* 一遍に，急に／ *geedara bultai buččini.* 急にかれは死んだ。

bultuu a. ぬるい: s. [acc. *bultukkoo*]: *bultuu məə* ぬるい湯。

buni s. [acc. *bunnee*, all. *bunitəi*] はか (墓)，よみのくに (死者の行くところ) － tomb, grave, the land of the dead: *bunijjee* s. [acc. *bunijjeepə*] 西 (日の入る方，よみのくにの方) － west: *bunitai jaajjauri* 葬式が終ったその晩巫者がうたをうたうこと。

bunni-ni v. [perf. *bunixə-ni*] 死にに行く。

buŋna J s. わな (*puta*) の糸の一端を結びつけた棒。

burakta s. [acc. *buraktaa*] 明星，火打ち石－ Venus (planet) , flint.

burixə N s. [acc. *burigbə, burixxəə*] , *burikə* G s. ゆみ (弓) － bow.

buskə s. [acc. *buskəə*] 軟骨 (けだものの)，あかごのやわらかい骨。

busu s. [acc. *bussoo*] 木綿，木綿布，ぬの，きれ－ cotton, cloth: *busuma* a. 布製の。

busugda G a. うすい色の: *busugda səəgdə* うすい赤。

busuu s. [acc. *busukkoo*] 死者に着せるものや持たせるもの，副葬品。

butuu U a. 半煮えの (なま煮えの): *butuu buda* 生煮えのめし。

buu pron. [acc. *mumbeepə*] わたしたち－ we: *munuŋŋi* N, *munuŋi* U pron. [acc. *munuŋŋee* NU] わたしたちのもの。

buunəi s. [acc. *buunəiwə*] (トランプの) ダイヤ [<ロ бубны] .

buunni-ni v. [perf. *buunixə-ni*] いぬやふいりあざらしがボー (*bəəəə*) と長く引いてなく。

buuŋi NGJ s. [acc. *buuŋŋee* N] 森林 (えぞ松・とど松の群生するところ G)。

buwaata s. [acc. *buwaatamba*] しま (島) － island.

Buxu s. 人名 (男，*Muigəttə* 氏族)。

č

čaalaa s. [acc. *čaalakkaa*] 人の形をして手もある木製の偶像 (産婦の産後ねているところへ掛ける)。

čaam adv. まっ白いさま: *čaam taagda* まっ白い／ *čagəəm taagda* まっ白い。

čaami s. [acc. *čaammee*] 茶碗－ cup.

čaanikka s. [acc. *čaanikkaa*] やかん－ kettle [＜ロ чайник].

čaasi s. [acc. *čaassee*] 時計，時 (時刻の単位) － watch, o'clock [＜ロ часы]: *xasu čaasiga.* 何時か。／ *bii tunda čaasila sindaxambi.* わたしは五時に来た。

čaaska s. [acc. *čaaskaa*] 取っ手のついた茶碗 [＜ロ чашка].

čaawakta s. [acc. *čaawaktaa*] こまざらい，牧草用のフォーク。

čaawallee-ni v. [perf. *čaawalaxa-ni*] 鳥がわしづかみにつかむ (人間についてもいう): *čaawalami gaduxani.* わしづかみにしてかれはもってきた。

čaččabi s. [acc. *čaččabbee*] ますを三枚におろし，皮はとらず，頭・骨を除き，尾はつけたままにし，肉二枚が尾でつながっているもの (屋外でまたは屋内の火だなに掛けて干す)，あだち。

čaččabbi-ni v. [perf. *čaččabixa-ni*] さかなのあだちをつくる: *čaččabbee čaččabbini.* かの女はあだちをつくる。

čaččabiǰǰi-ni G v. [perf. *čaččabiduxa-ni*] さかなのあだちをつくる。

čaččari NG s. [acc. *čaččarree* N] しまごめ (秋から春まではいない) (食用 G) (この語は多来加，野頃で使う J, ただしGは *kiičiga* の語を使うという。Cf. *kiičiga*)。

čagǰu N s. [acc. *čagǰumba*], *čagdu* GK s. 引越しのあと屋内に残した廃物から三晩たつと生ずるばけもの (引越しの際は廃物を野外の木のねもとや木のまたにおいて行けばこれにならない) G.

čaglaa s. [acc. *čaglakkaa*] 引き金 (銃 N，仕掛け弓 G の) － trigger.

čai s. [acc. *čaiwa*] 茶－ tea.

Čai s. 目のたまと手のさきだけが白い (あかだらけなので) 人たちが住むという土地 (西海岸の方にあるという): *Čainneeni xalani* 上記の土地の人たちの氏族。

čakčaŋ adv. きつく－ tightly, solidly: *čakčaŋ toopula umul* きつくしめたおび／ *čakčaŋ ujjini.* きつくかれはむすぶ。／ *čakčaŋ suŋunǰini.* (川が) かたく凍結する。／ *čakčaŋ biini.* かれは元気でぴんとしている。

čakčaŋučči NJ a., *čakčaŋ očči* U 体が頑丈な JU: *čakčaŋučči* (または *čakčaŋ očči*) *nari* 体が頑丈な人 JU.

čakčii adv. きっと，必ず: *čakčii sinǰeeni.* きっとかれは来る。／ *čakčii sii dapaxasi.* きっとおまえが取った。／ *tari nari arakkee umipee čakčii akpanǰilini.* その人は酒をのむと必ずねるようだ。

čakkaa adv. いっぱい，一面に－ in large numbers all over (an area, etc.): *čakkaa biini.* それは一面にある。／ *alukku čakkaa daluptuxani.* 入れものがいっぱいになった。／ *čakkagəə* ぎっしりいっぱい。

čakpa s. [acc. *čakpaa*] (食事用) フォーク，やす (さかなをとる) － fork, fish spear.

Čarpaa s. 人名 (男，*Waaleetta* 氏族)。

čauk adv. どぶん (水におちる音): *məətəi čauk tuuxəni.* ひとが水へどぶんとおちた。

čauluu s. [acc. *čaulukkoo*] (生まれたばかりの) ひな－ nestling.

čauwu s. そちら: *čauduma* それの方／ *čauduma nari* そちらの方の人。

čauxa G s. [acc. *čauxxaa*] 兵隊 (*saldaa*) (*Maŋbu* 人のことばだという) [＜満 cooha (兵)]: *čauxa waallini.* 兵隊が戦争する。／ *čauxannee* 兵士。

čaxu NG s. 水死人 (*məələ buččinnee*) G，水死者を葬った (*əpsiǰǰi* した) ところ，埋葬したところ (女がそのまえをあるくことは禁忌である) N.

čeegasi-ni NGJ v. [perf. *čeegači-ni* NG] のどをならす (たんがからんだり，のどになにかあるときなどにそれをとるためにあーと声をたてて)。

čeeksa s. [acc. *čeeksaa*] となかいぞりの台木の前部が上の方へ反っている部分。

čeelba s. [acc. *čeelbaa*] (トランプの) ハート [＜ロ червы, черва].

čeelli-ni v. [perf. *čeeluxa-ni*] (口に入れたものを) は (吐) く－ spit out: *aŋmakki čeellini.* かれは口から吐く。

čeeluǰǰi-ni v. [perf. *čeeluduxa-ni*] 吐き出す。

čeembuwa N s. [acc. *čeembuwamba*], *čeemboo* J s. となかいぞりの一番まえの横木のさらにまえにつく湾曲した棒 (棒は *səŋətturə*)。

čeen NJ s. [acc. *čeemba* N] なまず (魚)。

čeeneepči NJ a. きのう (昨日) の; s. [acc. *čeeneepčee* N]: *čeeneepčee gəlleewi.* 昨日のものをおれはほしい。N

čeenǰi-ni J v. [perf. *čeečči-ni*]: *uni čeenǰini.* 川で氷の上に水がながれる (11, 12, 1月ごろ)。

čeennee adv. きのう (昨日) － yesterday: *čeennee dolbo* 昨夜－ last night／ *čeennee səksə* 昨晩－ last evening.

čeeŋa s. [acc. *čeeŋŋaa*] あごひげあざらしの二歳のもの (あごひげあざらし・くらかけあざらしの二歳のもの J)。

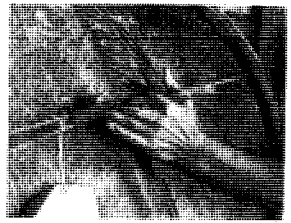
čeeri-ni v. [perf. *čeexa-ni*] は (張) る (ひっぱるなど強く力を加えて): *dəəŋgurrəə čeerini.* 仕掛け弓をかれは張る (仕掛ける)。／ *kapkaamba čeerini.* 猟具のはさみをかれは張る (仕掛ける)。／ *kumultəə čeerini.* スキーをつくるときそのさきをそらせるためにかれは合わせた二枚の板を先端の間に木をはさんで強く締める。／ *tugdəučikkəə čeerini.* かさをかれは開く。

čeeso NJ a.: *čeeso bee* 満月。

čeessee-ni v. [perf. *čeesoxo-ni*] (月が) まるくなる。
čeetu s. 卵殻 (鳥のたまごの)。
Čeexara s. 人名 (男, *Taldaawu Səəktə* 氏族, 中川和四郎氏の父の本名, ロシヤ名は *Wasilai*)。
čelčilli-ni NU v. [perf. *čelčilixa-ni*] 鉄砲の引きがねを引く。
čepilli-ni NU v. [perf. *čepilixa-ni*] つぶす (一回)。
čepirinǰi-ni NU v. [perf. *čepiričči-ni*, conv. perf. *čepirikkačči* N] (家のなかや食事のあとを) ちらかしてきたなくしている: *čepirinǰiwani pəskeeni.* かれがきたなくしているのにかの女はおどろく。N／*soktoxo nari čepirinǰini.* 酔った人が食後ちらかしてきたなくしている。U
čeppi-ni v. [perf. *čepixa-ni*] つぶす: *koligamba čeppini.* むしをかれはつぶす。／*mooǰi čeppini.* 棒でかれはつぶす。／*taasumi čeppini.* 踏んでかれはつぶす。／*dapurimi čeppini.* つかんでかれはつぶす。
čerri-ni NU v. [perf. *čeruxa-ni* N] 固まったあぶら (*nəmuu*) を火でとかす, あぶらでいためる, あぶらをつけてやく: *nəmukkəə čerrini.* あぶらのかたまりをかの女はなべに入れて火でとかす。U／*ildaǰi ulissəə čerrini.* あぶらで肉をかの女はいためる。NU／*upamba čerrini.* 粉をこねたのをかの女はあぶらをつけて焼く。NU
čes adv. 非常に: *čes uliŋga* 非常にいい／*čes bara* 大変たくさん／*čes baja* 大層裕福な／*čes bajaččini.* 大層かれはもうけた。／*čes uliŋga oččini.* かれは大変立派になった。
čəəŋgəi s. [acc. *čəəŋgəkkee*] となかいの逸走阻止のためくびにつるす短い棒 (これが前足にあたる)。
čəəwučči-ni U v. [perf. *čəəwučixə-ni*] 酒をゆびのさきにつけて (神にささげて) ふりまく (何回も)。
čəəwwi-ni v. [perf. *čəəwuxə-ni*] そな (供) える (神像の口へたべものをつける, 酒をゆびのさきではじく) (巫人の神像 (*siiwurə*) にはそなえない, 食べ物を上げると人の肉を食べるようになるという) − offer to gods: *tawatai čəəwwini.* 火 (の神) へかれはゆびのさきに酒をつけてはじく。／*əǰəxətəi čəəwwini.* 神に供え物をする (たとえば *moni* を)。
čəkkəmi s. [acc. *čəkkəmmee*] ビロードの布地: *kədərəktu čəkkəmi* コールテンの布地。
čəŋəlpi s. [acc. *čəŋəlpimbə*] くら (鞍) をとなかいの胴にしめつけるおび (皮製) (これでとなかいの荷物もしばる)。
čəŋəlpinǰi-ni G v. [perf. *čəŋəlpinduxə-ni*] 鞍をおびでとなかいの胴にしめつける。

čida s. [acc. *čidamba*] ふくらはぎの肉。
čigaapani adv. おととい, あさって − day before yesterday, day after tomorrow: *čigaapani ŋənneewi.* あさってわたしは行く。／*čeennee čigaapani* おととい *čigaapani ŋənneewi.* あさってわたしは行く。／*čimanaa čigaapani* あさって／*tari čigaapani* しあさって, さきおととい。
čigaǰǰee-ni v. [perf. *čigadaxa-ni*] 切れる, 折れる: *moo čigaǰǰeeni.* 木がおれる。／*tokpo čigaǰǰeeni.* 糸がきれる。
čigakkeeni G: *čigakkeeni anani* 再来年。
čigalli-ni v. [perf. *čigalixa-ni*] き (切) る, お (折) る (一回) − cut, break: *kučigənǰi čigallini.* 小刀でかれは切る。／*ŋaaliǰǰi čigallini.* かれは手で折る。
čigassi-ni v. [perf. *čigasuxa-ni*] き (切) る, お (折) る (何回も) − cut, break: *čigasupula moo* 何回もこまかく切った木／*garraa čigassini.* 枝をかれは折っている。／*xasanǰi čigassini.* はさみでかの女は何度も切る。
čigə s. [acc. *čigəmbə*] 小便 − urine.
čigəčči-ni v. [perf. *čigəčixə-ni*] 小便している。
čigəniččee-ni v. [perf. *čigənitəxə-ni*] 小便しにいってくる。
čigənǰi-ni v. [perf. *čigəčči-ni*] 小便する − urinate.
čigənni-ni v. [perf. *čigənixə-ni*] 小便しにいく。
čigəptu s. [acc. *čigəptumbə*] ゆりかごや嬰児篭のなかの便器 (樺皮製, なかに *namulta*, *xuutə*, *sauri* を入れる)。
čigičči-ni v. [perf. *čigičixa-ni*] くすぐる − tickle: *puttəə čigiččini.* こどもをかれがくすぐる。
čigiri a. くすぐったい (この語は述語として使う): *čigiri əǰǰee.* くすぐったい, よして。
čigirisi-ni NI, *čikirisi-ni* U v. [perf. *čigiriči-ni* NI, *čikiriči-ni* U, conv. perf. *čigirigəčči* I, *čikirigəčči* U] くすぐったい − feel ticklish: *bii čigirisiwi.* おれはくすぐったい。N
čigiruuli a. くすぐったい − ticklish.
čii NJ adv. ずーっと, このように: *čakki čii ŋənəmǰee bakkeelisi taani.* そこからずっと行ってきみは見つけるだろう。N／*čii auriwi.* いつもおれはねむっている。N／*čii biččini.* かれはそうしていた。N／*čii undəkkə.* こういうふうに (またはそういうふうに) かれは言っている。N／*sama čii unǰini.* 巫者がこう言う。 U／*čii oiwi.* おれはこうする。J／*čii oini.* かれはああする。J／*čii oččini.* かれはああやった。J／*əsi čii ŋənneewi.* いますぐおれは行く。N
čiilǰi-ni v. [perf. *čiilči-ni*, conv. perf. *čiilkačči*] 成長しきる, 一人前になる:

nari suuwani aaptumi baljimi čiiljini. かれはおとなの身長に達するほど成長して一人前になる。


čiimee

čiimee s. [acc. *čiimeemba*] 偏平太鼓のうらの手でつかむところ（ひも）（４本のひもが合わさるところ G）: *daali čiimeeni* 太鼓の手でもつところ。(写真は *čiimee* のつかみ方を示す。)

čiinjee-ni v. [perf. *čiindaxa-ni*] はな（放）す－ let loose, set free: *bəisəmbi čiinjeeni.* かれは自分の猟犬を放す（猟のとき）。

čiinji-ni v. [perf. *čiičči-ni*] つかんでいるものを手放す，となかいやいぬをつかんでいる手から放す，またはそり（またはなん匹もつないだいぬの列）からといて放す: *ulaaba čiinjini.* となかいをかれは放す。／ *puktukki čiinjini.* いぬの列から（いぬを）かれは放す。／ *daputaxambi čiinjini.* 自分がつかんでいたのをかれは放す。

čiiŋŋee-ni v. [perf. *čiiŋəxə-ni*] いぬが小さい声でなく。

čiiriktə NGJ s. [acc. *čiiriktəə* N] 真鍮。

čiisəi G: *čiisəi ŋənneeni.* むこうへかれは行く。

čiisənnee adv. このあいだ，先日－ the other day.

čiisəpči a. このあいだの: *čiisəpči suŋdatta* この間のさかな。

čiittu U adv. 全然，ちっとも，なにも: *čiittu əsini daabboo.* 全然かれは言うことをきかない。

čiituu adv.: *əsi čiituu* いましがた／ *əsi čiituu pulisini pokto* たったいまけものが歩いた足跡 (*iiməu pokto*)。

čikəə adv. これ（またはここ）まで: *čikəə biččini.* これでおしまい，これしかなかった，これだけだった（口頭文芸の *saxuri* や *niŋmaa* を語るときそのおわりに言う)。

čikkaanji-ni v. [perf. *čikkaačči-ni*] からまる，もつれる（かみの毛などが）: *niruktə* (または *kupə* または *aduli*) *čikkaanjini.* かみの毛（または糸，魚網）がからまる。／ *tokpo čikkaaččini.* 糸がもつれた。／ *čikkaačči tokpoo gurəllini.* からまった糸をかの女はほどく。

čikpa a. ぬれた－ wet; s. [acc. *čikpaa*]: *čikpa tətuwə* ぬれたきもの。

čikpaulli-ni v. [perf. *čikpaulixa-ni*] ぬらす: *uttabi čikpaullini.* 自分のくつをかれはぬらす。／ *čikpaulimi giččini.* ぬらしてかれは歩く。

čikpee-ni v. [perf. *čikpaxa-ni*] ぬれる－ become wet.

čiktə s. [acc. *čiktəə*] しらみ－ louse: *čiktələ anaa.* しらみがいない。

čilaŋai J s. 北風 (*tuwəmji*) とあいやませ (*təəxə xəduni*) との間の風（敷香・オタスヘタライカの方から吹く）: *čilaŋai xəduni* 東から吹く風 NG（悪い風 G）.

čilpee-ni U v. [perf. *čilpaxa-ni*] 1. 口にほおばる; 2. こねる: *upamba čilpeeni.* かの女は麦粉をこねる。

čiltuktə NJ s. [acc. *čiltuktəə* N] はれた淋巴腺（肉のなかのしこり）（あざらし・陸のけだものの，人間についてもいう)。

čimai adv. あさ（朝）－ morning: *əsi čimai* けさ。

čimanaa adv. あした，あす－ tomorrow: *čimanaani* 翌日－ the next day.

čimani s. あさ（朝）－ morning: *jəə čimannee* けさ／ *čimani čimani* 毎朝－ every morning.

čimbuktə J s. みみたぶ。(Cf. *təmbuktə.*)

čimmau s. [acc. *čimmaumba*] 朝食－ the morning meal: *čimmaumbi dəpčini.* 自分の朝食をかれはたべる。

čimna G s. 手のゆび５本のよこはば（長さの尺度)。

Čimuleenu s. [acc. *Čimuleenumba, Čimuleennoo*] 人名（男)。

čimutəə s. [acc. *čimutəəmbə*] こゆび（小指）（手足の）－ little finger, little toe.

činəpu s. [acc. *činəpumbə*] つえ（杖）－ walking stick.

činəpučči-ni v. [perf. *činəpučixə-ni*] つえをついている，つえをついてあるいている: *činəpučimi ŋənəxəni* (または *giččini*). つえをついてかれは行った（または歩く)。

činəpullee-ni v. [perf. *činəpuləxə-ni*] つえをつく，とつぐ女がよめ入りに持参する: *əəktəə činəpuləxəni.* とつぐ女が女をつれて行った。

činəpunjee-ni v. [perf. *činəpundəxə-ni*] つえをついてあるく（この語は普通使わないという)。

čini s. [acc. *činimbə*] 刃物の背: *kučigə činini* 小刀の背。

čiŋaannee adv. 去年－ last year: *čiŋaannee čigaakkeeni* おととし－ year before last.

čiŋaapči U a. 去年の。

čiŋagəənnee adv. ずっとまえに。

čiŋagəəpči a. ずっとまえの。

čiŋgi a. せまい－ narrow; s. [acc. *čiŋgee*, all. *čiŋgitai*]: *duxu čiŋgi.* 家がせまい。

čiŋgoo s. [acc. *čiŋgukkaa*] ひとつづきのものが分けられて二つになったもの: *čiŋgukkaani bəəru.* それの半分をくれ。

čiŋgujjee-ni v. [perf. *čiŋgudaxa-ni*] お（折）れる: *moo čiŋgudaxani.* 木が折れ

た。

čiŋgulli-ni v. [perf. *čiŋgulixa-ni*] (おのやのこぎりで) き (切) る，(手で) お (折) る－ cut, break : *masaariji čiŋgullini.* おのでかれは切る。／ *puumi čiŋgullini.* のこぎりでひいてかれは切る。／ *moo garraani čiŋgullini.* 木のえだをかれは (両手で) 折る。

čiŋguram adv. ぽきんと (折れるさま) : *čiŋguram čigadaxani.* (棒が) ぽっきり折れた。／ *ŋinda bəgjeeni čiŋguram paačilaxani.* いぬの足をぽきんと折れるほどかれは打った。

čipaa s. [acc. *čipakkaa*] どろ (泥) － mud : *čipaa iirini.* どろがはいる。

čipal, čuppal adv. 全部 (*gəəmji*) : *čipal dəptu.* みんな食べろ。／ *čipal biini.* それは全部ある。／ *čuppal ŋənneepu.* われわれはみんな行く。

čipči-ni v. [perf. *čipčixa-ni*] 押しこんでつめる : *puutaattai čipčimi təurini.* ふくろへ押しこんでかれはつめる。

čipčiktə s. [acc. *čipčiktəə*] 、*čikčiktə* GJ s. 針葉。

čipək adv. まったく : *čipək anaa.* 全然ない (*gəəm anaa*)。

čipokkee-ni v. [perf. *čipooxo-ni*] ゆびでふれる : *alukkoo čipokkeeni.* 茶碗に付いて残っているのをかれはゆびでこすりとって食べる。U

čipoočči-ni v. [perf. *čipoočixa-ni*] ゆびでふれている。

čipəə NJ s. [acc. *čipəkkəə*, all. *čipəətəi* N] 草の一種 J, みつば (食べる) N.

čippi-ni v. [perf. *čipixa-ni*] つぶす－ crush : *koligamba čippini.* むしをかれはつぶす。／ *ŋojokkoo čippini.* たまごをかれはつぶす。／ *mooji čippini.* 棒でかれはつぶす。／ *taasumi čippini.* かれは踏んでつぶす。

čiptam adv. だまって－ quiet (silent) : *nari čiptam biini.* 人がだまっている。－ remain quiet／ *čiptam osini.* かれはだまる。－ become silent.

čiptuwə, čiptəə s. [acc. *čiptukkəə*] かなとこ (かなしき) － anvil.

čirəččee-ni v. [perf. *čirətəxə-ni*] おさえている。

čirəllee-ni v. [perf. *čirəlexə-ni*] まくらにする : *čala čirəlleeni.* そこをかれはまくらにする。

čirəptu s. [acc. *čirəptumbə*] まくら－ pillow.

čirpənji-ni U v. [perf. *čirpəčči-ni*] よけいなこと，言わなくていいこと (たとえば悪口) を言う : *əmi saara čirpəččini.* 知らずにかの女はよけいなことを言った。

čirree-ni v. [perf. *čirəxə-ni*] おさえる，おさえつける－ press down : *kusunji čirreeni.* 力を入れてかれはおさえつける。／ *əəktəə čirreeni.* 女をかれはおさえつける。／ *čirrəuptəŋi* s. 押さえるのに使う木 (*aundau* の外側にもある)，

小屋の外面をおさえる棒。

čirrəukkə s. [acc. *čirrəukkəə*] 夏小屋の外面の樹皮をおさえる棒 (縦におく) (*čirrəuptəŋi*)。

čisaččee-ni v. [perf. *čisataxa-ni*] 沖へ行って来る。

čisajji-ni G v. [perf. *čisaduxa-ni*] 沖へいく。

čisənji-ni U v. [perf. *čisəčči-ni*] 足をのばす (ねていて，すわっていて)。(Cf. *sisənji-ni* N.)

čisəəčči-ni U v. [perf. *čisəəčixə-ni*] ずーっとすべりおりる。(Cf. *sisəəčči-ni* N.)

čisəəllee-ni U v. [perf. *čisəəlexə-ni*] すべりおりる (一回)。(Cf. *sisəəllee-ni* N.)

čisəənji-ni U v. [perf. *čisəəčči-ni*] すべりおりる (そりやスキーで)。(Cf. *sisəənji-ni* N.)

čissauri-ni N v. [perf. *čissauxa-ni*] 火の上 (の炉かぎやなべかけ棒) へなべなどをかける N；引き網をなげる N，網を沖へ出す G : *oljigakki ənukkəə čissauxani.* 炉かぎへなべをかの女はかけた。N／ *dosobuwakki ənukkəə čissaurini.* 火へなべをかける棒になべをかの女はかける。N／ *kəərəkkəə čissauriči.* 引き網をかれらはなげる。N／ *adullee čissaurini.* または *taisai čissaurini.* 網を沖へかれは出す。G

čissee-ni v. [perf. *čisaxa-ni*] 沖へのり出す (ふねやあざらしが) : *taisai čisseeni.* 沖へかれはのり出す。N／ *ugdaji čisseeni.* 舟でかれは沖へ行く。G

čočoko s. 女の子のひたいに髪を編んでまるめたもの。

čoičči-ni U v. [perf. *čoičixa-ni*] ついばむ (何回も)。

čokki-ni v. [perf. *čoixa-ni*] (鳥が) つっついて食う，ついばむ : *gasa čokkini.* とりがついばむ。

čokko s. [acc. *čokkombo*] 天井 (やね) の通気孔 (けむり出し) － smoke hole.

čolmokkee-ni v. [perf. *čolmooxo-ni*] からだを屈伸する : *puttə čolmokkeeni.* こどもがからだを屈伸する (まだはいはいしない子が)。

čonoo s. [acc. *čonokkoo*] すみ (隅) : *duxu čonooni* 家のすみ。

čookočči-ni U v. [perf. *čookočixa-ni*] (何回も) ひっかける，(鳥が) つっつく : *gasa čookoččini.* 鳥がつっつく。

čookollee-ni U, *čookkollee-ni* N v. [perf. *čookoloxo-ni* U, *čookkoloxo-ni* N] (一回) ひっかける U，(鳥が) つっつく (えさなどを)，(人が) ぬすむ (*doromosini*) N : *gasa čookkolleeni.* 鳥がつっつく。N／ *nari čookkolleeni.* 人がぬすむ。N／ *suŋdattaa čookkolleeni.* さかなをかれはぬすむ。N

čookpočči-ni U v. [perf. *čookpočixa-ni*] (高いところに干してあるさかななどを棒やはりがねで) ひっかけてとろうとするがひっかからないので何回もひっかけようとしている, (鳥が) つついてあるきまわる。

čoompira s. [acc. *čoompirraa*] 銃の槊杖 [< ロ шомпол].

Čoonoonu s. 人名 (男, *Waaleetta* 氏族), 第二次大戦後囚われシベリアのナリンスクで服役し, 死去。

čooraa s. [acc. *čooraamba*] そりを引くおすとなかいのくびにつける大きなすず。一匹 (先頭のもの G) に一つつける [< ヤ чуораан].

Čoorinai s. [acc. *Čoorinaiwa*] いぬの名まえ (黒いいぬのおす, めす) [< ロ чёрный].

čop G. adv. とがったさま。

čoppui G s. いっしょうます (一升枡) [< ア conpa (枡)]: *geeda čoppui arakki* (または *buda*) 一升枡の量の酒 (または米) N.

Čoroldoonu s. 人名 (男, *Sɵɵktɵ* の氏族)。

čorommi-ni U v. [perf. *čoromixa-ni*] わけのわからぬことをべちゃべちゃしゃべる。

čowočči NG adv. そして [=動詞 conv. perf.].

čɵčɵɵree NU adv. 声を長く引きのばして (とめるところもとめずにつづけて) 歌うさま: *čɵčɵɵree jaajjeeni*. 声をのばしてかれは歌う (*jogjo* がよい)。

čɵk U adv. ぐるぐるまわって: *čɵk seetosini*. (となかいが) ぐるぐるまわってあばれる。

čɵɵk čɵɵk int. となかいを呼ぶ音声。

čup NU adv. 行ったきり帰って来ないなどすがたがみえなくなったままのさま: *čup ŋɵnɵxɵni*. かれは行ったきりだ (すぐ来ると言って行ったが一向にもどらない)。N／*čup anaa*. すがたを消したきりあらわれない (いくら待っても来ない)。N／*munu jeepu čeennee ŋɵnɵgɵčči čup anaa*. おれたちのあいぼうはきのう行ったきりそのままだ。U

čurga NKJ s. [acc. *čurgamba* N] にぎりこぶし, げんこつー fist.

čurgačči-ni GU v. [perf. *čurgačixa-ni* G] げんこつで打つ (何回も)。

čurgallee-ni JU v. [perf. *čurgalaxa-ni*] げんこつで打つ (一回)。

čurgee-ni JU v. [perf. *čurgaxa-ni* J] にぎりこぶしでなぐる。

čurupu s. [acc. *čurupumbɔ*] ねじ [< ロ шуруп].

čuuji NGJ s. [acc. *čuukkee*, all. *čuujitɔi* N] 足のつけね (腰の下方) の部分 (骨と肉をふくめて) N, 足の骨の腰の関節 GJ: *čuuji dalani* 腰の足のつけねの関節 G.

čuujinɔ N s. [acc. *čuujinnɵɔ*], *čuwɔinɔ* J, *čiwɵunɔ* G s. ふきの一種 (植物)。

čuul NGJ adv. まっすぐ (たとえば, まっすぐ行く): *duktai čuul iixɔni*. 家へすっとかれは入った。N

čuun NG s. [acc. *čuumbɔ* N] 火打ちがね N ー steel (for striking a fire), 火打ち道具一式全部 (くままつりにはマッチを使わずこれを使う) G.

čuunǰee-ni G v. [perf. *čuundɵxɵ-ni*] 火うちがねで火をおこす。

čuurɵɵktɵ s. [acc. *čuurɵɵktɵɵ*] 飾りのふさ (となかいのなめし皮製, たばこ入れの袋・女用の長ぐつ・銃弾入れの肩かけカバンにつける)。

d

da(a) part. ね, よ, ですね, だよ: *gɵɵm daa*. みんな (だ) よ。

daa[1] s. [acc. *daawa*] 1. 河口ー river mouth: *uni daani* かわぐち; 2. 右左にのばした両手の一方のゆび先から他方のゆび先までの長さ, ひろ (尋) ー fathom: *kaltaa daa* のばした手のゆび先からむねのまんなかまでの長さ。

daa[2] adv. まさに, ちょうど: *daa ɵlɵ*. ちょうどいい。／*daa ɵlɵ jokkini*. ちょうどよくそれは合う。／*daa ɵlɵǰi ǰokkoomi andučini*. ちょうどよく合わせてかれはつくった。

daabbi-ni U v. [perf. *daabuxa-ni*] 他人の言うことにしたがう: *ǰeewi daabuxani*. おれのあいぼうは (*suŋdattaa gaannu* さかなをとりに行けと言われ) それにしたがった。

daaji a. おお (大) きいー big, large [ant. *nuučí*]: s. [acc. *daajjee*]: *daaji ǰolo* 大きい石／*daaji uni* 大きい川／*daajinnee* s. [acc. *daajinneepa*] おとなー grown-up, adult.

daali s. [acc. *daallee*] 巫者が巫事につかう長円形のひらたい太鼓ー flat drum: *daali muuŋni* 太鼓のまわりのふちのわく木。

daamukka NU s. [acc. *daamukkaa* N] 遊戯道具のこま (駒) (さいころ, マージャンの牌, 碁石など) [< ロ дамка].

daamul s. [acc. *daamulba*] あごのつけね。

daana NGJ s. [acc. *daannaa* N] 人間の上腿 (もも), けだものの前後の足のもも (の骨)。

daanami s. [acc. *daanammee*] 毛皮服の一種 (貴重品, *Maŋbu* から買った)。

daarakta G s. 樹木の一種 (クロミサンザシ) (ななかまど，幹が赤い G)。

daaramačči-ni v. [perf. *daaramačixa-ni*] 同じパイプ (*moomoo*) で互いにたばこをのむ (一人がのんだあとその仲間がのむ)。

daari-ni v. [perf. *daaxa-ni*] 1.伝染する (病気が)：*ənuu daarini.* 病気がうつる；2.きれる (たとえば小刀が) − be sharp：*kučigə daarini.* 小刀がきれる。／*əsi daara* きれない，にぶい− blunt, dull／*əsi daara kučigə* きれない小刀／*əri kučigə əsini daara.* この小刀はきれない。／*məəŋəči daarini.* 水のようによくそれは切れる。

daarree-ni U v. [perf. *daaraxa-ni*] 親睦のために同じコップで酒を飲む (同一のコップの酒を相手に半分飲ませて自分があとの半分を飲む)：*andaa daarrau.* きさま，おれと同じコップで酒を飲め。

daarri-ni v. [perf. *daarixa-ni*] 左右にひろげた両手のさきからさきまでの長さで (ひろ (尋) の単位で) はかる，はかる− measure：*maattoo daarrini.* もり (銛) のつな (の長さ) をかれははかる。

daarullee-ni N v. [perf. *daarulaxa-ni*] 、*daaruullee-ni* G v. [perf. *daaruulaxa-ni*] となかいが一緒にならぶ (まえのとなかいにあとの別のそりのとなかいが) N，走る２頭のとなかいがあたまをならべる G.

daaru-ni (の) 原因によって：*ɔɔktɔ daaruni sorimaččiči.* 女のことでかれらは互いに争う。／*gumaska daaruni sorimaččiči.* 金が原因でかれらは互いに争う。

daata s. [acc. *daatamba*] 1.ね (根)，ねっこ，ねもと− root；2.たばこの木 (たばこ用の葉がつく)：*saŋna daatani* たばこの木。

daawučči-ni NU v. [perf. *daawučixa-ni* N] (川を) わたす (何回も)：*daawučču̇ri* s. [acc. *daawučču̇rree*] 渡船場。N

daawwi-ni v. [perf. *daawuxa-ni*] (川を) わたす：*narree daawwini.* 人をかれは渡す。／*əsini daawwoo* かれは川を渡さない。／*daawwu.* 川を渡してくれ。

Daaxi G. s. 地名 (川)。

Daaxinneeni s. ウイルタ族の氏族の一つ，日本姓は北川− clan name.

dabda s. [acc. *dabdaa*] 虫 (*koliga*) のような動物 NG，怪物 (*amba*) の一種 J (へびより大きいのではないかと言う，その外形は胴巻き (*kaami*) に模してつける N，尾は魚の尾ひれのようで，舌の先が二つになっている，くまや野生となかいもひねり殺す (*murimi waarini*) G)，うわばみだろう［<満 jabjan (蟒)］。

dabdačče-ni v. [perf. *dabdataxa-ni*] 負けている。

dabjee-ni v. [perf. *dabdaxa-ni*] まけ (負) る− be defeated：*čaa narijˊi dabjeeni.* その人にかれは負ける。

dabjˊi-ni v. [perf. *dabjixa-ni*] まかす，勝つ：*dabjˊilini.* 見たところかれが勝ちそうだ。

dabjˊičče-ni v. [perf. *dabjˊitaxa-ni*] 勝っている。

dabjˊičči-ni v. [perf. *dabjˊičixa-ni*] 勝つ (何回も)。

dačči-ni NJ v. [perf. *datuxa-ni*] でくわ (出会) す (遭遇する)，的中する：*dappeewani datuxambi.* かれが盗むのをぼくは偶然見た。NJ／*dappeeduni datuxambi.* かれが盗むときにぼくはたまたまでくわした。N／*tolčimbi datuxani.* わたしのゆめが当たった。J

daičče-ni v. [perf. *daitaxa-ni*] かく (隠) している (すでにかくしてそのままにしている)：*daitapula nari* (ほかの人が) かくまっていた人／*ənnə dəppee daitaxani.* おかあさんがたべものを出さないでかくしていた。

daičči-ni v. [perf. *daičixa-ni*] かく (隠) している (かくしつつある)。

Daila s. 人名 (男，*Taldaawu Səəktə* 氏族，中川カヨさんの兄)。

daira NU s. [acc. *dairraa*] 海岸にあがった木のきれ (燃料用にかますにつめてもっていく) U.

dairajˊjˊi-ni v. [perf. *dairajˊixa-ni*] がやがやさわぐ：*ɔkkəl dairajˊjˊiči.* 女たちががやがやさわぐ。

dajaptu NJ s. [acc. *dajaptumba* N] 下脚のうしろの肉 J.

dajji-ni v. [perf. *daixa-ni*] かくす− hide, conceal：*čakki suŋdattaa daixani.* そこへさかなをかれはかくした。

dakkačči-ni v. [perf. *dakkačixa-ni*] しばらくまたはなんどもかぶせている：*əsi dakkačči̇ni.* いまかれはかぶせている。

dakkanjˊi-ni v. [perf. *dakkačči-ni*] かぶせる，おおう− cover：*suŋdattaa oroktoji dakkanjˊini.* さかなを草でかれはおおう。

dakpa s. [acc. *dakpaa*] さかい (境) − border：*naa dakpani* 国境／*tari nari dakpaduni tɔɔxɔni.* その人のそばにかれはすわった。

dakpataali a. 並んでいる：*dakpataali duxu* 並んでいる家／*dakpataalinjˊi tɔɔgɔččėeri ummiči.* ふたりで並んですわってかれらは飲んでいる。

daksačče-ni v. [perf. *daksataxa-ni*] 貼りついている。

daksaunjˊi-ni v. [perf. *daksaučči-ni*] くっつける，は (貼) る− glue, stick：*kamdunjˊi daksaunjˊini.* にかわでかれはつける。／*oksoo bɔktɔmbɔni daksaunjˊini.* そりのはしらの棒をかれははりつける。

daksee-ni v. [perf. *daksaxa-ni*] は (貼) りつく− stiek to：*kamdu dakseeni.* にかわがはりつく。／*tari nari čaa ɔɔktɔtɔi daksaxani.* その人はその女となかよくなった。

dala s. [acc. *dalamba*] 1.関節－ joint: *ŋaala dalani* 手の関節／ *bɔgji dalani* 足の関節； 2.代－ generation: *dɵɵ dala* 2代／ *ilaa dalamba baljini.* 孫子の代まで3代かれは生きる。

dalbujjee-ni U v. [perf. *dalbudaxa-ni*] 目をそらしてみるべきものをみていない (憤慨してあるいは酒に深く酔って)。

dalbuulli-ni U v. [perf. *dalbuulixa-ni*] 目をそらしてみるべきものをみない (憤慨して，あるいは酒に深く酔って口を曲げたりして，人を正視できないさま): *tari nari xoottoi dalbuullinee.* あの人はどっち向いてみるのだ。

daldačči-ni NU v. [perf. *daldačixa-ni* N] (火の上にじかにおいて) や (焼) いている (さかなや獣肉をくしにささずに) － roast: *suŋdattaa daldaččini.* さかなをかれは焼いている (くしにささずに)。

dalduu s. [acc. *daldukkoo*] 男子が腹部・下腹部に着用する前垂れ (かざりの *keepira* がついている G)。

dalduulaččee-ni v. [perf. *dalduulataxa-ni*] 前垂れ (*dalduu*) をつけている。

dalduullee-ni v. [perf. *dalduulaxa-ni*] 前垂れ (*dalduu*) を着用する: *dalduuji dalduulaxani.* まえだれをかれは着用する。

daligačči-ni v. [perf. *daligačixa-ni*] (となかいを) つかまえようと立ちはだかる (何回も，または何匹も): *ulaaba daligaččini.* となかいをつかまえようとかれはとなかいの前に立つ。

daljee-ni v. [perf. *daldaxa-ni*] (さかななどを) 焼く: *tawala daljeeni.* 火でかの女は焼く。／ *suŋdattaa daljeeni.* さかなをかれは焼く (くしにささずに)。

dallau s. [acc. *dallaumba*] いぬのえさ (餌) － dog food.

dallauri-ni v. [perf. *dallauxa-ni*] いぬにえさを与える: *ŋindaa dallaurini.* いぬにかれはえさをやる。

dallee-ni v. [perf. *dalaxa-ni*] いぬががつがつ食う: *ŋinda dalleeni.* いぬがむさぼり食う。／ *dalami dɔpčini.* それががつがつ食う。

dalu s. [acc. *dalloo*] 高倉，倉庫 (床が高く，屋根は樹皮でふく，一本棒のはしごがある，干し魚などを貯蔵する) － raised floor storage hut.

dalupči-ni v. [perf. *daluptuxa-ni*] (容器，ふねなどが) 一杯になる－ become full, be filled: *ugda dalupčini.* 舟が一杯になる。／ *daluptumi xɵɵptuxɔni.* それはいっぱいになってこぼれた。

daluppi-ni v. [perf. *dalupuxa-ni*] いっぱいにする－ fill: *kurkɔmbi dalupuxani.* 自分のしらかばの皮製の容器をかの女はいっぱいにした。

dandalli-ni NJ v. [perf. *dandalixa-ni* N] 冗談を言う。

daŋallee-ni NJ v. [perf. *daŋalaxa-ni* N] しち (質) におく (ロシヤ人や日本人のところで)，かねを借りるためになにかものを渡す: *nattaa daŋalaxani.* 毛皮をかれは質においた。N

dapačči-ni v. [perf. *dapačixa-ni*] たくさんのとなかいをつかまえる。

dapaiččee-ni v. [perf. *dapaitaxa-ni*] つかもうとしている。

dapajji-ni U v. [perf. *dapaduxa-ni*] とりもどす: *bɵɵxɵmbi goči dapaduxani.* 自分が与えたものをまたかれはとりあげた。

dapakta G s. おやゆびを除くゆび4本のよこはば (長さの尺度): *geeda dapakta* 人さしゆびからこゆびまでの4本のゆびはば／ *dɵɵ dapakta* 人さしゆびからこゆびまでの4本のゆびはばの2倍の長さ。

dapanaalli-ni v. [perf. *dapanaalixa-ni*] 人と人が手をにぎり合う，握手する: *ŋaalabi dapanaallini.* かれらは握手する。／ *ŋaalibi dapanaaligačči giččini.* 手をにぎり合ってかれらは歩く。

dapapči-ni v. [perf. *dapaptuxa-ni*] とれる (とることができる)。

dapikku s. [acc. *dapikkoo*] 針刺し: *kitaa dapikkuni* 針刺し。

dapinji-ni v. [perf. *dapičči-ni*] (ゆみを) ひく: *burigbɔ dapinjini.* ゆみをかれはひく。

dappa s. [acc. *dappamba*] かや (蚊帳) (布でつくる) － mosquito net.

dappaunji-ni v. [perf. *dappaučči-ni*] とらせる，つかませる。

dappee-ni v. [perf. *dapaxa-ni*] つかむ，つかまえる，とる，ぬすむ－ seize, grasp, catch, take, steal: *ulaaba dappeeni.* となかいをかれはつかまえる。N／ *nariŋŋee dapaxani.* 人のものをかれはとった (盗んだ)。N／ *asibi dappeeni.* くまが発情してめすをつかまえる。G／ *moodu dapaxani.* 木にかれはつかまった。N

dappi-ni v. [perf. *dapixa-ni*] きものを着るとききもの (の合わせるところ) を合わせる，針しごとのとき針をさしておく: *xɵktɵbi dappini.* 自分の中国式の服をかれは合わせるところはきちんと合わせて着る。／ *mɔɔnɔ tɔɔkkukki kitaamba dapixani.* 自分のざぶとんへ針をかの女はさしておいた (さしたまま忘れた U)。

dapsičči-ni U v. [perf. *dapsičixa-ni*] まえの人をよけさせる (一回言ってきかなくて何回も)。

dapsillee-ni U v. [perf. *dapsilaxa-ni*] 自分のまえにいる人をよけさせる (口で言って，または，手を使って) (一回)。

dapuččee-ni v. [perf. *daputaxa-ni*] つかんでいる，もっている－ hold: *moowo dapuččeeni.* 木をかれはつかんでいる。／ *goččee narree čirɔgɔčči dapuččeeni.* あばれる人をかれはおさえてつかまえている。

dapulačči-ni v. [perf. *dapulačixa-ni*] つかまえている (たとえば，*goččeewani*

人があばれているのを): *sorimačči*wači *dapulačči*či. 人が互いにけんかしているのをかれらはつかまえておさえている。／*soktoxonneepa dapulačči*ni. 酒に酔った人をかれはおさえてつかまえている。

dapurisi-ni v. [perf. *dapuriči-ni*] なんどもつかむ: *ŋaalajji dapurisini*. 自分の手でかれはなんどもつかむ。

darama s. [acc. *darammaa*] こし (腰) (*atta* と *dəwə* の中間部) − waist.

darami a. はばがひろい− broad, wide: s. [acc. *darammee*] はば− breadth, width: *darami səəksə* はばがひろい (くつの) ひも。

darapillee-ni v. [perf. *darapilaxa-ni*] けずり花の一種 (*darapi illau*) を病臥の際敷ふとん (*naatami*) の下におく (あたまの痛いときはあたまの下におく): *illaunji darapilleeni*. けずり花をかの女はふとんの下におく。

dargi s. [acc. *dargee*] もり (銛) (あざらしをとる), もりの柄 (何本もつぎたして長くする) − harpoon, harpoon shaft for seal.

daričči-ni v. [perf. *daričixa-ni*] 合いづちをうちつづける, 語り物 (*niŋmaa*) の歌う部分のおわりごとに, または架空物語 (*saxuri*) のきれめきれめに語り手に聞き手が合いの手を入れる。

darimmee-ni NG v. [perf. *darimaxa-ni*] やま (*purə*) でけだもののさきまわりをする N, 山の方へまっすぐ行く (*xurigən baaruni ŋənəxəni*) G.

darree s. [acc. *darreemba*] 焚き付け (木を割ったのや木の枝)。

darreembi-ni v. [perf. *darreembixa-ni*] たきつけで火を燃す。

darree-ni v. [perf. *daraxa-ni*] 返事する, こた (答) える− reply, answer: *əə darreeni*. オーとかれは返事する。／*xəwəčču*mi *darreeni*. 呼べば答える。

darri-ni v. [perf. *darixa-ni*] 合いづちをうつ, 語り物や架空物語を語るとき聞き手が合いの手を入れる。

daruwa s. 神柱の小さいもの。

dasu NGU s. [acc. *dassoo* N] 岸から川のなかへたおれた木 (さきは川のなかにあるが, 根もとは岸にある) GU.

dattoonji-ni NJU v. [perf. *dattooči-ni* NU] 当てる; ぱったり (現場を) みられる: *čawa umi dattooči*mbi. それをおれは言い当てた。J／*dapamjikəə dattooči*ni. かれは盗んでいてぱったりみられた。N

dau s. [acc. *dauwa*] 一杯に入る分量, 一杯, いっぱい: *dəə dau* 二杯分／*čakkaa daulu*. いっぱい入っている。／*čaanikka daulu*. やかんが一杯だ。

daujji-ni v. [perf. *dauduxa-ni*] 渡って帰って来る。

Daukku G s. 樺太と大陸の一番近いところ (氷結したとき渡る)。

dauŋgari s. [acc. *dauŋgarree*] あごひげあざらし (の成体, および総称, その皮はかたく厚い) − a species of seal.

daurau s. [acc. *daurakkoo*] 家 (*duxu*) (巫者の用語)。

dauri-ni v. [perf. *dauxa-ni*] わた (渡) る− cross, go across: *unnee daurini*. 川をかれはわたる。／*dəttəə daurini*. やちをかれはわたる。

dausu s. [acc. *dausumba*] しお (塩) − salt.

dausullee-ni v. [perf. *dausulaxa-ni*] 塩でつける, 塩をふる: *suŋdattaa dausulleeni*. さかなをかの女は塩づけにする。

dawa s. [acc. *dawwaa*] さけ (鮭) − salmon.

dawaitu s. [acc. *dawaittoo*] 川や湖や海の間を陸上ふねをひいて越すみち, 舟越− portage (route).

dawali NJ s. [acc. *dawalimba* N] 川の分岐点 (二股)。

dawaska [1] s. [acc. *dawaskaa*] さけの皮− salmon skin.

dawaska [2] NGJ s. [acc. *dawaskamba* NJ] さけ・ますの孵化場 (ふかば)。

Dawaska s. [acc. *Dawaskamba*] 幌内川上流の支流にある地名 (そこに孵化場がある)。

dawwaa s. あくび− yawn.

dawwaanisi-ni v. [perf. *dawwaaniči-ni*] なんどもあくびをする。

dawwaanji-ni v. [perf. *dawwaačči-ni*] あくびをする− yawn.

dawwauri-ni v. [perf. *dawwauxa-ni*] 舟を (たとえばみずうみから川へ) おかを通ってうつす: *ugdaa dawwaurini*. 舟をかれはおかを引いてうつす。

dawwee-ni v. [perf. *dawaxa-ni*] ひとがこ (越) える, こ (越) す (陸を舟を引いてなど) − cross, go across: *naawa dawaxani*. 陸をかれは越えた (川と川の間を舟をひいて)。／*xurigəmbə* (または *moossoo*) *dawweeni*. 山を (または森を) かれは越える。

dawwi s. [acc. *dawwee*] たばこのきせる。

daxu num. 数の高い位どり N, 十万 (*joon tumə*) X.

daxurigba a. 従順な (言われる通りにするような): *daxurigba nari* 柔順な人。

daxurisi-ni U v. [perf. *daxuriči-ni*] 承諾する: *səsučixəmbəni daxuričimbi*. かれがたのんでいたことをおれはひきうけた。

dədəəree adv. ぶるぶる (ふるえるさま): *dədəəree sildunjini*. ぶるぶるとかれはふるえる。

dədulə s. [acc. *dədulləə*] 木の一種 (かたい)。

dəduxi G s. 棒をならべて敷いた高倉のゆか: *dalu dəduxini*. 高倉の棒をならべて敷いたゆか。

dəəŋgurə s. [acc. *dəəŋgurrəə*] 仕掛け弓, アマッポ (かわうそなどをとる) −

mechanical bow.

dəərri-ni NJ v. [perf. *dəərixə-ni* N] ほこる；ほめる－ praise: *simbee dəərrini.* きみをかれはほめる。N／*məəpi dəərrini.* かれは自分を自慢する。N／*ŋootom maŋga owočči dəərrini.* かれはすもうをして強がっていばる。JU

dəgdə NJ s. 焼けあと NJ、やけど J: *dəgdə mooni.* 火事で皮が焼けた木 NJ／*dəgdə naa(ni)* 焼けた木があちこちに残る（山火事のあった）原 NU／*dəgdə oktoni* やけどのくすり J／*dəgdəmə ugda* 蒸気船 (*poroxootu*)（この語はNの祖母が使ったという）N.

dəgǰee-ni v. [perf. *dəgdəxə-ni*] も（燃）える－ burn.

dəgǰičči-ni v. [perf. *dəgǰičixə-ni*] 焼いている。

dəgǰi-ni v. [perf. *dəgǰixə-ni*] も（燃）やす－ burn: *bəgǰibi dəgǰixəni.* かれは足をやけどした。

dəgǰəənǰi-ni NU v. [perf. *dəgǰəəčči-ni* U] 焼かせる。

dəimәu a. 軽薄な，ばかな－ frivolous: *dəimәu nari* 軽薄な人。

dəjə s. [acc. *dəjəmbə*] は（刃）－ *blade, edge*: *dəjə xaduxani*（または *mokčidaxani*）. 刃がへった（またはまがった）。

dəǰǰi-ni v. [perf. *dəǰǰixə-ni*] 甘味がある: *saakari dəǰǰini.* 角砂糖は甘い。

dəǰǰuuli a. あまい－ sweet: s. [acc. *dəǰǰuullee*].

dəksi-ni v. [perf. *dəksixə-ni*] いそがしい－ be busy: *uiləmi dəksini.* かれははたらいていていそがしい。

dəktəktə s. [acc. *dəktəktəə*] （つばさの一本一本の）はね（羽）－ feather.

dəktəu s. [acc. *dəktəkkəə*] 小間物入れのふたもの小箱（樺皮製，ふたの上面，側面には文様がつけてある，装身具などを入れる）－ birch-back box.

dəlbee-ni NU v. [perf. *dəlbəxə-ni*] しめ（湿）る: *suŋdattaa xoljipula dəlbəxəni.* さかなを干したのが湿った。U／*natta dəlbəxəni.* 皮がしめった。U

dəlbi-ni v. [perf. *dəlbixə-ni*] しめ（湿）す，ぬらす: *nattaa ildaji dəlbixəni.*（ちぢまった）皮をあぶらでかれは湿す。

dələ s. [acc. *dələmbə*] はか（墓）。

dələi NGJ s. [acc. *dələkkee* N] いたち GJ.

dəliptu G s. ふくろうの一種（羽角はない）。

dəlli-ni v. [perf. *dəluxə-ni*] 受胎する。

dəlu a. 受胎した: *dəlu əəktə* 懐妊した女。

dəmәri a. むずむずする（なにかにさわって）。

dəmərisi-ni NU v. [perf. *dəmәriči-ni* N] むずむずする（からだの一部が，たとえば，肌に毛が触れたり，手や足がしびれたりして）: *bəgǰibi*（または *ŋaalabi*, または *ǰilibi* N, または *bəjəbi* U） *dəmərisini.* おれの足（または手，またはあたま，または体）がむずむずする。NU

dəŋmi-ni NU v. [perf. *dəŋmixə-ni* U] 食べに行く N，よその家へ自分から食事にあずかりに行く（食べに来ると言っていやがられるのに）U: *dəŋmini ŋənneewi.* おれは食べに行く。J

dəpči-ni v. [perf. *dəptuxə-ni*] た（食）べる－ eat: *dəpuri* 食事－ meal N／*jəə suŋdattaa bakkaa dəpuri.* この魚も食べられる。U

dəpəinə s. [acc. *dəpəinnəə*] 低木の一種（海岸にある）。

dəpəənǰi-ni v. [perf. *dəpəəčči-ni*] 食べさせる。

dəppi s. [acc. *dəppee*] 食べもの－ food.

Dəpseenu s. [acc. *Dəpseenumbə*] 人名（男，*Muigəttə* 氏族）。

dəptuiččee-ni v. [perf. *dəptuitəxə-ni*] 食べようとする。

dəptukku G s. 食堂: *dəptukku duxu* 食堂。

dəptulli-ni v. [perf. *dəptuluxə-ni*] 食べはじめる。

dəptuməə U a. 食べたいなー。

dəptumusi-ni v. [perf. *dəptumuči-ni*] 食べたい。

dəptupči-ni v. [perf. *dəptuptuxə-ni*] 食べられる（食べることができる）: *əri orokto dəptupčini.* この草は食べられる。

dərə s. [acc. *dərəmbə*] 川のみなもと。

dərəiǰǰi-ni[1] v. [perf. *dərəiduxə-ni*] のこる－ remain: *uiləbuǰǰi jədu dərəiduxəni.* かれははたらくためにここにのこった。／*dugdu dərəiduxəni.* 家にかれはのこった。

dərəiǰǰi-ni[2] v. [perf. *dərəiǰixə-ni*] おくれる: *minǰi dərəiǰixəni.* ぼくよりかれはおくれた（競走のとき）。／*aldaandu dərəiǰixəni.* 途中でかれはおくれた。

dərəǰǰi-ni v. [perf. *dərəǰixə-ni*] いのこ（居残）る，おくれる: *dugdu dərəǰixəni.* 家にかれはのこった。／*minǰi dərəǰixəni.* おれよりかれはおくれた。／*jeewi dərəǰixəni.* おれのあいぼうはあとになった。

dərəl s. [acc. *dərəlbə*] かお（顔）－ face.

Dərəŋgəudə s. [acc. *Dərəŋgəudəmbə*] 人名（女）。

dərigə s. [acc. *dərigəmbə*] えりまき（きつね，てん，かわうその皮でつくる，尾，足もつく）。

dərigəči N s. [acc. *dərigəččee*], *dəreeči* J s. あごひげあざらしの四歳のもの J.

dərikəəčči-ni v. [perf. *dərikəəčixə-ni*] は (跳) ねてあそぶ: *puttə dərikəəčči-ni.* こどもがはねて遊ぶ。／ *dərikəəčimi xuppini.* はねてかれは遊んでいる。

dərinǰi-ni v. [perf. *dəričči-ni*] 1. は (跳) ねる－ leap: *unigaamba dərinǰini.* 小川をかれはとんでわたる; 2. さかなを筒切りにする: *jimdamba* (または *mokkirree*) *dərinǰini.* うぐいを (またはやちうぐいを) かの女は筒切りにする。

dərri-ni U v. [perf. *dərixə-ni*] ならべる (いろいろなものをおく): *alukkoo dərrini.* 茶わんをかの女はならべる。

dərruuǰǰi-ni U v. [perf. *dərruuduxə-ni*] またはじめる: *irgamba irgami dərruuduxəni.* 文様をかの女はまたつけはじめた。

dərruulli-ni v. [perf. *dərruulixə-ni*] はじめる: *andumi dərruulixəni.* かれはつくりはじめた。／ *irgamba irgami dərruulixəni.* 文様をかの女はつけはじめた。

dərukpi-ni v. [perf. *dərukpixə-ni*] やすむ－ repose, take a rest: *dərukpi* やすみ－ rest／ *əsinəŋi dərukpuri inəŋi.* 今日は休日だ。

dərukpičči-ni v. [perf. *dərukpičixə-ni*] やすんでいる。

dəruwənǰi-ni v. [perf. *dəruwəčči-ni*] きらきら光ってみえる (目にこのようにみえるのは，天気がよく，風が吹くときで，遠くの山などがはっきり大きくみえるという): *namu kirani dəruwənǰini.* 海の岸がきらきら光る。

dəsii s. [acc. *dəsiimbə*] となかいぞりの上に何本も縦にわたした棒 (木は *səŋətturə*, 樹木の内皮でしばりつけてある)。

dəskərree-ni v. [perf. *dəskərəxə-ni*] はさまる: *mookki dəskərəxəni.* かれは木にはさまった。／ *dəs dəskərəxəni.* かれはきゅっとはさまってしまった。

dətu s. [acc. *dəttəə*] ぬま地，やち－ marsh.

dəuli J s. わな (*puta*) についているいと。

dəun N s., *dəu(n)* G s. 大きい川の枝川 NG (流れがない (*xəjələ anaa*) G)，大きい川のそばの沼 G.

Dəun s. 地名 (毛売川地方の川沿い)。

dəunǰee s. [acc. *dəunǰeepə*] 左－ left／ *dəunǰee xoldo* 左側／ *dəuttəi* 左へ。

dəuŋəktə s. [acc. *dəuŋəktəə*] きのこの一種 (となかいが食う)。

dəuptəŋi s. [acc. *dəuptəŋŋee*] 矢における鳥のはねをはいだ部分。

dəuri-ni v. [perf. *dəuxə-ni*] 矢に羽 (*dəktəktə*) をつける (はぐ): *ləkkəə dəurini.* 矢にかれは羽をつける。

dəurigə s. [acc. *dəurigəmbə*] ひよこ，きつねのこ－ chick, pup (fox): *suli dəurigəni* きつねのこ。

dəuttuu s. [acc. *dəuttukkəə*] 左ききー left-hander.

dəwə s. [acc. *dəwwəə*] こし (腰) (骨盤の部分) (*darama* の下，*ura* の上の部分)。

dokko s. [acc. *dokkombo*] うらー reverse (side): *tətuwə dokkoni* きもののうら。

dokto s. [acc. *doktombo*] くつのなかご (布製または毛皮製) (*utaaptu*)。

dolbo adv. よる (夜) － at night: *dolbo uiləxəni.* かれは夜はたらいた。／ *əsi dolbo* 今夜 (ただし、朝言えば今夜または昨夜の意)。

dolboǰǰi-ni v. [perf. *dolboduxa-ni*] 夜になる: *čadu dolbodutaa.* あそこで夜になった。

dolbolduu s. [acc. *dolboldukkoo*] こうもりー bat (animal).

dolboni s. よる (夜) － night: *jəə dolbonnee* 今夜／ *dolboni taldaani* 真夜中。

doo s. [acc. *doowo*] うち，内部－ inside, interior: *seen dooni* 耳のなか／ *xulda dooni* はこのなか／ *doolu* なにも恐れない，なにがあっても動じない，度胸がある (*dooni masi*)。

dooččee-ni v. [perf. *dootoxo-ni*] おりている (とり，むし (*ǰiiləə*, *nalmakta*, *sijikta* など)，羽のあるものが): *məədu* (または *moodu*, *naadu*) *dooččeeni.* 水に (または木に，地に) それはおりている。

dookkee s. [acc. *dookkeepa*] うちがわ，なかの方－ inside, interior.

dookpisi-ni v. [perf. *dookpiči-ni*] 思い出そうと考える: *oŋbowočči dookpisini.* かれは忘れてしまって思い出そうと考えている。／ *oŋboxombi dookpisini.* 自分の忘れたことをかれは思い出そうとしている。／ *jaajamba dookpisini.* 歌をかれは思い出そうと考えている。

dookturi s. [acc. *dookturree*] 医者－ doctor [< ロ доктор].

doolǰi-ni v. [perf. *doolǰixa-ni*] き (聞) く－ hear: *kəənǰiwəni doolǰini.* ある人が話すのをかれは聞く。

doolǰinǰee-ni v. き (聞) きに行く。

doolǰipči-ni v. [perf. *doolǰiptuxa-ni*] きこ (聞) える－ be audible: *nari kəsəni dooljipčini.* 人のことばがきこえる。

Doomno s. [acc. *Doomnombo*] 人名 (女) [< ロ домна].

doonduǰǰi-ni v. [perf. *doonduxa-ni*] おも (思) いだ (出) す－ remember, remind: *oŋboxombi doonduǰǰini.* かれは忘れたことを思い出す。

doonǰi-ni v. [perf. *doočči-ni*] なつかしむ: *puttə amimbi doonǰini.* こどもが自分の父親をなつかしくおもう。／ *doomi nimərrini.* かれはなつかしがってあそびに行く。

dooptu G s. 敷皮 (*təni*)。

doori-ni v. [perf. *dooxo-ni*] (とりが) とまる，おりる：*moodu doorini.* 木にとりがとまる。

doorima s. [acc. *doorimmaa*] みち：*dɔtu doorimani* 湿地のなかのみち／*atta doorimani* 脊椎の上のくぼみの線。

doowu s. [acc. *dookkoo*] うち (内)：*dookkoo dappeeni.* かれは内のをとる。

doro s. [acc. *dorroo*] 規則，理屈：*nari doroni* 人間のきまり／*tari xala doroni* その氏族のきまり。

Doro s.：*Doro naani* 北の地方 (北樺太) ／*Dorojjee namu* 北知床半島の東側の海 (*Xusɔ namu* ともいう)。

dorokpu s. 女子用下ばき (*pɔruu*) のまた (股) の部分の布。

dorommee-ni v. [perf. *doromoxo-ni*] ぬすみに行く。

doromočče-ni v. [perf. *doromotoxo-ni*] ぬすみをしてくる。

doromosi-ni v. [perf. *doromoči-ni*] ぬすむ－ steal：*gumaskaa doromosini.* かねをかれはぬすむ。

Doronneeni s. 北の地方 (北樺太) (*Doro naani*) の人：*Doronneeni xalani* 北の地方から来た人らの氏族。

doroopu s. [acc. *doroopumba*] 散弾 [＜ロ дробь] .

doroosu s. [acc. *doroossoo*] どろぼう－ thief.

dosi NG s. あたまのなか (*jilin dooni* G)：*dosimbi* おれのあたまのなか N／*dosini orki.* かれはぼやっとしている。N

dosobuwa s. [acc. *dosobukkaa*] 火になべをかける棒 (野外でつかう)。

dotočči-ni v. [perf. *dotočixa-ni*] 巫者が太鼓を打ってうたうのをきく。

dotolonji-ni NJ v. [perf. *dotoločči-ni*] 熱心に聞いている，傾聴している (ぬすみ聞き以外にもいう)：*seesiŋimba dotolonjini.* 音をかれは一所懸命聞いている。N

dotomusi-ni J v. [perf. *dotomuči-ni*] 遠くのおとをきこうとする。

dədəə G s. 樹皮製の肉などを入れるもの (かつて *alukku* がなかったころ使った，これに *soli* も入れた)。

dəjə a. やわらかい－ soft： s. [acc. *dəjjəə*]：*dəjə ulisɔ* やわらかい肉。

dəkpə s. [acc. *dəkpəmbə*] のどの下のくぼんだ箇所。

Dəksəəŋgu s. [acc. *Dəksəəŋgumbə*] 人名 (男，*Daaxinneeni* 氏族)。

dəə N num. [acc. *dəəbə*] , *duu* U num. [acc. *duubɔ*] 二，ふたつ－ two：*dəə sullee itəxəmbi.* 2匹のきつねをわたしは見た。N／*dəəbə sullee itəxəmbi.* 同上 N／*duubɔ bəəru.* ふたつくれ。U／以下すべて N *mini dəə masaaribi* おれの二つのまさかり／*dəə dəəji* ふたつずつ／*dəə(n)nee* s. [acc. *dəə(n)-*

neepɔ] ふたり (二人) － two people／*dəəjjee-ni* ふた月め (妊娠や生後の月数) － second month／*dəəjjeepimi* 二回め／*dəərə* adv. 二回－ twice／*joon dəərə* 十二回－ twelve times／*joon dəəltə* 十二回－ twelve times／*xori dəərə* 二十二回－ twenty-two times／*xori dəəltə* 二十二回－ twenty-two times／*dəətəŋəsəə*] num. [acc. *dəətəŋəssəə*] ふたつとも。

dəəkpənji-ni v. [perf. *dəəkpəčči-ni*] くまがかかっていく。

dəəksə G s. [acc. *dəəksəə*] かわうそ (*məədəə*)。

dəəŋə s. [acc. *dəəŋŋəə*] とど－ sea lion.

dəərisi-ni v. [perf. *dəəriči-ni*] はこんでいる－ carry：*moowo dəərisini.* まきをかれは運んでいる。／*oksooji dəərisini.* そりでかれは運んでいる。

dəərəŋŋi-ni NG v. [perf. *dəərəŋuxə-ni* N] となかいなどが左右の足を同時に前へ出して走る N，となかいが左右の足を交互に出してゆっくり走る G.

dəərree-ni NG v. [perf. *dəərəxə-ni* N] あさってあるく N，海から浜に寄ったものを拾ってあるく (人が) G：*kɔjuwɔ xaakčimbani dəərreeni.* 貝が岸にあがったのをそれはあさってあるく。N

dəəttə NJ s. 地 (*naa*) の神 N，くま (熊) NJ，やま (*purɔ*) (巫者の用語) J：*dəəttən baaruni* 山の神様 J／*dəəttənneeni* J 地 (*naa*) の神 N，くま NJ.

dəsiktɔ s. [acc. *dəsiktɔɔ*] くろまめの木の実，マスフレップ (あおフレップ，その実またはこの植物全体をさしていう J) (人が食べる)。

dəssəəktə s. [acc. *dəssəəktəə*] 木の実の一種 (くろフレップ *ŋɔɔnɔ* にある J)。

dətəə s. [acc. *dətəəmbə*] 小さいぬま地。

dubjisu G s. くまが毎年おりたりのぼったりするみち。

dudakta s. [acc. *dudaktaa*] きのこ (木のねっこ (*tɔkkɔ*) に生ずる。やなぎ・しらかばのものは食用) － mushroom.

dugjaakku G. s. 毎年来る場所 (居住する地)。

dugjaal N s. [acc. *dugjaalba*] , *dugjal* U s. 家屋のあったあと。

dugjee-ni v. [perf. *dugdaxa-ni*] 時間に間にあう－ be in time, 遭遇する：*ugdaa dugdaxanii.* 渡船にかれは間にあったか。／*doromosiwani dugdaxani.* ある人がぬすみをしているのにかれはでくわした。

dul U：*dul dul* 事情を理解していない (様子の形容)：*dul dul owočči xai(wa) kəənjinee.* なにもわからずになにをかれは言っているのか。

dulbii G a. ぬるい：*dulbii məə* ぬるい湯。

dulɔŋi s. [acc. *dulɔŋŋəə*] むかし (巫者の用語)：*dulɔŋidu* 大昔に／*dulɔŋŋəə saarini.* むかしのことをかれは知っている。／*dulɔŋinneeni* むかしの人。

duljigɔ s. [acc. *duljigɔmbɔ*] くびわにつけていぬをつなぐくさり (鉄製，買って

使う): *ŋinda dulǰigəni* いぬのくさり。

dullee s. [acc. *dulleepə*] 前方，まえ (前) − front, before (relative time) [ant. *xamarree*]: *tari dulleekkeeni* その前の方に− in front of it／*kumultə dulleekkeeni* スキーの前方または前部分に／*ŋənneewi dulleekkeeni dəpčiwi*. おれは行くまえに食べる。／*duləsəi* まえへ／*duləsəi ŋənneeni*. (生きていれば人は) さきへ進んで行ってよくなるものだ。

dulləə adv. さきに: *dulləə ŋənnəu*. さきに行け。

duluu s. まえ [ant. *xamaruu*].

duluupči a. 前の，先の: *duluupči asini puttəni* かれの先妻の子。

dumməə U adv. また，またも，またまた: *dumməə taktukkookka tari puttə*. また，くちごたえしている，あの子は。／*dumməə taktukkookkaa goči*. またまたかれはくちごたえしているね。

duŋgumǰi U adv. ぼーっとして，ぼんやりして (たとえば，考えごとをしていて): *tari nari duŋgumǰi təəsini*. あの人はぼんやりとすわっている。

duŋneeni s. [acc. *duŋneepani*] 家の人: *əri* (または *tari*) *duŋneeni* この (またはその) 家の人 [acc. *jəə duŋneepani* この家の人を] ／*tari duŋneeni narini*. その家の人 (*tari duŋneeni*)。

dupči-ni v. [perf. *dupčixa-ni*] かさ (重) ねる− put one over another, 年をとる (高年齢のおすとなかいについて年齢をあらわすのにいう) (くまも9歳からはこの語を使う G): *tətukkəə dupčini*. かの女はきものを重ねて着る。／*dupči* 六歳のおすとなかい GJ／*dəərə dupči* 七歳のおすとなかい GJ／*dəərə dupčixa* 同上 (*dəəjjee dupčini*) G／*ilaalta dupči* 八歳のおすとなかい GJ／*ǰiiltə dupči* 九歳のおすとなかい GJ／*tundalta dupči* 十歳のおすとなかい J／*nuŋultə dupči* 十一歳のおすとなかい J／*nadalta dupči* 十二歳のおすとなかい J.

dupčičči-ni v. [perf. *dupčičixa-ni*] かさねる (何回も)。

dupəə s. [acc. *dupəkkəə*] (屋内用の) くつ (となかいのなめし皮製)。

dupəəllee-ni G. v. [perf. *dupəələxə-ni*] 屋内用のくつをはく: *baŋ dupəəlləuri utta* ちょっとはくくつ。

duptu s. [acc. *duptumba*] 人が乗って飛ぶ鳥 (語り物に現れる)。

dura s. まんなか: *xotto duraduni* まちのまったただなかに／*nəmuuǰi duralu* なかが脂肪である (獣の皮をはいだとき)。

duralimačči-ni NU v. [perf. *duralimačixa-ni* U] 分け合う: *tari nari čaa narindoo suŋdattaa duralimačixani*. その人はあの人とさかなを分け合った。U／*tari nari dəənnee suŋdattaa duralimačixači*. その人らはふたりでさかなを分け合った。U

duralli-ni v. [perf. *duralixa-ni*] わ (分) ける− divide: *upamba durallini*. 小麦粉をかの女はわける。／*ilaa poolo duralixani*. 三つにかの女は分けた。

duri s. [acc. *durree*, all. *duritai*] 樺皮製の嬰児篭 (夜間に使う) − crib.

durisseenə s. [acc. *durisseennəə*] 銃の一種。

duru s. [acc. *durumbə*] かっこう (恰好) − form, shape: *alukku duruni aja*. 入れもののかっこうがいい。／*nari duruni aja*. 男のかっこうがいい。

dusiptəŋi N s. わな (*puta*) の仕掛けにおける通行を遮断する棒 J.

duučči-ni v. [perf. *duučixa-ni*] 氷にあなをあけるため氷をか (欠) く: *duučikkuǰi dukkəə duuččini*. あなあけ棒で氷をかれはかく。／*siimbə duučimi putəllini*. 氷下漁のあなをかれは氷を掘ってあける。

duučikku s. [acc. *duučikkoo*] 氷に穴をあける道具 (棒の先端にかな具がついている)。

duučiru s. [acc. *duučirroo*, *duučirrəə*], *duučiru* G s., *dəəčiru* J s. しまねずみ。

duulda NG s. うさぎ，かわうそあるいはてんの通りみち: *tuksa duuldani* うさぎの通りみち G／*səəpə duuldani* てんの通るみち G.

duuləǰǰi-ni G v. [perf. *duuləduxə-ni*] あたまに妖怪が入ってばかになる (気が変になる): *ambattai duuləǰǰini*. あいつ気ちがいになったのか (ののしって言う)。U

duullee-ni v. [perf. *duuləxə-ni*] 気が変になる (ばかになったり，歌ったり，ひとりで話をしたりする): *duuləxə nari* あたまが変になった人／*nari duulleeni*. 人が気が変になる。

duuree U a. いやらしいね。

duurə NGJ s. [acc. *duurrəə* NJ, *duurəmbə* J] うなじ (*utumuu* の下のくびの箇所 N, *utumuu* の2本の *sumu*, ただし *utumuu* とおなじともいう G)。

duurəəkə adv. 二つだけ: *dəənnee duurəəkə* ふたりだけ／*dəənnee duurəəkə biiči*. ふたりだけでかれらはいる。

duuri-ni v. [perf. *duuxə-ni*] きざ (刻) む (細かく切る) − chop up: *kanukkee duurini*. こんぶをかの女はきざむ。

duurisi-ni U v. [perf. *duuriči-ni*] 酸い，いやらしく思う: *siduxu duurisini*. こけももの実が酸い。／*čaa narree duurisini*. あの人いやらしいとかの女は思う。

duuruuli NJU a. 酸い，すっぱい (たとえば，やちフレップ (つるこけもも (*gaakta*)), ななかまどの実やなつみかんの酸味 J) NJ − sour, いやらしい U, N

s. [acc. *duuruullee*, all. *duuruulitai*]: *duuruuli siduxu* すっぱいこけももの実 N／*duuruuli nari* いやらしい人 U.

duuruulikta s. [acc. *duuruuliktaa*] もみあげの箇所，もみあげの毛：*duuruuliktaani dapaxani.* かれのもみあげの毛をかの女はつかんだ。

duusɔ s. [acc. *duussɔɔ*] とら（虎）－ tiger.

duuwu s. 海または川から遠いところ，やま（*purɔ*）の方，おく（奥）：*duuwu duxu* 川から離れた家／*duuwu nari* 人が集まっているなかで奥の人。

duwa adv. なつ（夏）－ in summer：*ɔsi duwa* この夏。

duwada s. [acc. *duwaddaa*] 夏の居住地（夏の小屋があり，ここで魚をとって加工乾燥する）。

duwadakku s. [acc. *duwadakkoo*] 夏の居住地。地名としてもある。

duwaǰǰi-ni v. [perf. *duwaduxa-ni*] 夏がめぐって来る。

duwani s. [acc. *duwannee*] なつ（夏）－ summer：*jɔɔ duwannee* この夏に／*jɔɔ duwanidu tɔnɔɔ xɔkkuuli.* この夏は（例年にくらべて）一番あつい。／*duwaniduuni biini.* その夏からかれはいる。

duwari a. 夏の：*duwari duxu* 夏の家／*duwari natta* 夏の毛皮。

duwasu s. [acc. *duwassoo*] 巫者の神像の家（目にみえない），*kalǰami* という大男の怪物の（石でできている G）家。

duwɔ s. [acc. *dukkɔɔ*] 1. こおり（氷）－ ice；2. さき（先端）－ point, tip：*činɔpu duwɔni* つえのさき／*sinakta duwɔni* 毛のさき。

duwɔčči-či v. [perf. *duwɔčixɔ-či*] 男女が一緒に寝る：*dɵɵnnee duwɔčimɔri auričі.* ふたりは一緒に寝る。

duwɔliməčči-ni v. [perf. *duwɔliməčixɔ-ni*] とりかえあう，互いに交換する。

duwɔlinǰee-ni v. [perf. *duwɔlindɔxɔ-ni*] とりかえ（交換）に行く。

duwɔlli-ni v. [perf. *duwɔlixɔ-ni*] とりかえる－ exchange：*kučigɔnǰi masaarree*（または *kučigɔnǰi masaariǰi*）*duwɔllini.* 小刀とおのを（または小刀とおのと）かれはとりかえる。

duwwee s. [acc. *duwweepɔ*] やま（*purɔ*）の方（川や海に対して）：*ǰiisɔi* やまの方へ。

duxa G s.：*duxambi* [pl. *duxailbi*] わたくしの氏族と遠い関係にある氏族（*goro xala*）の人（または自分の氏族と遠い関係にある氏族の人をの意），通婚する（*gaalli*）（ただし，ここに記された婚姻関係は正しいか疑問がある）。

duxinǰi-ni v. [perf. *duxičči-ni*, con. perf. *duxikkɔčči*] たたく，うつ－ hit：*ŋindaa duxinǰini.* いぬをかれは打つ。／*sɔllɔɔ duxinǰini.* かれは電話をかける。／*tukkɔmbɔ duxinǰini.* くままつりにたたいてならす木をかの女がたたく。

duxu s. [acc. *dugba*, *duxxoo*] いえ（家）－ house：*korima duxu* 丸太組みの家屋／*sɔɔrin(i) bujaa* (*duxu*) 切妻式家屋（夏の住居，戸口は二つ）／*amičči dugdu biinii.* とうさんうちにいるか。

e

ebuski：*ebuski illau(ni)* 先端に木質部をあたまのように残して棒を削り削り花をつけた木幣（病人のところにあり，*tuuru* にも一つつけてある）。

ee [1] adv. 舌を出すさま：*ee osu.* 舌をえーと出せ。

ee [2] int. えー（不満，けいべつ）：*ee joboččoo.* えー，めんどうくさい。／*ee ɔsiwi.* えー，いやだ。／*ee tarii.* なんだ，それか。／*ee biŋɔttɔ.* えー，いいです。

eeččeeččee int. 急にわっとなくこどものなきごえ。

eekkuččee-ni v. [perf. *eekkutaxa-ni*] ふねのかじをとっている：*ugdaa eekkuččeeni.* かれがふねのかじをとっている。

eelbinnee J s. 巫者でない人。

eennauri-ni G v. [perf. *eennauxa-ni*] あきらめる。

eerokkee-ni NU v. [perf. *eerooxo-ni* N] 巫者が太鼓を打ち歌いおどる巫事の際神宣をしっかり理解する U：*ɔnusi narree eerokkeeni.* 病人についての神宣を巫者がしっかり理解する。U／*ambaram eerokkou.* 一所懸命よくみてください（巫事の際，託宣を待つ人が巫者にたのんで言う）。U

eerosi-ni v. [perf. *eeroči-ni*] 意味，内容をくみとりながら，または読みとりながら見ている，読んでいる：*bičixxɔɔ eerosini.* 手紙をかれが読んでいる。／*ɔnukkɵɵ eerosini.* 病気を（医者が）診察している。

eerri-ni v. [perf. *eerixa-ni*] くずれる（山や川ぶちが）：*naa eerrini.* 地がくずれる。

eksumaččee-ni v. [perf. *eksumataxa-ni*] 借りに行って来る：*oksokkoo eksumaččeeni.* となかいぞりをかれは借りに行って来る。

eksumasi-ni v. [perf. *eksumači-ni*] か（借）りたい，借りたく思う，借りる（道具などを）－ borrow：*oksokkoo eksumasini.* となかいぞりをかれは借りたいと思う。／*ulaaba eksumasini.* となかいをかれは貸してくれと言う。

eksummee-ni v. [perf. *eksumaxa-ni*] 借りに行く。

eksuuri-ni NU v. [perf. *eksuuxa-ni* NU, imp. *eksuuru* U] （短い間）貸す（そ

り，舟，いぬ，となかいなどを） N.

enunǰi-ni NG v. [perf. *enučči-ni*, conv. perf. *enukkačči*] はなをかむ － blow one's nose: *naaksabi enunǰini.* 自分のはなをかれはかむ。N

erri-ni v. [perf. *eruxa-ni*] ひっぱって行く: *ulaa oksokkoo errini.* となかいがそりを引いて行く。

esku s. くしゃみ－ sneeze.

eskučči-ni GU v. [perf. *eskučixa-ni*] くしゃみする（何回も）。

eskunǰi-ni v. [perf. *eskučči-ni*, conv. perf. *eskukkačči*] くしゃみする － sneeze: *mimbee ŋui kəənǰinigə. eskuččiwi.* おれのことをだれが話しているのか。おれはくしゃみが出る。（くしゃみした人はまわりの人から「おまえをだれかが悪く言っているんでないか（*simbee ŋuiddə orkinǰi unǰini əsi beeji.*）」と言われる。）

ə

əbələ U a. s. 歩くのがのろのろしているとか，なにかするのに手がのろいとか，体の動きや行動が鈍くおそい（人）: *əbələ nari* 体の動きが鈍い人。

əburi, əburiŋə U adv. あることが当然否定されるの意: *əburi*（または *əburiŋə*）*issil taani.* かれらが帰って来るわけないでしょう。／ *əburi*（または *əburiŋə*）*mimbee gaanǰil taani.* かれらがわたしを迎えに来るわけないでしょう。

əččeeli adv. まだ（否定の意をともなう）: a. まだしない: s.: *əččeeli saarami.* まだぼくはわからない。／ *əččeeli ŋənnəə.* まだかれは行かない。／ *əččeeli ŋənnəəǰǰi čadu ataalixambi.* 自分がまだ行かないうちにそこでぼくは出会った。／ *sii əččeeli pulisisi naa* きみがまだ歩いていない土地／ *əččeeli ŋənnəə nimmaa biini.* まだ行かずにいまもかれはいる。／ *nimmaa əččeelii.* まだしないのか。／ *inəŋi taldaani əččeeliduni* 昼まえに。

əčči s. [acc. *əččimbə*] なにかと同じもの，似たもの: *gasa əččini* 鳥に似たもの／ *mini əččimbi* おれと似たもの／ *sunu əččisu* おまえたちと似たもの／ *tari əččini* それと同じもの／ *soktoxo əččini.* 酔った人みたいだ。／ *ǰilibi sigǰi əččini.* 自分のあたまの毛をとかしているみたいだ。／ *tari əččini aapu* それと同じ帽子／ *tari əččimbəni bəəru.* それと同じのをくれ。／ *əri tari əččini.* これはそれと同じだ。／ *tari əččini bičči.* それと同じだった。以上の例はすべてN／ *tari əəktə ənimbi əččini.* その婦人は母親似だ。U

əddəəŋgə a. かしこ（賢）い－ wise: *əddəəŋgə puttə* 賢いこども。

ədə s. [acc. *ədəmbə*] 1. 支配者－ master, 君主－ monarch: *duxu ədəni* あるじ，主人－ master of a house／ *ədə asini* ささき（后）／ *naa ədəni* 地の神／ *uilleewi ədəmbi* おれがはたらいているところのおやかた; 2. しゃち（鯱）－ killer whale.

ədədəə G int. いやーまったく: *ədədəə gosipsee.* いやー，にくらしい。

ədəllee-ni NU v. [perf. *ədələxə-ni*] ほしがる，ほしがってとろうとする: *puttə ačikamba ədələxəni.* 赤ん坊がおもちゃをほしがってとろうとした。U

əə int. はい，おお（応答のことば（*darrauri kəsə*）、おとなの男女，またこどもも言う）（たとえば名前をよばれたとき，また仲間に *andaa* とよびかけられたとき，あるいはきこえなくてききかえすとき言う）: *əə darrau.* はいと返事しなさい。

əəbəsunǰi-ni v. [perf. *əəbəsučči-ni*] よくばる: *məənə əməəkə əəbəsuččini.* 自分ひとりでかれはよくばった。

əəčči-ni v. [perf. *əətuxə-ni*] たくさん採集する: *siduxumbə əətuxəni.* こけもも実をかの女はたくさんとった。

əəgǰee-ni G v. [perf. *əəgdəxə-ni*] しゃっくりをする: *əəgdəuri* しゃっくり。

əəktə s. [acc. *əəktəə*, pl. *əkkəl*] おんな（女）－ female, woman: *tari əəktə* [acc. *čaa əəktəə*] かの（彼）女－ she／ *tari əkkəl* [acc. *čaa əkkəlbə*] かの女ら－ they（female）／ *Ǝəktə namu* 北知床半島の西側の海。

əəktənnee s. [acc. *əəktənneepə*, pl. *əəktənneel*] おんなのひと－ woman: *tari əəktənnee* [acc. *čaa əəktənneepə*] かの女－ she／ *tari əəktənneel* [acc. *čaa əəktənneelbə*] かの女ら－ they（female）／〔禁忌〕 *əəktənnee suŋdatta girapsaani giraxurraa taasurraa əpee ənnəuri.* 女の人がさかなの骨をまたいだり踏んだりするとばちがあたる。

Ǝəktəŋgu s. 小川ウメ子さんのウイルタ名。1919年野頃に生まれ，一歳で留久玉に移り，あと，こどものうちにオタスに移る，1958年北海道に移住した。

əəndə s. [acc. *əəndəə*] 食あたり: *əəndəǰi buccini.* かれは食あたりで死んだ。

əənǰee-ni v. [perf. *əəndəxə-ni*] あやまつ，まちがえる（たとえば石を投げて人にあたる J）－ make a mistake: *əəndəuri* くまの肉を男女食べるところをまちがえて食べること，女の食べる箇所を男が食べてもよいが，男の食べる箇所を女が食べてはいけない，病気になったり悪いことをひきおこす J／ *kəssəə əəndəxəni.* ことばをかれはまちがえた。N／ *əəndəmi bujalčini.* かれはまちがえてこわした。N／ *dəptumi əəndəxəni.* かれは食あたりした（あやまって悪いものを食べたりして）。N

əəŋbučči-ni NJ v. [perf. *əəŋbučixə-ni*] かげでわるぐちをいう: *tari nari*

mimbee əəŋbuccˇini. あの人はわたしのことをかげでわるく言う。N

əəŋinǰee NGJ s. 西の方 (日の入る方角，よみのくに (*buni*) の方ともいう N，北ともいう J) (巫者の用語 NJ，また老人もつかう N)。

əərə s. [acc. *əərrəə*] きものの前の部分。

əəriptu s. [acc. *əəriptumbə*] 目やあたまを病む人がつけるはち巻き状のかぶりもの (削りかけで編んである)。

əəriptullee-ni v. [perf. *əəriptuləxə-ni*] はち巻きをする：*pəkkəǰi əəriptuləxəni.* てぬぐいでかれがはちまきをする (うしろでしばる)。

əərisi-ni v. [perf. *əəricˇi-ni*] いき (息) をする－ breathe：*ojotoi əərisini.* かれは息をはき出す。／*dootoi əərisini.* かれは息をすいこむ。

əərəə J s. くまの肉の女が食べる部分 (くまの肉は男女の食べる部分がそれぞれ別)。

əərree s. [acc. *əərreembə*] 胸にかけるかざり (女，こどもの)。

əərri-ni v. [perf. *əərixə-ni*] はち巻きする：*ǰilibi əərrini.* 自分のあたまにかれははちまきをする。

əəwə s. [acc. *əəwəmbə*, pl. *əəwil*] 男子に対して妻の傍系の女子 (この女子はその男子の妻より若い) およびその男子の傍系の男子の妻 (この女子の夫はその男子よりすこし年長) － (for a male) wife's younger sister, elder brother's wife, etc.

əəwəccˇi-ni v. [perf. *əəwəcˇixə-ni*] おくびをする (何回も)：*əəwəccˇuri* おくび。

əəwənǰi-ni v. [perf. *əəwəccˇi-ni*] おくびをする。

əəwuccˇi-ni v. [perf. *əəwucˇixə-ni*] 川や海の方へくだす，おろす (何回も)：*ŋoisai əəwuccˇini.* かれはおかからふねへ何回もおろしている。

əəwurə s. [acc. *əəwurrəə*] うたをうたう (または語り物を語る) こえ：*əəwuraəni uliŋga.* かれのうたうこえはいい。

əəwwi-ni v. [perf. *əəwuxə-ni*] 運びおろす：*ŋoisai əəwwini.* 川岸の方へかれは運びおろす。N／*ugdatai əəwwini.* 舟へかれは (にもつ (*ojosko*) を) 運びおろす。N／*əəwuwəccˇi tourru.* 運びおろして積め。U

əgə s. [acc. *əgəmbə*] ねえさん (またはひろく同世代で年上の傍系女子) － elder sister.

əgəŋəsə s. 死んだねえさん。

əgǰi a. たくさんの，s. [acc. *əgǰee*] おおぜいの人 (*bara nari*) － multitude：*mastaa əgǰi nari* 大変たくさんの人。

əigə-ni s. [acc. *əikkəə-ni*, pl. *əigəil*] あね (姉) (またはひろく同世代で年上の傍系女子) － elder sister.

əigəŋəsə-ni s. [acc. *əigəŋəssəə-ni*, pl. *əigəŋəsəl*] 死んだ姉－ deceased elder sister.

əǰəxə s. [acc. *əǰəxxəə*] 目にみえない神 (偶像などにつく神)。

əǰi [1] s. [acc. *əǰǰee*] おっと (夫) － husband.

əǰi [2] s. [acc. *əǰimbə*] かげ (陰) － shade：*nari əǰini* 人のかげ／*moo əǰini* 木のかげ。

əǰigənə N, *əǰeenə* U adv. ちょっと待って (男女とも言う U)：*əǰigənə baŋ xalaccˇu.* N, *əǰeenə baŋ xalaccˇu.* U ちょっと待って。

əǰii-ni G s. 出自 (*balǰixan təkkəni*)。

əǰiləǰǰi-ni v. [perf. *əǰiləduxə-ni*] 死んだ姉の夫を夫にする：*əigəbi bulkutənnee əigəbi əǰiǰini əǰiləǰǰini.* 女が自分の姉が死んだあと姉の夫を夫にする。(*sororate* 婚)

əǰillee-ni v. [perf. *əǰiləxə-ni*] 夫にもつ (女が結婚する)：*čanneeǰi əǰiləxəni.* その人をかの女は夫とした。／*əǰibi nəuǰini əǰilleeni.* (死んだ) 夫の弟をかの女は夫とする。

əǰiŋəsə-ni s. [acc. *əǰiŋəssəə-ni*] 死んだ夫－ deceased husband.

əǰǰee-ni U v. [perf. *ədəxə-ni*] 知ったふりしている：*xaiwaddaa čipal əǰǰeeni.* かれはなんでもみんなしっているふりしている。

əǰugdə G a. 口のまわりだけに模様のついた：*əǰugdə ulaa* 口のまわりにだけ模様のあるとなかい。

əkkəənəə s. voc. 姉や自分より年上の女を呼ぶとき言う (歌謡のなかで使われる語)。

əkpəpturə s. [acc. *əkpəpturrəə*] 植物の一種 (匍匐性低木 ミヤマイブキビャクシン)。

əksee-ni v. [perf. *əksəxə-ni*] お (置) く，しまっておく－ put, preserve：*čadu əksəu.* そこにおけ。／*əksəmǰee bara occˇini.* それはしまっててたまった。

əksənǰi-ni v. [perf. *əksəccˇi-ni*] 気にする，心配する：*xaitaiddaa waariwani əksənǰini.* かれがなにかでけがをするのをかの女は心配する。

əksəpsi a. あぶない，気をつける：*əksəpsee* あぶないなー，気をつけろ。

əksəpsisi-ni v. [perf. *əksəpsicˇi-ni*] 気をつけている。

əksəpsuuli a. あぶない (危険な)：*kučigəmbi dapagaccˇi giccˇini. oo əksəpsuuli nari.* 自分の小刀をつかんでかれは歩いている。やあ，あぶない人だ。U

əldəəpu G s. さけ (魚) を川からひっかけてとる金属製のかぎ (棒のさきにつく)。

əlduwə s. [acc. *əldukkəə*] さけのぶなけなどをとるとびぐちのようなものの先端

の金属製のかぎ（鉤）。

ələ a. 十分な，s., adv. まったく，すっかり：*ələ ələ*. もうたくさん。／*ələ biŋəttə*. もういい。／*daa ələji jokixani*. ちょうどよくそれは合った。／*ələ xoǰixambi*. もうすっかりおれはおわった。／*əsi ələ ŋənneewi*. いますぐおれは行く。

ələə adv. もうすこしで：*ələə pakčiraǰǰini*. もうすこしで暗くなる。

ələgdəənǰee NU adv. もう（はやくも）：*ələgdəənǰee isuxani*. もうかれは帰って来た。NU

Ǝləksəi s. 人名（男，*Muigəttə* 氏族）［＜ロ Алексей］.

ələndə s. [acc. *ələndəə*] となかいぞりの一番まえの横木（木は *səŋətturə*）。

ələǰee-ni v. [perf. *ələdəxə-ni*] 手で引いて行く：*puttəə ələdəmi sinǰeeni*. かの女はこどもの手をとってつれてくる。／*ulaaba ələǰeeni*. かれはとなかいを引いて行く。

ələlee-ni v. [perf. *ələxə-ni*] 食べて満腹する（はらがいっぱいになる）：*tari nari ələleeni*. あの人が満腹する。／*bokkombi ələleeni*. おれのはらがいっぱいになる。

ələləu a. えら（偉）い－ great (man)：*ələləu nari* えらい人； adv. すっかり：*ələləu uliŋga otuduxani*. かれはすっかりよくなった。

əmə s. [acc. *əmməə*] おおばんひざら貝（ムイ貝）。

əməčigə N, **əməčee** U a. こんな－ such, like this；*əməčee* U s. [acc. *əməčikkəə*].

əməə s. [acc. *əməəmbə*] くら（鞍）（となかいの）－ saddle.

əməənǰee-ni v. [perf. *əməəndəxə-ni*] 騎乗する：*ulaaji*（または *murinǰi*）*əməənǰeeni*. かれはとなかいに（または馬に）騎乗する。

əməǰǰi-ni NG v. [perf. *əməǰixə-ni*] 気が合う，なじむ，な（慣）れる－ become familiar with：*čaa naritai mastaa əməǰǰini*. その人と大変かれは気が合う。G／*puttə mittəi əməǰixəni*. こどもはわたしになついた。N／*naawa əsini əməǰǰee*. 土地にかれはなじめない。G

əmusi-ni v. [perf. *əmuči-ni*] ゆりかごをゆり動かしている。：*puttəə əmusini*. 幼児をゆりかごに入れてかの女はゆり動かしている。

əmuwə s. [acc. *əmukkəə*] ゆりかご（かばの木の板をまげてつくる，昼間に使う）－ cradle：*əmuwə ǰiliptuni* ゆりかごのなかの頭のあたるところの布きれ。

əmuwətəə NG s. [acc. *əmuwətəəmbə* N] 鎖骨。

əndurі s. [acc. *əndurree*] 神，天・地・海・人間をつくった神：*boo əndurini xaimi simanneenee*（または *tugjeenee* または *xədunǰinigə*）. 天の神はどうして雪を降らすか（または雨を降らすか，または風を吹きたてるか）（雪，雨，風がひどいときに家の者が外出していると祖母が心配してこう言ったという N）。

əŋəjjee int. あれまあ（感嘆のこえ）。

əŋəŋəə int. あー（賛嘆，慨嘆の意）：*əŋəŋəə əŋəə*. あー痛いなー。J

əniŋə s. [acc. *əniŋəmbə*] めす（雌）（とり，さかな，あざらし，うさぎ，きつねの）－ female.

əniŋəskə s. [acc. *əniŋəskəə*] めすのさかなの皮。

əni-ni s. [acc. *ənimbə-ni*, pl. *əninil* G] はは（母）－ mother：*daaji əni-ni* [acc. *daaji ənimbə-ni*] 祖母および自分の氏族内の尊属男子の配偶者（その夫は父より年長）－ grandmother, aunt／*nuuči əni-ni* [acc. *nuuči ənimbə-ni*] 同じ氏族内の叔父の配偶者および傍系尊属男子の配偶者（その夫は父より若い）－ aunt／*ənini amini* 両親－ parents／*baljixani ənini* 実母／*ənilu* 母親がある／*ənilə anaa* 母親がない。

əniŋəsə-ni s. [acc. *əniŋəssəə-ni*] 亡母－ deceased mother.

ənirə s. [acc. *ənirəmbə*] ままはは，継母－ stepmother.

ənnee-ni v. [perf. *ənəxə-ni*] 禁忌を犯すとばちがあたる，禁忌を犯さないようにしている：*ənnəuri* 禁忌とすること（犯せばばちがあたること）／*tawwaa giramburi ənnəuri*. 火をまたぐのは禁忌だ。／*əəktənnee xusənneepə giranǰini ənnəuri*. 女が男（がねているの）をまたぐのはばちのあたることだ。／*məəttəkki ənneeni*. かれは自分にばちがあたらないように気をつける。／*ənəmi xoǰixani*. ばちがあたるからかれはやめた。

ənnə s. [acc. *ənnənbə*] おかあさん－ mamma（mother, informal familiar term）：*daaji ənnə* [acc. *daaji ənnəmbə*] おばあさん－ grandmamma／*nuuči ənnə* [acc. *nuuči ənnəmbə*] おばさん－ aunt／*ənnəə* こどもが母親を，また母親がこどもをよぶとき言う。

ənnəŋəsə s. 死んだおかあさん。

ənu a. いた（痛）い（ちょっと痛いときに言う）（この語は述語として使う）：*ənəə*. いたいなー。／*kərəktəbi ənəə*. 歯がいたいなー。

ənudə s. [acc. *ənuddəə*] やっとこ（鍛冶のときこれで鉄をはさむ）－ iron tongs.

ənulli-ni v. [perf. *ənuluxə-ni*] 病気になる。

ənusi-ni v. [perf. *ənuči-ni*] いた（痛）む，いたがる，病気になっている－ pain, be in pain, feel painful, be ill：*ənusinnee* s. [acc. *ənusinneepə*] 病人－ sick person／*mini bokkombi ənusini*. わたしの腹部が痛む。／*bii ənusiwi*. わたしは痛い。おれは病気だ。／*bii bokkombi ənusini*. わたしはおなかが痛い。／*ǰiliǰǰi ənusini*. かれはあたまが痛む。

ənuu s. [acc. *ənukkəə*] 病気－ diseases, illness, sickness: *ənukkəə okčiččini.* 病気をかれは治療している。

ənuuli a. いた（痛）い－ painful; s. [acc. *ənuullee*]: *əri kərəktə ənuuli.* この歯がいたい。

ənuwə s. [acc. *ənukkəə*] なべ（鍋），かま（釜）－ pan, pot,〔風習〕先妻が死んでめとった花嫁は，死なないように戸口で（くまの肉を煮る）大きな *ənuwə* を片足で踏んで（*gaksee bəgǰiǰǰi taanǰi*）入る。

əpi s. [acc. *əpimbə*, pl. *əpinil*] 男子に対して妻の父と妻の直系尊属の男子，女子に対してしゅうと（舅）と夫の直系尊属の男子および夫の傍系男子（夫より年長）－ father-in-law, etc.

əpsiǰǰi-ni v. [perf. *əpsiǰixə-ni*] かたづける，ほうむ（葬）る－ put in order, tidy up, lay (a dead person) to rest: *dugba əpsiǰǰini.* 家をかれはかたづける。／ *buččinneepə əpsiǰǰini.* 死人をかれは葬る。／ *uliŋgaǰi əpsiǰǰini.* 手厚くかれは葬る。

ərəŋəči adv. このように－ like this: *ərəŋəči andusu.* こういう風につくれ。

ərgə NJ s. [acc. *ərgəmbə*] いき（息） J, のど J, いのち N－ life: *ərgəni xətudəxəni.* かれの命が絶えた。N／ *ərgən ŋonimi.* かれの息は長い（潜水も長くつづく）。J／ *ərgəkki əərisini.* 人はのどを通していきをする。J

ərgəpču J a. ながく走っても息ぎれしない: *ərgəpču nari*（または *ulaa*）いくら走っても息がつづく人（またはとなかい）。

əri pron. [acc. *jəwə*] これ，この－ this [pl. *əril*, acc. *ərilbə*, *jəlbə*, pl. *ərisəl*, acc. *ərisəlbə* この人たち]: *jədu* ここに－ here／ *ərinnee* [acc. *jənneepə*] この人。／ *ərrii tarrii* これとそれ，だれもかれも。

ərkə a. のろい－ slow; s. [acc. *ərkəə*]: *ərkə ulaa* のろいとなかい／ *giččini ərkə.* かれの歩くのはおそい。／ *ərkəǰi* ゆっくり－ slowly／ *ərkəǰi ŋənnəu.* ゆっくり行け。

ərkəullee-ni v. [perf. *ərkəuləxə-ni*] おそくする，おくらせる: *ǰeewi pəlimbəəčimi ərkəulleeni.* 自分のあいぼうがいそいでいるのにかれはゆっくりする。

əru s. [acc. *ərumbə*] 1. とき（時）－ time: *jəə ərundu* いまごろ（きのうの）／ *xai ərumbəni xalaččuriga.* いつまで待っているか。2. 料理したたべもの。

əručči-ni[1] v. [perf. *əručixə-ni*] 待ちわびる: *issiwani əruččini.* かれの来るのをかの女が待ちわびる。

əručči-ni[2] v. [perf. *əruttuxə-ni*] 料理する－ cook: *əruččuri* 料理－ cooking／ *dəppee əruččuri* 食べものをつくること／ *ərumbə əruččini.* 料理をかの女はする。

əruwə s. [acc. *əruwəmbə*] 着物（*tətuwə*）の上に着るもの: *sinaktalu əruwə* 毛のある *əruwə*（*balda* や *daanami*）。

Ǝsəəndə s. 人名（男，*Patala* さんの夫）。

əsələ s. [acc. *əsələmbə*] とかげ－ lizard.

əsəlisi-ni v. [perf. *əsəliči-ni*] なめ（鞣）す（*tətte* や *kədərə* のなめし用具をつかって）: *nattaa əsəlisini.* 皮をかの女はなめす。

əsərəi a. 妊娠している（人間が）－ pregnant (woman); s. [acc. *əsərəkkee*]: *əsərəi əəktə* 妊婦。

əsərəigəčči-ni G v. [perf. *əsərəigəčixə-ni*] 妊娠している。

əsərəkki-ni v. [perf. *əsərəixə-ni*] 妊娠する－ become pregnant.

əsi adv. いま（今）－ now: *əsi səksə* 今晩／ *əsi čimai* 今朝／ *əsi geedara* もう一度／ *čeeneepčiduu əsidələ biiwi.* きのうからいままでぼくはいる。／ *əsigdəə* こんどは／ *əsigdəə bii ŋənneeləmi.* こんどはおれが行く（交替で行くとき）。

əsii adv. いまからちょっとまえ: *əsii itəxəmbi.* いまからちょっとまえにおれは見た。

əsiməkəə adv. このごろ－ recently: *əsiməkəə sindaxani.* このごろかれが来た。

əsiməu adv. はじめて: *əsiməu itəxəmbi.* はじめておれは見た。

əsinəŋi adv. きょう（今日）－ today: *əsinəŋi inəŋi* 今日。

əsinəŋipči a. 今日の: *əsinəŋipči pokto* 今日通った足跡（きつねの）。

əsi-ni v. [× perf. *əčči-ni*] ・・・しない（つぎに来る動詞を否定する）－ does not: *əsini saara.* かれは知らない。／ *əri miniŋŋi əsi bee.* これはわたしのものでない。／ *əsiwi.* わたしはいやだ。／ *əǰǰee ummee.* 飲むな。／ *əǰǰee*（または *əǰǰee əǰǰee*）いけないよ（だめだめ）（こどもなどに言う）。

əsipči a. 今の； s. [acc. *əsipčee*]: *əsipči nari* いまの人 [ant. *goropči nari*] ／ *əsipčee gəlleewi.* いまのをわたしはほしい。

əskə s. [acc. *əskəə*] かれい（ごしょごしょかれい）（魚）。

Ǝskə s. 人名（男），俗称（本名は *Kaareenu*）。

ətəxxi-ni v. [perf. *ətəxuxə-ni*] あず（預）かる，自分のところにおいて保管する－ take in charge, have charge of, 看護する: *nariŋŋee ətəxuxəni.* 他人のものをかれはあずかった。／ *bii bičixxəə ətəxxiwi.* わたしは手紙をあずかっている。／ *puttəə ətəxxi puttə* 子を守りするこども。

əttəuməčči-ni v. [perf. *əttəuməčixə-ni*] 用心する（病気やけがをしないように，けんかしないように）: *məəpi əttəuməččini.* 自分自身についてかれは気をつけ

る。

ətt'əuri-ni v. [perf. *ətt'əuxə-ni*] 見張る，番をする－ watch: *dugba ətt'əurini.* かれは家の番をする。

ətt'əuwɵɵnǰi-ni v. [perf. *ətt'əuwɵɵčči-ni*] 番をさせる。

əučče-ni v. [perf. *əutəxə-ni*] 川や海の方へおりて行ってまたもどって来る。

əuǰǰi-ni U v. [perf. *əuduxə-ni*] くだる (さがる)，くだってもどって行く: *ŋoisai əuduxəni.* やまから川または海の岸の方へかれはくだった。

əuləu s. [acc. *əuləkkɵɵ*] 川のふかいところ，ふち (淵)。

əupəčči-ni NG v. [perf. *əupəčixə-ni* N] やまからおりる (何回も) N, くまが川辺のいつもさけをとって食う場所へやまからくだる。G

əuriičče-ni v. [perf. *əuriitəxə-ni*] もちあげようと思いとりかかる。

əurinəikkə s. [acc. *əurinəikkəə*] (トランプの) スペード。

əuri-ni v. [perf. *əuxə-ni*] (やまに対して) 川や海の方へくだる，おりる－ come down: *ŋoisai əurini.* 川や海の方へかれはおりる。

əuriŋŋee-ni G v. [perf. *əuriŋəxə-ni*]: *xoldoskoo əuriŋəxəni.* 棺をかれは木の株 (*mugdəə*) を切って根もとの上にすえた (このすえ方の高さは低い，この棺は丸太でつくる)。

əurri-ni v. [perf. *əurixə-ni*] もちあげる－ lift: *ŋaalaǰǰi əurrini.* 自分の手でかれはもちあげる。／ *xudəullee əurrini.* 重いものをかれはもちあげる。／ *mɵɵkki əurrini.* 水からかれはすくいあげる。

əuwu s. こちら: *əudumə* これの方 N／*əudumə nari* こちらの方の人 N／*əukki* こっちへ N／*əukki ŋənneeni.* 近くへ (*nimə* よりは遠くへ) かれは行く。(*taukki ŋənneeni.* 遠くへ (まちまで) かれは行く。ニ対シテ) U

əwwee s. [acc. *əwweepə*] こちらの方－ this way [ant. *tawwee*]: *əməčču* ここから，これから－ from here, from now／*əməčču dəpčini.* これからかれは食べる。／ *əwəsəi* ここへ，こちらへ－ this way, here／*əwəsəi sindau.* こっちへ来い。－ Come here.

g

gaačče-ni v. [perf. *gaattaxa-ni*] むかえに (またはとりに) 行ってくる。

gaaji s. [acc. *gaajjee, gaakkee*] からす (烏) (*gaak gaak* と鳴く) － crow: *gaaji ǰoloni* 石炭。

gaaǰukki-ni v. [perf. *gaaǰuuxa-ni*] いちゃつく (男女や夫婦が): *asitakki gaaǰukkini.* 自分の妻とかれはふざける。

gaaǰuumačči-či v. [perf. *gaaǰuumačiga-či*] ふざけあう (たとえば若い夫婦が)。

gaaki s. からす (*gaaji* の幼児語) － crow.

gaakta s. [acc. *gaaktaa*] つるこけもも (湿地にあり，赤い実がなる) (やちブルーベリー，この植物全体またはその実をさしていう J)。

gaalǰi-ni v. [perf. *gaalči-ni*] (雨や雪が) やむ－ stop (raining or snowing): *tugdə gaalǰini.* 雨がやむ。／ *simana gaalǰini.* 雪がやむ。

gaalli-ni v. [perf. *gaalixa-ni*] 互いの間でよめをくれたりもらったりする: 〔婚姻慣習〕 *xalamuna əsiči gaallee.* おなじ氏族の者同士は夫婦縁組をしない (禁忌，ウイルタは族外婚)。／ *tuwəmunə əsiči gaallee.* 姉妹の子同士は夫婦縁組をしない (平行いとこの結婚は禁忌)。

gaan s. [acc. *gaamba*] はがね (鋼鉄) [＜漢 鋼]。

gaanǰi-ni v. [perf. *gaanduxa-ni*] 自分のものをとりに行く，とりにもどる。

gaanni-ni v. [perf. *gaanixa-ni*] むかえに (またはとりに) 行く。

gaannoonǰi-ni v. [perf. *gaannoočči-ni*] , *gaaŋŋoonǰi-ni* v. ものをとりにやる。

gaaruwa s. [acc. *gaaruwamba*] とげうお (川，湖にいる)。

gaasusi-ni v. [perf. *gaasuči-ni*] なんどもとりに行っている: *ojoskombo gaasusini.* (引越のときに) 荷物をかれはなんどもとりに行っている。U

gabala s. [acc. *gaballaa*] こどものための偶像 (産後産婦のねている上につるす)。

gaballee-ni v. [perf. *gabalaxa-ni*] 欲ばる: *məənə ɵməɵkɵ gaballeeni.* 自分ひとりでかれは欲ばる。

gada J a. 木がはえていない: *gada dətu* (または *naa*) 木のないやち (または土地)。

gaičče-ni v. [perf. *gaitaxa-ni*] (まだ買わずに) 買いにかかっている。

gajaǰǰi-ni v. [perf. *gajaǰixa-ni*] ねむくない，ねむれない (こどもについてもいう)。

gajakki-ni v. [perf. *gajauxa-ni*] なぞなぞ問答でなぞをかける。

gajaska s. [acc. *gajaskaa*] もも (腿) (の肉) － thigh: *ulaa gajaskani* となかいのもも。

gajau s. [acc. *gajakkoo*] 1. なぞなぞ (ウイルタ族の口頭文芸のジャンルの一つ) － riddle; 2. 小指のとなりの指 (手足の)，くすりゆび－ ring finger.

gaǰi-ni v. [× perf. *gačči-ni*] か (買) う，か (勝) つ，めと (娶) る－ buy, purchase, win, take as wife: *mindulə gaččini.* わたしからかれは買った。／ *sorimi gaččini.* けんかしてかれは勝った。／ *asiǰǰi gaǰini.* 妻を (自分の妻に) かれはもらう。／〔婚姻慣習〕 *naadaktani xusə puttəni pundadubi əəktə*

puttəəni əsini gada. ある男のむすこはその男の氏族に生まれた女のむすめをめとらない (この種の交差いとこの結婚は禁忌)。／〔婚姻慣習〕 *pundaduni xusə puttəni naadaktabi əəktə puttəəni gaǰini.* ある女のむすこはその女の生まれた氏族の男のむすめをめとる (この種の交差いとこの結婚は好んでおこなわれる)。／ *gamusi-ni* v. 買いたい／ *gawwoonǰi-ni* v. 買わせる。

gaǰǰi-ni v. [perf. *gaduxa-ni*] もって (つれて) くる (行く) (自分のところへ) − bring: *gaččimbi gaǰǰini.* 買ったものをかれはもってくる。／ *puttəbi gaduxani.* かれは自分のこどもをつれて来た。

gakkoo s. [acc. *gakkoo*] [＜日 がっこう]: *gakkoo purilni duŋni* 学校 (この語は自分の母親が使ったという N) ／ *gakkoo duŋni* 学校。

gaksee s. [acc. *gakseepa*] かたほう (片方) − one of a pair.

gaksi s. [acc. *gaksimba*] 胎盤− placenta: *puttə gaksini* 後産− afterbirth.

gaksigda s. かたほう (片方) − one of a pair: *gaksigda biini.* 片方しかない。／ *gaksigda geul* 片方の櫂。

gala s. [acc. *galamba*] ばち (罰): *baaxani puttətəini galani xaakpaččini.* 親の生んだ子に親が悪いことしたばちがあたった。／ *galamba ənneeni.* ばちがあたることにかれは気をつける。

galli-ni v. [perf. *galuxa-ni*] きら (嫌) う− dislike: *saŋnamba gallini.* たばこをかれはきらう。

galloonǰi-ni U v. きらわれる: *tari nari goi naridu gallonǰini.* あの人はほかの人にきらわれる。

gamasu s. [acc. *gamasumba*, pl. *gamasuil*] むすめの子 (そと孫), 男子に対して他の氏族に嫁した傍系女子の子− daughter's child.

ganiččee-ni v. [perf. *ganitaxa-ni*] 買いに行って来る。

ganni-ni v. [perf. *ganixa-ni*] 買いに行く。

gapči-ni v. [perf. *gaptuxa-ni*] 買える。

gara s. [acc. *garraa*] えだ (枝) − branch.

garpanasi-ni v. [perf. *garpanači-ni*] なんどもい (射) る。

garpandaččee-ni v. [perf. *garpandataxa-ni*] 矢を射に行って来る。

garpee-ni v. [perf. *garpaxa-ni*] い (射) る, (日が) さす− shoot, shine: *suun garpeeni.* 日がさす (日暮れの太陽の直射, これがあると翌日は晴天という)。／ *burigǰi* (または *ləkkəǰi*) *garpeeni.* 弓で (または矢で) かれは射る。

garu s. [acc. *garumba*] となかいやあざらしの皮製の (ももまである) 長はばき (きゃはん) (夏用は *xarapsa* 製, 冬用は毛皮製) − leggings.

gasa[1] s. [acc. *gassaa*] とり (鳥) − bird.

gasa[2] s. [acc. *gasamba*] むら (村) − village.

gasaa G s. 小さい鳥; とりの形の弥次郎兵衛のおもちゃ− little bird, balancing toy.

gasanneeni s. [acc. *gasanneepani*] 村の人: *əri gasanneeni* この村の人。

gassee-ni v. [perf. *gasaxa-ni*] 心配する− be worried: *tari nari ajaǰi ŋənəxənijjuu gasseeni.* その人が無事に行ったかしらとかの女は案じる。U

gatačči-ni v. [perf. *gatatuxa-ni*] 液果をつみとって来る: *gatattooppoo* わたしたち (いちごを) つんできたんだよ。

gataja G s. となかいのひづめ: *ulaa gatajani* となかいのひづめ。

gatanni-ni v. [perf. *gatanixa-ni*] (液果を) 採取に行く: *siduxumbə gatannini.* かの女は液果をとりに行く。

gatannoonǰi-ni v. [perf. *gatannoočči-ni*] こけももの実などの液果をとりに行かせる。

gatasi-ni v. [perf. *gatači-ni*] (液果を) 採集している: *siduxumbə gatasini.* 液果をかの女はとっている。

gatau s. [acc. *gatakkoo*] こけももの実がたくさんなっていていつもそれをつむ場所。

gaunaxi s. [acc. *gaunaxxee*] おか (丘) − hill.

gauruuli NU a. うす寒い, ひえびえする (たとえば夜だんだん寒くなっていくときのはじめの寒さ)。

geeda num. [acc. *geeddaa*] 一, ひとつ− one: *geedannee* s. [acc. *geedanneepa*] ひとり− one person／ *geeda bee* 妊娠一か月− first month of pregnancy／ *geeda xala* 同一氏族／ *geedara* adv. 一回− once／ *geed(ara)* *geedara* たびたび／ *ǰoon geedara* 十一回− eleven times／ *ǰoon geedalta* 十一回− eleven times／ *xori geedara* 二十一回− twenty-one times／ *xori geedalta* 二十一回− twenty-one times.

geega s. [acc. *geegamba*] あご (下あご, おとがい) − chin.

geeǰi a. あお (青) い N, みどりのおよびあおい U, むらさきの M (*ŋoogdo* と *soogdo* の中間の色 J) − blue, or green and blue, or purple; s. [acc. *geeǰimba*, *geeǰǰee*].

Geeldaanu s. [acc. *Geeldaanumba*] 北川源太郎氏のウイルタ名。

geelumǰi-ni G v. [perf. *geelumǰixa-ni*] ほどける (くつのひもが): *utta səəksəni geelumǰini.* くつのひもがほどける。U

geemada[1] s. [acc. *geemaddaa*] 仕事をせずぶらぶら歩きまわる人。

geemada[2] J s. けずったもの, (野頃のウイルタのことばで) *anduma* をさす。

geen s. [acc. *geemba*] まち［おそらく＜満 giyai, 漢 街］(この語はきいただけで自身は使わないという N)。

geeŋŋee-ni v. [perf. *geeŋaxa-ni*] いぬがなく (打たれたときのなきかた)。

geepinǰi-ni U v. [perf. *geepiččі-ni*] ちょっと削る。

geeri-ni v. [perf. *geexa-ni*] けず (削) る (小刀で) − shave (a piece of wood, etc.): *moo(wo) geerini.* 木をかれがけずる。／ *kučigənǰi geerini.* 小刀でかれがけずる。／ *illaumba geerini.* 木幣をかれがけずる。

geerri-ni NJ v. [perf. *geerixa-ni* N] 仕事をせずひまつぶしにぶらぶら歩きまわっている，となりまたそのとなりとあそびあるく。

geesapsa s. [acc. *geesapsaa*] けずりくず (小刀で木偶神像をつくったあとなどの U)。

geesu J s. 墓のかこい。

geesuu s. [acc. *geesukkoo*] やなぎなどの木を削る小刀 (削り花をけずり，また神像をつくるのにも使う) − knife.

Geetta s. ウイルタ族の氏族の一つ，南カラフトにはいない− clan name.

geewa NJ s. [acc. *geewamba* N] 夜明けの東の空の薄明，夕暮れの西の空の薄明: *duluu geewandula* 明け方に (うす明るくなったころ) N／ *geewa nimmaa biini.* 夕明かりがまだある。N／ *geewa* (または *geewan* J) *tuuǰǰini.* 日が暮れてうす暗くなる。GJ

Geewaanu s. 人名 (男，*Naiputunneeni* 氏族か，*Torisa* 氏族か)，*Pironǰoonu* さんの子息。

geewannee-ni NGJ v. [perf. *geewanaxa-ni* NJ] 明け方日の出まえ東天からうす明るくなる NGJ，夕暮れ残照とともにうす暗くなる J: *geewa geewanneeni.* 明け方空が明るくなる (明けの明星が残って *geewanneeni* のあと一旦またすこしくらくなったのち夜があける (*inneeni*))。N

geewwi-ni v. [perf. *geewixa-ni*] (けだものの) 骨から肉をはなす (小刀で): *girapsaa geewwini.* 骨から肉をかれは切りはなす。／ *geewimi dəptuxəni.* 骨から肉を切りはなしてかれは食べた。

geu s. 獣の一種 (しかの一種か)。

geuksa s. [acc. *geuksaa*] ごまふあざらしの当歳のもの。

geul s. [acc. *geulba*] 丸木舟のかい (櫂) (両側各一本をひとりが左右の手で交互にこぐ) − oar: *geul nari* 櫂をかく人。

geula s. [acc. *geullaa*] 魚皮でできている糸 (魚皮をぬうのに使う)。

geuliǰǰi-ni v. [perf. *geuliduxa-ni*] かいをかいてもどる。

geulimǰi NG s. [acc. *geulimǰee* N] ふねのかいをかく人 (かいのかきて)。

geulipinǰi-ni v. [perf. *geulipiččі-ni*] ふねのかいをかるくあまり力を入れずにかく。

geulli-ni v. [perf. *geulixa-ni*] かいをかく，こ (漕) ぐ− row: *ugdaa geullini.* 舟をかれはこぐ。

geun s. [acc. *geumba*] 銅− copper: *geuma čaanikka* 銅製やかん。

geuxaatu s. [acc. *geuxaatumba*, all. *geuxaatutai*] 浮浪者，こじき (乞食) − beggar, 一つの物語 (*saxuri*) の主人公，この語は人をののしる (*aburree*) のにも使われる。

gəčuwəri s. [acc. *gəčuwərree*] 清 (満洲) の蟒緞服 (ウイルタ人の宝物，*Manǰu* 人から買ったもの) [＜満 gecuheri]。

gəə int. 1. さあ (男がでかけるときなどにいう): *gəə ŋənneesu.* さあ，行こう；2. 語り物 (*niŋmaa*) や架空物語 (*saxuri*) を語るときそれにこたえてきれめきれめに入れるきき手の合いの手。

gəəgdə a. きれいな− clean [ant. *təlbəənuuli*]; s. [acc. *gəəgdəmbə*]: *gəəgdə mөө* きれいな水／ *biini gəəgdə.* かの女のくらしはこぎれいだ。

gəəǰi U a. 自分のものをなんでも人にやるような性質をもつ: *gəəǰi nari* 上記のような性質の人。

gəəm s. みんな，全部− all, whole: adv. すっかり: *gəəmǰi dəpčini.* かれはみんな食べる。／ *mini bəjəbi gəəm uliŋga oččini.* わたしの体はすっかりよくなった。

gəəri s. [acc. *gəərree*] 頭蓋骨。

gəikkee-ni K v. 競争する (*gəǰǰini*) (幼児語): *gəikəmi* 競争して (*gəimi*)。

gəiŋǰee-ni v. [perf. *gəiŋdəxə-ni*] 競争しに行く。

gəǰǰi-ni v. [perf. *gəixə-ni*] 競争する− compete: *gəimusi-ni* v. 競争したい／ *gəǰǰөөnǰi-ni* v. 競争させる。

gəlbee-ni v. [perf. *gəlbəxə-ni*] 立ち木をきる (木をきり，枝をはらう J) (まきをつくるために切る (*moolisini*) のではなく，なにかつくるために): *oksoo paawurraani gəlbeeni.* となかいぞりの台木の木をかれはきる。／ *oksokkoo andubuǰǰi gəlbeeni.* となかいぞりをつくるために立ち木をかれはきる。

gəlbu s. [acc. *gəlbөө*] なまえ (名前) (*gəlbu* をもつのは人，いぬ，となかい) − name: *doowu gəlbu(ni)* 本名／ *ojuu gəlbu(ni)* 俗称，あだ名／ *sini gəlbusi xaigaa.* おまえのなまえはなんというか。／ *xaiǰi gəlbuluwə.* かれはなんてなまえか。／ *tari nari Sələǰi gəlbulu.* あの人はシャラというなまえだ。

gəlbullee-ni v. [perf. *gəlbuləxə-ni*] 名をつける− give a name to: *puttəə gəlbulleeni.* あるこどもの名をかれがつける。／ *xaiǰi gəlbuləxənigə.* かれはな

んと命名したか。

gəlburisi-ni v. [perf. *gəlburiči-ni*] 名をつけてよんでいる。

gəlburri-ni v. [perf. *gəlburixə-ni*] 名をつける－give a name to: *puttəə gəlburrini.* あるこどもの名をかれがつける。／*xaiǰi gəlburrinigə.* かれはなんと命名するか。

gələǰǰi-ni v. [perf. *gələduxə-ni*] 返してほしいと思う，(自分のものを) さがす－look for one's own lost object: *məəniŋŋi gələǰǰini.* 自分のものをかれは返してくれと言う (またはさがす)。／*wəədəgəčči gələǰǰini.* かれはなくしてしまってさがす。

gələndəunǰi-ni v. [perf. *gələndəučči-ni*] さがしに行かせる。

gələnǰee-ni v. [perf. *gələndəxə-ni*] さがしに行く: *əəktəə gələnǰeeni.* 女 (よめ) をかれはさがしに行く。NU／*narree gələnjeeni.* 人をかれはさがしに行く。

gəllee-ni v. [perf. *gələxə-ni*] ほしい，もとめる，さがす－wish for, desire (seek for), look for: *goči baramba gəlleewi.* もっとたくさんおれはほしい。／*asiǰǰi gəlleeni.* かれは自分の妻にほしい。／*xaiwa gəlleesigə.* なにをおまえはさがすのか。／*sirə poktooni gəlleeni.* やまとなかいの足あとをかれはさがす。

gərəi J s. わなの仕掛けのなかのわな本体。

gərəǰǰi-ni G v. [perf. *gərəǰixə-ni*] 太陽のまわりに光環が生じる: *suun gərəǰixəni.* 太陽がまわりに光環を生じた。

gərəməsi-ni v. [perf. *gərəməči-ni*] たくさんかけたわな (*puta*) を見まわってあるく，仕掛け弓 (*dəəŋgurə*) についてもいう: *puttaa gərəməsini.* わなをかれは見まわってあるく。

gərəmmee-ni NU v. [perf. *gərəməxə-ni* U] わなになにかかかっているか見に行く: *puttaa gərəmmeeni.* わなをかれはしらべに行く。N

gərigə G s. 針金の輪のわな: *tuksa* (または *uǰəgə*) *gərigəni* うさぎ (またはじゃこうしか) のわな。

gərigənǰi-ni G v. 通りみちに針金の輪のわなをかける。

gəsə adv. いっしょに－together: *buu gəsə ŋənneesu.* おれたちいっしょに行こう。／*mindu gəsə ŋənneesu.* おれといっしょに行こう。

gətəǰǰi-ni v. [perf. *gətəduxə-ni*] さめる (酔いから): *tari nari soktowočči gətəǰǰini.* その人は酔ったあと酔いからさめる。

gəun a. あ (空) いた: *gəun duxu* 空き家／*tari duŋneeni gəun.* あの家の人はるすだ。

gəxə part. まで: *čala gəxə* そこまで。

gičči a. つめたい (急につめたい水に手を入れたときなどに言う) (この語は述語として使う): *gičči əǰǰee dappaa.* つめたい，つかむな。／*giččee.* つめたいなー。／*giččee ŋaalabee.* つめたいなー，おれの手がよ。

gičči-ni v. [perf. *gituxa-ni*] ある (歩) く (人間，けもの，しらみが) －walk.

giččisi-ni N v. [perf. *giččiči-ni*, conv. perf. *giččigačči*] , *gičisi-ni* NJ v. [perf. *gičiči-ni*, conv. perf. *gičigačči* N] つめたく感じる，つめたがる: *əri məə giččisini* (または *gičisini*). この水はつめたい。N／*bii giččisiwi.* わたしはつめたい (水に手を入れたとき)。N／*bəjəbi giččisini.* (おれの) からだがつめたい (水に落ちたとき)。N

giččuuli a. つめ (冷) たい－cold; s. [acc. *giččuullee*, all. *giččuulitai*]: *giččuuli məə* つめたい水。

gida s. [acc. *giddaa*] やりさき G，やり (槍) (くまをとるとき使用) NG－lance, spear.

gidačči-ni NU v. [perf. *gidačixa-ni* N] 1.入れる (何回も) N; 2.やりでさす (何回も) U.

gidakku s. パイプやきせるに差しこんで掃除する棒。

gidala s. [acc. *gidalamba*] とんぼ。

gidalačče-ni v. [perf. *gidalataxa-ni*] 入れて (そのままにして) いる: *saŋnamba padu dootoini gidalataxani.* たばこをたばこ入れの袋のなかへかれは入れておいた。U／*puutaa dootoini buddaa gidalataxani.* 袋のなかへ米をかの女は入れてあった。U

gidallee-ni v. [perf. *gidalaxa-ni*] 1.入れる (一回): *saŋa dookkeeni gidalleeni.* あなの中へかれは入れる。／*xunaaptumba gidalleeni.* ゆびわをかの女ははめる。／*ŋaalibi gidalaxani.* (そでに) かれは手を入れた。2.やりでさす (一回)。

gigdamai s. 言い張って意地を張る人。

gigǰee-ni v. [perf. *gigdaxa-ni*] 他人の言うことをきかずに意地を張る。

giilǰi s. [acc. *giilǰee*] 銃の薬莢－cartridge [<ロ гильза].

giiri-ni v. [perf. *giixə-ni*] ぬ (脱) ぐ，ひろげる (ほすために) －spread out: *tətukkəə giirini.* (そとへ) きものをかの女は (ほすために) ひろげる。／*tətukki* (または *komuumbi*) *giirini.* かれはきものをぬぐ (またはうでをまくる) (けんかのとき)。

giǰǰee-ni v. [perf. *gidaxa-ni*] やりをさす (何回も) －pierce with a spear: *gidaǰi giǰǰeeni.* やりでかれはさす。／*gidami waaxani.* かれはやりでさして殺した。

giktaiǰǰi-ni U v. [perf. *giktaiduxa-ni*] 家から追い出す: *giktaiddu.* 追い出せ。／*mini əǰibi mimbee giktaiduxani.* わたしの夫がわたしを家から追い出した

(けんかして別れた妻が言う)。

gilbə s. [acc. *gilbəmbə*] 人の乗るそりのあとにつないで行くとなかい (このとなかいも荷をつむそりを引くことがある)。

gilbənji-ni v. [perf. *gilbəčči-ni*] 人の乗るそりのあとに別のとなかいをつなぐ: *dəə ulaaba gilbəččini.* 二匹のとなかいを乗っているそりのあとにかれはつないだ。

gilči-ni v. [perf. *gilčixa-ni*] うずく, ずきずきいたむ: *pujə gilčini.* きずがずきずきいたむ。／ *naami gilčini.* 化膿して (はれものが) うずく。

Giləə s. [acc. *Giləkkəə*] ニブフ人・ニクブン人 (ギリヤク人) — Nivkh (Gilyak).

giləptu s. [acc. *giləptumbə*] 腕輪 (中国からの渡来物) — bracelet.

giləxinji-ni NU v. [perf. *giləxičči-ni*] ひかる: *suun giləxinjini.* 太陽が直射する。N／ *suunə giləxiččini.* 日光が直射した。U／ *čaanikka giləxinjini.* やかんがぴかぴかひかる。NU

gilləm U adv. ぎらぎら (酒に酔ったりして目が光るさま): *gilləm oččini.* 目がぎらぎらしてきた。

giltaramji adv. はずれて: *giltaramji tuuxəni.* (小刀が持つ手から (ŋaalakkeeni)) はずれておちた。

gipali a. つないでない: *gipali ŋinda* つないでないいぬ。

girakčee-ni JU v. [perf. *giraktaxa-ni* U] おおまたに歩く J, またぐ U: *aa alukkoo giraktaxani.* あっ (置いてある) 茶碗をかの女はまたいだ。U

girakta s. 歩幅: *giraktani gooli* かれの歩幅は大きい。

giranji-ni NJ v. [perf. *giračči-ni* N] またぐ: *anannee giranjiwi.* おれは年をまたいで越す (越年する)。J

girapsa s. [acc. *girapsaa*] ほね (骨) — bone.

giraxxi-ni NJ v. [perf. *giraxuxa-ni* N] またぐ (何回も) NJ, あるく N。

giri s. [acc. *girree*] はま (浜) (砂地の岸) — sandy beach.

giripsa s. [acc. *giripsaa*] 皮や布を裁断したあとの切れはし。

girkəptu s. [acc. *girkəptumbə*] (一枚板の) たな (棚) (日本家屋や丸太づくりの家屋の) — shelf.

girree-ni v. [perf. *girəxə-ni*] あまぐもや霧に晴れ間がでて空が見えてくる: *boo girreeni.* 空が晴れ間を見せる。／ *tamna girrini.* 霧が晴れ間を見せる。

girri-ni NU v. [perf. *girixa-ni*] 衣服の型を裁つ (衣服をつくるのに, はさみのないむかしは小刀 (*gisiruu*) で) N, 切る (はさみで) U: *bussoo girrini.* 布をかの女が切る。U

gisinji-ni v. [perf. *gisičči-ni*, conv. perf. *gisikkačči*] 太鼓を打つ— beat a flat drum: *daallee gisinjini.* 太鼓をかれは打つ。

gisipu s. [acc. *gisipumba*] (太鼓の) ばち (いぬのすねの毛皮でつくる) — drumstick (musical).

gisiruu s. [acc. *gisirukkoo*] 皮や布を裁断する小刀 (さきがまがっている, 女が使う, *gisiruu* のとなかいの角製の柄は縫ったあとをのすのに使われる, また, *gisiruu* はしらかばの樹皮を切るのにも使う) — knife.

gobdonjee-ni G v. [perf. *gobdondoxo-ni*] てん (貂) をいぬに追わせて木に上がったところをとる猟に行く: *səəppəə ŋindaji gobdonjeeni.* かれはてんをいぬをつかってとる猟に行く。

gobjee-ni v. [perf. *gobdoxo-ni*] いぬにてん (貂) の足跡 (*pokto*) を追わせ, てんがいぬにほえ立てられて木にのぼったところをとる (いぬにとらせたり, 鉄砲で打ちおとす): *ŋindaji gobjeeni.* かれはいぬに追わせて猟をする。／ *səəppəə gobjeeni.* かれは貂をいぬに追わせて猟をする。

goččee-ni v. [perf. *gotoxo-ni*] あばれる (酒に酔った人などが)。

gočči adv. 来年: *gočči anannee* 来年に U／ *gočči anannee goči issiwi.* 来年またおれは来る。U／ *gočči čigaakkeeni* 再来年に N.

gočči-si-ni v. [perf. *gočči-či-ni*], *gočisi-ni* v. しょっぱい, 塩からい: *dausulapula suŋdatta gočči-sini.* 塩づけにしたさかなはしょっぱい。／ *əri silə gočisini.* この汁は塩からい。／ *dalambi gočči-sini.* わたしの関節がだるい。

gočču-uli a. しょっぱい— salty; s. [acc. *gočču-ullee*]: *dausu gočču-uli.* 塩はしょっぱい。

goči[1] adv. また, もっと— again, more: *goči itəxəni.* またかれは見た。N／ *goči baramba bəəru.* もっとたくさんくれ。N／ *goči goči ŋənnəurii.* まだまだもっと行くのか。U

goči[2] part. ね: *naree goči.* 人だね。／ *əri kučigəə goči.* これは小刀だね。／ *ojuukaa goči.* すこしだね。／ *ajaa goči.* いいですよ (いいかとの問いへのこたえ)。／ *əri goči.* これよね (女が言う)。

goi a. ほかの, 別の, ちがう— other, different; s. [acc. *goiwa*]: *goinnee* s. [acc. *goinneepa*] 他人, よその人— someone outside one's family／ *goinneeŋŋi* s. [acc. *goinneeŋŋee*] 他人のもの／ *jəji goi.* これとちがう。／ *minji* (または *minduu*) *goi nari* おれとちがう人／ *goi xala* (自分とはちがう) ほかの氏族／

goi naa 外国— foreign country／ *goi bee* 来月— next month／ *goi goi* いろ

いろの。

gojjou a. 傷ついた：*gojjou gasa* 鉄砲のたまで傷ついた鳥。

goǰǰeekta N s. [acc. *goǰǰeektaa* N]，*goǰǰigakta* J s. 口蓋垂。

golbo G. s. さかなどを干す掛け木の設備（*saan* N）においてその四隅にさきがまたになっている棒を立てその各二本の棒の上に平行的にわたしてある棒（この2本の棒の上に何本かの棒をわたしてさかなをかける）。

Goljii s. [acc. *Goljikkee*] ナーナイ人（ゴルディ人）－ Nanai（Goldi）.

goloo s. [acc. *goloombo*] 長い木をきってできた丸太（まきにするのにきったような）。

goodu G s. 産卵期のさけ・ますなど（ぶなけ）（*xairree jəwərri suŋdatta*）：*goodu dawa* 産卵期のさけ（ぶなけ）N／*goodu ɵɵrɵ* 産卵期のます N／*goodu suŋdatta* 産卵期のさかな。G

goodummee-ni v. [perf. *goodumaxa-ni*] 産卵期のさけ・ますを産卵場所にとりに行く。

gooduu NG s. 産卵期のさけ・ますがいてそれを捕獲する場所（浅い）。

goojji-ni NG v. [perf. *gooduxa-ni*] さけ・ますがぶなけとなる G.

gooli a. 大きい，ひろい（歩幅が）（Cf. *girakta*）.

goolmosi-ni v. [perf. *goolmoči-ni*] 鉄砲で打ちおとした鳥をつなをつけたいぬにとりに行かせる：*gassaa goolmosini.* 打ちおとした鳥をかれはいぬにとりに行かせる。

goopu s. [acc. *goopumba*] ふねのさお（流れの急なところで使う）－ pole for a boat.

goopullee-ni v. [perf. *goopulaxa-ni*] ふねをさおをさしてすすめる。

goorri-ni v. [perf. *goorixa-ni*] とりの羽毛がぬけかわる（しろやまどり（*kabbeela*）はそれにより夏は黒，冬は白と色もかわる）：*gasa goorrini.* とりの羽毛がぬけかわる。

goro a. とお（遠）い－ far [ant. *laxa*]：adv. 長く（時間上）：s. [acc. *gorroo*]：*gorolo itɔxɔmbi.* 遠くからおれは見た。／*tawasai ŋɔnɔpee goro biisii.* そこへ行ったら長くおまえはいるか。／*maŋga goroo ɔččimbi ittɔɔ.* 大変長い間ぼくは見なかった。

goroljí-ni v. [perf. *gorolči-ni*] （滞在期間などのある期間が）延びる，長くなる：*bii goroljiwi.* ぼくは滞在期間が長くなっている。（*bii goro biiwi.* と同義）／*tari nari goroljíni.* その人は滞在が延びている。

goropči a. ふる（古）い，むかしの－ old：s. [acc. *goropčee*, pl. *goropčisal*（昔の人たち）]：*goropčidu* むかし（往時に）／*goropčinnee* s. [acc. *goropčinneepa*] 昔の人。

gosimusi-ni G v. [perf. *gosimuči-ni*] にくく思っている。

gosipsi a. にくらしい（この語は述語として使う）：*ɔnɔnɔɔ gosipsee.* あー，にくたらしいなー。J

gosipsuuli a. にくらしい：*gosipsuuli nari* にくたらしい人。

gossi-ni v. [perf. *gosixa-ni*] にく（憎）む－ hate：*čaa naritai gossini.* その人をかれは憎む。

gossuusiŋginǰini 貧困などで生活にくるしみつつ：*bii gossuusiŋginǰini biiwi.* おれは生活に苦しんでいる。／*gossuusiŋginǰini siinɔǰǰini.* かれは貧乏にくるしむ。

gɵlloɵkku U s. まき（薪）のおきば（家のまえ）：*gɵlloɵkkutɔi moo gaannu.* まきおきばへまきをとりに行け。

gɵlɵ s. [acc. *gɵlloɵ*] 逃げまわってつかまえられないとなかい：*gɵlloɵ dapaiččeeni.* 逃げまわるとなかいをかれがつかまえようとしている。／*gɵlɵ ulaa* 逃げまわってつかまえられないとなかい。

gɵlɵnǰi-ni NJ v. [perf. *gɵlɵčči-ni* N] 逃げまわってつかまえさせない（となかいが）：*tari ulaa gɵlɵnǰini.* そのとなかいは逃げまわってつかまえさせない。J

gɵɵlɵnǰi-ni [1] v. [perf. *gɵɵlɵčči-ni*] 水がすむ：*mɵɵ gɵɵlɵnǰini.* 水がすむ。

gɵɵlɵnǰi-ni [2] v. [perf. *gɵɵlɵnduxɔ-ni*] 水がもとどおりにすむ。

Gərgələ, Gərgulu s. 北川五郎氏（*Daaxinneeni* 氏族，巫者）のウイルタ名。1899年（ないし1890年代後半）に留久玉で生まれたのち，野頃に住む。オタスに学校ができ，こどもを通学させるため，オタスに移る。1958年北海道に移住，1978年死去。

gərpɵčči-ni v. [perf. *gərpɵčixɔ-ni*] のぞく：*paawakki gərpɵččini.* まどからかれはのぞく。／*saŋakki gərpɵččini.* あなをかれはのぞく。／*suŋdattaa gərpɵččini.* さかなをかれはのぞく（草でつくった輪（*kərgi*）を氷にあけたあなをかこむようにおき，覆い（*guidɔ*）をかぶってそのあなをのぞき，かぎのついた棒（*taasuma*）で氷の下の魚のよあかし（*juwakkasi*）を突いてとる）。

gudakta s. [acc. *gudaktaa*] ひげ（くち，あご，ほほの）－ moustache, beard, whiskers.

gudaktauna a. ひげのいっぱいある：s. ひげのいっぱいある人：*gudaktauna nari*（または *mapaačča*）ひげのいっぱいある人（またはじいさん）。

gudɔčči-ni v. [perf. *gudɔčixɔ-ni*] なんどもさく，やぶく（手で）－ tear：*bussoo gudɔčixɔni.* 布をかれはめちゃくちゃにさいた。

gudɔǰǰee-ni v. [perf. *gudɔdɔxɔ-ni*] さ（裂）ける－ be torn：*tɔtuwɔbi*

gudədəxəni. おれのきものがさけた。

gudənǰi-ni v. [perf. *gudəčči-ni*] さく，やぶく－ tear: *bussoo gudənǰini*. 布をかれはさく。／ *xausalba gudənǰini*. 紙をかれはやぶく。

gugda a. たか (高) い－ high [ant. *nəktə*]; s. [acc. *gugdaa*]: *gugda nari* たけの高い人／ *gugda xurigə* 高い山／ *gugdaǰi əurrini*. 高くかれはもちあげる。

gugdala s. [acc. *gugdalamba*] 高さ，身長－ stature.

guičči-ni v. [perf. *guičixa-ni*] ことづける (ことばを): *naritai guiččini*. 人にかれはことづける。／ *suun guiččini*. 日がおちるとき夕やけをする (翌日は天気がよくなるという)。

guidə s. [acc. *guiddəə*] 円錐形小屋などのおお (被) い (なめし皮や魚皮や布 (てんじく木綿) を使用) － hut cover.

guinǰi-ni v. [perf. *guičči-ni*] 両手を上へあげてひろげ体をのばす: *nari guinǰini*. 人が両手を上へひろげて体をのばす。

guiptəŋi s. [acc. *guiptəŋŋee*] 円錐形小屋の外側をおおうもの (小屋の骨組みの *seesiŋi* の上にかけておおう布，魚皮，白樺の樹皮 G)。

guiri-ni v. [acc. *guixə-ni*] 円錐形小屋のおおいをかける，家屋のまわりをつくる: *dugba guixəni*. 家におおいをかれはかけた。／ *guidəǰi guirini*. 家のおおいをかれはかける。

guja s. [acc. *gujjaa*] 犬歯－ canine tooth: *uǰəə gujani* じゃこうしかの犬歯 (くびがまわらなくなったときのくすり)。

gujallee-ni v. [perf. *gujalaxa-ni*] つので突く (一回): *ulaa gujalleeni*. となかいがつので一度つく。

gujamačči-ni v. [perf. *gujamačixa-ni*] つのを突き合ってあらそう。

gujjee-ni v. [perf. *gujaxa-ni*] なんどもつので突く。

gujǰeeləə a. かわいそうだなー: *gujǰeeləə nariwaa*. かわいそうだなー，人がよ。／ *gujǰeeləə puttəwəə*. かわいそうねー，こどもが。

gujǰeeləsi-ni v. [perf. *gujǰeeləči-ni*] あわれむ，かわいそうにおもう，かわいがる－ pity, love: *ǰoboxomboni gujǰeeləsini*. かれが苦労したことを別の人がかわいそうに思う。／ *puttəə gujǰeeləsini*. こどもをかれはかわいがる。

gujǰeeləuli a. かわいそうな－ pitiful: s. [acc. *gujǰeeləullee*].

gulči-ni v. [perf. *gulčixə-ni*] ひろげる (ほすために) － spread out: *bookkeekki tətuwəbi gulčini*. そとへかの女は自分のきものをひろげる (ほすため)。

gulturisi-ni v. [perf. *gulturiči-ni*] 疲労感をもつ，くたびれる: *gulturigəčči əsini təərə*. 疲れてしまってかれは起きない。U

gulturuuli a. くたびれた: *uilləumi gulturuuli*. はたらけばくたびれる。

gultuxi G s. ものを掛ける棒。

gulu[1] NGJ s. [acc. *gulumbə* N] 魚の背 (腹の白い部分に対して背の黒い部分 N) NGJ，背びれ G.

gulu[2] GJ s. となかいの三歳のめす (はじめて出産する): *gulu əigəni* となかいの四歳のめす。J

gulučči-ni U v. [perf. *gulučixə-ni*] けむりやすすでくろくする，いぶす。

gulupči-ni U v. [perf. *guluptuxə-ni*] すすでくろくなる，いぶされてくすむ: *ənөө gulupčini*. なべがすすでくろくなる。／ *natta guluptuxəni*. (となかいの) なめし皮がすっかりあかくなった (いぶして色がついた)。

guluu G s. やま (*purə*) へ行き家屋をつくらず野宿して火をたくこと。

guluxu s. [acc. *guluxumbə*] 布帛を巻いたもの，反物: *busu guluxuni* 布を巻いたもの／ *geeda guluxu* 一巻き，一反。

gumaarinikka N, *gumaanikka* U s. [acc. *gumaarinikkaa* N, *gumaanikkaa* U] 財布 [< ロ бумажник].

gumaska s. [acc. *gumaskaa*] かね (金) － money [< ロ бумажка].

Gunarauda s. 人名 (女，*Napka* さんと同じ歳くらい)。

gupəlipinǰi-ni v. [perf. *gupəlipičči-ni*] となかいや馬がちょっとぶるっと身ぶるいする。

gupəlli-ni v. [perf. *gupəlixə-ni*] となかいや馬がぶるぶると身ぶるいする。

gupipinǰi-ni v. [perf. *gupipičči-ni*] ちょっとふるう。

guppi-ni v. [perf. *gupixə-ni*] ふるう (ちりをおとすため) － shake: *bussoo guppini*. 布をかれはふるう。／ *ačaraimba guppini*. ごみをかれはふるっておとす。

guppөө adv. いつも，毎日－ always, every day.

gurəi a. ひろ (広) い－ broad, wide [ant. *čiŋgi*]; s. [acc. *gurəkkee*]: *naa gurəi*. 土地がひろい。

gurəǰǰee-ni v. [perf. *gurədəxə-ni*] ほどける，(まるまっているものが) ひろがる－ spread out: *natta gurəǰǰeeni*. 皮がひろがる (縮んだ皮を手でのばしたので)。／ *urpitəkki gurədəxəni*. (きものが) 縫いめからほころびた。

gurəlli-ni v. [perf. *gurəlixə-ni*] ほどく (巻いたものを，からまったのを)，ひろげる (たとえば頭布 (*bilaatu*) を) － unravel, spread out: *čikkaaččimbani gurəllini*. からまったのをかの女はほどく。*tokpoo gurəllini*. ひもをかれはほどく。／ *bussoo gurəllini*. 布をかの女はひろげる。

gusa s. [acc. *gussaa*] 刺し網のくい (杭) の棒 (水中に刺して立てる): *gusabi illuurini*. 自分の刺し網のくいをかれは立てる。／ *gussaa toonduǰǰini*. 刺し網の

くいをかれはひきぬく。

gusi [1] s. [acc. *gussee*, all. *gusitəi*, *gusitai*] わし (鷲) (おおわし G) − eagle: *gusi beeni* 二月 − February.

gusi [2] s. [acc. *gusimba*, pl. *gusinil*] 母の生まれた氏族の傍系男子 − uncle, cousin (male): *laxa* (または *goro*) *gusi* 血縁関係が近い (または遠い) 上記男子。

guu [1] s. くも (虫) の大きいもの: *tɔɔnɔnji guuni* 大きいくも。

guu [2] G s.: *guu oroktoni* とりかぶと (食べれば死ぬ, アイヌは矢につかう) / *ləkkə guuni* 矢の進んだみち (*pokto*) [cf. ア ku (弓), ニ кʻy (矢)].

guuguldu s. [acc. *guuguldəə*, *guuguldoo*, all. *guuguldutəi*] ちょうちょ (う) (蝶々), 蛾 − butterfly, moth.

guulimbəəkkiččee-ni v. [perf. *guulimbəəkkitəxə-ni*] でかけてもらおうとしている。

guulinduǰǰi-ni v. [perf. *guulinduxə-ni*, *guulinduduxə-ni*] 自分の家へ向って出立する。

guulinǰi-ni v. [perf. *guuliččі-ni*, conv. perf. *guulikkəčči*] でかける, 出発する − go out, depart.

guullee-ni v. [perf. *guuləxə-ni*] 神が長い間遠くへ行って来てつかれる (巫人の用語)。

guumiččі-ni v. [perf. *guumičixə-ni*] それまでの姿勢では見えないものをおきあがったり, のびあがったりしてみる。

guusinǰi-ni v. [perf. *guusiččі-ni*, conv. perf. *guusikkačči*] 駆けだす, はしりだす (となかいなどが, また汽車が)。

guwwee-ni v. [perf. *guwaxa-ni*] ほえる (いぬが) − bark.

i

ibaxa U s. おてんばむすめ。

ibaxaraǰǰi-ni U v. [perf. *ibaxaraǰixa-ni*] はしゃぐ (陽気なむすめが): *ibaxa ibaxaraǰǰini*. おてんばむすめがはしゃぐ。

ičalpi s. [acc. *ičalpee*] 草の一種 (食用) (コジャク)。

ičaruu NJ s. [acc. *ičarukkoo* N] ざる (竹製) [< 日 いざる (あるいは, いざる + こ)]。

ičče-ni v. [perf. *itəxə-ni*] み (見) る − see, look: *ittəu*. みろ。 − Look. / *itəmusi-ni* v. [perf. *itəmuči-ni*] みたい − want to see / *ittəunǰi-ni* v. [perf. *ittəučči-ni*] みせる, みられる − show, be seen.

ičikpanǰi-ni G v. [perf. *ičikpačči-ni*] かおすがたをからかう (ひやかす): *narree ičikpanǰini*. 人のかおすがたをかれはからかう。

idə s. [acc. *iddəə*] 脳 (人間・となかい・くま・鳥・魚の) − brain.

idəməi GU a. あたまのいい (*masi*)。

Igoori s. 人名 (男, *Naiputunneeni* か, *Torisa* の氏族) [< ロ Игорь].

ii int. はい, いいえ (返答) − yes, no: *ii biini*. はい, それはあります。 / *ii anaa*. はい, ありません。

iiǰǰi-ni v. [perf. *iiduxə-ni*] 自分の家にはいる。

iiməu a. 新鮮な, いきのよい − fresh: s. [acc. *iiməkkəə*]: *iiməu suŋdatta* いきのいいさかな。

iinduwə s. [acc. *iinduwəmbə* か *iindukkəə* このどちらかわからないという] にかわ (*kamdu*) を入れるのに用いる樺皮製容器。

iinǰee-ni v. [perf. *iindəxə-ni*] やすむ (休息する), 仕事をやすむ: *əsinəŋi iinǰeeni*. きょうかれはやすむ。

iiŋuwə s. [acc. *iiŋuwəmbə*] わか木。

iipəčči-ni U v. [perf. *iipəčixə-ni*] 戸口から出たり入ったりする。

iiri-ni v. [perf. *iixə-ni*] はいる − enter: *duktai iirini*. かれは家へはいる。 / *məəkki iirini*. それは水へしずむ。 / *bii jəə ulissəə ənuwətəi iiriwi*. わたしはこの肉をなべへ入れる。

iiwə s. [acc. *iiwəmbə*] しゃくし (木 (白樺) 製, なべからとるのにつかう)。

iiwərəsi-ni v. [perf. *iiwərəči-ni*] しゃくしをつかう, しゃくしでもる (くりかえしなんども): *ənukkəə iiwərəsini*. なべをかの女はしゃくしでなんどもかきまわす (こげつかないように)。

iiwərree-ni v. [perf. *iiwərəxə-ni*] しゃくしをつかう, しゃくしでもる (一度か二度): *ənukkəə iiwərreeni*. なべをかの女はしゃくしで一度か二度かきまわす。

iiwuččee-ni v. [perf. *iiwutəxə-ni*] 入れておく。

iiwučči-ni v. [perf. *iiwučixə-ni*] 入れている (何回も)。

iiwwi-ni v. [perf. *iiwuxə-ni*] いれる − let one come in.

ijjee-ni v. [perf. *idaxa-ni*] むだ骨折りにおわる: *gələmjee idaxani*. かれはほしがっていたが得られなかった。

ikkuči s. [acc. *ikkuččee*, all. *ikkučitəi*] (何匹もの) いぬをつなぐところ (草のやねがある) (アイヌやニブフのところにある): *ŋinda ikkučini*. いぬのつなぎ

場。

ikpə s. [acc. *ikpəə*] たきび (狩猟・液果採集・さかなとりのときの野外での)。

ikpəčči-ni v. [perf. *ikpəčixə-ni*] たきびをする。

iktə NJ s. [acc. *iktəə-ni* N] くま・いぬの犬歯 N, くま・とどのきば (*sutta*) J (この語は，老人が使うが自分は使わない N, ウイルタはあまり使わずキーリン人 (*Kiilləə*) の語であるという J)。

iktəməčče-ni v. [perf. *iktəməttəxə-ni*] くわえている－ hold a thing in one's mouth: *moomoombi iktəməttəxəni.* かれは自分のパイプをくわえていた。／ *ŋinda girapsaa iktəməččeeni.* いぬが骨をくわえている。

iktəmənǰi-ni v. [perf. *iktəməčči-ni*] かみつく－ bite: *ŋinda iktəməččini.* いぬがかみついた。／ *nalmakta iktəməččini.* 蚊がさした。

iktənə s. [acc. *iktənnəə*] となかいの三歳のおす。

ilaa num. [acc. *ilaamba*] 三，みっつ－ three: *ilaa ilaanǰi* みっつずつ／ *ilaa taŋgu* 三百 － three hundred／ *ilaa miŋga* 三千 － three thousand／ *ilaa dugba* (または *ilaamba dugba*) *andučini.* 三軒の家をかれはつくった。／ *mini səulbəwwee ilaamba* (または *mini ilaa səulbəwwee*) *anduttaari.* おれのともがい (櫂) を三本つくってくれ。／ *ilaannee* s. [acc. *ilaanneepa*] 三人－ three people／ *illee-ni* 三か月め (妊娠や生後の月数) － third month／ *illee dolboniŋulli* その三日めの晩に／ *illeepimi* 三回め／ *ilaalta* adv. 三回－ three times／ *ilaattuŋasa* みっつ全部。

ilaandoo num. [acc. *ilaandoowo*] 三十 － thirty.

ilaaragda G num. 3頭いっしょにいるとなかい [＜エ иларагда].

ilamau a. はずかしい (この語は述語として使う): *ilamau əsiwi.* はずかしい，わたしいやよ。／ *ilamakoo.* はずかしいなー。

ilamauli a. はずかしい－ shameful; s. [acc. *ilamaullee*].

ilamausi-ni v. [perf. *ilamauči-ni*] はずかしがる－ be ashamed: *məənǰi ilamausini.* 自分のことをかれははずかしがる。

ilčee-ni v. [perf. *iltəxə-ni*] あきる－ be satiated: *dəptumi iltəxəni.* かれは食べあきた。

ilda s. [acc. *ildaa*] あざらしや魚のあぶら，あぶら (油) － oil.

iliptai adv. たてに (垂直に): *iliptai illuurini.* たてにかれは立てる。

ilisi-ni v. [perf. *iliči-ni*] た (立) っている－ be standing: *nari ilisini.* 人が立っている。

Ilǰaanu s. 人名 (男，*Naiputunneeni* 氏族)。

illau s. [acc. *illaumba*] けずり花，けずってけずり花をつけた棒，削りかけ，木幣

(宗教儀礼につかうぬさ) － ritual offering in the form of a wooden staff with attached wood shavings, wood shavings: *aalaxi illau* 巫者のかぶりものをつくるけずり花 G／ *bəəbəčču̇ri illau, bəəbəči illau, bəəbəčči̇ni illau* 神への供物につかうけずりかけ NG／ *činəpu illau* つえの木幣 N／ *darapi illau* (ねどこの下に敷く G) けずりかけ N／ *daruwa illau* 小さい神柱の木幣 N／ *kaami illau* 胴にまくけずり花 G／ *kaammee silittauri illau* 胴まき (*kaami*) を編むけずり花 N／ *kuŋgaa illau* 上記の *darapi illau* と同じ，体の具合が悪いときつくる G (さきがふたまた (*jaadara*) になっている N) ／ *nisimi illau* ほそいけずり花 G／ *puulləuri illau, puuləptəŋi illau* おはらいのけずり花 NG／ *tuuru illau* 神柱につけるけずり花 G／ *tuuru ŋaalani illau* 神柱の手のけずり花 G／ *ugda illau* ふねにつける木幣 G／ *uičču̇ri illau, uiptəŋi illau* 手足にしばりつけてあるけずり花 G／ *xabǰil illau* はば広くけずったけずり花 G／ *xauwuri illau* きよめのけずり花 (からだをふくけずり花) N.

illaučči-ni v. [perf. *illaučixa-ni*] けずり花を何回もけずってつくる。

illauri-ni v. [perf. *illauxa-ni*] けずり花をけずってつくる。

illee-ni v. [perf. *iləxə-ni*] なめる－ lick.

illi-ni v. [perf. *ilixa-ni*] た (立) つ (立ちあがる)，立ちどまる－ stand, stop: *nari illini.* 人が立ちあがる。／ *gitumǰikəə čadu ilixani.* かれは歩いていてそこに立ちどまった。

illoonǰi-ni v. [perf. *illoočči-ni*] (人を) 立たせる。

illuu s. [acc. *illuumbə*] (あざらし皮や麻の) つな，ひも (そりににもつをしばるなどにつかう)。

illuuri-ni v. [perf. *illuuxa-ni*] 立てる (たとえば柱を) － make stand, erect: *oksokkoo illuurini.* となかいぞりをかれが立てる (また使うのに雪がふってその下にならぬように)。

ilni s. [acc. *ilnee*] 肛門－ anus.

ilta s. [acc. *iltaa*] 毛なみ (てん，かわうその): *iltani uliŋga.* その毛なみはいい (つやつやしている)。

iltaalusi-ni v. [perf. *iltaaluči-ni*] みが (磨) く－ polish: *geuma čaanikkaa iltaalusini.* 銅製のやかんをかれは磨く。

immi-ni v. [perf. *imuxa-ni*] まねする: *immi nari* 人の言う通りにする人 (催眠術にかかったように) [＜ニ имдь，ア imu].

ina s. [acc. *inamba*, pl. *inail*] 女子に対して夫の傍系の男子 (この男子はその女子の夫よりすこし若い) およびその女子の傍系の女子の夫 (この男子の妻はその女子より年長) － (for a female) husband's younger brother, elder sister's

husband, etc.

indumuska s. [acc. *indumuskaa*] なみだ－ tear.

inəmu a. おかしい (けいべつの意でも言う) (この語は述語として使う): *tari nari baajuu inəmu.* あの人はなまけものでおかしい。N／*tari nari inəmu.* あの人はおかしい。N／*inəməə.* おかしいねー。U／*tari nari inəməə.* その人はおかしい (かわっている) ねー。U

inəmusi-ni v. [perf. *inəmuči-ni* (**inəmusu* という命令形はない)] おかしがる，ふきだしたい: *tari nari inəmusini.* その人はおかしがっている。

inəmuuli a. おかしい－ funny, amusing: *inəmuuli nari* よく笑わせる人。

inəŋi s. [acc. *inəŋŋee*] ひ (日)，ひるま－ day, day-time: *geeda inəŋi* 一日／*dəə inəŋi* ふつか／*inəŋi taldaani* おひる－ noon／*inəŋi taldaani dulleekkeeni* (または *əččeeliduni*) ひる前に／*čaa inəŋŋee uiləxəni.* その日にかれははたらいた。／*inəŋi inəŋi* 毎日／*inəŋi dəppi* 昼食－ the noon meal.

inəŋipči a. ひるの: *inəŋipči buda* おひるのときの (おひるに炊いた) ごはん／*inəŋipči dəppi* おひるのたべもの。

inəpiŋi-ni v. [perf. *inəpičči-ni*] ちょっとわらう。

inəpuləǰǰi-ni U v. [perf. *inəpuləǰixə-ni*] ばかにして笑う，あざ笑う: *čaa narree inəpuləǰǰini.* その人をかれはばかにして笑う。

inəsi-ni v. [perf. *inəči-ni*] わらう－ laugh: *nariǰi inəsini.* 人をかれは笑う。

inikta s. [acc. *iniktaa*] 睾丸－ testicle.

innee-ni v. [perf. *inəxə-ni*] (夜が) あける－ (the day) breaks: *jəə dolbonnee inədələə təəčimbi.* 昨夜夜のあけるまでわたしはすわっていた。

innəuri-ni v. [perf. *innəuxə-ni*] 夜をあかす: *tari əəktə dolbonnee innəumi urpixəni.* その女は夜をあかして縫いものをした。

inuŋai NJ s. [acc. *inuŋaiwa*, *inuŋakkee* N] はまゆりの根 (またはこの植物総体) J.

iraǰǰi-ni v. [perf. *iraduxa-ni*] (他人のもの，借りたものを) かえしに行く，(人を) おくって行く: *oksokkooni iraǰǰini.* 他人のとなかいぞりをかれはかえしに行く。／*duktaini iraǰǰini.* 別の人の家へかれはかえしに行く。／*narree iraǰǰini.* 人をかれはおくって行く。

irəməččee-ni v. [perf. *irəmətəxə-ni*] もらいに行ってくる: *nimətəi irəməččeeni.* 近所へかれはもらいに行ってくる。

irəməsi-ni v. [perf. *irəməči-ni*] くれとたのむ，せがむ: *dəppee irəməsini.* たべものをかれはくれとたのむ。／*saŋnamba irəməsini.* たばこをかれはせがむ。

irəmmee-ni v. [perf. *irəməxə-ni*] もらいに行く。

irəpčinə s. [acc. *irəpčinnəə*] かんな (鉋) (両刃，つかむところがあって両手でつかむ)。

irga s. [acc. *irgamba*] 模様，文様 (刺繍などの)。

irgee-ni v. [perf. *irgaxa-ni*] 模様をつける－ decorate with a pattern: *tokpomi irgeeni.* かの女は撚るように模様をつける。

irgə s. [acc. *irgəmbə*, pl. *irgəil*] むこ，よめ，直系尊属の配偶者。また，男子に対して，(その男子より若い) 傍系者の妻。女子に対して，(その女子より若い) 傍系者の夫および夫の氏族内の (夫よりかなり若い) 傍系者の妻－ son-in-law, daughter-in-law, etc.

irki NJ s. [all. *irkitai* N] はぐき (歯茎): *uwwee irki* 上のはぐき J／*pəǰǰee irki* 下のはぐき J.

irree-ni v. [perf. *iraxa-ni*] とどける－ deliver: *bičixxəə irreeni.* 手紙をかれがとどける。／*nimətəi irreeni.* 近所へかれがとどける。／*narree irreeni.* 人をかれはつれて行く (道に迷った人を行きたいところへ)。

isaaptu s. [acc. *isaaptumba*] めがね－ spectacles.

isaaptulačče-ni U v. [perf. *isaaptulataxa-ni*] めがねをかけている: *tari nari (isaaptunǰi) isaaptulaččeeni.* その人はめがねをかけている。

isaaptullee-ni v. [perf. *isaaptulaxa-ni*] めがねをかける: *isaaptunǰi isaaptulleeni.* かれはめがねをかける。U

isal s. [acc. *isalba*] め (目) － eye，トランプのクラブ，スペード，ダイヤ，ハートのしるし: *aduli isalli* 網のめ／*isal məəni* なみだ／*isala anaa.* 目がない。

iso J s. かけすの一種 (鳥)。

ispiiri NU s. [acc. *ispiirree*, all. *ispiiritəi* N] アルコール (酒) [＜ロ спирт]

issi-ni[1] v. [perf. *isuxa-ni*] かえってくる－ come back: *amimbi issini.* わたくしの父が帰って来る。

issi-ni[2] v. [perf. *isixə-ni*] (手で (*ŋaaliǰǰi*)) つ (摘) む (草を)，むしりとる (鳥の羽を) － pick (a grass)，pluck (a bird): *oroktoo issini.* 草をかれは摘む。／*nauktaa issini.* くつに入れる保温用の草をかれは摘む。／*gassaa issini.* かれは鳥の羽毛をむしる。

istaa I s. ズボン (皮でつくった) [＜ロ штаны].

isuičče-ni v. [perf. *isuitaxa-ni*] 帰りたい: *tari nari duktakki isuiččeeni.* その人はうちへ帰りたい。

Itaikka s. 人名 (女，*Waaleetta* 氏族生まれ)。

itaŋgi s. [acc. *itaŋgee*] 椀 (神にそなえる (*bəəbəčči*) のに使う，これはアイヌか

ら買ったもの)。

itaŋgili NU s. [acc. *itaŋgillee* N] 、*itaaŋgi* J s. てんとうむし。

itəčči-ni v. [perf. *itəčixə-ni*] みている，みつづける：*goroo itəčixəni.* かれは長くみていた。

itəəlli-ni v. [perf. *itəəlixə-ni*] 互いに見る，しばらくぶりに会う：*məənə məəpəri itəəligəči.* かれらは互いにしばらくぶりに会った。／*xaiddaa ərunduni* (または *xaaliddaa*) *itəəlibuddəəri.* いつか会うからな (さようなら (*ajakaanji bissəəri*) の意)。

itəiččee-ni v. [perf. *itəitəxə-ni*] さがす：*jili čiktəəni itəiččeeni.* あたまのしらみをかの女はさがしている。

itəndəjji-ni v. [perf. *itəndəduxə-ni*] 自分の置いて来たものを見に行く。

itəndəŋu s. [acc. *itəndəŋŋəə*] 見に行った人びと。

itənjee-ni v. [perf. *itəndəxə-ni*] みに行く：*bii itənjeettəə.* おれはいま見に行こう。

itəpči-ni v. [perf. *itəptuxə-ni*] み (見) える－ be visible：*xurigə itəpčini.* 山が見える。／*əməčču itəpčini, laxa.* ここからそれは見えるから近い。

itəpəčči-ni v. [perf. *itəpəčixə-ni*] なんどもみる：*mittəi itəpəčči ni.* わたしの方をかの女はなんどもみている (言いたいことを口ごもっている)。

itəpəənji-ni v. [perf. *itəpəəčči-ni*] みえるようにする：*irgambani itəpəəmi əksəxəni.* それの文様をみえるようにしてかの女は置いた。

itoo s. [acc. *itokkoo*] みやげ。

itoollee-ni v. [perf. *itooloxo-ni*] 手みやげをもって行く：*xoldoxo suŋdattaa itooloxoni.* 干したさかな (*mauri*) をみやげにもって行った。U

ittəunji-ni v. [perf. *ittəučči-ni*] みせる。

itto s. [acc. *ittombo*] 調理用の横長のはち (木製，両端に文様が刻まれている，材料をこれに入れておしつぶして調理し，*moni* や *musi* をつくる) － wooden mortar.

ittoo s. [acc. *ittoombo*] 木製小ばち (調理具 (*itto*) を小形にしたもの)，神供に使用：*xudurəči ittoo* 尾 (つかむところ) のついた木製小ばち (海神 (*məəkkeenneeni*) に供える食器)。

iwačči-ni v. [perf. *iwačixa-ni*] (火を) たいている。

iwanji-ni v. [perf. *iwačči-ni*] た (焚) く－ make a fire, feed a fire：*mooji iwanu.* まきをくべろ。／*tawwaa iwanjini.* 火をかれはたく。

iwəčči-ni v. [perf. *iwəčixə-ni*] わ (割) る (まきを) － chop (wood)：*moowo iwəččini.* まきを (まきにする木を) かれは割る。

iwəčə s. [acc. *iwəčəmbə*] めすいぬ (雌犬) － she-dog.

iwəltə s. [acc. *iwəltəə*] 割ったまき (薪)。

ixa s. [acc. *ixamba*] うし (牛) － cow, bull.

ixərə s. [acc. *ixərrəə*] あかり (ろうそく，ランプ，電燈などの) － light.

ixərree-ni v. [perf. *ixərəxə-ni*] あかりをつける。

j

jaaččee-ni v. [perf. *jaataxa-ni*] 分娩する－ give birth to a child：*tari əəktə jaataxani.* その婦人がお産をした。／〔風習〕生まれた子が死ぬことをくりかえすと，そのあと生まれた子はからの *ənuwə* に入れて炊く。その子は母屋外 (*boo*) で産んで *aundau* の *čokko* か *eltelə* から家へ入れる。

jaadara s. ふたまた：*jaadara moo* ふたまたになった木／*jaadara pokto* ふたまた道。

jaaja s. [acc. *jaajamba*] うた (歌) － song.

jaajala a. 歌を歌うのが上手な：*jaajala nari* 歌の上手な人。

jaajandaččee-ni v. [perf. *jaajandataxa-ni*] 歌をうたいに行って来る。

jaajjee-ni v. [perf.*jaajaxa-ni*] うたう－ sing.

jaajjee-ni v. [perf. *jaadaxa-ni*] つか (疲) れる (巫者の用語)。

jaakki-ni v. [perf. *jaawuxa-ni*] さかなの *jaawu* をつくる：*jaakkoo jaakkini.* かの女は *jaawu* をつくる。

jaakpa s. [acc. *jaakpamba*] いくつもの金属片を腰につるし腰を振って音をたてる巫事用具。

jaam [1] U：*jaam ja(a)m* わざわざ，わざと／*jaam jam xawasai ŋənneesee.* わざわざどちらへあなたは行くのですか。

jaam [2] adv. たくさんの家の立ちならぶさまが遠くから立派にみえることの形容：*Səəktə xottoni jaam itəpčini.* 敷香のまちかげがかなたに美しくみえる。

jaamullee-ni v. [perf. *jaamulaxa-ni*] となかいやそりに人をのせて行く：*puktunji jaŋgeemba jaamulleeni.* いぬの列がひくそりに巡査をかれはのせて行く。／*ulaaji jaamulleeni.* となかいにかれは人をのせて行く。

jaan NGJ s. [acc. *jaamba* N] やまのなかの場所で，木がなくたいらでぬからなく，となかいの食うこけやフレップがはえているところ。

jaaŋbee-ni v. [perf. *jaaŋbaxa-ni*] けだものやとりをとるときそれに向かって低い

姿勢でおとをたてずにすすむ：*jaaŋbami waaŋjeeni*. かれは姿勢を低くおとをたてずにすすみながらけだものをとりに行く。

jaatau s. [acc. *jaatakkoo*] うぶや（産屋）（小さい円錐形小屋）。

jaawu s. [acc. *jaakkoo*] さけを三枚におろし，皮はそのままにし，頭・骨・尾を除いたもの（肉二枚は切り離される，また乾きやすくするために切りめを入れる，あなをあけ棒に通して干す，火だなには掛けて干す）。

jabdar adv. 夜が明けてしらむさま：*jabdar geewanaxani*. 夜がしらんであかるくなった。

jali s. [acc. *jallee*] にく（肉）（この語は母や老人が使うが自分は使わず *ulisə* という N）。

Jambukka s. [acc. *Jambukkamba*] 人名（女）。

jap adv. 線を引いたように：*jap kaltadaxani*.（容器（*alukku*）が）まんなかにひびがはいった。

japtuxi s. [acc. *japtuximba*] ゆりかごの頭の方のうら側につけてある小さい木（*bollookto*）でつくった矢の形のもの（ゆりかごの背にあたって音をたて，幼児をあやす）。

jarga s. けだものの一種（聞いたことがあるだけという）。

Jarimbaanu s. 人名（男，*Səəktə* の氏族，*Xoldoxo* さんの父）。

jaurree-ni U v. [perf. *jauraxa-ni*] 線をつける（小刀（*geesuu* または *sinasuu*）で線をつける，そのあとで線でかこんだなかを彫るために N）。

jauxxi-ni v. [perf. *jauxixa-ni*] 人の世話をする：*poowi jauxxini*. かれは自分の親類の子の面倒をみる。

jawaččee-ni v. [perf. *jawataxa-ni*] さわぐ（こどもが，または酒をのんだ人がたくさんでがやがやと）：*puril jawaččeeči*. こどもたちがさわいでいる。／*soktoxosol jawaččeeči*. 酔った人たちがさわいでいる。

jawata s. [acc. *jawattaa*] 飼養となかいのむれ－ herd of reindeer：*ulaa jawatani* 飼養となかいのむれ。

jəəlči-ni NU v. [perf. *jəəlčixə-ni*] はたらかないであそんでいる，酒をのんだりしてだらしなくしている：*arakkee umimi jəəlčini*. 酒をのんでかれはあそんでいる。N／*əm uillə jəəlčini*. はたらかずにかれはあそんでいる。N／*naa naak pulimi jəəlčini*. 方々あるいてかれはあそんでいる。N／*nimərimi jəəlčini*. 隣家に行ってかれはあそんでいる。N／*siromi jəəlčini*. 私通してかれはだらしなくしている。N／*čeennee jəəlčixəni*. 昨日かれははたらかずあそんでいた。U

jəəpillee-ni G v. [perf. *jəəpilixə-ni*] 幸運を祈願する G（*kəssii gəlleeni* N），

（人に）懇願する U.

jəirəgdə num. [acc. *jəirəgdəə*] トランプの９［＜エ ергирэгдэ］.

Jəkimu s. 人名（男，*Naiputunneeni* か，*Torisa* の氏族）。

jəŋgul s. [acc. *jəŋgulbə*] けものの一種（見たことはないよし）。

Jəuriŋənu s. [acc. *Jəuriŋənumbə*] 中川和四郎氏（*Taldaawu Səəktə* 氏族）のウイルタ名。1914年佐知に生まれ，オタスに居住した。1955年北海道に移住，1988年死去。

jəwərri-ni G v. [perf. *jəwərixə-ni*] こぼす，魚のめすが排卵する：*suŋdatta xairree jəwərrini*. 魚がたまごを体外へ排出する。

jogjo NJ s. [acc. *jogjombo* N] 歌をうたうときの長くのばす声 J.

jogjonji-ni v. [perf. *jogjočči-ni*] 歌をうたうとき声をのばす（ふるえ声を出す）。

Jojjoonu s. 人名（男，*Səəktə* の氏族）。

jojoo s. [acc. *jojoombo*] たべものの容器（樺皮製，*anduma* より小さい，神像に供える）。

jojoptoi J s. [acc. *jojoptoiwa*, *jojoptoi*] なまこに類する棘皮動物。

Jokko s. [acc. *Jokkoo*] ヤクート人－ Yakut.

jolo N s. [acc. *jolloo*] , *jnolo* G s., *lolo* JU s. やまいも，えぞえんごさくの根（食用）－ esculent plant

jombo G s. [acc. *jomboo*] 銀製の器（オルチャ人（*Maŋbu*）から渡った，もとは満洲人のものだろうという）。

joodopu s. [acc. *joodopumba*] 魚皮を張ったなかにまめを入れたもの，柄がついていて両手にそれぞれもち振って音をたてる巫事用具。

joonji-ni NU v. [perf. *joočči-ni*] （女が）ぼーっとしてみている，みとれる：*joonjini*. かの女はずーっとみていて仕事もわすれている（*čii itəčimi čii itəčimi oŋbeeni*）。G／*tari əəktə aja xusənneepə itəmi joonjini*. その女はいい男をみて（ほかの人が呼んでも聞こえず）みとれる。U

joonopu NG s. [acc. *joonopumba* N] となかいぞり（*oksoo*）の一番前の湾曲した棒（*čeemboo*）にひも（*xəəxə*）でむすびつけた一本の長い操縦棒（これでかじをとる，すべるのをとめることもある） G，そりを人が引くときにも使う N－ stick for steering a reindeer sledge.

jooppočči-ni NU v. [perf. *jooppočixa-ni*] （人を）ぼんやりとみている。

jooso s. [acc. *joossoo*] 錠－ lock.

joosočči-ni v. [perf. *joosočixa-ni*] ことばをはっきり言わない（どもるように）。

joosollee-ni v. [perf. *joosoloxo-ni*] 錠をかける：*dugba joosolleeni*. 家にかれは錠をかける。

joosoločči-ni v. [perf. *joosoločixa-ni*] 錠をかける (何回も)。

joosondoččee-ni U v. [perf. *joosondotoxo-ni*] あざらしとりに行って帰って来る。

joosondoŋu s. 沖にあざらしをとりに行った人びと。

joosonǰee-ni v. [perf. *joosondoxo-ni*] 海獣 (あざらしなど) をとりに行く, (春に) あざらしとりに行く。

joossee-ni N v. [perf. *joosoxo-ni*] 沖に出てあざらしをとる: *nammoo taljippa joosseeni.* 海の沖でかれはあざらしをとる。G

juk NU adv. びっしょりぬれたさま, 血やうみなどがどっと出たさま: *tari nari juk čikpaxani.* かれはびっしょりぬれた (雨で)。U／*səəksə juk nəəxəni.* 血がどっと出た。NU

jumbuǰǰee-ni U v. [perf. *jumbudəxə-ni*] ずりさがる: *juubukkə* (または *pəruu*) *jumbudəxəni.* スカートが (またはパンツが) ずりさがった。／*pinabi jumbudəxəni.* おれの背のにもつがずりさがった。

jumbulli-ni U v. [perf. *jumbulixə-ni*] 下げる: *pərukki jumbulixəni.* 自分のパンツをかれはおろした。

juubukkə U s. [acc. *juubukkəə*] スカート [<ロ юбка] .

juurullee-ni NJ v. [perf. *juurulaxa-ni* N] すべりおちる, すべりおりる (山から草や雪の上をスキーをつけずにただ足で J): *xurigəkki juurulleeni.* 山からかれはすべりおりる。N

juwakkasi s. [acc. *juwakkassee*] よあかし (魚) (湖, 川にいる)。

juxa s. [acc. *juxamba*] わた (綿) − cotton.

ǰ

ǰaa a. たやすい, しやすい, (値段が) やす (安) い− easy, cheap; s. [acc. *ǰaawa*]: *andupuri ǰaa.* つくることはたやすい。／*bujaǰǰeeni ǰaa.* それはこわれやすい。／*tagǰeeni ǰaa.* かれはおこりやすい。／*tamani ǰaa.* その値段は安い。

ǰaaragda num. [acc. *ǰaaragdaa*] トランプの 10 [<エ дярагда] .

ǰaarakta s. [acc. *ǰaaraktaa*] 木の一種 (さんちん J)。

ǰaasil GJ s. 五歳のくま G, 五歳のおすのくま J.

ǰaassi-ni v. [perf. *ǰaasixa-ni*] よわいとみる (あなどる), やすいとみる: *sii mimbee ǰaassisi.* おまえはおれをよわいとみている。／*ǰaasimi gačči-ni.* かれは安いとおもって買った。

ǰaawučči-ni NG v. [perf. *ǰaawučixa-ni*] けんかのときさあ出てこいと言う N, こんなものなんだと言う (あまくみる) G.

ǰai G s. 樺皮製のかるい舟。

ǰakčee s. [acc. *ǰakčeemba*] ラシャの布地。

ǰakka s. [acc. *ǰakkaa*] たからもの (宝物) − treasure.

ǰakkauna a. 宝をたくさんもっている。

ǰakpu num. [acc. *ǰakpumba*] 八, やっつ− eight: *ǰakpee-ni* 八か月め (妊娠や生後の月数) − eighth month／*ǰakpulta* adv. 八回− eight times.

ǰakpundoo num. [acc. *ǰakpundoowo*] 八十 − eighty.

ǰakpuragda num. [acc. *ǰakpuragdaa*] トランプの 8 [<エ дякпурагда] .

ǰaksiǰǰee-ni U v. [perf. *ǰaksidaxa-ni*] ばかにして声を立てて笑う, 嘲笑する: *xaimi ǰaksidaxanee.* どうしてかれはばかにして笑ったか。

ǰaŋgee s. [acc. *ǰaŋgeemba*] 役人, 警官, 巡査− official, policeman.

ǰaŋgeerree-ni v. [perf. *ǰaŋgeeraxa-ni*] 指図する: *ŋui ǰaŋgeerami ərəŋəči andupulaa.* だれが指図してこんな風につくられたのか。N／*əri mama xaiwaddaa čipal ǰaŋgeerreeni. əri orkini.* このばあさんはなんでもみんな指図する。このばあさんが悪いんだ。N／*əǰǰee ǰaŋgeerraa.* よけいなせわやくな。J／*əəktəə bəəwəəmi ǰaŋgeerreeni.* 二つの家族の間に立った人が女をよめにやるように指図する。U

ǰarguli s. 妖怪の動物。

ǰaun G s. 人が野生となかいを殺して雪に埋めたところ (あとで掘り出す)。

ǰaunǰi-ni G v. [perf. *ǰaučči-ni*] 猟のえものを雪に埋める。

ǰawaa NGJ s. [acc. *ǰawaamba* N] 耳あて (この語はNの伝承するなぞなぞにあらわれるが, Jは耳 (*seen*) のことであるといい, Nもそうもいうが, Nは語義がはっきりわからないようである。Gによれば, 毛皮帽子の耳おおい, この語はオルチャ人 (*Maŋbu*) のことばだという)。

ǰawai G s. 人名 (*Dəpseenu* と同一人)。この人は *dapattaari* (つかめ) を *ǰawaččaari* と発音した。

ǰawal G s. くまの発情期 (*asibi dapuččeeni taldaani*) (七月) (この期間くまはもっとも恐ろしい, くま同士も争う)。

ǰaxa s. [acc. *ǰaxxaa*] 貨幣, ぜに, おかね (この語は, 母が使ったが自分は使わず, かわりに *gumaska* という N)。

ǰaxu G num. 万の上の数の位どり。(Cf. *daxu* N.)

ǰee [1] s. [acc. ǰeewa, pl. ǰeesil] あいぼう (相棒) (狩猟・漁労を一緒にするよその家や氏族の人たちもǰeesilという) − partner: ǰeesilči あんたの家内 (こども・年寄りをふくめて) ／ puttə ǰeeni こどものあいぼう (ǰee) (精神的にあいぼうをもつと信ぜられるこどもはそれにいじめられるので木で人の形をつくってきものにつける)。

ǰee [2] adv. また (ふたたび): ǰəə poktokki ŋənəmǰee ǰee tawasai geeda pokto biini. この道をずっと行ってまたあっちへ一つの道がある。／ ǰee əsiwi issoo. もうおれは帰って来ない。

ǰeelačči-ni v. [perf. ǰeelatuxa-ni] 連れになって一緒に帰るようもとめる。

ǰeelasi-ni v. [perf. ǰeelači-ni] 連れになって同行するようもとめる: čaa narree ǰeelasini. その人にかれは同行をもとめる。／ məənə ǰeeǰǰi ǰeelasini. かれは自分のつれになるように同行をもとめる。／ ǰeewi ǰeelasini. おれのあいぼうが一緒に行くようにさそう。

ǰeeppi-ni U v. [perf. ǰeeppuxa-ni] 連れのなかまと一緒に行く。

ǰeeru a. しつこい, ずうずうしい (なんどやらないと言ってもくれという): ǰeeru nari しつこい人 N／ ǰeerulambani. かれのしつこいこと (ね)。U

ǰeeruǰǰee-ni U v. [perf. ǰeerudaxa-ni] しつこい: tari nari ǰeeruǰǰeeni. その人はしつこい。

ǰelbum, ǰelburam(i) U adv. はな水をたらしているさま: (naaksani) ǰelbum (または ǰelburam(i) suŋuččini. はな水たらしてかれはこごえていた。

ǰeluska s. [acc. ǰeluskaa] よだれ− slaver, saliva.

ǰəə int. さて (男が話 (kəsə) のはじめに言う)。

ǰəwisəl GJ s. 六歳のくま。

J̌əwweenu s. 人名 (男, Səəktə の氏族)。

ǰigakta JU s. [acc. ǰigaktaa U] 枯れ葉 J, 落ち葉 U.

ǰiiluwə, ǰiiləə s. [acc. ǰiiluwəmbə, ǰiiləəmbə] はえ (蝿) − fly.

ǰiimasi-ni v. [perf. ǰiimači-ni] よその家で御馳走になる: niməǰu ǰiimasini. 近所でかれは御馳走になる。／ dəppee ǰiimasini. 食事をかれは御馳走される。

ǰiimnee-ni v. [perf. ǰiimaxa-ni] およばれして行く: nimətəi ǰiimaxani. 近所へかの女はおよばれして行く。

ǰiin num. [acc. ǰiimbə] 四, よっつ− four: ǰiin ǰiinǰi よっつずつ／ ǰiijjee-ni 四か月め (妊娠や生後の月数) − fourth month／ ǰiiltə adv. 四回− four times.

ǰiindoo num. [acc. ǰiindoowo] 四十 − forty.

ǰii-ni s. [acc. ǰiiwə-ni] (と) おなじぐらいのもの, ほどのもの: toxo ǰiini ボタンぐらいの大きさのもの ／ nəəčigən ǰiini 小鳥ほどの大きさのもの／ min(i) ǰiiwi nari ぼくと同じ年ごろの人／ məənə ǰiiwəri narilba itəxəpu. 自分たちと同年ぐらいの人たちをわれわれは見た。

ǰiktu a. ふとい− thick [ant. nəmdə]; s. [acc. ǰiktoo]: ǰiktu moo ふとい木／ ǰiktu səəksə ふといひも／ ŋaalani ǰiktu. かれの手は太い。

ǰilaččee-ni v. [perf. ǰilataxa-ni] あせをかく− perspire, sweat: bii ǰilataxambi. おれはあせをかいた。

ǰilata s. [acc. ǰilattaa] あせ (汗) − sweat.

ǰilba s. [acc. ǰilbaa] 胸のまわり (あるいは胸のまわりに関することか)。

ǰilda s. [acc. ǰildamba] こえ (声) − voice.

ǰildamičči-ni G v. [perf. ǰildamičixa-ni] 男の子が青春期になり陰毛を生じ, 声変わりする。

ǰildanǰi-ni v. [perf. ǰildačči-ni] な (鳴) く (鳥, 虫が) − (a bird, an insect) sing: gaaji ǰildanǰini. からすが鳴く (からすが鳴くと女の人が死ぬという)。／ koliga ǰildanǰini. 虫が鳴く。／ ǰili ǰildanǰini. やまや川で死者の声が xuujjuu と音をたてる。

ǰili s. [acc. ǰillee, all. ǰilitai] あたま (くびから上の部分) − head.

ǰiliga N s. [acc. ǰiligamba], ǰilee J s.: kəə ǰiligani ちくび N／ kəən ǰileeni ちくび J.

ǰiligəri s. [acc. ǰiligərree] てんじく (天竺木綿)。

ǰiliku s. あたま (ǰili) (幼児語): ǰilikumbani その人のあたまを。

ǰilimačči-ni v. [perf. ǰilimačixa-ni] あたまをはちあわせする: əəktənnee ǰilimačimi sorimaččini. おんながあたまをつきあわせて互いにあらそっている (かみのけをつかみあって)。

ǰiliptu U s. 病気治療のための輪状のかぶりもの: əmugə ǰiliptuni ゆりかごのなかの頭をおくところの布きれ N.

ǰillə s. [acc. ǰilləmbə] うそ− lie.

ǰilləməŋu s. [acc. ǰilləməŋŋəə] うそつき。

ǰilləniččee-ni v. [perf. ǰillənitəxə-ni] うそをつきに行って来る。

ǰillənǰi-ni v. [perf. ǰilləčči-ni] うそをいう− tell a lie.

ǰilləppəčči-ni U v. [perf. ǰilləppəčixə-ni] うそをついてあるきまわる。

ǰilləpsisi-ni v. [perf. ǰilləpsiči-ni] うたがう− doubt: kəənǰiwəni ǰilləpsisini. ほかの人が言うことをかれはうたがう。／ ǰilləpsimi doolǰixani. かれはうたがいながら聞いた。

ǰimda NU s. [acc. ǰimdamba N, ǰimdaa U] うぐい (魚) − a kind of fish.

ǰiŋ adv. 非常に: ǰiŋ maŋga 非常に強い N／ ǰiŋǰiŋi adv. 非常に強く (mastaa

maŋgaǰi) G.

ǰip adv. すきまなく：*ǰip osini.* それはすきまがなくなる。

ǰirami a. あつ (厚) い－ thick [ant. *nəmiləttə*]; s. [acc. *ǰirammee*]: *ǰirami busu* 厚い布／*ǰirami natta* 厚い皮／*aamini ǰirami.* かれのねむりはふかい。

ǰirəəsu a. ずるい－ cunning, unfair; s. [acc. *ǰirəəssəə*]: *ǰirəəsu nari* ずるい人。

ǰiwəgdə s. [acc. *ǰiwəgdəə*] 樹木の一種 (あかがんび J) (エゾノダケカンバ)。

ǰobbee-ni v. [perf. *ǰoboxo-ni*] 苦労する：*ǰobbee* s. (imperf.) [acc. *ǰobbeewa*] 苦労する，貧しい－ poor: *kəəkkumbə ǰobbeeni.* 魚がかからず網がからっぽでかれは苦労する。

ǰobbouččі-ni U v. [perf. *ǰobboučixa-ni*] 苦労させている：*mini ǰeewi xasultadda mimbee ǰobboučixani.* おれのあいぼうは (弱くて) なんどもおれを苦労させた。

ǰobboulli-ni U v. [perf. *ǰobboulixa-ni*] 苦労させる：*tari nari mimbee ǰobboullini.* その人はわしを苦労させる。

ǰobočču a. めんどうだ (この語は述語として使う)：*ǰobočču biŋəttə.* めんどうだ，ほっとけ。／*ǰoboččoo.* めんどうくさいなー。

ǰobočču-si-ni v. [perf. *ǰobočču-či-ni*] むずかしい，めんどうくさい (むずかしさを体験しつつある)，めんどうくさがっている：*bii andumi ǰobočču-siwi.* ぼくはつくりながらむずかしさに閉口している。／*ǰobočču-mi xoǰiǰǰini.* かれはめんどうでやめる。

ǰobočču-uli a. めんどうくさい，むずかしい－ troublesome, difficult [ant. *ǰaa*]: s. [acc. *ǰobočču-ullee*].

ǰočče-ni[1] U v. [perf. *ǰočču-xo-ni*] (あざらしの) あぶらが (料理の際などに) はねてきたなくなる：*təteə ǰočču-xoni.* 服があぶらがはねてよごれた。

ǰočče-ni[2] v. [perf. *ǰočo-xo-ni*] こま (困) る：*nari ǰočče-eni.* 人がこまる。

ǰočču U s. (あざらしなどの) あぶらがついたよごれ (食事でついたよごれを洗わずにいるのもいう)：*təteəni ǰočču-ni* その服のあぶらによるよごれ／*ǰočču-ooni itəxəmbi.* (服の) よごれをわたしは見た。／*ǰočču-omoli təteə* あぶらによるよごれだらけの服。

ǰogbo s. [acc. *ǰogboo*] 銛先 (鉄製)。

ǰogbollee-ni U v. [perf. *ǰogboloxo-ni*] もり (銛) でさす，棒を投げて遊ぶ：*pəəttəə ǰogboloxoni.* あざらしにかれはもりをさした。／*ǰogboǰi ǰogbolleeni.* もりをかれはさす。

ǰokigalli-ni v. [perf. *ǰokigalixa-ni*] 合う (人同士が)：*tarisal ǰokigalixal.* その人たちはちょうどよく合った人だ (夫婦が)。

ǰokki-ni v. [perf. *ǰokixa-ni*] あ (合) う－ suit, fit: *kupə ǰokkini.* 糸の色が合う。／*ǰokixa naril* 合った人たち (夫婦についてもいう)／*ǰələ(ə) unigəčimi andupumi ǰokkini.* これにあわせてつくればそれは合う。

ǰokkoonǰi-ni v. [perf. *ǰokkooč-či-ni*] あ (合) わせる (なにかつくるとき二つの部分が合うようにつくる)。

ǰolo N s. [acc. *ǰolloo*] いし (石)，いわ (岩) － stone, rock: *moo ǰoloni* 木の石 (木目があり，軽い，川の *muŋgə* にあり，*piiwə* につかう) G.

ǰoločči-ni v. [perf. *ǰoločixa-ni*] 石をなげる (何回も)：*ǰoloǰi ǰoločixani.* 石をかれはなんどもなげた。

ǰololle-ni v. [perf. *ǰololoxo-ni*] 石をなげる：*ǰoloǰi ǰololoxoni.* 石をかれは一つなげた。

ǰoŋǰo s. 絹織物の一種 (緞子の一種 [＜満 jongdon, 漢 粧緞] か)：*ǰoŋǰo səurəni* 絹織物の一種。

ǰooloi a. びっこの－ lame; s. [acc. *ǰoolokkee*] ちんば－ cripple: *ǰooloi nari* びっこの人／*ǰoolokkee gaččini.* びっこの人をかれは妻とした。

ǰoolonǰi-ni v. [perf. *ǰoloč-či-ni*] びっこをひく－ limp: *ǰoolomi giččini.* かれはびっこをひいて歩く。

ǰoon num. [acc. *ǰoombo*] 十，とお－ ten: *ǰoojjee-ni* 十か月め (妊娠や生後の月数) － tenth month／*ǰoolto* adv. 十回 － ten times／*ǰoon geeda* 十一 － eleven／*ǰoon deə* 十二 － twelve／*ǰoon ilaa* 十三 － thirteen／*ǰoon ǰiin* 十四 － fourteen／*ǰoon tunda* 十五 － fifteen／*ǰoon nuŋu* 十六 － sixteen／*ǰoon nada* 十七 － seventeen／*ǰoon ǰakpu* 十八 － eighteen／*ǰoon xuju* 十九 － nineteen／*ǰoombo biini.* 十くらいある。

ǰoričči-ni U v. [perf. *ǰoričixa-ni*] 人差しゆびでさす (何回も)。

ǰorikku s. [acc. *ǰorikkoo*] 銃の照星・照門：*duluu ǰorikku* 照星／*xamaruu ǰorikku* 照門。

ǰorillee-ni J v. [perf. *ǰorilaxa-ni*] 人差しゆびでさす (一回)：*mini ǰorilaxambawwee ittəu.* おれのゆびさしたところを見ろ。

J̌oroukaan s. 速くはしる (*kəələ*) 飼育となかいのおす (*xusə ulaa*) の名。

ǰorri-ni NJU v. [perf. *ǰorixa-ni* NU] 女が怒って相手をきめつけるときなどに人差しゆびでさす。

ǰurku NJ s. [acc. *ǰurkumba* N] , *durku* KJ s. なかゆびの関節を突き出したにぎりこぶし，げんこつ。

ǰurkullee-ni G v. [perf. *ǰurkulaxa-ni*] げんこつでつく。

ǰuurəgdə G num. 2頭でいるとなかい［<エ дюрэгдэ］.
ǰuwəgdə JU s. [acc. ǰuwəgdəə U] 樹木の一種 (ばっくがんび J)。

k

kaakaldaaru NGJ s. [acc. kaakaldaarroo N] がっからがも N, おおはむ (食用) G, へいけたおし J.
kaalǰi-ni NJ v. [perf. kaalči-ni N] しのびよる (襲うために) N, (人殺しやどろぼうをして逃亡してから) ひそかにもどって来る J: narree əsini kaalboonda. (となかいやいぬが) 気が荒くなって人をよせつけない。J
kaalmada a. 大事に育てられた: kaalmada patala 大事に育てられたむすめ (kaalmapula patala)。
kaalmauli G a. 大切な: kaalmauli patala 大切なむすめ。
kaalmee-ni v. [perf. kaalmaxa-ni] むすめを大事に育てる (uǰǰini)。
kaalpa U s. [acc. kaalpaa] 木 (えぞまつ, とどまつなど G) が密生し, 倒れた木からは小さい木がはえてあたまも入れられないところ。
kaamdaa s. [acc. kaamdaamba] くつをはくとき足に巻く布。
kaami s. [acc. kaammee] 腰痛のときなどにつける胴巻き (削りかけでつくってある)。
kaaŋai s. [acc. kaaŋakkee] かんかい, こまい (魚) − a kind of fish: kaaŋai ənini たら (鱈) − cod.
kaaŋalda s. [acc. kaaŋaldaa] となかいのくびにつける板鈴 (木製, 嫁入りのそりをひくめすとなかいにもつける)。
kaappauri-ni v. [perf. kaappauxa-ni] あげる (上へ, 舟からおかへ): ojoskoɪnbo kaappaurini. 荷物をかれは (車へ) あげる。U／ugdaduu ojoskombo kaappaurini. 舟から荷物をかれは (おかへ) あげる。U
kaappee-ni v. [perf. kaapaxa-ni] あがる, のぼる − ascend, climb: ǰiisəi kaappeeni. (川や海に対して) うらのやまの方へかれはあがる。／xurigəkki kaappeeni. 山へかれはのぼる。
kaar(it)ta s. [acc. kaar(it)taa] トランプ［<ロ карта］− cards.
Kaareenu s. 人名 (男, Waaleetta 氏族)。
kaarri-ni v. [perf. kaaruxa-ni] しお (潮) がひく。
kaaru NJ s. [acc. kaarroo N] ひきしお (干潮): kaaru xɔjɔni しおのひき N.

kaaruǰǰi-ni v. [perf. kaaruduxa-ni] しお (潮) がひいてもとにもどる: namu girini kaaruǰǰini. 海の浜は潮が引いてもとにもどっていく。
kaasi s. [acc. kaassee] 出産後柱につるす (かける) 偶像。
kaattoori-ni G v. [perf. kaattooxa-ni] くまが樹皮をむいて水を吸う。
kaattukki-ni NU v. [perf. kaattuuxa-ni N] あと足で立つ, あと足で立ってまえ足をあげてとびあがる: ŋinda kaattukkini. いぬがあと足で立ってとびあがる (さかな干しの掛け木 (saan) に掛けてあるさかなをとろうとして)。NU
kaatturree-ni v. [perf. kaatturaxa-ni] 自分はせずになんでも他人をつかってさせる (baajuu が)。
kaattuwa NG s. [acc. kaattuwamba N] , kaattoo J s. おとしわな (木や棒の上に獣肉やさかなをつるし, これを食べようとあと足で立つきつねなどが木の間にはさまる仕組みのわな)。
kaawui s. [acc. kaawukkee] さけ・ますのはらを裂くほうちょう, でばほうちょう (刃は右側にある U)。
kabarasi J s. 貝の一種 (だんべがい)［<ア kapar + sey］.
kabbeela s. [acc. kabbeellaa] しろやまどり (樺太雷鳥)。
kaččee-ni GU v. [perf. kataxa-ni G] 水につけてやきを入れる: kučigəmbə kaččeeni. 小刀をかれはやきを入れて鍛える。G
Kačuru s. 人名 (男, Waaleetta 氏族)。
kada s. [acc. kaddaa] がけ − cliff: uni kadani 川岸のがけ J／namu kadani 海岸のがけ J.
kadačči-ni U v. [perf. kadačixa-ni] 禁止する (たとえば, 来てはいけないと来させない): duxutai əmi iiwəəndə kadaččini. 家へ入らせずかれは禁じる。
kadara [1] a. 大きい: kadara nari 大きい人／kadara oksoo 大きいとなかいぞり／kadara amma 祖父よりやや若い尊属 (大叔父, 伯父) ／kadara axa 一番大きい兄。
kadara [2] NGJ s. [acc. kadaramba N] くじら GJ − whale.
kai int. まがれ (そりを引くいぬへまがって行かせるとき言う): kai kai まがれ。
kaita s. [acc. kaittaa] いかり (ふねの)［<ア kaita］.
Kajaaŋgu s. [acc. Kajaaŋgumba] 人名 (女)。
kajama s. [acc. kajammaa] うらに毛皮をはりつけてないスキー (皮をはりつけたスキー (kumultə) より短い) − ski.
kaksi-ni NG v. [perf. kaksixa-ni] つないであるいぬがはなれて行こうとする。
kakta U a. つよい (酒などが): kakta arakki つよい酒。
kaktarisi-ni v. [perf. kaktariči-ni] からい (たとえばからしが) − be hot (be

pungent).

kaktaruuli a. からい (たとえばからしが) − hot (pungent).

kalaŋari NG s. [acc. *kalaŋarree* N] 猟小屋。

kalgama s. [acc. *kalgammaa*] 巫者がつくる偶像。

kalipu s. [acc. *kalipumba*] 銃弾の鋳型。

kalixi s. [acc. *kaliximba*] きずあと (人間，けだもの，とり，うおのからだの): *kalixi suŋdatta* きずあとのあるさかな (あざらしなどによってきずつけられた)。

kaljami NGJ s. [acc. *kaljammee* N] 大男の怪物，おに (むかしばなしにあらわれる，あたまがとがっている (*suluktu*)，血をこわがり，*təuktə* を渡らない，人間の子をさらい，目，口，鼻へやにをぬりつける) − monster; 大男の怪物が腰にさげる小容器 (人間やけだもののつめが入っており，このけだもののつめを手に入れると幸運にめぐまれるがこの人間のつめにさわることは悪く，死ぬという) G: *kaljami tutuuni* 石の一種 (砂が石になったもので，薬にもなるという) J.

kallee-ni v. [perf. *kalaxa-ni*] か (変) える，か (変) わる − change: *tətukki kalleewi*. 自分のきものをおれはかえる。／ *tari nari uiləkkəə kalleeni*. その人は仕事をかえる。／ *ulaa okkooni kalleeni*. となかいの食うこけのある場所をかれはかえる (さきの場所のこけがなくなり)。／ *tuksa sinaktani kalaxani*. うさぎの毛がかわった (季節で)。

kalpikta U s.: *isal kalpiktani* まぶたのうら (Cf. *isal ojoni* まぶたのおもて)。

kalpirakta s. [acc. *kalpiraktaa*] まぶたのうらの赤い部分。

kaltaa s. [acc. *kaltakkaa*] 半分− half: *kaltaa bee* 半月／ *kaltaani kaltaani* 四半分− quarter.

kaltajjee-ni v. [perf. *kaltadaxa-ni*] わ (割) れる− be broken: *alukku kaltadaxani*. 容器が割れた。

kaltalima U a. 二つに切り裂いて骨はついたまま尾でつながっている (干してある): *kaltalima suŋdatta* 上記の二つに切り裂いたさかな。

kaltalli-ni v. [perf. *kaltalixa-ni*] わ (割) る (一回) − crack, split: *moowo kaltallini*. 木をかれは割る (たとえばスキーをつくるのに)。

kaltaram N. *kaltaramji* G adv. まっぷた (真二) つに: *kaltaram taaččini*. かれは踏んでまっぷたつに割った。N／ *kaltaramji kaltadaxani*. それはまっぷたつに割れた。G

kaltassi-ni v. [perf. *kaltasuxa-ni*] わ (割) る (何回も，たくさん) − crack, split: *moowo kaltassini*. 木をかれは割っている。

kalumuri s. [acc. *kalumurree*] いた (板) − board, plank.

kamaanda NJ s. 使われている人 (船頭・親方に対して若い者，エウェンキー

(*Kiilləə*) のことばだという G) [< ロ команда]: *mini kamaandabi* おれの使っている若い者 (日雇い人) J／ *xotto kamaandani* まちの普通の人 (庶民) N.

kamalli-ni NU v. [perf. *kamalixa-ni*] 1. つよく催促する: *tari nari naŋdaa kamalixani*. その人は借金を返却するように催促した。U／ *goropči naŋdala xaimi kamallisee*. 古い借金についてどうしてあんたは催促するのか。U; 2. 横に寝ている人が寄っていってとなりに寝ている人を窮屈にする U: *nari mimbee kamallini*. 横に寝ている人が寄って来ておれを窮屈にする。U; 3. 氷が舟をはさむ (舟が動けなくなる) U: *duwə ugdaa kamallini*. 氷が舟をはさむ。U

kamdu s. [acc. *kamdumba*] にかわ (さけ・ますのような魚の皮をうろこをとって煮てつくる，接着につかう) − fish glue.

kamji-ni v. [perf. *kamduxa-ni*] にかわでつける: *kamdunji kamjini*. にかわでかれはつける。

kamusai NJ s. [acc. *kamusakkee* N] 日本酒 [< ア< 日 *かむさけ (神酒) ヵ]: *kamusakkee umixani*. 日本酒をかれはのんだ。N

Kanda s. 人名 (男)，俗称 (本名は *Lojiŋgeenu*)。

kanui s. [acc. *kanukkee*] こんぶ− kelp.

kap adv. 一緒にかたまって: *kap osini*. 一緒になる，かたまる (たとえば，飛んでいる二羽のとりがならぶとき，二つ以上のものについてもいう) ／ *dəə gassaa kap naaŋbuxani*. 二羽のとりに一緒に (たまが) 当った。

kapčirree-ni v. [perf. *kapčiraxa-ni*] すくむ (おそろしくて人が): *ŋəələmi kapčirreeni*. おそろしくてかの女はすくむ。

kapira NGJ s. [acc. *kapirraa* N] はさんでとる猟具，はさみ (かわうそ・てんなどをとる，糞をしたところに仕掛ける)。

kapirree-ni v. [perf. *kapiraxa-ni*] はさむ (わきのしたに，木に，たたんだ紙の間に): *xawanikki kapirreeni*. かれは自分のわきのしたにはさむ。

kapkaa NG s. [acc. *kapkaamba* N] はさんでとる猟具，はさみ (きつね・てん・かわうそなどをとる)，*kapira* とおなじ。

kappi-ni v. [perf. *kapixa-ni*] 糸と針でからげる。

kappuuččee-ni NG v. [perf. *kappuutaxa-ni* N] 天気がひどく (*boo maŋga*) 途中でとどまらせてそのままである (陸でも，海へ舟で行ったときでもいう): *boo kappuuččeeni*. 天気がひどく途中で足どめさせたままである。N

kappuučči-ni U v. [perf. *kappuučixa-ni*] 天気が悪くて人を途中で (やまでまたは海を舟で行くとき) 長く足どめさせている: *boo kappuuččini*. 天気が荒れて途中で足どめさせている。

kappuunji-ni U v. [perf. *kappuučči-ni*] 布のしわをのばさず，ちぢんでいるとこ

ろをそのまま縫ってしまう，布をのばしてただんでおかず，しわだらけにする：*kitaanǰi kappuunǰini.* 針でかの女は布のしわをのばさずそのまま縫う。N／*bussoo kappuunǰini.* 布をかの女はたたまずにしわだらけにする。U

kappuuri-ni v. [perf. *kappuuxa-ni*] 天候がひどく悪くて行く途中でとどまらせる：*ŋənneeləxəmbəwwee boo kappuuxani.* おれは行こうとしたものを天気が足どめをくわせた。

kaptuunǰi-ni v. U [perf. *kaptuučči-ni*] からげて縫う：*uttaa andumi kaptuunǰini.* くつをつくるときかの女はくつのふちをからげて縫う。

kapulli-ni v. [perf. *kapulixa-ni*] お（折）る（一回）（たとえば，えぞごぜんたちばな（*kəkkə*）（草）を片手で折る）－ break.

kapussi-ni v. [perf. *kapusuxa-ni*] お（折）る（何回も）－ break：*ŋaalaǰǰi moo garraani kapussini.* 片手で木のえだをかれは折る。

kapuwa N s. [acc. *kapukkaa*か，*kapuwamba*かわからぬという]，*kapoo* JI s. ごぜんたちばな（白い花が咲き，食べられる液果がなる）。

karau a. となかいの体や足の毛の色が黒でないが，まっ白でもない色（灰色か）の：*karau ulaa* 毛の色が黒と白の中間のとなかい。

Karaukaan s. 速くはしる（*kəələ*）飼育となかいのおす（*xusə ulaa*）の名。

kargee-ni v. [perf. *kargaxa-ni*] 遠くから注視する，望見する：*xawasai gaǰǰiwani kargau.* どこへもって行くか遠くから見ていろ。

karka s. [acc. *karkaa*] くろゆりの根（食用），くろゆりの総体－ lily bulb (edible).

karu s. [acc. *karumba*] 賃金，給料（番屋で働いて得る物品，現金）－ wages.

karuma N s. [acc. *karummaa*]，*karima* GJ s. さめ（魚）。

karumaanu s. [acc. *karumaannoo*] ポケット［<ロ карман］.

karumasi-ni v. [perf. *karumači-ni*] 給料をもらう，賃金をうる：*uiləxəmbi karumasini.* 自分のはたらいた賃金をかれはもらう。

karunǰi-ni v. [perf. *karučči-ni*] 賃金をはらう。

kas NU adv. 寄りみちせずにまっすぐ：*kas ŋənneeni.* よそに寄らないでまっすぐかれは行く。N／*kas kas pulisini.* 寄りみちせずにかれはあるいてゆく。U

katalai s. [acc. *katalaimba*] 戸口の敷居をなす木 N（板を立ててある U），屋内のたき火の上座側と戸口側の炉ぶちの棒 J：*maluduu katalai* 上座に近い炉ぶち棒 GJ／*utəduu katalai* 戸口の方に近い炉ぶち棒 GJ.

katarree-ni v. [perf. *kataraxa-ni*] からげてしばる（にもつなどを）：*xuldaa katarreeni.* はこをかれはからげてしばる。

katta[1] JU a. やきを入れて鍛えた：*sələ katta* 鉄がやきが入ってかたい（やすりがきかない）J／*katta kučee* やきの入った小刀 J.

katta[2] NG a. つよい（酒，とうがらしなどが）N，きつい（気のつよい）N，こ（濃）い（色が）G；N s. [acc. *kattaa*]：*katta arakki* つよい酒 N／*katta əəktə* 気のつよい女 N／*katta səəgdə* 濃い赤 G.（Cf. *kakta.*）

kattooska s. [acc. *kattooskaa*] じゃがいも－ potato［<ロ картошка］.

katu s. [acc. *katumba*]（トランプの）女王。

katuwa[1] G s., *katoo*[1] J s. 動脈（*xogboli*）G（Jはとなかいについてこの語を挙げた）：*meewa katuwani* 心臓の動脈 G／*meewa katooni* となかいの心臓の動脈 J／*xababi katuwani* 肺臓の動脈 G／*xababi katooni* となかいの肺臓の動脈 J.

katuwa[2] G s., *katoo*[2] J s. フレップ（液果）の一種（赤い）。

kau adv. ある行動をやめておこなわないさま：*kau osini.* 人が歩いていてとまる。／*ŋənəmǰikəə čadu kau ilixani.* 行くあいだにそこでかれは立ちどまった。／*kau buu.* じっとしていろ（猟のときあざらしやけだものがみえたとき同行者に言う）。／*kau biini.* かれはやすんでいる，仕事せずにいる。／*xaiwadda əsini xairaa. kau biini.*（おとうさんきょうなにしているとたずねられたこどもが答えて）なにもしていない。やすんでいる。

kaukau s. [acc. *kaukauwa*] 小さい丸木舟（かい（*səul*）でこぐ，ひとり乗り，小さい沼でさかなをとるとき使う）。

kaumičči-ni v. [perf. *kaumičixa-ni*] のどをしめる（何回も）：*bildaani kaumičči-ni.* かれはほかの人ののどをしめている。

kaummi-ni v. [perf. *kaumixa-ni*] しめつける－ squeeze：*bildaani kaummini.* ほかの人ののどをかれはしめつける。

kaura[1] s. [acc. *kauramba*] 夏の小屋（長方形地面の上に立ち，樹皮（とどまつ，えぞまつの，古くは樺の）でつくり，棟木をもつ，屋内のたき火で魚を乾燥させる）－ summer hut.

kaura[2] NJ s. [acc. *kaurraa* N] なまこ（棘皮動物）［<ア kakura（ふじこ）］。

kauraktu s. [acc. *kauraktoo*] 布製の服（上着）（男子用と女子用があり，前者は丈がひざの上まで，後者はひざの下まである，うしろみごろにダーツがある）。

kauričče-ni v. [perf. *kauritaxa-ni*] あることをしないように，あるいは，人に悪くあたらないように相手に言う：*kauritami xərəssini.* 悪口を言わないようにかれは相手をとめている。NU

kaurii NG s. [acc. *kauriimba* N] いぬぞりの両側の各一本の制動棒（かじもとる G）。

kauriičči-ni v. [perf. *kauriičixa-ni*] はどめをかけている（いぬぞりで行くとき

に)。

Kauru s. 人名 (男, *Waaleetta* 氏族)。

kauta s. [acc. *kautamba*] 花ござ (アイヌ人から入手した) − figured mat.

keegaasi G s. 貝の一種。

keekpari s. [acc. *keekparree*] えび − shrimp.

keeltami s. [acc. *keeltammee*] 家屋内部のはじ (戸口に近いところ G) の食事用具のおきば (冬はここで調理する) − area for storing cooking utensils in a conical hut.

keemaa s. [acc. *keemaamba*] 男子のおびについている金具 (おびどめ)。

keemi s. [acc. *keemmee*] 髪を左右二つにたばねる髪の結い方。

keenǰi-ni v. [perf. *keečči-ni*] うさぎがなく。

keeŋguči NGJ s. [acc. *keeŋguččee*, all. *keeŋgučitai* N] さけ・ますのほっちゃり J, 産卵後の魚 (*xairree jəwərimi xoǰixa suŋdatta*) G.

keepira s. [acc. *keepiramba*] 女子服の *pokto*, *xəktə* や *mərəə*, 女子用の *utta* などに縫いつけてある細長いふちどり。

keepirree-ni v. [perf. *keepiraxa-ni*] 細長いふちどりを縫いつける (衣服, 手袋, くつに)。

keeta s. [acc. *keettaa*] 死んだあざらしや魚。

keewu s. [acc. *keewwoo*] ごめ (かもめ) (食用 G)。

keexači J s. 貝の一種。

kelbuŋa a. 片目が見えない: *isalli kelbuŋa* かれの目は片目見えない。

keŋ: *nalmakta keŋŋ keŋ ǰildanǰini*. 蚊がキーンキンなく。

keupu G s. [instr. *keupunǰi*] 川にはった氷の下の魚を追いたてて川しもでとるため氷にあなをあけて水をつく棒 (樹皮ははぎとってある)。

keuri s. [acc. *keurree*, all. *keuritai*] い (胃) − stomach: *ilda keurini* あざらし (*dauŋgari*, *baawui*, *amuspi*) やとどの胃袋でつくった油入れのふくろ, これに入れておくと油はやけない。

keuwa s. [acc. *keuwwaa*] 女の *pəruu* の上についているかな具 (N は見たことはないという)。

keuwwi-ni v. [perf. *keuwixa-ni*] 川にはった氷の下の魚をとるため川しもに網を入れ川かみで氷にあなをあけて棒をさしこみ水をつく (*tokko* 漁の際): *suŋdattaa keuwwini*. 川の氷の下の魚を追いたててとるためにかれは棒でどぶんどぶんと水をつく。G

kəčigənnee-ni v. [perf. *kəčigənəxə-ni*] ひびがきれる, ひびがきれて皮膚がざらざらになる: *mini ŋaalabi kəčigənəxəni*. わたしの手はひびがきれた。

kəčil kəčil a. ざらざらな − rough: *kəčil kəčil očči nari* 手がざらざらした人／*ŋaalani kəčil kəčil biini*. かれの手はざらざらしている。

kəčixirəǰǰi-ni v. [perf. *kəčixirəǰixə-ni*] うらむ: *mimbee kəčixirəǰǰini*. おれをかれはうらんでいる。U

kədərə s. [acc. *kədərrəə*] 獣皮なめし道具 (鉄製, 中央部はここで皮をこすり, あざらしの皮のあぶらやあざらし・となかいの皮の毛をとる。両端部にはのこぎりのような歯があり, なめすのに使う。両はじにさらに木の柄がついていて, これを両手でつかんで使う) − tanning tool.

kədərəktu NJ s. [acc. *kədərəktəə* N] しま (縞) (布などの), あさり貝: *kədərəktu kəjuwə* あさり貝 N／*kədərəktu kəjuwə xəltəni* あさり貝のみ (身) N.

kədərree-ni v. [perf. *kədərəxə-ni*] *kədərə* を使って皮なめしをする: *nattaa kədərreeni*. 皮をかの女はなめす。

kəə NG int.: *kəə kəə* あついあつい (熱い) NG／*kəə kəə kəə* あっちっち (熱い) G.

kəəčiktə s. [acc. *kəəčiktəə*] かれいなどの魚のはだのいぼ。

kəəčiktənnee-ni v. [perf. *kəəčiktənəxə-ni*] あかぎれになる: *mini ŋaalabi kəəčiktənəxəni*. わたしの手があかぎれになった。／*kəəčiktənəmi čigadaxani*. あかぎれになってそこが切れた。

kəəkku a. からっぽの − empty; s. [acc. *kəəkkumbə*]: *kəəkku ugda* からの舟。

kəəldəə J s. はやぶさ。

kəələ NJ a. はや (速) い (*kusal*) (となかい, いぬ, 人間, あざらし, ふねが), s.: *kəələ ulaa* 速いとなかい N.

kəəlli-ni[1] v. [perf. *kəəlixə-ni*] えぐる, ほ (彫) る (小刀 (*kučigə*) を使うなどして) − hollow out (carve): *kəəlimi andusini*. かれは彫ってつくる (さじなどを)。／*piil kəəllini*. *piil* がとれて皮膚にあばたをつくる。

kəəlli-ni[2] v. [perf. *kəəluxə-ni*] 話しはじめる (たとえば, いつも話す話をまたはじめる)。

Kəəni s.: *Kəəni mapaačča* カーニじいさん (本名 *J̌əwweenu*)。

kəənǰi-ni v. [perf. *kəəčči-ni*] はな (話) す − speak, talk: *simbee kəəččini*. あんたのことをかれが話した。

kəərəkku s. [acc. *kəərəkkəə*] 引き網漁 (ウイルタの従来のやりかたでは, おかで一人が網をもって川下へくだり, 舟に三人乗り, 一人はかいをかき, 一人はともにおり, 一人が網をなげてくだり, おかにあがってから引く), 引き網漁をする

場所。

kəərigənji-ni v. [perf. *kəərigəčči-ni*] さかなを裂いてきりめを入れる：*dawwaa kəərigənjini.* さけをかれは割ってきりめを入れる。

kəərree-ni v. [perf. *kəərəxə-ni*] 網を引く（引き網漁をする）：*kəərəkkəə*（または *kəərəkkuji*）*kəərreeni.* かれは引き網をする。

kəigəli s. [acc. *kəigəllee*] となかいのくびにつける木の輪（これに *čəəŋgəi* をつける）：スキーのつえのさきにつけた輪（落葉松製）（*pəgbirə kəigəlini*）。

kəjuwə s. [acc. *kəjuwəmbə*] かい（貝），ほたて貝 — shellfish, scallop.

kəkčee-ni v. [perf. *kəktəxə-ni*] たのむ，依頼する：*kəktəmi guičixani.* かれはたのんでことづけた。／*čaa naritai kəktəxəmbi.* その人におれはたのんだ。

kəkkə s. [acc. *kəkkəə*] えぞごぜんたちばな（実は振ると音がする）（皮はかたくにがいが，なかはおいしい G）。

kəkkəllee-ni v. [perf. *kəkkələxə-ni*] たの（頼）む，懇願する，いの（祈）る — beg, pray：*naŋdaitami kəkkəlleeni.* かれは金を借りようとして頼みこむ。／*ojəxətai kəkkəlleeni.* かみにかれは祈る。

kəldəəru NG a. （いぬ，となかいが）からだにまだらの模様がついている，s.：*kəldəəru ŋinda* 模様のあるいぬ，ぶち N.

kələmə a., s. [acc. *kələmməə*] どもり（の） — stuttering：*kələmə nari* どもる人 — stutterer.

kələməjjee-ni v. [perf. *kələmədəxə-ni*] どもる。

kəlmənneeni G s. この世界の下にいる人（おびを胴より下にしめている）。

kəmdəə s. [acc. *kəmdəkkəə*] かけら：*naa kəmdəəni* 土くれ，土のかけら。

kəndə NGJ s. [acc. *kəndəə* N] 肩甲骨（*pisa*）.

kəndərəxi NJ s. [acc. *kəndərəximbə* N, *kəndərəxxee* J] 刀のつば。

kəŋədəi NGJ s. [acc. *kəŋədəimbə* N] かもの一種（くろがも NG，ろすけがも J）（食用 G）：*namu kəŋədəi* ビロードきんくろガ G／*dətu kəŋədəi* くろがもガ G.

kəpeeččə J s. [＜ロ кирпич]：*kəpeeččə čaini* れんが状の茶（磚茶） J／*kəpeet čaini* れんが状の茶 N.

kərə s. [acc. *kərəmbə*] かきね，塀（風や地吹雪を防ぐため家屋のまわりに棒と草でつくったもの） — fence, wall.

Kərəməəsi s. [acc. *Kərəməəssee*] いぬの名（めす）。

kərəməsi-ni v. [perf. *kərəməči-ni*] 補償をもとめる（傷害を与えた相手に）。

kərənji-ni v. [perf. *kərəčči-ni*] かきねをつくる：*dugbi kərənjini.* かれは（海岸では風が強くさむいから）自分の家屋のまわりに（棒と草でかぜよけの）塀をつくる。

kərgi s. [acc. *kərgimbə*] わ（輪） — ring：*aduli kərgini*（さかなをとる）網の輪（さかなの入る口）。

kərgigə s. [acc. *kərgigəmbə*] 遊戯でころがす輪（やなぎや *səŋətturə* の木でつくる） — wheel.

kərgigəčči-ni v. [perf. *kərgigəčixə-ni*] ひとりが輪をころがしてやり，別のひとりが棒をなげてそれへさしてあそぶ。

kərgi-ni G v. [perf. *kərgixə-ni*] 家のまわりの雪をかいて家のまわりにかためる。

kərkigə s. [acc. *kərkikkəə*] 横に連続する波状曲線（刺繍文様の基本的な型の一つ）。図（*Napka* 画）参照。



kərkigə

kərkikkee-ni v. [perf. *kərkigəxə-ni*] 曲線に縫う：*kərkigəmi urpuri* 曲線に縫うこと。

kərrəu s. [acc. *kərrəumbə*] 補償（人に傷害などを負わせたなどのとき与えるとなかい，女，宝物など）。

kərrəuri-ni v. [perf. *kərrəuxə-ni*] （人に傷害などを与えたとき）補償する，つぐないをする：*kərrəumbə kərrəurini.* かれは補償を支払う。

kəruskə s. [acc. *kəruskəə*] 取っ手のついた瀬戸びき容器（水をくむのに使う）。*kombo* と同じものという。[＜ロ кружка]

kəsə s. [acc. *kəssəə*] ことば — language, speech：*Uilta kəsəni* ウイルタのことば／*kəsələ anaa* ことばの言えない（おし） — dumb／*kəsələ anaa nari* おし（唖）の人／*kəsə biini.* 用事がある。

kəsərri-ni NJ v. [perf. *kəsərixə-ni* N] わるぐちを言いふらす，つげぐちをする。

kəsi J s. 幸運，運：*təəmuttəi*（または *məətəi*）*kəssii gəlleeni.* 海の神に幸運をかれは祈願する。／*kəsini aja*（または *orki*）*nari* 運のいい（または悪い）人。

kəsiləjji-ni v. [perf. *kəsiləjixə-ni*] 願う，祈願する（無事，豊漁を）：*saulumi kəsiləjjini.* のろってかの女はよくないことを願う。

kəskə s. [acc. *kəskəə*] ねこ（猫） — cat [cf. ロ кошка].

kəsu a. 斜視の：*kəsu nari* 斜視の人。

kətəottəə adv. もうすこしで，すんでのことで：*kətəottəə xamarixambi.* もうすこしでおれは（汽車に）おくれるところだった。

kətuddəəni adv. あまりに：*kətuddəəni maŋga.* ひどくつよい。／*kətuddəəni tamani maŋga.* あまりにそのねだんがたかい。／*kətuddəəni səŋgərreesii.* あ

まりにもひどくあんたはいじめるのか。

kəu s. [acc. *kəkkəə, kəuwə*] かっこう (郭公) (*kəkkuu kəkkuu* と鳴く)。

kičiri s. [acc. *kičirimba*] きつね (*suli*) の上等なもの (毛が長いもの)。

kičodo(o) adv. とがって突き出ているさま (たとえば，かついだ鉄砲のさきが): *kičodoo illuuxani.* 上へ向けてかれは (棒を) 突き立てた。

kičoptoi adv. 直立して [ant. *kitaptai*].

kičorok adv. とがって突き出ているものが林立しているさま (たとえば，たくさんの兵士がかついでいる銃 (*pinalaččeeni moičča*) のさきが)。

kigallee-ni v. [perf. *kigalaxa-ni*] 気がせいてなんでもことをはやくする。

kigəli s. [acc. *kigəllee*] あしくび－ ankle.

kiičiga NG s. [acc. *kiičigamba* N], *kiičee* J s. しまごめ (水鳥の一種) (この語は敷香で使われ，自分も使う J)。

Kiilləə s. [acc. *Kiilləəmbə*] キーリン人，エウェンキー人 － Evenki.

kiiruu s. [acc. *kiirukkəə* (*kiiruuwə* かともいう)] 鳥の一種 (見たことないよし)。

Kiitəŋənu s. [acc. *Kiitəŋənumbə*] 人名 (男，*Waaleetta* 氏族)。

kikpəjjee-ni v. [perf. *kikpədəxə-ni*] 折れる，こわれる: *bəgjibi kikpədəxəni.* おれの足が折れた。／ *xunaaptu kikpədəxəni.* 指輪がへってしまってこわれた。

kilto, kiltom adv. 輝くさま: *kilto kilto* ぴかぴか／ *kiltom biini.* ぴかぴか光っている。／ *kiltom bii mastaa aja.* ぴかぴか光っているのは大変いい。

kinuwə s. [acc. *kinuwəmbə*] 嬰児の棺。

kipiri NGJ s. [acc. *kipirimba, kipirree*, all. *kipirittai, kipiritai* N] 海岸の丘陵 (*gaunaxi* より高く，*xurigə* より低い，草や小さい木がある): *namu kipirini* 海岸の丘陵 J.

kipərə s. [acc. *kipərəmbə*] 夏の小屋のなかの二本の柱の間に横木をわたして設けられ，屋内中央のたき火の上に位置する二段の棚 (魚をその上において干す火棚，*bukpaa* をつくる) － shelf for drying fish over the fire: *pəduu kipərə* 火棚の下段／ *uuwu kipərə* 火棚の上段。

kira s. [acc. *kirraa*] きし (岸)，へり－ shore, side: *namu kirani* 海岸－ seaside ／ *uni kirani* 川の岸／ *xəwərə kirani* 湖の岸／ *tawa kirani* たき火のはた。

kiraksisi-ni U v. [perf. *kiraksiči-ni*] 気むずかしくておこってばかりいる。

kirannee-ni U v. [perf. *kiranaxa-ni*] 気むずかしくておこ (怒) る (男についても女についてもいう)。

kirəktə NJ s. [acc. *kirəktəə* N] つぶ (粒) (たとえば，こけももの種子): *buda kirəktəni* 米つぶ N／ *karka kirəktəni* くろゆりの根の一片一片 J.

kirəllee-ni U v. [perf. *kirələxə-ni*] 相手のからだをぐっとつかむ (たとえば，言

うことをきかない子を母親が怒って)。

kirəu s. 偶像の一つ。

kirisi s. [acc. *kirissee*] 十字架，十字架墓標 (ロシヤ正教会信徒となった者の)。

kiska a. 少ない (多くない): *kiska dəppi* たくさんない食べもの／ *nari kiskaduni biiddəə aja.* 人の少ないところにいるのもいい。

kitaa s. [acc. *kitaamba*] はり (針) － needle; とげ－ thorn: *siiməktə kitaan* はまなすのとげ J.

kitaaree NJU int. ちくしょう (女が怒ったとき言う，同時に相手を指さす (*jorrini*): *kitaaree durumbəni.* ちくしょう，あのかっこうで。U／ *kitaaree xootto* (= *xoottoi*) *oččinee.* ちくしょう，どうなっているの。U

kitalta NJ s. [acc. *kitaltaa* N] とりのつばさ (*gasa xasani*)。

kitaptai adv. さかさに。

kitaptaurajji-ni U v. [perf. *kitaptaurajixa-ni*] 言われたようにできない (いくら教えてもできない，たとえば，もって来いと言われてもある場所の説明をまちがえてとり，とって来れない)，とちってまちがえあべこべのことをしばしばする。

Kiwu s. [acc. *Kiwuwa*] (多来加湖東岸の) 毛売 (ケウリ): *Kiwu unini* 毛売川。

koči NU s. [acc. *koččee*] さかずき N － wine cup; きせるの火皿 U.

kokkoxo U adv. からからに (乾いたさまの形容)，なにもなくて (客をもてなすものが): *kokkoxo xoldoxo nari* からからに乾いた人 (やせた人) ／ *suŋdatta kokkoxo xoldoxoni.* さかながからからに乾いた (乾きすぎた)。／ *andaxa sindaxandaa kokkoxo oččipu.* 客が来てもなにももてなすものがわたしたちはなかった。／ *kokkoxo owočči təəčipu.* なにももてなすものがなくて (*xaidda anakəə*) わたしども (家人) はただすわっていた。

koko s. さかな (*suŋdatta* の幼児語)。

kokuuska U s. [acc. *kokuuskaa*] 人差しゆびとなかゆびの間におやゆびをさしこんだこぶしの形。

kokuuskačči-ni U v. [perf. *kokuuskačixa-ni*] 手のゆびを *kokuuska* の形にしている (何回もする I)。

kokuuskallee-ni U v. [perf. *kokkuuskalaxa-ni*] 手のゆびを *kokuuska* の形にする。

kolčigakta s. [acc. *kolčigaktaa*] 魚をとる刺し網や引き網のつなについた浮き (木製)。

koliga N s. [acc. *koligamba*, pl. *koliga*], *kolee* U s. むし (虫) (*xapinau, sipsii, wəərə* など N) － insect: *isal koligani* 目のなかにいるというむし N.

kolmoi s. おびにさげて携帯するもの (小刀，火打ちがねなど); *kalǰami* が腰にさ

げるふくろ (けものや人間のつめが入っている) (Cf. *kalǰami*)。

koloopu s. [acc. *koloopumba*] トランプのジャック。

kombo NU s. [acc. *komboo*] とってのついた瀬戸びきカップ (ひしゃくの代りにつかう) N, ひしゃく (木製か金物) U.

kombojǰee-ni U v. [perf. *kombodoxo-ni*] 人体の皮膚がむける (ぶつかって，ころんで): *xərəktəbi kombojǰeeni.* ぼくの皮膚がむける。／*ŋaalani* (または *bəgǰini*) *kombojǰeeni.* かれの手の皮が (またはかれの足の皮が) むける。

kombokkee-ni v. さけ・ますのぶなけのあたまのさきの軟骨 (ひず) を切りとる (食べるために): *komboomi talakkeeni.* さけのひず (氷頭) を切りとってかの女はさしみにする。

komuu s. [acc. *komuumba*] てくび，まえうで－ wrist, forearm.

komuunǰee-ni v. [perf. *komuundaxa-ni*] 太鼓をいろいろにたたく (太鼓の表の面の中心部，周辺部，太鼓のふち (わく) のようなちがった箇所をうつ): *daallee komuunǰeeni.* 太鼓を (巫者が) さまざまにうつ。

koŋgee-ni v. [perf. *koŋgoxo-ni*] つんぼになる。

koŋgo a. つんぼの－ deaf; s. [acc. *koŋgoo*] つんぼ。

koŋgokto s. [acc. *koŋgoktoo*] すず (鈴) (行き場所がわかるように小さい子につけたりする) － bell.

koŋgori s. [acc. *koŋgorree*] ふいりあざらし－ a species of seal: *koŋgori xəduni* 海の方からの風 N, 南東風 G／*toŋdo koŋgori* 東風，やませ (これを単に *koŋgori* ともいう) J／*mokčuu koŋgori* 南東風 (ただしこれを単に *koŋgori* とはあまり言わないという) J.

koŋolo NGJ s. [acc. *koŋolombo* N] かもの一種 (食用) G.

koo NJ s. [acc. *koowo, koo* N] 川の割れて切れ切れになった氷: *uni kooni* 川の氷 N／*koo ŋənneeni.* 川の氷が (とけてくると割れて川を) ながれる，川の氷が流れ出る。NJ

Koojaŋgu s. [acc. *Koojaŋgumba*] 人名 (女)，俗称 (本名は *Napka*)。

koojil s. [acc. *koojilba*] 帆柱－ mast.

kookkuna s. [acc. *kookkunnaa*] 台所 (ウイルタの家屋にはない) － kitchen [< ロ кухня].

koolkoonǰi-ni v. [perf. *koolkoočči-ni*] 矢を上へ向けて射る: *ləkkəǰi koolkoonǰini.* 矢をつがえてかれは上へ向けて射る。

koonǰee-ni v. [perf. *koondoxo-ni*] (とりが) つばさをひろげたままでとぶ。

koop NGU adv. 一気に分離するさま: *koop aččini.* 一気にかれは剥がす (皮をはいだふとい立ち木のまわりに乾かすために貼った魚皮を)。U／*koop sinəllini.*

一気にかれは剥ぐ (樹皮を)。U

koori s. [acc. *koorree*] 物語にだけ出るとり (鳥) (高倉ほどあり，鉄製)。

koorosi-ni U v. 惜しがる，残念に思う。

koos adv. がさがさと，ざらざらとものが触れる感じをいう。

kootoo adv. グーグー (いびきの音): *kootoo liisini.* グーグーかれはいびきをかいている。

kopčo s. [acc. *kopčoo*] 肺臓 (あざらしの)。

kopildur adv. いっぺんに (立ちどころに): *pujə kopildur xooxoni.* 傷はいっぺんになおった。

koptoo G adv. 水面に浮かび上がった様: *koptoo očči ni.* (鉄砲でうたれたあざらしが) ぽっかり浮かび上がった。

koptooččee-ni v. [perf. *koptoottoxo-ni*] 浮かび上がっている。

koptoonǰi-ni v. [perf. *koptoočči-ni*] うかぶ－ float, 浮かび上がる: *pəətə koptoonǰini.* あざらしがうかぶ。／*moo koptoonǰini.* 棒がうかぶ。

kori s. [acc. *korree*] 丸太を井桁に組んで積み上げたもの (くまの骨を入れる，女が上を歩けばばちがあたるから G): *korima duxu* 丸太を組んでつくった家。

koričče-ni v. [perf. *koritaxa-ni*] 丸太を組んでつくって仕上げておく。

koripsa G s. くまのおり (*bəjə korreeni*) のこわれたの。

korki a. 意地わるい: *korki nari* 意地わるい人 N／*tari nari korki.* その人は意地わるい。N／*korkilambani.* かれのいじわるなこと (ね)。U

korkiǰǰee-ni NU v. [perf. *korkidaxa-ni*] いじわるくする: *əǰǰee korkidaraa.* わかっていて教えないのはよしてくれ (巫者がお告げをのべるとき巫者に言う)。

korree s. [acc. *korreemba*] くまを (くままつりのために) 飼育する木を組んだ檻 (同じ氏族の死んだ人の代わりにそだてる (死者の *pana* をそだてる)，3年後殺してくままつりを行う): *bəjə korreeni* くまの檻。

Korreega s. [acc. *Korreegamba*] 地名 (幌内川中流の沿岸)。

korri-ni v. [perf. *korixa-ni*] 丸太を組む (丸太を組んだ家をつくるために)。

koso NGJ s. [acc. *kosombo* N. *kossoo* J] 金属 (または石 G) の (刀のつばのような形の NG) (くびからかけるむねの N) かざり (ただしNは実物をみたことがない)。

kotoǰǰee-ni NGJ v. [perf. *kotodoxo-ni* NG] 体をそらす (腰をまげて)。

kotolo s. [acc. *kotolloo*] エゾスグリ (大きくない，*səŋətturə* のような木)。

kotoŋo GJ a. 体がうしろにそっている: *kotoŋo nari* 体がそっている人 (*nogdoŋo nari* ともいう) GJ.

kotoo s. [acc. *kotokkoo*] ゆび (手足の) － finger, toe: *bəgǰi kotooni* 足のゆび

(おやゆび以外をさすという)。

kotooptu s. [acc. *kotooptumba*] 五本ゆびの布製の手袋－ gloves.

kotorigakpanǰi-ni v. [perf. *kotorigakpačči-ni*] くままつりなどに男が遊戯として背をそらせてうしろへまげる。

kəbdəm N, *kəbdəmǰi* G adv. 手足をひろげて (うつぶせに): *xumusəi kəbdəm tuuxəni* (または *buččini*). うつぶせに手足をひろげてかれは倒れた (またはかれは死んだ)。N／*kəbdəmǰi tuuxəni*. 手足をひろげてうつぶせにかれは倒れた。G

kəččəəli s. [acc. *kəččəəllee*, all. *kəččəəlitəi*] なべ (鍋), バケツ－ bucket [< ロ котёл].

kəjəə s. [acc. *kəjəəmbə*] くちぶえ (口笛) － whistle.

kəjəəčči-ni v. [perf. *kəjəəčixə-ni*] くちぶえをふく (何回も), しばらくくちぶえをふいている (鳥がなくのにも言う)。

kəjəənǰi-ni v. [perf. *kəjəəčči-ni*] くちぶえ (口笛) をふく: *geedara kəjəənǰini*. 一度かれは口笛をふく。

kəjuli J s. となかいぞりの横木 (*ələndə*, *palturi*, *aaji* 以外の)。

kəkkərree-ni v. [perf. *kəkkərəxə-ni*] パイプやきせるをたたいて灰を出す: *moomoombi kəkkərreeni*. 自分のパイプをかれはたたいて灰を出す。

kəkkəuri-ni v. [perf. *kəkkəuxə-ni*] ちちをのませる: *puttəbi kəkkəurini*. 自分のこどもにかの女はちちをのませる。U

kəkə s. ちち (乳) (*kəə*) (幼児語)。*Napka* さんのあだ名でもあったという。

kəksə NJU s. [acc. *kəksəmbə* NJ] 鳥の胸 NJ, とりのむねの骨 U.

kəmmee-ni v. [perf. *kəməxə-ni*] ほおずりする, ほおに接吻する (唇と唇ではない) － kiss: *dərəlbəni kəmmeeni*. こどもの顔にかの女はほおずりする。

kəə s. [acc. *kəəmbə*] ちち (ちぶさ, 乳液) － breast, milk: *kəə ǰiligani* [acc. *kəə ǰiligambani*] ちくび－ nipple／*ixa kəəni* 牛乳－ cow's milk／*kəəmbə xolǰiduxa* ちちを干した者 (末の子)。

kəəčči-ni v. [perf. *kəəčixə-ni*] ちちをす (吸) う－ suck (the breast): *kəəčči puttə* ちちを吸う子。

kəəččəəčči-ni v. [perf. *kəəččəəčixə-ni*] ちちを吸わせている。

kəəččəənǰi-ni v. [perf. *kəəččəəčči-ni*] ちちをすわせる: *goinnee puttəəni kəəččəənǰini*. ほかの人の子にかの女はちちをすわせる。U

kəədə s. [acc. *kəəddəə*] ふいご－ bellows.

Kəəjəŋənu s. 人名 (男, *Muigəttə* 氏族, 巫者 *Waaska* の子息), タライカの川で死亡。

kəəǰǰee-ni v. [perf. *kəədəxə-ni*] ふいごを手でうごかしてつかう。

kəəkkəəji G s. かけす (鳥): *iso kəəkkəəji* みやまかけす。

kəəkku s. [acc. *kəəkkəə*] 白鳥－ swan.

kəəkəəptu s. [acc. *kəəkəəptumbə*] 人のつくったちちくび。

kəəndəri s. [acc. *kəəndərree*] 帽子のひさし。

kəəniktə s. [acc. *kəəniktəə*] あぶ (*sijikta*) に食われてあながたくさんあいている (飼養または野生の) となかいの皮。

Kəənə s. 人名 (男, *Səəktə* の氏族)。

kəəŋə a. からっぽの (木のなかが): s. [acc. *kəəŋŋəə*]: *kəəŋə moo* なかがからの木／*bokkoni kəəŋə səwə* 神像の一種。

kəərbee-ni NG v. [perf. *kəərbəxə-ni* N] 交尾する (おすとなかいが): *kəərbə kəərbeeni*. おすとなかいが交尾する。G

kəərbə s. [acc. *kəərbəə*] となかいのおすの成体 (去勢してなく, たねつけする)。

kəərbəskə s. [acc. *kəərbəskəə*] 去勢してないおすのとなかいの皮。

kəpčəənni-ni v. [perf. *kəpčəənuxə-ni*] さかなの背開きをつくる: *suŋdattaa kəpčəənnini*. さかなをかの女は背開きにする。

kəpčəənu s. [acc. *kəpčəənnəə*, all. *kəpčəənutəi*] さけ・ます・あめますの頭, 尾, 骨を除いた背開き (切りめは入れない, 皮はついている, あなをあけ棒に通して干す) (燻製 U) [< ロ копчёный].

kəpələ a. まるのままの, とったままではらをさいて臓物をとってない: s. [acc. *kəpəlləə*]: *kəpələ suŋdatta* はらをさいてない (大きい) さかな／*kəpələ pəətə* (または *sirə*) 臓物をとり出してないとったままのあざらし (または野生となかい)／*kəpələ moo* まるい切ったままの木。

kəppəsi s. [acc. *kəppəssee*] 当歳のふいりあざらしのわた毛 (その年の夏になるとこれがなくなって普通の毛となる): *kəppəsi ləkkə* わた毛のはえている当歳のふいりあざらし／*kəppəsi məgdə ləkkə* わた毛のついたままの当歳のふいりあざらし。

kərəktə s. [acc. *kərəktəə*] は (歯) － tooth: *daamulbi kərəktəni* (わたしの) おく歯。

kərəmettə NG s. [acc. *kərəmettəə* N] ふくろうの一種 (羽角はない, 食用 G)。

kərəə s. 上の二本の門歯: *kərəəmbi* 自分の二本の上の前歯を。

kətəktə s. [acc. *kətəktəə*] 大きい枝のさきの小さい枝。

kətələ G s. そりのようにひいて行く獣皮に荷物を包んだもの。

kətəxə adv. しらみをつぶす音。

kučičči-ni NU v. [perf. *kučičixə-ni* U] 小刀で点をいくつもつける (男が点で文様または文様の輪郭をつける，舟のさきにもつける U)。

kučigə N s. [acc. *kučigəmbə*] . *kučee* J s. 小刀－ knife.

kučillee-ni v. [perf. *kučiləxə-ni*] さ (刺) す (小刀で) － pierce with a knife.

kujuli s. [acc. *kujullee*] ふねの帆のつなのつくほばしらのかな具。

kuǰi G s. となかいの内臓の一部。

kukča s. [acc. *kukčamba*] ひづめ (となかいなどの) － hoof.

kukčanǰee-ni v. [perf. *kukčandaxa-ni*] となかいが走る。

kula s. 海，川のそこ (底): *məə kulambani pulisi səwə* 水の底をあるく神。

kulauči NGJ s. [acc. *kulauččee* N] さら貝 (べにざら貝もさす) GJ.

kulpi-ni NU v. [perf. *kulpixa-ni* N, *kulpixə-ni* U] (手があいている，暇な) 時間をもっている: *məənə kulpikki anduŋitta.* 自分のひまなときにつくってあげよう。NU

kumdaa s. [acc. *kumdakkaa*] きれはし (布や紙の): *busu kumdaani* 布きれ。

kuməllee-ni NU v. [perf. *kumələxə-ni*] せなか・かたにかける (きものをそでに手を通さずに) NU, あたままでかぶる (ふとんを) U , *kumallee-ni* N v. [perf. *kumalaxa-ni*] あたままでかぶる (ふとんを) － cover: *tətuwəǰǰi kuməlleeni.* 自分のきものをかれはせなかにかける。N／*səənǰi kuməlleeni.* 毛皮外套をかれはかたにかける。N／*kumələgəčči aurini.* ふとんをあたままでかぶってかれは寝る。U／*kumalagačči aurini.* ふとんをあたままでかぶってかれは寝る。N

kumultə s. [acc. *kumultəə*] うらに毛皮を張ってあるスキー－ ski: *kumultə xurigani* スキー (*kumultə*) の先端 N／*kumultə poktoni* 天の川 J － Milky Way.

kuŋgaa s. [acc. *kuŋgakkaa*] 海岸にはえる草の一種 (もろち J): 竹 (の類) でつくった口琴 (さきを口にはさむ G)。

kuŋgakkee-ni v. [perf. *kuŋgaaxa-ni*] 竹製の口琴を奏でる－ play a Jew's-harp (made of bamboo) .

kupɔ s. [acc. *kupɔmbə*] いと (糸) － thread.

kupta s. [acc. *kuptamba*] ふた (蓋) － lid: *ɔnuwə kuptani* なべのふた。

kuptallee-ni v. [perf. *kuptalaxa-ni*] ふたをする: *ɔnugə kuptanǰini ɔnukkəə kuptalleeni.* なべふたでなべにかの女はふたをする。

kuptu s. [acc. *kuptoo*, all. *kuptutai*] (小刀の) さや－ sheath.

kurəi [1] s. [acc. *kurəkkee*, *kurəiwə*] さく (柵)，さくでかこんだところ (となかいを入れる) － fence, stockade, corral.

kurəi [2] J s. 霧のような雨。(Cf. *purəi.*)

kurəiri-ni [1] v. [perf. *kurəixə-ni*] 柵をつくる。

kurəiri-ni [2] GJ v. [perf. *kurəixə-ni*] 霧のような雨がふる。

kurəktə NJ s. [acc. *kurəktəə* N] きつつき (鳥): *saari kurəktə* くまげら (食用) G／*səəgdə kurəktə* きつつきの一種 (あたまの一部が赤い) J.

kurkə s. [acc. *kurkəmbə*] 食物を入れる手さげ容器 (一枚の樺皮でつくる，樺皮はその裏面を容器の外側にして使い，外側に模様をつけてある，また，樹皮はきり (*piipu*) であなをあけて木の細い根 (*muiktə*) で縫う，取っ手の柄には木の茎をつかっている，こけももの実などを入れるが，水をくむのにもつかう) － birch-bark vessel.

kusal a. はや (速) い－ swift, fast, quick [ant. *ərkə*]: *kusal nari* 速い人； s. [acc. *kusalba*] 速いこと N, 速さ J: *kusalǰi tuksau.* はやく走れ。N

kusu s. [acc. *kusumbə*] ちから－ strength, force, might.

kusuttu a. ちからのある； s. [acc. *kusuttəə*] .

kuta NG a. けちな (*bilda* ともいう)； s. [acc. *kuttaa*]: *tari nari kuta.* あの人はけちだ。N／*kuta ənnə* けちなかあさん (自分の母親へののしり) U.

kutujə NJ s. 動物の一種 (かめ (亀) J) (むし (*koliga*) のようなもの，この神像を木でつくる N)。

kutuli s. [acc. *kutullee*, all. *kutulitai*] ほ (帆) － sail.

Kuuji s. [acc. *Kuujjee*, all. *Kuujitəi*] アイヌ人－ Ainu.

kuukkəə G s. 鳥の消化管の一部 (食べたものが *xarukki* からここに来て腸へ行く，特に雷鳥などのものをさしていう) (砂嚢だろう)。

kuunni-ni NGU v. [perf. *kuunixa-ni*] よぶ (やまの中でみちにまよったときなど) NU, (*kuu* と) さけぶ G: *kuunni amba* 呼ぶ妖怪 G.

kuurri-ni v. [perf. *kuuruxa-ni*] ちぢむ－ shrink: *natta kuurrini.* 皮がちぢむ。

kuurullee-ni v. [perf. *kuurulaxa-ni*] (人がたとえば心に恥じて) ちぢこまる: *nari kuurulleeni.* ひとが心に恥じることがあってちぢこまる。U

kuuttəi s. [acc. *kuuttəkkee*] かもめの類の一種 (色は頭が *saari*, 体は *taagda*, 背中はすこしくろい，*keewu* より小さく，*čaččari* より大きい) (食用 G)。

kuuttučči-ni U v. [perf. *kuuttučixa-ni*] 女がはらをたてものを手あたり次第なげる: *alukkoo kuuttučixani.* 容器をかの女ははらをたてて投げていた。

kuuttullee-ni v. [perf. *kuuttulaxa-ni*] 1. 容器をからでもなにか入っていてもそのまま投げつける； 2. とりがおそ (襲) う (低くまいおりて来てさかなどをとって行く，たまごをとられて人にかかって行く): *čaa narree kuuttulaxani.* その人へかれは容器を入ったまま投げつけた。／*alukkuǰi* (または *andumaǰi*) *kuuttulaxani.* 容器を (または樺皮製食物容器を) かの女は投げつけた。／

čaččari kuuttulleeni. しまごめ (鳥) が襲いかかる。

kuutu s. [acc. *kuuttɵɵ*, all. *kuututɔi*] となかいの皮でつくった寝袋－ sleeping bag.

kuwasu s. [acc. *kuwassoo*] 菓子：*kuwassoo jiimasu.* お菓子をおあがりください。／*kuwassoo gaǰiwi.* お菓子をわたしは買う。[＜日 くゎし (菓子)]

kuwata s. [acc. *kuwatamba*] 太鼓のふちの木のなかのくりぬいた部分 (音がよく響く (*uisi*) ようにくりぬく)。

l

laabillee-ni v. [perf. *laabilaxa-ni*] いそいでがつがつ食う：*ŋinda laabilleeni.* いぬががつがつ食う。

laaččee-ni v. [perf. *laataxa-ni*] 波立つ，海がしける：*laata laaččeeni.* 波が波立つ。／*namu laaččeeni.* 海がしける。

laakpi-ni NU v. [perf. *laakpuxa-ni* N] 口から大きな特別のこえを出す：*sama laakpini.* 巫者がおどりやうたの最中にはげしいしわがれ声を出す (ほかの神がいま巫事がおこなわれている家のなかへ入らないように)。U

laapa s. [acc. *laapamba*] 木のまた，またになっている木，さきがまたになっている棒 (魚の干し場の柱に使う)。

laapka s. [acc. *laapkaa*] みせ (店) － store, shop [＜ロ лавка].

laarinǰi-ni v. [perf. *laaričči-ni*] こえがかれている：*kəsəni laarinǰini.* かれのことばはこえがかれている。／*laarim xəəgəxəni.* こえをからしてかれは即興歌をうたった。

laata s. [acc. *laattaa*] (大きい) なみ (波) － wave：*laata maŋga.* 波がひどい。

laataldusi-ni v. [perf. *laatalduči-ni*] ふねがゆれる (たてゆれでも，よこゆれでもいう U)：*ugda laataldusini.* ふねがゆれる。

laawakta s. [acc. *laawaktaa*] ゆりの花：*karka laawaktani* くろゆりの花／*inuŋai laawaktani* はまゆりの花。

laaxu s. [acc. *laaxxoo*] 銛についている浮きの板 (落葉松製)。

ladunǰi-ni U v. [perf. *ladučči-ni*] ひとりでしゃべりまくる。

lakpanǰi-ni v. [perf. *lakpačči-ni*] いぬが口で突く (口は開けずに)：*ŋinda narree lakpanǰini.* いぬが人を口で突く。

lakpee-ni GJU v. [perf. *lakpaxa-ni*] のどにひっかける (さす)，ひっかかる，つかえる (ふさがって通らない)：*bii suŋdatta girapsaǰini lakpaxambi.* おれはさかなのほねをのどにさした。U／*bii lakpaxambi.* おれは (さかなのほねを) のどにさした。G／*duwə lakpaxani.* 氷が川にひっかかった。J／*moo lakpaxani.* 流木が川にひっかかった。J

laksumanǰi-ni v. [perf. *laksumačči-ni*] 近づく－ come near to：*ugda əwəsəi laksumanǰini.* 舟がこちらへ近づく。／*bəjə əwəsəi laksumanǰini.* けだものがこちらへ近づく (こちらが風しもにあり気づかずに)。

lala s. 炊いた飯：*buda lalani* 米を炊いた飯。

lallee-ni v. [perf. *lalaxa-ni*] 米を炊く (ウイルタはむかしは米をやわらかく炊いた U)：*lalami ələčini.* かの女はご飯を炊いた。

lalli-ni v. [perf. *laluxa-ni*] うえ (飢) る－ starve.

lalu s. [acc. *lalumba*] う (飢) え－ hunger.

lalumoo U a. はらがすいたなー。

lalumusi-ni v. [perf. *lalumuči-ni*] ひもじい，はらがすいている。

lambarak adv. 垂れさがっているものがゆれるさま。

lammi-ni v. [perf. *lamuxa-ni*] 小さい波がたつ：*namu lamnini.* 海は小波がたっている。

lamu NJ s. [acc. *lammoo* N] 小さい波。

lamusu s. [acc. *lamussoo*] ふかくつもった雪。

laskaŋa s. [acc. *laskaŋŋaa*, *laskaŋamba*] かじか－ a kind of fish：*laskaŋa paaŋni əččini* かじかの肝臓に似た色 (だいだい色)。

laummee-ni G v. いぬが (あと足で立って) とびかかる (*xamarree bəgǰiǰǰi ilimi pukčiččeeni*)。

lauri-ni v. [perf. *lauxa-ni*] つないであるいぬがなく，ほえる。

lauta s. [acc. *lautamba*] かたな (刀) － sword.

lawikta s. [acc. *lawiktaa*] こけの一種 (湿地にまっ白く生じて，となかいが食用にする J)。

laxa a., adv. ちか (近) い，ちかく－ near：*laxa isuwačči itəxəni.* かれは近く来て見た。／*laxɔɔ* 近く (*laxa* より近い) ／*Kusirutəi laxɔɔ itəxəmbi.* 釧路の近くでおれは見た。

leeduŋa NG s. [acc. *leeduŋŋaa* N] くままつりの際屋内の火だな (*kipərə*) の上につくるたなか，はしご状のもの，祭壇 (宝物や木弊をならべ，くまの骨はもとの形のように，せぼねをえぞ松の棒にさして置く，酒や *moni*，*musi* をあげ，樹皮を焼くけむりでいぶす，まつりのあとは骨をやまへもって行き，あたまをつけて立てる，これを *bəjə siiwurəni* という) G；Nは戸外でくまをつなぐ棒の意とも

言うが不明確。

Ləbləmuu s. 幌内川川上の沿岸（地名）。

lədənǰi-ni NJ v. [perf. *lədəčči-ni* N] ゆれる（上下に，たとえば，車の通る道ばたの家が）：*naa lədənǰini.* 地がゆれる。N

ləədənǰi-ni NU v. [perf. *ləədəčči-ni* N] ぐじゃぐじゃしゃべる（不満などを）：*asitakki ləədənǰini.* 自分の妻へかれは（帰宅しても食事の用意がしてなかったと）ぶつぶつ言う。U

ləəmul s. [acc. *ləəmulbə*] やちのどろどろした場所（ぬかる），ぬかる土のところ（ぬかる泥地，人も *kalǰami* も歩かない G）。

ləəwul J s. つの（角）の一つの部分。

ləkkə s. [acc. *ləkkəə*] や（矢）－ arrow.

ləkpee-ni U v. [perf. *ləkpəxə-ni*] むせる：*məə umimi ləkpəxəni.* 水をかれは飲んでむせた。(Cf. *ləkpənǰi-ni* N.)

ləkpənǰi-ni v. [perf. *ləkpəčči-ni*] むせる：*dəptumi ləkpəččini.* 食べながらかれはむせた。／*tuksami ləkpəččini.* 走りながらかれはむせた。

ləlu s. 死んだ人がつけるまえかけ（*ačikta* や *toxo* がついている）。

ləwigə NG s. [acc. *ləwigəmbə* N]（輪でひっかける）わな（雷鳥（*bərəmi*, *kabbeela*）をとる）G.

ləwigəəčči-ni U v. [perf. *ləwigəəčixə-ni*] 輪をつくって仕掛けこれに足をひっかけたうさぎをとる（棒がつけてあり，これがほかのものにひっかかって進めなくなる）。

ləwigənǰi s. [acc. *ləwigənǰee*] 海の一動物（くじらの一種か）：*ləwigənǰi geegani* あごが痛むときのお守り N. あごが動かなくなるとつくる G.

ləwiktə s. [acc. *ləwiktəə*] もさ（さるおがけだろう）（木の表面に生じて垂れ下がる，アイヌがちり紙のように使う J）。

ligǰi s. [acc. *ligǰee*] たん（痰）。

liisi-ni v. [perf. *liiči-ni*] いびきをかく－ snore：〔言い習わし〕*purəttəi ŋənəpee liisiisi amba sinǰeeninda.* おまえがやまへ行っていびきをかくと妖怪が来るんだと。

likpi-ni v. [perf. *likpixə-ni*] とじる，ふさぐ－ plug：*čaanikka saŋŋaani likpixəni.* やかんのあなをかれはとじた。／*uttəəni lip likpixənindəə.* その戸口をびっしゃりと（魔物は）とじたそうだ。

likpiččee-ni v. [perf. *likpitəxə-ni*] 閉じたままにしている：*uttəə likpitəxəni.* 戸をかれは閉じてわざとつかんでそのままにしていた。

likpičči-ni v. [perf. *likpičixə-ni*] 閉じる（何回も）。

likpiǰǰi-ni v. [perf. *likpiduxə-ni*] また閉じる（二度め以後の場合）。

likpiptəŋi J s. びんのせん（栓）。

liŋokkee-ni v. [perf. *liŋooxo-ni*] べとべとねばつく（液果が熟して）：*xojoo liŋokkeeni.* いちごがべとべとする。／*liŋooxo xojoo* べとべとになったいちご。

liŋoo a. ねばついてべとべとの（液果が熟して）：*əri xojoo liŋoo.* このいちごはべとべとだ。

lipčee J s. となかいの反すう胃についている肉（臓器，脾臓か）。

lipeeskə s. [acc. *lipeeskəə*] パン－ bread [< ロ лепёшка] .

liwwee-ni v. [perf. *liwəxə-ni*] ぬかる（やちのどろどろしたところで）。

ločokkee-ni v. [perf. *ločooxo-ni*] 氷にあなをあけてその下のさかな（きうりうおなど）をつる－ fish.

ločoo s. [acc. *ločokkoo*] つりばり－ fishhook：*ločoo siini* つりざお－ fishing rod.

ločooču s. [acc. *ločoočukkoo*] 氷にあなをあけてさかなをつる場所。

ločoonǰee-ni U v. [perf. *ločoondoxo-ni*] 氷穴でさかなをつるために行く。

Loggoonu s. 人名（男，*Warabainneeni* の氏族，日本名大川モンタロウ），第二次大戦後囚われ，シベリアのナリンスクで死去。

loima NG s. [acc. *loimmaa* N] 魚の一種（いわなの類 G，おしょろこま N）（海にいて川にのぼる N，川にいるが海でときにとることがある G）[cf. ニ（カラフト東部）lojm]：*tuuli loima* 海にいるいわな G／*goodu loima* 川へ産卵にのぼったいわな（産卵後もさけのようには死なない）G／*loima bəəni* おしょろこまのえさ，もも色（色名）N.

Loǰiŋgeenu s. [acc. *Loǰiŋgeenumba*] 人名（男，*Muigəttə* 氏族），俗称は *Amunaana.*

lokkee-ni v. [perf. *looxo-ni*] か（掛）ける－ hang，棺を上に（*uilə*）おく：*kipərəkki lookkou.*（さかなを）火だなへ掛けろ。N／*xoldoskoo lokkeeni.* 棺をかれは立木を切ってそのはえたままの幹の上におく（おく高さは高い）。G／*loomusi-ni* v. 掛けたい／*lokkounǰi-ni* v. 掛けさせる。

lokko s. [acc. *lokkoo*] かれい（つるつるかれい）（魚）[cf. ニ loq] .

lokkoǰi s. 小刀の一種：*lokkoǰi kučigə* 和人の使うナイフ。

looččee-ni v. [perf. *lootoxo-ni*] 掛けたままにしている：*ənnə umulbi uikki looččeeni.* かあさんは自分のおびを上へ掛けたままにしている。

loočči-ni v. [perf. *loočixa-ni*] 何回も掛ける，たくさん掛ける。

looŋǰee-ni v. [perf. *looŋdoxo-ni*] 掛けに行く。

loopso NJ s. [acc. *loopsoo* N] とけかかった地上のゆき (春の), とけかかったふるゆき (秋の), 水気のある雪 N. あめとまじったふるゆき J.

loosi s. [acc. *loossee*] 銃床 [<ロ ложа].

ləkkə NJ s. [acc. *ləkkəə* N] ふいりあざらし・くらかけあざらしの満一年までのもの J.

ləktəm U adv. 1. 目を見開いたさまの形容: *isal ləktəm* (または *ləktəmǰi*) *itəxəni*. 目をぱっちりとさせて (まるくして) かの女は見た。／*tari nari isalbi ləktəm itəxəni*. その人は自分の目をさらにして見た。2. 人の通ったあとがのこるみちのさまの形容: *ləktəm bii doorima* なん年も歩いて草もはえない道, 草をふんで通ったあとのある道。

ləpəǰǰee-ni v. [perf. *ləpədəxə-ni*] なくなる。

ləpəlli-ni v. [perf. *ləpəlixə-ni*] おとしてなくす－lose: *oksoɔduu suŋdattaa ləpəlixəni*. となかいぞりからさかなをかれはおとしてなくした。

Luča s. [acc. *Lučča*] ロシヤ人－Russian.

lučadai s. [acc. *lučadakkee*] ロシヤ風の衣服 (*təтuwə*) (上に着る): *lučadai təтuwə* ロシヤ風の衣服 (布製, 模様がある, 丈はひざまで, 肩にダーツあり, 腰にはない)。

lučadairi-ni U v. [perf. *lučadaixa-ni*] ロシヤ語で話す (*luča kəsəǰini kəənǰini*)。

ludul s. [acc. *ludulbə*] てんやかわうその (毛皮が) 一番いいの (てんは黒いのが一番いい)。

ludurree-ni v. [perf. *ludurəxə-ni*] どろなどにぬかる: *naakki ludurreeni*. 土のなかへかれはぬかる。

Luisə G s. 幌内川のえだ川。

lukki-ni v. [perf. *luuxa-ni*] うす氷がはる: *uni lukkini*. 川はうす氷がはる。／*namu lukkini*. 海はうす氷がはる。

lukpaunǰi-ni U v. [perf. *lukpaučči-ni*] 刺される: *ŋaalabi kitaanǰi goči lukpauččini*. わたしの手に針がまたささった。／*xaunee kitaanǰi goči lukpaunǰiwi*. うるさいねー, 針がまたわたしにささる (じゃないの, しずかにしてよ)。

lukpee-ni U v. [perf. *lukpaxa-ni*] 刺す: *tari nari bəgǰibi kitaattai lukpaxani*. その人は知らずに自分の足に針を刺した。／*bii bəgǰibi suŋdatta girapsaǰini* (または *girapsataini*) *lukpaxambi*. ぼくは自分の足にさかなの骨を刺した。

luksuǰǰee-ni v. [perf. *luksudaxa-ni*] はらをたててだまっている。

Luktama s. [acc. *Luktammaa*] (多来加湖沿岸の) 留久玉 (ルクタマ): *Luktama xəwərəni* 多来加湖。

luktulli-ni NG v. [perf. *luktulixə-ni*] あなをあけてつらぬく G, どんな天候・地形をもおかして行く N.

luu s. [acc. *luu-wa*] うすい凍りはじめの氷。

luula s. [acc. *luullaa*] ぼろ (きものの) (引越したあとぼろを家屋のあったところ (*dugjal*) に残すと *čagǰu* という妖怪になる)。

luummi-ni v. [perf. *luumixə-ni*] かぶせる, おお (被) う (小屋の外被用の被い (*guidə*) などで): *təəwwəə luummini*. 荷物を (被いで) かれはおおう。／*moowo luummini*. まきを (被いで) かれはおおう。

luusima J s. となかいのはなづら (目・鼻・口の部分)。

m

maa int. さあとれ－Here, take it: *maa dappau*. さあとれ。／*maa jəwə bəəriwi*. さあ, これをおれがくれてやる。

maaji J s. 南風 (*toŋdo maaji*, *suunǰee* から吹く) [cf. ニ (南カラフト) marila]: *maaji xəduni* 南風 G／*toŋdo maaji* まみなみの風 J／*mokčuu maaji* 南南西の風 J.

maaǰǰi-ni v. [perf. *maaǰixa-ni*] あざらしの皮から脂肪をとりはなす。

maalǰi-či U v. [perf. *maalči-či*] 全滅する: *maalčini*. 人がみんな死んだ (*gəəm buččini*)。G

maalta NGJ s. [acc. *maaltaa* N] 白い海獣 (しろいるかカ) － probably beluga.

maaninǰi-ni G v. [perf. *maaničči-ni*] 一気に (急いで U) 駆けだす: *nari maaninǰini*. ひとが急いで駆けだす (よその家にいてうちになにかことがおきて帰るとき)。U

maanǰi s. [acc. *maanǰee*] とりのむれ－flock of birds: *gasa maanǰini sagǰeeni*. とりのむれが飛ぶ。／*bara maanǰi səbǰeeči*. たくさんのむれが飛ぶ。

Maariga s. [acc. *Maarigamba*] 人名 (女) [<ロ Марья].

maasi G s. 巫者のもつ神像の一つ (やまの神, つのが一つある, えぞ松製)。

maatu s. [acc. *maattoo*] あざらしの皮のつな (綱) (となかいをとらえる投げなわ, あざらしをとる銛についたつな) (あざらしをまるのままらせん状に切ってつくる) － lasso, strap.

maatučči-ni v. [perf. *maatučixa-ni*] 投げなわをなげる (何回も)。

maatullee-ni v. [perf. *maatulaxa-ni*] となかいを投げなわでとらえる: *gələ ulaaba maatulleeni.* あばれとなかいをかれは投げなわでとらえる。／ *tari nari maatuji maatulleeni.* その人はなげなわでとらえる。

maatuwačči-ni G v. [perf. *maatuwačixa-ni*] 、*maatoočči-ni* G v. [perf. *maatoočixa-ni*] 気象現象に関する意味を表す: *boo maatuwačixani.* 朝あかるくなってから風がつよくなりこうなれば，沖へは行かない／ *tɔwɔskɔ maatooččini* は雲が風で動き移ることなどをふくむ意を表すという。

Mačipari s. 人名 (男，*Torisa* 氏族か)。俗称は *Mokčuu.*

madurukki-ni v. [perf. *madurukkuxa-ni*] 縄をな (綯) う: *madurukkumi urpuri* 綯うように縫うこと (アウトラインステッチ，線縫い)。

madurukku s. [acc. *madurukkoo*] わらなわ (縄) − straw rope.

maglii NGU, *maglee* N s. 木でつくったくまのあたまやつめ (これは宝物 (*jakka*)) G: *maglii tawa* くままつりのときの火 (火打ち道具でおこした火をつかう) G／ *maglii ɔnuwɔ* くまのあたまなどを煮るかま (みなで食べる) N.

mai J s. [acc. *maiwa*] くまのあたまの皮: *mai təlɔpuni* 星の群 (五つか六つの星からなり，天の川のなかにある，星座か)。

Majaaŋgu s. [acc. *Majaaŋgumba*] 人名 (女)。

Makaari s. 人名 (男，*Naiputunneeni* 氏族)。

makčii s. [acc. *makčiimba*] よりもどし (いぬのくびわとくさりをつなぐかな具)。

mali s. 二者一対 (たとえば夫婦，くつ，てぶくろ，スキー，スキーのつえのような): *mali biini.* 一対ある。／ *malimuna* 一対の両方／ *malimuna biini.* 一対の両方ある。／ *malimuna utta* 一対の左右のくつ。(ただし，つぎのような語例では接尾辞といえよう。*geedamali mambakka* 一人分の手ぶくろ，*geedamali utta* 一足のくつ，*dɵɵməli utta* 二足のくつ。)

malinji-ni v. [perf. *maličči-ni*] 対になる。

malu s. [acc. *malloo*] 戸口に対して屋内の火 (いろり) の反対側の座 (上座ないし客座) [cf. 朝 maru (板の間)]。

mama s. [acc. *mammaa, mamamba*] 老婆− old woman.

Mama NJ s. ろうそく岩 (北知床半島舟越から越えた東海岸にある): *Mama joloni* ろうそく岩。

mamaačča s. [acc. *mamaaččamba*] 老婆 (この語をきいたことはあるが自身は使わないという N)。

mambakka NJG s. [acc. *mambakkaa* N] (*wambakka* と言う人もある NG) ふたまたの厚い手袋− mittens.

mam' ənnɔ s. [acc. *mam' ənnɔmbə*] (' は音節の境を示す) おばあさん (祖母)。*mama ənnɔ* とも言う。

mammee-ni v. [perf. *mammaxa-ni*] た (食) べる (幼児語)。

Manju NJ s. [acc. *Manjoo* N] 満洲人 (オルチャ (*Maŋbu*) 人とことなる N, 中国人のことであるという J): *Manju budani* 満洲の穀物 (これを包んでくびかざりにつけた N)。

mannee-ni v. [perf. *manaxa-ni*] みなごろしにする，食べつくす，しらみやのみが体の方々をいっぱい食う，着ふるしてすりきらす: *gɔɔm manami waaxani.* かれは (猟で) みんなみなごろしにしてとった。／ *dɔptumjee manaxani.* かれは食べていて全部食べつくした。／ *tətukkɔɔ manneeni.* かれはきものを着ふるしてすりきらせた。

maŋa s. [acc. *maŋamba*]: *tawa maŋani* 火の神。

maŋaa G s. なこうど (仲人)。

maŋarree-ni v. [perf. *maŋaraxa-ni*] 1.むこうへはこっちをわるく，こっちへはむこうをわるく言う (悪い行為とみる N); 2.火の神 (*sɔwɔ*) が話す。

maŋauli a. かたい− hard, solid [ant. *dɵjɵ*]: s. [acc. *maŋaullee*]: *maŋauli ulisɔ* かたい肉／ *moo maŋauli.* 木がかたい。

Maŋbu s. [acc. *Maŋboo*] オルチャ (ウリチャ) 人 (満洲人から買った耳輪，*ačikta, balda* などをウイルタに売りに来た) (日本でサンタン (山丹) 人と言ったのは大体オルチャ人であるとみられる) − Olcha.

maŋga a. つよい− strong [ant. *ugdɔɔ*] 、(値段が) たかい− dear, expensive [ant. *jaa*]; s. [acc. *maŋgaa*]; adv. 非常に− very: *maŋga nari* つよい人／ *maŋga ɔɔktɔ* なんでもできる女／ *tamani maŋga.* その値段はたかい。／ *maŋga jiktu moo* 大変ふとい木。

maŋgaččee-ni U v. [perf. *maŋgataxa-ni*] がまんする (痛みなどを): *tari nari maŋgaččeeni.* その人は痛いのをがまんする。／ *tari nari kɵrɵktɵjji maŋgaččeeni.* その人は歯のいたみをがまんする。

maŋi NU s. [acc. *maŋimba* N] 巫者のもつ神像の一つ (えぞ松製 G)。

maŋiččee-ni v. [perf. *maŋitaxa-ni*] がまんする− have patience: *ɔnumiddɔɔ maŋitaxambi.* 痛くてもおれはがまんした。

mapa s. [acc. *mappaa, mapamba*, pl. *maparil*] 老爺− old man: *naa mapani* くま (婉曲表現)。

mapaačča s. [acc. *mapaaččaa, mapaaččamba*] じいさん: *mapaačča amma* 祖父。

mariptaŋi s. [acc. *mariptaŋŋee*] 夏小屋 (*kaura*) の骨組としてその側面によこに

わたした横木。

marisseena s. [acc. *marisseennaa*] 機械，くるま（車）－ machine, vehicle [< ロ машина].

masaari s. [acc. *masaarree*] おの（斧）－ ax [< 日 まさかり].

masačči GJ s. 海岸の砂浜につづく草地（*kuŋgaa* もある J)。

masačči-ni v. [perf. *masačixa-ni*] （水を）かける（何回も），すこしずつまく：*məəwə masaččini.* 水をかの女はまく。／*məəji masačixani.* 水をかの女はまいた。／*naatai məəji masaččini.* 地面へ水をかの女はなんどもまく。

masallee-ni v. [perf. *masalaxa-ni*] （水を）ふりかける（一回），ふりまく－ sprinkle：*məəwə masalleeni.* 水をかれはかける。(*muu masalleeni.* 水をかれはまく（なげる，すてる)。U)／*məəji masalleeni.* 水をかれはかける。(*muuji masalleeni.* 水を（ほかの人に）かれはかける。U)／*naritai masalaxani.* 人に（水を）かの女はかけた。／*məəwə tawatai masalleeni.* 水を火へかれはかける。／*bootoi masallau.* そとへまけ。

masi a. 丈夫な，つよい－ stout, strong [ant. *ugdəə*]；s. [acc. *masimba*]：*masi nari* 丈夫な人 N，元気な人，つよい人（いくら酒をのんでもよわない，いくらはたらいてもつかれない）J／*masi moo* かたい木 J／*masi busu* 丈夫な布 N.

mastaa adv. 非常に－ very：*mastaa aja.* 非常にいい。／*mastaa orki.* 大変悪い。

mattau s. [acc. *mattakkoo*] アイヌの婦人，メノコ：*Kuuji mattauni* アイヌの婦人 [？< ア matainu].

Matuŋanu s. 人名（男，*Waaleetta* 氏族，*Kaareenu* さんの子息)。

mauri s. [acc. *maurree*] さけ・ますを三枚におろし，*čaččabi* をとったあと背骨の両側からのこった肉を切りとったもの（なまのは煮て食べるが，やきぐしにさし，火だなに掛け，ほして食べる)。

mauriǰǰi-ni G v. [perf. *mauriduxa-ni*] さかなの *mauri* をつくる。

maurri-ni v. [perf. *maurixa-ni*] さかなの *mauri* をつくる（女が)：*maurree maurrini.* かの女は *mauri* をつくる。

mauwa, maukka s. [acc. *mauwwaa, maukkaa*] 手で引くか，一，二匹のいぬに引かせて使うそり，ははせまい，住居付近でまき運びなどに使う－ sledge.

maxa part. か（疑問詞のあとについて不定の意味を加える)：*ŋui maxa* だれか／*ŋui maxa ugdani* だれかの舟 ／*xawasai maxa* どちらかへ／*ŋui maxaŋŋi* だれかのもの。

meela s. [acc. *meelamba*] せっけん（石鹸）[< ロ мыло].

meelbi-ni v. [perf. *meelbuxa-ni*] 目をさまさせる：*puttəə meelbini.* こどもの目をかれはさまさせる。

meelboonǰi-ni U v. [perf. *meelboočči-ni*] めをさますようにさせる：*suu jawatami puttəə meelbooččisu.* おまえらさわいで赤ん坊にめをさまさせてしまった。

meelǰi-ni v. [perf. *meelči-ni*, conv. perf. *meelkačči*] めをさます－ wake up.

meenǰi-ni v. [perf. *meečči-ni*] 差し控える：*ukkitəmi meenǰini.* 言いたくてもかの女は差し控える。N／*nəəǰitəmi meeččimbi.* （天気がわるく）わたしは出ようとしたがひかえた。J／*dəptuitəmi meemi xoǰixani.* かれは食べようとしたが中途で辞退してしまった（食べる競争でまけた方が食べきれないで)。N

meepəə （あるいは *miipəə* か） J s. となかいの反芻胃の一部（複胃の第一胃か第一・二胃だろう)。たべたものはまずここに入り，そしてまた口へもどり，それから胃の一部である *daaji numisə* に入り，*nuuči numisə* へ移るという。

meeta s. [acc. *meettaa*]，*meetaska* s. [acc. *meetaskaa*] となかいの頭の毛皮（帽子，座ぶとんをつくる）－ reindeer head fur.

meetakaa s. [acc. *meetakaamba*] となかいの頭の毛皮でつくった帽子。

meewa s. [acc. *meewamba*] 心臓－ heart：*mini meewambi nəəǰiččeeni.* わたしの心臓が飛び出しそうにどきどき動いている。

meewu a. よこになっているがねむっていない：*tari nari meewu.* その人はまだねむっていない。

meexuračči-ni v. [perf. *meexuračixa-ni*] 何回もひざを折って頭をさげ礼拝する。

meexuranǰi-ni v. [perf. *meexuračči-ni*] 礼拝する－ worship：*əǰəxətəi meexuranǰini.* 神をかれは礼拝する。／*pənəpikkəčči meexuranǰini.* かれはひざをまげて頭をさげる。

məččee-ni G v. [perf. *mətəxə-ni*] となかいやかも（鳥）がなにか音のしたときじっとして警戒する姿勢をとる。人間についてもいう。

məččikku G s. ちょうな（ておの）（工作用具，丸木舟をほるのに使う)。

məəju G s. 秋の霧。

məəndəiri-ni U v. [perf. *məəndəixə-ni*] 自分の言語で話す（*məənə kəsəǰǰi kəənǰini*)。

məənə a., adv. 自分の，自分で－ one's own, for oneself：*məənə ugdabi* 自分のふねを／*məənə ŋənneewi.* わたしは自分で行く。／*məənə məənə* 自分自分で（めいめい）－ each／*məəpi* 自分自身を－ oneself／*məəpi panaapunǰi itəxəmbi.* わたしは自分をかがみでみた。／*məəniŋŋi* (acc.) s. 自分のものを，*məəniŋŋeeri* (acc.) s. 自分たちのものを 以上の例はすべて N／*məəniŋŋi*

gələjjini. 自分のものをかれは返してほしいと言う。U

məəniŋŋillee-ni v. [perf. *məəniŋŋiləxə-ni*] 自分のものにする－ take possession of.

məətə そっくり ノ意カ : *nari məətə ɔččini biččini*. 人間にそっくりに似たものがあった。

məətəčči-ni v. [perf. *məətəčixə-ni*] なげている，なげる (何回も)。

məətəllee-ni v. [perf. *məətələxə-ni*] な (投) げる，す (棄) てる (一回) － throw, east, throw away : *məətələmi bəərini*. かれは投げてあたえる。／ *bujakkaa məətəlleeni*. こわれたものをかれはすてる。

məəxə s. [acc. *məəgbə*] ふねのへさき (ここには木幣をつけることがある)。

məgdə s. (その) まま : *məgdə biini*. そのままそれはある。／ *məgdəmbə ɔksəu*. そのままおけ。／ *jədu məgdəmbə ɔksəu*. ここにそのままおけ。／ *ənuwə* (または *ənukkəə*) *məgdəmbə ɔksəxəni*. なべをそのまま (煮たものが入ったまま U) かの女はおいた。／ *sini xuldaasi məgdəmbə bəəxəmbi*. おまえの箱をそのままわたしは与えた。／ *ɔmuwə məgdəndu*. そのままのゆりかごに。

Məgdəmə buwaatani (多来加地方の) 十三号の島 (地名) (種々の鳥が六，七月に産卵する)。

məgǰi NJ s. [acc. *məgǰimbə* N] (森のなかの J) 川のへり (やや高い) : *məgǰikki kaappeeni*. 川ぶちをかれはのぼる。N

məgǰigə s. [acc. *məgǰikkəə*] 刺繍の刺し方における縫い目の一種 (ボタンホールステッチ)。

məgǰikkee-ni v. [perf. *məgǰigəxə-ni*] *məgǰigə* (刺繍の刺し方における縫い目の一種) をつくる : *məgǰigəmi urpuri* ボタンホールステッチ。

məǰǰee-ni v. [perf. *mədəxə-ni*] 怒って現れる : *naa ambani məǰǰee-ni*. 地のばけものがおこって出てくる。／ *məə ambani məǰǰeeni*. 水のばけものがおこって出てくる。

məkkədə s. [acc. *məkkədəmbə*] ふなべり。

məkpi NJ s. [acc. *məkpee* N] たば (束) N － bunch, 帯のせなかのまるい結び，日本人の帯の結んだ部分 J : *dəə məkpi* ふた束 N／ *mauri məkpini* さけ・ますなどのせなかの切身の干したもののたば N.

məkpi-ni NU v. [perf. *məkpixə-ni* N] (体の) 支えをつくる (たとえば，病人の体がふとんから出ないようにふとんのはじに座ぶとんをはさんで) : *məkpigəčči təəsini*. 病人がふとんでせなかのささえをつくってすわっている。NU／ *uttaji məkpixəni*. くつでかれは体のささえをつくった (翌日はくくつが寒さで凍らないようにねるときくつを敷きぶとんのはじの下に入れたとき)。NU

məkpillee-ni J v. [perf. *məkpiləxə-ni*] ふとんなどをたたんでよりかかる。

məlbi-ni v. [perf. *məlbixə-ni*] とりやあざらしをとるとき音をたてないようにふねのかいや艫がいを水にふかく入れてこぐ : *ugdaa məlbini*. ふねをかれはかいを水に深くさしてこぐ。

məlimu G s. 後頭部とうなじの間の箇所。

məmigəčči-ni v. [perf. *məmigəčixə-ni*] つねる (何回も)。

məmigəllee-ni, *məmeellee-ni* v. [perf. *məmigələxə-ni*, *məmeeləxə-ni*] つねる (一回) : *puttəə məmigəlleeni*. こどもをかの女は一度つねる。

məmirə s. [acc. *məmirrəə*] 花が咲いたあと結んだ実。

məmirree-ni v. [perf. *məmirəxə-ni*] 結実する－ grow (fruit) : *siduxu məmirreeni*. こけももの実がみのる。／ *xojoo məmirəxəni*. いちごがみのった。

məmitə GJ s. (さけ，ます，あめます，いとうなどの) 脂びれ。

mənǰee-ni G. v. [perf. *mənǰəxə-ni*] 競争する : *mittəi mənǰeeni*. かれはおれと競争する。

məŋu s. [acc. *məŋumbə*] 銀－ silver : *məŋumə xunaaptu* 銀製の指輪。

məŋuri a. はいいろ (灰色) の－ gray ; s. [acc. *məŋurree*] : *məŋuri ŋinda* 灰色のいぬ。

mərgə a. かしこ (賢) い－ wise : *mastaa mərgə puttə* 大変りこうなこども。

mərgədəə s. けだものの一種。

mərkə s. [acc. *mərkəə*] (両歯の) すきぐし (櫛) (めが細かく，しらみもとる) － fine-toothed comb.

məu s. [acc. *məumbə*] おど (踊) り－ dance.

məuri-ni v. [perf. *məuxə-ni*] おど (踊) る－ dance : *məumbə məurini*. かの女はおどりをおどる。

mičči-ni v. [perf. *mituxə-ni*] は (這) う－ creep, crawl : *mičči puttə* はいはいする子。

miigəčči-ni v. [perf. *miigəčixə-ni*] まよ (迷) う－ go astray : *purəmbə pulini miigəččini*. やまを歩いてかれは迷う。

miijiččee-ni v. 切ろうとする，切りたい，切りにかかる。

miikta NJ s. [acc. *miiktəmbə* N] 低木の一種 (とげがあり，これに生じる酸い液果は食べる) N, ばら J : *miikta siduxuni* 低木の一種 (*miikta*) の液果 N (ななかまどの実のように赤い G)。

Miiktəisə s. [acc. *Miiktəissəə*] 十二号 (多来加湾岸の地点)。

miimətta s. [acc. *miiməttəə*] つるすまたは結ぶための皮ひも。

miinəiččee-ni v. [perf. *miinəitəxə-ni*] こまかく切ろうとする，こまかく切りたい，こまかく切りにかかる。

miinənni-ni v. こまかく切りに行く。

miinəsi-ni v. [perf. *miinəči-ni*] くりかえし切っている，こまかく切る－ cut.

miinǰi-ni GU v. [perf. *miičči-ni*] のどがつまる (食べたもので): *bii miiččimbi.* おれは食べたものでのどがつまった。G ／ *ulisəǰi* (または *ulissəə dəptumi*) *miiččini.* 肉で (または肉を食べて) かの女はのどがつまった (肉がかたくて)。U

miirəmbi-ni v. [perf. *miirəmbuxə-ni*] むこやその母がもらった嫁をつれて行く (または来る)。

miirəmbuǰǰi-ni v. [perf. *miirəmbuduxə-ni*] 嫁をもらってつれてかえる (むこまたはそのおやが)。

miirənǰi-ni v. [perf. *miirəčči-ni*] とつ (嫁) ぐ－ be married to a man.

miiroxu s. [acc. *miiroxxoo*] よめ入り持参品: *əəktə miiroxuni* 女のよめ入り持参品 (となかい，ふねなど)。

miiri-ni v. [perf. *miixə-ni*] き (切) る，すこし切る－ cut: *kučigənǰi miirini.* 小刀でかれは切る。／ *suŋdattaa miirini.* かれはさかなに切りめを入れる。

miis(ik)kə s. [acc. *miis(ik)kəə*] 洗面器 [＜ロ миска] (ウイルタはむかしは口に水をふくんで顔や手を洗ったという)。

Miitəri s. 人名 (男) (*Torisa* 氏族 U)，*niŋmaa* を上手に演じた。

miiwoočči-ni v. [perf. *miiwoočixə-ni*] 切らせる: 出産児が死ぬことがくりかえしおこるとそとで (産屋で) 出産して産児を家のけむり出し (*čokko*) またはけむり出しと戸口の間の箇所 (*eltələ*) から家へ入れる: *puttəə miiwoočči-ni.* 産児をかの女は死なないようにする (いぬの腸で産屋をとりまくと産児が死なない，あるいは老人のひげや髪で産児のうでをまく)。

mijila J s., *mejila* NU s. [acc. *mejillaa* N] ななかまど。

Mikeelə s. 人名 (男，*Torisa* 氏族，大野政雄氏の父) [＜ロ Михаил].

Mimita U s. 幌内川右岸の支流: *Mimita unigaani* ミミタ (メミタ) 川。

mindəməčči-ni NJ v. [perf. *mindəməčixə-ni* N] 棒で打ちあう N、日本の撃剣をする J: *mooǰi mindəməčči-ni.* 棒でかれらは打ち合う。N

minǰee-ni v. [perf. *mindəxə-ni*] 棒でうつ－ beat with a stick: *asibi minǰeeni.* かれは妻を打つ。

minuutu s. [acc. *minuuttoo*] 分－ minute [＜ロ минута]: *xasu minuutuwa.* 何分か。／ *ǰoon minuuttoo pərgəxəmbi.* 10分ぼくは考えた。

miŋga num. [acc. *miŋgaa*] 千 － thousand: *dəə miŋga* 二千 － two thousand／

xuju miŋga nada taŋgu ǰakpundoo ilaa 九千七百八十三。

mirree-ni G v. [perf. *miraxa-ni*] 大便をする際ちからを入れて排便する。

missookki s. [acc. *missookkee*] ふくろ (袋) [＜ロ мешок].

mituǰǰi-ni v. [perf. *mituduxə-ni*] 這って帰って来る (*mitumi issini*)。

moččosi-ni NU v. [perf. *moččoči-ni*] いやがる，いやだ: *min ǰeewi* (または *mini mamaŋubi*) *moččosini.* おれの仲間は (または，わしの老妻は) なにかすることをいやがってとめる。N ／ *ŋənəmi moččosini.* かの女は行きたくない。N ／ *xərəktəni moččosini.* 気分が悪い。N

moččouli a. 道理に合わない: *taraŋači undəisi moččouli.* そのようにきみが言えば理屈に合わない。

moičča NJ s. [acc. *moiččamba* N]，*meučča* GU s. [acc. *meuččamba* U] 鉄砲，銃－ gun [＜満 miyoocan，漢 鳥鎗]。

moiččačči-ni v. [perf. *moiččačixa-ni*] 鉄砲でうつ (何回も)。

moiččallee-ni v. [perf. *moiččalaxa-ni*] 鉄砲で (または鉄砲を) う (撃) つ－ shoot (a gun): *pəəttəə* (または *gassaa*) *moiččalleeni.* あざらしを (または鳥を) かれは鉄砲でうつ。N ／ *moiččanǰi moiččalleeni.* かれは鉄砲で (または鉄砲を) うつ。U

mokčiǰǰee-ni v. [perf. *mokčidaxa-ni*] まがる－ bend, turn: *moo mokčidaxani.* 木がまがった。／ *ǰəə poktokki ŋənəmǰee tawasai mokčidaxani.* かれはこの道を行ってからあっちへまがった。

mokčilli-ni v. [perf. *mokčilixa-ni*] まげる－ bend: *səlləə mokčillini.* かれは鉄をまげる。

mokčiptai adv. まがった方向へ: *mokčiptai urpixəni.* まがった方向へかの女は縫った。

mokčom adv. 前かがみになって。

mokčoroččee-ni v. [perf. *mokčorottoxo-ni*] かがんだままいる。

mokčuu a. まがった (木，人のからだなどが) － crooked, bent [ant. *toŋdo*]: s. [acc. *mokčukkoo*].

mokkeellee-ni NJ v. [perf. *mokkeelaxa-ni* N] 腰で手をくむ。

mokkiri s. [acc. *mokkirree*] もっきり (やちうぐい) (川魚)。

molkoŋo G s. おしょろっこ (魚) G (おしょろこまダロウ)。

momokto: *momokto mooni* 海岸の寄り木。

moni s. [acc. *monimba*] こけももの実・黒ゆりの根・ほしたすじこをふやかしたものにあざらしの油をまぜてつぶした食べもの。

monipu s. [acc. *monipumba*] 調理用のつぶす道具 (木製，円盤のまんなかににぎ

る柄がついた形状をしており，*itto* のなかの料理材料をおしつぶすのに使う）－ small wooden pestle.

monǰi-ni v. [perf. *monǰixa-ni*] も（揉）む－ crumple: *nattaa monǰini.* 皮をかの女は揉む（やわらかにするために）。

monni-ni v. [perf. *monixa-ni*] おしつぶす（料理材料を）。

moŋo s. [acc. *moŋŋoo*] さる（猿）－ monkey.

moŋboonǰi-ni v. [perf. *moŋbooč̌i-ni*] *ǰorri-ni*（人差しゆびでさす）と同義。

moŋgee-ni G v. [perf. *moŋgoxo-ni*] 流木がひっかかって川のひとつ箇所にあつまる（木に細い根がついているのでひっかかる）。

moŋgo NG s. 川のひとつ箇所にひっかかった流木のかたまり。

Moŋgoli s. [acc. *Moŋgollee*] オルチャ（*Maŋbu*）人の居住地の一つ（アムール川下流右岸）。

moŋillee-ni v. [perf. *moŋilaxa-ni*] あぐらをかく。

moŋo s. [acc. *moŋombo*] くび（頸）－ neck.

moŋoptu s. [acc. *moŋoptumba*] くびにまくきれ。

moŋoptullee-ni NU v. [perf. *moŋoptulaxa-ni*] くびに巻く: *sottoriǰi moŋoptulleeni.* タオルをかれはくびに巻く。U

moo s. [acc. *moowo*] 1. き（木），みき（幹），棒，材木，まき（薪）－ tree, stick, wood, firewood; 2. トランプの２，３，４，５.

mooč̌ee-ni U v. [perf. *mootoxo-ni*] すもうをとる。(Cf. *ŋooč̌ee-ni* N.)

moolimǰi s. まきをいつもとっている人: *moo moolimǰi* まきをいつもとっている人。

moolipsa NG s. [acc. *moolipsaa* N] まきを切ってとったあと。

moolisi-ni v. [perf. *mooliči-ni*] まきをとっている。

moollee-ni v. [perf. *mooloxo-ni*] まき（薪）をとりに行く－ go to get firewood: *moolomusi-ni* v. まきをとりに行きたい／ *moollounǰi-ni* v. まきをとりに行かせる。

mooloč̌ee-ni v. [perf. *moolotoxo-ni*] まきとりに行って帰って来る（まきとりに行って来る U）。

mooloǰǰi-ni U v. [perf. *mooloduxa-ni*] まきとりにまた行く。

moolonjee-ni v. [perf. *moolondoxo-ni*] ある所からまきとりに出かけるためにそこへ行く（ほかの人の家に寄って誘って行くときなど）。

moomi a. 声がふとい: *ǰildani moomi.* かれの声はふとい。N／ *bildani moomi.* かれののどは（声変わりのあと）声がふとい。U

moomoo s. [acc. *moomoombo*] たばこのパイプ（木製）－ tobacco pipe.

moosipsa G s. となかいのこすってぬけたつのの毛: *sirə moosipsani* 野生となかいのこすってぬけたつのの毛。

mooso s. [acc. *moossoo*] はやし（林），もり（森）－ woods, forest.

moossi-ni NGU v. [perf. *moosixa-ni*] （となかいがつのを）こする（秋につのの毛や皮をとるために）: *ulaa mootoi xujəbi moosixani.* となかいが木へ自分のつのをつけてこすった。U

moosuu s. [acc. *moosukkoo*] 銃を入れる袋（毛皮製）。

moosuxa: *moosuxa xujɔ* 春にひとりでにおちたとなかいのつの。

morisku U s. [acc. *moriskoo*] , *murisku* G s. がんじ（川・海にいる魚，色はすこしあかい，外形はへびのよう G）（ぎんぼダロウ）。

moroč̌čee-ni v. [perf. *morotoxo-ni*] ま（巻）いてそのままにしている: *niruktəbi utumuukki moroč̌čeeni.* 自分のかみのけを自分のうなじにかの女はまいてある。

morolisu a. まるい－ round; s. [acc. *morolissoo*]: *alukku morolisu.* 入れものがまるい。

morree-ni v. [perf. *moroxo-ni*] ま（巻）く－ wind: *kupəmbɔ morreeni.* 糸をかの女はまく。

mosiraǰǰi-ni NU v. [perf. *mosiraduxa-ni* N] ふたたびしわになる: *natta mosiraǰǰini.* （なめした）皮がまたしわになる。U

mosirree-ni v. [perf. *mosiraxa-ni*] しわがよる－ be wrinkled: *mosirami sagdač̌čini.* しわがよってかれは年老いた。

Motokolu s. [acc. *Motokolumba*] 人名（男，*Waaleetta* 氏族，*Kiitəŋənu* さんの弟）。

motoliŋa a. まるい（恥丘の形容か）。

Motoroonu s. [acc. *Motoroonnoo*] 人名（女）。

məkčəǰǰee-ni v. [perf. *məkčədəxə-ni*] 腰がまがる（老人になって）: *tari mapaač̌ča məkčədəxəni.* あのじいさんは腰がまがってきた。U

məkčəŋə a. 腰のまがった: *məkčəŋə sɔwɔ* 腰のまがった神像。

məkčərənǰi-ni v. [perf. *məkčərəč̌či-ni*] 腰がまがっている: *tari mama məkčərəč̌čini.* あの老婆は腰がまがっていた。U

mələxi NGJ s. [acc. *mələximbɔ*, all. *mələxittɔi* N] 棟木 N, 高倉の腰なげし GJ, 魚を干す掛け木における二本の柱の上にわたした水平の棒 GJ [cf. 朝 mere（棟）（訓蒙字会）].

məməəpinǰi-ni NJ v. [perf. *məməəpič̌či-ni* N] しゃがむ: *məməəpikkɔt tɔɔsini.* しゃがんだあとかの女はすわっている。N

mɵmɵpiččee-ni U v. [perf. *mɵmɵpittɵxɔ-ni*] しゃがんでいる：*tari nari* (または *ɔɔktɵ*) *mɵmɵpiččeeni*. その人（または女の人）はしゃがんでいる。

mɵmɵpirree-ni U v. [perf. *mɵmɵpirɵxɔ-ni*] しゃがむ，ひざを立ててかがむ。

mɵɵ N s. [acc. *mɵɵwɵ*, *mɵɵ*] , *muu* U s. [acc. *muuwɔ*, *muu*] みず（水）－ water：〔言い習わし〕 *dolbo mɵɵwɵ mɵɵlɵtɵgɵčči ɔkseeni*. *mɵɵ anaa beejini nari pananidda ambaddaa nari sɔɔksɔɔni umminindа*. よるは，水をくみに行ってきておいておく。水がないと人間のたましいも妖怪も人間の血をのむんだと。N

mɵɵčigɔ s. [acc. *mɵɵčigɔmbɔ*] 燃えのこりのまき。

mɵɵdɵ s. [acc. *mɵɵddɵɵ*] 洪水－ flood.

mɵɵdɵɵskɔ NJ, ***mɵɵdɵɵskɵ*** N s. [acc. *mɵɵdɵɵskɔɔ*, *mɵɵdɵɵskɵɵ* N] かわうその（毛）皮。

mɵɵduwɵ NG s. [acc. *mɵɵdukkɔɔ* N] , ***mɵɵdɵɵ*** NGJ s. [acc. *mɵɵdɵɵwɔ*, *mɵɵdɵɵwɵ* N] かわうそ－ otter.

mɵɵjjee-ni v. [perf. *mɵɵdɵxɵ-ni*] 洪水になる，氾濫する：*mɵɵdɵ mɵɵjjeeni*. 大水が出る。

mɵɵkkee s. 水（巫者の用語）：*mɵɵkkeelɔ baittaa baaxa* 水でよくないことをした（者）（巫者のことば）／*mɵɵkkeelɔ ɔɔndɔxɔ* 水であやまちをした（者）（巫者のことば）。

mɵɵkkeenneeni N s. 海の神，水人（現世界の下の世界の人）。

mɵɵkku a. 冷めた：*mɵɵkku silɔ* 冷めた汁。

mɵɵlisi-ni N v. [perf. *mɵɵliči-ni*] , *muulisi-ni* U v. [perf. *muuliči-ni*] 水くみに行っている：*mɵɵ(wɵ) mɵɵlisini*. 水をかの女はくみに行っている。N

mɵɵllee-ni N v. [perf. *mɵɵlɵxɵ-ni*] , *muullee-ni* U v. [perf. *muulɔxɔ-ni*] 水をくみに行く－ go to get water：*mɵɵwɵ* (または *mɵɵ*) *mɵɵlleewi*. 水をわたしはくみに行く。N

mɵɵlɵččee-ni v. [perf. *mɵɵlɵtɵxɵ-ni*] 水くみに行って来る：*mɵɵ mɵɵlɵččeeni*. 水をかの女がくみにいってくる。

mɵɵlɵjji-ni v. [perf. *mɵɵlɵduxɔ-ni*] 水くみにまた行く。

mɵɵluutu s. [acc. *mɵɵluuttɵɵ*] いど（井戸）－ well.

mɵɵnji-ni v. [perf. *mɵɵčči-ni*] さ（冷）める：*xulduu mɵɵ mɵɵnjini*. あつい水（湯）がさめる。

mɵɵpči-ni v. [perf. *mɵɵptuxɔ-ni*] 枯れてかわく：*orokto mɵɵptuxɔni*. 草が枯れてかわく。

mɵɵri-ni v. [perf. *mɵɵxɵ-ni*] 競争してか（勝）つ－ win：*nari tuksami*

mɵɵxɵni. 人が競走して勝った。

mɵɵssi-ni GU v. [perf. *mɵɵsixɔ-ni* G] あかがたまる（ふねが）：*ugda mɵɵssini*. ふねがあかがたまる。G

mɵrɵ s. [acc. *mɵrɵmbɵ*] こころ（心），きもち（気持）－ heart, mind：*nooni mɵrɵnjini ajaa*. あの人の思ったようでいい。／*mɵrɵlu* 賢い－ wise／*mɵrɵl(ɵ) anaa* かんがえなし－ stupid.

mɵrɵčči-ni v. [perf. *mɵrɵčixɔ-ni*] おも（思）う，かんが（考）える－ think：*čaa narree* (*ananami*) *mɵrɵččini*. かの女はあの人のことを（好きで）思っている。

mɵrɵččɵɵ N s. [acc. *mɵrɵččɵɵmbɵ*] , *mɵrɵčuu* G s. 円筒形の食器入れ（樺皮のまげものの外側をとなかいのなめし皮でおおってある，装飾に刺繍文様がついている，上部にくくる口がある，食器を入れ，移動の際もこれをとなかいにつけて運ぶ）。

mɵrɵl NU：*alukku mɵrɵl mɵrɵl biini*. 茶碗はまるい（形がまるくなっている）。NU

mɵrɵɵ s. [acc. *mɵrɵɵmbɵ*] ウイルタの獣皮製長ぐつ（足くびにしばるひも（*sɵɵksɵ*）があり，ひざ下でくつとはばきの二つに分離している，となかいのすね皮（*taagda xooso* や *saari xooso*）を主として用い，それにかわうその皮なども使い，それらの皮が毛模様をなす，底はあごひげあざらしの皮を使う，上部に毛皮の細長いかざり（*keepira*）がついている，*ɵmɵrɵ* はない，男子がはく）。

mɵrɵttu a. かしこ（賢）い－ wise：s. [acc. *mɵrɵttɵɵ*]：*mɵrɵttu nari* 賢い人。

mučča NG v. [perf. *muččaa*] はて，終端 N，さかなとりに行く一番川上の地点 G：*pokto muččani* 道の終端 N／*naa muččani* 地のはて N.

mučči-ni G v. [perf. *mutuxa-ni*] 初潮を迎える：*jɔɔ anannee mutuxani*. ことしかの女は初潮を迎えた。

muda NJ s. 人をおどろかしてたのしませるようなこと，手品 N，芸（とぼけたようなことを言ったりして笑わせるなどの）J［<<ロ мода］：*mudani maŋga nari* 芸の上手な人 J.

mudalapačči-ni v. [perf. *mudalapačixa-ni*] 芸（笑わせるなどの）をつぎつぎにする：*baŋ baŋ mudalapaččini*. ちょいちょいかれはとぼけたようなことを言う。

mudallee-ni v. [perf. *mudalaxa-ni*] 人をおどろかしてたのしませるようなことをする。

muddaanji NU：*muddaanji puličini*. 日帰りでかれは行って来た。NU，行ってすぐかれは帰ってきた。U

muddaanji-ni v. [perf. *muddaačči-ni*] 往復する。

muddaappačči-ni v. [perf. *muddaappačixa-ni*] なんども（目的地まで）往復する。

mugdəə s. [acc. *mugdəəmbə*] 切ったあとの木のかぶ：*moo mugdəəni* 木のかぶ N／*aisima mugdəə* 女がよめに行くとき騎乗の際足をかけるもの（木のねっこ）N／*daaji mugdəə* わなの仕掛けにおけるわながつく台木 J／*nuuči mugdəə* わなのかぎのつく台木 J.

Muigə s. [acc. *Muikkəə*] 幌内川上流左岸の支流。

Muigəttə s. ウイルタ族の氏族の一つ，日本姓は小沢－ clan name.

muigi s. [acc. *muiggee*, all. *muigitəi*] へび－ snake.

muiktə s. [acc. *muiktəə*] （*daata* からわかれた）ほそいね（根）（*kurkə* などをつくるときこれを裂いてしんを糸の代わりに使う）－ root.

muirə s. [acc. *muirrəə*] かた（肩）－ shoulder.

mujji-ni v. [perf. *mudəxə-ni*] （まえ歯で）かじる－ gnaw：*ŋinda mujjini.* いぬがかじる。

mukčee-ni v. [perf. *muktaxa-ni*] （人間が）のぼる－ climb：*mootoi mukčeeni.* かれは木にのぼる。N／*mookki mukčeeni.* かれは木をのぼる。G／*tookpukki mukčeeni.* かれははしごをのぼる。N／*xurigəkki mukčeeni.* かれは山へのぼる。N

mukpi-ni U v. [perf. *mukpuxa-ni*, conv. perf. *mukpuwačči*, *mukpoočči*] たたむ（*nəmbə*, *pulta*, 毛布などを），そでをおりかえす：*wəskəə mukpuxani.* そでをかの女はおりかえした。

mukpučči-ni U v. [perf. *mukpučixa-ni*] たたむ（何回も）：*tətuwəbi*（または *bussoo* または *nattaa*）*mukpuččini.* 自分のきものを（布を，皮を）かの女はいくえにもたたんでいる。

muktaččee-ni v. [perf. *muktataxa-ni*] のぼってしまっている。

muktakku s. [acc. *muktakkoo*] はしご（二本棒のはしごはウイルタにはない）－ ladder.

muktapačči-ni v. [perf. *muktapačixa-ni*] なんどものぼったりおりたりする（同じ木または異なる木を）：*mootoi muktapaččini.* 木をかれはのぼったりおりたりする。

muktuli s. [acc. *muktullee*] もぐら。

muli NGJ s. [acc. *mulimba* N] がん・かもの一種（食用 G）。

multama a. つののない（となかいについていう）。

multujjee-ni GU v. [perf. *multudəxə-ni* U] はずれる（はじにおいたものがずれて落ちるときのように）。

munali a. お（惜）しい（この語は述語として使う）：*munali əsiwi bəərə.* 惜しい，おれはやらない。／*munalee.* 惜しいなー。

munalisi-ni v. [perf. *munaliči-ni*] お（惜）しがる－ begrudge.

munaluuli a. お（惜）しい：*munaluuli ulaa* 惜しいとなかい。

munəi GJ s. かもの一種（食用）G.

munəskə s. [acc. *munəskəə*] スキー（*kumultə*）のうらににかわ（*kamdu*）ではりつけたあざらし（*baawui*, *geuksa*）の皮やとなかいの皮（*xooso*）。

munjee NGJ：*munjee tuwəmji* 通常の北風からすこしそれる北風 NJ，西風 G.

muŋgə NGJ s. [acc. *muŋgəə* N] 大きい川へ岸が突出した箇所にある川原（砂，石がある）：*uni muŋgəni* 川につきでた川原 N.

muŋgi J s.：*muŋgi sumuni* 足の腱。

muŋnaanji-ni U v. [perf. *muŋnaačči-ni*] いじめる（たとえば嫁を）：*irgəmbi muŋnaanjini.* かの女は自分の嫁をいじめる。

muppi-ni v. [perf. *muppuxa-ni*] たたむ－ fold：*tətuwəbi muppini.* 自分のきものをかの女はたたむ。

murgigačči-ni N v. [perf. *murgigačixa-ni*]，*murgeečči-ni* NJ v. [perf. *murgeečixa-ni* N] 戯談を言ったり，とぼけたことを言ったり，ふざけて人を笑わせる。

muri s. [acc. *murimba*] うま（馬）－ horse.

muriččee-ni v. [perf. *muritaxa-ni*] ねじってそのままにしている。

muripinji-ni v. [perf. *muripičči-ni*] ちょっとねじる（たとえばねじを）。

muriptaŋi s. [acc. *muriptaŋŋee*] ねじってあるもの：*siigə muriptaŋini* 耳かざりのらせん状の部分。

murree-ni v. [perf. *muraxa-ni*] どなる，さけぶ－ shout.

murri-ni v. [perf. *murixa-ni*] ねじる－ twist：*səlləə murrini.* 鉄をかれがねじる。／*ŋaallaani murrini.* かれはほかの人の手をひねる。／*čurupunji murrini.* ねじでかれがねじる。

musi[1] s. [acc. *musimba*] うろこをとったさけ・ます・あめます・よあかし（・いとう G）などの皮を煮てつぶし，これとほした魚の白子をふやかして煮たのやあざらしのとけた油をまぜ，それが冷えて固まった食べもの。

musi[2] NU：*musi musi inəsini.* こらえながらフフと笑う。

Musibi s. [acc. *Musibbee*] 地名（*dawaitu*），（北知床半島の）舟越（北舟越）。

musinji-ni U v. [perf. *musičči-ni*] *musi* をつくる（調理する）。

muskəri s. [acc. *muskərree*] 樹木の一種（どろやなぎ J）（丸木舟をつくる N）。

muspə NU s. [acc. *muspəə* N] 住家のまえの場所（海，川，湖水の岸，そこに舟

をおいてある)：*muspəkki ugdaa ujju.* 自分のうちのまえに舟をつなげ。U

mussi-ni NU v. [perf. *musixə-ni* N] ぬく，とる：*oroktoo mussini.* 草をかれはぬく。N／*ulaa sinaktaani mussini.* となかいの毛をかれはぬく。U

musuri s. [acc. *musurree*, all. *musuritai*] むしろ (蓆) [＜日 むしろ]。

muttasi s. [acc. *muttassee*] いぬぞりの滑り木 (台木) のうらがね (となかいぞりの滑り木にはない)。

mutuduiččee-ni v. [perf. *mutuduitaxa-ni*] ひきかえしたい。

mutuǰǰi-ni v. [perf. *mutuduxa-ni*] 途中からひきかえす：*mutuddu.* ひきかえせ。

mutupačči-ni NU v. [perf. *mutupačixa-ni*] 途中まで行ったりもどったりくりかえす。

mutuxi a. できるまでやりとおす：*mutuxi nari* 最後までやりぬく人。

muuji そばに人がいなくて用をしてもらえず不便，不つごうな場合に言うが，年寄りしか言わない。

muujji-ni J v. [perf. *muujixə-ni*] (けだものやひとの行く) さきにまわる。

muupči-ni U v. [perf. *muuptuxa-ni*] まくれる：*tətuwə təəni muuptuxani.* きもののすそがまくれた (風で)。N

muuri-ni v. [perf. *muuxa-ni*] まく (捲) る：*tətukki muuwačči giččini.* 自分のきものをまくってかれは歩く。

muxa s. [acc. *muxamba*] 腹部がふくれる病気のときのおまもりの偶像。

muxakku s. 腹がいたむ病気 (*muxa* の偶像をつくればなおる)。

muxali s. [acc. *muxallee*] 銃弾－ bullet.

muxənə s. [acc. *muxənnəə*] 金属製口琴 (まさかりに当ててさきを口にはさむ G) － Jew's-harp (made of iron).

muxənnee-ni v. [perf. *muxənəxə-ni*] 金属製口琴を奏でる－ play a Jew's-harp (made of iron).

muxulə GJU s. 海岸の高いところの砂地。

muxumai s. [acc. *muxumakkee*] ほっき貝。

n

naa s. [acc. *naawa*] つち (土)，土地，地，陸，くに (国) － soil, earth, land, country：*balǰixambi naa* 生地，故郷－ native land／*Sisa naani* 日本の国／*naawa xulleeni.* 土をかれは掘る。／*əri naa gurəi.* この土地は広い。

naada s. [acc. *naaddaa*] 入用 [＜＜ロ надо]：*naadala anaa.* つかいみちがない，用にたたない。NJ／*əri xaidu naadaa.* これがなにに入用か。N

naadakta s. [acc. *naadaktaa*, pl. *naadail*] ある女子に対して，生まれた氏族 (父系) 内の傍系男子 (ただし年令はその女子ぐらいまたはそれ以下) － (for a female) brother, cousin (male), nephew.

naajičči-ni v. [perf. *naajičixa-ni*] くさらしている：*suŋdattaa naajiččini.* さかなをかの女はくさらしている。U

naajji-ni v. [perf. *naajixa-ni*] くさらす：*suŋdattaa naajjini.* さかなをかの女はくさらす。

naaǰǰee-ni v. [perf. *naadaxa-ni*] い (要) る－ need：*xaiwa naaǰǰeesee.* なにをおまえは必要とするのか。

naaksa N s. [acc. *naaksaa*] はな (洟)，うみ (膿) － snot, pus：*isal naaksani* めやに NJ.

Naaksauna s. 人名 (男，*Warabainneeni* 氏族)。

naaktu s. [acc. *naaktoo*] がんべ，できもの，ふきでもの。

naalboo s. 樹木の表面に *waxi* が生じ (*balǰi*) てそれが土をかぶったもの (樹上の表面に土が生じたもの (*moo ojokkeeni naa balǰixani*) G).

naaluu a. なまの (さかな，肉が) － raw：*naaluu suŋdatta* なまのさかな；s. [acc. *naalukkoo*].

naama NU s. 両手でかかえる太さ：*geeda naamandu bii moo* ひとかかえある木。U

naamačče-ni G v. [perf. *naamattaxa-ni*] だいて (そのまま) いる。

naamalli-ni NU v. [perf. *naamalixa-ni*] 抱く NU，ふたりのおとなが互いにだきあう (アイヌは挨拶にこうする) N：*puttəə naamallini.* こどもをちょっとかの女は抱く。U (*naamanǰini* は長く抱く) ／*miirəčči patalaŋubi naamalixani.* 嫁に行った自分のむすめを (里帰りしたので) かの女は抱きかかえた。U

naamanǰi-ni v. [perf. *naamačči-ni*] だ (抱) く－ embrace：*puttəbi naamanǰini.naamanǰi-ni* v. [perf. *naamačči-ni*] だ (抱) く－ embrace：*puttəbi naamanǰini.* 自分のこどもをかの女はだく。

naammee-ni v. [perf. *naamaxa-ni*] (病気が原因で) 手足や体が動かなくなる。

naanneeni s. [acc. *naanneepani*] 土地の人，この土地の者：*əri naanneeni* この土地の人／*goi naanneeni* よその土地の人。

naanullee-ni N v. [perf. *naanulaxa-ni*], *naanuullee-ni* G v. [perf. *naanuulaxa-ni*] となかいが別のとなかいに追いつく (*xaakpanǰini*) N, 走る2頭のとなかいがあたまをならべる G.

naaŋbi-ni NJ v. [perf. *naaŋbuxa-ni*] あたる (銃弾などが), 命中する: *moičča naaŋbini.* 鉄砲があたる。N／*moičča muxalini naaŋbini.* 鉄砲のたまが命中する。N／*naaŋboonǰini* 当てさせる N.

naaŋgi-ni v. [perf. *naaŋguxa-ni*] おとし (猟具) を仕掛ける。

naaŋgu NJ s. [acc. *naaŋgoo* N] 猟具の一つ, おとし (てんやきつねをとる)。

naar(it)ta s. [acc. *naar(it)taa*] はば広く, たけが高いとなかいぞり, 二頭のとなかいが左右にならんで引く, ヤクート人から伝来したもの－ reindeer sledge [< ロ нарта, ヤ наарта] .

naari-ni v. [perf. *naaxa-ni*] くさ (腐) る－ rot: *naaxa suŋdatta* くさったさかな。

naata s. [acc. *naattaa*] くまの皮 (*bəjəskə*)。

naatami s. [aec. *naatammee*] 敷きぶとん (となかい皮) － fur cushion.

naawi s. [acc. *naawwee*] さけやますを刺してとるやす (杈) (あざらしの皮ひもがついている)。

naawu s. [acc. *naawumba*] やもめ, 未亡人－ widow.

naawunǰi-ni v. [perf. *naawučči-ni*] 未亡人になる－ lose one's husband.

nada num. [acc. *nadamba*] 七, ななつ－ seven: *naǰǰee-ni* 七か月め (妊娠や生後の月数) － seventh month／*nadalta* adv. 七回－ seven times／*nadattuŋasa* num. 七つ全部 以上はすべてN／*nada saŋga* やつめうなぎ, 焼いて食用 G.

nadandoo num. [acc. *nadandoowo*] 七十 － seventy.

nadaragda num. [acc. *nadaragdaa*] トランプの７.

nadasa NJ s. [acc. *nadassaa*] ななつぼし (北斗七星), 大熊座 (Nによれば *nada xosikta* とも言うが, Jによればこのようには言わない。またNによれば, その星の数は人により七つとも, 八つともいう, あるいは六つという人もあるよし, これがたくさんにみえると裕福になる (*bajanǰi*) という)。

naiččee-ni U v. [perf. *naitaxa-ni*] うたがう (金をぬすんだとか)。

Naiputu s. [acc. *Naiputtoo*] 多蘭 (タラン) (селение Речное): *Naiputu nɔɔni* 多蘭川。

Naiputunneeni s. ウイルタ族の氏族の一つ, ほかの氏族の人はこの氏族がサウハルジ (*sauxalǰi*) という鳥から生じたと悪口を言う, 日本姓は小川－ clan name.

nakku s. [acc. *nakkoo*] にわとり－ hen, cock.

nalduma s. [acc. *naldummaa*] いとう (魚)。

nalmaa s. [acc. *nalmaamba*] 作業用上着 (なめし皮 (となかいの皮 G) 製, 男が夏着る)。

nalmakta s. [acc. *nalmaktaa*] か (蚊) － mosquito.

nalta J a. たいらな: *nalta xuree* たいらな山 (一段とひくい山)。

naltakta J s. 山の高いところの下の木のない地。

naluu NG s. [acc. *nalukkoo* N] からふとます (はながふくろう (*uksara*) のようにまがっている G) [cf. ニ *ɲalχ*] .

nam(i) GU: *nam nam* じょうずに U／*nam nami utullini.* 上手に (たくみに) かれはできる (*pakči nari* のやりかた)。G／*nam nam kɔɔnǰini* (または *uilleeni*) . 上手にかれは話す (または仕事する)。U

nama a. あったかい (この語は述語として使う) : *nama ɔǰǰee nɔmbɔ.* あったかい, (かけぶとんを) かけるな。／*namaa.* あったかいなー。／*ɔnɔǰjee namaa.* ずいぶんあったかいなー。

namagda s. [acc. *namagdamba*] ゆりかごにねかせた幼児にかける布。

namasi-ni v. [perf. *namači-ni* (**namasu* という命令形はない)] あたたかい: *ɔsinɔŋi namasini.* 今日はあたたかい。

namaska s. [acc. *namaskaa*] めすのとなかいの皮。

namauli a. あたたかい－ warm; s. [acc. *namaullee*]: *namauli inɔŋi* あたたかい日。

namba s. [acc. *nambaa*] となかいの胴に振分けにつける荷。

nambee-ni v. [perf. *nambaxa-ni*] となかいの胴に振分けに荷をつける: *ulaakki nambeeni.* となかいにかれは振分けに荷をつける。

nami s. [acc. *nammee*, pl. *namasal*] (となかいの) めす－ female (reindeer): *nami ulaa* めすとなかい。

namu s. [acc. *nammoo*] うみ (海) － sea.

namulta s. [acc. *namultaa*] (湿地の) こけ (苔) － moss.

namuu s. [acc. *namukkoo*] 月経のときの下ばき (*pɔruu*) に入れる *sauri* (低木の茎のやわらかい内部 (髄) をけずったものでちり紙の用をする)。

namuullee-ni v. [perf. *namuulaxa-ni*] *namuu* をつかう。

namuwa NG s. [acc. *namukkaa* N] となかいの当歳のめす N, となかいの幼いめす G: *namoo* (または *namuwa*) *soondoo* となかいの一歳 (春生まれて翌年春まで) のめす J.

nanusi s. [acc. *nanussee*] 海の神 (*tɔɔmunneeni*) にささげる木幣 (ふねの木幣)。

naŋda s. [acc. *naŋdaa*] 借り (金ばかりでなく, 買って未払いのとなかいなど)。

naŋdačči-ni U v. [perf. *naŋdačixa-ni*] 借りる (何回も), 借りている。

naŋdamasi-ni v. [perf. *naŋdamači-ni*] 借りを返すようもとめている: *nɔɔ naŋdamasini.* すぐ借金を払ってくれとかれは言っている。

naŋdaunǰi-ni v. [perf. *naŋdaučči-ni*] 貸す。

naŋisa s. [acc. *naŋissaa*] (からだの) あか (垢) − dirt, grime: *nari naŋisani* となかいやいぬ (人間のあかとみる)。

naŋita s. [acc. *naŋittaa*] 松かさ (*bookto*) のなかの種子。

naŋǰee-ni v. [perf. *naŋdaxa-ni*] か (借) りる (粉, 米, かねを) − borrow: *naŋdaunǰi-ni* v. [perf. *naŋdaučči-ni*] か (貸) す− lend.

naŋmaǰǰi-ni NG v. [perf. *naŋmaduxa-ni*] いい天気になる: *boo naŋmaduxani.* 天気がよくなった。NG／*əri boo naŋmadutaa.* この天気はよくなってきた。N

naŋmee-ni U v.: *əsinəŋi boo naŋmeeni.* きょうは天気がよくなる (よい)。

naŋna s. [acc. *naŋnaa*]: *boo naŋnani* 天。

napčiŋga a. すばしこい (ひとについていう), なにをやっても手のはやい (よい意味で言う): *napčiŋga nari* (または *əəktə*) 仕事がはやくできる人 (または女)。

Napka s. [acc. *Napkamba*] 佐藤チヨさんのウイルタ名。1910年ごろ *Luktama* に生まれ, 成長して *Korreega* に行き, 北知床半島に3年いたあと, *Naiputu* に居住した。1947年北海道に移住, 1985年死去。

nari s. [acc. *narree*, pl. *naril*, *narisal*] ひと (人), おとこ (男), おとな, ほかの人 (他人, よその人) − person, man, adult: *tari nari* その人, その男, そのおとな／*čaa əəktəə nari gaččičinda.* その婦人をよそがよめにもらったそうだ (話し手の氏族とは別の氏族の人 (*goi aŋdainnee*) がの意)。

nariga [1] N s. [acc. *narigamba*] ひとみ (瞳) − eye pupil: *isal narigani* NJ, *isal nareeni* J ひとみ。

nariga [2] J s. さかなにつくむし。

nariŋŋi s. [acc. *nariŋŋee*] よその人のもの: *tari nariŋŋi* その人のもの／*tari narisalŋi* その人たちのもの。

naru NJ a.: *naru naa* 林のなかのひろいたいらな場所 (やちでない, 小さい木がところどころにあり, こけももの実も多い) N.

Naruŋgeenu s. [acc. *Naruŋgeenumba*] むかしばなしに出る人物 (男), カルジャメという大男の怪物を負かして宝ものを得た (*Səəktə xalani* は *Naruŋgeenu* から出た G)。

Nataaska s. [acc. *Nataaskamba*] 人名 (女, 佐藤チヨさんの母) [<ロ Наташка].

natalboori NJ s. [acc. *natalboorree* N] ひとで (棘皮動物)。

natta s. [acc. *nattaa*] (けものの) かわ (皮), けがわ (毛皮) (*natta* は季節により かわり, 11, 12月のがよい) − hide, fur: *nattama*, *nattami* 皮製の／*nattama guidə* 皮のおおい (家屋の)。

naudakta J s. 草の一種 (やけどにつけるくすりとして用いる)。

naukta s. [acc. *nauktaa*] きれくさ (草) (干したものもこの名でよぶ, 保温用にくつに入れて足をつつむ) − species of grass used for padding (warming) boots: *naa nauktani* 陸のきれ草 (色は *səəgdə*) ／*namu nauktani* 海のきれ草 (海岸の *siri* にある, 色は *taagda*) ／*utta nauktani* くつに入れた保温用のきれくさ。

nauramǰi s. [acc. *nauramǰee*] そりを引く先導犬。

naurree-ni v. [perf. *nauraxa-ni*] 先導する (ひとが)。

neekta s. [acc. *neektaa*] 固形の脂肪がとけて液体の油となったときののこりかす。(*bukpaa* と *neekta* を一緒に食べるとおいしいとむかし老婆たちが言ったという。)

nəčči-ni v. [perf. *nətuxə-ni*] 皮を (のばしたりもんだりして) なめす。

nəčikku NJ s. [acc. *nəčikkəə* N] 食べたあとむねがきもち悪く, やけること: *nəčikkəə saarisii.* むねやけることあんたわかるか (やけたことあるかないか)。NU

nəčisi-ni NG v. [perf. *nəčiči-ni*] 食べたあとむねがきもち悪く, やける: *bii nəčisiwi.* おれはむねがやける。J

nəə [1] NJ s. [acc. *nəəwə* N] 海に入る大きな川の河口近い部分: *daaji nəə* 海に流れこむ大きな川の河口近い部分 N／*Səəktə nəəni* ポロナイ川の河口近い部分 N／*Kuuji nəəni* タライカ川 (タライカ湖から海に至る) NJ.

nəə [2] adv. すぐ (Cf. *naŋdamasi-ni* の条)。

nəəčigə s. [acc. *nəəčigəmbə*] ことり (小鳥) − small bird: *ulaa nəəčigəni* 小鳥の一種 (つめながせきれいか) (飼育となかいのところにおりてその毛をとり巣をつくる) G.

nəəčikə s. ことり (*nəəčigə* の幼児語)。

nəəjiččee-ni v. 出ようとする。

nəəǰǰi-ni v. [perf. *nəəduxə-ni*] 出てもどる: *bootoi nəəǰǰini.* そとへかれは出てもどる。／*utəkki nəəǰǰini.* 戸口からかれは出てもどる。

Nəəksinnə s. 人名 (女, *Səəktə* の氏族の生まれ, *Iljaanu* さんの妻), *niŋmaa* を上手に演じた。

nəəpəčči-ni v. [perf. *nəəpəčixə-ni*] なんども出たり入ったりする: *bootoi nəəpəčči ni.* (うちの中から) そとへかれは出たり入ったりする。

nəəri-ni v. [perf. *nəəxə-ni*] で (出) る− go out: *bootoi nəərini.* そとへかれは出る。／*səəksə nəərini.* 血が出る。

nəəwwi-ni v. [perf. *nəəwuxə-ni*] だ (出) す (家から) − put out.

nəktə a. ひく (低) い− low: *nəktə naa* 低い土地／*tari nari nəktə.* その人は (背が) 低い: s. [acc. *nəktəə*].

nəktəukə a. ひどく低い： s. [acc. *nəktəukəmbə*]: *bəjəni nəktəukə jiktoo nari* 体がうんと低くてふとい人。

nəlčiri J a. 春の； s. その年の春に生まれたくまの子 (おすにもめすにもいう): *nəlčiri seepoo* 生まれた翌年の春のとなかい。

nəldə s. [acc. *nəldəə*] 土から露出している木のねっこ (細い根がついている): *moo nəldəni* 地上に露出している木の根。

nəlixə s. [acc. *nəlixxəə*] きゃはん (*garu*) のおもてにぬいつけたきれ (文様がついている)。

nəmbee-ni v. [perf. *nəmbəxə-ni*] (ねている人のからだに) かける。

nəmbə s. [acc. *nəmbəə*] ねている人のからだにかけるもの (夜でも昼間でも) (ふとんや寝るときかけるものはなんでもいう U)。

nəmdə a. ほそ (細) い− thin: *nəmdə kupə* 細い糸； s. [acc. *nəmdəə*].

nəmdəukə a. ひどく細い: *nəmdəukə bee* ほそっこい月，三日月。

Nəmdəukə s. 人名 (男)，俗称 (本名は *Čeexara*)。

nəmiləttə a. うす (薄) い− thin: *nəmiləttə busu* うすい布； s. [acc. *nəmiləttəə*].

nəmuu s. [acc. *nəmukkəə*] 固形の脂肪 (あざらしやくまの) (溶かして食べる U) − tallow.

nəŋnə adv. はる (春) に− in spring: *əsi nəŋnə* この春／ *nəŋnədələ(ə)* 春まで。

nəŋnədə s. [acc. *nəŋnəddəə*, *nəŋnədəmbə*] 春の居住地 (浜辺，以前は *aundau*，のちには *palaačikka* をつくる，あざらしや魚をとる)。

nəŋnəǰǰi-ni U v. [perf. *nəŋnəduxə-ni* NU] 春になる。

nəŋnəni s. [acc. *nəŋnənnee*] はる (春) − spring: *jəə nəŋnənnee* この春に／ *nəŋnəniduuni biini*. 昨年の春からかれはいる。

nəŋnəri a. 春の: *nəŋnəri natta* 春の獣皮。

nəsəm adv.: *nəsəm bii naa* たいらになっている土地。

nəu s. [acc. *nəuwə*, pl. *nənil*] 弟妹 (またはひろく同世代で年下の傍系者) − younger brother, younger sister: *xusə nəuni* おとうと− younger brother／ *əəktə nəuni* いもうと− younger sister／ *nəumunə* 兄弟，姉妹。

nəuŋəsə s. [acc. *nəuŋəssəə*, pl. *nəuŋəsəl*] 死んだ弟・妹− deceased younger brother or sister.

nəureepu s. [acc. *nəureepumbə*] はた (旗) − flag.

niččee-ni v. [perf. *nitaxa-ni*] (しらみを) つぶす (何回も): *xosiktaǰǰi niččeeni*. かの女は自分のつめでつぶす。

niiččee-ni v. [perf. *niitəxə-ni*] あ (開) けておく。

niipsi-ni v. [perf. *niipsixə-ni*] 目をつぶる： *isalbi niipsini*. 目をかれはつぶる。

niipsiččee-ni v. [perf. *niipsitəxə-ni*] 目をつぶっている。

niiri-ni v. [perf. *niixə-ni*] ひら (開) く，あ (開) ける− open: *isalbi niirini*. かれは目を開く。／ *uttəə niirini*. 戸をかれはあける。／ *kuptambani niirini*. そのふたをかれはあける。

nikəə J s. [acc. *nikəəwə*] となかい，じゃこうしか，うさぎ，またはきつねが歩きまわって地や雪を踏んであるところ。

Nikolaanu s. 人名 (男，*Səəktə* の氏族) [< ロ Николай].

niktaŋa a. ひくい (鼻が): *xurigani niktaŋa*. かれの鼻はぺちゃんこだ。

nilami a. 声がほそい。(Cf. *moomi*.)

nilau a. はだかの (きものを着ていない，または，毛のない) − naked, bare, furless； s. [acc. *nilaumba*]: *nilau nari* 毛のない人間 (けだものに対して) ／ *bəgǰini nilau*. かれの足ははだしだ。

nimə s. [acc. *nimməbə*, *nimməə*] 近所，となり− neighbourhood: *nimənneeni* 近所の人− neighbour／ *nimənǰǰee* となり (の方)。

niməriččee-ni v. [perf. *niməritəxə-ni*] よその家にあそびに行きそこからもどって来る (帰って来る舟かとなかいを見れば言う)。

nimərri-ni v. [perf. *nimərixə-ni*] よその家へあそびに行く，客に行く。

nimətəəli a. 近所の，*s.*: *nimətəəli duxu* となりの家／ *tari narisal nimətəəlinǰi biiči*. その人らは近所にいる。

nimmaa adv. まだ− still, yet: *nimmaa biini*. まだかれはいる。

ninǰi-ni U v. [perf. *ninduxə-ni*] 苦しくてうなる： *ənusi nari ninǰini*. 病人がうなる。

niŋi s. ゆびのよこはば (長さの尺度): *əmə niŋilə biini*. それは指一本の横巾の長さがある。／ *dəə niŋilə biini*. それは指二本の横の巾の長さがある。／ *mini dəə niŋibi* おれの指二本の横の巾。

niŋmaa s. [acc. *niŋmaamba*] 語りもの (部分的に朗吟される，ウイルタ族の口頭文芸のジャンルの一つ) − recited story.

niŋmaala a., s. 語り物 (*niŋmaa*) を語るのが巧みな (人): *niŋmaala nari* 語り物を語るのが上手な人 (*pakči nari* G)。

niŋmaanǰi-ni v. [perf. *niŋmaačči-ni*] 語り物や架空物語を語る： *gaajimba niŋmaanu*. からすのお話をしてちょうだい。

nirakka s. [acc. *nirakkaa*] ふいりあざらしの二歳のもの。

nirikta s. [acc. *niriktaa*] せぼね (背骨)。

nirri-ni v. [perf. *nirixa-ni*] (動物の) ほねとほねを関節ではずす: *girapsaa nirrini.* ほねをかれははずす。／ *niriktaa nirrini.* せぼねをかれはこまかく分ける。

niruǰǰee-ni v. [perf. *nirudaxa-ni*] お (折) れる (木が，おれてもまだつながっている)。

niruktə NGJ s. [acc. *niruktəə* N] , *nuriktə* K s. かみのけ (人間の) − hair: *taagda niruktə* しらが G.

nitalli-ni NU v. [perf. *nitalixa-ni* N] つぶす (一回): *čiktəə nitallini.* しらみをかの女はつぶす。U／ *xosiktaǰǰi nitallini.* 自分のつめでかの女はつぶす。U

nogdoŋo [1] NJ s. [acc. *nogdoŋombo* N] 山のみねとみねの間の低い箇所: *xurigə* (または *xuree* J) *nogdoŋoni* 峰と峰の間の低いところ NJ.

nogdoŋo [2] GJ a. からだがうしろにそっている: *nogdoŋo nari* 体がうしろにそっている人 GJ.

nokči-ni NJ v. [perf. *nokčixa-ni* N] 雪がとけかかって半分水になる，天気のよいとき雪の表面がとける: *simatta nokčini.* ゆきがとけかかって水気をおびる。N／ *nəŋnə nokčila pulipuri* 春に雪がとけはじめる時期にあるくこと (人についていう) N.

nomoxo a. おとなしい (となかいが)。

noŋočči-ni v. [perf. *noŋočixa-ni*] くすりをつける (*čipəə* (みつば) の根や *wapaa* (きのこの一種) や *gusi* (わし) の骨をこなにして骨の痛むところへこすり (*xəərri*) つける) (この語は聞いたことがあるが自身は使わないという N)。

nooǰi U a. きれいな: *busu* (または *alukku*) *nooǰi.* 布 (または容器) がきれいだ。U／ *mastaa nooǰi irga.* 大変すばらしい文様です。G／ *nooǰilambani.* それのきれいなことね。U

noo-ni pron. [acc. *noombo-ni*] かれ，かの女 (文脈におけるある名詞がさす他の人物と区別してある人物をさす) − he, she (in contrast with a substantive designating another person or other persons in the context); pl. *noo-či* [acc. *noombo-či*] かれら (上と同義) − they (in the same use): *nooŋi-ni*, *nooniŋi*, *nooniŋi-ni* かれのもの U／ *nooŋi-či*, *noočiŋi*, *noočiŋi-či* かれらのもの U.

nooŋgi-ni v. [perf. *nooŋguxa-ni*] 川が一番はじめに凍るとき水に氷がまじった状態になる: *uni nooŋgini.* 川が凍りはじめ水に氷がまじってどろどろになる。

nootono NGJ s. [acc. *nootonnoo* N] となかいの四歳のおす GJ.

nopolli-ni NU v. [perf. *nopolixa-ni*] つぶす: *ŋojokkoo nopolixani.* たまごをかの女はつぶした。N

nossuuri-ni v. [perf. *nossuuxa-ni*] 天や地ができる，天地が創造される: *tənəə naa nossuuŋasseeni* 一番はじめ地ができたときに。

nəgəni s. [acc. *nəgənimbə*] 子 (自分の男の子，女の子をさして言う)。

nəŋməl s. けものの一種。

Nəəwə s. [acc. *Nəəkkəə*] (多来加湾沿岸の) 野頃 (ノコロ): *Nəəwə unini* 野頃川／ *Nəəwənneeni* 野頃の人 (ここのことばには他の地方とちがう点があるという)。

nəttə s. 毛のよいてんやかわうその毛皮: *nəttə nattani* 毛のよいてんかかわうその毛皮。

nučaika a. ちっちゃい，小さい。

nučiikə a. ちっちゃい，小さい: *nučiikə unigamba itəxəmbi.* ちっちゃい川をおれは見た。

nuda s. [acc. *nuddaa*] 平手打ち (この語はいまはほとんど使わないという)。

nudaa s. [acc. *nudakkaa*] かもの一種 (食用 G)。

nukkəənəə s. voc. 弟妹や自分より年下の者を呼ぶとき言う (歌謡のなかで使われる語)。

nuksa s. [acc. *nuksaa*] 渓谷 (小さい山の間にある) (さわ (沢) J) − valley.

nulǰi s. 引越し (やうつり): *mini nulǰibi* わしの引越し。

nulǰi-ni v. [perf. *nulǰixə-ni*] 引越す，転居する (季節的にたとえば冬の住居へ) − move (change one's dwelling).

nulǰiǰǰi-ni v. [perf. *nulǰiduxə-ni*] 自分の家へうつる: *duwari* (または *tuwəri*) *duxutakki nulǰiduxəni.* 夏の (または冬の) 自分の家へかれはうつってもどった。

nulǰipəčči-ni v. [perf. *nulǰipəčixə-ni*] あちこち転居する。

nulli-ni v. [perf. *nuluxə-ni*] 毛がぬける，脱毛する (けだものの毛についていう): *natta nullini.* 毛皮の毛がぬける。

numisə N s. [acc. *numissəə*] (となかいの) 反芻胃 (複胃) の一部: *daaji numisə, nuuči numisə* 両者どちらも，となかいの反芻胃の一部。食べたものは前者から後者へ行くという。J (前者が第三胃，後者が第四胃だろう。)

nuna s. [acc. *nunnaa*] うにの類 (棘皮動物) [<ア nona].

nunee s. voc. 弟妹や同じ氏族の年下の者を呼ぶとき言う。

nuŋbee-ni v. [perf. *nuŋbəxə-ni*] のみこむ，のみくだす− swallow.

nuŋə s. [acc. *nuŋəmbə*] (飼育ならびに野生の) となかいのなかで先頭に立つもの (危険を一番さきに気づき，これがにげればほかのものもにげ，これがとまればほかのものもとまる。通常，人間については言わないが，人間なら，人間の一番さきに立つもの，女なら一番ものがわかるものという。語り物に *nuŋə əəktə* (一番わかる女) の語があらわれるという): *nuŋə ulaa* 先頭に立つとなかい。

nuŋələsi-ni NU v. [perf. *nuŋələči-ni* N] 相談して指図 (許可) をもとめる: *ŋənəbuǰǰi* (または *gabuǰǰi*) *nuŋələsini.* 行っていいか (または買っていいか) かの女は許可をもとめる。U ／ *amittakki nuŋələsini.* 父親にかれは相談して指示をもとめる。U

nuŋəllee-ni U v. [perf. *nuŋələxə-ni*] 相談しに行く: *ǰeetakki nuŋəlleeni.* 自分の連れに (やまへ行くかどうかについて) かれは相談に行く。

nuŋərəgdə num. [acc. *nuŋərəgdəə*] トランプの6.

nuŋǰi a. さむい (この語は述語として使う): *nuŋǰi əǰǰee ŋənnəə.* さむいから行くな。／ *nuŋǰee.* さむいなー。

nuŋǰičči-ni v. [perf. *nuŋǰičixə-ni*] ゆびや手でさし示している－ point to: *nuŋǰičimi aldurixani.* かれは指をさして知らせた。／ *tawasai nuŋǰiččini.* あちらへかれは指をさしている。

nuŋǰika s. 寒さ: *ajaa nuŋǰuuli nuŋǰika* 大変寒い寒さ。

nuŋǰikku s. 氏族 (*xala*) のむかし一番さきに死んだひとりの人 (それは男 G, その名は知られている)。

nuŋǰilli-ni v. [perf. *nuŋǰiluxa-ni*] 寒くなる: *bolodumi nuŋǰillini.* 秋になって寒くなる。U

nuŋǰi-ni v. [perf. *nuŋǰixə-ni*] さ (指) す, ゆびでさし示す－ point to; 死者に先祖のいる行き先を示す (樺皮でつくった人の形を死人のつえのさきにつけてそれをもち棺の足さきの方でまさかりの上へあがって人がその氏族の一番さきに死んだ人の名 (わからなければ死者の父の名でよい G) をよんでそこへ行けという): *tawasai nuŋǰini.* あっちへかれはゆびさす。／ *buččinneepə nuŋǰini.* 死者に先祖のいる行き先を示す。／ *nuŋǰimi aldurixani.* かれはゆびさして知らせた。

nuŋǰisi-ni v. [perf. *nuŋǰiči-ni*, conv. perf. *nuŋǰigačči*] さむ (寒) く感じる－ feel cold: *nuŋǰisiwi.* おれはさむい。

nuŋǰuuli a. さむ (寒) い－ cold: *nuŋǰuuli inəŋi* さむい日。

nuŋmənǰi-ni NG. v. [perf. *nuŋməčči-ni*] 恐怖によってたじろがす G, *oŋdo* (妖怪の一つ) が人間に妖術をおこなう (それによりその人間は病気のように体が衰えて死ぬ) N: *amba narree nuŋmənǰini.* 人を食う妖怪 (*amba*) がこれに出会った人間を恐怖でたじろがす (その人は, かおがあおくなったり, ふるえたりし, こうなった人はたすからないという)。G ／ *amba narree nuŋməččini.* ばけものが人に妖術をおこなった。N

nuŋna s. [acc. *nuŋnaa*] がん (鳥) の一種 (ひしくい, 食用 G) － a species of wild goose.

nuŋu num. [acc. *nuŋumbə*] 六, むっつ－ six; *nuŋgee-ni* 六か月め (妊娠や生後の月数) － sixth month ／ *nuŋultə* adv. 六回－ six times.

nuŋundoo num. [acc. *nuŋundoowo*] 六十 － sixty.

nuŋundoori-či J v. [perf. *nuŋundooxo-či*] トランプの遊び方の一つをする (この遊び方は六人または四人または二人でおこなう): *nuŋundooriwi.* ぼくはトランプの上記の遊び方をする。

nuričči-ni v. [perf. *nuričixa-ni*] どこにでも書く。

nuriǰǰi-ni v. [perf. *nuriduxa-ni*] 書き直す。

nurikku s. [acc. *nurikkoo*] 鉛筆, ペン, ふで (筆) － pencil, pen, writing brush.

nurimǰi J s. 木材伐採の請負師などの帳場の者。

nurinǰee-ni v. 書きに行く。

nuripinǰi-ni v. [perf. *nuripičči-ni*] ちょっと書く。

nurri-ni v. [perf. *nurixa-ni*] か (書) く－ write.

nuruwa s. *tuuruwa* の小さいの (踊るとき *illau* をつけたこれをつかんで踊る)。

nusku s. [acc. *nuskөө*, all. *nuskutəi*] いぬやとなかいがそりを引くつな。

nussi-ni v. [perf. *nusuxa-ni*] ひっぱってぬく, むしりとる: *niruktəəni nussini.* かれのかみの毛をかの女がひっぱってぬく。／ *sinaktaa nussini.* 毛をかれはひっぱってぬく。／ *oroktoo nussini.* 草をかれはむしる。

nuuči a. ちい (小) さい－ small, little; s. [acc. *nuuččee*, all. *nuučitəi*]: *minǰi ilaa ananiǰi nuuči.* (かの女は) わたしより3歳小さい。

nuuksə s. [acc. *nuuksəə*] すす (煤) － soot : *nuuksəəməli* すすだらけの。

nuupči-ni v. [perf. *nuuptuxə-ni*] すす (煤) ける: *nuupuri* 煤けること。

nuuppi-ni v. [perf. *nuupuxə-ni*] 皮を火の上にかけてそのけむりでいぶす。

nuupučče-ni v. [perf. *nuuputəxə-ni*] 皮をいぶす小屋で十日かひと月火に掛けいぶしておく: *nimmaa nuupuččeeni.* まだかれはいぶしている。

nuupučči-ni v. [perf. *nuupučixə-ni*] いぶしている。

nuupučinǰee-ni v. [perf. *nuupučindəxə-ni*] しばらくの間皮をいぶすために行く。

nuupunǰee-ni v. [perf. *nuupundəxə-ni*] いぶしに行く (来る)。

Nuura s. 人名 (男, *Muigəttə* 氏族)。

nuurakta J s. 水たまりのあおみどろ。

nuutə s. [acc. *nuuttəə*] やに, 木のやに。

nuutənǰee-ni NG v. [perf. *nuutəndəxə-ni*] やにをつける。

nuxөө s. voc. 女が年下の女を呼ぶとき言う, 妹・嫁には使わない (Nはこの語は祖母が使ったが自分は使わないという)。

ɲ

ɲaalba J s. ブリキ板 (この語は敷香で使われるという J)。

ɲoogdo a. きいろい NU, みどりの K, あおい J − yellow, green or blue; s. [acc. *ɲoogdombo*] .

ɲoogdonǰi-ni v. [perf. *ɲoogdočči-ni*] あおくなる (顔色が): *aalimi ɲoogdoččini.* つかれてかれはあおくなった。

ɲoogdoo s. [acc. *ɲoogdoombo*] 樹木の一種 (カラフトヤナギ)。

Ɲookko s. 人名 (男)。

ɲoom adv. あおく (*ɲoogdo* の色): *ɲoom osini.* それがあおくなる。／*boččoni ɲoom oččini.* かれの顔があおくなった。／*ɲoom biini.* こけももの実があおくなっている。／*ɲoom ɲoogdo* 濃いあお色の。

ɲoruu NU a. あおい (あおい果実はまだ熟していない，まだかたい) (草についても言うが，木についてはあまり言わないようだ), s.: *ɲoruu orokto* あおい草 U ／*orokto ɲoruuni* 草のあおいの U.

ŋ

ŋaaddau J s. 潮の干満のおさまった状態。

ŋaaddauri-ni JU v. [perf. *ŋaaddauxa-ni* U] 潮の干満がおさまる: *wəənu ŋaaddaurini.* みちしおがおわる。JU

ŋaala s. [acc. *ŋaallaa*] , *ŋaali* s. [acc. *ŋaallee*] て (手), うで (腕) − hand, arm.

ŋaalikku G s. 手さげ (かばん)。

ŋaaliptu G s. てっこう (手甲) (ゆびやてのひらにあたる部分がない)。

ŋaalisi-ni v. [perf. *ŋaaliči-ni*] 手にさげてあるいている: *ŋaalimi gajǰini.* かの女は手にさげてもって来る。

ŋaariǰǰi-ni U v. [perf. *ŋaariduxa-ni*] 呼び出す。

ŋaarree-ni v. [perf. *ŋaaraxa-ni*] くままつりの客を迎えに行く: *narree ŋaarreeni.* くままつりがおこなわれるので人をかれはよびに行く。

ŋaarri-ni v. [perf. *ŋaarixa-ni*] こちらへ来るように呼ぶ，こちらへ来い (*əwəsəi sindaroo*) と言って呼ぶ: *ŋaarriwi.* おれはこっちへ来るように呼ぶ。G／*narree ŋaarrini.* 人をこちらへ来るようにかれは呼ぶ。N

Ŋaǰari s. 人名 (男，*Daaxinneeni* 氏族，北川五郎氏の兄)。

ŋaruuri s. [acc. *ŋaruurree*] ごまふあざらしの三歳のもの。

ŋatuku s. 手 (*ŋaala*) (幼児語)。

ŋəəgdə a. あかるい− bright, light [ant. *pakčirauli*]; s. [acc. *ŋəəgdəmbə*]: *ŋəəgdə dətu* 木のないやち (*gada dətu*) J.

ŋəəgdənǰi-ni v. [perf. *ŋəəgdəčči-ni*] あかるくなる。

ŋəələ s. [acc. *ŋəəllə*] けものの一種 (おおかみか) − wolf (?) .

ŋəələəsu a. 臆病な− cowardly; s. [acc. *ŋəələəssəə*]: *ŋəələəsu nari* 臆病な人。

ŋəələǰǰi-ni U v. [perf. *ŋəələduxə-ni*] 恐ろしがる。

ŋəələpsi a. おそ (恐) ろしい。

ŋəələpsuuli a. おそ (恐) ろしい− dreadful; s. [acc. *ŋəələpsuullee*]: *ŋəələpsuuli ŋinda* おそろしいいぬ。

ŋəəllee-ni v. [perf. *ŋəələxə-ni*] こわがる− fear: *ŋindaǰi ŋəəlleeni.* かれはいぬをこわがる。

ŋəəlləučči-ni U v. [perf. *ŋəəlləučixə-ni*] おどかしている。

ŋəənə NGJ s. [acc. *ŋəənnəə* N] 落葉松の群生しているところ GJ, 林 (ここには木は密生していないがこけももや食用きのこがある) N.

ŋəmurinǰi-ni U v. [perf. *ŋəmuričči-ni*] もがもが口のなかで言う。

ŋənəlli-ni v. [perf. *ŋənəluxə-ni*] 行くことをはじめる: *ŋənəluwəčči xaiwa xairisiga.* きみは行くと言って何をしているのか。

ŋənəpči-ni v. [perf. *ŋənəptuxə-ni*] 行くことができる，行ける: *jəkki ŋənəpčinii.* ここを通って行けるか。／*čaa poktokki ŋənəpčini.* その道を通って行ける。／*ŋənəitəxəndə čii əsini ŋənəptə.* 行きたくてもなかなか行けない (自分が)。

ŋənəptəŋi s. [acc. *ŋənəptəŋŋee*] のりもの (行くのに使うもの，となかい，馬，そり，ふねなど)。

ŋənnee-ni v. [perf. *ŋənəxə-ni*] い (行) く− go: *purattəi ŋənneeni.* かれはやまへ (猟に) 行く。／*ŋənəmusi-ni* v. [perf. *ŋənəmuči-ni*] 行きたい− want to go／*ŋənnəunǰi-ni* v. [perf. *ŋənnəučči-ni*] 行かせる− make one go.

ŋənni-ni v. [perf. *ŋənuxə-ni*] かえ (帰) る− return, come back: *ŋənumusi-ni* v. 帰りたい／*ŋənnəənǰi-ni* v. [perf. *ŋənnəəčči-ni*] 帰らせる。

ŋəskui kəələ J ごまふあざらしの四歳のもの。

ŋiisuwə s. [acc. *ŋiisuwəmbə*] 氷にあけた穴からさかなをつるための短いつりざお (きうりうお・かんかいをとるときは穴二つ両手に一本ずつ，よあかしをとるときは穴一つで一本をつかう)。

ŋiisuwəčči-ni v. [perf. *ŋiisuwəčixə-ni*] 氷の穴からさかなをつるつりざおをあげたりさげたりあやつる (魚の体にかぎがかかる)。

ŋiiwəltə N s. [acc. *ŋiiwəltəə*] , *ŋiiwəktə* J s. となかいのくびの下の長い毛 : *ulaa ŋiiwəktəni* となかいのくびの下の長い毛 U.

ŋinaa s. [acc. *ŋinaamba*] いぬの子 (生まれてから満１年までのいぬ J) − puppy.

ŋinaka, ŋanaka s. いぬの子 (*ŋinaa* の幼児語) − puppy.

ŋinda s. [acc. *ŋindaa*, pl. *ŋinǰil*] いぬ (犬) − dog.

ŋindaska s. [acc. *ŋindaskaa*] いぬの皮。

ŋindaučči-ni U v. [perf. *ŋindaučixa-ni*] おこって気にさわるようなことばかり言う : *mimbee xaimi ŋindauččisee.* おれにどうしておまえは気にさわることばかり言うのか。

ŋojokko s. [acc. *ŋojokkoo*] (鳥の) たまご− egg ; たまごの形のこどもの木製のおまもり (ゆりかごにつける，こどもが乳ものまずにはらがふくれる病気のときに)。

ŋojokkolosi-ni v. [perf. *ŋojokkoloči-ni*] (鳥のたまごを) とる (たとえば十三号の島で) : *ŋojokkoo ŋojokkolosini.* 鳥のたまごをかれはとる。

ŋojoo s. [acc. *ŋojokkoo*] まるきぶねのかい (櫂) がとりつけられるふなべりのでっぱり (だぼ)。

ŋokki a. くさい (この語は述語として使う) : *ŋokki məətəlləu.* くさいからすてろ。／ *ŋokkee.* くさいなー。／ *ŋokkee suŋdatta* くさいさかな。

ŋokkisi-ni v. [perf. *ŋokkiči-ni*] くさい，におう− smell : *suŋdatta puuni ŋokkisini.* さかなのにおいがする。

ŋokkuuli a. くさい− stinking ; s. [acc. *ŋokkuullee*] : *ŋokkuuli suŋdatta* くさいさかな／ *ŋokkuullee məətələxəni.* くさいのをかれはすてた。

ŋonila J a. 長い (*ŋonimi* より長い) : *mastaa ŋonilaa.* ひどく長いなー。

ŋonimi a. なが (長) い− long [ant. *xurumi*] ; s. [acc. *ŋonimmee*] .

ŋoniptai adv. たて (縦) に− lenghways [ant. *xəundəi*] : *ŋoniptai akpanǰini.* たてに (戸口と上座を結ぶ線に平行して) かれはねる。／ *ŋoniptai unigəččini.* 長さをたてにかれは合せている。

ŋooččee-ni NJ v. [perf. *ŋootoxo-ni*] すもう (相撲) をとる。

ŋoosi-ni v. [perf. *ŋooči-ni*] か (嗅) いでいる (くま，いぬが) − smell : *bəjə ŋoosini.* くまが嗅いでいる。／ *ŋinda ŋoosini.* いぬが嗅いでいる。

ŋoowu NJ s. 海または川に近いところ，まえの方 [ant. *duuwu*] : *ŋoowu duxu* 川に近い家／ *ŋoowu nari* 人が集まっているなかでまえの人。

ŋooxičči-ni v. [perf. *ŋooxičixa-ni*] か (嗅) いでいる (人が) − smell : *tari nari ŋooxiččini.* その人は嗅いでいる。

ŋooxillee-ni v. [perf. *ŋooxilaxa-ni*] か (嗅) ぐ (人，くまが，一回) − smell.

ŋowwee s. [acc. *ŋowweepa*] 川や海の方 [ant. *duwwee*] : *ŋoisai* 川や海の方へ。

ŋui pron. [acc. *ŋuiwə*] だれ− who : *tari nari ŋuigəə.* あの人はだれか。／ *ŋuiddə biŋəttə.* だれでもいい。

ŋussaa NA adv. さあどうかしら : *ŋussaa bii əsiw(i) saara.* さあわたし知らないわ。NA

O

očči s. [acc. *oččikkee*] (日本の) 膳，盆− tray [＜ア otcike ＜日 をしき]。

očči-ni U v. [perf. *otuxa-ni*] なおる : *uliŋga otuxani.* かれはよくなった。N

očči s. [acc. *oččokkee*] 月経− menses.

oddoučči-ni v. [perf. *oddoučixa-ni*] 蓄える (金などを) − store, save up : *oddoučimi bajaččini.* かれは財産を蓄えて裕福になった。

odoo G s. : *mөө odooni, uni odooni* 川の増水 (水が川のまがった箇所を越えてまっすぐ流れる)。

oi a. すこしの− few, little ; s. [acc. *ojjee*] : *oi nari* すこしの人／ *gočі ojjee gəlleewi.* もうすこしぼくはほしい。

oi-ni v. [× perf. *očči-ni*] する− do : *guppөө taraŋači oini.* いつもそういうふうにかれはしている。／ *uttəə niirrəə somirraa oini.* 戸をかれはあけたりしめたりしている。／ *sindamiddaa oillaa.* かれは来るかもしれない。

oiččee-ni v. [perf. *oitaxa-ni*] 移ってきたところに居たい : *jədu oiččeeni.* ここにかれはいたい。

oisail s. [acc. *oisailba*] 嫁いだ女の実家のひとびと。

ojjee s. [acc. *ojjeepa*] おもてがわ− surface [ant. *dookkee*] .

ojo s. [acc. *ojjoo*] おもて，表面，外面− outside, exterior [ant. *dokko*] : *naa ojjooni giččini.* 地上をかれは歩く。／ *duxu ojoni* 屋根。

ojosko s. [acc. *ojoskombo*] 移動の際そりやふねにつむためにまとめた家財 (きもの・ふとんなど) のにもつ。

ojotooli a. 重ねた、s.: *ojotooli alukku* 重ねたちゃわん／ *buda taarraani ojotoolinǰi əksəxəni.* 米だわらを重ねてかれは置いた。

ojuuka a. すこしの－ few, little; s. [acc. *ojuukamba*]: *ojuuka məə* すこしの水／ *ojuuka biini.* すこしある。／ *ojuukamba bəəru.* すこしくれ。

oǰii s. [acc. *oǰikkee*] あごひげあざらしの三歳のもの (あごひげあざらし・くらかけあざらしの三歳のもの J)。

oǰǰi-ni v. [perf. *oduxa-ni*] くりかえしてする: *taraŋači oduxani.* そういうようにかれはくりかえしする。

oǰočču̇ra s. [acc. *oǰočču̇rraa*] 植物の一種 (樹木 GJ)。

oǰomi G s. かもの一種 (食用)。

okči-ni v. [perf. *okčixa-ni*] くすりをつける: *pujjəə okčixani.* 傷にかれはくすりをつけた。

okčičči-ni v. [perf. *okčičixa-ni*] くすりをつけている，治療している。

okkee-ni v. [perf. *okkoxo-ni*] となかいがこけ (*okko*) を食う。

okko s. [acc. *okkoo*] こけの一種 (となかいの食べもの)，それがある場所。

okkoorri-či J v. [perf. *okkoorixa-či*] トランプの遊び方の一つをする (この遊び方は二人以上七人まで何人によってもできる)。

okkorosi NJ s. [acc. *okkorossee* N] さめの一種 (魚)。

oksoo s. [acc. *oksokkoo*] となかいぞり (となかい一頭で引く，ウイルタの昔からのそり) － reindeer sledge.

okto s. [acc. *oktoo*] くすり，火薬－ medicine, gunpowder: *suli oktoni* きつねをとる毒薬 (strychinine)。

oktokku s. [acc. *oktokkoo*] 病気 (たとえばちぶさの腫れ) をなおすおまもり。

Oktoŋgu s. 人名 (男，*Waaleetta* 氏族)。

olbinǰi-ni v. [perf. *olbičči-ni*] もって (つれて) いく (*orogǰini* と同義)。

oli NGJ s. [acc. *ollee* N] からすの類の一種 (色は *saari*，大きく，くちばしが太い) (食用 G)。

olii s. [acc. *olikkee*] 飼育するくまにえさを与える器具 (木製)。

olǰiga N s. [acc. *olǰikkaa*]，*oljee* J s. 炉かぎ，たき火になべをかけるかぎが先にある棒 (鉄製や木製) N.

olǰigačči-ni v. [perf. *olǰigačixa-ni*] ひっかける (*olǰiga* などで) (何回も)。

olǰigallee-ni v. [perf. *olǰigalaxa-ni*] ひっかける (*olǰiga* などで) (一回): *xəjjee moowo olǰigalaxani.* 川を流れている木をかれはひっかけてとった。／ *taasumaǰi olǰigalaxani.* さかなをとるかぎでかれはひっかけた。

ollee-ni v. [perf. *oloxo-ni*] おどろく (人，となかいが) － be startled, be astonished.

ollooči s. [acc. *olloočče*] 廃物のくつ (靴)。

olonosi-ni v. [perf. *olonoči-ni*] なんどもおどろいている。

ommee-ni JU v. [perf. *omoxo-ni* U] ひとつところにかたまる，あつまる (けだもの，人間が): *omopissaa* 自分らがあつまったら (そのときに) U／ *suŋdatta ommeeni.* さかなが一つところにかたまる。U／ *nari ommeeni.* ひとが一箇所にあつまる。U

omo s. [acc. *ommoo*] す (巣) (とり，きつねの) － nest: *siruktə omoni* 蟻塚 G.

omoo s. [acc. *omoombo*] 小さい湖－ lake.

onnee-ni NG v. [perf. *onoxo-ni*] 水のなか (の浅いところ) をあるく (たとえば，さかなをとりながら，または舟からおかにあがるとき)，水のなかをあるいてわたる: *onomi unnee daurini.* 水のなかを歩いて川をかれはわたる。N

onni-ni v. [perf. *onixa-ni*] な (成) りに行く，し (為) に行く: *taraŋači onixani.* かれはそういうようにしに行った。

ono s. [acc. *onnoo*] あざらしの毛の模様。

oŋbee-ni v. [perf. *oŋboxo-ni*] わすれる－ forget.

oŋbo s. [acc. *oŋboo*] (となかい，けだものの) しり (尻) (この語は老人が使い，若い人は使わないという)。

oŋboǰǰi-ni U v. [perf. *oŋboduxa-ni*] また忘れる: *goči oŋboduxambi.* またおれはわすれてしまった。

oŋdo s. [acc. *oŋdombo*] 妖怪の一つ。

oŋdoočči-ni NG v. [perf. *oŋdoočixa-ni*] 妖怪の一つの *oŋdo* に出会う，*oŋdo* がばけて出る N，やまのなかに野宿するときなにか *amba* が来ないかと心配する (*xəŋŋəənisini*) G: *bii oŋdoočixambi.* おれは妖怪のオンドに出会った。N／ *oŋdo oŋdoočči̇ni.* 妖怪のオンドがばけて出る。N

oŋgolo s. [acc. *oŋgolloo*] かけす (鳥)。

oŋgolosu U s. 恐がる人 (おとなまたはこども)。

oo s. [acc. *oombo*] 1. すみ (隅)，かど (角) － corner: *xulda ooni* 箱のすみ，かど／ *oolu* a. しかく (四角) い－ square: 2. となかいの前後の足の上腿 (人間の *čuuji* に当たる) (となかいの前後足の上腿 (*daana*) の上部 J): *duluu* (または *xamaruu*) *bəgǰi ooni* 前 (または後) 足の上膊 N.

oondo s. [acc. *oondombo*] 湾，川の湾曲部－ bay, bend in a river.

oondoi adv. あおむけに [ant. *xumusəi*]: *oondoi aurini.* おあむけになってかれ

はねむっている。

ooronnee adv. さっき，ちょっとまえに：*ooronnee biččini.* すこしまえにかれはいた。

ooropči a. さっきの； s. [acc. *ooropčee*]：*ooropčee gələjǰini.* さっきのものをかれはかえしてもらいたがっている。

Oosai Nikolai s. 人名（男，*Muigəttə* 氏族）。

oossi-ni v. [perf. *oosixa-ni*] のける，かたつける：*moowo oossini.* 木をかれはのける。／*oroktoo oossini.* 草をかれはのける。／*dugba andubuǰǰi naawa oossini.* 家をつくるために土をかれはのける。／*tawweepa oossu.* そこらをかたつけろ。

oosu-ni s. 似ているもの：*əri tari oosuni.* これはそれに似ている。／*tari nari ənimbi oosuni.* その人は自分の母親に似ている。

opči-ni v. いられる：*jədu opčini.* ここにいていい（いられる）。

opoonǰi-ni v. [perf. *opooččči-ni*] ならせる（なるようにさせる），おも（思）う：*sini ulaasi opoonǰiwi.* あんたのとなかいだとわしはおもう。／*əri siniŋi opoonǰiwi.* これはあんたのものとわたしはおもう。U

oppouri-ni v. [perf. *oppouxa-ni*] あつめる，あつまる－ collect, gather, assemble：*nari oppouriči.* 人があつまる。／*narree oppourini.* かれは人をあつめる。

opto G s. 川の岸が陸の方へ深く入りこんだところ（水がよどみ，深く，魚がいる）。

Opto s.：*Opto unini* 多来加（タライカ）湖に入る川。

orgee s. [acc. *orgeemba*] ぶた（豚）－ pig.

orgolisi-ni v. [perf. *orgoliči-ni*] うらやむ－ envy：*mimbee orgolisini.* おれをかれはうらやむ。／*bajanǰiwani orgolisini.* 人が裕福なのをかれはうらやむ。

orki a. わる（悪）い [ant. *aja, uliŋga*] － bad； s. [acc. *orkimba*]：*bokkombi orkee.* むなくそがわるい（おれのはらがわるい）。

orkikta s. [acc. *orkiktaa*] 歩くのに悪い場所。

orkissi-ni v. [perf. *orkisixa-ni*] 悪くおもう：*tari nari noottoini orkissini.* その人はあの人を悪く思っている。

orogǰi-ni v. [perf. *orokči-ni*] もって（つれて）いく－ take someone (something)：*narree* (または *puttəə*) *orogǰini.* かれは人を（またはこどもを）つれて行く。／*kumultəbi orogǰini.* かれは自分のスキーを手でもっていく。／*ulaabi orogǰini.* となかいをかれは手綱を引いてつれて行く。／*orogduu* (または *orokkočči*) *məətələxəni.* かれはもって行ってすてた。

orokkiččee-ni v. [perf. *orokkitaxa-ni*] つれて行きたいとおもう：*čaa puttəə orokkiččeeni.* そのこどもをかれは連れて行きたい。／*ulaaba orokkiččeeni.* となかいをかれは連れて行きたいと言っている。

orokpočči-ni v. [perf. *orokpočixa-ni*] もって歩きまわる。

orokto s. [acc. *oroktoo*] くさ（草）－ grass.

oromučča s. [acc. *oromuččaa*] 大きい釜（ウイルタは使わない）。

osi-ni v. [× perf. *očči-ni*] なる，あらたにいることになる－ become：*daaji osini.* (こどもが）大きくなる。／*jəə dugdu oččimbi.* この家にぼくは入居した。／*omusi-ni* v. なりたい。

Oso s. [acc. *Ossoo*] （多来加湖東岸の）尾曽（オソ）：*Oso unini* 尾曽川。

ostooli s. [acc. *ostoollee*] 食卓－ table [< ロ стол]．

osuundu NJ s. [acc. *osuundoo*, all. *osuundutai* N] 大波（*daaji laata*），うねり（海の）。

otokoo adv. あとで－ afterwards：*otokoo ŋənneewi.* あとでわたしは行く。

otoo G s. こけももの実の類の一種。

Otopči s. 人名（男，*Naiputunneeni* 氏族か，あるいは *Torisa* 氏族かもしれない）。

otuǰǰi-ni v. [perf. *otuduxa-ni*] なおる：*uliŋga otuǰǰini.* かれはよくなった。

oxoliŋa a. つの（角）のない（の意か不詳）。

oxuma G s. 樺皮でつくった小さい容器（*anduma* のような）（人が死んだときこれに食べものを入れて海神（*taixunǰi*），死者に供える）：*oxuma ugda* 樺皮製の神のふね（上記の容器のような形をしている）。

ɵ

ɵkkɵi G s. あび（水鳥）（食用）。

Ɵkɵnɵɵsi s. [acc. *Ɵkɵnɵɵsimbə*] 人名（男，*Sɵɵktə* の氏族）。

ɵksɵm adv. もりあがって高く：*ɵksɵm urixani.* やまもりにかれは盛った。

ɵlɵiččee-ni v. [perf. *ɵlɵitəxə-ni*] 炊こうとする：*ɵlɵiččeewi.* おれが炊く（ほかの人がするのをみかねて言う）。

ɵlɵlli-ni v. [perf. *ɵlɵluxə-ni*] 炊きはじめる。

ɵlɵlɵ NJ s. [acc. *ɵlɵlɵmbɵ* N] 上あご，口蓋：*uwwee ɵlɵlɵ* 上あご J／*pəǰǰee ɵlɵlɵ* 下あご（舌の下） J.

ələmǰi NG s. めし炊き (炊事人) G, 炊事ばかりしている者 (やまへ猟に行ったとき自分はなにもとることができないのでえものをはこんだり，炊事したりしている者) N.

ələnni-ni v. [perf. *ələnixə-ni*] に (煮) に行く。

ələpči-ni v. [perf. *ələptuxə-ni*] 炊ける：*əri buda ələpčini.* この米は炊ける。

ələsi-ni v. [perf. *ələči-ni*] に (煮) る，た (炊) く，ゆでる－ boil, cook：*suŋdattaa ələsini.* さかなをかの女は煮る。／*ulissəə ələsini.* 肉をかの女は煮る。／*buddaa ələsini.* めしをかの女はたく。／*aassee ələsini.* ふきをかの女はゆでる。／*ŋojokkoo ələsini.* たまごをかの女はゆでる。／*ələmusi-ni* v. に (煮) たい／*ələpəənǰi-ni* v. に (煮) させる。

ələtə s. [acc. *ələtəmbə*] 衣服の胸もとあたりの部分 (まええり J)，ふところ：*ələtəkki gidalleeni.* かれは (自分の) ふところへ入れる。

ələtələ s. [acc. *ələtələmbə*] 円錐形家屋の戸口とけむり出しの間の箇所 (そとをのぞける J)。

ələptu s. [acc. *ələptumbə*] まえかけ－ apron.

əmməŋǰəər num. 一つ二つ (数をかぞえるとき唱えることば，物語にあらわれる)。

əməəkə adv. ひとりで－ alone.

əmərə s. [acc. *əmərrəə*] 長ぐつ (*utta*) の上のふち，下ば (穿) き (*pəruu*) の上はじ，たばこ入れの袋 (*padu*) のしめて結ぶところ，しめて結ぶひも。

əmərəgdə G num. 一匹だけでいるとなかい (本来はエウェンキー人のことば) [<エ *ůmůrůgdů*].

Əmərəəkkə s. 人名 (女，*Araklainu* さんの母)。

əmərree-ni v. [perf. *əmərəxə-ni*] ちぢまる：*pəruu əmərreeni.* 皮のズボンがちぢまる。U

əmərtə a. おなじ－ same, equal：*tari əmərtə aapu* それとおなじ帽子／*əri tari əmərtə.* これはそれとおなじだ。

əə NKJ s. [acc. *əəwə* N], *əəwə* J s., *uu* U s. ふきでもの (同時にたくさんできる)，発疹 NK, 皮癬 J：*mini əəbi* おれのふきでもの N／*əə nəərini.* ふきでものが出る (はしかのときも言う)。N

əəččee-ni v. [perf. *əətəxə-ni*] せなかにおぶう：*puttəbi əətəmi ŋənneeni.* かの女は自分のこどもをおぶって行く。

Əəlu s. 人名 (男，*Muigəttə* 氏族)。

əərə s. [acc. *əərrəə*] ます (鱒) － trout.

əərəskə s. [acc. *əərəskəə*] ますの皮：*əərəskəmə* a. ますの皮でつくった。

əətəpinǰi-ni NU v. [perf. *əətəpičči-ni* N] ちょっと背負う U，こどもを背中におぶう (はじめておぶう) N：*puttəbi əətəpikkəčči ŋənneeni.* 自分のこどもをおぶってかの女は行く。N

əpuktə s. [acc. *əpuktəə*] 羽毛－ feather.

ətə NJ s. [acc. *əttəə* N] 海藻の一種 (海岸に打寄せられる，食用)。

ətuu a. 一番の：*ətuu aagbi* わたくしの長兄／*ətuu nəudumə* 末弟。

p

paačči-ni v. [perf. *paačixa-ni*] たたく，うつ－ strike, beat, hit, knock：*mooǰi paačixani.* 棒でかれはたたいた。／*ŋaalaǰǰi paačixani.* 手でかれはたたいた。

paačiiččee-ni v. [perf. *paačiitaxa-ni*] たたこうとする。

paačiǰǰi-ni G v. [perf. *paačiduxa-ni*] 干したふとんなどをたたく。

paačillee-ni v. [perf. *paačilaxa-ni*] たたく，うつ (一回) － strike, beat, hit, knock：*narree paačilleeni.* 人をかれはたたく。／*moowo paačilleeni.* 木をかれはたたく。／*mooǰi paačilaxani.* 棒でかれはたたいた。／*ŋaalaǰǰi paačilaxani.* 手でかれはたたいた。

paadačči-ni v. [perf. *paadačixa-ni*] 屋外であざらしのなま皮をほす (何枚も)。

paaji a. あさ (浅) い－ shallow：*uni paaji.* 川が浅い。

paajikta G s. 川の浅いところ。

paaǰi NU adv. 分離して，別れ離れて：*bii paaǰi biiwi.* わたしは別れて暮らしています。N／*puttəni paaǰi biini.* かの女のむすこは別に暮らしている。U

paaǰǰee-ni v. [perf. *paadaxa-ni*] 屋外であざらしのなま皮をほす (一枚の皮を地面にいくつもの棒を立てこれに張って)。

paakta NJ s. [acc. *paaktaa* N] (やちのなかの J) 川のへり (高く，そこにはこけもも (*siduxu*)，いちご (*xojoo*)，こけの実 (*paama*)，くろまめの木 (*dəsiktə*) がある)。

Paakta s. 人名 (男，*Səəktə* の氏族)。

paalda NJ a. 海，沼，川が風や波がなくておだやかな，なぎの。

paaldalduu GJ s. 小鳥 (すずめの類の一種)。

paaljee-ni J v. [perf. *paaldaxa-ni*] な (凪) ぐ：*namu paaljeeni.* 海がなぐ。／*uni paaljeeni.* 大河がなぐ。

paalli-ni v. [perf. *paalixa-ni*] しか (叱) る－ scold：*puttəbi paallini.* かれは自分の子を叱る。

paama NJ s. [acc. *paammaa* N] こけの実，岩高蘭 (実の色はくろい，食用) (この語はこの植物の全体または実をさして言う J): *paama siini* 岩高蘭の茎 J.

Paamaitu s. 地名 (幌内川下流の岸)。

paamalduu NGJ s. [acc. *paamaldukkoo*, *paamalduuwa* N] しぎの一種 (*paama* を食う N, 食用 G)。

paanǰi-ni v. [perf. *paačči-ni*] 1. のどがつまって息ができなくなる: *puttə soŋomi paanǰini.* こどもが泣いて息ができなくなる。2. はらをたてる (怒る)。

paaŋmi s. [acc. *paaŋmee*] 腹痛のときつくりおまもりにする偶像。

paaŋŋee-ni v. [perf. *paaŋaxa-ni*] 気絶する (血を見るなどして) (血をみてめまいする J, 息苦しくなる，息ができなくなる U)。

paappačči-ni v. [perf. *paappačixa-ni*] なんども息がとまる: *puttə paappačimi soŋŋeeni.* こどもがなんども息ができなくなって泣く。

paapsee U a. めんどうくさいなー (たとえば，ものをなんどもとりに行く場合)。

paapullee-ni v. [perf. *paapulaxa-ni*] 禁止するー prohibit: *ǰaŋgee doromosiwa paapulleeni.* 役人は盗むことを禁ずる。

paara s. 二頭立て (二頭立て用となかいぞり (*naarta*) に２頭のとなかいを左右にならべてつける) [<ロ пара]: *paara ulaaǰi sinǰee-ni.* 二頭立てのとなかいでかれは来る。

paari-ni v. [perf. *paaxa-ni*] ひ (干) る (水が): *mөө paarini.* 水がひる。／ *uni paarini.* 川が干る。／ *naa mөөni paaxani.* 土の水が干た。

Paasa s. [acc. *Paasamba*] 人名 (男，*Naiputunneeni* 氏族)，*niŋmaa* の上手な演者。

paawa s. [acc. *paawwaa*] まど (窓)，ガラスー window, glass.

paawulli-ni U v. [perf. *paawulixa-ni*] くどくことをおこなう (たとえば，にもつをつくるのになんどもつくり直す，同じことをなんどもたずねる): *tari nari paawullini.* あの人はくどくやる。／ *xaiwa paawullisee.* なにをあんたくどくするの。

paawura s. [acc. *paawurraa*] 木材のかたい木質部 (弓をつくる)，そりの雪上をすべる台木: *sisi paawurani* 落葉松の木質部／ *oksoo paawurani* となかいぞりの台木。

paaxa s. [acc. *paagba*, *paaxxaa*] 肝臓ー liver: *daaji paaxa*, *nuuči paaxa* どちらも，となかいの内臓 J.

Paaxa omoo s. 十一号 (地名)。

pačičče-ni v. [perf. *pačitaxa-ni*] 髪を編んで辮髪にする: *niruktəəni pačiččeeni.* 別の人の髪をかの女は辮髪に編む。

pačii s. [acc. *pačikkee*] (魚の) お (尾)，尾ひれー caudal fin.

pačita s. [acc. *pačittaa*] 辮髪，髪を１本に編んでまたはたばねてせなかに垂らす結い方。オルチャ人 (*Maŋbu*)，カラフトのニブフ (ニクブン) がする。ウイルタの男は普通しないが，ウイルタのむすめは１本に編んでする。

padu s. [acc. *paddoo*] たばこ入れの袋 (きんちゃく状，となかいのなめし皮製，くびにかける) ー tobacco-pouch.

pagǰiga N s. [acc. *pagǰikkaa*], *pagǰa* U s. [acc. *pagǰaa*] 足のうら: *pagǰigani masi* (または *kusuttu*). かれの足は強い (または力がある) (雪の上のスキー (*kumultə*) のあとをみてそれをはいて通った人の足の力を推測して言う)。N

pakči a. じょうず (上手) なー skilful [ant. *wəəgə*]; s. [acc. *pakčimba*]: *pakči nari* 上手な人／ *kitaa anduni pakči.* はりしごとが上手。／ *mərөni pakči.* かれはあたまがよくはたらく。／ *pakčinǰi andusini.* かの女は上手につくる。

pakčim adv. 暗く。

pakčira a. 暗い (この語は述語として使う): *pakčira əǰǰee ŋənnəə.* 暗い，行くな。

pakčirajǰi-ni v. [perf. *pakčiraduxa-ni*] くらくなる，(日が) 暮れるー grow dark: *boo pakčirajǰini.* 日がおちてくらくなる。

pakčirasi-ni v. [perf. *pakčirači-ni*] 暗い (夜明けまえの暗さについてもいう)。

pakčirauli a. くら (暗) いー dark: *pakčirauli dolboni* 暗い夜／ *pakčirauli səksəni* 暗い晩／ *nimmaa pakčirauli.* まだ暗い (夜明け時に言う)。

pakčirree-ni v. [perf. *pakčiraxa-ni*] 暗くなる: *boo pakčirreeni.* 天がひるまくらくなる (日食 (*suun buǰini*) のとき)。

pakka: *pakka pakka bii* まっ黒である。

pakkam adv. まっくろ (真黒) に: *pakkam saari* まっくろくろ／ *pakkam osini.* それはまっくろになる。

pakkee adv. だんだんー gradually: *pakkee daaji osini.* それはだんだん大きくなる。／ *pakkee pakkee uliŋga osini.* それはだんだんよくなる。

pakparau GJ s. わなや仕掛け弓のかぎ。

palaačikka s. [acc. *palaačikkaa*] 天幕，テント (白いてんじく木綿の外被をつかう) ー tent [<ロ палатка].

palturi s. [acc. *palturimba*] そりのはしらの木がつく横木 (白樺をつかう)。

paltuska s. [acc. *paltuskaa*] かたまった血。

palukkaunǰi-ni v. [perf. *palukkaučči-ni*] つちで打たせる。

palukkee-ni v. [perf. *paluwaxa-ni*] つちや棒でうつ。

paluwa N s. [acc. *palukkaa*] 、*paloo* U s. つち (槌) N, げんのう U－ hammer.

pana [1] NJ s. [acc. *pannaa* N] てのひら，あしのうら－palm, sole: *kotoo panani* 手足のゆびのつめのうらにあたる部分 J: てのひらのよこはばの長さ (長さの尺度) N: *geeda panala biini.* それはてのひら一つの横幅の長さがある。N ／ *dɵɵ panala biini.* それはてのひらの横幅二つの長さがある。N

pana [2] s. [acc. *panamba*] たましい，(かがみ・水にうつる) 映像 (影) － soul, reflex, shadow: *nari panani* 人のたましい／ *buččinnee panani* 死者のたましい (死者の霊は三年間生前あるいたところをみなあるいたあと，*buni* へ行く，また死者を葬ったところには三年間食べものをそなえる，夫が死んだ妻は三年間再婚しない)。

panaa J s. [acc. *panaamba*] 手足のゆびのさきの内側 (つめの反対側)。

panaačči-ni v. [perf. *panaačixa-ni*] うつ (映) してみている: *panaapunǰi panaačixani.* かがみでかの女はうつしてみていた。／ *mɵɵkki panaaččini.* 水にかの女はうつしてみている。／ *mɵɵtɵi panaaččini.* 水へかの女はうつしてみている。

panaapu s. [acc. *panaapumba*] かがみ－ mirror.

panaǰǰee-ni v. [perf. *panadaxa-ni*] ひらて (平手) でうつ－ strike with the open hand: *puttəbi panadaxani.* 自分の子をかれは平手うちした。

pančču s. [acc. *pančoo*] おの (斧)。

panunni-ni v. [perf. *panunixa-ni*] たずねに (質問に) 行く。

panusi-ni v. [perf. *panuči-ni*] たずねる (質問する) － question, ask: *sittəi poktoo panusini.* おまえに道をかれはたずねている。

paŋ N, *poŋ* U: *paŋ paŋ* N, *poŋ poŋ* U 先がとがっていない (さまの形容) ／ *paŋ paŋ očči* とがっていない N／ *paŋ paŋ biini.* それは先がとがっていない。N／ *poŋ poŋ očči moo* 先がとがっていない棒 (とがっているのは *suluktu*) U.

paŋgačči-ni v. [perf. *paŋgačixa-ni*] つるした偶像が動く (*tučči*) ことでうらなう: *səwənǰi paŋgaččuri* 偶像で占うこと／ *paŋgačila mama* 占いの上手な老婆。

paŋgaučuu NG s. ひざがしら，膝蓋骨: *mini paŋgaučuubi* おれのひざ小僧 NG ／ *məənə paŋgaučuubi* 自分のひざかぶを N.

paŋna s. [acc. *paŋnaa*] 生殖器 (男女の)。

paŋnakki-ni v. [perf. *paŋnauxa-ni*] 性交する－ have sexual intercourse.

para G s. 猟具の一部 (先端は鋭く，後部はふたまた) (仕掛け弓の一部，骨や鉄でつくる J)。

parakka NGJ s. [*parakkaa* N] ロッペン鳥 (食用 G)。

parganau s. [acc. *parganau-wa*] ぶたばこ，牢屋。

parraaji s. [acc. *parraajjee*] だに。

pasi s. くびつり，縊死: *pasinǰi bulkitəxəni.* くびつりでかれは死のうとした。

pasoollee-ni U v. [perf. *pasoolaxa-ni*] 上からつかむ。

passi-ni [1] v. [perf. *pasixa-ni*] 絞殺する，くびをつる，縊死する: *ŋindaa passini.* いぬをかれはくびにつなをつけて足をひぱって殺す。／ *pasimi buččini.* くびをつってかれは死んだ。

passi-ni [2] v. [perf. *pasuxa-ni*] 手でつまむ－ pick: *suŋdatta xɵltɵɵni pasumi dəpčini.* さかなのみ (身) をかれは手でつまんでたべる。

pasuwallee-ni v. [perf. *pasuwalaxa-ni*] すく (掬) う－ scoop: *kurəkki siduxumbə pasuwalleeni.* 自分のしらかばの皮のかごのなかからこけももの実をかの女がすくう。

patala s. [acc. *patallaa*] むすめ (未婚の若い女) － girl.

Patala s. 人名 (女，*Ǝsəəndə* の妻)。

patalammee-ni v. [perf. *patalamaxa-ni*] よばい (夜這) に行く (男が，または女が): *xusənnee patalammeeni.* 男がよばいに行く。／ *patala patalammeeni.* むすめが男のところへよばいに行く。／ *xosikta patalammeeni.* ほしがながれる (流れ星)。J－ A star shoots.

pataŋi s. [acc. *pataŋŋee*] 下げ髪，髪を２本に編んでかおの両側に垂らす結い方 (こどもがする)。

pataxa U s. 木偶の一種 (板でできている)。

patta s. [acc. *pattaa*] 海岸に波でうちあげられた木のねっこ。

pattanee NU a. 息 (*ərgə*) が苦しいなー。

pattanisi-ni U v. [perf. *pattaniči-ni*] 息苦しい (たとえば，けむりのなかで，またはふとんをかぶってねて)。

pau NG s. [acc. *pauwa*] 大砲 [＜漢 砲]。

paučči-ni v. [perf. *paučixa-ni*] 大砲をうっている。

paurri-ni v. [perf. *paurixa-ni*] (さかな，とり，人間が) およぐ－ swim.

pee s. [acc. *peewa*] しらかば (白樺) － white birch.

peeččillee-ni v. [perf. *peeččilaxa-ni*] よりかかる: *mootoi peeččilleeni.* 木へかれはよりかかる。

peegdaa NGJ s. [acc. *peegdaamba* N] 樹木の一種 (しらかば (*pee*) に似る，太くない，樹皮がうすくて小さい模様がついている) N, *pee* の若木 GJ (白い G).

peegda(a)ŋji G s., *peegdaŋji* J s. しろふくろう (羽角はない，白色，春いろがかわる，食用 G)。

peekta s. [acc. *peektaa*] けだものの足のうら。

Peeku s. [acc. *Peekumba*] 人名 (男)。

peelǰi-ni NU v. [perf. *peelči-ni* NU, conv. perf. *peelkačči* U] 極寒のときかなもの・容器やつるつるの氷 (*bəlu*) が手にねばりつく：*mini ŋaalabi peelǰini.* おれの手がねばりつく。U

peemura G：*peemura ulaa* 口のまわりに模様のあるとなかい。

peepu s. [acc. *peepumba*] しらかばの皮に穴をあけてそれを棒に通した携帯用のたいまつ－ torch.

peepulačči-ni v. [perf. *peepulačixa-ni*] あかりをつけている：*talǰi peepulaččini.* しらかばの皮でかれはあかりをともしている。

peepullee-ni v. しらかばの皮に火をつけてあかりをともす。

peeri NJ s. [acc. *peerree*, all. *peeritai* N] 樹木の一種 (*pee* に似ている N，いれまき (まゆみか) J)。

peeri-ni v. [perf. *peexa-ni*] 舌を出して呼吸する (いぬ，となかいが)：*ŋinda* (または *ulaa*) *peerini.* いぬ (またはとなかい) が舌を出していきをする (走ったあとなど)。

peerisa J, *peerisi* G s. こしょう (胡椒) [＜ロ перец] .

peski-ni v. [perf. *peskixa-ni*] からだの発熱をひやす (つめたいタオルなどで) (産後の女が発熱したときは冷たいびんをわきの下に入れてひやす，水をつかってはいけない) (体温や体感温度を調節する意だろう)：*polombo peskini.* 発熱をかれがひやす。／*bokkombi* (または *dalabi*) *peskini.* (出産後) かの女は自分のおなかを (または自分の関節を) ひやす。

peskičči-ni U v. [perf. *peskičixa-ni*] 体のうしろ側を火にあててあたためる：*tawatai attambi peskičču.* (寒いから) たき火に自分のせなかをあててあたためろ。

peu s. へ (屁) － crepitus.

peunisi-ni v. [perf. *peuniči-ni*] 何度も放屁する。

peunǰi-ni v. [perf. *peučči-ni*, conv. perf. *peukkačči*] 放屁する (音をたてて) － break wind：*peumburi* 放屁すること。

pədənǰi-ni U v. [perf. *pədəčči-ni*] 力をふりしぼってことにあたり，よくそれに耐える (巫人が神託を告げるとき)：*pədənөө pədənөө.* がんばってがんばって (巫人が神に対するときこのように声援しなければ巫人は倒れてしまうという)。

pəduu s. [acc. *pədukkөө*] 下：*өtuu pəduu təwəskə* 一番下の雲／*pədukkөө dappeeni.* かれは下の方をつかむ。

pəəjə s. [acc. *pəəjjəə*] ひたい (額) － forehead.

Pəəjəŋgu s. [acc. *Pəəjəŋgumbə*] 人名 (女)。

pəəjəptu J s. わなの仕掛けのうちわなの上につく横棒 (*uuwu pəəjəptu* と *pəduu pəəjəptu* の上下二本がある)。

pəəju J s. えぞまつ・とどまつばかりのところ (*xasiŋi*) が二箇所あるところのその間の土地：*uni pəəjuni* 川辺のたいらな地 (*orokto*, *tuŋdə*, *karka*, *solǰikta* がはえている) G.

pəəkčirəčči-ni v. [perf. *pəəkčirəčixə-ni*] ま (撒) きつづける。

pəəkčirree-ni v. [perf. *pəəkčirəxə-ni*] (こななどを) ま (撒) く，まぶす。

pəətə s. [acc. *pəəttəə*] あざらし－ seal：*pəətə tupini* くらげ－ jellyfish.

pəətəskə s. [acc. *pəətəskəə*] あざらしの皮－ sealskin.

pəgbirə s. [acc. *pəgbirrəə*] スキーのつえ (さきに輪がつく) － ski-sticks.

pəǰǰee s. [acc. *pəǰǰeepə*] 下の方－ the lower part：*pəisəi* 下へ－ down.

pəkkəm adv. しゃくにさわって，かっとして：*pəkkəm paami* しゃくにさわって怒って。

pəkki-ni GJ v. [perf. *pəuxə-ni*] なわやつなの両はじをふたりのこどもにもたせ，なわとびをする J：*pəkkuri* なわとびをすること J.

pəkpənǰi-ni v. [perf. *pəkpəčči-ni*] たおれる，動けなくなる (つかれきって) (語り物 (*niŋmaa*) に，勝った方はつかれはてて口からあわをふいてむせび (*pəkpəkkəčči xoisaǰi ləkpənǰini*)，敗けた方はつかれはてて血をはいてむせぶ (*pəkpəkkəčči səəksəǰi ləkpənǰini*) とあるという)：*tuksami pəkpənǰini.* 走ってかれはいきがつまりそうになる。

pəkpi-ni v. [perf. *pəkpuxə-ni*] くだく，こまかくする，こなにする－ crush, reduce to pieces：*dukkəə pəkpini.* かれは氷をくだいてこまかくする。／*mindəmi pəkpini.* かれは棒でたたいてこまかくする。／*bukpakkaa pəkpini.* かの女はさけのやきぼしをこまかくしてこなにする。

pəktə pəktu adv. となかいの群が行くさま。

pəktu s. [acc. *pəktumbə*] 魚のむれ－ school of fish：*suŋdatta pəktuni* 魚のむれ／*suŋdatta pəktu pəktu sinǰeeni.* さかなが群をなしてくる。

pəlinǰi-ni v. [perf. *pəličči-ni*] いそぐ－ hasten, hurry：*pəlimi ŋənəxəni.* かれはいそいで行った。

pəmiktə s. [acc. *pəmiktəə*] 小さい蚊 (ぬか蚊)，ぶゆ。

pəmu s. [acc. *pəmumbə*] くちびる－ lip：*uwwee pəmu* 上くちびる J／*pəǰǰee pəmu* 下くちびる J.

pənə s. [acc. *pənəmbə*] ひざ (膝) − knee.

pənəpiččee-ni NJ v. [perf. *pənəpittəxə-ni* N] ひざを折って正座のようにすわってそのままでいる。

pənəpinǰi-ni NGJ v. [perf. *pənəpičči-ni* NG] ひざをつけて立つ，ひざまづく G，ひざを折って正座のようにすわる (このようにすわるまでの動作をいう) NJ.

pənni-ni NU v. [perf. *pənuxə-ni*] 筋肉がぴくぴく動く (痙攣する) (筋肉がぴくぴくすると，人が来たり，雪や雨がふり，風がふくという N): *isal pənnini.* まぶたがぴくぴくする。NU／〔言い習わし〕 *isal pənuutənnee andaxa sinǰeeni.* 目がぴくぴくしたら客が来る。U／〔言い習わし〕 *xoppokto pənuutənnee gossuri.* まつげがぴくぴくしたら (人を) にくむ気持ちが (自分に) おこる。U／〔言い習わし〕 *aŋma pənuutənnee xaiwaddaa waagaččeeri issiči.* 口がぴくぴくしたらなにかえものをとって猟からかれらは帰ってくる。U

pəŋ adv. ぷつんと (一回に切るさま)； a.: *pəŋ pəŋ čigassini.* きれぎれにかれは切る。／ *kalixi pəŋ pəŋ biini.* 傷あとがたくさんある。／ *pəŋ pəŋ kalixi* 一面にたくさんある傷あと。

pəpə J s. かき (軟体動物) [<ア pipaか]。

pərə s. [acc. *pərəgbə*] そこ (底) − bottom: *alukku pərəŋni* 容器の底／ *ugda pərəŋni* 舟の底: *məənə pərəgǰi tuksaxani.* 全力を出してかれは走った。

pərəkčee-ni J v. [perf. *pərəktəxə-ni*] ひきしおが一杯にひく (底をつく): *kaaru pərəktəxəni.* ひきしおが一杯にひいた。

pərgee-ni v. [perf. *pərgəxə-ni*] こころみる，かんが (考) える − try, think: *dəptum pərgəu.* たべてみろ。／ *bəjəmbə waabuǰǰi pərgeeni.* かれはくまをとろうとかんがえた。

pərgəəlli-ni NU v. [perf. *pərgəəlixə-ni*] 相談する: *pəəttəə waaŋdabuǰǰi pərgəəllini.* あざらしをとりに行くためにかれは相談する。／ *dəənnee pərgəəliŋəptə.* ふたりで相談しよう。／ *čaa narindoo pərgəəlliči.* その人とともにかれらは相談する。

pərgəpəčči-ni v. [perf. *pərgəpəčixə-ni*] あれやこれや考える: *pərgəpəčigəčči ŋənəxəni.* あれこれ考えたすえかれは行った。

pərimə I a.: *pərimə uttə* 屋内用のくつ (*taapučika*)。

pəriskə s. [acc. *pəriskəə*] くつ (*utta*) の底 (あごひげあざらしの皮を用いる，硬いのでぬらして縫う)。

pəruu s. [acc. *pərukkəə*] ももひき N，下ば (穿) き U − under-trousers.

pəruuptullee-ni v. [perf. *pəruuptuləxə-ni*] しっぽをまたに入れる (いぬがこわがって G)。

pəsi s. [acc. *pəsimbə*] 小刀・やりの柄，刀のつか。

pəskee-ni v. [perf. *pəskəxə-ni*] たまげる，おどろく (めずらしいものがあったときなど): *pəskəmi itəččini.* めずらしがってかれは見ている。

pəskəpsi a. ふしぎだ (この語は述語として使う): *pəskəpsee.* ふしぎだ，たまげたなー (めずらしいものを見たとき，自分がなにかなくしたときなど)。

pəskəpsuuli a. めずらしい，ふしぎなー rare, unusual, mysterious: *pəskəpsuuli aja.* たいした (大変) きれいだ。

pətəəčči-ni v. [perf. *pətəəčixə-ni*] はねる (たとえば水が) (何回も)。

pətəənǰi-ni v. [perf. *pətəəčči-ni*] はねる (ものが): *moowo* (または *moo*) *xooriduni moo pətəəččini.* 木をかれが切るとき木 (のえだ) がはねた。／ *kitaa tawasai pətəənǰini.* 針がそちらへはねる (手から落ちて)。

Pətəŋgəudə s. [acc. *Pətəŋgəudəmbə*] 中川ナミ子さん (*Səəktə* の氏族) のウイルタ名。

pəuktə s. [acc. *pəuktəə*] いぼー wart.

pəulə s. [acc. *pəuləmbə*] 四本の柱の上に棒をわたし，その上に樹皮を敷いて魚 (干した切身など)，肉やまるのままのあざらしなどを置いて保存する物置場 (屋根はなく，おおいをかける): 星の群の一つ (Jによれば，北斗七星のますに当る部分の星。これを前記の *pəulə* に見立て，柄に当る部分の星をそれに上がるはしごに見立てて *pəulə tookpuni* とよび，あるいは *pəulə xuduni* (*pəulə* の尾) とよぶ。しかし，Gによれば，四つの星であるが，北斗七星とは別の星)。

pičəpičə s. [acc. *pičəpiččəə*] 海の動物の一種。

piičiga NJ s. [acc. *piičigamba* N] きのこの一種 (なま木に生じる，かたい，火をおこすほぐちにする): *pee piičigani* しらかばのきのこ N／ *sisi piičigani* 落葉松のきのこ N.

piičikka s. [acc. *piičikkaa*] マッチー match [<ロ спичка].

piičikkallee-ni v. [perf. *piičikkalaxa-ni*] マッチを擦る，マッチで火をおこす，マッチで火をつける: *tawwaa iwambuǰǰi piičikkalleeni.* 火をたくためにかれはマッチをする。U

piiktə s. [acc. *piiktəə*] かいぐさ GJ (エゾイラクサ)，あさ (麻) N − flax.

piil s. [acc. *piilbə*] 皮膚にできたまるいかたい乾いたかたまり (一つだけ生ずる)，うおのめ: *moo piilni* 皮膚にささったとげ J.

piiləpsə U s. [acc. *piiləpsəə*] けずりくず (木から神像などをつくったときの) (*geesapsa* は大きく，*piiləpsə* は小さい)。

piimɔəpu J s. 仕掛け弓 (*dəəŋgurə*) やはさみ (*kapira*) の部分 (仕掛け弓の引きがねを台木につなぐひも G)。

piipsə J s. のこぎりやきりの木くず。

piipu s. [acc. *piipumbə*] きり (錐) (木工用の) − drill.

piipučči-ni v. [perf. *piipučixə-ni*] きり (*piipu*) であなをあけている。

piipusiŋji-ni U v. [perf. *piipusičči-ni*] たづな (*silma*) をつくるとき二つのあざらし皮のひも (*xəəxə*) のはじにきり (*piipu*) であなをあけて互いに通してつなぐ。

piirə J s. 交尾期中のあざらし (*baawui, koŋgori*) のおすやとなかいのおすの肉。

piiriktə s. [acc. *piiriktəə*] 氷の亀裂のわれめ。

piisullee-ni G v. 鳥がえものに向ってまっすぐに飛ぶ。

piituu NG s. [acc. *piitukkoo* N] ひも (なめし皮製) (長はばき (*garu*) を腰のまわりに *piituu* でからげる G)。

piiwə s. [acc. *piiwwəə*] といし (砥石)。

piiwəllee-ni v. [perf. *piiwələxə-ni*] 砥石にする (用立てる): *bii čaa joloji piiwəlleewi.* おれはその石を砥石につかう。U

piiwwee-ni v. [perf. *piiwəxə-ni*] と (研) ぐ− whet (sharpen): *kučigəmbi piiwweeni.* 自分の小刀をかれはとぐ。／ *xuraktamiji piiwweeni.* 砥石でかれはとぐ。

pikpi J a. きつい (小さいものに大きいものを入れたとき), 声が小さい [ant. *xəŋbə*]: *kəsəni pikpi.* かれのことばは声が小さい。／ *xaixakka kəsəni pikpiləni.* どうしたか, かれのことばは声が小さいな。

pikpiktə s. [acc. *pikpiktəə*] 川のはばがせまいところ。

piksee U a. たいくつだなー。

piksisi-ni U v. [perf. *piksiči-ni*, conv. perf. *piksigəčči*] 退屈する: *piksigəčči nimərixəni.* 退屈してかれはよその家へあそびに行った。

piksuuli U a. たいくつな。

piktalee U a. 待ちきれないなー (人を待っているといらだつなー)。

piktalisi-ni NU v. [perf. *piktaliči-ni*] 言いたいことを言わずにいてくるしい N, 人を待っていていらいらする U: *maŋitami piktalisini.* かれはがまんして言わずにいてくるしい。N／ *bokkombi piktalisini.* いっぱい食べて腹がくるしい。U

piktaluuli U a. 待ちきれない (人を待っていていらだたしい): *piktaluuli baaruni.* 待ちきれない。／ *tari nari bala bala əsini sindaa. piktaluuli.* あの人ははやく来ない。待ちきれない。

pilji NU a. かたい, つよい (*masi*) N. 便秘する U: *pilji moo* かたい木 N／ *dooni pilji.* かれのしんはつよい (豪胆である) (*meewani masi* のことという)。N

pina s. [acc. *pinnaa*] 背負うにもつ (狩猟のとき)。

pinačči-ni v. [perf. *pinatuxa-ni*] しょ (背負) って来る (自分の家へ)。

pinakku G s. しょいこ (荷物を背負うとき使う) (*urəmə*).

pinallee-ni v. [perf. *pinalaxa-ni*] しょ (背負) う− bear on one's back: *moowo pinalleeni.* まきをかれはしょう。

pinasi-ni v. [perf. *pinači-ni*] しょっている, 何度もしょっている (たとえば毎日)。

pinnəul s. [acc. *pinnəulbə*] ふたまたの矢じり (鉄製) (仕掛け弓で使用し, かわうそ, てんをとる J)。

pinu s. [acc. *pinnəə*] えぞやまどり, 蝦夷雷鳥− a species of wild grouse.

piŋjičči-ni U v. [perf. *piŋjičixa-ni*] 便秘する: *tari nari piŋjičči ni.* その人は便秘している。

Pironjoonu s. 人名 (男, *Naiputunneeni* 氏族)。

pisa NGJ s. [acc. *pisagba* N] 肩甲骨 (*kəndə*).

piskii G s. なきうさぎ。

pistoo s. [acc. *pistoombo*] 銃の雷管 [<ロ ПИСТОН].

pogju G s. (木の) こぶ, ふし: *moo pogjuni* 木のこぶ, ふし。

pojolli-ni v. [perf. *pojolixa-ni*] 水がうずまく: *pojolimi xəjjeeni.* 水がうずまいて流れる。

pokto s. [acc. *poktoo*] 1. あと (跡), あしあと (足跡), みち (道) − trace, path, way: *ŋaala poktoni* 手のあと (人間の); 2. 女子服 (晴着といえよう, 中国 (満洲) 服の系統のもの, えりから上前はじに沿ってすそにかけ, 細い長いきれを縫いつけたふちどり (*keepira*) があり, すそまわりには小さい金属片がならんでついている)。

polo s. [acc. *polombo*] (からだの) 熱 (体温), (病気の) 熱− body temperature, fever: 体温が平熱なら *poloni namauli*, 病気で高熱なら *poloni xulduu* という。

polokpinni-ni v. [perf. *polokpinixa-ni*] 暖めに行く: *puttəə polokpinnini.* こども (の体) をかの女はあたために行く。

polokpisi-ni v. [perf. *polokpiči-ni*] (体などを) あたた (暖) める− warm: *puttəbi ŋaallaani polokpisini.* 自分の子の手をかの女はあたためる。

polopči-ni v. [perf. *poloptuxa-ni*] 暖まる: *bii poloptuxambi.* わたしはあたたまった。

poloptunjee-ni v. [perf. *poloptundaxa-ni*] 暖まりに行く。

pondoo NG s. [acc. *pondokkoo* N] 魚皮 (さけやいとうの皮) でつくったくつ (短く, 先端が上へまがる) G (キーリン人から *utta* が入るまえに用いられていたろうという N)。

Pondoonu s. 人名（男，*Naiputunneeni* 氏族，*Wassuuka* さんの弟）。

poo[1] NG s. [acc. *poowo* N] 個体，箇所：*geeda poo* 一個 N／*dɵɵ poo* 二個 N／*ilaa poo* 三個 N／*geeda poo kupɔ* ひとかなの糸 N／*dɵɵ poo ojosko* 二個の荷物 N／*geeda poowo ŋɔlleewi.* 一個ぼくがほしい。N／*geeda poodu čii biččini.* 一箇所にず一っとかれはいた。G

poo[2] s. [acc. *poowo*] 残余：*tari busu pooni* そのぬのぎれののこり N／*tari nari pooni* その人の遠い傍系卑属 N／*sɔɔksɔ pooni* 血をひいたもの（遠い傍系卑属） N／*poočí* のこりの人 G／*pooninneeni* のこりの人，ほかの人 NG.

poŋgoli s. [acc. *poŋgollee*] まるめたもの（たとえば雪をまるめたものやおにぎり）；*buda poŋgolini* にぎりめし。

poŋgolli-ni v. [perf. *poŋgolixa-ni*] まるめる（にぎりめしにも言う）。

poojipči-ni v. [perf. *poojiptuxa-ni*] ま（混）ざる，ま（混）じる－ mix （vi.）.

poojji-ni v. [perf. *poojixa-ni*] た（足）す，まぜる－ add, mingle, mix something：*poojiptaŋi* s. [acc. *poojiptaŋŋee*] おかず（日本人の食事の副食）－ subsidiary food／*dɔppee poojjini.* （いろいろな）たべものをかれはまぜる。／*abulixambani poojjini.* かれはたりなかったところを足す。

poojoi s. [acc. *poojokkee*, pl. *poojoil*] ある女子に対して，夫の傍系男子の妻（年令はその女子とあまりはなれていない）。

poos U adv. 一気に：*poos peundakka.* 一気にかれはおならをしている。

pooto s. [acc. *poottoo*] おむつ（ぬのぎれ，古くは魚皮でつくり，木の木質部のこなになったもの（*xuutɔ*）や乾いたこけ（*namulta*）や低木の茎のやわらかい内部（*sauri*）を入れた）。

poowo s. [acc. *poowombo*] 水をくむのに使うもの（ひしゃく，缶詰の空き缶）。

poro[1] NGJ s. [acc. *porroo* N] やま七面鳥（大雷鳥） GJ：*daaji poro* 大きいやま七面鳥 J／*nuuči poro* 小さいやま七面鳥 J.

poro[2] s. [acc. *porombo*] （あたまや山の）いただき－ top, summit；つむじ－ whirl of hair on the head：*jili poroni* あたまのいただき／*xurigɔ poroni* 山の頂上／*xaikki poroluwa.* どこに（どこから）つむじがあるか。

poroxootu s. [acc. *poroxoottoo*] 汽船［＜ロ пароход］.

posičči-ni v. [perf. *posičixa-ni*] 火（火の粉）がくりかえしはねる：*tawa posiččini.* 火がくりかえしはねている。

posinǰi-ni U v. [perf. *posičči-ni*] 火（火の粉，火の中のまき）がはねる：*tawa posinǰini.* 火がはねる。／*posikkačči dɔgdɔxɔni.* 火がはねてもえた。

posseekta s. [acc. *posseektaa*] 火の粉（火をたいたとき出る）。

posseektaačči-ni v. [perf. *posseektaačixa-ni*] 火の粉がたくさん出つづける：

posseektaačči moo 火の粉がたくさん出つづけているまき。

posseektaanǰi-ni v. [perf. *posseektaačči-ni*] 火の粉がたくさん出る。

pɔččee-ni v. [perf. *pɔččɔxɵ-ni*] は（跳）ねる（たとえば，のみ，うさぎが）－ jump：*ugdaduu pɔččeeni.* ふねからかれはとびおりる。

pɔččɔi s. [acc. *pɔččɔkkee*] しおむし，よこのみ（多足類の虫）（海岸の砂のなかにいる，足が何十本もある，はねる）。

pɔččɔnɵsi-ni v. [perf. *pɔččɔnɵči-ni*] なんどもは（跳）ねる。

pɔkkɵ s. [acc. *pɔkkɵɵ*] てぬぐい。

pɔkkɵllee-ni v. [perf. *pɔkkɵlɵxɵ-ni*] ほおかぶりをする（てぬぐい（*pɔkkɵ*）で）：*pɔkkɵǰi pɔkkɵlleeni.* てぬぐいでかれはほおかぶりをする。

pɵɵŋɵrɵ s. [acc. *pɵɵŋɵrrɵɵ*] いれずみ（アイヌ人の）－ tattoo.

pɵɵri-ni v. [perf. *pɵɵxɵ-ni*] しびれる－ become numb：*bɔgǰibi pɵɵxɵni.* わたしの足がしびれた。

pɵɵriptɔŋi s. [acc. *pɵɵriptɔŋŋee*] 衣服（*pokto*, *xɵktɵ*, *ulbaaxu* のような）のすそうら：*isal pɵɵriptɔŋini* ふたえまぶた。

pɵɵrisi-ni NJ v. [perf. *pɵɵriči-ni*] すそうらをつける（うらのついていない衣服に）：*pɵɵriptɔŋŋee pɵɵrisini.* 衣服のすそうらをかの女はつける。J

pɔrɵ s. [acc. *pɔrɵmbɵ*] （手足の）おやゆび－ thumb.

pɔsseɵlli-ni v. [perf. *pɔsseɵlixɔ-ni*] かまやなべがにえたって湯があふれる（さかなを煮るとき，めしをたくとき煮えこぼれる U）：*ɔnuwɔ pɔsseɵlixɔni.* 釜がにえたってあふれた。

pɔtteɵktɵ s. [acc. *pɔtteɵktɵɵ*] 低木の一種（くきに赤味（*sɔɔgdɔ*）がある，小さい実がなるが食べない）。

puččee-ni v. [perf. *putaxa-ni*] わなをかける：*puttaa puččeeni.* かれはわなをかける。

pudali NG s. [acc. *pudalimba* N] 川のよどんでいるところ。

pudɔnǰi-ni v. [perf. *pudɔčči-ni*] ひかる－ shine：*aja boodu suun pudɔnǰini.* 晴れた空に太陽が輝く（まぶしく）。N／*geewa pudɔnǰini.* 明星がひかる。N／*suun pudɔnǰini.* 朝やけする。J

puijuuri-ni v. [perf. *puijuuxɔ-ni*] わ（沸）かす－ boil：*čaiwa puijuurini.* 茶をかの女がわかす。

puimul NG s. 動物の一種（竜蛇か）（湖にいて，人を殺す，これがいると湖が白いG）。

puippi-ni v. [perf. *puipuxa-ni*] うらがえす：*tɔtukki puippini.* かの女は自分のきものをうらがえす。／*silombo puippini.* かの女はやいているくしさしのさかな

をうらがえす。

puipučči-ni NG v. [perf. *puipučixa-ni*] たくさんうらがえす (たとえば，火の上でさかなの焼けた面を)。

puiri-ni v. [perf. *puixə-ni*] 獣皮をはぐ－ skin: *pəəttəə puirini.* あざらし (の皮) をかれははぐ。／ *sirəmbə puirini.* 山となかい (の皮) をかれははぐ。

puisi-ni v. [perf. *puiči-ni*] にえたつ，わ (沸) く－ boil N: (天気が) 荒れる，風，雪がふきすさぶ N: むらがっている J: *ənuwə puisini.* かまが沸いている。N／ *boo puisini.* 天気が荒れている (風がつよくふいている，雪がはげしくふぶいている)。N／ *xədu puisini.* 風がひどくふいている。N／ *xaimi puisinee təəmu.* どうして荒れるのか，海が。J／ *nari* (または *suŋdatta* または *naa bejəni*) *puisini.* 人 (または魚または陸のけだもの (となかいまたはきつねまたはくま)) がむらがっている。J

pujaŋgu NG s. 末子 (男女の) (この語は老人が使う N, オルチャ人 (*Maŋbu*) のことばだという G)。

pujə [1] s. [acc. *pujjəə*] きず－ wound.

pujə [2] G s. 枝川 (分流)。

pujəčči-ni J v. [perf. *pujəčixə-ni*] わかれる: *tari nari pujəčimi ŋənuxəni.* その人はわかれて帰った (一緒に行った帰りに)。U

pujəčigəlli-ni v. [perf. *pujəčigəlixə-ni*] わか (別) れる (歩いたりあるいはとなかいに乗ったりして行くとき同行した人が) － separate: *čadu pujəčigəllini.* そこでかれはわかれる。

pujəjji-ni G v. [perf. *pujəduxə-ni*] またわかれる，川がふたまたにわかれる: *minduu pujədumi ŋənuxəni.* 一緒になって行った人がおれとまた別れて帰った。

pujəl GJ s. 四歳のくま (越冬後春おやとわかれて *pujəl* となる)。

pujjee-ni NJ v. [perf. *pujəxə-ni*] わかれる，よける: *dəənnee ŋənəmi geedannee pujəxəni.* 二人で行って一人は別れた。J／ *čakki pujəxəpu.* (二人で行って) そこからわれわれは別れた。N／ *poktoo pujjeeni.* かれはみちのわきへよける。N／ *nari poktoo pujəxəni.* 人が一つのみちから別のみちへうつった。N

pujjəuri-ni v. [perf. *pujjəuxə-ni*] 結婚の際むこがよめの家に行ってしばらくはたらいていてからよめを連れてもどるとき妻を実家からわかれさす: *asibi pujjəuxəni.* 自分の妻を実家からかれはわかれさせた。

puji NG s. [acc. *pujimba* N] 婦人 (*əəktə*) (この語はウイルタは日常使わない) N, 未婚の若い女 (*patala*) (この語はオルチャ人 (*Maŋbu*) のことばだという) G

[＜満 fujin].

pukči-ni v. [perf. *pukčixə-ni*] (けだものが) 走る，(となかいが) かけ足で走る (左右の足を同時に出して走る G): *čaa duxukki tuksa pukčixəni.* その家の外側をうさぎが走って行った。

pukčičče-ni v. [perf. *pukčitəxə-ni*] 立ち向って行く，かかって行く (人間やいぬが)。

pukčipinji-ni G v. [perf. *pukčipičči-ni*] 一気に走る。

pukčitəlidusi-ni G v. いぬがなんどもかかっていく。

pukčəənji-ni v. 走らせる: *ulaaba pukčəənjini.* となかいをかれは走らせる。

pukkannee-ni v. [perf. *pukkanaxa-ni*] 手足にまめができる: *bəgjibi pukkanaxani.* おれの足はまめができた。

pukkee-ni NJ v. [perf. *puwaxa-ni*], *puwwee-ni* J v. しりをふく (排便後)。

pukki-ni NJ v. [perf. *pukkixə-ni*] 巫事の際に巫人のからだや神像をいそつつじ (*səəkkurə*) やえぞまつの枝葉でくゆらす (くゆらして生じたかおりが巫人に入って神が巫人に入る G): *pukkuri* 巫事においていそつつじなどでくゆらすこと／ *samamba pukkini.* 巫人のからだをかれはいそつつじやえぞまつの枝葉でくゆらす。J

pukkičči-ni U v. [perf. *pukkičixə-ni*] くゆ (燻) らしている: *səwəmbə pukkiččini.* 神像にかれはけむりをかけている。

puksi-ni v. [perf. *puksixə-ni*] 音がなく放屁する: *tari nari puksini.* その人が音を立てずに放屁する。

puktaa s. [acc. *puktaamba*] (屋内の) ほこり (埃)，ちり (塵) － dust.

puktaanji-ni v. [perf. *puktaačči-ni*] ほこりをたてる: *nari puktaanjini.* 人がほこりをたてる。

puktu s. [acc. *puktumbə*] つなでつながれてそりを引くいぬの列とそりの全体。

puktuupəčči-ni v. [perf. *puktuupəčixə-ni*] いぬがくわえてあるきまわる。

puktuuri-ni v. [perf. *puktuuxə-ni*] さらって行く，(いぬが) くわえて立去る。

pulakkaari NG adv. はじめて: *pulakkaari iččeewi.* はじめておれは見る。N／ *pulakkaari itəxəmbi nari* はじめてわたしが見た人 N.

pulaxxi-ni J v. [perf. *pulaxixa-ni*] どなる。

pulči s. [acc. *pulčimba*] ほお (ほほ) (頬) － cheek.

puldula NG s. かざり (そりを引くいぬのくびわの G)。

puləə a. あまりの，s. [acc. *puləkkəə*] 余分，あまり，のこり－ surplus: *puləə ulaa bara biini.* あまったとなかいがたくさんいる。／ *busu puləəni* 布のきれはし／ *natta puləəni* 毛皮のきれはし。

puliččee-ni v. [perf. *pulitəxə-ni*] 行って帰って来る：*gitumi puliččeeni.* かれは歩いて行って来る。／*ugdaji* (または *ulaaji*) *puliččeeni.* ふねで (またはとなかいで) かれは行って来る。／*xawasai pulitəxənee.* どこへかれは行って来たか。／*tawasai pulitəxəni.* あそこへかれは行って来た。

puličči-ni v. [perf. *puličixa-ni*] (火に) あぶる－ expose to fire：*ŋaalabi puliččini.* 自分の手をかれはあぶる。／*moowo tawatai puliččini.* かれは木を火にあぶる (木をまげるために)。／*tətuwəbi puliččini.* 自分のきものをかれは火にあぶる (ぬれたのをかわかすのに)。

pulimɔɔpu s. [acc. *pulimɔɔpumbə*] 毛抜き (白いまつげが人により目のなかにはえることがあり，それをこれで抜くという)。

pulipəčči-ni v. [perf. *pulipəčixə-ni*] あちこちあるきまわる。

pulipɵɵčči-ni v. [perf. *pulipɵɵčixə-ni*] うごかす：*moowo pulipɵɵččini.* 小さい立木をかれはうごかす (幹をつかんで U)。

puliptəŋi J s. 乗ってあるくもの (となかい，ふね)。

pulisi-ni v. [perf. *puliči-ni*, conv. perf. *puligəčči*] 1.あるいている (足であるくほか，のりものでもいう)，旅行する－ walk, travel：*pulipuri* 旅行－ journey／*purəmbə pulisini.* やまをかれは (猟をして) あるいている。／*poktokki pulisini.* みちをかれはあるいている。／*pulisinnee* s. [acc. *pulisinneepə*] 旅行者／*poktoo pulisinnee* 方々歩く人；2.動く (たとえば魚が)。

pullee-ni[1] v. [perf. *pulaxa-ni*] 巫者に巫事をおこなってもらった礼をあげる：*samattai pulleeni.* 巫者にかれは巫事の礼をわたす。／*sama jaaxandulani* (*jaa* は *jaaja* の採録時の書き誤りと思われる)*pulleeni.* 巫者が巫事をおこなったことでかれは礼をする。

pullee-ni[2] v. [perf. *pulɔxə-ni*] あま (余) る－ be left over, be in excess：*dəppi pulɔxəni.* たべものがあまった。／*geeda bee pulɔmee* 一月あまり。

pulləupči-ni U v. [perf. *pulləuptuxə-ni*] あまる。

pulləuri-ni v. [perf. *pulləuxə-ni*] のこ (残) す－ leave：*ulissɔɔ pulləuxəni.* 肉をかれは食べ残した。

pulməktə s. [acc. *pulməktɔɔ*] 低木の一種 (とげがある，茎の髄を取り出して使う)。

pulta s. [acc. *pultaa*] 掛けぶとん－ quilt.

pulu s. [acc. *pulloo*, all. *pulutai*] 樹木の一種 (カラフトヤマナラシ) (あおだも J)。

punaada G adv. けむりがでている様子：*punaada biini.* けむりがでている。

pundadu s. [acc. *pundaddoo*, pl. *punǰiil*] ある男子に対して，同じ氏族 (父系内の傍系女子。ある女子に対して，夫の傍系女子－ (for a male and his wife) aunt, sister, cousin (female)，niece.

punəktə s. [acc. *punəktəmbə*] はい (灰) － ash.

puŋda NJ s. [acc. *puŋdaa* N] はん (榛)。

puŋdai s. [acc. *puŋdakkee*] かび－ mould, mildew.

puŋdanǰi-ni v. [perf. *puŋdačči-ni*] かびがはえる。

puŋgəlli-ni v. [perf. *puŋgəlixə-ni*] ころがる－ roll：*kərgigə puŋgəllini.* 遊戯の輪がころがる。

puŋnee-ni NG v. [perf. *puŋnəxə-ni*] 追いたてる，か (駆) る：*tari nari bəjəmbə puŋneeni.* その人がけだものを (大きな声を出すなどしておどろかし) 駆り出す (一方に別の人がいてそのけだものをねらう)。N／*ulaabi puŋneeni.* 自分のとなかいをかれはむち打ってはしらせる。N／*suŋdattaa puŋneeni.* さかなをかれは追いたてる。G／*keuwimi puŋneeni.* かれは川しもでさかなを網でとるために川の氷にあなをあけて棒を入れ水をついてさかなを追いたてる。G／*asibi puŋnəxəni.* 自分の妻をかれは追い出した。N

puŋnəǰǰi-ni U v. [perf. *puŋnəduxə-ni*] 追いかえす：*tari duŋneeni andaxxaa puŋnəduxəni.* その家の人は客を (なにもしないでごろごろしているので) 追いかえした。

puŋnəpu s. [acc. *puŋnəpumbə*] となかいに乗る者が手にもつ操縦棒－ stick for riding a reindeer.

puree *int.* とまれ (そりを引くいぬへとまらせるとき言う)：*puree puree.* とまれ。

purɔ s. [acc. *purɔmbə*] やま (住居のある場所に対して生活資料をうる山野)。

purəi s. こまかい雨。

purigačči-ni NU v. [perf. *purigačixa-ni*] もぐる (何回も)：*nari paurimi purigaččini.* 人がおよぎながらなんどももぐる。

purigə a. わか (若) い－ young：s. [acc. *purigəmbə*, *purigɡəə*]：*purigə nari* 若い人／*purigənnee* s. [acc. *purigənneepə*] 若者－ young man.

purigəčči-ni v. [perf. *purigəčixə-ni*] 子をたくさんつくる：*puttəə purigəččini.* かの女はこどもをたくさん生む。／*purigəčči ɔəktə* こどもをたくさん生む女／*purigəčči nari* こどもをたくさんつくる人／*purigəčči bəjə* 何回も子を生んでいるくま。

purigəmǰi s. [acc. *purigəmǰee*, pl. *purigəmǰil*] ある男子に対して，同じ氏族内の同じか下の世代の年下の傍系男子。ある女子に対して，夫の氏族内の夫と同じか下の世代の年下の傍系男子。

purpəǰǰee-ni NU v. [perf. *purpədəxə-ni*] やぶれる (あながあいたり，またたと

えばあぶら入れのふくろ (*keuri*) がさけたりして): *suumkə purpəjjeeni.* 銃弾入れがやぶける。U

purpəllee-ni NU v. [perf. *purpələxə-ni*] いっぺんにやぶれる: *ilda keurini purpələxəni.* 油のふくろがいっぺんにやぶけた。U

purpərəm NU, *purpərəmji* N adv. ポツンと突然あながあくさま: *keuri purpərəm putədəxəni.* 油入れの袋が急にポツンとあながあいた。NU

purree-ni v. [perf. *purəxə-ni*] かみの毛のなかをさがす (たとえばしらみを): *čiktəə purreeni.* かの女はかみの毛のなかのしらみをさがす。

purri-ni [1] v. [perf. *purixa-ni*] 水中にもぐる－ dive into: *gasa purixani.* 鳥が水にもぐった。

purri-ni [2] v. [perf. *purixə-ni*] 子をたくさん生む: *puttəə purrini.* かの女はこどもをたくさん生む。

pusənji-ni v. [perf. *pusəčči-ni*] ふえる (動物が繁殖する) － (a population) increase: *nari pusənjini.* 人がふえる。

pusičče-ni v. [perf. *pusitaxa-ni*] あたまの毛を刈ってある。

puskučči-ni U v. [perf. *puskučixə-ni*] ほらをふく，自慢ばなしをする。

puskujjee-ni U v. [perf. *puskudəxə-ni*] ふくれつらする，むくれる。

puskum U adv. ふくれつらして。

pussi-ni v. [perf. *pusixa-ni*] 1. か (刈) る，そ (剃) る－ mow, cut, shave: *oroktoo pusikku* かま (鎌) － sickle／*oroktoo pussini.* 草をかれは刈る。／*jillee pussini.* あたまをかれは刈る。／*dərəlbi pussini.* かれは自分のかおを剃る。2. たばこをふかす: *saŋnamba pussini.* たばこをかれはふかす。

puta s. [acc. *puttaa*] わな (罠) (貂のほか木ねずみなどもとる) － trap: *puta beeni* 十月－ October.

putačče-ni v. [perf. *putataxa-ni*] わなをかけておく。

putačči-ni v. [perf. *putačixa-ni*] わなをかけている。

putamuu s. [acc. *putamukkoo*] 夜光 (うろこなどの，また夜，舟でかいをかくと水のあわとともに光がある，ねこ，わしの目も夜光る)。

putanjee-ni v. [perf. *putandaxa-ni*] わなをかけに行く。

putəjjee-ni v. [perf. *putədəxə-ni*] あながあく (破裂して)。

putəlli-ni v. [perf. *putəlixə-ni*] あなをあける (一回): *dukkəə putəllini.* 氷にかれはあなをあける。

putəssi-ni v. [perf. *putəsuxə-ni*] あなをあける (いくつも)。

puttə s. [acc. *puttəə, puttəwə, puttəbə-ni*, pl. *puril*, acc. *purilbə*] こども，直系卑属 (こ，まご) － child: *xusə puttə* 男のこども，少年－ male child, boy／*əəktə puttə* 女のこども，少女－ female child, girl／*xusə puttəni* かれのむすこ－ his son／*əəktə puttəni* かれのむすめ－ his daughter／*puttəni puttəni* かれの孫－ his grandson, his granddaughter／*puttəmunə* 子持ち／*mini puttəbi dəə xusə puttə biini.* おれにはふたりの男の子がある。／*puttənnee* s. こども／*puttənnee owočči xaiwa kəənjisigə.* こどものくせに何をおまえは言うか。

puttəŋəsə s. [acc. *puttəŋəssəə*, pl. *puttəŋəsəl*] 死んだ子－ deceased child.

puttəŋŋi J s. 高年齢のめすとなかいについて年齢をあらわすのにいう: *ilaalta puttəŋŋi* (*nami*) 五歳のめすとなかい／*jiilta puttəŋŋi* (*nami*) 六歳のめすとなかい／*tundalta puttəŋŋi* (*nami*) 七歳のめすとなかい／*nuŋulta puttəŋŋi* (*nami*) 八歳のめすとなかい／*nadalta puttəŋŋi* (*nami*) 九歳のめすとなかい／*jakpulta puttəŋŋi* (*nami*) 十歳のめすとなかい。

puttərə s. [acc. *puttərəmbə*] ままこ，継子－ stepson, stepdaughter.

puttəəktu J s. 樹木の一種 (やなぎの類，ほそく，あかい)。(Cf. *pəttəəktə.*)

putujjee-ni v. [perf. *putudaxa-ni*] 捻挫する: *bəgjini putudaxani.* かれの足が捻挫した。

putul(ik)ka s. [acc. *putul(ik)kaa*] びん－ bottle [cf. ロ бутылка].

putuu s. [acc. *putukkoo*, all. *putuutai*] 獣皮や魚皮でつくった入れもの (昔のもの，Nははなしに聞いただけで，見たことはないという)。

puujinji-ni v. [perf. *puujičči-ni*] かぜがつよくなる: *xədu puujinjini.* かぜがつよくなる。／*boo puujiččini.* あめかぜがつよくなってきた。

puujji-ni v. [perf. *puujixə-ni*] ふくれる－ swell: *suŋdatta puujjini.* さかながふくれる (くさって)。／*siloččiduni suŋdatta puujixəni.* かれがくし焼きにしているときにさかながふくれた。

puujəənji-ni v. [perf. *puujəəčči-ni*] ふくらませる。

puul NU s. [acc. *puulba* N], *pəəl* J s. [acc. *pəəlbə*] (顔の) ほくろか N, 顔に一つだけある大きいできもの U, こぶ J.

puula s. [acc. *puulamba*] つりいと (釣糸) (木綿糸) － fishing-line.

puulbi-ni v. [perf. *puulbixə-ni*] においが生じる，くさくなる (くさってきて): *suŋdatta* (または *ulisə*) *puulbini.* さかな (または肉) がくさくなる。

puullee-ni v. [perf. *puuləxə-ni*] 祓をおこなう，巫者が踊りかつ歌いながら病人の体中を木弊でさわって祓をする: *puulləuri illau, puuləptəŋi illau* おはらいの削り花 (柄はない)。

puun s. [acc. *puumbə*] におい－ smell.

puundə NJ s. [acc. *puundəə*] 地上の雪 (*simatta*) が風でとぶこと，地ふぶき。

puunǰee-ni NG v. [perf. *puundəxə-ni* N] 地上の雪が風でとぶ。

puuntu s. [acc. *puuntөө*, all. *puuntutəi*] はかり (秤) − balance [<ロ фунт].

puuntullee-ni v. [perf. *puuntuləxə-ni*] はか (量) る。

puuŋǰee-ni NG v. まきをきりに行く。

puupinǰi-ni v. [perf. *puupiččі-ni*] プッと (一気に) 吹く。

puupooččі-ni NJU v. [perf. *puupoočixa-ni* N] 吹いて鳴らしている (ハーモニカを), 汽笛を鳴らす (何回も): *nari puupooččini.* 人が吹いて鳴らしている。N ／ *dolbo poroxootu puupoočixani.* 夜, 汽船が汽笛を鳴らしていた (霧の中で)。N

puupoollee-ni NU v. [perf. *puupoolaxa-ni* N], *puupuwallee-ni* N v. [perf. *puupuwalaxa-ni*] ふえを吹いて鳴らす, 汽笛を鳴らす (一回)。

puupooptu J s. ハーモニカ, ラッパ。

puupsa s. [acc. *puupsaa*] のこぎりくず。

puupu s. [acc. *puupumba*] のこぎり − saw.

puupullee-ni v. [perf. *puupulaxa-ni*] のこぎりですこし切る (しるしをつけるために切る U)。

puupuwa NJ s. [acc. *puupuwamba* N], *puupoo* U s. ふえ (笛) (*soǰikta* や *aasi* などの茎でつくる), 尺八, ハーモニカ NJU − flute, pipe, 汽笛 J.

puurau N s. [acc. *puurakkoo*], *puurrau* J s. とりの一種 (名前しか知らない J, ものがたりに出る N)。

puuri-ni [1] v. [perf. *puuxa-ni*] のこぎりでたくさん (またはしまいまで) 切る。

puuri-ni [2] v. [perf. *puuxə-ni*] (口で) ふ (吹) く − blow ／ *tawwaa puurini.* 火をかれは吹く。

puutaa s. [acc. *puutaamba*] ふくろ (袋) − bag, sack ／ *upa puutaani* 粉の袋 (布製)。

puwaptaŋi J s. (排便後) しりをふくもの, 落とし紙。

puxi G s. 腹部の臓器 (*Maŋbu* のことばであるという)。

S

saa int. どれ: *saa ittəunu.* どれ見せろ。／ *saa bii iččeettə.* どれわしが見る。／ *saa xaidu biinigə.* どれどこにあるか。

saačče-ni v. [perf. *saataxa-ni*] 知っている, わかっている: *saatami biini.* かれは知っている (わかっている)。

saak G adv. 気ままに, 自由に: *məənə saak tuččini.* 自分で気ままに (くまが) うごく。

saaǰǰi-ni v. [perf. *saaduxa-ni*] 意識をとりもどす, われにかえる, きづく, きがつく − become conscious (of): *aunǰee saaduxambi.* ねていておれは気がついた (酒をのんでそとにでもねていて)。／ *oŋboxombi saaǰǰini.* かれは忘れたことに気がつく。

saakari s. [acc. *saakarree*] 角砂糖 [<ロ сахар].

saakpinǰi-ni A v. [perf. *saakpiččі-ni*] のどがつかえて食べたものを吐き出す。

saaksa s. [acc. *saaksaa*] しも (霜)。

saaksisi-ni v. [perf. *saaksiči-ni*] たずねる, 聞き出す: *čaa naritai saaksičini.* その人にかれはたずねた。／ *andaxatai aldoo saaksisini.* 客に消息をかれはたずねている。

saalda s. [acc. *saaldaa*] 1. また (股) − crotch: 〔言い習わし〕 *puttə saaldaakki kargaajini goči əsərəiǰǰini.* 幼児が自分のまたの間からながめる (まためがねをする) とまた妊娠する。2. となかいぞりの左右の台木の前方の上へ反った部分の穴に通したあざらしの皮のつな (これがとなかいについたつな (*nusku*) につながる)。

saali s. [acc. *saallee*] かくまき (角巻)。

saamǰi-ni v. [perf. *saamǰixa-ni*] 知らせに行く: *nari buccimbəni saamǰini.* 人の死んだことをかれが知らせに行く。

saamugda J s. しるし。

saamugǰee-ni J v. [perf. *saamugdaxa-ni*] しるしをつける。

saan NU s. [acc. *saamba*] 魚 (*čaccabi* や *mauri*) を干す掛け木の設備, 棒 (四本の棒 U) を立ててその二本ずつに棒を渡し, その上に横木を渡してある, 一段のも, 二段以上のもある。

saanǰi-ni [1] v. [perf. *saaccі-ni*] のびる − stretch (vi.): *natta saaccini.* 獣皮がのびた。

saanǰi-ni [2] v. [perf. *saanǰixa-ni*] のばす − stretch (vt.): *xɔɔgbɔ saanǰini.* 皮ひもをかれがのばす (木と木の間に張ってひっぱって)。／ *nattaa saanǰini.* 獣皮をかの女はのばす。

saaŋeeri-ni v. [perf. *saaŋeexa-ni*] 霜がおりる。

saar adv. あたり一面に一度にひろがって: *buddaa saar xөөlčini.* 米をあたり一面にザーッとかの女はこぼした。

saari a. くろ (黒) い − black; s. [acc. *saarimba*]: *saarinnee* U s. 黒い人, く

ま。

saarikta s. [acc. *saariktaa*] うさぎのみみの一番さきの黒い毛：*isal saariktani* くろめ (眼球のなかの虹彩) J.

saari-ni v. [perf. *saaxa-ni*] 知る，知っている，わかる－know, understand：*saagasii.* わかったか。／*saarilasi.* おまえはわかるだろう (「おぼえていろ」にあたる怒りの文句)。／*kəənǰiwəni gəəm saarini.* かれの言うことがすべてかの女はわかる。

saarukki-ni G v. [perf. *saaruxa-ni* (sic)] となかいがくしゃみをする (鼻からあぶが出る)：*ulaa saarukkini.* となかいがくしゃみする。

saawoočči-ni U v. [perf. *saawoočixa-ni*] 知らせている。

sabǰee-ni v. [perf. *sabdaxa-ni*] したた (滴) る－drip：*səəksə təəp təəp sabǰeeni.* 血がぽたぽたしたたる。

sabuu s. [acc. *sabukkoo*] 食事のはし (箸) (女はつかわないという) －chopsticks：*tawa sabuuni* 火ばし。

sabuullee-ni v. [perf. *sabuulaxa-ni*] はし (箸) をつかう，はしではさむ。

sačiga N s. [acc. *sačigamba*] , *sačee* J s. となかいの二歳のめす N, 春生まれて翌年の秋がきたとなかいのめす J.

Sačigari N, *Sačeeri* K s. 佐知 (サチ) (敷香の市街の対岸) (ο. Южный) .

sagdai s. [acc. *sagdakkee*] ふな－a kind of fish.

sagdanǰi-ni v. [perf. *sagdačči-ni*] としよりになる：〔言い習わし〕*xoǰimi sagdappee xoldokki xunulu osininda.* ひどくとしよりになると横側にへそがあるようになるんだと。

sagdari a. 老いた：*sagdari moo* 老木 (立木)。

sagǰi a. とし (年) とった－old, aged [ant. *purigə*]；s. [acc. *sagǰee*] 年寄り：*sagǰi beeni* 十一月 N－November，一月 J－January／*sagǰinnee* s. [acc. *sagǰinneepa*] としよ (年寄) り，老人 N－old man.

sagǰima G s. 八歳のくま。

sagǰimǰi s. [acc. *sagǰimǰee*, pl. *sagǰimǰil*] ある男子に対して，同じ氏族内にあって上の世代に属さぬ年上の傍系男子。

sai s. [acc. *saiwa*] しるし，目印 (原野などで迷わぬために木に苔やてぬぐいをかけるなどしてしるしをつける) －sign.

sainau s. [acc. *sainakkoo*] いつもしるしをつけるところ。

sairi s. [acc. *sairree*] *saan* におけるさかなをかけて干す横木 [<ア sakir] .

sairikku U s. [acc. *sairikkoo*] 物差し。

sairri-ni v. [perf. *sairixa-ni*] はか (測) る：*bussoo sairrini.* きれ (の長さ) をかの女が測る。

sajaa NJ s. [acc. *sajakkaa* N] 手足の指のまた。

sajaapillee-ni v. [perf. *sajaapilaxa-ni*] 指の間 (中指と人指し指の間) にはさむ：*saŋnamba sajaapilleeni.* たばこをかれは指の間にはさむ。

sajji-ni v. [perf. *saixa-ni*] しるしをつける，生まれた女の幼児を大きくなってからよめにもらう同意をえておく。

saldaa s. [acc. *saldaawa*] 兵士，兵隊－soldier [<ロ солдат]：*saldaa jaŋgeeni* 士官－officer.

salipačči-ni U v. [perf. *salipačixa-ni*] 知らんふりしている，いばる。

salkai s. [acc. *salkaiwa*] かれいの一種，目のない側にきいろの色あり。

salleeri-ni v. [perf. *salleexa-ni*] やまのなかを行くとき途中でひるの食事をする。

salli-ni NJ v. [perf. *salixa-ni* N] いばる，自慢する：*salimi pulisini.* いばって (人に挨拶もせず) かれは歩いている。N／*bəjəmbə waagačči sallini.* くまをとってかれはいばる。J／*məəpi sallini.* かれは自慢する。N

salŋa U a. 欠けている：*kərəktəni salŋa nari* 歯の欠けている人。

salpi s. [acc. *salpee*] あみばり (漁網を編む)。

sama s. [acc. *samamba*] 巫人 (巫者)，かんなぎ，シャマン－shaman.

samalaččee-ni v. [perf. *samalataxa-ni*] 巫人をよんでくる。

samallee-ni v. [perf. *samalaxa-ni*] 巫者をむかえに行く。

samambi-ni v. [perf. *samambixa-ni*] 巫者になる。

samannee s. [acc. *samanneepa*] 巫人 (巫者の用語という) [ant. *soǰinnee*] .

Santaari G s.：*Santaari buwatani* シャンタル島 (Шантарские острова) (くまやてんが生息，満月のとき潮が強く，キーリン人 (*Kiilləə*) が行って多くの死者が出たという)。

saŋa s. [acc. *saŋŋaa*] あな (穴) －*hole*：*xuriga saŋani* 鼻孔－nostril／*seen saŋani* 耳孔，耳輪を通すためにあけた耳たぶの穴。

saŋaǰǰee-ni v. [perf. *saŋadaxa-ni*] あながあく：*ənuwə saŋaǰǰeeni.* なべにあながあく。

saŋalli-ni v. [perf. *saŋalixa-ni*] あなをあける：*oksoo ələndəəni saŋallini.* となかいぞりの一番前の横木にかれはあなをあける。

saŋalta N s. [acc. *saŋaltamba*] , *saŋaltu* J s. 寛骨。

Saŋaltu NJ s. [acc. *Saŋaltoo* N] ふたつ岩 J (のあるところ N) (北知床半島の先端)。

saŋinau JU s. [acc. *saŋinakkoo* J] やまに入るときあとから来る人に連絡するための木のえだを折るなどのしるし。

saŋinaučči-ni U v. [perf. *saŋinaučixa-ni*] しるしをいくつもつけている：*moo saŋinauččini.* 木にかれはしるしをいくつもつける。／*poktoo saŋinauččini.* みちにかれはしるしをずーっとつけている。

saŋinauri-ni U v. [perf. *saŋinauxa-ni*] 木のえだを折るなどしてしるしをのこす：*ugdaa andumi saŋinaurini.* 舟をつくるときかれは（まさかりで木にきずをつけたりして）しるしをつけている。

saŋna s. [acc. *saŋnamba*] たばこ－ tobacco：*Maŋbu saŋnani* 葉たばこ。

saŋnaa a. けむいなー。

saŋnaka s. [acc. *saŋnakkaa*] けむり－ smoke.

saŋnaŋi NJ s. [acc. *saŋnaŋŋee* N] 立ちのぼったけむり。

saŋnasi-ni v. [perf. *saŋnači-ni*] （火が）けむっている，けむい：*tawa saŋnasini.* たき火がけむたい。U／*tawa saŋnasikka.* 火がくすぶっていてけむたい。U

saŋnauli U a. けむい，けむたい：*tawa saŋnauli.* たき火がけむい。

saŋŋi-ni U v. [perf. *saŋixa-ni*] しるしをつける（一度だけ）（木に小刀できずをつけたり，てぬぐいをさいてしばったりして，また木で神像をつくるとき木の東（*suun agbinjeeni*）の面が顔（*dərəl*）になるようにあらかじめ木にしるしをつけておく）：*poktoo saŋixambi.* 道におれはしるしをつけた。

saŋu a. すずしい（暑いときの日かげなどが）－ cool：*saŋu inəŋi* すずしい日／*saŋunǰee* すずしいところ，すずしい方。

sapčigallee-ni v. [perf. *sapčigalaxa-ni*] （やなぎの枝やあざらしの皮のひもで）むちうつ（一回）。

sapčikkee-ni v. [perf. *sapčigaxa-ni*] むちうつ（何回も）：*urəktəǰi sapčikkeeni.* やなぎの枝でかれはむちうっている。／*xəəgǰi sapčikkeeni.* あざらし皮のひもでかれはむちうっている。

saram adv. あおむけに手足をひろげて：*saram biččini.* かれはあおむけになって手足をひろげていた。

sari [1] s. [acc. *sarimba*] まるきぶねの中に横に板をわたしてとりつけたこしかけ。

sari [2] N pron. どちら：*sari kusalka.* どれが速いか。N／*saaga* N どれか／*sala* NJ どこへ／*sala ŋənneesigə.* きみはなんというところへ行くのか。N／*salaa* どこまで J.

sarpi-ni U v. [perf. *sarpixa-ni*] トランプをきる（まぜる）：*kaartaa sarpixani.* トランプをかれはきる。

sarri-ni v. [perf. *saruxa-ni*] 円錐形の小屋を棒を組んでつくる：*aundakkoo sarrini.* 円錐形の小屋をかれは棒を組んでつくる（夏の小屋をつくるなら *kauramba andusini.* と言うという）。／*seesiŋiǰi sarrini.* 棒でかれは円錐形の小屋の骨組みをつくる。

sarukki NJ s. [acc. *sarukkee* N]，*sirukki* K s. にしん［cf. ア heroki,（タライカ）herokki,（南カラフト）χeŕuk］.

satana s. [acc. *satannaa*] 人間を死ぬようにし（死んだ人の行くところへのあなをあけて），また植物の液果のような下にみのるものも食べるようにさせた者［＜ロ сатана］.

satu s. [acc. *sattoo*] 砂糖－ sugar［＜日 さとう］。

sau NG s. 塩水：*sau məəni* しおみず NG／*namu sauni* 海のしおみず N.

Saudaanu s. 新聞（ニイトイ）（Новое）.

saulli-ni NU v. [perf. *sauluxa-ni*] のろう，うらんで悪くなれと言う：*mimbee sauluxani.* おれをかれははやく死ぬようにのろった（またははやく死ねばいいとかげで言った）。J

saulu J s. [acc. *saulumba*] 婚礼の御馳走。

saunaa s. あざらしの足（二つある）：*pəətə saunaani* あざらしの足。

sauri s. [acc. *saurree*] 低木の *pulməktə*, *miiktə* や *səŋətturə* の皮をとって茎のやわらかい内部をけずったもの（はな紙，落とし紙のように使われるが，年寄りしか使わなくなった，また，ゆりかごなどの便器に入れたり，そのけずりくずを嬰児の肌用にしたりする）。

saurri-ni v. [perf. *saurixa-ni*] 低木の *miiktə* などの皮をとって内部をけずりとる。

sauxalǰi s. [acc. *sauxalǰee*] とりの一種（言い伝えの鳥か）（妖怪（*amba*），羽のある人（*xasalu nari*）J）：*sauxalǰi xalani* ナイプト衆の氏族（*Naiputunneeni xalani*）のこと（この氏族のもと（*təkkə*）はこの鳥であるという）（この氏族をののしるとき言う J）／〔言い伝え〕*goropčidu uilta pundadumuna biččičində.* むかしウイルタが同じ氏族の女といたんだと。*pundaduni bagduxuwaačči ŋənəxənində.* その女は身支度して行ったんだと（よそへ夫をさがしもとめて）。*ŋənəgəčči mutuduxaninda.* 行ってもどって来たんだと（別の女にかわって）。*mutuduwačči naadaktaǰǰi əǰiləxənində.* もどって来て自分の氏族の男を夫にしたんだと。*puttəə baaxaninda.* 子をうんだと。*naadaktani puttəbi bəgǰiduni daparraa pee mootoini iddəəni jaal paačilaxaninda.* その男は（同じ氏族の女とわかって）自分の子の足をつかむと白樺の木へ子の脳がこなみじんになるほどたたきつけたんだと。*tamaččuu tari puttə ǰilini sauxalǰi owočči səbdəxənində.* それからその子のあたまはサウハルジのとりになって飛んで行ったと。*Naiputunneeni balǰigači təkkəčči taraŋači balǰigačinda.* ナイプトのひとたちが生まれたもとはこの様にして生じたと。

saweellee-ni G v. [perf. *saweelaxa-ni*] 飼養となかいの耳のさきの部分にしるしをつける（しるしは氏族によって異なる，三つに裂いたの，さきを切りとったの，きずをつけたのなどある）。

sawiga s. [acc. *sawigamba*] 所有主のしるし（飼養となかいの耳を小刀でさく，しるしは氏族により異なる）— mark (of ownership).

sawillee-ni v. [perf. *sawilaxa-ni*] となかいにしるしをつける：*ulaaba sawilleeni.* となかいにかれはしるしをつける。

saxuri s. [acc. *saxurree*] 物語，おとぎばなし（ウイルタ族の口頭文芸のジャンルの一つ，これは架空の作り話と考えられている）— story, fairy tale.

saxurri-ni v. [perf. *saxurixa-ni*] おとぎばなしをする。

seečči-ni v. [perf. *seečixa-ni*] 樺皮を何回も歯でかんでかんだへこみで文様をつける：*talloo seeččini.* 樺皮にかの女は歯でかんで文様をつける。

seega NG s. [acc. *seegamba* N] 胸につけるかざり（耳かざりにもつける）N, 耳輪やくびかざりにつける火打石（*burakta*）のような石 G.

seegačiga, seegačee s. [acc. *seegačigamba, seegačeemba*] 耳かざりの小さい石（輪の形の）：*siigɔ seegačigani* 耳かざりの小さい石。

seejji-ni v. [perf. *seejixa-ni*] かぜをひいてなおらないでいる。

seela [1] J s. やち（ぬま地）がかんかんに凍ること。

seela [2] G s.: *namu seelani* 陸から見て海のはるかかなた。

seelanji-ni GJ v. [perf. *seelačči-ni*] 地が凍ってかたくなる：*naa seelanjini.* 地が凍ってかたくなる。G／*dɔtu seelanjini.* やちがかんかんにかたく凍る。J

seelči-ni v. [perf. *seeltuxa-ni*] 炭を焼く：*seeltaa seelčini.* 炭をかれはやく。

seelta s. [acc. *seeltaa*] すみ（炭）— charcoal.

seen [1] s. [acc. *seemba*] みみ（耳）— ear: *seen kɵrɵktɵni* (*seen koroktoni* J) 耳殻。

seen [2] G num. *jaxu* の上の数の位どり。

seenjee-ni v. [perf. *seendaxa-ni*] きこえる。

seeptu s. [acc. *seeptumba*] 耳おおい（耳あて）。

seepuwa G s., *seepoo* J s. となかいの一歳のめす G, 生まれて翌年の春になったとなかい（*ulaa, sirɵ*）のおす・めす J.

seeri-ni v. [perf. *seexa-ni*] （歯で）かむ— chew: *nari dɔppee seerini.* 人がたべものをかむ。／*sura* (または *čiktɔ*) *seerini.* のみ（またはしらみ）が食いつく。

seeroo s. [acc. *seeroombɔ*]: *agji seerooni* 虫（*koliga*）の一種（その色は *saari*, 長い *xujɔ* がある）（かみきりむしかこれに似た虫 J），にじ（虹）— rainbow ／*boo seerooni* にじ— rainbow／*xɵktɵ seerooni* 衣服の一種 *xɵktɵ* の肩の部分の模様。

seeroonji-ni v. [perf. *seeroočči-ni*] にじ（虹）がかかる：*agji seeroonjini.* にじがかかる。

seesinji [1] s. [acc. *seesinjimba*] おと— sound.

seesinji [2] s. [acc. *seesinjee*, all. *seesinjitai*] 円錐形小屋のおもな骨組となる先端をたばねた三本の柱にたてかけるか，または夏小屋の棟木などにたてかけて骨組とする多くの棒。

seesinjinji-ni v. [perf. *seesinjičči-ni*] 音がする：*nari giččini seesinjinjini.* 人が歩く音がきこえる。

seetopu G s. 川でさけやますをひっかけてとる道具（*oljee*）。

seetopullee-ni G v. [perf. *seetopulaxa-ni*] *seetopu*（漁具）でひっかけてさかなをとる。

seetosi-ni NGU v. [perf. *seetoči-ni* NG] 魚がばたばたしてあばれる（水からあげたとき）N, となかいがあばれる GU.

seetta s. [acc. *seettamba*] なべややかんのつる。

seexa s. [acc. *seegba, seexxaa*] かぜ（風邪）— cold: *seexa iixɔni.* かぜをひいた。

sɔbdɔ a. いくらかよい：*sɔbdɔ oččini.* （病気の）かれはすこしよくなった。／*sɔbdɔlɔɔ otuxani.* いくらか（だいぶ U）（病気の）かれはよくなった。

sɔbdɔnisi-ni v. [perf. *sɔbdɔniči-ni*] おもしろがる，たのしい（と思う）。

sɔbdɔnji-ni v. [perf. *sɔbdɔčči-ni*] おもしろがる。

sɔbdɔnuuli a. おもしろい— interesting; s. [acc. *sɔbdɔnuullee*].

sɔdɔxi s. [acc. *sɔdɔximbɔ*] ゆか（床）（日本家屋の）— floor.

sɔɔgdɔ a. あか（赤）い— red; s. [acc. *sɔɔgdɔmbɔ*].

sɔɔgdɔnji-ni v. [perf. *sɔɔgdɔčči-ni*] 赤くなる。

sɔɔgduu J s. となかいの反芻胃の部分。

sɔɔkkurɔ NJ s. [acc. *sɔɔkkurrɔɔ* N], *sɔɔkurɔ* G s. カバフトイソツツジ，いそつつじ（巫事にこれをくゆらす）。

sɔɔksɔ s. [acc. *sɔɔksɔɔ*] ち（血）— blood: *xuriga* (または *xuree* J) *sɔɔksɔni* 鼻血 NJ／*sɔɔksɔni xoldoduxa mama* 血が干たばば（閉経の婦人）N.

sɔɔm adv. まっか（真赤）に：*sɔɔm sɔɔgdɔ* まっかっか／*sɔɔm biini.* それはまっかになっている。

sɔɔn s. [acc. *sɔɔmbɔ*] 1.湿地につき出した森のある地；2.針の目：*Sisa sɔɔnjini sɔɔlu kitaa* 日本式の針の目（まるい針の目）のあるはり N／*Luča sɔɔnjini sɔɔlu kitaa* ロシア式の針の目（ほそながい針の目）のあるはり N／*masaari*

səəni おのの柄をさすあな J.

səəpə s. [acc. *səəppəə*] てん (貂) − marten, sable.

səəpəskə s. [acc. *səəpəskəə*] てんの (毛) 皮。

səəri NJ s. [acc. *səərree*] 魚のせぼね NJ, (肉をきりとったあとの) さかなの骨 (干していぬの飼料にする) N, 腰 (*darama*) J, (丸太組みの家屋の) 棟木 J.

səərikku s. [acc. *səərikkөө*] 大きいふくろ (皮製，口はきんちゃくのようにくくる皮ひも (*өmөrө*) がある，衣類，食糧を入れ，となかいやそりにもつける)。

səgdəpəčči-ni v. [perf. *səgdəpəčixə-ni*] 巣のあるあたりで飛び立ったりおりたり何度となくする。

səgǰee-ni v. [perf. *səgdəxə-ni*] と (飛) ぶ− fly: *gasa səgǰeeni.* 鳥が飛ぶ。

səiktə s. [acc. *səiktəə*] 針葉のついた小枝: *waŋita səiktəni* とど松の枝葉／*səiktə əčči̇ni* 針葉と同じ色。

səinə NJ s. [acc. *səinnəə* N] となかいの腸や胃についているあぶら N, となかいの腸の一部 (*nəmdə silokta*) のあぶら J.

səiri-ni v. [perf. *səixə-ni*] し (敷) く: *beewa səiktəǰi səirini.* 座席に針葉のついた小枝をかれは敷く。

səǰə NG s. [acc. *səǰəmbə* N] 機械 (Gはこれは *marisseena* のことで，オルチャ人 (*Maŋbu*) のことばだという。Nは見たことがなくわからないが，機械かと言い，つぎの例文をあげた。*səǰə* の意味には車もふくまれるとみられよう。) [<満 sejen (車)]: *səǰənǰi pulisini.* 車でかれはあるいている。N

səksə adv. よい (宵)，晩− in the evening: *əsi səksə* 今晩− this evening／*səksəə* 晩おそく／*səksəə isuxambi.* 晩おそくにぼくは帰って来た。

səksəə J s. (天にあるという架空の) *nikəə* (となかいなどが歩きまわって地や雪が踏んであるところ): *uǰee səksəəni* 星の群 (南天の銀河の近くにある)。

səksəǰǰi-ni v. [perf. *səksədu̇xə-ni*] 晩になる: *səksədutəə.* 晩になった。／*səksədumi nimmaa ŋəəgdə.* 晩になってもまだあかるい。

səksəni s. よい (宵)，晩− evening: *səksəni səksəni* 毎晩− every evening.

səksəu s. [acc. *səksəumbə*] 夕食 (一日のうちのおもな食事) − the evening meal: *səksəumbəri dəpčiči.* 自分たちの夕食をかれらはたべる。

səktə s. [acc. *səktəmbə*] そりのにもつの外被 (獣皮または魚皮) (そりに敷いてその上ににもつを置いてつつむ)。

sələ s. [acc. *səlləə*] 鉄，金属− iron, metal: *moičča sələni* 銃身／*xai sələǰini andupulaiju̇u.* なんのかねでつくってあるのだろうか。

Səlgeerə s. 人名 (男，*Səəktө* の氏族)，俗称 *Xoto.*

səltə s. [acc. *səltəə*] くびにかけてむねに垂らすかざり (金属製)。

səmbəəri-ni G v. [perf. *səmbəəxə-ni*] いたずらする (こどもが)。

Səmməənu s. 人名 (男，*Warabainneeni* 氏族，大川三郎氏の父)。

sənə s. [acc. *sənnəə*] えら (鰓) − gills.

sənneektə s. [acc. *sənneektəə*] くさそてつ (こごみ) (たべられる J)。

səŋətturə s. [acc. *səŋətturrəə*] 木の一種 (太くも，高くもない，髄 (*xumalda*) がある)。

səŋgərə NGK s. [acc. *səŋgərrəə* N] ねずみ (ものを食べられたりしてはらをたてたときののしって言う N) (Gはこれはオルチャ人 (*Maŋbu*) から入った語だという)。

səŋgərree-ni NJ v. [perf. *səŋgərəxə-ni*] いじめる: *narree səŋgərreeni.* ひとをかれはいじめる。N

səŋgi s. [acc. *səŋgee*, pl. *səŋgisil*] 直系卑属 (こ，まご) の配偶者の直系尊属と (同世代以上の) 傍系男子。男子に対して，傍系者の夫，傍系者の夫・妻の直系尊属・(同世代以上の) 傍系男子，妻の (同世代以上の) 傍系男子，傍系女子の夫− relative by marriage.

səpči-ni v. [perf. *səptuxə-ni*] さびる。

səpəree a. ちくちくするな− (針やとげがささったりして痛むとき)。

səpərisi-ni v. [perf. *səpəriči-ni*] 針やとげがささったりしてちくちく痛い。

səptu s. [acc. *səptөө*] さび (錆) − rust.

sərruučči-ni v. [perf. *sərruučixə-ni*] 目をさまさせる，(ねむっているのを) おこす (何回も U): *auriwani sərruučči̇ni.* かれがねむっているのをかの女がおこす。／*aurakka. sərruučču.* かれはねむっている。目をさまさせろ。

sərruuri-ni U v. [perf. *sərruuxə-ni*] 目をさまさせる，(ねむっているのを) おこす (一回)。

səsi s. [acc. *səsimbə*] 野生となかいのむれ− group of wild reindeer: *sirө səsini* 野生となかいのむれ。

səssi-ni v. [perf. *səsuxə-ni*] たのむ− ask, request／*naritai səssini.* 人にかれはたのむ。／*uttaa səssini.* くつを (つくることを) かれはたのむ。

səsučči-ni v. [perf. *səsučixə-ni*] たのんでいる: *čaa naritai səsučči̇ni.* その人にかれはたのんでいる。／*mөөwө gaannoomi səsučči̇ni.* 水をとりに行くようにかの女はたのんでいる。

sətta NA a. 気のはやる人，はやく歩くとなかい。

səul s. [acc. *səulbə*] まるきぶねのともで使うかじ (舵) のかい。

səulli-ni v. [perf. *səulixə-ni*] 舟でともがいをつかう。

səurə s. [acc. *səurrəə*] 絹織物，絹布，にしき (錦) (むかしはこれを解いた糸で刺

繍をした）－ silk cloth : *səurə kupəni* 絹糸／ *xalada səurə(ni)* 清の朝廷が姓長（族長）に賞賜した絹織物／ *gasanda səurə(ni)* 清の朝廷が郷長に賞賜した絹織物。

səurisi-ni v. [perf. *səuriči-ni*] さびしい（さびしく感ずる）－ feel lonely : *əməəkə bimi səurisini.* かの女はひとりでいてさびしい。

səuruuli a. さびしい－ lonely.

səwə s. [acc. *səwəmbə*] 木偶の神像（屋内で *seesiŋi* に掛けておく）－ idol : *darama səwəni* 腰の神像（さめの椎骨で，腰痛のお守り）／ *bokko səwəni* 腹の神像（小児の腹部がはれる病気のお守り）。

səwəkku s. 病気のおまもり（魚皮やぬのでできている）。

siduli s. [acc. *sidullee*, all. *sidulitəi*] あいぬねぎ，行者にんにく（食用）－ esculent plant.

siduxu NU s. [acc. *siduxumbə* NU, *siduxxəə* U] こけももの実（液果）: *səəgdə siduxu* マスフレップ J／ *siduxum(bə) gatapuri bee* N (*siduxum gatapu beeni* J) 九月－ September.

sigbajjee-ni v. [perf. *sigbadaxa-ni*] かおをしかめる（怒ったときや人をけなすときなどに）: *tari nari sigbadaxani.* その人はかおをしかめた。／ *boččoni sigbajjeeni.* かれのかおがしかめっつらになる。

sigbaŋa s. しかめっつら。

sigbərə NU s. [acc. *sigbərrəə*] 木のなかを食う白い蠕動する虫。

sigdə NJ s. （魚の）背びれ。

sigji-ni v. [perf. *sigjixa-ni*] 髪をとかす。

sigjipu s. [acc. *sigjipumba*] （片歯の）くし（櫛）－ comb.

sii [1] s. [acc. *siiwə*] くき（茎）－ stalk, stem : *orokto siini* 草の茎／ *kurkə siini* 手さげかごの取手の柄（曲がったえだを使う）。

sii [2] pron. [acc. *simbee*, all. *sittəi*] おまえ，きみ，あなた－ you : *siniŋŋi* N. *siniŋi* U pron. [acc. *siniŋŋee* NU] きみのもの／ *sinjee biini.* あんたの方にそれはある。

Sii JU s. : *Sii unini* 敷香川 JU／ *Sii tuwəmjini* 敷香川をオタス，敷香の方へまっすぐ吹いてくる風（西風と北風の間の風） J.

siičči-ni v. [perf. *siičixə-ni*] うなっている（いぬが）。

siigə s. [acc. *siigəmbə*] 耳輪（銀製，女がつける，ウイルタの男はつけない）－ carring : *xurigakki siigəlu* 右の鼻翼にあけたあなから右の鼻孔に通した鼻輪（銀製，ゆびわより小さい）をつけている（女が）。

siigəllee-ni NU v. [perf. *siigəlaxə-ni* N] 耳輪または鼻輪をつける :

miiwəəčimi xurigakki siigəlaxəni. 新生児が無事そだつように自分の鼻へかの女は鼻輪をつけた。N

Siika s. 人名（男，*Səəktə* の氏族，*Kəənə* さんの弟）。

siikə G s. 漁網を縫う糸（たな），漁網の引きづな : *aduli siikəni* 網をぬう糸。

siikpi s. せき（咳）－ cough : *siikpini xooxoni.* かれのせきはなおった。

siikpilli-ni v. [perf. *siikpiluxə-ni*] せ（咳）きはじめる。

siikpipinji-ni v. 一度せきをする，いまはじめてせきをする。

siikpisi-ni v. [perf. *siikpiči-ni*, conv. perf. *siikpigəčči*] せきをしている，せきを何回もする－ cough.

siiləktə J s. [acc. *siiləktəə*] 藻の一種 : *namu siiləktəni* 海の上記の藻 J／ *uni siiləktəni* 川の上記の藻 J.

siiltə s. [acc. *siiltəə*] 胆嚢 : *bəjə siiltəni* くまのい（胆嚢）。

siimbi-ni G v. [perf. *siimbuxa-ni*] 死人をあおむけにねかす（葬るまえに）。

siiməktə s. [acc. *siiməktəə*] はまなす（の類）の木（ばら J），はまなすなどのとげ－ thorn.

siin s. [acc. *siimba*] 氷の下のさかなをつるために川に張った氷にあけた穴。

siinəjji-ni v. [perf. *siinəjixə-ni*] 苦労する，くるしむ－ suffer : *ənumi siinəjjini.* 病気してかれはくるしむ。／ *jobbee bimi siinəjjini.* 貧乏してかれはくるしむ。

siinnəulli-ni U v. [perf. *siinnəulixə-ni*] くるしめる : *čaa narree ənuu siinnəullini.* その人を病気がながいあいだ苦しめている。

siir adv. はや（早）く－ early : *čimai siir təəriwi.* わたしは朝はやくおきる。

siiri-ni v. [perf. *siixə-ni*] 1. とお（通）る（通過する）－ pass : *čakki siimi ŋənəxəni.* そこを通ってかれは行った。／ *čaa dugba siimi suu ŋənəxəni.* その家を通り過ぎて（寄らないで）まっすぐかれは行った。／ *nooni issini əruni siixəni.* あの人が帰って来る（はずの）時が過ぎた。2.（火を）けす（水をかけて）－ put out (a fire) : *tawwaa siirini.* 火をかれは消す。／ *məəji siirini.* 水でかれは消す。

siisəkkee-ni v. [perf. *siisəəxə-ni*] じっとしているときにからだの一部を動かしている（たとえば，話をしながら足を動かしている）: *siisəəmi təəsini.* からだの一部を動かしながらかれはすわっている。

siisullee-ni NG v. [perf. *siisuləxə-ni*] 男が女にひかれて愛撫する : *patala ajataini siisulleeni.* 美しいむすめにかれはひかれて愛撫する。

siiweesi-ni v. [perf. *siiweeči-ni*, conv. perf. *siiweegəčči*] 付着物をとってきれいにする : *kərəktəbi siiweesini.* 自分の歯をかれはきれいにする（歯をみがく）。／ *seembi siiweesini.* 自分の耳をかれはきれいにする（耳あかをとる）。

siiwi NGJ s. [acc. *siiwwee*, all. *siiwitəi* N] 一番下のあばらぼね (人間，くま，となかいなどの): *siiwini girapsani* かれの一番下の肋骨 N.

siiwiptəŋi NG s. [acc. *siiwiptəŋŋee* N] (さかなを) つき通すもの (細い棒，若い枝 (*urəktə*)) (一本へなん匹もえらから口へ通す)。

siiwurə s. [acc. *siiwurrəə*] 巫人がもっている神像 (屋内の上座のすみにおく，つるさない)。

siiwwi-ni NG v. [perf. *siiwixə-ni*] つきとお (通) す，つきさす: *toxxoo kupənji siiwwini*. ぼたんに糸をかの女がとおす。N／*suuraktaa siiwwini*. 玉にかの女は糸をさしこむ。N／*suŋdattaa siiwwini*. さかなにかれは棒をとおす。N／*suŋdattaa ŋaalatakki siiwwini*. さかなを自分の手の各ゆびにかれはさす (一度になん匹も運ぶために)。N

siixə s. [acc. *siigbə*] 漁網についているつな (*xorko*): *aduli siiŋni* 網のつな。(Cf. *siikə* G.)

siji s. さめの一種か: *siji niriktani* この動物の椎骨 (お守りとする)。

sijikta s. [acc. *sijiktaa*] あぶ (虫)。

sijjigakku s. [acc. *sijjigakkoo*] 銃架。

sikkəltə s. やみ夜，a.: *əsi dolbo* (または *səksə*) *sikkəltə*. 今夜 (または今晩) はやみ夜だ。N／*sikkəltə boo* 月や星のない空，くもってやみの空 (*təwweexə boo*) J.

sikkəu G: *sikkəu bee(ni)* 満月のあとのかけた月 (下弦) (月の出もおそくなる)。

sikkəuri-ni v. [perf. *sikkəuxə-ni*] (月が) かける: *bee sikkəuxəni*. 月がかけた。

sikpu [1] A a. 神経がいらだって眠れない，眠らない: *mastaa sikpu*. あそんでいてひどくおそくまでねないなー (眠らないこどもをみて言う): NG s. よる眠っていてもなにかあればすぐ目をさます人 N，眠くない人 (*əsi aamasi nari*) G: *ŋinda sikpuni* いぬのすぐ目をさますの N.

sikpu [2] s. [acc. *sikpəə*] けずり花 (*illau*) のなかのふたご (双子) (*adau*) の巣 (*omo*) (ふたごが死ぬと神像を木でつくってそれをあたまのある木幣 (*ebuski illauni*) のけずり花に入れてもっている)。

silči-ni v. [perf. *siltuxa-ni*] あら (洗) う－ wash: *dərəlbi silčini*. かれはかおを洗う。／*tətukkəə silčini*. きものをかの女は洗う。／*suŋdattaa silčini*. さかなをかの女は洗う。／*siltumusi-ni* v. あら (洗) いたい／*siltoonji-ni* v. あら (洗) わせる。

silčiskə s. [acc. *silčiskəə*] 木 (かば GJ) に生ずる菌類の一種，ほぐち－ a kind of fungi, tinder.

sildunji-ni v. [perf. *silducči-ni*, conv. perf. *sildukkəcči*] ふるえる (寒くて体が) － shiver, tremble: *nuŋjimi sildunjini*. かれは寒くてふるえている。

silə s. [acc. *silləə*] しる (汁) － soup: *suŋdatta siləni*. さかなを煮た汁。

siləpči-ni NG v. [perf. *siləptuxə-ni*] (鉄が) 火で熱せられてあかくなる: *sələ siləpčini*. 鉄が火で熱せられてあかくなる。NG

siləskə s. [acc. *siləskəə*] つゆ (露) － dew.

siləunə s. [acc. *siləunnəə*] かゆ (粥) － gruel: *siləunə buda* かゆ。

siliččee-ni v. [perf. *silitaxa-ni*] あ (編) む (たとえば髪を) － knit: *silitami urpuri* 編んで縫うこと／*illaumba siliččeeni*. 削りかけをかれは編む (病魔をはらうはち巻きの *əəriptu* や胴巻きの *kaami* をつくるのに)。

siliitu s. [acc. *siliittoo*, *siliittəə*] 布製のひも (女の *garu* をしめるのに使われる) (*Maŋbu* にあったという)。

silikta s. [acc. *siliktəə*] みみず，さなだむし: *bokko siliktəni* 回虫。

silita s. [acc. *silittaa*] 髪を長く二本に編む髪の結い方。

sillaa s. [acc. *sillaamba*] はな (花) － flower: *sillaan beeni* 六月 (この月を *daaji sillaa* ともいう) － June.

sillaanji-ni v. [perf. *sillaačči-ni*] さ (咲) く－ bloom: *orokto sillaanjini*. 草が花をひらく。

sillee-ni [1] JU v. [perf. *silaxa-ni* U] (いろ) あせる，くすむ: *busu silleeni*. 布が色あせる。JU／*orokto silleeni*. 草が色あせる。J

sillee-ni [2] v. [perf. *siloxo-ni*] さかなをくしにさしてやく: *suŋdattaa silleeni*. やきぼし (*bukpaa*) をつくるためにさかなをかの女はやく。

silli-ni v. [perf. *silixə-ni*] ほ (干) す，日光にさらす: *bookki sillini*. そとにかの女はほす。

silma s. [acc. *silmaa*] たづな (手綱) (人が手にするつなとこれが結びついているとなかいの頭・鼻に巻いたつな) － reins.

silmasi-ni v. [perf. *silmači-ni*] えら (選) ぶ－ choose, select: *kupəmbə silmasini*. 糸 (の種類) をかの女は選ぶ。

silo s. [acc. *silombo*] くし焼きのさかな (*siločipula suŋdatta*)。

siločči-ni v. [perf. *siločixa-ni*] さかなどをくしにさして焼いている (すぐ食べるのに)，くし焼きにする: *suŋdattaa* (または *ulissəə*) *siloččini*. さかなを (または肉を) かの女はくし焼きにしている。

siloi a. あまり濃くない色の。

silokta s. [acc. *siloktaa*] (人間，けもの，鳥の) 腸－ intestine: *xakpi silokta*, *jiktu silokta*, *nəmdə silokta* となかいの腸の部分の名称 J.

silopu s. [acc. *silopumba*] さかなや肉を焼くくし。

silopullee-ni v. [perf. *silopulaxa-ni*] 焼きぐしにさす：*silopunji silopulleeni.* かの女は焼きぐしでくしさしにする。

silpi-ni v. [perf. *silpixa-ni*] はさんでさげる（たとえばおびに）。

silpima s. [acc. *silpimmaa*] ござ－ straw mat.

siltukku s. [acc. *siltukkoo*] たらい。

siltunjee-ni v. [perf. *siltundaxa-ni*] あら（洗）いに行く。

siltupinji-ni v. [perf. *siltupiččі-ni*] ちょっとゆすぐ。

siltuu G s. [acc. *siltukkɵɵ*] こしにさげるふたのついたもの入れ（樺皮製，通常火打ち道具を入れる）。

simana s. [acc. *simannaa*] ゆき（ふっている雪）－ falling snow.

simanalli-ni v. [perf. *simanaluxa-ni*] ゆきがふりはじめる。

simannee-ni v. [perf. *simanaxa-ni*] 雪がふる：*simana simanneeni.* 雪がふる。／*boo simanneeni.* 雪がふる。／*simanneellaa.* 雪がふるぞ（空模様がわるくなると言う）。／*simana simanneelini.* 雪がふりそうだ。

simatta s. [acc. *simattaa*] ゆき（つもった雪）－ accumulated snow.

simattaŋŋi J s. いぬについて年齢をあらわすのにいう：*geeda simattaŋŋi* 二歳のいぬ／*dɵɵrɵ simattaŋŋi* 三歳のいぬ／*ilaalta simattaŋŋi* 四歳のいぬ／*joolto simattaŋŋi* 十一歳のいぬ。

simbojjee-ni U v. [perf. *simbodoxo-ni*] 脱げる（くつ，くつしたが）：*uttabi simbodoxoni.* ぼくのくつが脱げた。

simbolli-ni U v. [perf. *simbolixa-ni*] 脱ぐ（一回）：*tari nari pəruubi simbolixani.* その人はパンツを脱いだ。／*ŋinda xalabi simbolixani.* いぬが自分のくび輪をはずした。

simbossi-ni U v. [perf. *simbosuxa-ni*] 脱ぐ（何回も）：*ŋinda xallaa simbossini.* いぬがくび輪をなん度もはずす。

simiččі-ni v. [perf. *simičixa-ni*] す（吸）う－ suck：*suŋdatta iddɔɔni simiččini.* さかなの脳みそをかれはすう（食べるとき）。

simiktu NG s. [acc. *simiktoo*, all. *simiktutai* N] ふくろうの一種（羽角はない G）－ owl：*xuree*（または *xurigɔ*）*simiktu* ふくろうの一種（小さい）G.

simiptu J s. みみずく－ owl.

simmi-ni v. [perf. *simixa-ni*] す（吸）う－ suck：*kɵɵmbɵ simmini.* 幼児がちちを吸う。／*xumamba simmini.* 幼児が（ちちの代わりに）骨髄を吸う。

simmoonji-ni v. [perf. *simmoočči-ni*, conv. perf. *simmookkačči*] けんぺきをとらせる（血を口ですって）。

simmɵɵčči-ni v. [perf. *simmɵɵčixɔ-ni*] ささやく（小声で言う）：*seenjeellaa*（または *dooljillaa*）*simmɵɵčču.* きこえるから（またはほかの人が聞くから）小声で言え。

simuksɔ s. [acc. *simuksɔɔ*] あぶら（油）（この語はあまり使わず，油については普通 *ilda* の語を使うという）。

simurɔ s. [acc. *simurɔmbɔ*] となかいの骨や腱をとろ火で煮てとるあぶら（食べる）（あざらしについてはいわない）。

sina NG s. [acc. *sinamba* N] はい松のかげ（陰）N，はい松のわき（*xoldo*）G：*boita sinani* はい松のかげ N.

sinakta s. [acc. *sinaktaa*] け（毛）（かみのけ，ひげを除く人間の体毛，けだものの毛）－ hair, fur：*sinakta busuni.* 毛織物。

sinasa s. [acc. *sinassaa*] なめし皮製きゃはん（*xarapsami garu*）や下ばき（*pəruu*）にとなかいのくびの下の毛（*ŋiiwəltə*）を腱（*sumu*）やより糸（*tokpo*）で縫いつけたもの。

sinasallee-ni v. [acc. *sinasalaxa-ni*] 夫の死んだ妻が髪を編まずに垂らす。

sinaska s. [acc. *sinaskaa*] やなぎなどの樹木の内皮（樹皮の内側の皮）。

sinasuu s. [acc. *sinasukkoo*] 細く長いほうちょう（小刀）（さかなを切って切身にする，またとなかい・あざらしの肉を切る，*sauri* をつくるために *miiktə* などの低木をけずるのにも使う，（刃が左側にあり JU）ウイルタが鍛冶してつくったという）。

sinɔktə NG s. [acc. *sinɔktɔɔ* N] *sɔŋɔtturə*（木）の実 G，木に生ずる液果の一種 N.

sinɔktəlduu G s. 小さい黒い鳥（*sɔŋɔtturə* の実（黒い）を食う）。

sinələsi-ni v. [perf. *sinələči-ni*]（液果を）とっている（人間は普通 *gatasini* という）：*sinɔktɔɔ sinələsini.*（ねずみが）液果をとっている。

sinəllee-ni v. [perf. *sinələxɔ-ni*] 液果をとりに行く（人間以外のねずみなどが）。

sinəlli-ni v. [perf. *sinəlixɔ-ni*] は（剥）ぐ（一回）－ peel off：*talloo sinəllini.* しらかばの皮をかれははぐ。／*kumultə munəskəəni sinəllini.* スキーのうらにはりつけてある毛皮をかれははぐ。

sini s. [acc. *sinnee*, all. *sinitɔi*] えり（襟）－ collar：*nattama sini* 皮製のえり／*busuma sini* 布製のえり。

sinjau NJ s. [acc. *sinjaumba* N] とうがらし（この語を知っているが自分は使わないという NJ，老人が使う N）。

sinjee-ni v. [perf. *sindaxa-ni*] く（来）る－ come：*andaxa sinjeeni.* 客が来る。

sinnee-ni v. [perf. *sinɔxɔ-ni*] は（剥）ぐ（何回もたくさん）－ peel off：*sinaskaa*

sinneeni. やなぎなどの木の内側の皮をかれははぐ。

sinni-ni v. [perf. *sinuxə-ni*] (ほっちゃりますなどの) 生の魚皮をはぐ (これを利用するためではない): *sugboo sinnini*. さかなの皮をかれははぐ。

sinu s. [acc. *sinnoo*] した (舌) − tongue.

siŋdaŋa a. (鼻が) つぶれている: *xurigan(i) siŋdaŋa*. あの人の鼻はつぶれている (あの人は鼻つぶれだ) (ばかにして言う)。

siŋǰi a. くさい (この語は述語として使う): *siŋǰi məətəlləu*. くさい，すてろ。／*siŋǰi dappau*. くさい，つかまえろ。／*siŋǰee*. くさいなー。

siŋǰisi-ni NU v. [perf. *siŋǰiči-ni*, conv. perf. *siŋǰigačči* N] くさい (動物の体のにおい，よいにおいでない U): *koliga siŋǰisini*. 虫の体のにおいがくさい。U

siŋǰuuli [1] NU a. くさい: *siŋǰuuli koliga* くさい虫 N.

siŋǰuuli [2] s. [acc. *siŋǰuullee*, all. *siŋǰuulitəi*] 虫の一種 (げじげじか，くさい) (人が以前住んでいたところにいる G)。

siparri-ni v. [perf. *siparixa-ni*] いざる (尻を地につけながら進む): *uraǰǰi siparrini*. かれは (自分の) しりでいざる。J

sipirri-ni v. [perf. *sipirixa-ni*] しぼる (ぬれたものを) − wring out: *čikpaxamba sipirrini*. ぬれたのをかの女はしぼる。

sipsii s. [acc. *sipsiiwa*] 昆虫の一種 (直翅類)。

siračči-ni v. [perf. *siračixa-ni*] 継ぎたす (何回も)，継ぎたしている: *xəəgbə siraččini*. あざらしの皮のひもをかれはつぎたす。／*tokpoo siračixani*. 糸をかの女はつぎたした。

sirə GJ s. 仕掛け弓のかぎから張られたひも (これにかわうそなどねらうけものが接触してひっぱると矢が発射される)。

sirədəə NU adv. げらげら (笑うさま): *sirədəə inəsini*. (ばかにして) げらげらかれ (おとな) は笑う。U

sirəktə s. [acc. *sirəktəə*] 布の毛ばだった繊維: *busu sirəktəni* 布の毛ばだった繊維。

siri s. [acc. *sirimba*] 海辺の土地，草 (*orokto*) もあるが，地は砂 (*xonokto*) であるところ。

siriččee-ni v. [perf. *siritaxa-ni*] かくしたままにしている。

sirikaačči-ni v. [perf. *sirikaačixa-ni*] かくれんぼをしてあそぶ。

sirimi NJ s. [acc. *sirimmee* N] まえうでの骨 (人間やあざらしの) N，てくび J: *ŋaala sirimini* まえうでの骨 N.

sirki-ni v. [perf. *sirkixa-ni*] せなかがかゆいときなどにほかのものにこする: *bəjəbi sirkini*. (かゆいとき柱に) 自分のからだをかれはこする。U／*mootoi sirkini*. 木へかれはこする。U

sirolonǰi-ni v. [perf. *siroločči-ni*] 鳥が交尾する: *gasa sirolonǰini*. 鳥が交尾する。

siromusi-ni NG v. [acc. *siromuči-ni* N] いぬ (めす G) が発情している。

siroo s. [acc. *siroombo*] くまの子− bear cub.

sirə [1] s. [acc. *sirəə*] やすり − file.

sirə [2] s. [acc. *sirəmbə*] 野生となかい− wild reindeer.

sirəgbi s. [acc. *sirəgbee*] おやゆびと人さしゆびとの間をいっぱいにひろげた長さ (長さの尺度)。

sirəskə s. [acc. *sirəskəə*] 野生となかいの皮。

sirpau s. 仕事がなにもできない人 (女なら針仕事もできない女)。

sirree-ni [1] v. [perf. *siraxa-ni*] つ (接) ぎたす− piece together: *kupəmbə sirreeni*. 糸をかの女はつぎたす。／*tokpoo siraxani*. ひもをかれはつぎたした。

sirree-ni [2] v. [perf. *siroxo-ni*] 交尾する，姦通する: *ŋinda sirreeni*. いぬが交尾する。／*sirree nari*. 不義をおこなう人。

sirree-ni [3] v. [perf. *sirəxə-ni*] やすりです (擦) る: *kučigəmbə sirəxəni*. 小刀をかれはやすりで擦った。

sirri-ni [1] v. [perf. *sirixa-ni*] 1. かく (隠) れる− hide oneself: *nari sirrini*. 人が隠れる。2. つ (注) ぐ− pour: *arakkee sirrini*. 酒をかれはつぐ。／*čaiwa čaaskatai sirrini*. 茶を茶碗へかの女は注ぐ。

sirri-ni [2] v. [perf. *siruxə-ni*] さ (裂) く− tear: *bussoo sirrini*. きれをかの女は裂く。

siru s. [acc. *sirumbə*] いぬのしらみ: *ŋinda siruni* いぬのしらみ。

siručči-ni v. [perf. *siručixə-ni*] さ (裂) く (何回も)，めちゃくちゃに裂く: *siručigəčči məətələxəni*. かれは裂いてすてた。

sirui J a. あばれる: *sirui ulaa* あばれるとなかい。

siruktə s. [acc. *siruktəə*] あり (蟻) − ant.

sirumukta s. [acc. *sirumuktaa*] まつげ (睫) − eyelash.

sirupinǰi-ni v. [perf. *sirupičči-ni*] ちょっと裂く。

Sisa s. [acc. *Sisamba*] 日本人，和人− Japanese [<ア sisam].

sisammee-ni U v. [perf. *sisamaxa-ni*] 日本人の店へ買物に行く。

sisandairi-ni U v. [perf. *sisandaixa-ni*] 日本語をつかう，日本語を話す。

sisi s. [acc. *sissee*, all. *sisitai*] らくよう (落葉) 松，グイまつ，からまつ− larch.

sisənǰi-ni v. [perf. *sisəčči-ni*, conv. perf. *sisəkkəčči*] 足をのばす: *bəjəbi sisənǰini.* 自分の足をかれはのばす。

sisəəčči-ni v. [perf. *sisəəčixə-ni*] ずーっとすべりおりる。

sisəəllee-ni v. [perf. *sisəələxə-ni*] すべりおりる (一回): *čakki sisəəlleeni.* そこからかれは一度すべりおりる。

sisəənǰi-ni v. [perf. *sisəəčči-ni*, conv. perf. *sisəəkkəčči*] すべりおりる (そりやスキーで高いところから)。

sitəri a. あたらしい: *sitəri moo* わか木。

sitəu a. あたらしい－ new [ant. *goropči*]; s. [acc. *sitəkkəə, sitəumbə*].

sittoo s. [acc. *sittokkoo*] (日本の) たる (樽) － barrel [<ア sintoko].

siwakta s. [acc. *siwaktaa*] 草の一種 (海岸にある)。

Soddoi N s. [acc. *Soddoiwa*], *Sodoi* G s. 初問 (ショドイ) (初問川沿岸): *Soddoi unini* 初問川 (幌内川下流右岸の支流)。

soddooki s. [acc. *soddookkee*] 食器を入れるはこ [<ロ судок].

sokčee-ni v. [perf. *soktoxo-ni*] よ (酔) う－ get drunk: *soktoxonnee* s. [acc. *soktoxonneepa*] 酔っぱらい (*soktoxo nari*)。

sokkina NU s. [acc. *sokkinnaa* N] 布製の外套 N, チョッキ (そでなし) U [<ロ сукно (ラシャ)]。

soktoččee-ni v. [perf. *soktotoxo-ni*] よっぱらっている。

soktoonǰi-ni v. [perf. *soktoočči-ni*] にご (濁) る (水がどろで) － become muddy: *məə soktoonǰini.* 水がにごる。

solgeexa s. [acc. *solgeexxaa*] 布の一種 (厚く，めがあらい)。

soli s. [acc. *solimba*] こけももの実，黒ゆりの根，すじこ (干したのをまた水にひたしてつぶしたの)，こまかくした魚のやきぼし (*bukpaa*) やあざらしの油をまぜてつくった食べもの。

soljikta NJ s. [acc. *soljiktaa* N] 草の一種 (大きい川の岸にある N，茎をかわをむいて食べる GU，くまが好む G)。

soljinnee s. 俗人 (巫人でない人) (巫者の用語という)。

sollee s. [acc. *solleepa*] かわかみ (川上) の方－ the upper part of a river [ant. *xəǰǰee*]: *soloi* 川上へ－ upstream.

sollee-ni v. [perf. *soloxo-ni*] 川上へのぼる－ go up-stream: *ugda unnee solleeni.* ふねが川をのぼる。

soloǰǰi-ni G v. [perf. *soloduxa-ni*] 川上へのぼる。

soluu s. 川上 [ant. *xəduu*]: *soluu duxu* 川上の家／ *soluu omoo* 川上の湖／ *soluu uniga* 川上の小さい川。

somiččee-ni v. [perf. *somitaxa-ni*] し (閉) めておく: *uttəə somiččeenii.* 戸をかれはしめてあるか。

somičči-ni v. [perf. *somičixa-ni*] し (閉) める (何回も)，しばらくの間しめている。

somilbi-ni v. [perf. *somilbixa-ni*] すわるとき下着のすそをととのえる。

somilbičči-ni v. [perf. *somilbičixa-ni*] すわるとき衣服のすそを足にまとわせる (何回も): *ulbaaxubi somilbiččini.* かの女は自分の下着のすその乱れをなんどもなおす。

sominǰee-ni v. [perf. *somindaxa-ni*] し (閉) めに行く。

sommi-ni v. [perf. *somixa-ni*] し (閉) める－ close, shut: *uttəə sommu.* 戸をしめろ。／ *somimusi-ni* v. し (閉) めたい／ *sommoonǰi-ni* v. [perf. *sommoočči-ni*] し (閉) めさせる。

sommoonni-ni v. し (閉) めさせに行く。

soo NK s. はし (端): *xotto sooni* 町はずれ K／ *isal sooni* 目じり N／ *isalbi sooǰini iččeeni.* 横目でかれは見る。N

soŋŋee-ni v. [perf. *soŋoxo-ni*] な (泣) く－ cry, weep.

soŋomoo a. 泣きたいよー。

soŋopinǰi-ni G v. [perf. *soŋopiččči-ni*] わっと泣く。

soogdo a. だいだいいろの N，きいろい JK，みどりの K－ orange or yellow; s. [acc. *soogdombo*].

soogdonǰi-ni v. [perf. *soogdočči-ni*] *soogdo* (きいろ) になる。

sook: *sook sook ŋoosini.* くんくんそれ (くま，いぬ) が嗅いでいる。

soollee-ni J v. [perf. *sooloxo-ni*] 水をくむ (一回)。

soondoo NJ s. [acc. *soondoombo* N] となかいの一歳のおす (歩くようになってからのものをいう) G，となかいの当歳のおす，めす N，となかいの一歳 (春生まれて翌年の春まで) のおす，めす J－ fawn.

soono s. [acc. *soonnoo*] 戸口 (*utə*) のつく柱 NG (円錐形家屋に柱は3本あるが，Jによれば2本か3本あり，このすべてを *soono* という) － pillar.

Soopiga s. 人名 (女) [<ロ Софья].

sooppo NJ s. [acc. *sooppombo* N] 鼻のあな (*xuriga saŋani*): *sooppo ačikta* 鼻のあなのようなあなのあいた金属小片のすそかざり N.

soopu s. [acc. *soopumba*] ふねのあかくみ。

soori-ni v. [perf. *sooxo-ni*] く (汲) む－ scoop (water): *məə(wə) soorini.* 水をかれは汲む。／ *ərəŋəči soowuri.* こういうように汲むんだ (教えるとき言う)。

soorri-ni v. [perf. *soorixa-ni*] おやからはなれたとなかいの *soondoo* がおやをさ

がす。

sorila NU a. いつもけんかをする；s. いつもけんかする人：*sorila nari* いつもけんかする人 U／*tari nari sorila.* あの人はいつもけんかする。U

sorilli-ni v. [perf. *soriluxa-ni*] けんかをはじめる：*asitakki soriluxani.* 自分の妻とかれはけんかをはじめた。

sorimačči-ni v. [perf. *sorimačixa-ni*] 互いにけんかする：*sorimačči či.* かれらは互いにけんかをする。

sorimusi-ni v. [perf. *sorimuči-ni*] けんかをしたい。

sorkee-ni v. [perf. *sorkoxo-ni*] *sorko* (刺し方の縫い目の一種) をつくる：*sorkomi urpuri* クロスヘリンボンステッチ。

sorko s. [acc. *sorkoo*] 刺繍の刺し方の縫い目の一種 (クロスヘリンボンステッチ)。

soroǰee a. はじめてか久しぶりに会った人への挨拶のことば (述語としてつかわれる) − How do you do?：*soroǰee nariwaa.* はじめまして。お久しぶり。／*soroǰee puttəə.* おめでとう (生まれた子へ言う)。

soroǰisi-ni v. [perf. *soroǰiči-ni*] *soroǰee* と挨拶する − greet.

soroǰuuli a. めでたい：*puttə balǰini soroǰuuli.* こどもが生まれるのはおめでたい。

sorpo s. [acc. *sorpoo*] (N は *ǰorpo* s. [acc. *ǰorpombo* (あるいは *ǰorpooか*)] という語形を示したこともある) 食物を入れる手さげ容器 (樺皮製，容器の外側には樺皮の表面を出し，内側に樺皮の裏面を向ける，模様はつけない，*kurkə* より大きい，さかな・肉などを入れる)。

sorri-ni v. [perf. *sorixa-ni*] けんかする − quarrel：*sorruri* けんか − quarrel／*asitakki sorrini.* かれは妻とけんかする。

soso s. [acc. *sosombo*] 下痢 − diarrhoea：*soso oktoni* 下痢のくすり N／*mimbee soso waarini.* わたしは下痢でまいる。U

sosoi a. いつも下痢している；s. [acc. *sosoimba, sosokkee*]：*tari puttə sosoi.* そのこどもはいつも下痢している。

sossee-ni v. [perf. *sosoxo-ni*] 下痢する。

sotori N s. [acc. *sotorree*] , *sottori* GJ s. タオル。

səgdədəə adv. けむりが出ているさま：*səgdədəə biini.* けむりが出ている。

Səksəənu NG s. [acc. *Səksəənumbə* N] 昔話に出る強い視力をもつ人物 (男) (母が妊娠中たかの目を食べて生まれた)。

səmmee-ni NU, *summee-ni* U v. [perf. *səməxə-ni* NU, *sumuxə-ni* U] (あぶらを) つける，ぬる (皮がかたくなったときや鉄砲のさび止めに) NU, 色をつける (布や糸に木の皮で) U：*ildaǰi səmmeeni.* あぶらをかれはぬる。N／*bussoo* (または *kupəmbə*) *səmmeeni.* 布 (または糸) にかの女は色をつける。U

səmməəki s. [acc. *səmməəkkee*] 銃の遊底 [< ロ замок] .

səəksə s. [acc. *səəksəə*] しめて結ぶ皮ひも：*kumultə səəksəni* スキーの上に足をくくりつける皮ひも／*utta səəksəni* 長ぐつのあしくび (*kigəli*) をしばる皮ひも。

səəktə J s. 草の一種 (とくさ)。

Səəktə s. [acc. *Səəktəmbə*]：*Səəktə xottoni* 敷香町 (Поронайск) − Poronaisk／*Səəktə unini* 幌内川 (正しくは敷香川か) ／*Daaji Səəktə* ウイルタ族の氏族の一つである *Warabainneeni* − clan name／*Nuuči Səəktə* ウイルタ族の氏族の一つ，この氏族は野生となかい (*sirə*) から生まれたという，日本姓は中川 (ただし，Jによれば，この氏族を *Taldaawu Səəktə* とよび，*Nuuči Səəktə* は *Naiputunneeni* をさすという) − clan name.

səən s. [acc. *səəmbə*] 外套 (となかいの毛皮製，男子用) − fur overcoat.

səənə NJ s. [acc. *səənnəə*] 足のかかとの上の箇所。

səərisi-ni v. [perf. *śəəriči-ni*] 冷える，すずしい (秋さむくなるまえ) − get cool.

səəruuli a. すずしい (秋になって) − cool.

səssəučči-ni v. [perf. *səssəučixə-ni*] 見送る − see off：*ŋənneewəni səssəučči ni.* かれはほかの人が行くのを見送る。

sučči-ni NU v. [perf. *sutuxə-ni*] つっつく，つっつかれる：*ačirai isaltai iigəčči sučči ni.* ごみが目に入ってちくちくさす。U／*isal sučči ni.* (ごみが入って) 目がちくちくする。U

sučči a. 妊娠している (となかいが) − pregnant (reindeer)：*sučči ulaa* 妊娠しているとなかい。

sučipi J s. となかいぞりの台木の最後部 (左右の台木はそれぞれ一本の木でできている)。

suduwə G s. 山地の平地への突出部。

sugbi s. [acc. *sugbimbə*] 蒸気，けむり − smoke, steam, vapour：*tawa sugbini* 火のけむり N／*ənuwə sugbini* なべの湯気 N／*simatta sugbini* そりの走るときおこすゆきけむり J.

sugbinǰi-ni v. [perf. *sugbiči-ni*] 湯気をたてる，けむりを出す (くすぶる) − steam (evaporate) , smolder：*čaanikka sugbinǰini.* やかんが湯気をたてる。／*naa sugbinǰini.* 地がかげろうをたてる。／*tawa sugbinǰini.* たきびがくすぶる。

sugbu s. [acc. *sugboo*, all. *sugbutai*] さかなのかわ (皮) − fish skin：*sugbuma*

a. 魚皮製の。

sugǰi-ni v. [perf. *sugǰixə-ni*] 死者に供える (家のなかや墓で): *dəppee sugǰini.* たべものをかの女は供える。M

sugǰičči-ni NU v. [perf. *sugǰičixə-ni* N] 死者に供えている。

suixə s. 海獣の一種 (せいうち G), そのきばを得れば幸運のさずかりもの (*baijaakki*)。

suǰi J s. 目じり: *isal suǰini* 目じり。

suksu NJ s. [acc. *suksəə*, all. *suksutəi* N], *səksə* G s. たか (鷹) NJ, はやぶさ, くまたか G.

sukta a. ふか (深) い (水 (*məə*) や雪が) − deep [ant. *paaji*]; s. [acc. *suktaa*]: *simatta sukta.* 雪が深い。

sula: *sula sula* やっと／ *sulaa* やっとこさ／ *sulaa jobomi isuxambi.* やっとのことでおれは苦労して帰って来た。

sulčiktə s. [acc. *sulčiktəə*] 耳輪についている円筒形の石。

suli s. [acc. *sullee*, all. *sulitai*] きつね− fox, むかしばなし (*təəluŋu*) によるときつねは化ける (化けても尾と小指はそのままのこる G)。

suliska s. [acc. *suliskaa*] きつねの (毛) 皮。

sulli-ni NG v. [perf. *sulixə-ni*] とがらす: *moo sullini.* 棒をかれはけずってとがらす。G

suluktu a. とがった− sharp-pointed.

suluŋ adv. とがったさま: *ǰilini suluŋ suluŋ očči.* それのあたまはとがっている。

sumala s. [acc. *sumalamba*] ふくろ (南京袋) [<満 sumala] (この語は母や老人が使うが自分は使わずかわりに *missookki* という N)。

summi-ni v. [perf. *sumuxa-ni*] (魚が) はねる。

sumnee-ni v. [perf. *sumnaxa-ni*] ふねを川のながれでながれないようにつなぐ (木につな (*tokpo*, *xəəxə*) でしばりつける): *sumnauri tokpo* ふねをつなぐつな／ *ugdaa sumneeni.* ふねをかれはつなぐ。

sumu s. [acc. *summəə*] 腱− tendon.

sumučči-ni U v. [perf. *sumučixə-ni*] (あぶらを) つ (付) けている, ぬっている (たとえば鉄砲に): *ildaǰi sumučixəni.* あぶらをかれはぬっていた。

sumulta s. [acc. *sumultaa*] スキー (うらに毛皮をはってある) − ski.

sumunasi-ni v. [perf. *sumunači-ni*] (魚が) なんどもはねる: *geeda suŋdatta sumunasini.* 一匹の魚が何度もはねる。／ *bara suŋdatta sumunasini.* たくさんの魚がはねる。

sunaa s. [acc. *sunaamba*] いぬのくびにつけて引くつな, いぬのくび輪 (*xala*) と

いぬがそりを引く別のつな (*nuksu*) をつなぐつな。

sunaambi-ni v. [perf. *sunaambixa-ni*] つな (*sunaa*) をいぬのくびにつける。

suŋdammee-ni G v. [perf. *suŋdamaxa-ni*] かぎ (*taasuma*) を使ってのさかなとりに行く。

suŋdatta s. [acc. *suŋdattaa*] さかな, うお (魚) − fish.

suŋnee a. ばちがあたるぞー, あとがたた (祟) るぞー。

suŋni NU s. [acc. *suŋnigba* N] ばちのあたること N, 縁起のわるいこと U: *suŋnigbani əǰǰee kəəndə.* ばちのあたることをしゃべるな (死んだ人のことを)。N

suŋnisi-ni NU v. [perf. *suŋniči-ni* U] ばちがあたるおそれがある: *suŋnimi xoǰixani.* かれはばちがあたるからやめた。N

suŋnuuli NU a. ばちがあたる (死んだ人, 非常に高齢の人 (*xoǰimi sagdanduxa nari*) や巫者の名を言うとばちがあたるという) N, 縁起がわるい U:〔言い習わし〕 *buččinnee gəlbəəni uppee suŋnuuli.* 死んだ人の名を言ったら縁起がわるい。U

suŋučči-ni NU v. [perf. *suŋučixə-ni* N] うなされる U: *aumi suŋuččini.* ねていてかの女はうなされる。U

suŋunǰi-ni v. [perf. *suŋučči-ni*, conv. perf. *suŋukkəčči*] こお (凍) る, 凍える − freeze: *suŋdatta suŋunǰini.* さかなが凍る。N／ *uni suŋunǰini.* 川がこおる。N／ *nari suŋundəkkə.* 人が凍えている (体全体が)。U

sup adv.; *kučigə pujəni sup biini.* 小刀のきずが長くある (長いきずあとのあるさま)。

sura s. [acc. *surraa*] のみ (蚤) − flea.

surpakta GJ s. うまの尾の毛 (てんのわなのいとに用いる) (ロシヤ人から入手した G)。

surri-ni NGU v. [perf. *suruxa-ni*] 水がしみる: *tətuwə suruxani.* 着物が水がしみてびっしょりになった。U

surunnee-ni v. [perf. *surunaxa-ni*] ふるえる (体が自然に) − shiver, tremble: *sama surunneeni.* 巫者の体がふるえる (うたう (*jaajjee*) とき)。

sutta s. [acc. *suttaa*] きば (牙) (とどやくまにある J) − fang, tusk.

suu[1] pron. [acc. *sumbeepə*] おまえたち, きみたち, あなたがた− you [pl.]: *sunuŋŋi* N, *sunuŋi* U pron. [acc. *sunuŋŋee* NU] きみたちのもの。

suu[2] NJ s. [acc. *suu-wa* N] 身長 J, 成人 N: *nari suuni* おとなのせい (身のたけ) J／ *nari suuwani aaptuxani.* 成人にかれは達した。N

suu[3] adv. 立ち寄らずにまっすぐ通りすぎて (行くさま): *suu ŋənneeni.* まっすぐ

立ち寄らずにかれは行く。／*jəkki suu ŋənəxəni.* ここをまっすぐ通りすぎてかれは行った。／*jəkki suu ŋənnəu.* ここをまっすぐ通って行け。

Suu s.: *Suu naani* 南の地方 (南樺太) ／ *Sagǰi Suu* GJ, *Sagǰi Suu unini* G, *Daaji Sagǰi Suu* N 幌内川 (この川は女性 (*əəktə*) G) − Poronai river.

Suudəri s. 人名 (男, *Waaleetta* 氏族), *niŋmaa* を上手に演じた。

suuji J s. つむじかぜ, たつまき: *suuji xəduni* 突風 N, たつまき J.

suuk suuk すすり泣きの音: *suuk suuk soŋŋeeni.* すすりながらかの女は泣く。

suukkučči-ni v. [perf. *suukkučixa-ni*] はなみずをすする (何回も)。

suukkullee-ni v. [perf. *suukkulaxa-ni*] はなみずをすする (一回)。

suukkuručči-ni v. [perf. *suukkuručixa-ni*, conv. perf. *suukkuručigačči*] すすり泣く。

suukpi-ni v. [perf. *suukpixə-ni*] (さけ・ます・あめますなどのあたまをとって干したものから) 魚皮をはぐ (これを利用するために)。

suukpičči-ni v. [perf. *suukpičixə-ni*] はじいてのける (なにかの先で) (何回も)。

suukpillee-ni N v. [perf. *suukpiləxə-ni*], *suukpəllee-ni* U v. [perf. *suukpələxə-ni*] はじいてのける (一回): *mooǰi suukpilleeni.* 棒で (きたないものを) かの女ははじいてのける。N

suuli J s. となかいの背。

suullee-ni v. [perf. *suuləxə-ni*] くさりのように縫う: *suuləmi urpuri* チェーンステッチ (鎖縫い)。

suulli-ni NG v. [perf. *suulixə-ni*] かきまわす N, 魚のおすが精子を卵子にまぜ合わせる G: *solimba suullini. soli* (料理の一種) をかの女はかきまわしてつくる。N

suum(uk)kə s. [acc. *suum(uk)kəə*] 銃弾を入れる肩かけカバン (となかいのすねの毛皮となめし皮でつくる) [< ロ сумка].

suun s. [acc. *suumbə*] 太陽 − sun: *suunǰee* s. [acc. *suunǰeepə*] ひがし (東) (日の出る方) N − east, みなみ (南) J − south ／ *suun agbinǰeeni* 東 J − east ／ *suun buǰini.* 太陽が死ぬ (日食がおこるの意)。N ／ 〔言い伝え〕 *goropčidu suun buǰiduni dəə masaari činimbəni paačimi xuriččinindaa.* むかしは日食がおこると二つのまさかりの刃の背と背を打ってたすけている (のだった) という。N

suunə s. [acc. *suunnəə*] 日光 − sunshine: *suunə inəŋi* はれの日 N ／ *suunə suunnəəkkə.* 日が照っていい天気だ。N ／ *suunə xuwəlinduǰǰini.* 日がくれる。U ／ *suunə maŋga.* 晴天で暑い, または暖かい。G ／ *suunə maŋgaanii.* 晴天で暑い (または暖かい) なー。G

suunǰi-ni NJ v. [perf. *suučči-ni*, conv. perf. *suukkačči*] 気をうしなう。

suunnee-ni v. [perf. *suunəxə-ni*] て (照) る (太陽が) − shine: *suun suunneeni.* 日が照る。／ *suunə suunneeni.* 日光が輝く。

suuppačči-ni NJ v. [perf. *suuppačixa-ni*] てんかんの発作をときどきおこす: *suuppačči* NJ s. [acc. *suuppaččiwa* N] てんかんもち。

suuppi-ni v. [perf. *suupuxa-ni*] スープ (*suupu*) をつくる。

suupu s. [acc. *suuppoo*] 米すこしに (とり, 野生となかい, さかなどの) 肉を入れて煮たどろどろしたかゆのような食べもの, スープ [< ロ суп]: *gasa suupuni* とり肉スープ／ *tuksa suupuni* うさぎ肉スープ／ *suuppoo umixani* (*dəptuxəni* U). スープをかれはのんだ (たべた U)。

suurakta s. [acc. *suuraktaa*] 装身具についている球形の石, 玉。

suurə a. 運のいい: *suurə nari* 運のいいひと (野生となかいにぱったり出会って捕ったような人 U)。

suuri-ni v. [perf. *suuxa-ni*] しばる, しばりつける − bind: *əmuwə suuptaŋini* ゆりかごに幼子を入れてしばりつけるもの (となかいのなめし皮のひも) ／ *puttəbi əmuwəkki suurini.* 自分のこどもをゆりかごにかれはくくりつける。／ *oksootoi suurini.* (にもつを) そりにかれはしばりつける。

suwagda s. [acc. *suwagdaa*] 樹木の一種。

suwaiba s. [acc. *suwaibbaa*] 婚礼の御馳走 − wedding dinner [< ロ свадьба].

Suwaikka s. 人名 (女, *Wasilai* さんの後妻)。

suwakta s. [acc. *suwaktaa*] 海辺の土地 (*siri*) にはえる草 (よもぎの一種 I)。

suwal NU s. [acc. *suwalba*] や (くさび) U, のみ (工具) N − chisel.

suwə [1] s. [acc. *suwəmbə*] (木, えだ, くさの) さき (先端) − point, tip.

suwə [2] NG s. [acc. *suwəmbə, sukkəə* N] となかいの当歳のおす N, となかいの幼いおす G: *suwə soondoo* となかいの一歳 (春生まれて翌年春まで) のおす J.

suwərikku NJ s. [acc. *suwərikkəə* N] 火かき棒 (デレッキ): *tawa suwərikkuni* 火かき棒 N.

suwərri-ni v. [perf. *suwərixə-ni*] 火をかきまわす: *tawwaa suwərrini.* 火をかれはかきまわす。

t

taa adv.: *taa xaŋŋee osu.* そこをよけなさい。

taaččee-ni v. [perf. *taataxa-ni*] ひっかかっている: *moolo taaččeeni.* それは木にひっかかっている。／*jəkki taaččeeni.* それはここへひっかかっている。

taagda a. しろ (白) い− white; s. [acc. *taagdamba*].

taagdakta s. [acc. *taagdaktaa*] かぎ (*taasuma*) で魚をとるとき水底におく白いもの: *isal taagdaktani* しろめ (白目) (眼球の白い部分) NJ.

taaji s. [acc. *taakkee*, pl. *taajil* G, *taajinil*] ある女子に対して，生まれた氏族 (父系) 内の傍系の女子− (for a female) aunt, sister, cousin (female), niece.

taajji-ni v. [perf. *taajixa-ni*] かじる (人間についてこの語は使わない): *ŋinda taajjini.* いぬがかじる (骨などかたいものをかじって食う)。

taak G adv. 気ままに，自由に: *məənə taak tuccini.* 自分で気ままに (くまが) うごく。

taakpisi-ni v. [perf. *taakpiči-ni*] いつかみたことがあるとおもう，知っていたことを思い出してあらためて知る: *čaa narree taakpisini.* その人をかれはいつかみたことがあるようにおもう。

taalčee-ni U v. [perf. *taaltaxa-ni*] 熱した鉄をうってきたえる (鍛冶): *səlləə taalčeeni.* (熱い) 鉄をかれはうつ。

taan(i) part. でしょう，だろう: *ŋənneen taani.* かれは行くでしょう。／*ŋənəxən taani.* かれは行ったんだろう。／*sini uttasi taani.* おまえのくつだべ。／*əri taani.* これでしょう。／*xudəuli taani.* 重いでしょう (重いものをもっている人に言う)，重いだろう。／*tari nari waaril taani.* その人は (えものを) とるだろう。／*sinjeenidda taani.* かれは来るかもしれない。

taanji-ni v. [perf. *taačči-ni*] ふ (踏) む，なにかの上にあがってあるく，立ってあるく (はっていたこどもがはじめて)。

taapa s. [acc. *taapamba*] つめ (爪) (わしやふくろうなどの) − talon.

taapačči-ni v. [perf. *taapačixa-ni*] つめでつかむ (何回も)。

taapallee-ni v. [perf. *taapalaxa-ni*] つめでつかむ (わし (*gusi*) などが)。

taapu s. [acc. *taapumba*] スキー (*kumultə*) のおもて中央に樺皮をにかわ (*kamdu*) ではりつけた足をおくところ。

taapučika U s. [acc. *taapučikkaa*] 屋内ではくくつ (*Maŋbu* 人から入ったもの

G) [< ロ тапочка].

taara s. [acc. *taarraa*] たわら (俵) [< 日 たわら]: *buda taarani* こめだわら。

taari-ni v. [perf. *taaxa-ni*] 1. ひっかかる: *nari mootoi taaxani.* 人が木にひっかかった (きものがひっかかった)。N／*utta səəksəni taarini.* くつのひもが木か草にひっかかる。U; 2. いぬが交尾する: *ŋinda taaxani.* いぬが交尾した。N

taassi-ni v. [perf. *taasuxa-ni*] ふ (踏) む，足をかける (のせる) (何回も)。

taasuma s. [acc. *taasummaa*] 魚をとる金属製のかぎ (鉤)，またはこのかぎがさきについている棒をあわせた総体 (マレップ G) (かぎにはあざらしの皮ひもがついており，水底に木でつくった白いものをおいてその上に来た魚をそのひもを引いてとる) − fishhook.

taatari pron. [acc. *taatawa*] あれ (遠くの)，あの− that: *taatadu* あそこに− over there／*taatari nari* あの人。

taatawwee s. [acc. *taatawweepa*] ずっと遠いあそこ− that way: *taatawasai* ずっとあちらへ− there (thither).

taawoonji-ni U v. [perf. *taawoočči-ni*] ひっかける: *ugdaa taawooččimbi.* 舟をおれはひっかけた (浅いところへ行ってひっかかった)。／*tari nari ločokkoo taawooččini.* その人はつりばりをひっかけた (魚をつっているうちに木にひっかかった)。

taawulli-ni v. [perf. *taawulixa-ni*] (火が) つく，(火を) つける− light, kindle: *tawa taawulixani.* 火がついた。／*taluji tawwaa taawullini.* しらかばの皮で火をかれはつける。

taawwi-ni v. [perf. *taawuxa-ni*] (ボタンや皮ひも (*səəksə*) を) つける，点火する: *toxxoo taawwu.* ボタンをつけろ。／*saŋnamba taawwini.* たばこにかれは火をつける。／*ixərrəə taawwini.* かの女はあかりをつける。

taččee-ni v. [perf. *tataxa-ni*] は (張) る: *palaačikkaa səəksəji taččeeni.* 天幕を皮ひもでかれはひっぱる。U

tačči-ni v. [perf. *tačixa-ni*] 習慣になる，な (慣) れる，なら (習) う− become accustomed to, learn: *uiləkkəə tačixani.* 仕事にかれは慣れた。／*nimərimjee tačixani.* あそびに行っていてかれは (あそびに行くことが) くせになった。／*bičixxəə taččini.* 字をかれは習う。

taččoonji-ni NU v. [perf. *taččoočči-ni* U] 習わせる。

tada s. [acc. *taddaa*] やじり。

tagdaččee-ni v. [perf. *tagdataxa-ni*] いつまでも怒っている。

tagdanasi-ni v. [perf. *tagdanači-ni*] 怒っている。

tagjee-ni v. [perf. *tagdaxa-ni*] おこ (怒) る N− get angry; 勃起する (*tutuu*

tagǰeeni) G.

tagǰinǰi-ni v. [perf. *tagǰičči-ni*] ひっぱってさく：*narree tagǰinǰini.* ひとの着ているものをかれはひっぱってさく (けんかのときに)。NU

taik G adv. がやがや (さわいでいるさま)。

taiǰi s. [acc. *taiǰimba*] (なにかをひっかけてとる) かぎ (とびぐちのかぎのような)。

taixunǰi s. [acc. *taixunǰee*] 海神 (魚や海獣をつくった)：〔言い伝え〕 *taixunǰiduu suŋdatta sinǰeeni.* 魚は海神から来る (といわれる)。

tak：*uiləmǰee tak tak oččini.* かれははたらいていて (仕事に) なれた。

takkaačči-ni v. [perf. *takkaačixa-ni*] お手玉をしてあそぶ。

takkaaptu s. [acc. *takkaaptumba*] お手玉 (石や木でつくる)。

takkurajǰi-ni U v. [perf. *takkuraduxa-ni*] まえに仕事をやめた人をまた使う。

takkuramǰi s. [acc. *takkuramǰee*] 使用人－employee, servant.

takkurree-ni v. [perf. *takkuraxa-ni*] つか (使) う－use, employ：*narree takkurreeni.* 人を (若い人を U) かれはつかう。N／*alukkoo takkurreeni.* 入れものをかの女は (大事に U) つかう。N／*čaammee takkurrau.* 茶碗をつかえ。U／*xaǰunǰi takkurreeni.* 道具をかれはつかう。N／*xaǰumbi takkurreeni.* 自分の道具をかれはつかう。U

taktoočči-ni v. [perf. *taktoočixa-ni*] 棒を手のうらおもてにのせかえてあそぶ。

taktoopu s. [acc. *taktoopumba*] 手のひら，手の甲にのせかえてあそぶ棒。

taktukki-ni v. [perf. *taktuuxa-ni*] くちごたえをする。

taktuumačči-ni NG v. [perf. *taktuumačixa-ni*] くちげんかをする。

talaa s. [acc. *talakkaa*] さかな，獣肉のさしみ－slice of raw fish or meat.

talaapči NJ s. となかいのふくらはぎの肉 (さしみにして食べる) N：*talaapči ulisəni* となかいのこむらの肉 (*dajaptu*) J.

talakkaunǰi-ni U v. [perf. *talakkaučči-ni*] さしみにつくらせる。

talakkee-ni U v. [perf. *talaaxa-ni*] さしみにする：*suŋdattaa* (または *ǰimdaa*) *talakkee-ni.* さかなを (またはうぐいを) かれはさしみにする。

taldaa s. [acc. *taldaamba*] まんなか－middle：*taldaakki umulu nari* 自分の (体の) まんなかにおびをしめている人 (現世界の人間，まんなかの国のひとだからまんなかにしめる)。

taldaawu a. まんなかの，s. [acc. *taldaakkoo*] なかゆび－middle finger：*taldaawu naa* まんなかの国 (現世界) ／*taldaawu nari* まんなかの国のひと (現世界の人間) ／*taldaawunnee* s. 兄弟の三番目。

taljee s. [acc. *taljee-pa*, *taljip-pa*, dat. *taljǰi-nu*, loc. *taljee-la*, *taljǰi-la*, prol.

taljee-kki, *taljǰi-kki*] 沖：*namu taljeeni* 海の沖／*jəə taljinu biini.* この沖にそれはある。／*jəə taljeepa pulisini.* この沖を (あざらしや舟が) 行く。／*taljippa pulisini.* 沖をそれが行く。／*taisai* 沖の方へ／*tari nari taisai kargeeni.* その人は沖の方をのぞむ。

talli-ni v. [perf. *talixa-ni*]：*agǰi tallini.* いなびかりがする。－Lightning flashes.

talu s. [acc. *talloo*] しらかばの樹皮－birch bark.

tama s. [acc. *tamamba*] ねだん－price.

tamačiga a. そのような－such；s. [acc. *tamačikkaa*].

tamajǰi-ni v. [perf. *tamaduxa-ni*] 支払う (金，食料を)，支払ってかえす：*naŋdaxambi tamajǰini.* 自分が借りたものをかれは返済する。

tamamasi-ni v. [perf. *tamamači-ni*] 支払ってほしい：*naŋdalli tamamasini.* 借り (借りたもの) をかれは返済してほしいと望む。

tammee-ni v. [perf. *tamaxa-ni*] 支払う－pay：*naŋdabi tammeeni.* 借りをかれが支払う。／*gaččimbi tammeeni.* 自分の買ったものの代金をかれは支払う。／*gumaskaǰi tammeeni.* かれはかねで払う。

tamna s. [acc. *tamnaa*] きり (霧)，濃霧－fog.

tamnaŋi J s. うすい霧。

tamnaska NJ s. [acc. *tamnaskaa* N] 霧のけむり，きれぎれの霧 NJ，火のけむり (*tawa tamnaskani*) N.

tamnee-ni U v. [perf. *tamnaxa-ni*] ガス (霧) がかかる：*boo tamneeni.* ガスがかかる。

tana s. ボタン (*toxo*) (のことだという) [＜満 tana (真珠)]。

tananǰi-ni v. [perf. *tanačči-ni*] うば (奪) う－rob：*nariŋŋee tananǰini.* 他人のものをかれは奪う。

taŋgadaččee-ni v. [perf. *taŋgadataxa-ni*] こまっている。

taŋgajǰee-ni v. [perf. *taŋgadaxa-ni*] こま (困) る－be troubled.

taŋgamǰi, *taŋgam* adv. こまっているさま：*taŋgam joboxoni.* かれは苦労して困った。U／*taŋgam taŋgadaxani.* ひどくかれは困ってしまった。N／*xaijitamidda taŋgamǰi.* どうしたらいいか困った。NU／*tari nari əsi čadu taŋgamǰi.* あの人がいまそこで困っている。NU

taŋgu num. [acc. *taŋgoo*] 百 －hundred：(*geeda*) *taŋgu geeda* 百一 －one hundred and one／(*geeda*) *taŋgu dəə* 百二 －one hundred and two／(*geeda*) *taŋgu ilaa* 百三 －one hundred and three／(*geeda*) *taŋgu joon* 百十 －one hundred and ten／(*geeda*) *taŋgu joon geeda* 百十一 －one hundred and eleven／(*geeda*) *taŋgu joon dəə* 百十二 －one hundred and

twelve／(*geeda*) *taŋgu xori* 百二十 － one hundred and twenty／(*geeda*) *taŋgu ilaandoo* 百三十 － one hundred and thirty／*dөө taŋgu* 二百 － two hundred.

taŋičči-ni v. [perf. *taŋičixa-ni*] かたきうちをする：*uilta kuujjee taŋičimi waaxani.* ウイルタはアイヌをかたきうちして殺した。

taŋmee-ni NU v. [perf. *taŋmaxa-ni* N] 体の一部がおもうように動かなくなる(たとえば，すわったままいて立てなくなる，体をよこむきにしてねていて起きられなくなる)：*bəgǰibi taŋmaxani.* おれの足がおもうように動かなくなった。NU

tap adv. かすめて(矢や銃弾がかすって，少しきずつけて)：*xasakkeeni tap ŋənəxəni.* それの羽をかすめて(胴体をそれて)たまが通り過ぎた。

tapičči-ni NU v. [perf. *tapičixa-ni*] 鍛冶をおこなう N，鍛冶の際赤い鉄を水に入れる U － forge.

tapil NJ s. [acc. *tapilba* N] ほや(海の動物)。

tapsai a. うるさい(わずらわしい，たとえば，酔った人が)：*tapsajee.* うるさいなー。／*əri nalmaktal tapsajee.* この蚊どもはうるさいなー。

tapsaisi-ni U v. [perf. *tapsaiči-ni*] うるさい(うるさく感じられる)：*puttə tapsaisini.* こどもがうるさい(親が言う)。／*ŋinda tapsaisini.* いぬ(のなきごえ)がうるさい。

tapsaiwuli a. うるさい(わずらわしい，面倒な) － annoying：*tapsaiwuli nari* うるさい人(あーだこーだ言ったり，人と争ったりする)。

taptanǰi-ni v. [perf. *taptačči-ni*] (とりが)はばたく。

taralisi-ni v. [perf. *taraliči-ni*] まぶしく感じる － be dazzled.

taraluuli a. まぶしい － dazzling：*suun taraluuli.* 太陽がまぶしい。

taraŋači adv. そのように － like that：*taraŋači andusu.* そういう様につくれ。

tarbaki s. [acc. *tarbakkee*] となかいのなめし皮製の五本ゆびの手袋。

targa s. [acc. *targaa*] おっとせい － fur seal.

tari pron. [acc. *čawa*] それ，その － it, that [pl. *taril*, acc. *tarilba*, *čalba*, pl. *tarisal*, acc. *tarisalba* その人たち，かれら － they]：*čadu* そこに N － there／*čaŋassee* adv. そのとき(*təəli*) G／*tarinnee* s. [acc. *tarinneepa*, *čanneepa*] その人，かれ － he [pl. *tarinneel*, acc. *tarinneelba* その人たち，かれら － they].

tarpi N s., *talpi* U s. [acc. *talpee*] 上脚の外側(ものの外側)(むかし右の *tarpi* にはさやに入れた小刀をさげていた N)。

tarri-ni v. [perf. *tarixa-ni*] と(溶)かす(なべに入れたりして)：*ildaa tarrini.* あぶらをかの女はとかす。

tasuri G s. (アイヌの)なた(鉈)[<ア tasiro].

Tataari s. 人名(男，*Sөөktө* の氏族)。

tatačče-ni v. [perf. *tatataxa-ni*] 張って(または吊って)そのままにしている：*tokpoǰi tatačče-ni.* ひもでかの女は張ったままにしている(干しものを)。U

tatačči-ni v. [perf. *tatačixa-ni*] 長い間張っている：*xəəgǰi* (または *tokpoǰi*) *tataččini.* となかいの皮ひもを(または糸を)かれは張っている。N／*nattaa tataččini.* 皮をかれは張っている(なま皮を張ってのばす(*təlleeni*)とき)。U

tattuučči-ni v. [perf. *tattuučixa-ni*] 慣らしている，教えている，習わせている － accustom one to：*bičixxəə tattuučču-ri duxu* 学校 － school／*ulaaba tattuučči-ni.* となかいをかれは慣らしている(そりにはじめてつけるのに)。／*tattuučči nari* 先生(老人しか言わない)。

tattuuri-ni v. [perf. *tattuuxa-ni*] おし(教)える：*ulaaba tattuurini.* となかいにかれは教える。

Tau s. 北知床(この地名は *taummeeni* の語に由来するという G)：*Tau naani* 北知床半島／*Tau duwəni* 北知床岬 － Cape Patience.

taubu s. 布の一種(厚く，めがあらい)。

taučči-ni v. [perf. *taučixa-ni*] 修繕する － mend, repair：*saŋŋaa taučči-ni.* あなをかの女は直す(針仕事で)。／*oksoobi taučči-ni.* 自分のそりをかれはなおす。

taujǰi-ni v. [perf. *tauduxa-ni*] なおす：*tətukkəə taujǰini.* きものをかの女はなおす(きものをへたに縫ったのをなおす，大きければちぢめる)。

taulli-ni v. [perf. *tauluxa-ni*] 火事になる。

taulloonǰi-ni U v. [perf. *taulloočči-ni*] 火事をおこす。

taulu s. [acc. *taulloo*] 火事 － fire (conflagration).

taummee-ni G v. あざらしをとりに行く。

taun s. [acc. *taumba*] 勘定(計算)：*nari tauni* 皆 G／*nari taumbani kəənǰini.* 皆の人のことをかれは話す。N

taundačče-ni v. [perf. *taundataxa-ni*] 修繕しに行って来る。

tauničče-ni v. [perf. *taunitaxa-ni*] 勘定しに行って来る：*tari nari tauniččeeni.* その人は勘定しに行って途中まで帰って来ている。

taunǰi-ni v. [perf. *taučči-ni*] かぞ(数)える，よ(読)む － count, read：*bičixxəə taunǰini.* 手紙をかれは読む。

taunni-ni v. 勘定しに行く。

tauŋ adv. ドン(太鼓(*daali*)のおと)：*tauŋ tauŋ* ドンドン。

tawa s. [acc. *tawwaa*] 火，たきび(囲炉裏火)(家のたきびの世話は嫁に行った人やほかの氏族の人がしてはならない U) － fire.

tawal s. [acc. *tawalba*] おやゆびとなかゆびとの間をいっぱいにひろげた長さ (長さの尺度)。

tawalamǰi s. [acc. *tawalamǰee*] 蛾 (夜たきびに来る) − moth.

tawalli-ni v. [perf. *tawalixa-ni*] おやゆびとなかゆびの間の長さではかる。

tawannee-ni NG v. [perf. *tawanaxa-ni*] (目や口から) 火が出る。

tawanneeni s.: *geeda tawanneeni* 一つかまどの人，同一の家 (*duxu*) から生まれた人，同一氏族 (*xala*) の人／*daaji tawanneeni* 大きい火の人，*nuuči tawanneeni* 小さい火の人。この二者は同一氏族のなかの区分，両者の間では婚姻はおこなわれない。

tawaptu s. たき火 (*tawa*) (巫者の用語)。

tawwee s. [acc. *tawweepa*] そちらの方− that way: *tawwee nari* そちらの人／*tamačču* そこから，それから− from there, then／*tawasai* そこへ，そちらへ − that way, there (thither) ／*taukki* ずっと遠く／*taukki biini.* むこうにそれはいる。／*nimmaa taukki.* まだ遠くだ。

taxakka s. [acc. *taxakkaa*] かに− crab.

təčči-ni v. [perf. *tətuxə-ni*] き (着) る，はく (くつを) − wear, put on: *čaa səəmbə təttu.* その外套を着ろ。／*bəgǰikki uttabi tətuxəni.* 足に自分のくつをかれははいた。

tədə a. ほんとう (本当) の− true; s. [acc. *təddəə*]: *tədə kəsə* うそでないことば／*təddəə kəənǰini.* 本当のことをかれは話す。／*təddəə* 本当だ，本当に− truly／*təddəə daaji.* ほんとうに大きい。／*tədəddəə* または *təddəəddəə* 本当だ。

tədəssi-ni v. [perf. *tədəsixə-ni*] 信ずる− believe: *kəənǰiwəni tədəsixəni.* 他の人が言うことをかれは信じた。／*tədəsimi dooljixani.* かれは本当だと思って聞いた。

tədunǰi-ni NG v. [perf. *tədučči-ni*] くまの皮をはぐ− skin (a bear): *bəjəmbə tədunǰini.* くま (の皮) をかれははぐ。N

təəkku s. [acc. *təəkkəə*] すわるところ，すわるもの (ざぶとん，こしかけ) − seat, chair.

təəkkullee-ni v. [perf. *təəkkuləxə-ni*] こしかける，ざぶとんにすわる。

təəli adv. そのとき: *təəli taraŋači uččini.* そのときそのようにかれは言った。／*sii təəli taraŋači uttəsee.* おまえはそのときそのように言ったよ。

təəlli-ni v. [perf. *təəluxə-ni*] すわりはじめる。

təəluŋŋi-ni NU v. [perf. *təəluŋuxə-ni* N] むかしばなし (*təəluŋu*) を語る (または，語れる)，過去にあったこと (言い伝え，昔のこと，自分の経験など) を語る。

təəluŋu s. [acc. *təəluŋŋəə*] むかしばなし，伝説，言い伝え (ウイルタ族の口頭文芸のジャンルの一つ，これは実話と考えられている) − tradition, legend.

təəluŋučči-ni v. [perf. *təəluŋučixə-ni*] むかしばなしをいろいろ語る。

Təəmə G s.: *Təəmə unini* テイミ (Тымь) 川 (この川は男性 (*xusə*) であるという)。

təəmǰu a. おとなしい (人): *təəmǰu nari* おとなしい人。

təəmu NJ s. 海，川 (巫者の用語という) J, 水の主 (*məə ədəni*) N: *təəmuttəi waarini.* 水のぬしに (となかいを) かれは殺してささげる (病気をなおすために)。J

təəmunneeni G s. 海の神 (水のなかにいる，*məəkkeenneeni* ともいう，*təəmunneeni* は巫人の用語)。

təən s. [acc. *təəmbə*] すそ，衣服の下はじ: *tətuwə təəni* きもののすそ／*xurigə təəni* 山のすそ。

təənənǰi s. [acc. *təənənǰee*] くも (蜘蛛) − spider.

təəp adv. 水のしたたる音: *təəp təəp sabǰeeni.* ぽちぽちそれはしたたる。

təəpči-ni v. [perf. *təəptuxə-ni*] すわ (坐) れる，(たとえば巫者が大巫者 (*daaji sama*) となって) おさまる。

təəri-ni v. [perf. *təəxə-ni*] すわる，こしかける，おきる− sit, sit down, sit up (in bed): *moo mugdəənduni təərini.* 木のかぶにかれはこしかける。／*illeepimi miirəkkəčči bultai təəxəni.* 三回めによめに行って (三度めの結婚で) かの女はおちついた。／*apaačigačči təəxəni* (または *təəduxəni*) . かれはよこになっていておきた。

təəsi-ni v. [perf. *təəči-ni*] すわっている− sit.

təəwə s. [acc. *təəwəə*] にもつ (荷物): *oksoo təəwəni* となかいぞりの荷物／*ugda təəwəni* ふねの荷物。

təəwəlləə-ni v. [perf. *təəwələxə-ni*] にもつをつむ: *oksoo təəwəə təəwələxəni.* となかいぞりがにもつをつんだ。

təəwwi-ni v. [perf. *təəwuxə-ni*] お (起) こす− raise up: *puttəbi təəwuxəni.* 自分のこどもをかれは起こした。／*auriwani təəwwini.* ほかの人がねているのをかれがおこす。／*tuuxəmbəni təəwwini.* ほかの人がころんだのをかれがおこす。

təəxə NGJ: *təəxə xəduni* 風名 N，北からの風 G，あいやませ (北風 (*tuwəmǰi*) とやませ (*toŋdo koŋgori*) の中間の方向からの風，オタスヘタライカの方から吹く) J.

təgdəənǰi-ni v. [perf. *təgdəəčči-ni*] 一心不乱におこなう: *təgdəəmi uilleeni.* か

れは一生懸命に働く。

təiččee-ni U v. [perf. *təitəxə-ni*] 着て（しまって）いる，着用している：*tətukkəə təiččeeni.* 服をかれは着ている。／*uttaa təitəxəni.* くつをかれははいていた。

təiǰǰi-ni v. [perf. *təiduxə-ni*] き（着）る，はく（くつを）－ wear, put on：*tətukki təiǰǰini.* かれは自分のきものを着る。／*uttabi təiǰǰini.* かれは自分のくつをはく。

təilə NG s. 両手でかかえるふとさ（ふとさの尺度）：*dəə təiləŋəčee bii moowo baaxambi.* ふたかかえほどある木をぼくはみつけた。G

təǰǰee-ni v. [perf. *tədəxə-ni*] 信用する，本当とおもう：*samamba əsiči təddəə.* 巫者をかれらは信用しない。／*kəənǰiwəni tədəxəni.* かれの話すことをかの女は信用した。／*tədəmi dooljini.* 本当とおもってかれはきく。

təkkə s. [acc. *təkkəmbə*] 1.（土中の）ね（根），ねっこ－ root：*pokto təkkəni* 道のはじまるもと／*balǰixani təkkəni* かれの出自（氏族）；2.みち（*pokto*）（頻繁に行き来して通る地面 G）。

təkkərə s. [acc. *təkkərrəə*] 弦楽器（馬の毛１本の１弦，弓でひく G）（ニブフのもの，ウイルタにはない）。[＜ニ＜満 tenggeri]

təktəkku s. [acc. *təktəkkəə*] はし（橋）－ bridge.

təktəs adv. ぷっつり：*təktəs čigalixani.* ぷっつりかれは切った。

təlbəəni a. きたない（よごれて）（この語は述語として使う）：*təlbəəni məətəlləu.* きたない，すてろ。／*təlbəənee.* きたないなー。

təlbəənisi-ni NU v. [perf. *təlbəəniči-ni* U] よごれてきたない：*nari təlbəənisini.*（ある）ひとがきたない。N／*mooǰi təlbəənimi suukpilleeni.* 棒でかの女はきたないと思ってはじいてのける。N

təlbəənuuli a. きたない－ dirty：*təlbəənuuli busu* きたない布。

təldəu G s.：*bəjə təldəuni* くまがさかなを食う場所。

tələpu s. [acc. *tələpumbə*] 獣皮を張る木のわく（なまの獣皮をかわかし，のばすために張る）。

təli s. [acc. *təllee*] さかなの切身（なまのもほしたのもいう）（*čaččabi, jaawu, mauri, bukpaa* などをまとめていう）。

təlǰee-ni v. [perf. *təldəxə-ni*] さかなのはらをさいて臓物をとりのぞく。

təllee-ni v. [perf. *tələxə-ni*] なまの獣皮をわくに張ってのばす－ stretch raw hide in a frame：*nattaa təlleeni.* 皮をかれは張ってのばす。

təlli-ni v. [perf. *təlixə-ni*] さかなをさ（裂）く（*čaččabi, mauri, kəpčəənu* をつくるために），*təli* をつくる：*suŋdattaa təllini.* さかなをかれは裂く。／*təlluri*

bee さかなを裂く月（*tuulimən beeni* と同じ月をさす）。

təmbuktə s. [acc. *təmbuktəə*] みみたぶ－ ear-lobe, まぶた－ eyelid：*seen təmbuktəni* 耳たぶ－ ear-lobe／*isal təmbuktəni* まぶた－ eyelid.

təmirri-ni NU v. [perf. *təmirixə-ni*] さわ（触）る：*xusənnee əəktənneepə təmirixəni.* 男が女の体にさわった。U

təmmə s. [acc. *təmməə*] 1.松の実の肉；2.はしけ，伝馬船（かいでこぐ小さいふね，大きなふねから上陸するとき使う）[＜日 てんま（伝馬）]。

tənəə adv. 一番，もっとも－ most, 一番さきに：*tənəə uliŋga* 一番いい－ best／*tənəə orki* 一番わるい－ worst／*puttə əsi tənəə baljini.* こどもがいますぐ生まれる。／*tənəə dulləə* 一番さきに。

təni s. [acc. *tənnee*] 敷皮（となかいの頭の毛皮などでつくる，屋内で敷いてすわるのに使うほか，となかいの鞍に敷く）。

təŋ adv. まっすぐに：*jəkki təŋ ŋənnəu.* ここをまっすぐ行け。

təŋbee-ni J v. [perf. *təŋbəxə-ni*] 両手で水か油の容器をさげる。

təŋgəm adv. あらわれているさま：*uilə təŋgəm biini.* 上にぽかっとそれは出ている。

təŋgəŋə NJU a. 長い（くびが）：*moŋoni təŋgəŋə.*（とりの）くびが長い。NU／*təŋgəŋə apči* くびが長いかも（鳥） JU.

təŋŋəə ただ（の），たった（の）：*təŋŋəə geeda* ただ一つ／*təŋŋəə geeda nari* たったひとりの人。

təpəmǰi G, *tə(p)pəm* N adv. 無事に（事なく）：*tə(p)pəmǰi gaduroo.* うまく持っていけよ（たとえば茶碗をこぼさないように）。G／*təpəm biini.* ひとが無事元気でいる。N／*təpədəə gituttaari.* ちゃんと（まわりのものをこわさないように）歩け。N

təpəu a. わるい（*orki*），s.：*təpəu nari* ろくでない人，わるい人／*xai təpəuni*（*nari*）*biiləkkə.* なんだかわるい，あまりいい人でないな。／*təpəunǰi əpsiǰǰini.* 粗末にかれ（ら）は葬る。

təppee-ni v. [perf. *təpəxə-ni*] きらう（*gallini*）：*xaimi təppeenigə.* どうしてかれはきらうか。

tərəl(ik)kə s. [acc. *tərəl(ik)kəə*] 大きいさら（皿）－ plate [＜ロ тарелка]。

tərkə s. [acc. *tərkəə*] 板製の舟（ニブフ人がつくって使う）－ boat.

tərkičči-ni NG v. [perf. *tərkičixə-ni*] まさかりの背で（*masaari činiǰini*）木の幹を打つ（木がうつろ（*kəəŋə*）かどうかみるために）。

təru s. おないどしの人，同年者：*mini tərumbi nari* わたしと同じとしの人。

təs adv. ぷっつりと（切断されるさま）：*təs xətudəxəni.* ぷっつりそれはきれた。

təskəktə s. [acc. *təskəktəə*] 手くびの突起，足くびの突起 (くるぶし) − ankle.
təsusi-ni v. [perf. *təsuči-ni*] ひろ (拾) いあつめる，拾う − gather, pick up : *xəəlčimbi təsusini.* 自分がこぼしたのをかれは拾いあつめる (*buda* あるいは *siduxu* を)。
tətənǰi-ni NU v. [perf. *tətəčči-ni* N] いくらしてもできない，できなくてやめる : *dapaitami tətənǰini.* いくらつかもうとしてもかれはつかめない。N／*allaumi tətənǰini.* 教えてもわからなくかれはあきらめる。N／*ŋootomi tətənǰini.* いくらすもうをとってもかれは敗けてやめる。N／*əuriitəm tətəččini.* いくらもちあげようとしてもかれはあげられなかった。U
tətəptəŋi G s. からげてあるもの (仕掛け弓の矢につけてあるひもの一方の末端が台木がとりつけてある棒にからげてある部分)。
təttəənǰi-ni v. [perf. *təttəəčči-ni*] 着させる。
təttuučči-ni v. [perf. *təttuučixə-ni*] 着せている。
təttuuri-ni v. [perf. *təttuuxə-ni*] 着せる (人に，嫁に行く人に，死人に)。
tətuččee-ni v. [perf. *tətutəxə-ni*] 着てそのまま着ている : *tətuwəčči tətuččeeni.* 着てかの女はそのまま着ている。／*tətutəxəni.* かの女は着ていた (すでにぬいだが着ていたあとがあるときなどに言う)。
tətuwə N s. [acc. *tətukkəə*] , *tətəə* U s. きもの − clothing, clothes.
təuktə NGJU s. [acc. *təuktəə* N] 水たまり (やち (*dətu*), 小さいやち (*dətəə*), 森 (*mooso*) にあり，水が湧いている N，水は湧いていない U，雨水がたまっている G)。
təuŋǰee-ni v. [perf. *təuŋdəxə-ni*] 積みに行く。
təuri-ni v. [perf. *təuxə-ni*] つ (詰) める，つ (積) む : *puutaattai təurini.* ふくろへかれはつめる。／*təəwwəə oksootoi təurini.* にもつをそりへかれはつむ。／*muxallee təurini.* かれはたまをつめる。／*moiččambi təurini.* 自分の銃にかれは (たまを) こめる。
təuru s. [acc. *təurumbə*] たきびのなかのはい (灰) : *tawa təuruni* たき火のなかの灰。
təusi NGJ s. 白い金属 (ニッケルか)。
təwəskə s. [acc. *təwəskəə*] くも (雲) − cloud.
təwweegəčči-ni G v. [perf. *təwweegəčixə-ni*] くもったり晴れたりする。
təwweeri-ni v. [perf. *təwweexə-ni*] くも (曇) る − become cloudy : *boo təwweerini.* そらが曇る。
toikta s. [acc. *toiktaa*] (海の) 巻貝 (食用)。
toi-ni NGJ v. [perf. *točči-ni* N] 1. (なにか) する ; 2. 性交をする : *jəwə toini.* これをかれはする。N／*taraŋači toini.* そういう風にかれはする。N／*xaiwa toiniga.* なにをかれはやっているのだろうか (またはなにをかれはたずねているか)。この問いに対するこたえはたとえば *pəgbirəbi gələǰǰini.* (自分のスキーのつえをかれは探している。) または *poktoo panusini.* (道をかれはたずねている。) N／*xoon toiwiga.* どうすればいいか (こまったときの自問)。N／*xoon towwuriga.* どうするか (こまったとき言う)。N／*xamarreela gabuǰǰi toilami.* あとで買おうかな。G／*əsini too.* かれはしない。N

Tokčipu s. [acc. *Tokčipumba*] 十号 (野頃と尾曽の間の地点，番屋があった)。
tokkee-ni v. [perf. *tokkoxo-ni*] 川の氷にあなをあけてふくろのついたあみを入れ，さかなをとる。
tokko s. [acc. *tokkoo*] 川の氷にあなをあけて入れる漁網 (ふくろがついている，川上に氷のあなをたくさんあけて棒でついて，さかな (よあかし，ふな，もっきり) を追い立ててとる)。
tokojooči a. ちぢれている : *niruktəni tokojooči.* かの女の髪はちぢれている。
tokpee-ni v. [perf. *tokpoxo-ni*] よ (縒) る (動物の腱や麻を) (皮を縫うために) ; な (綯) う (縄を) : *tokpomi urpuri* 撚るように縫うこと (アウトラインステッチ，線縫い) ／ *tokpomusi-ni* v. よ (縒) りたい／ *tokpounǰi-ni* v. よ (縒) らせる。
tokpo s. [acc. *tokpoo*] いと (糸) (よ (撚) ってある)，ひも，つな (な (綯) ってある) − string, cord, twine.
tokponǰee-ni v. [perf. *tokpondoxo-ni*] よ (縒) りに行く。
tokpotu U s. [acc. *tokpottoo*] 魚網のいと。
toktodoo adv. 片目で : *toktodoo kargeeni.* かれは片目でみわたす。
toktoǰǰee-ni v. [perf. *toktodoxo-ni*] 目がつぶれる : *isal toktodoxoni.* 目がつぶれた。
toktoo a. 片方の目がない (みえない，つぶれた) ; s. [acc. *toktokkoo*] 片目の人 : *toktoo nari* 片目の人／*isal toktoo.* 目が片方みえない。
toktoumačči-ni v. [perf. *toktoumačixa-ni*] 約束する − promise.
toktouri-ni v. [perf. *toktouxa-ni*] きめる − decide : *ugdaa gabuǰǰi toktouxani.* ふねを買うことにかれはきめた。／*əəktəə gabuǰǰi toktouxani.* よめをもらうことにかれはきめた。
tolči s. [acc. *tolčimba*] ゆめ − dream.
tolčičči-ni v. [perf. *tolčičixa-ni*] ゆめをみる − dream : *tolčimba tolčičixani.* かれはゆめをみた。
tolčinǰi-ni v. [perf. *tolčičči-ni*] ゆめをみる (この語は巫人についてしか使わな

い)。

toldokpinǰi-ni v. [perf. *toldokpiččі-ni*, conv.perf. *toldokpikkačči*] つまづく: *toldokpimi tuuxəni.* つまづいてかれはころんだ。

toli s. [acc. *tolimba*] 金属製の円形物 (おもてはたいら，うらは虫・魔物 (*amba*) のような文様があり，つまみがついていて，*Maŋbu* のものという，これは *xaddau* 神が射た (*garpaxani*) ものといい，また，巫者が口から吐いた (*xussee*) ものが固まったものという，本来，鏡であろう) [< 蒙 toli(n) (鏡)，満 toli]。

tolimuu s. [acc. *tolimukkoo*] 骨のさきのまるい部分。

tolo s. [acc. *tolombo*] かえるのたまご: *udala toloni* かえるのたまご。

tombollee-ni U v. [perf. *tomboloxo-ni*] 水中に (海，川のなかに) おちる (たとえば舟から)。

too int. はしれ (そりを引くいぬへはしらせるとき言う): *too too* はしれ。

toŋdo a. まっすぐな，ただ (正) しい，正直な－ straight, right, honest: *toŋdo moo* まっすぐな木／ *toŋdo nari* 正直な人／ *toŋdoǰi ŋənnəu.* まっすぐ行け。／ *xaawu toŋdoijuu.* どちらが正しいだろうか。／ *toŋdo ulaa, ulaa toŋdoni* まちがえずまっすぐ行くとなかい。

toŋdokto J s. 川のまっすぐな箇所。

toŋdoo s. [acc. *toŋdokkoo*] くぼみ－ hollow: *naa toŋdooni* 地のくぼみ。

toŋgil: *isal toŋgil toŋgil.* 目のたまがきょろきょろ動いている。

Toŋgilǰi s. 人名 (女，*Warabainneeni* 氏族の生まれ U)。

toogǰi-ni v. [perf. *tookči-ni*] (きねずみ，くまが) 木へのぼる－ climb: *tookpula pokto biini.* のぼったあとがある。

tookku NU s. [acc. *tookkoo* N] いぬをつなぐところ (*ikkuči*) でいぬがねるのに敷いてある草や木のえだ N，草や木のえだを敷いたいぬのねどこ U.

tookpu s. [acc. *tookpumba*] 高倉などの (一本の丸太に段のきざみをつけた) はしご (階段) － notched-log ladder.

toonduǰǰi-ni v. [perf. *toonduduxa-ni*, *toonduxa-ni*] (自分のなわを，あるいは自分のものなどを) ひっぱる: *meetei tuuxəmbəni toonduduxani.* 水へ落ちたひとをかれはひっぱりあげた。／ *meele toonduxani.* 水からかれはひきあげた (舟を)。

tooniččee-ni v. [perf. *toonitaxa-ni*] 引き網を引きに行って来る。

toonisi-ni v. [perf. *tooniči-ni*] 何度もひっぱる－ pull.

toonǰi-ni NU v. [perf. *toočči-ni*] 1. ひっぱる，引き抜く N－ pull, draw: *kupəmbə toonǰini.* 糸をかれはひっぱる。N／ *xəəgbə toonǰini.* つなをかれはひっぱる。N／ *kučigəmbi kuptukkeeni toonǰini.* 自分の小刀をそのさやからかれは引き抜く。N: 2. 一気に飲む U: *mastaa toonǰini.* かれは飲みっぷりがいい。U

toonni-ni v. [perf. *toonixa-ni*] ひっぱりに行く。

toopto J s. 草の一種。

toora s. [acc. *toorraa*] (トランプの) クラブ [< ヤ туора (クラブ)]。

tootopinǰi-ni v. [perf. *tootopiččі-ni*, conv. perf. *tootopikkačči*] (大便をする際のような姿勢をとって) しゃがむ (こどもについても言う): *tootopikkačči amuččini.* しゃがんでかれは大便をする。

tootori pron. [acc. *tootowo*] すこし遠いあれ，あの－ that: *tootodu* あそこに－ over there／ *tootori moo* あの木。

tootowwee s. [acc. *tootowweepa*] すこし遠いあそこ－ that way: *tootowosoi* あちらへ－ there (thither).

toowo [1] s. [acc. *toowwoo*] しかの一種 (となかいより大きい J，カラフトにはいない，大陸にいる)。

toowo [2] NJ s. [acc. *toowombo* N] 倒れて川にまたがった木 (橋のかわりになり，その上にわな (*puta*) を仕掛けることもある) － tree fallen across a stream enabling crossing.

toporo s. [acc. *toporroo*] おの (この語は老人がつかう) － ax [< ロ топор].

toptomǰi U adv. みんな，すっかり: *gumaanikkaŋubi toptomǰi wəədəxəmbi.* 自分の財布ごとみんなぼくはなくした。

toptor 点がポツポツとある: *toptor irgala* ポツポツ点点の模様がある。

torgo s. [acc. *torgoo*] 女用の絹の衣服 (鳥や妖怪の模様がある，*Maŋbu* 人から買ったもの，女が嫁入りの際着用する) [< 蒙 torgon].

tori s. [acc. *torree*] 結納。

Torisa s. ウイルタ族の氏族の一つ，日本姓は大野－ clan name.

toro a. なぎ (凪) である: *toro inəŋi* 天気がおだやかな日 (*toroo inəŋi* とも言う) ／ *namu toro.* 海はなぎだ (風または雨，雪がやんで)。

toronǰi-ni v. [perf. *toročči-ni*] (風雨雪が) やむ，おさまる: *xədu toroččini.* かぜがやんだ。／ *boo toroččini.* 天気がよくなった。

toroočči-ni v. [perf. *toroočixa-ni*] あおむけになっている。

toroopinǰi-ni v. [perf. *toroopiččі-ni*] あおむけになる。

torri-ni v. [perf. *torixa-ni*] 結納 (たからものなど) をわたす: *əəktələ torrini.* 女の実家にかれは結納をわたす。

toxo s. [acc. *toxxoo*] ボタン: *toxxoo ujjini.* ボタンをかれはかける。U／

toxxoo taawwini. ボタンをかの女はつける。N

təjjee-ni v. [perf. *təjəxə-ni*] 御馳走する，もてなす－ entertain (a guest): *andaxatai čaiwa təjjeeni.* 客に茶をかれはふるまう。

təjəčči-ni v. [perf. *təjəčixə-ni*] 御馳走する (何回も): *təjəčimjee anaa očči-ni.* 御馳走していてそれはなくなった。

təkkərə NU s. [acc. *təkkərrəə* N] びん，かめ (液体の容器) (*putulikka* より大きい): *čipaami təkkərə* 泥土でつくったびん (陶器か素焼きか) [cf. 日 とっくり]。

təktəŋə NGJ s. [acc. *təktəŋŋəə, təktəŋəmbə* N] しぎ (食用 G)。

təŋgə s. [acc. *təŋgəə*] どんぶり。

Təŋəpeelə s. 人名 (男，*Səəktə* の氏族)，俗称は *Banǰai.*

təəksə NGJ s. [acc. *təəksəə* N], *tuuksə* U [acc. *tuuksəə*] (*dəsiktə, dəssəəktə, səəgdə siduxu* などの) 液果のしる (汁): *siduxu təəksəni* こけもも の実のしる J／*tuuksəə ummini.* 液果のしるをかの女はのむ。U

Təəksəə s. [acc. *Təəksəəmbə*] 南カラフトの内陸の一地方 (地名)。

təətəətu s. [acc. *təətəəttəə*, all. *təətəətutəi*] 鳥の一種 (やまにいて，浜近くにいない，*kəu* に似る，*təətəə təətəə* と鳴く，つつどりだろう)。

təətəpinǰi-ni U v. [perf. *təətəpičči-ni*, conv.perf. *təətəpikkəčči*] しゃがむ (大便をする際の姿勢)。 (Cf. *tootopinǰi-ni* N.)

tərə s. [acc. *tərrəə*] はしらとともに間に戸口をつくるもう一本の棒 (*seesiŋi*)。

Tərəldəənu s. 人名 (男，*Naiputunneeni* か，*Torisa* の氏族)。

tərəŋəčči-ni v. [perf. *tərəŋəčixə-ni*] ふみつける (何回も) － tread: *nari mamaŋubi tərəŋəčči-ni.* (夫婦げんかで) 男が自分の老妻をふみつけている。

tərəŋəllee-ni v. [perf. *tərəŋələxə-ni*] ふみつける (一回) － tread.

tərrəuri-ni v. [perf. *tərrəuxə-ni*] と (止) める－ stop: *ulaaba tərrəurini.* となかいをかれはとめる。／*oksokkoo tərrəurini.* そりをかれはとめる。／*ŋindabi tərrəurini.* かれは自分のいぬをとめる (走るのを)。

təttə s. [acc. *təttəmbə*] 獣皮なめし道具 (*xarapsa, xooso* をつくるために獣皮をのばしたり，やわらかにする，のこぎりの歯の様なきざみがついた輪形の鉄片に木の柄がついている) － tanning tool. (写真は *təttə* の持ち方を示す。)



təttə

trubukka s. [acc. *trubukkaa*] たばこのパイプ (*moomoo*) [< ロ трубка] .

ttt (歯茎と舌端との舌打ち音の連続) int. となかいを走らせるとき発する音。

tuččee-ni v. [perf. *tutaxa-ni*] にげる－ run away: *tutami ŋənneeni.* かれはにげて行く。

tučči-ni [1] v. [perf. *tutuxa-ni*] 魚があみにかかる，けだものがわなにかかる，鉄砲のたまや矢にあたる: *adulila suŋdatta tutuxani.* あみにさかながかかった。／*səəpə putala tutuxani.* てんがわなにかかった。／*tuksa tutuxani.* うさぎがかかった。

tučči-ni [2] v. [perf. *tuttuxə-ni*] うごく，うごかす－ move: *əri ŋinda tučči-ni.* この犬はうごく (生きている)。／*naa tučči-ni.* 地が動く (地震－ earthquake)。／*jəə moowo bii tuttuxəmbi.* この木をおれはうごかした。

tuči s. [acc. *tučči-ee*, all. *tučitai*] いぬぞり－ dog sledge.

tuda s. [acc. *tuddaa*] なまり (鉛) － lead.

tudačči-ni v. [perf. *tudačixa-ni*] つっぱらせる (何箇所も): *ugda məkkədəmbəni* (または *xulčeeni*) *tudačči-ni.* 丸木舟のふちを (または両舷の間の横木を) かれはつっぱらせる。

tuddaučči-ni v. [perf. *tuddautaxa-ni*] つっかい棒をして (そのままにして) いる: *dugba mooǰi tuddaučči-ni.* 家を棒で (家人が) つっかい棒をしてある。

tuddauri-ni v. [perf. *tuddauxa-ni*] つっかい棒をする: *saamba tuddaurini.* さかなを干す掛け木にかれはつっかい棒をする。

tudə G s. くままつりの際に立てる二本のふとい長いはしら (くまのあたまとしりをこの二本に結びつける)。

tugbi-ni v. [perf. *tugbuxə-ni*] おと (落) す，おろす，う (生) む (人間についてはいわない)，ほ (彫) る－ drop, breed, carve: *naatai mambakkabi tugbini.* 地へ自分のふたまた手袋をかれは落す。／*looxombi tugbini.* 自分の掛けたものをかの女はおろす。／*tamambani tugbini.* かれ (売る人) はその値段をさげる。／*moowo tugbini.* 立木をかれはたおす。／*ŋojokkoo tugbini.* たまごをそれは生む。／*gasa tugbini.* 鳥が生む。／*iwəčə tugbini.* めす犬が生む。／*sabukkoo tugbumi andusini.* かれは (食事の) はしを彫ってつくる。

tugbəənǰi-ni v. [perf. *tugbəəčči-ni*] 売り手にねだんをさげさせる: *gaǰi nari tugbəənǰini.* 買い手が (売り手に) 値をまけさせる。U

tugbu s. [acc. *tugbəə*] 彫ってつくった食事のはし (*sabuu*) のくさり。

tugbuččee-ni v. [perf. *tugbutəxə-ni*] おとして (またはおろして) (そのままにして) いる: *tari nari maurree tugbuččeeni.* その人は (高いところへ干しておいた) さけの背の肉片をおろしてある。

tugbučči-ni v. [perf. *tugbučixə-ni*] 値切っている: *tamambani tugbučči-ni.* そのねだんをかれは値切っている。

tugbuǰǰi-ni NU v. [perf. *tugbuduxə-ni* N] おろす，さげる：*tətukki tugbuǰǰini.* (掛けて干してあった) 自分のきものをかの女はおろす。NU

tugbulisi-ni v. [perf. *tugbuliči-ni*] 何度もおろす：*uikki looxombi tugbulisini.* 上へ自分が掛けておいたもの (たとえばたくさんの *mauri*) をかれは何度にもおろす。

tugbulli-ni v. [perf. *tugbuluxə-ni*] おとしはじめる。

tugdə [1] s. [acc. *tugdəə*] あめ (雨) − rain.

tugdə [2] NGJ s. [acc. *tugdəə* N] やまねこ (野生となかいやじゃこうしかを食う) GJ.

tugdəlli-ni v. [perf. *tugdəluxə-ni*] あめがふりはじめる。

tugdəučikku s. [acc. *tugdəučikkəə*] , *tugdəučuu* s. かさ (傘) − umbrella.

tugdulə s. [acc. *tugduləmbə*] まるきばし (丸木橋) − log bridge.

tugǰee-ni v. [perf. *tugdəxə-ni*] あめがふる − rain：*tugdə tugǰeeni.* あめがふる。／*boo tugǰeeni.* あめがふる。

tuǰǰee-ni v. [perf. *tudaxa-ni*] (間になにかをはさんで) つっぱらせる (一箇所を)：*ugda xulčeeni tuǰǰeeni.* 丸木舟の両舷の間の横木をかれはつっぱらせる。

tukkə s. [acc. *tukkəmbə*] くままつりの際女がたたいて鳴らす生木 (切りたての木)：*tukkəmbə lokkeeni.* くままつりでたたく木を人がつるす。／*tukkəmbə duxinǰini.* くままつりで木をかの女はたたく。

tukki-ni v. [perf. *tuuxə-ni*] お (落) ちる，たお (倒) れる，ころぶ − fall, fall down：*uičču tukkini.* 上からそれは落ちる。／*kərəktəbi tukkini.* おれの歯がぬける。／*moo tukkini.* 木がたおれる。／*nari tukkini.* 人がころぶ。

tukkəə J s. たき (滝)。

tukpa G s. いつも通るみち：*ulaa tukpani* となかいのいつも通るみち。

tukpə s. [acc. *tukpəmbə*] くぎ (釘) − nail.

tukpənǰi-ni v. [perf. *tukpəčči-ni*] 1. 打ちこむ (くぎをつちで)，くぎをうつ − nail：*tukpənǰi tukpənǰini.* くぎをかれはうつ。2. 芽を出す：*orokto* (または *orokto təkkəni*) *tukpənǰini.* 草が (または草の根が) 芽を出す。

tuksa s. [acc. *tuksaa*] うさぎ − hare：*tuksa puttə* 私生児。

tuksakčee-ni U v. [perf. *tuksaktaxa-ni*] はしりまわる。

tuksaska s. [acc. *tuksaskaa*] うさぎの (毛) 皮。

tuksauǰǰi-ni v. [perf. *tuksauduxa-ni*] 自分の家へ走らせる。

tuksauri-ni v. [perf. *tuksauxa-ni*] 走らせる (たとえば，となかいを走らせる，ただしそりはそれだけでは走らないからそりを *tuksaurini* とは言わないという)：*ulaaǰi tuksaurini.* (競走で) となかいをかれは走らせる。／*tari nari ulaaǰi tuksaurini.* その人は (競走の際大変はやく) となかいを走らせる。

tuksee-ni v. [perf. *tuksaxa-ni*] はし (走) る (人間が，また，そりをつけたとなかいが) N − run：となかいが左右の足を交互に出してはやくはしる G：*nari tukseeni.* 人が走る。N

tuksə s. [acc. *tuksəə*] 通訳 − interpreter.

tuksərəǰi U s. 他人の悪口を言いふらす人。

tulči-ni NG v. [perf. *tulčixa-ni*] わけのわからないことを言う (死にかけている人や酒によった人が) (また妖怪 (*amba*) が入った人が G)：*soktowočči tulčini.* かれは酔ってわけのわからないことを言う。N

tuləčči-ni v. [perf. *tuləčixə-ni*] とりつけている：*adullee tuləččini.* (さかなをとる) あみをかれは入れている (とりつけている)。

tuləčiǰǰi-ni v. [perf. *tuləčiduxə-ni*] とりつけをくりかえしてなおす。

tuləgdə s. 刺し網漁 (川や湖でさけ・ます・よあかし・ふな・うぐいをとる)：*tuləgdə aduli* 刺し網。

tuləǰǰi-ni v. [perf. *tuləduxə-ni*] とりつけてもと通りにする：*adulibi tuləǰǰini.* 自分の (さかなをとる) あみをかれはとりつけてもと通りにする。

tullee s. [acc. *tulleepə*] そと：*utə tulleeni* 戸口のそと。

tullee-ni v. [perf. *tuləxə-ni*] とりつける：*xulčee tulleeni.* ふねの横木をかれはとりつける。／*adullee tulleeni.* あみをかれは入れる (刺し網をする)。

tulpi s. [acc. *tulpimba*] うたの発声：*tulpini aja.* かれのうたの発声はいい (うたのことばがはっきり聞こえる)。

tulukpinǰi-ni JU v. [perf. *tulukpičči-ni*] 片足とびをする (こどものあそび)。

tuma s. [acc. *tumamba*] ラオ (きせるやたばこパイプ (*moomoo*) の中間部の管)。

tumə num. [acc. *tummməə*] 万 − ten thousand：*dəə tumə* 二万 − twenty thousand／*joon tumə* 十万 − hundred thousand.

tummi-ni v. [perf. *tumuxə-ni*] たたむなどしてかたづける：*adulibi tummini.* かれは自分の魚網を乾いたあとたたんでかたづける。

tumuǰǰi-ni v. [perf. *tumuduxə-ni*] たたむなどしてもとの状態にする。

tunda num. [acc. *tundaa*] 五，いつつ − five：*tunda tundaǰi bəəxəni.* いつつずつかれはくれた。／*tunǰee-ni* 五か月め (妊娠や生後の月数) − fifth month／*tundalta* adv. 五回 − five times／*tundattuŋasa* num. 五つ全部。

tundadoo num. [acc. *tundadoowo*] 五十 − fifty：*tundadoowo bəəru.* 五十個くれ。

tuninǰi-ni G v. [perf. *tuničči-ni*] 手をつく (すわっていて立つときとか疲れたとき)。

tuŋa s. [acc. *tuŋŋaa*] くわ (鍬) − hoe [(<ア tonka) <日 とうぐわ (唐鍬)]。
tuŋdə NJ s. [acc. *tuŋdəə* N] やなぎ。
tuŋə s. [acc. *tuŋəmbə*] むね (胸) − chest (breast).
Tuŋgukkə s. 人名 (男, *Naiputunneeni* 氏族, 大川三郎氏の父)。
tupi s. [acc. *tupimba*] つば (唾) − spit (spittle).
tupičči-ni v. [perf. *tupičixa-ni*] つばをはく, (人へ) かける (何回も)。
tupinǰi-ni v. [perf. *tupičči-ni*, conv. perf. *tupikkačči*] つばをはく − spit.
tuppa U s. [acc. *tuppaa*] (日本の) はなふだ。
tuppee-ni U v. [perf. *tuppaxa-ni*] (日本の) はなふだで遊戯する: *tuppeesu.* はなあわせをしよう。
tupuliǰǰi-ni v. [perf. *tupuliduxə-ni*] 引き抜いてもどす。
tupulli-ni v. [perf. *tupulixə-ni*] ぬ (抜) く − draw out, pull out: *kučigəmbi tupulixəni.* かれは自分の小刀をぬいた (さやから)。／*ŋaalikki tupullini.* かの女は自分の手からはずす (指輪を)。／*illuuxambi tupullini.* かれは自分が立てたものを引き抜く。
turačče-ni v. [perf. *turataxa-ni*] あけて (開いて) おく: *saaldabi turaččeeni.* かれは股間をあけたままいる。
turačči-ni v. [perf. *turačixa-ni*] あ (開) けている (何回も)。
turəskə s. [acc. *turəskəə*] 長ぐつの胴 (ごまふあざらしの当歳のものの皮を用いる)。
turi s. [acc. *turree*, all. *turitəi*] まめ (豆) − bean.
turpanǰi-ni v. [perf. *turpačči-ni*] なかまで入らず外側でとまる: *moičča muxalini turpanǰini.* 鉄砲のたまが表面でとまりなかへ入らない。
turree-ni v. [perf. *turaxa-ni*] (間を) あ (開) ける − open: *isalbi turreeni.* かれは目を大きく開ける。／*puutaamba turreeni.* かれはふくろをあける。
tusigə N s. [acc. *tusigəmbə*], *tusee* J s. みさき (岬) (海, 川, 湖の) − cape.
tuttauri-ni v. [perf. *tuttauxa-ni*] にがす: *ulaabi tuttaurini.* かれは自分のとなかいをにがす (そりから落ち, となかいがそりを引いて行ってしまうようなとき)。／*ŋindabi tuttaurini.* かれは自分のいぬをのがす (いぬがあばれて手からはずれ)。
tuttuiččee-ni v. [perf. *tuttuitəxə-ni*] 動きたい (たとえばねている病人が)。
tutuu s. [acc. *tutukkөө*, all. *tutuutəi*] 陰茎 − penis.
tuučči-ni v. [perf. *tuučixə-ni*] くまなどが出るのを待っている, けだものを待ちぶせている。
tuuǰǰi-ni v. [perf. *tuuduxə-ni*] おりる, (日, 月が) おちる − come down, descend, (the sun, moon) set: *pəisəi tuuǰǰini.* かれは (山から) 下へおりる。／*suun tuuǰǰini.* 日がおちる。／*suun tuuǰǰiǰǰeeni* 日の入る方, 西。

tuulči s. [acc. *tuulčee*, all. *tuulčitai*, *tuulčitəi*] ゆりかごや嬰児篭のあたまのところのほろのわく (アーチ状, やなぎやわかい白樺などの枝でつくる, これにきれをかける)。
tuulə s. そと: *utə tuuləni* 戸口のそと。
tuuli GJ s. さけやますの海にいるもの GJ, 産卵のため川に入ったばかりのもの (若いもの) J (卵をもったままの魚 (*xairi məgdə suŋdatta*) G): *tuuli өөrө* 上記時期のます NJ／*tuuli dawa* (または *nalduma* または *xөjө*) 上記時期のさけ (またはいとうまたはあめます) J.
tuumə G s. べにます: *tuumə өөrө* さくらます (歯が長い) N.
tuunəsi-ni v. [perf. *tuunəči-ni*] なんどもころぶ: *tuunəpulə pokto* なんどもころんだみち。
Tuuni s. 人名 (男, *Naiputunneeni* 氏族, 中川カヨさんの兄)。
tuurə s. [acc. *tuurrəə*] となかいや他のけだものの頭がつくくびの骨。
tuuričči-ni NU v. [perf. *tuuričixə-ni* N] ねらっている: *moiččambi anapoočimi tuuriččini.* 自分の鉄砲をためしうちしてかれはねらっている。N／*gassaa tuuriččini.* とりをかれはねらっている。N
tuurri-ni v. [perf. *tuurixə-ni*] ねらう − aim: *gassaa moiččanǰi tuurrini.* 鳥を鉄砲でかれがねらう。
tuuru s. [acc. *tuurroo*, all. *tuurutai*] 神柱 (巫事のため戸外に立てた柱, 落葉松, えぞ松を使い, 人間の顔を東面 (*suunjee*) に彫り, その上に頭のある木弊 (*ebuski illau*) をつける, 顔の下の枝は手につくり, これに木弊をつける, これらの上の枝葉はそのまま, 手から下は樹皮をとる, はじめて巫者となるとき立てるが, 病人のある家のまえにも立てる, 飛んであるく妖怪 (*amba*) や渡り鳥が人体に止まってやすむと病気になるのでこれに止まらせる) − ritual pillar outside the house.
tuuruwa s. [acc. *tuuruwamba*] 頭のある木幣 (*ebuski illau*) にそえる若木の棒 (神像のつえであるという)。
tuusi s. [acc. *tuusimbə*] (トランプの) ふだ番号の 1 [<ロ туз].
tuussi-ni v. [perf. *tuusixə-ni*] 小刀と小刀をすってとぐ − sharpen.
tuwa s. [acc. *tukkaa*] 渡り鳥のからす (三月ごろ来て九・十月ごろ去る J) (*karr karr* のように鳴く) − a species of crow (migratory): *tuwa beeni* 三月 − March.
tuwə[1] s. [acc. *tuwəmbə*, pl. *tuwəil*] ある人に対して, 母の姉妹の子 (その人と

同世代の) — cousin.

tuwə [2] adv. ふゆ (冬) — in winter: *tuwədələə biini.* 冬までかれはいる。

tuwədə s. [acc. *tuwəddəə*] 冬の居住地 (円錐形家屋があり，狩猟をおこなう)。

tuwədəkku s. [acc. *tuwədəkkɵɵ*] 冬の居住地。

tuwəǰǰee-ni v. [perf. *tuwədəxə-ni*] 越冬する: *tari nari čadu tuwəǰǰeeni.* その人はそこで冬を越す。U

tuwəǰǰi-ni v. [perf. *tuwəduxə-ni*] 冬がめぐって来る。

tuwəmǰi s. [acc. *tuwəmǰee*] 北風 (北西風 G，北風 (*toŋdo tuwəmǰi*) J)，やまから海岸へ吹く風— north wind: *toŋdo tuwəmǰi* 北風 (*doroǰǰee* から吹く) J／*mokčuu tuwəmǰi* ややそれた北風 (これはまれにしか吹かないという) J.

tuwəni s. [acc. *tuwənnee*] ふゆ (冬) — winter: *bii jəə tuwənnee čadu biččimbi.* わたしはこの冬そこにいた。

tuwəri a. 冬の: *tuwəri duxu* 冬の家／*tuwəri natta* 冬の毛皮。

tuwweekkə G s. しぎの一種 (*tuwwee tuwwee* と鳴く，食用) (*tuwweetu* と同じ鳥，Gはこの語を使わず，*tuwweekkə* と言うという)。

tuwweetu NJ s. [acc. *tuwweettɵɵ* N] しぎの一種。

tuxə s. [acc. *tuxxəə*] あざ (目の下の *tuxə* はいつも泣く (不幸) という) — birthmark.

u

ubuu s. [acc. *ubuumbə*] わけまえ (たとえば食べものの) — share: *mini ubuumbi* おれのわけまえ／*tarinnee ubuuni* その人のわけまえ。

udala s. [acc. *udalamba, udallaa*] かえる (蛙) — frog.

udama a. 初産の; s. [acc. *udammaa*]: *udama əəktə* お産がはじめての女／*udama puttəni* 初産の (男または女の) 子。

uddəəŋgə G s. 頭脳がよい: *mastaa uddəəŋgə nari* 大変あたまのいい人。

udə-ni s. [acc. *uddəə-ni*] (ある場所の) あたり，近辺: *xulda biini udəni* 箱のあるあたり／*moo taldaani udəni* 木のまんなか辺／*xai uddəəni ŋənnɵɵsee.* (けさ出立した人が) どの辺をいま帰っているところかしら。

ugda s. [acc. *ugdaa*] まるきぶね，ふね (少なくともかつてはウイルタ自身はつくらなかったという) — dugout, boat, ship: *Giləəǰi ugda* ニブフ人がつくったのを買入れた舟／*Kuujiǰi ugda* アイヌ人がつくったのを買入れた舟／*ugdaǰi ŋənneeni.* 舟でかれは行く。

ugdəə a. よわ (弱) い— weak, s. [acc. *ugdəkkəə*]: *ugdəə nari* よわい人間 (人にまけるような，あるいは，はたらきたくないような)。

uiččee-ni v. [perf. *uitəxə-ni*] しばっておく: *uittəuri illau* しばっておくけずり花。

uičči-ni v. [perf. *uičixə-ni*] 多くの箇所をしばる。

uiǰǰi-ni v. [perf. *uiduxə-ni*] おく (送) る (人にもたせて) — send: *dəppee uiǰǰini.* たべものをかれは送る。／*tari nari əigəǰini uiddu.* その人の姉さんにもたせてやれ。

uiləkku s. [acc. *uiləkkɵɵ*] しごと (仕事) — work, job.

uilənǰee-ni v. [perf. *uiləndəxə-ni*] はたらきに行く。

uillee-ni v. [perf. *uiləxə-ni*] はたらく，しごとをする (自分の漁労，狩猟は *uillee* といわない) — work: *sisamba uilleeni.* かれは和人のしごとをする。／*uiləkkɵɵ uilleeni.* かれはしごとをしている。

Uilta s. [acc. *Uiltaa, Uiltamba*] ウイルタ人 (オロッコ人) — Uilta (Orok).

uiltadairi-ni U v. [perf. *uiltadaixa-ni*] ウイルタ語で話す (*uilta kəsəǰini kəənǰini*)。

uinə [1] a. つないである: *uinə ŋindaa čiinǰini.* つないであるいぬをかれはといてはなす。／*tari ŋinda uinə.* そのいぬはつないである。

uinə [2] s. [acc. *uinnəə*] たば (束) (干したさかな (*bukpaa, mauri*) などの): *saŋna uinəni* 葉たばこをたくさんしばったの。

uinəu s. [acc. *uinəkkɵɵ*] いぬを (一匹) つないでおくところ: *ŋinda uinəuni* いぬのつなぎ場。

uiptəŋi U s. なわかひもでしっかりしばったもの。

uiru NJ s. [acc. *uirrɵɵ*, all. *uirutəi* N] 海岸の林とさらにその背後の林との間の土地。

uisi-ni v. [perf. *uiči-ni*] 音がしている，な (鳴) る— ring: *koŋgokto uisini.* すずが鳴っている。／*čooraa uisini.* となかいのくびのすずが鳴る。

uitə s. [acc. *uitəmbə*] ひじ (肱) — elbow.

uitəllee-ni NG v. [perf. *uitələxə-ni*] ひじで突く: *xaunee uitəlləukkitəmi.* うるさいな，ひじでついてやるぞ。U

uiturə s. [acc. *uiturrəə*] ことづけてやるおくりもの (たばこや麦粉など，たとえば離れて住む親におくる)。

ujalli-ni v. [perf. *ujalixa-ni*] いじる: *alukkubi ujallini.* 自分の茶碗をかれはいじる。／*ojoskombi ujallini.* 自分の荷物をかれはいじる。

ujji-ni v. [perf. *uixə-ni*] しばる，むすぶ，つな (繋) ぐ－ tie, fasten, bind: *ulaaba uixəni.* となかいをかれはつないだ。／*puutaa aŋmaani ujjini.* ふくろの口をかれはくくる。／*umulbi uixəni.* かれはおびをしめた。／*uttabi səəksəəni ujjini.* 自分のくつのひもをかれはしばる。／*moŋokkeeni illaunǰi ujjini.* (病人の) くびを削りかけでかれはしばる。／*uipulləə atuxani.* 結ばれているのをかれはほどいた。

ujuu a. 生きている－ alive; s. [acc. *ujukkəə, ujuumbə*]: *ujuun biini.* かれは生きている。／*ujukkəə gəlleewi.* わたしは生きているのをほしい。

uǰəə N s. [acc. *uǰəkkəə*] , *uǰəgə* G s., *uǰee* J s. じゃこうじか－ musk deer.

uǰǰi-ni v. [perf. *uǰixə-ni*] やしな (養) う，そだ (育) てる，飼養する－ feed, bring up, raise, rear: *puttəbi uǰǰini.* 自分の子をかれはそだてる。／*ulaaba* (または *ŋindaa* または *kəskəə*) *uǰǰini.* となかいを (またはいぬをまたはねこを) かれは飼う。

ukči s. [acc. *ukčee*, all. *ukčitəi*] かかと－ heel: *bəgǰi ukčini* 足のかかと／*utta ukčini* くつのかかと。

ukkičče-ni v. [perf. *ukkitəxə-ni*] 言おうとする (たとえば，吃音者が，またはいま言おうか言うまいかと思案の末言う人が)。

uksara NGJ s. [acc. *uksarraa* N] しまふくろう (食用，羽角 (みみ) がある) G － owl.

uksi NJ s. [acc. *uksimbə* N] はれもの，できもの (ひとつだけ大きくできる，目にもできる)。

uksi-ni v. [perf. *uksixə-ni*] しめ (湿) る－ become damp: *uksixə upa* 湿った粉／*tətuwə uksini.* きものが湿る (湿ってかびくさくなる U)。

Uktai G s. 幌内川下流右岸の水系の一支流。

uktə s. [acc. *uktəə*] 陰部 (男女の)。

uktulli-ni v. [perf. *uktulixa-ni*] ぶつかる，ぶつける，ふ (触) れる－ collide, bump against, touch: *mootoi uktulixambi.* おれは木にぶつかった。／*ǰilibi uktulixani.* かれはあたまをぶっつけた。／*naritai uktullini.* 人にかれはさわる (またはぶつかる)。

uktussi-ni v. [perf. *uktusuxa-ni*] ぶつかる，ぶつける (何回も): *uktusumi sərruuččini.* なんどもぶつかってかれは目をさまさせている。

ulaa s. [acc. *ulaaba*, pl. *ulaal*] 飼育のとなかい－ domestic reindeer: *ulaakki biini.* となかいの背にかれはのっている。／*ulaalu* となかいを所有する。

ulaaska s. [acc. *ulaaskaa*] 飼育のとなかいの皮。

ulaatta s. [acc. *ulaattaa*] 飼育のとなかいの皮。

ulačči-ni v. [perf. *ulačixa-ni*] 水にひたしている: *məətəi ulaččini.* 水にかの女はひたしている (凍ったものやかわいたものを)。／*suŋučči suŋdattaa ulaččini.* 凍ったさかなをかの女は水につけている。

ulakta G s. 氷のはった川のまだ氷のはっていないところ (あな) (流れのはやいところ)。

ulaktalduu GJ s. かわがらす。

ulaptau G s. かわがらす。(*ulaktalduu* とも言うという。)

ulaptuččee-ni G v. [perf. *ulaptutaxa-ni*] 水へあたまだけ入れている。

ulbaaxu s. [acc. *ulbaaxxoo*] 下着，シャツ (男子用と女子用とある) － shirt [< ロ рубаха] .

ulda s.: *ulda ura-ni* [acc. *urraa-ni*] こけもも (*siduxu*) 類の一種 (低木)，その実。

uldənǰi-ni v. [perf. *uldəčči-ni*] ぬ (縫) う (運針縫い) － sew.

ulduni s. [acc. *uldunnee*, all. *uldunitai*] ゆりかごをつるすつな (あざらしの皮製)。

uldura s. [acc. *uldurraa*] いちごの一種，エゾイチゴ (はまいちご J)。

uləktə s. [acc. *uləktəə*] (魚の) 腸。

uliŋga a. いい－ good, s. [acc. *uliŋgaa*]: *əri tətuwə* (または *busu*) *uliŋga.* このきもの (または布) はいい。／*uliŋga biini.* いいのがある。／*uliŋga osini.* よくなる (たとえば病気が)。／*uliŋgaǰi* よく／*uliŋgaǰi buu(su)* . (皆さん) お達者で (旅立つ人が言う)。／*uliŋgaǰi ŋənnəu.* 御無事で (旅立つ人へ言う)。

uliŋgakta U s. よいもの，いきのよいもの: *pəətə ulisəni uliŋgaktani* あざらしの肉のいきのいいの。

ulisə s. [acc. *ulissəə*] にく (肉) － flesh, meat.

ullee-ni v. [perf. *ulaxa-ni*] ひた (浸) す－ soak something: *məəkki ulleeni.* 水へかれはひたす。

ulli-ni v. [perf. *ulixə-ni*] (なにか振ったりして) あいず (合図) する: *ugdaa ullini.* ふねにかれは合図する。／*pəkkəǰi ullini.* てぬぐいでかれは合図する。／*ŋaaliǰǰi narree ullini.* かれは自分の手で人に合図する。

umbəəkkičče-ni v. [perf. *umbəəkkitəxə-ni*] 言わせようとする。

umigačči-ni v. [perf. *umigačixa-ni*] 茶をのみながらなにかをする: *umigačimari təəluŋuččiči.* 茶をのみながらかれらはむかしばなしをしている。

uminačči-ni U v. [perf. *uminačixa-ni*] 飲みつづける。おかわりして飲む。

ummi-ni v. [perf. *umixa-ni*] の (飲) む－ drink: *ummu.* 飲め (酒を)。／*məəwə ummini.* 水をかれはのむ。／*saŋnamba ummini.* たばこをかれはの

む。／*oktoo ummini.* くすりをかれはのむ (錠剤でもいう)。

ummoočči-ni U v. [perf. *ummoočixa-ni*] 飲まされる (何回も)。

ummoonji-ni NU v. [perf. *ummoočči-ni*] 飲ませる，飲まされる。

umul s. [acc. *umulba*] おび (帯) − belt, girdle.

umulbita NJ s. [acc. *umulbittaa* N] おびをしめる体の箇所 (胴のまわり) (*xəŋgəjə* をさす U)。

umullee-ni NG v. [perf. *umulaxa-ni*] おびをしめる。

unə s. [acc. *unnəə*] 風よけ (むしろ (*musuri*)，古くは魚皮に棒がついたもので，これを家屋の煙出しの風上側に立てかけて風の吹きこむのを防ぐ，その棒を動かして置く位置をかえる)。

uni s. [acc. *unnee*, all. *unitai*] かわ (川) − river: *Daaji uni* 幌内川 J.

uniga N s. [acc. *unigamba*] , *unee* J s. [acc. *uneemba*] 小さい川，大きな川に流れこむ小さい川− stream, brook: *unee daani* 大きな川や湖に入る小さい川の口 J.

Unigara s. [acc. *Unigaramba*] 小川明氏のウイルタ名。1958年北海道に移住。

unigəčči-ni v. [perf. *unigəčixə-ni*] 二つを合わせてくらべ大小などをみる− conform, compare: *jələə unigəčimi andupumi jokkini.* これにあわせてつくればそれは合う。／*bəjjəəri unigəčigəči.* かれらは自分たちのからだ (の大きさ) をくらべた。

unigəllee-ni v. [perf. *unigələxə-ni*] 二つを合わせてくらべ大小などをみる− conform, compare: *ŋoniptai unigəlleeni.* たてにかれはあわせる。

unigəri N s. [acc. *unigərree*] , *uneeri* J s. ほし (星) − star [cf. ニ унь γр] .

unji-ni v. [perf. *učči-ni*, conv. perf. *ukkəčči*] い (言) う− say: *narree uččini.* 人のことをかれは言っていた。／*Kami Oboro umburi naa* 上尾幌というところ／*umusi-ni* v. 言いたい／*umbəənji-ni* v. 言わせる。

unnee-ni v. [perf. *unəxə-ni*] 鳥や野生となかいが音やにおいなどで気づく: *kumultə seesiŋinjini unneeni.* スキーのおとでそれは気づく。

unni-ni v. [perf. *unixə-ni*] 言いに行く。

uŋdujjee-ni v. [perf. *uŋdudaxa-ni*] 打撲傷をうける，うちみになる: *tuumi uŋdudaxani.* ころんでかれはうちみになった。／*bəgjibi uŋdudaxani.* おれの足が打撲傷をうけた。

uŋdulli-ni v. [perf. *uŋdulixa-ni*] うつ (うちみになる): *tuumi uŋdullini.* ころんでかれはうちみになる。／*tari nari bəgjibi uŋdulixani.* その人は自分の足をうった (うちみになった)。

uŋəjəə s. [acc. *uŋəjəəmbə*]: *xotto uŋəjəəni* まちのおもだった人 (えらい人，いい人)。

uŋnajjee-ni v. [perf. *uŋnadaxa-ni*] いき (鮮度) がわるくなる: *suŋdatta uŋnadaxani.* さかながいきがわるくなった。

uŋnalli-ni v. [perf. *uŋnalixa-ni*] いき (鮮度) をわるくする: *suŋdattaa uŋnalixani.* さかなをかれは (ほっておいて) いきをわるくさせた。

Uŋŋaikka s. 人名 (女，*Waaleetta* 氏族の生まれ)。

upa s. [acc. *upamba*] むぎこ (麦粉) − flour.

upči-ni v. [perf. *uptuxə-ni*] 言われる，言える: *təddəə uptuxəni.* 言わないつもりでいたことをとうとう本当に言ってしまった。／*xaiddaa čipal upčini.* なんでもみんな言える。

uppakta G s. 木の上につもった雪: *əsinəŋi uppaktani maŋga əsiw ŋənnəə.* きょうは木につもった雪がひどく，わしは行かない。

ura s. [acc. *urraa*] しり (尻) − buttock, ふねのとも: *ugda urani* ふねのとも。

urai U s. やな (梁) [<ア uray] .

urəktə s. [acc. *urəktəə*] やなぎの若い木，若いえだ。

urəmə s. [acc. *urəmməə*] ものを背負う用具，しょいこ (細い棒を皮ひもで結わえたものや板をつかったものがある，これににもつをつけて背負う)。

urəndə JU s. [acc. *urəndəə* U] 脊髄 (魚の *səəri* やとなかい・あざらしの *nirikta* のなかの)。

uri NGJ s. [acc. *urree* N] 鳥の一種 (うぬんどり，くびが長く，色は *saari*, *nuŋna* に似る N，ひめう 食用 G) − cormorant [<ア urir] .

uriski U s. [acc. *uriskee*] ほしいい (干飯) (水にひたして食べる): *uriskee dəptuxəpu.* ほしいいをぼくたちは食べた。

urittə NGJ s. [acc. *urittəə* N] 魚のはらの部分 (白い)。

urpi-ni N v. [perf. *urpixə-ni*] , *ulpi-ni* U v. ぬ (縫) う− sew: *urpuri* 裁縫 N− sewing／*kitaanji urpuri* 裁縫，針仕事 N− sewing, needlework／*bussoo urpini.* きれをかれは縫う。N／*nattaa urpini.* 皮をかれは縫う。N

urpitə s. [acc. *urpittəə*] 縫ったあと (縫ったいとのめ)。

urree-ni v. [perf. *urəxə-ni*] 発育する (*daaji osini*) − grow: *puttə urreeni.* こどもが育つ。／*orokto urreeni.* 草が生長する。

urri-ni v. [perf. *urixa-ni*] もる (食べものを容器へ): *buddaa alukkutai urrini.* めしをちゃわんにかの女はもる。／*ənukkəə urrini.* なべからかの女はもる。

urruusi-ni NU v. [perf. *urruuči-ni* N] あつめて (まとめて) おいている: *suŋdattaa saan pəjjeeni urruusini.* さかなをさかな干しの掛け木 (*saan*) 下にかれはまとめておいている。U／*moo gəlləəkkudu urruusini.* まきをまき置き

場にかれはあつめておいている。U

urum(uk)kə s. [acc. *urum(uk)kəə*] コップ，グラス，さかずき－ glass, wine cup [<ロ рюмка] .

usi s. [acc. *usimba*] はたけ (畑) (ウイルタにはない) － field (farm) .

usiŋ̌ee-ni J v. (くまを) さがしに行く : *bəjəmbə usiŋ̌eewi.* くまをおれはさがしに行く。

usku s. [acc. *uskumba*] 玄関 (丸太組み家屋の)。

ussi-ni NJ v. [perf. *usixa-ni*] 1.たがやす N－ cultivate, till, 2.くまをさがす J.

ussiiri-ni v. [perf. *ussiixə-ni*] たづなをつける (となかいの頭部に) : *ulaaba ussiirini.* となかいにかれはたづなをつける。

utaa NGJ s. [acc. *utaamba* N] (魚の) 胸びれ G.

utaaptu s. [acc. *utaaptumba*] くつのなかご (くつのなかにはく，布製または毛皮製)。

utaripu s. [acc. *utaripumba*] はまなすの実。

Utasi J s. オタス (敷香の) (地名)。

utə s. [acc. *uttəə*] とぐち (戸口)，家の出入口，と (戸)，とびら (布，なめし皮，むかしは魚皮でつくる) － doorway, door.

utəllee-ni G v. [perf. *utələxə-ni*] 戸をつける。

utta s. [acc. *uttaa*] 獣皮製長ぐつ，くつ (靴) － boots, shoes.

utulli-ni v. [perf. *utulixa-ni*] わかる，できる－ understand, can : *xaiwaddaa čipal gəəm utullini.* なんでもみんな全部かれはわかる，できる。／ *xaiwaddaa andumi utullini.* なんでもかれはつくれる。／ *Sisa kəssəəni utullisii.* 日本語がきみはわかるか。

utumuu s. [acc. *utumukkəə*] うなじ (えりくび)。

uu adv. ほおずりするさま : *ənnəmbə uu.* お母さんにほおずりして (*kəmməu*) (こどもへ言う)。／ *uu osu.* ほおずりして (*kəmməu*) (こどもへ言う)。

uučče-ni v. [perf. *uutaxa-ni*] 乗っている : *ulaadu* (または *ugdadu*) *uuččeeni.* となかいに (または舟に) かれは乗っている。

Uuǰəə G s. 人名 (男)。

uuǰǰi-ni v. [perf. *uuduxa-ni*] それまで乗っていたふねやそりにまた乗る。

uulasi-ni NU v. [perf. *uulači-ni* N] 立木から樹皮 (*xurakta*) をは (剥) いでいる : *talloo uulasini.* 樺皮をかれははいでいる。N

uullee-ni NU v. [perf. *uulaxa-ni* N] 立木の樹皮をはぎに行く。

uundaǰǰi-ni G v. [perf. *uundaǰixa-ni*] たとえば仲間がおきわすれて行ったものをやらずにほっておく。

uunǰi-ni[1] v. [perf. *uučči-ni*, conv. perf. *uukkəčči*] と (溶) ける－ melt : *simatta uunǰini.* 雪がとける。／ *dausu uuččini.* 塩がとけた。

uunǰi-ni[2] J v. [perf. *uunǰixə-ni*] と (溶) かす : *dukkəə uunǰixəni.* 氷をかれはとかした。

uuŋginni-ni v. [perf. *uuŋginixə-ni*] 火にあたりに行く。

uuŋgisi-ni v. [perf. *uuŋgiči-ni*, conv. perf. *uuŋgigəčči*] あたたまっている，からだをあたためている : *tawatai uuŋgisini.* かれは火にあたってからだをあたためている。

uuŋ̌ee-ni v. [perf. *uuŋdaxa-ni*] 乗りに行く。

uupačči-ni J v. [perf. *uupačixa-ni*] ふねになんども乗ったりおりたりする : *laata uupaččini.* 波が舟になんどもかぶさってくる。

uuri-ni v. [perf. *uuxa-ni*] の (乗) る－ ride, mount : *ulaatai uurini.* となかいへかれは乗る。／ *oksootoi uurini.* となかいぞりへかれは乗る。／ *ugdatai uurini.* ふねへかれは乗る。／ *uumusi-ni* v. 乗りたい／ *uuwoonǰi-ni* v. 乗らせる。

uutəəmi G s. えぞ松や落葉松の樹皮でまわりを張った丸小屋 (円錐形家屋)。

uuwu s. [acc. *uukkəə*] 上 [ant. *pəduu*] : *ətuu uuwu* 一番上／ *uukkəə dappeeni.* かれは上の方をとる。

uuwwi-ni v. [perf. *uuwuxa-ni*] 乗せる。

uwwee s. [acc. *uwweepə*] 上の方－ upside [ant. *pəǰǰee*] : *uisəi* 上へ－ up.

W

wa int. わっ (ころんだときなどに言う) : *wa ollounǰiwani.* わっ，びっくりさせること。

waajičče-ni v. [perf. *waajitaxa-ni*] (獲物を) とりにかかっている。

waaǰǰee-ni v. [perf. *waadaxa-ni*] ねだる : *ənimbi waaǰǰeeni.* 自分の母親にかの女は (買ってくれと) ねだる。／ *waadami gəlleeni.* ねだってかれはほしがる。

waakku s. [acc. *waakkoo*] (猟で) いきものをとる場所。

Waalda s. 人名 (男，*Muigəttə* 氏族)。

waali s. [acc. *waallee*] えもの (獲物) (けだものや魚) － game : *waallee waarini.* えものをかれはとる。

waalimačči-ni U v. [perf. *waalimačixa-ni*] 互いに戦争する。

Waa(l)leetta s. ウイルタ族の氏族の一つ，日本姓は山川－ clan name.
waalli s. [acc. *waallee*] 戦争－ battle, war: *waalli poroxootu(ni)* 軍艦－ warship.
waalli-ni v. [perf. *waalixa-ni*] 戦争する－ fight.
waandakku s. [acc. *waandakkoo*] かつぎ棒: *waandakku moo* かつぎ棒。
waanǰee-ni v. [perf. *waandaxa-ni*] かつぎ棒で肩にかつぐ (ふたりが一本の棒でかつぐ): *mooǰi waanǰeeni.* 棒でかれはかつぐ (自分の肩に *muirəǰǰi waanǰeeni*)。
waannauǰǰi-ni v. [perf. *waannauduxa-ni*] もとのようにつるす (この語は伝承された即興歌 (*xəəgə*) にある)。
waannauri-ni v. [perf. *waannauxa-ni*] つるす (この語は伝承された即興歌 (*xəəgə*) にあらわれるという): *mookki waannaurini.* 木にかれはつるす。
waaŋǰee-ni U v. [perf. *waaŋdaxa-ni*] 猟に行く: *pəəttəə waaŋǰeeni.* かれはあざらしをとりに行く。
waapči-ni v. [perf. *waaptuxa-ni*] (獲物が) とれる: *waaptaini ajaa.* それがとれるといいな。
waapičče-ni NU v. [perf. *waapittaxa-ni*] かついでいる。
waapinǰi-ni v. [perf. *waapičči-ni*] 肩にかつぐ－ shoulder.
waari-ni v. [perf. *waaxa-ni*] 1. ころ (殺) す，とる (けだものやさかなを); 2. けがをする－ kill, catch (beast, fish); get hurt: *naatai waarini.* 地 (の神) へかれは (となかいを) 殺してささげる (病気をなおすため)。J／以下の例はすべて N *čaa narree waarini.* その人をかれは殺す。／*suŋdattaa waarini.* さかなをかれはとる。／*məəpi waarini* (かれが) 自殺する／*məəpi waawuri* 自殺－ suicide／*bii waaxambi.* おれはけがをした。／*ŋaalibi waaxani.* かれは手にけがをした。
Waasi G s. カラフト対岸の地名 (間宮林蔵『東韃地方紀行』にワーシとあるアムール川河口右岸の地点だろう)。
Waaska s. 人名 (男，*Muigəttə* 氏族，巫者)。
waatu G s. くまをとるとき使う猟具 (仕掛け弓の一部 J)。
waawoonǰi-ni v. [perf. *waawoočči-ni*] 殺される，殺させる－ be killed, make one kill: *čaa narree waawoonǰini.* その人を (またはその人に) かれは殺させる。／*čaa narree jəə narree waawoonǰini.* その人にこの人をかれは殺させる。／*əri nari čaa naridu waawoonǰini.* この人がその人に殺される。
wačči-ni v. [perf. *waččixa-ni*] けんかする。
wakkallee-ni JU v. [perf. *wakkalaxa-ni* U] ひねくれる (たとえば，ものをやっても受けとらない): *wakkalam ŋənuxəni.* ひねくれてかれは帰った。U／*suŋdattaa əččimbi bəərə beejini wakkalaxani.* さかなをおれがくれてやらなかったら (やらなかったので) かれはひねくれた。U
waŋgai s. [acc. *waŋgaiwa, waŋgakkee*] となかいの不妊のめす (ふとっていて肉がおいしい)。
waŋita s. [acc. *waŋittaa*] とどまつ－ white fir.
wapaa NGJ s. [acc. *wapakkaa* N] きのこ (*piičiga*) の一種 (とんぶし J) (落葉松に生じる，薬用，きずぐすりとなる J，また腹痛のとき服用し，下痢などにきく N)。
Warabainneeni s. ウイルタ族の氏族の一つ (*Daaji Səəktə* ともいう)，この氏族は虎 (*duusə*) から生まれたという，日本姓は大川－ clan name.
warinaakka s. [acc. *warinaakkaa*] 脱走囚 [＜ロ варнак] .
warkimačči-ni NU v. [perf. *warkimačixa-ni* U] 二人がことをきめるとき，ものを買うときなどにひとりがこう言えばもうひとりはああ言いなかなかきまらないでいる。
wasaa NJ s. [acc. *wasakkaa*] とりの一種 (つる (鶴) より小さいが似ている，足が長い J，渉禽類だろう) (おおさぎ G)。
Wasiiri s. 人名 (男，*Səəktə* の氏族，*Təŋəpeelə* さんの子) [＜ロ Василий ガ] .
Wasilai s. 人名 (男，*Taldaawu Səəktə* 氏族，中川和四郎氏の父のロシヤ名) [＜ロ Василей] .
Wasilaika s. 人名 (男，*Daaxinneeni* 氏族，北川源太郎氏の父)。
Wassuuka s. 人名 (男，*Naiputunneeni* 氏族) , *niŋmaa* を上手に演じた。
wau ワン (いぬのほえるこえ): *ŋinda wau wau guwweeni.* いぬがワンワンほえる。
waxi s. [acc. *waxxee*] こけの一種 (朽ちた蝦夷松・落葉松や焼けあとの地面に生ずる)。
weega s. [acc. *weegamba*] うずまき状曲線 (刺繍文様の基本的な型の一つ)。図 (*Napka* 画) 参照。


weega

Weera s. 人名 (女)，ウイルタ名は *Jambukka* [＜ロ Вера] .
weeri-ni v. [perf. *weexa-ni*] ま (曲) げる: *kərgigəmbə weerini.* 遊戯用の輪を (つくるとき) かれはまげる。
wel adv. やわらかくてこわれやすいさま: *wel wel očči* やわらかくてこわれそうな (たとえば，ほっちゃりのようなさかなのくさりかけたの)。
wəččə s. めすいぬ (おとなもこの語をつかう)。
wəədəǰǰi-ni v. [perf. *wəədəduxə-ni*] 帰るときくれて行く: *bəəmi*

wəədəduxəni. かれはくれて行った。U

wəədəpči-ni v. [perf. *wəədəptuxə-ni*] なくなる－ be lost, disappear: *mini mambakkabi wəədəptuxəni.* わたしのふたまた手袋がなくなった。

wəəgə a. へた (下手) な－ unskilful: *tari əəktə andusini wəəgə.* あの女はつくること (針しごと) がへただ。

wəəjjee-ni v. [perf. *wəədəxə-ni*] なくす N, わすれておいて行く U, 立ち去るときおいて行く N－ lose, leave behind: *məənə mambakkabi wəədəxəni.* かれは自分のてぶくろをなくした。N／*kučigəmbi wəədəxəni.* 自分の小刀を (やまに) おきわすれて来た。U／*məənə bəldunji wəəjjeeni.* かれは自分のかわりにおいて行く。N／*puttəbi wəədəmi ŋənəxəni.* かの女は自分のこどもをおいて行った (結婚したむすめが実家に同居していて遠方へわかれて行くときに)。U／*asibi wəəjjeeni.* かれは自分の妻とわかれる (離婚)。N／*əjibi wəəjjeeni.* かの女は自分の夫とわかれる (離婚)。N

wəənə s. [acc. *wəənnəə*] たば (束) － bunch: *bukpaa wəənəni* 魚のやきぼしのたば (*sinaska* でしばる) N, やきぼしをかますに入れてしばったもの U.

wəənni-ni v. [perf. *wəənuxə-ni*] あげしお (満潮) になる。

wəənu NJ s. [acc. *wəənnөө* N] あげしお (満潮): *wəənu xəjəni* みちしお N.

wəənujji-ni v. [perf. *wəənuduxə-ni*] しお (潮) があげてくる: *namu* (または *uni*) *wəənujjini.* 海 (または川) が満潮になってくる。

wəərə s. [acc. *wəərrəə*] 蠕動する虫 (毛虫もいう) － caterpillar: *sinaktalu wəərə* 毛虫。

wəəsəəčči-ni U v. [perf. *wəəsəəčixə-ni*] 千鳥足であるく。

wəəsipsə s. [acc. *wəəsipsəə*] スキー (*kumultə*) の上に足をくくりつける皮ひも。

wəltəli G s. 魚皮製のきもの (むかしの)。

wəskə s. [acc. *wəskəə*] そで (きものの)。

wəsku NJ s. [acc. *wəskөө* N] 木製のつち (たとえば家屋の外被にする魚皮を打つ，打ってうろこをとる G) (このつちはこどものころはあったがその後なく，この語も使わない N)。

winčiisəri s. 薬莢をいくつも入れる銃 (ウィンチェスター式連発銃) － Winchester rifle.

X

xaagbi-ni v. [perf. *xaagbuxa-ni*] (やかんやなべを火から，ふねやそりからにもつを) おろす: *təəwwəə xaagbini.* にもつをかれはおろす。

xaagbučči-ni v. [perf. *xaagbučixa-ni*] 陸へあげる (何回も)。

xaagbujji-ni v. [perf. *xaagbuduxa-ni*] (なべを火から) まだにえぬのにすぐおろす。

xaagdujji-ni v. [perf. *xaagduxa-ni*, *xaagduduxa-ni* (この二形は意味が多少異なるようである)] ふねが帰って着く，ふねから上陸して帰る。

xaagjuu NG s. 舟がいつも着くところ NG, かわうそがいつも水からあがるところ G.

xaagjee G s., *xaajjee* NJ s. おか (陸) の方 [ant. *taljee*]: *ugda xaajjeeni* (海上にある) 舟の陸の側 (そちらにあざらしが現れたような場合に言う) N.

xaagji-ni v. [perf. *xaakči-ni*] (舟が) つ (着) く，(人が) 舟からおりる－ reach land, get out of a boat: *ugda xaakčini.* ふねが着いた。／*kəjuwə xaakčini.* 貝が浜によった。／*tari nari jəkki xaagjini.* その人はここからふねをおりる。／*xaaŋmusi-ni* v. 着岸したい／*xaagboonji-ni* v. 着岸させる。

xaakčee-ni v. [perf. *xaaktaxa-ni*] ふねが着岸してまたすぐ沖にもどる: *jəkki ugda xaakčeeni.* ここへふねがちょっと着岸して沖へもどる。

xaakkičče-ni v. [perf. *xaakkitaxa-ni*] (舟が) 着こうとしている (舟を岸に着けようとその作業をしているとき): *ugda xaakkiččeeni.* ふねが着こうとしている。

xaakpanji-ni v. [perf. *xaakpačči-ni*] 追いつく－ overtake: *aagbi xaakpanjini.* 自分の兄にかれは追いつく。／*tuksami xaakpaččini.* かれは走って追いついた。

xaakpči-ni v. [perf. *xaakptuxa-ni*] 着岸できる: *təəwə xaakpčini.* 荷物はおかにあげられる。

xaal U: *xaal xaal owočči* 前後わきまえずに／*xaal xaal owočči xaiwa kəənjinee.* 前後わからずなにをかれは話しているのか。／*xaal xaal xawasai ŋənəiččeesee.* 前後わからずどっちへおまえは行こうとするのか。

xaalanda adv. ずっとまえに。

xaalapči G a. 以前の: *xaalapči uni* 以前の川。

xaalčee-ni v. [perf. *xaaltaxa-ni*] まちがえる－ make a mistake: *uiləmi*

xaaltaxani. かれは仕事をしていてまちがえた。

xaali adv. いつ－ when : *xaaliddaa* または *xaaliddəə* いつか－ some day／*xaaliddaa baaliŋapta*. いつか会おう。

xaalipči a. いつの : *xaalipči nattaa*. いつの皮か。

xaalǰi-ni G v. [perf. *xaalduxa-ni*] 大水のあと水がひく : *məə xaalduxani*. 水が大水のあと少なくなった。／*naa xaalduxani*. 地は大水のあと水がひいた。

xaan G s. : *xaan duŋni* 昔話に出る大男 (*kalǰami*) の家／*xaan duwasuni* カルジャメ (*kalǰami*) の家。

xaaŋni-ni v. [perf. *xaaŋnixa-ni*] 下船しに行く。

xaapsaanǰi NGJ s. 妖怪の一種 (飛んであるく NJ, 人をさらう N, 女にばける J, 人間のあたまに入る G)。

xaawu N pron. [acc. *xaakkoo*] , *xauwu* J pron. どれ, どちら－ which : *jəə ilaandula xaawu ajaa*. この三つのうちどれがいいか。N／*čaa dəələ xaawu maŋgaa*. その二つのうちどちらがつよいか。N／*xaakkoo gəlleesigə*. どちらをきみはほしいか。N／*xaawu nariga*. どの人か。N

xaawuǰǰi-ni v. [perf. *xaawuduxa-ni*] 沖に出てのあざらし猟からかえる, 遠いところからかえる : *joosondotomori xaawuǰǰiči*. かれらは沖へあざらしとりに行って来てかえって来る。

xababi s. [acc. *xababbee*] はい (肺) (人間, けだもの, 鳥の) － lung.

xabǰil G a. はばひろい。

xačči : *xačči xačči* a. いろいろな ; s. [acc. *xačči xaččimba*] : *xačči xačči bussoo itəxəmbi*. いろいろな布をわたしはみた。／*xačči xaččimba ǰiimagačči isuxambi*. わたしはいろいろなものを御馳走になってかえって来た。

xačči-ni v. [perf. *xatuxa-ni*] かぎ (*taasuma*) で魚をひっかける。

xačuwa s. 水を入れる器。

xaddau s. [acc. *xaddakkoo*] 人間, 土地すべてのものを創造した神。

Xagja s. 地名 (幌内川川上)。

xagǰičči-ni v. [perf. *xagǰičixa-ni*] 長い間食べないでいる。

xagǰi-ni v. [perf. *xagǰixa-ni*] 食べないでいる。

xagǰu NK s. [acc. *xagǰumba* N] , *xagdu* J s. 熊の穴, カラフトアイヌの冬の竪穴住居。

xai [1] pron. [acc. *xaiwa*] なに (何) － what : *xaidu* どこに－ where／*xaikki puličisigə*. どういうところをきみはあるいたか。／*xaiddaa* なにか－ anything, something, なんでも－ everything／*xaiddaa biini*. なにかある。なんでもある。／*jəə naadu xaiddaa biini billəə*. この土地にはなにか (の妖怪) がいるだろう。／*xaiddaa nari* なにかの人／*xaiwaddaa unu*. なにか言え。／*xaiddaa čipal* (または *gəəm*) *biini*. なんでもみなある。／*xaiddaa anaa*. なんにもない。／*xaiǰiddaa daaji*. なによりも大きい。

xai [2] s. [acc. *xaiwa*] 人間ののどぼとけの下の箇所 : *silma xaini* となかいのたづなのくびにまわした部分 (*čooraa* や *kaaŋalda* がつく箇所)。

xaijiččee-ni v. [perf. *xaijitaxa-ni*] 何しようとしている (たとえば, うろうろしている人へ言う)。

xaiǰǰi-ni G v. [perf. *xaiduxa-ni*] 何をまねしてする : *xaiduxanee*. なにまねしたのか (こどもがおとなのなにかをまねするとき言う)。

xairi s. [acc. *xairree*] さかなのたまご, すじこ－ roe.

xairi-ni v. [perf. *xaixa-ni*] なに (何) をする : *xaimi* なぜ－ why／*xaiwa xairiniga*. なにをかれはしているか。／*xaiwadda əsini xaira*. なにもかれはしていない。／*xaiwaijuu xairakka*. なにかかれは仕事している。／*xaimiddaa sinǰeellaa*. きっとかれは来るだろう。以上の例はすべて N／*xaimi əsisi dəptəə*. どうしておまえは食べないか。U

xaiska pron. どんな動物の皮 : *xaiskaa*. なにの皮か／*xaiskami uttaa*. なにの皮のくつか。

xajam NU, *xajamǰi* U adv. だいぶ, ずーっと, すっかり : *xajam* (または *xajamǰi*) *dərəǰixəni*. ずーっと (またはだいぶ) かれはおくれた (一緒に歩いていて)。NU／*xajam oŋboxombee*. すっかりぼくは忘れたー。U

xaǰa s. [acc. *xaǰamba*] はさみ－ scissors.

xaǰallee-ni v. [perf. *xaǰalaxa-ni*] はさみで切る。

xaǰǰi-ni v. [perf. *xaduxa-ni*] (使い古され) へ (減) る : *oksoo paawurani xaǰǰini*. そりの底のすべる木がへる。

xaǰu s. [acc. *xaǰumba*] 道具－ tool, 男の性器 : *pulipuri xaǰu* 乗りもの (舟・そり・となかいなど)。

xakčee-ni v. [perf. *xaktaxa-ni*] 去勢する－ castrate.

xakpil s. [acc. *xakpilba*] へや (日本家屋の) － room.

xakpina NG s. [acc. *xakpinnaa* N] 胸と腹の間の (みずおちの G) 部分。

xakta s. [acc. *xaktaa*] (となかいの) おす (去勢されたものもされぬものも言う) N－ male (reindeer), 去勢されたとなかいのおす G－ castrated reindeer male.

xala [1] NJ s. [acc. *xallaa* N] いぬのくび輪, となかいのくびに巻いたつな (これらについたつながそりを引くつな (*nusku*) につづく)。

xala [2] s. [acc. *xalamba*] 氏族 (父系外婚制) － clan, sib : *xalal* 氏族の人々。

xala [3] : *xala xala* いろいろな－ various : *xala xala ǰakka* 種々の宝物。

xalačči-ni v. [perf. *xalačixa-ni*] ま (待) つ－ wait: *puttəbi urreewəni xalaččini.* 自分の子が成長するのをかの女は待つ。

xalbirakta NJ s. [acc. *xalbiraktaa*] 草の一種 (すげ J) (アイヌ人はこれでござをつくる N)。

Xalbu s. 人名 (男), 俗称 (本名は *Tuŋgukkə*)。

xalda NJ s. [acc. *xaldaa*] 腹の肉 (けだものやあざらしの, 鳥については言わない N)。

xaldu G s. すずがも (食用)。

xalisi-ni NU v. [perf. *xaliči-ni* N] 死ぬときにいぬが苦しがり, よわい息をする, 魚がばたばたする U: *ŋinda xalisini.* 死ぬいぬがよわい呼吸をする。U／*suŋdatta xalisini.* 死ぬ魚がばたばたする。U／*bulmi xalisini.* 死にながら息をたえだえにする。N

xalǰeeri-ni v. [perf. *xalǰeexa-ni*] はじ (恥) をかく: *nari xalǰeerini.* 人がはじをかく。

xalǰi-ni v. [perf. *xalǰixa-ni*] けず (削) る (おのなどで) － shave (a piece of wood, etc.): *moowo masaariǰi xalǰini.* 木をまさかりでかれは削る。

xalǰipsa s. [acc. *xalǰipsaa*] (手まさかりで削った) 木のくず, こっぱ。

xalleeri-ni v. [perf. *xalleexa-ni*] そりにいぬまたはとなかいをつける: *ŋindaa xalleerini.* いぬをかれはそりにつける。／*ulaaba xalleerini.* となかいをかれはそりにつける。

xalluunǰi-ni NGJU v. [perf. *xalluučči-ni* NU] よこをむ (向) く N, くびをまげてよこをむく GJU － turn sideways, turn one's head: *tawasai xalluunǰini.* そっちへかれは向く。

xalluurri-ni GU v. [perf. *xalluurixa-ni* U] くびをまげて左右に向く。

xalpičči-ni GU v. [perf. *xalpičixa-ni*] 刺して引いて切る (何回も) (小刀であざらしなどを)。

xalpinǰi-ni v. [perf. *xalpičči-ni*] きりさく: *kučigənǰi xalpinǰini.* 小刀でかれは (小刀は自分の方へ引いて一気に U) 切りさく。／*taarraa xalpikkačči doromočini.* かれはたわらを切りさいてぬすんだ。

xalukta s. [acc. *xaluktaa*] (頭などの皮膚から出る) ふけ－ dandruff.

xamačiga a. どんな－ what kind of: *xamačiga busuwa.* どんな布か。

xamarree s. [acc. *xamarreepa*] 後方, うしろ, あと－ back, the time after: *xamarreela ŋənneeni.* かれはあとで行く。／*xamasai* あとへ／*xamarakkeeni* そのあとに。

xamarri-ni v. [perf. *xamarixa-ni*] おくれる, 間に合わない: *ulaa guusinǰiwani kətəəttəə xamarixambi.* となかいが駆け出すのにもうすこしでおれはおくれるところだった。

xamaruu s. うしろ: *xamaruu oksoo* (連続するそりのなかの) あとのそり。

xamatana NGJ s. [acc. *xamatannaa* N] となかいの五歳のおす GJ.

xamdatta s. [acc. *xamdattaa*] は (葉) － leaf.

xana s. [acc. *xannaa*] けんぺき (肩のこり): *xannaa simmini.* けんぺきをかれはとる (血を口ですってとる)。

xanallee-ni G v. [perf. *xanalaxa-ni*] けんぺきになる。

xanigačči-ni NG v. [perf. *xanigačixa-ni*] 本腰を入れずに行動している (たとえば, 他人のはなしをきかずによそみしている, 仕事をせずによそみしている) N, うさぎ, きつね, かわうそなどがいるかいないかをみてあるく G: *nari xanigaččini.* 人が仕事をせずよそみしている。N／*əm uilləə xanigačči-ni.* かれははたらかずにぶらぶらしている。N／*purəkki čakkii xanigačimii gəlleeni.* そこらのやま (*purə*) をあそびながらかれは (けだものを) さがしている。N

xaŋattura s. [acc. *xaŋatturraa*] 木の一種 (細く低い, 茎のなかに髄 (*xumalda*) がある) (にわとこ J)。

xaŋdaččee-ni v. [perf. *xaŋdataxa-ni*] なにしに行って来る。

xaŋǰee-ni v. [perf. *xaŋdaxa-ni*] 何をしに行く (来る): *čala xaŋǰeenee.* そこへかれはなにしに行くか。／*jələ xaŋǰeenee.* ここへかれはなにしに来るか。

xaŋmee-ni v. [perf. *xaŋmaxa-ni*] か (枯) れる－ wither: *moo xaŋmeeni.* 木がかれる。

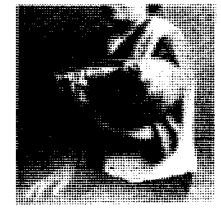
xaŋŋee s. [acc. *xaŋŋeepa*, *xaŋippa*] そ (逸) れたわき (脇) の方, 異なる別の方: *mini xaŋŋeepi təəru.* おれのわきにすわれ。／*xaŋŋee xaŋŋee očči.* かれらは別々に (わかれわかれに) なった。／*xaŋisai* わきの方へ。

xap: *xap xap naaxa* くちがあかずに化膿した (はれもの (*uksi*) について言う)。

xapa s. [acc. *xappaa*] すかんこ, すいば (食用) (ウラジロイタドリ) － esculent plant.

xapinau s. [acc. *xapinakkoo*] はち (蜂) － bee.

xapitanǰi-ni NJ v. [perf. *xapitačči-ni* N] うでの下膊をまげてあげ上膊との間にものをはさむようにもつ。写真参照。



xapitanǰini

xapsau NG s. [acc. *xapsakkoo* N] 頭蓋骨のあなにはいるくびの (さきの) 骨 (けだもの・人間の)。

xapsi-ni v. [perf. *xapsixa-ni*] 訴える: *ǰaŋgeettai xapsiwi.* 警察におれは訴える。

xapsičči-ni U v. [perf. *xapsičixa-ni*] 訴えている，つづけて訴える。
xapuska J s. うおのふえ，うきぶくろ (魚の)。
xara s. [acc. *xarraa*] カバンを肩にかける布や皮のひも。
xaragǰi s. [acc. *xaragǰee*] チョッキ (ウイルタの従来の衣服にはない)。
xaralli-ni NU v. [perf. *xaralixa-ni* N] くっついているもの (たとえば，紙) をはがす。
xarapsa s. [acc. *xarapsaa*] となかいのなめし皮－ tanned leather.
xarixi s. [acc. *xarixxee*] 樹木の一種 (かたい (*masi*))。
xarpu N s. [acc. *xarpoo*] , *xalpu* U s. (白鳥などのつばさや尾ばねでつくった) ほうき，うちわ N－ feather broom, feather fan.
xarpuurri-ni N v. [perf. *xarpuurixa-ni*] , *xalpuurri-ni* U v. (ほうきで) はく，(うちわで) あおる－ sweep with a broom, fan: *booppo xalpuurru.* 外をそうじしろ。U
xarukki NJU s. [acc. *xarukkee* N] (鳥，殊に *pinu, kabbeela* などの) 嗉嚢 (こどもは *kabbeela* などのこれをかわかし，風船のようにふくらませてあそんだ U)。
xasa s. [acc. *xassaa*] つばさ－ wing.
xasačči-ni [1] U v. [perf. *xasatuxa-ni* N] あとを追って来る: *goči mimbee xasaččini.* またわたしをかれは追ってくる。U／*goči xasatuxani.* またかれはあとを追って来た。N／*xasatumi issini.* かれはあとを追って帰って来る。U
xasačči-ni [2] v. [perf. *xasačixa-ni* U] あとを追う (何回も): *xasultadda xasaččini.* なんどもかれはあとを追う。U
xasakčee-ni v. [perf. *xasaktaxa-ni*] 何回もあとを追ってさがしてあるく (異性を): *naa naakki xasaktami asilaxani.* 方々あとを追ってさがしあるいてかれは妻とした。
xasaktamačči-či v. [perf. *xasaktamačixa-či*] たがいに追いまわす (男女が)。
xasasi-ni v. [perf. *xasači-ni*] お (追) う，おいかける－ pursue, chase: *əəktəə xasasini.* 女をかれは追う。／*sirəmbə xasasini.* 山となかいをかれは追う。
xasikta s. [acc. *xasiktaa*] えぞまつ (蝦夷松) － silver fir, spruce.
xasiŋi NJ s. えぞまつ・とどまつだけが一面にはえているところ。
xassee num. いくつめ: *tari əəktə xasseeniga.* あの女は妊娠なんか月か。／*xasseesiga.* あなたは妊娠なんか月なの。／*xasseeni oččiniga.* (妊婦は) なんか月めになったか。
xasu num. [acc. *xasumba*] いくつ，いくつの，いくらの－ how many, how much: *xasu beega.* 何月か。／*xasu čaasiga.* 何時か。／*əri xasukkaa.* これはいくらか (価格が)。／*xasumba naaǰǰeesiga.* いくつきみは要るか。／*xasu xasunda* いくつも／*xasunnee* なん人。

xasunuk: *xasunuk xasunuk* 赤ん坊がはいはいの手をむすんだり開いたりするさま。
xasunukki-ni v. [perf. *xasunukkuxa-ni*] 赤ん坊がはいはいの手をむすんだり開いたりする: *puttə xasunukkini.* えい児がはいはいする手をむすんだり開いたりする。
xatučči-ni v. [perf. *xatučixa-ni*] さ (刺) す (何回も)，ぬ (縫) う (かえし縫い) － prick, sew: *xamasai xatučimi urpuri* あとへ刺して縫うこと (バックステッチ，返し縫い)。
xatullee-ni v. [perf. *xatulaxa-ni*] (針などで) さ (刺) す－ prick: *kitaanǰi xatulleeni.* はりでかの女は刺す。N／*xapinau xatulleeni.* はちが刺す。N／*dooktori xatulleeni.* 医者が種痘をする。N／*seembani xatulleeni.* かの女はほかの女の耳を刺す (耳かざりをつけるあなをつくるために，耳たぶをもんで痛みをなくし，二枚の樺皮ではさんで，糸につけたはりを刺す)。N／*taasumaǰi xatulleeni.* 漁獲用のかぎでかれは (さかなに) つきさす。G
xaul adv.: *xaul biini.* かれはだまっている。N／*xaulta biini.* かれは知らぬふりしている。G
xaulee adv. とうとう－ finally, at last: *xaulee bəəxəni.* とうとうかれはくれた。／*xaulee xoǰixambi.* おれはやっとできた (おえた)。
xaulli-ni v. [perf. *xauluxa-ni*] は (腫) れる－ swell: *ŋaalibi xauluxani.* おれの手がはれた。
xauni a. やかましい，うるさい (この語は述語として使う): *xauni xəməə buu.* うるさい，だまっていろ。／*xaunee.* うるさいなー。
xaunisi-ni v. [perf. *xauniči-ni*] やかましがる (うるさがる，うるさく感ずる)。
xaunuuli a. (音が) やかましい，うるさい，そうぞう (騒々) しい－ noisy; s. [acc. *xaunuullee*]: *xaunuuli nari* 騒々しい人。
xaupinǰi-ni U v. [perf. *xaupičči-ni*] ちょっと拭く: *xaupinu.* ちょっと拭け。
xauptaŋi s. 茶わんなどをふくもの (布，むかしは，低木の茎のなかのやわらかい部分をとり出したもの (*sauri*) を使った)。
xaurajǰi-ni U v. [perf. *xaurajixa-ni*] はらが鳴る (空腹のときに): *paaxa xaurajǰini.* おなか (肝臓) がぐーぐーなる。／*čeennee paaxa xaurajixani.* きのうははらが鳴った。
xauri s. [acc. *xaurree*] 小刀やかたなの柄の留めに鉄片をまいた部分。
xauri-ni v. [perf. *xauxa-ni*] ふ (拭) く－ wipe: *alukkoo xaurini.* 入れものをか

の女は拭く。／ *puttəbi dərəlbəni xaurini.* 自分の子の顔をかの女は拭く。

xaus adv. ぐっすり (ねむる), ばったり (急死する): *xaus aurini.* ぐっすりかれはねむる。／ *xaus buccini.* ばったりかれは死んだ。

xausali s. [acc. *xausallee, xausalba*] かみ (紙) − paper.

xawa N s. [acc. *xawwaa* N, pl. *xawal* G] 仕掛け弓のやじりや銛さきにおけるような後方突起, あげ: *dəəji xawalu.* 二つあげがついている。N

xawani s. [acc. *xawannee*] わきのした− armpit.

xawanipinji-ni J v. わきのしたにかかえる。

xawassi-ni NU v. [perf. *xawasixa-ni*] (呼吸など) くるしくなる (死ぬとき) N, あばれる (酒に酔って, あるいは, 死ぬとき苦しくて) U: *tari nari arakkee umigacci xawassini.* その人は酒を飲んであばれる。U／ *soktowocci xawassini.* 酔ってかれはあばれる。U

xawitta NG s. [acc. *xawittaa*] (魚の) はらびれ (鰭) − ventral fin.

xawwanji-ni NJ v. [perf. *xawwaccí-ni* N] うみなり (なみの音) がする (この音がするとその方向からかぜがふく J): *namu xawwanjini.* 海がうみなりする (つぎの日その方向からかぜがふく J)。NJ

xawwee s. [acc. *xawweepa*] どの方, どちらの方− what place, where: *xawwee biinigə.* どっちの方にかれはいるか。／ *xamaccuu* どこから− from where／ *xawasai* どこへ, どちらへ− whither／ *xawasai ŋənneesigə.* どこへきみは行くか。

xaxaa NU s. [acc. *xaxaamba* N] こけももの一種のその実 U.

Xeedarga s. [acc. *Xeedargamba*] 人名 (男)。

xəccee-ni v. [perf. *xətəxə-ni*] 1. (おもいものを力をいれて) あげる: *jəwə xəccéesii.* これをおまえはもち上げられるか。2. できる (たとえば字をよむことができる)。

xəcci-ni v. [perf. *xətuxə-ni*] 立ち寄る: *čaa dugba xətuxəmbi.* その家におれは寄った。

xədəcci-ni v. [perf. *xədəčixə-ni*] 縫ったものをほどく: *tətuwəbi xədəccini.* 自分のきものをかの女はほどく。／ *urpittəə xədəccini.* 縫ったいとめをかの女はほどく。

xədu s. [acc. *xədumbə*] かぜ (風) − wind: *xədulə anaa.* 風がない。

xədulli-ni v. [perf. *xəduluxə-ni*] (風が) ふきはじめる: *xədu xəduluxəni.* 風がふきはじめた。

xədunji-ni v. [perf. *xəducci-ni*] (風が) ふ (吹) く− (the wind) blow: *xədu xədunjini.* 風がふく。

xədupillee-ni v. [perf. *xədupiləxə-ni*] 風でふきとぶ: *bookki loopula xədupiləxəni.* 外へ掛けたものが風でふきとんだ。／ *bilaatu xədupiləxəni.* 頭布が風でふきとんだ。

xəduu s. 川しも (下): *xəduu omoo* 川下の湖／ *xəduu uniga* 川下の小さい川。

xəəgə s. [acc. *xəəkkəə, xəəgəmbə*] 即興歌 (ウイルタ族の口頭文芸のジャンルの一つ) − improvised song.

xəəkkee-ni v. [perf. *xəəgəxə-ni*] 即興歌をうたう: *xəəkkəuri* 即興歌をうたうこと／ *xəəgəmusi-ni* v. 即興歌をうたいたい／ *xəəkkəunji-ni* v. 即興歌をうたわせる。

xəəllee-ni U v. [perf. *xəələxə-ni*] 人を大切にする: *nəuwi xəəlleeni.* 自分の弟をかの女は大事にしてかわいがる。／ *jeewi xəəlleeni.* 自分の仲間をかれは大事にしてなかよくする。

xəərri-ni v. [perf. *xəərixə-ni*] こす (擦) る− rub: *nattaa xəərrini.* 皮をかの女はこする (あざらしの皮をあぶらをとるために *kədərə* で)。

xəəxə s. [acc. *xəəgbə*] (あざらしの皮の) ひも, つな− thong.

xəjə NU s. [acc. *xəjjəə*] (川の) 流れ U, 急流, (海の) しおのはやいところ N− swift current.

xəjəi adv. 川しもへ− downstream: *xəjəi xəjjəənjini.* 川しもへかれはくだる。

xəjəpillee-ni v. [perf. *xəjəpiləxə-ni*] なが (流) れる: *moo xəjəpilleeni.* 木が川をながれる。／ *məə xəjəpilleeni.* (ゆかにこぼれた) 水がながれる。

xəjəssi-ni G v. 人が川でながされておぼれる: *xəjəsuxə* 川でながされておぼれた人。

xəjjee-ni v. [perf. *xəjəxə-ni*] なが (流) れる− flow; も (漏) る− leak out: *məə unikki xəjjeeni.* 水が川をながれる／ *ugda xəjəxəni.* (つないでおいたのがとけて) 舟がながれた。／ *səəksə xəjjeeni.* 血がたらたら出る。／ *kəccəəli xəjjeeni.* バケツが漏る。− The bucket leaks.

xəjjəənji-ni v. [perf. *xəjjəəcci-ni*] 川下へくだる− go down a river: *ugda xəjjəəccini.* ふねは川下へくだった。／ *ugdaji xəjjəənjini.* ふねでかれはくだる。／ *unnee xəjəi xəjjəənjini.* 川を川下へかれはくだる。

xəjji-ni v. [perf. *xəixə-ni*] なが (流) す− let flow: *ugdabi xəixəni.* 自分のふねをかれは流してしまった。

xəjjee s. [acc. *xəjjeepə*] かわしも (川下) の方− the lower part of a river.

xəkku NK a. 暑い K (この語は述語として使う): *xəkku tauk osu.* 暑い, もうすこしむこうへいけ。N／ *xəkkəə.* 暑いなー。N

xəkkusi-ni v. [perf. *xəkkuči-ni*] あついと感じる: *əsinəŋi xəkkusini.* きょうは

あつい。／ *bii xəkkusiwi.* おれはあつい (高い気温や病気の高熱によって)。

xəkkuuli a. あつ (暑) い－ hot : *xəkkuuli inəŋi* 暑い日。

xəkpədənəsi-ni v. [perf. *xəkpədənəči-ni*] なんども欠ける : *naa xəkpədənəsini.* 地が欠ける。／ *duwə xəkpədənəsini.* 氷が欠ける。

xəkpəə a. 欠けた : *xəkpəə čaami* 欠けた茶碗。

xəkpəǰǰee-ni v. [perf. *xəkpədəxə-ni*] か (欠) ける (地，山，氷などが) : *uni məgǰini xəkpəǰǰeeni.* 小高い川ふちが欠ける。

xəkpəlli-ni v. [perf. *xəkpəlixə-ni*] 欠く (一回) : *dukkəə xəkpəllini.* 氷をかれは欠く (あみを入れるために川の氷にまさかり (*masaari*) あるいは氷のあなあけ棒 (*duučikku*) であなをあける)。

xəkpəssi-ni v. [perf. *xəkpəsuxə-ni*] 欠く (何回も) (地 (*naa*) は神のいるところでばちがあたるから地は欠かない) : *dukkəə xəkpəssini.* 氷をかれは欠いている。

Xəldə s. [acc. *Xəldəə*] 振戸 (フリト) (多来加湖に入る振戸川の沿岸)。

xələə G s. つばめ。(人によりこれを *xələi* とも言うという。)

xələi NJ s. [acc. *xələkkee* N] つばめ J，くびの短い鳥 (尾曽川の奥で晩にみたというがこれとつばめとの異同は不明) N.

xəlǰəǰǰee-ni v. [perf. *xəlǰədəxə-ni*] あお向けにねる。

xəlǰəm adv. あお向けになって : *xəlǰəm aurini.* あお向けになってかれはねている。U

xəmbəəru a. よく走る (ふね，スキーが) N，よくきれる (刃が) N－ fast, sharp, ひびきがいい (声が) G, s. [acc. *xəmbəərrөө*] : *xəmbəəru ugda* よく走るふね／ *xəmbəəru kumultə* よく走るスキー／ *xəmbəəru kučigə* よくきれる小刀。

xəməə adv. だまって－ in silence : *bimiddə xəməə biini.* かれはいてもだまっている。

xəmu s. [acc. *xəmmөө*] 矢筒 (歩行のときは背負う，騎乗のときはとなかいにつける)。

xənnuullee-ni v. [perf. *xənnuuləxə-ni*] ばかにする－ make a fool of, treat as a fool : *čaa narree xənnuulleeni.* その人をかれはばかにする。

xənumi a. かる (軽) い－ light ; s. [acc. *xənummee*] .

xəŋbə NJ a. ゆるい (大きいものに小さいものを入れた様子，たとえば，きものが大きすぎてだぶだぶなさま)，声がたかい : *ərgəni xəŋbə.* かれの声はたかい。J／ *ərgəni xəŋbələni.* そのこえがたかいな (いぬ，人間のこえがたかいとき言う)。J／ *kəsəni xəŋbə.* かれのことばは声がたかい。N

xəŋdəə G s. 当歳 (*balǰixani ananiŋuni*) のとなかい : *suwə* (または *namuwa*)

xəŋdəə おす (またはめす) の当歳となかい。

xəŋgəjə s. [acc. *xəŋgəjjəə*] 胴の帯をしめる箇所，胴まわり : *xəŋgəjəni ǰiktu.* かの女の胴まわりはふとい。／ *xəŋgəjəni nəmdə.* かれの胴まわりはほそい。

xəŋŋөөnisi-ni v. [perf. *xəŋŋөөniči-ni*] おそろしく感ずる : *nari xəŋŋөөnisini.* 人がこわがっている。

xəŋučči-ni v. [perf. *xəŋučixə-ni*] となかいがなく (*xrr* のようになく，*soondoo* は *xaux xaux* となく)。

xəpəə NG a. 雨や雪でつめたくぬれている : *xəpəə boowoo.* ずぶぬれだ，えらい天気だなあ。N／ *xəpəə boo tugǰeewəni.* 雨でずぶぬれだ，降るなあ。N／ *xəpəə xəpəə gəəm čikpaxambi.* つめたい，つめたい，おれはすっかりぬれた。G／ *xəpəə čipal čikpaxambi.* つめたい，おれはすっかりぬれた。NU

xəppəǰǰi-ni v. [perf. *xəppəǰixə-ni*] きえる (火が) : *tawa xəppəǰǰini.* 火がきえる。

xəppəulli-ni v. [perf. *xəppəulixə-ni*] (火を) けす－ put out (a fire) : *tawwaa* (または *saŋnamba*) *xəppəullini.* 火を (またはたばこを) かれは消す。

xəptullee-ni v. [perf. *xəptuləxə-ni*] (きついのを) ゆるめる－ loosen : *umulbi xəptuləxəni.* 自分のおびをかれはゆるめた。

xəptuu a. ゆるい－ loose ; s. [acc. *xəptuumbə, xəptukkөө*] : *xəptuu osi-ni* ゆるくなる－ become loose／ *umulbi xəptuu osini.* わたくしのおびがゆるくなる。／ *xəptuu umul* ゆるい帯／ *xəptuunǰi ujjini.* ゆるくかれはむすぶ。

xərəə NU adv. もうすこし，すこし : *xərəə bөөru.* すこしくれ。N／ *xərəə baramba gəlleewi.* もうすこし多くおれはほしい。N／ *xərəə ojjee gəlleewi.* もうすこしすくなくおれはほしい。N／ *xərəə poojju.* すこしたせ。N／ *xərəə auwoonu.* もうすこし寝かせておけ。U／ *xərəə bipee ŋənneewi.* もうすこしいてからおれは行く。N／ *xərəə xərəə* もうすこし，すこしずつ N／ *xərə xərə* すこしずつ G.

Xərəitu U s. 地名 (敷香川の奥，ウイルタがいた，川が *oondo* のようになっている)。

xərəktə s. [acc. *xərəktəə*] (人間の) 皮膚－ (human) skin.

xərəlli-ni v. [perf. *xərəlixə-ni*] まわる－ go round (e.g. a pond) : *dugba xərəllini.* 家のまわりをかれはまわる。N／ *omoombo xərəlimi pulisini.* 沼のまわりをかれはあるいている。N／ *dugba xərəlimi biini.* (木が) 家のまわりにある。N／ *ǰilibi xərəllini.* わたしは目がまわる。U

xərəssi-ni v. [perf. *xərəsixə-ni*] 禁止する，やめさせる，とめる－ forbid : *ŋənneewəni xərəssini.* 別の人が行くのをかれは禁ずる。

xəripu s. [acc. *xəripumbə*] スコップ (鉄製，雪かきなどにつかう) − shovel.

xərri-ni NU v. [perf. *xərixə-ni*] かきのける (雪，砂，ごみを): *simattaa xərixəni.* ゆきをかれはかきのけた。U／*xonoktoo xərrini.* (浜の) 砂をかれはかきのける。U

xəsiktə s. [acc. *xəsiktəə*] うろこ (鱗) − scale.

xəssəm, xəsəmǰi adv. とりがつばさをひろげたままとぶ (*koonǰee*) ときのつばさを大きくひろげているさま: *gasa xasani xəssəm koonǰeeni.* 鳥がつばさをひろげて羽ばたかずに飛ぶ。／*gasa xasani xəsəmǰi.* とりのつばさが大きくひろげられている。

xətuččee-ni v. [perf. *xətutəxə-ni*] 立寄っている。

xətučči-ni [1] v. [perf. *xətučixə-ni*] いねむりしている。

xətučči-ni [2] v. [perf. *xətučixə-ni*] ひっぱってきる (何回も)。

xətuiččee-ni v. [perf. *xətuitəxə-ni*] 立寄ろうとしている。

xətuǰǰee-ni v. [perf. *xətudəxə-ni*] (つな，いとなどが) きれる (ひっぱられて)。

xətuǰǰi-ni v. [perf. *xətuduxə-ni*] ふたたび立ち寄る: *goči xətuduxəmbi.* またぼくは立ち寄った。U／*čaa dugba xətuduxəni.* その家にかれはまた寄った。N

xətunǰi-ni v. [perf. *xətučči-ni*] (たとえば手で) ひっぱってきる − break (a string)，た (断) つ: *kupəmbə xətunǰini.* 糸をかれは (手で) ひっぱってきる。／*ərgəmbi xətuččini.* 自分の命をかれは断った。

xəučilə s. [acc. *xəučillələ*] あばらぼね − rib.

xəujəǰǰee-ni v. [perf. *xəujədəxə-ni*] かたむく − tilt: *duxu xəujəǰǰeeni.* 家屋がかたむく。

xəujəu a. かたむいた: *xəujəu duxu* かし (傾) いだ (倒れそうな) 家。

xəundəi adv. よこ (横) に − breadthways: *xəundəi darami.* 横にはばひろい。／*xəundəi akpanǰini.* よこに (戸口と上座を結ぶ線と直角に) かれはねる。

xəunǰipi NJ s. [acc. *xəunǰimbə* N] 戸口のおおいに水平に (横に) とりつけた棒 N，屋内の火棚 (*kipərə*) にわたした一本の棒 (炉かぎを掛ける) J.

xəwəčči-ni v. [perf. *xəwəčixə-ni*] よ (呼) ぶ − call.

xəwəčipinǰi-ni v. [perf. *xəwəčipičči-ni*] ちょっと呼ぶ。

xəwəiǰǰi-ni v. [perf. *xəwəiduxə-ni*] よ (呼) んでいる: *puttə ənimbi xəwəiǰǰini.* こどもが自分の母をよんでいる。

xəwərə s. [acc. *xəwərəmbə*] みずうみ (湖) − lake.

xijosko a. あながたくさんあいている (枯れている U): *xijosko moo* あながたくさんあいている木。

Xiranaka U, *Siranaga* N s. [acc. *Siranagamba*] 北川平吉氏。北海道に移住。

xobobbee-ni v. [perf. *xoboboxo-ni*] きつねがなく (*xobobobo* となく): *suli xobobbeeni.* きつねがなく。

xoččee-ni v. [perf. *xotoxo-ni*] は (禿) げる − become bald.

xočči s. [acc. *xoččimba*] あいさ (水鳥) (食用 G): *namu xoččini* うみあいさ G／*uni xoččini* かわあいさ G.

xodou a. かしいだ (*xəujəu* の類語，*kaura* のような家屋が U): *xodou duxu* かしいだ家。

xogboli s. [acc. *xogbolimba*] 動脈，脈拍 − pulse.

xoglixi NJ s. [acc. *xogliximba* N] 植物の一種 (いそつつじ (*səəkkurə*) に似る N)。

xoilinǰi-ni NGU v. [perf. *xoiličči-ni*] 悪口を言ってあるく，悪口を言いふらす，よっぱらいなどへんな人をみてわらったりする。

xoisa s. [acc. *xoissaa*] あわ (泡) − foam.

xojol GJ s. 三歳のくま。

xojoo s. [acc. *xojokkoo*] いちご (やまいちご，やちいちご，この植物全体またはその実をさしていう J) (ホロムイイチゴ) − raspberry.

xoǰičče-ni v. [perf. *xoǰittaxa-ni*] 当歳のふいりあざらしのわた毛 (*kəppəsi*) が普通の毛にかわる (あざらしのほか，となかい，いぬ，くま，うさぎなどについてもいう U): *sinaktani xoǰiččeeni.* その毛がわた毛から普通の毛にかわる。／*xoǰittaxa ləkkə* わた毛から普通の毛にかわった当歳のふいりあざらし。

xoǰiǰǰi-ni v. [perf. *xoǰiduxa-ni*] 中止する，やめる − stop (discontinue): *uiləmǰikəə xoǰiduxani.* かれははたらいていて途中でやめた。／*ŋənəitəgəčči xoǰiduxambi.* わたしは行きたかったがやめた。

xoǰǰee-ni v. [perf. *xodoxo-ni*] かたむ (傾) く: *ugda xodoxoni.* ふねがかたむいた。

xoǰǰi-ni v. [perf. *xoǰixa-ni*] おわる，おえる − end, finish: *əri uiləkku xoǰixani.* この仕事はおわった。／*jəə uiləkkəə xoǰixani.* この仕事をかれはおえた。／*andumi xoǰixani.* かれはつくりおわった。／*xoǰim(i) sagdanduxani.* かれはすっかり老いた。／*xoǰimi xumanaxa* すっかりやせた／*xoǰimi orki.* 極めて悪い。

Xokkaidoo s. 人名 (男，*Səəktə* の氏族) [＜日 北海道]。

xoksiga s. [acc. *xoksigaa*] 病気の一種 (海の神にとがめられてなる病気。歩くこともできなくなる)。

xoldo s. [acc. *xoldombo*] わき (脇)，かたわら − side: *aanǰee xoldo* 右側。

xoldoččee-ni v. [perf. *xoldotoxo-ni*] かわいている。

xoldoptoi adv. 横むきに: *xoldoptai aurini.* 横向きでかれは眠る。

xoldosko s. [acc. *xoldoskoo*] 棺 (えぞ松や落葉松の板でつくる。林のなかの立木を切ってその幹の上に置くか，または木の株を切ってその上にすえる。あとの場合の棺は丸太でつくったもの G, 古くは棺をつるしたという N) − coffin: 〔葬制〕 *suun tukkini baaruni* (または *buni baaruni*) *buččinnee ǰilleeni əksəuri.* 日の沈むほう (よみの国の方) に死者のあたまをおく。G

Xoldoxo s. 人名 (男，*Seəktə* の氏族)。

xolǰee-ni v. [perf. *xoldoxo-ni*] かわ (乾) く − dry: *siltuxambi xoldoxoni.* わたしが洗ったものがかわいた。／ *bildabi xolǰeeni.* ぼくはのどがかわく。− I am thirsty.／ *xoldoxo suŋdatta* (加工でなく) 乾いたさかな／ *xoldoxo orokto* とっておいて乾いた草。

xolǰi-ni v. [perf. *xolǰixa-ni*] かわかす − dry something: *nattaa xolǰini.* 皮をかれはかわかす。／ *čikpaxamba xolǰini.* ぬれたのをかれはほす。／ *bookkee xolǰixani.* そとでかの女はかわかした。

xolǰičči-ni v. [perf. *xolǰičixa-ni*] かわかしている: *bussoo xolǰiččini.* 布をかの女は乾かしている。

xolǰinau NG s. [acc. *xolǰinakkoo* N] 屋外のもの干し場 (さきがまたになった棒 (*laapa*) を二本立てその間に掛け木を渡してある。さかなやそのほかきもの，ふとんを干す)。

xonokto s. [acc. *xonoktombo*] すな (砂) − sand.

xoo s. くま (熊)。

xoŋgokto s. [acc. *xoŋgoktoo*] 雪のやま，雪の吹きだまり。

xoŋǰee a. こげくさいなー。

xoŋǰisi-ni v. [perf. *xoŋǰiči-ni*] こげくさい。

xoojji-ni v. [perf. *xoojixa-ni*] なおす − cure: *pujəbi xoojjini.* 自分のきずをかれはなおす。

xookkaallee-ni J v. [perf. *xookkaalaxa-ni*] 棒をついて跳ぶ。

xoolbi-ni v. [perf. *xoolbuxa-ni*] きつねがなく: *suli xoolbini.* きつねがなく。

Xooma s. 人名 (男，*Seəktə* の氏族)。

xoombo NG s. [acc. *xoomboo* N] 喉頭，のどぼとけ (そとからみえる)。

xooni adv. どのように − how: *xooni andusisiga.* どういう風にきみはつくるか。

xoopu s. [acc. *xoopumba*] まさかり (老人が言う)。

xoopullee-ni v. [perf. *xoopulaxa-ni*] き (切) る: *masaariǰi moowo xoopulleeni.* まさかりで木をかれは切る。

xoorimu J s. となかいの肛門。

xoori-ni v. [perf. *xooxo-ni*] 1. なおる (きずが) − (wound) heal: *pujəni xooxoni.* かれのきずがなおった。2. おので打ってき (切) る − chop: *ilisi moowo xoorini.* 立っている木をかれはまさかりできる。

xooso s. [acc. *xoossoo*] すねの毛皮 (となかいやいぬの) − leg fur.

xoottoi adv. どっちへ: *xoottoi ŋənneesigə.* どっちへおまえは行くか。(これに答えて *soloi ŋənneewi.* 川かみへおれは行く。)

xoppokto s. [acc. *xoppoktoo*] まゆげ − eyebrow.

xori[1] num. [acc. *xorimba*] 二十 − twenty: *xori geeda* 二十一 − twenty-one ／ *xori dəə* 二十二 − twenty-two／ *xori ilaa* 二十三 − twenty-three.

xori[2] NG s. [acc. *xorimba* N] 女子に対してかの女が不妊・病弱やその他のことから夫との性関係を認め許す女: *əəktə xorini* 妻である女が夫に許す女 N; 男子に対してかれが妻との性関係を認め許す男 (兄弟) (ニブフ人に一例あったという) G.

xoripu G s. 両刃の刃物 (*itto, ittoo, kombo* をつくるのに使う)。

xorkee-ni v. [perf. *xorkoxo-ni*] どろぼうをしてぬすむ。

xorko s. [acc. *xorkoo*] つな (綱)，ロープ。

xoromdopu s. [acc. *xoromdopumba*] みみかき (耳掻き)。

xoromdosi-ni v. [perf. *xoromdoči-ni*] みみあかをとる: *seembi xoromdosini.* 自分のみみのあかをかれはとる。

xoropso s. [acc. *xoropsoo*] みみあか: *mini xoropsobi* おれのみみあか。

xosigačči-ni JU v. [perf. *xosigačixa-ni* J] ひっかく (何回も)。

xosigallee-ni NU v. [perf. *xosigalaxa-ni* N] ひっかく (つめで) (一回): *koos xosigalaxani.* ざらざらとかれはひっかいた。N

xosikta s. [acc. *xosiktaa*] 1. つめ (爪) (人間，動物の) − nail; 2. ほし (星) − star.

xosiktallee-ni v. [perf. *xosiktalaxa-ni*] ぬすむ。

xosipu s. [acc. *xosipumba*] 獣皮なめし道具 (となかいの皮 (すねの皮など) のあぶらをとる，鉄の輪に木の柄がついている) − tanning tool.

xosisi-ni NG v. [perf. *xosiči-ni*] か (掻) く (獣皮のあぶらを掻きとる場合も言う) − scratch: *məənə ǰilibi xosisini.* 自分のあたまをかれはかく。N

xosoptu[1] s. みずおち (胸のほねの下の中央部)。

xosoptu[2] G s. 虫の一種 (人体を刺す)。

xossee s. [acc. *xosseemba*] 男子用のスカート (ごまふあざらしの皮製，そりやとなかいに乗るとき，またおどりのときに着用する) (むかしは魚皮でもつくった G) − seal-skin skirt.

xoto a. (頭の) は (禿) げた (全体に，または部分的に) − bald; s. [acc. *xottoo*] 禿げあたま，禿げ: *ǰilini xoto nari* あたまのはげた人／*ǰiliduni nučiikə xoto biini.* かれのあたまに小さいはげがある。

Xoto s. 人名 (男，*Səəktə* の氏族)，俗称 (本名は *Səlgeerə*)。

xotokto G a. 木がはえていない，はげた，s. 高山の木のない石ばかりの場所: *xotokto xurigə* 木のない山，はげ山／*xurigə xotoktoni* たかい山の木のないところ。

xotto s. [acc. *xottombo*] 市街地，まち (町) − town.

xottonneeni s. まち (市街地) の人 (まちのそとの人が言う)。

xoxoo s. [acc. *xoxoombo*] 1. くちばし (*gusi* や *nuŋna* の) − beak, bill; 2. 人形 (紙，布，草の葉でつくる) − doll.

xədə s. [acc. *xədəmbə*] 氷穴からさかなをつる場所のむしろなどの風よけのおおい。

xədəčči-ni v. [perf. *xədəčixə-ni*] 氷下漁の風よけのおおいをする (何回も)。

xədənǰi-ni v. [perf. *xədəčči-ni*] 氷穴からさかなをつる場所で風よけのおおいをする。

xəjə s. [acc. *xəjjəə*] あめます (魚)。

xəjəǰǰee-ni v. [perf. *xəjədəxə-ni*] 月がか (欠) ける: *bee xəjədəxəni.* 月がかけた。

xəjəskə s. [acc. *xəjəskəə*] あめますの皮。

xəktə s. [acc. *xəktəə*] 中国 (満洲) 服の系統の男・女の服 (男子用は丈が短い，女子用は長く，細長いきれのふちどり (*keepira*) がすこしある)。

xələ NGJ s. [acc. *xəlləə* N] えぞりす G, きねずみ NGJ, りす J − squirrel.

xələnǰi-ni v. [perf. *xələčči-ni*] ふね，そり，汽車 (，となかい U) からおりる− get out of a boat, alight: *ugdaduu xələččini.* ふねからかれはおかへあがった。／*oksooduu xələnǰini.* そりからかれはおりる。

xəltə s. [acc. *xəltəə*] さかなや貝のみ (身) (煮てある): *muxumai xəltəni* ほっき貝のむきみ (煮てある)。

xəəčči-ni v. [perf. *xəəčixə-ni*] 長くつづけてこぼす (たとえばあるいて行きながら知らずに)。

xəəčikku s. [acc. *xəəčikkəə*] 鉄砲のたまをつくるときとけたなまりを入れる容器。

xəəgbi s. 女子用下ばき (*pəruu*) の足のつけねの部分 (の布)。

xəəktə s. [acc. *xəəktəə*] しらみのたまご− nit.

xəəldə NJ s. [acc. *xəəldəə*] 足のつけね N.

xəəlǰi-ni N v. [perf. *xəəlči-ni*] , *xuulǰi-ni* U v. [perf. *xuulči-ni*] こぼす，つ (注) ぐ，あ (空) ける − spill, pour, empty: *saŋnamba xəəlčini.* 刻みたばこをかれはこぼした。N／*naatai arakkee xuulčini.* 地面に酒をかれはこぼした。U／*čaiwa čaaskatai xəəlǰini.* 茶を取っ手つき茶碗へかの女はつぐ。N／*suŋdattaa xəəlǰini.* (引き網のふくろからたくさんの小さい) 魚をかれはあける。N

xəəlni-ni v. [perf. *xəəlnixə-ni*] あ (空) けに行く。

xəən s. [acc. *xəəmbə*] みずどりの一種 (渡り鳥，春三四月に来て秋去る，食用 G) − a kind of waterfowl: *xəən beeni* 四月 − April.

xəənni-ni v. [perf. *xəənixə-ni*] (なかに入っているものを) あけに行く。

xəəŋ-ni J s.: *meewa xəəŋni* となかいの心臓 (*meewa*) にまといついているもの (白い) ／*səəri xəəŋni* となかいのせぼねについている腱 (*sumu*)。

xəəŋəktə s. [acc. *xəəŋəktəə*] 水中にある草の一種 (多来加湖にある，アイヌ人はこれでござをつくるという)。

xəəpči-ni v. [perf. *xəəptuxə-ni*] こぼれる: *saŋna xəəpčini.* きざみたばこがこぼれる。／*ənuwə xəəpčilləə.* なべが間もなく (煮えたって) こぼれる。／*əsini xəəptə.* それはこぼれない。

xudaačči-ni v. [perf. *xudaačixa-ni*] 商売する，あきなう，売る (継続して) − trade, sell: *xudaačči nari* 商人，あきんど− merchant, trader.

xudasindaččee-ni v. [perf. *xudasindataxa-ni*] 売りに行って来る。

xudasinǰee-ni v. [perf. *xudasindaxa-ni*] 売りに行く，あきないに行く: *mooǰi* (または *moowo*) *xudasinǰeeni.* まきをかれは売りに行く。

xudassi-ni v. [perf. *xudasixa-ni*] 商売する，あきなう，売る (一回) − trade, sell: *mooǰi xudassini.* まきでかれはあきないをする。／*moowo xudassini.* まきをかれは売る。

xuddəuwə s. [acc. *xuddəukkəə*] 引き網についたおもり，つり糸についたおもり。

xudə a. 重い (ちょっと重いときに言う) (この語は述語として使う): *xudəə.* 重いなー。

xudəə s. [acc. *xudəəmbə*] 皮を縫うなどに使う板 (木の台) (たとえば，皮を縫うのに縫いめをその上において使う，また，くつの毛皮の縫いめをそこにのせて裁縫小刀 (*gisiruu*) の (となかいのつの製の) 柄でこすってのす)。

xudəsi-ni v. [perf. *xudəči-ni* (**xudəsu* という命令形はない)] おもいと感じる: *mini bəjəbi xudəsini.* おれの体が重い。／*bii bəjəbi xudəsini.* おれは体が重い。／*bii xudəsiwi.* おれは重い (なにかをもっていて重い，自分の体が重いのでない)。

xudəuli a. おも (重) い− heavy [ant. *xənumi*]; s. [acc. *xudəullee*]: *xudəuli*

moo 重い木／ *xudəullee waapinǰini.* 重いのをかれはかつぐ。

xudu s. [acc. *xuddɵɵ*, all. *xudutəi*] (けものの) お (尾) － tail (of a mammal): *pəətə xuduni* あざらしの尾 (そとから見えないが骨がある)。

xudurə s. [acc. *xudurəmbə*] (とりの) お (尾), おばね (尾羽根) － tail (of a bird), きもののうしろ下部: *tətuwə xudurəni* 女のきもののうしろ胴下部分。

xuduu s. [acc. *xudukkɵɵ*, all. *xuduutəi*] 膀胱－ bladder.

Xuigii s. [acc. *Xuigiiwə*] (幌内川中流右岸ホエ川地方の) 保恵 (ホエ)。

xuisə s. [acc. *xuissəə*] 携帯食料 (やま (*purə*) へ行って野宿するときのたべもの, 麦粉, 米, さけ・ますのやきぼし (*bukpaa*) など)。

xuisəllee-ni v. [perf. *xuisələxə-ni*] 食糧を携帯する。

xujə s. [acc. *xujjəə*] つの (角) － horn: *ulaa xujəni* となかいのつの。

xuju num. [acc. *xujumbə*] 九, ここのつ－ nine: *xujjee-ni* 九か月め (妊娠や生後の月数) － ninth month／ *xujultə* adv. 九回－ nine times.

xujundoo num. [acc. *xujundoowo*] 九十 － ninety.

xukpəi NG s. [acc. *xukpəkkee* N], *xɵkpɵi* G s. やちの地面にもりあがった土のかたまり。

xuksu J s. となかいの前後足のすね。

xuksuwa NG s. [acc. *xuksuwamba* N], *xuksoo* J s. [acc. *xuksoomba*] すね－ shin.

xulbee-ni v. [perf. *xulbəxə-ni*] (さかなが) たまごをうむ (排卵する) － spawn: *suŋdatta xulbeeni.* さかながたまごをうむ。

xulči s. [acc. *xulčee*, all. *xulčitai*] まるきぶねの両舷の間にはさんだ横木。

xulda s. [acc. *xuldaa*] はこ (箱) － box.

xuldaa s. [acc. *xuldaamba*] 小さい箱－ small box.

xuldukta s. [acc. *xulduktaa*] チシマザサ, たけ (竹) － bamboo.

xuldumulli-ni v. [perf. *xuldumulixə-ni*] (液体を) あたためる－ warm, 湯をわかす: *mɵɵwɵ xuldumullini.* 水をかの女が (洗濯用に) あたためる。N／ *sillɵə xuldumulixəni.* (さめた) 汁をかの女はあたためた。N／ *mɵɵ xuldumullisu.* 湯をわかそう。G

xulduu a. あつ (熱) い－ hot; s. [acc. *xuldukkɵɵ*]: *xulduu mɵɵ* ゆ (湯) － hot water／ *xulduu mɵɵ xɵɵlǰiwee. atakaa bəgǰi* (sic) *toonoo.* 湯をわたしはまきます。地の神様, 足を引いてください (湯を地にまくとき言うことば, 湯を地にまくことは *suŋnuuli*)。

xuli NGJ s. [acc. *xullee*, all. *xulitəi* N] つる (弦) (弓や仕掛け弓の) － bowstring.

xuligə N s. [acc. *xuligəmbə*], *xulee* J s. そりの上のふちの木 (白樺をつかう)。

xullee-ni v. [perf. *xulɵxə-ni*] ほ (掘) る－ dig: *karkaa xulleeni.* 黒ゆりの根をかれは掘る。

xulləənni-ni NG v. [perf. *xulləənixə-ni*] くまが土をおこす (黒ゆりややまいもを掘るため) G.

xulliiri-ni v. [perf. *xulliixə-ni*] ゆみにつるをはる: *burigbi xulliirini.* 自分のゆみにかれはつるをはる。

xulməu s. [acc. *xulməkkɵɵ*] 上は長円形, 下は長方形の小さい入れもの, 内側は樺皮をまげてつくり, 外側をとなかいやあざらしの皮でおおってできている, 刺繍文様がある, しばる皮ひもがついている, 行李のような用途をもち, 衣類などを入れ, 移動の際となかいに結びつける, なお, 文様はむかしは炭をくろゆりの根とまぜてつけたという) － small container made of fur and birch-bark.

xuma s. [acc. *xumamba*] 骨髄 (となかい, うさぎ, とりの骨髄は食用) － marrow.

xumalda s. [acc. *xumaldamba*] 植物の茎のまんなかのふわふわしたやわらかい部分, 茎の髄: *moo xumaldani* 木の髄 NG.

xumana a. やせている－ thin, lean: *xumana nari* やせている人。

xumanauka a. やせている: *xumanauka nari* やせている人。

xumannee-ni v. [perf. *xumanaxa-ni*] やせる－ become thin.

xumɵə s. [acc. *xumɵəmbə*] くびの下の骨。

xumɵskə s. たばこの灰。

xummee-ni v. [perf. *xumɵxə-ni*] 大声をだす: *soktoxonnee taraŋači xumɵxəni.* 酔った人がそんな風に大声を出した。

xummi-ni v. [perf. *xumuxə-ni*] う (埋) める, 埋葬する (ウイルタも今日は土葬にする) － bury.

xumu NG s. [acc. *xummoo* N] (となかい, うさぎの, またはとりの) 脂肪 (*dəwə* の上, 腹, わきのしたなどの) N, となかいのおすの成体 (特に去勢しないもの) や不妊のめすのせなか (*səəri*) のなかの下の部分 (脂肪がある) G.

xumukta s. [acc. *xumuktaa*] 血管－ vein.

xumultə G s. 仕掛け弓のかぎから張られたひものはじを結びつける仕掛け弓前方地面にさした棒 (矢はこの方向に向けられている)。

xumunəu NG s. 土を掘って樹皮を敷いて保存用たべもの, さかな, あぶらなどを埋めておくところ, 埋めておくそれらのもの N, くまが争って殺したほかのくまを土に埋めたり, 殺したとなかいを埋めた場所 G: *suŋdatta xumunəuni* 塩を

ふったさかなを埋めたところ N／*bəjə xumunəuni* くまがくまを殺して埋めたところ G／*ulaa xumunəuni* くまがとなかいを殺して埋めたところ G.

xumusəi adv. うつぶせに：*xumusəi osini.* かれが伏すー lie prostrate (face down).

xunaaptu s. [acc. *xunaaptumba*] ゆびわー ring.

xunaaptullee-ni v. [perf. *xunaaptulaxa-ni*] ゆびわをはめる。

xunakta s. [acc. *xunaktaa*] はえ (蝿) のたまご。

xunaptu s. [acc. *xunaptumba*] 指ぬき (人差しゆびにはめる) ー thimble.

xunda J s. せぼねの両側の箇所 (人間，けだものの)：*xunda sumuni* せぼねの両側の腱 J (となかいの *xumu* のすじ，このすじの上に脂肪がある G) ／ *xunda ulisəni* せぼねの両側の肉 J.

xunee J s. 肋骨の下方の突起。(Cf. *xuniga* 2.)

xuniga s. [acc. *xunigamba*] 1. さじ (匙) ー spoon；2. 胸の肋骨の下の中央の軟骨。

xunigə s. [acc. *xunigəmbə*] 人差しゆびー forefinger.

xunikku s. こどもが (人がみやげをもって行かなかったりして) ほしいものが得られず腹痛がおきたときつくる神像 (小さいいぬのような偶像)。

xunikkullee-ni NG v. [perf. *xunikkuləxə-ni*] ほしいものが得られなく腹などがいたくなる。

xunipinǰi-ni v. [perf. *xunipičči-ni*] つぼみをもつ：*orokto xunipinǰini.* 草がつぼみをもつ。

xunnaulli-ni U v. [perf. *xunnaulixa-ni*] これだけでいいだろう，これだけでいいだろうと出し惜しみして少しずつしか与えずふざける，ふざけて (からかって I) 少ししか与えない：*narree xunnaullini.* 人にかれはふざけて少ししかやらない。

xunni NJ s. [acc. *xunnee* N] つぼみ：*orokto xunnini.* 草のつぼみ。

xunni-ni NU v. [perf. *xunixə-ni*] 1. むす (結) ぶ N ー tie：*tokpoo xunnini.* ひもをかれは結ぶ。N／*xunimi ujjini.* かれは結んでつなぐ。N；2. つぼみをもつ N：*orokto xunnini.* 草がつぼみをもつ。N；3. (こどもなどが) ほしいものが得られなく腹がいたくなる (*xunikkullee-ni* と同義) NU：*puttə xunixəni.* こどもがお客からみやげをもらえず腹痛をおこした。NU

xunniipči-ni v. [perf. *xunniiptuxə-ni*] ほどけなくなる (しばったものが)：*uipulə xunniipčini.* しばったのがほどけなくなる。

xunu s. [acc. *xunnəə*, all. *xunutəi*] へそ；へそのおー navel, navel string.

xuŋaataa s. [acc. *xuŋaataamba*] 肋骨の下の中央の軟骨 (あざらしの，人間についても言う)。

xuŋala s. [acc. *xuŋallaa*] かも (鳥) の一種。

xuŋda a. 春になってひるまはとけても朝まだゆきなどが凍っていてかたい (状態をいう)：*čimai simatta xuŋda.* 朝は積もっているゆきがしばれていてかたい。／*čimai xuŋdanduni moolobuddooni sərruučixəni.* 朝はやく地面がしばれてかたいうちにかれがまきをとりに行くようにかの女はおこした。

xuŋguli s. [acc. *xuŋgullee*, all. *xuŋgulitəi*] うじむし。

xuŋgulli-ni U v. [perf. *xuŋgulixə-ni*] うじむしを発生させる：*suŋdatta xuŋgullini.* さかながうじむしを発生させる (さかなにうじむしがつく)。

xuŋmu NGJ s. [acc. *xuŋməə*, all. *xuŋmutəi* N] えぞもものが (ばんどり) GJ.

xuŋnu NG s. [acc. *xuŋnoo*, all. *xuŋnutai* N], *xumnu* J s. (手や足の) こう (甲) ー back (of the hand), instep.

xuŋnuptu G s. てっこう (手甲) (ゆびやてのひらにあたる部分がない)。

xupallee-ni v. [perf. *xupalaxa-ni*] 組をくむ (猟に行くときに)。

xupikku s. [acc. *xupikkəə*] おもちゃー toy.

xuppi-ni v. [perf. *xupixə-ni*] あそ (遊) ぶー play：*puttə xuppini.* こどもが遊ぶ。

xuppəəčči-ni v. [perf. *xuppəəčixə-ni*] こどものもりをする。

xupseeri-ni v. [perf. *xupseexə-ni*] ひっくりかえる：〔言い伝え〕 *tuksa seeni saariktani anaa outannee boo xupseerini.* うさぎのみみの一番さきのくろい毛がなくなったら天がひっくりかえる (この世の中がなくなってみんな死に，新しい天にかわり，すべてがあたらしくなるという)。

xuraǰǰi-ni NU v. [perf. *xuraduxa-ni*] たすかる U，生きかえる N：*nari xuraduxani.* 人が生きかえった。N

xurakta s. [acc. *xuraktaa*] 木の皮，樹皮ー bark.

xuraktami s. [acc. *xuraktammee*] といし (砥石) (小刀にあてたこれを動かして研ぐ，*piiwə* より小さい)。

xuralasi-ni v. [perf. *xuralači-ni*] 立木から樹皮をはぐー strip off bark.

xurallee-ni v. [perf. *xuralaxa-ni*] 木の皮をはぎに行く：*xuraktaa xuralaači.* 樹皮をかれらははぎに行った。

xuričči-ni v. [perf. *xuričixa-ni*] たすけている。

xuriga NJ s. [acc. *xurigamba* N], *xuree* J s. はな (鼻) ー nose：*kumultə xurigani* スキーの先端 N／*xuriga* (または *xuree* J) *məəni* はなみず NJ ー nasal mucus, snivel／*xuriga naaksani* はな汁 N ー nasal mucus, snivel.

xurigačči-ni N v. [perf. *xurigačixa-ni*], *xureečči-ni* J v. [perf. *xureečixa-ni*] くままつりをおこなうー hold a bear-sacrifice festival：*bəjəmbə xurigačču ri* G くままつり (余興に，そりをつけたとなかいの競走，すもう，男女の歌，男のおどり，なわとび (*pəkkuri*)，手ぶくろ押し (跳ねる)

(*mambakkaa annauri*) をする，客にアイヌ，ニグブンを招き，かれらのくままつりにはウイルタが招かれる）－ bear-sacrifice festival.

xurigammee-ni, *xureemmee-ni* v. [perf. *xureemaxa-ni*] くままつりに招かれて行く。

xurigə N s. [acc. *xurigəmbə*] , *xuree* J s. やま（山），山岳－ mountain : *xurigə xurigəmbə pulisini.* 山から山をかれはあるく。

Xurigətəə s. 海豹島。

xuriičče-ni v. [perf. *xuriitaxa-ni*] たすけにかかっている。

xuripči-ni v. [perf. *xuriptuxə-ni*] 染まる : *tətuwə bəxəǰi xuriptuxəni.* きものが色で染まった。

xuriptučče-ni v. [perf. *xuriptutəxə-ni*] 染まったままである（しばらく色がおちないとき）: *tətuwə xuriptutəxəni.* きものが染まったままであった。

xurpəllee-ni N v. [perf. *xurpələxə-ni*] , *xulpəllee-ni* U v. [perf. *xulpələxə-ni*] からだをかわす，よける（人が危険なものから，あるいはたたかれるとき）: *xoldoptoi xurpəlleeni.* 横むきにかれはよける。N

xurrauri-ni v. [perf. *xurrauxa-ni*] （まとを）はずす : *gassaa* （または *pəəttəə*） *xurrauxani.* 鳥を（またはあざらしを）かれはうちそこなった。NU／ *tari nari xurrauxani.* その人はまとをはずした。／ *moiččalami xurrauxani.* かれは鉄砲をうってまとをはずした。／ *moowo anapoolami xurrauxani.* 木を試しうちしてかれはまとをはずした。

xurree-ni v. [perf. *xuraxa-ni*] たすかる。

xurri-ni [1] v. [perf. *xurixa-ni*] たすける，すく（救）う－ save, rescue : *narree xurrini.* 人をかれは救う。

xurri-ni [2] v. [perf. *xurixə-ni*] そ（染）める－ dye : *bussoo xurixəni.* きれをかの女は染めた。

xurri-ni [3] v. [perf. *xuruxə-ni*] 熟す，に（煮）える－ ripen, boil : *əri siduxu xuruxə.* このこけももの実は熟している。

xurumi a. みじか（短）い－ short ; s. [acc. *xurummee*, all. *xurumitəi*] .

xuruukə NU a. みじか（短）い N，すこし短い U : *tari tətəə xuruukə.* その着物はちょっとみじかい。U

xuruwačči-ni NU v. [perf. *xuruwačixa-ni*] （手のひらをくぼめて）すく（掬）う : *siduxumbə xuruwaččini.* こけももの実をかの女は（入れもののなかから）すくう。U

xusakta s. [acc. *xusaktaa*] 魚の白子－ milt.

xusə s. おとこ（男）－ male : *xusə puttə* 男の子／ *xusə ŋinda* おす犬／ *Xusə namu* 北知床半島の東側の海／ *xusənnee* s. [acc. *xusənneepə*] 男の人－ man.

xusəmusi-ni U v. [perf. *xusəmuči-ni*] 吐き気を催す。

xusərəə J s. くまの肉の男が食べる部分。

xussee-ni v. [perf. *xusəxə-ni*] （へどを）は（吐）く－ vomit.

xusseenǰee-ni v. [perf. *xusseendəxə-ni*] 男の子が大きくなって男らしくなる（成人する）。

xuturi a. かゆい（この語は述語として使う）: *xuturi xosisu.* かゆい，掻け。／ *xuturee.* かゆいなー（のみがくうときなど）。

xuturikku NJ s. かゆい皮膚疾患（はじめゆびのまたにみられる） N (*əəwə* のことを *xuturikku* と留久玉や野頃の人が言うが，敷香の自分は言わない J) .

xuturisi-ni v. [perf. *xuturiči-ni*, conv. perf. *xuturigačči*] かゆいー itch : *bii xuturisiwi.* おれはかゆい。U／ *attambi xuturisini.* おれはせなかがかゆい。N／ *sii bəgǰisi xuturisinii.* おまえは足がかゆいか。U／ *bii əsinəŋi ŋaalabi xuturičini.* おれはきょう手がかゆかった。U

xuturuuli a. かゆいー itchy, itching ; s. [acc. *xuturuullee*, all. *xuturuulitai*, *xuturuulitəi*] .

xuučče-ni v. [perf. *xuutəxə-ni*] 木が枯れて木質部がやわらかくなって粉になる : *xuutəxə moo* 枯れて木質部がやわらかくなった木。

xuukku s. [acc. *xuukkoo*] ものを巻きつける箇所。

xuulǰi-ni v. [perf. *xuulči-ni*, all. *xuulkačči*] こだまする : *xurigəndulə kəsə xuulǰini.* 山でことばがこだまする。

xuulli-ni [1] v. [perf. *xuulixə-ni*] つつ（包）むー wrap : *tətukki xuullini.* 自分のきものをかの女はつつむ。

xuulli-ni [2] v. [perf. *xuulixa-ni*] まわる : *duxu attanǰeekkeeni xuulimi ŋənəxəni.* 家のうらの方をかれはまわって行った。

xuuma s. [acc. *xuummaa*] 巻くように縫った（サテンステッチの）刺しゅう文様 (*irga*)。

xuurə s. [acc. *xuurəmbə*] 小物入れのバッグ (*xuurəə* より小さい，魚皮，獣皮または布でつくる，くくるひもがある，針などの裁縫の道具を入れる，これには，普通，指輪などを入れる小さいふくろが内部についている）－ bag made of fur, fishskin or cloth.

xuurəə s. [acc. *xuurəəmbə*] 小物入れのバッグ（魚皮，獣皮または布でつくる，くくるひもがある，鉄砲の付属物やまだ刻まない大きい葉たばこを入れる）－ bag made of fur, fishskin or cloth.

xuuri-ni v. [perf. *xuuxa-ni*] 巻く－ wind round : *xuumi urpuri* 巻いて縫うこと

(サテンステッチ) ／ *xəəgǰi oksokkoo xuurini.* 皮ひもでとなかいぞり (の割れたところ) をかれは巻く。

xuutə s. [acc. *xuuttəə*] しらかばなどの木質部がくさってこなになるような状態のもの，そのこな： *xuutə moo* 木質部がふわふわにやわらかくなった木。

xuwarigačči-ni v. [perf. *xuwarigačixa-ni*] 舟が横にゆれる。

xuwə s. [acc. *xukkəə*] 上座からみて左右側のたきびをかこった棒，炉を仕切ったわく (炉ぶち)： *aanǰee* (または *dəunǰee*) *xuwə* 上座からみて右側 (または左側) の炉ぶちの棒 GJ.

xuwəlinduǰǰi-ni U v. [perf. *xuwəlinduxə-ni*] (周期的に一つの時期が) 過ぎる，経過する： *suunə xuwəlinduǰǰini.* 日が暮れる。／ *inəŋi taldaani xuwəlinduxəni.* 昼が過ぎた (昼すぎになった)。

ウイルタ語分類語彙

1. 自然環境

天体 *naŋna, boo.*

星 *xosikta, unigəri* (*uneeri*)； *burakta, kumultə poktoni, mai tələpuni, nadasa* (*pəulə, pəulə tookpuni* (または *xuduni*))，*xosikta patalammeeni, ujee səksəəni.*

太陽 *suun* (*suunə*)； *garpeeni, gərəǰǰini, giləxinǰini, jabdar, pudənǰini, suunneeni, tuuǰǰini*； *suun buǰini.*

月 *bee* (*beelta*)； *xəjəǰǰeeni, nəmdəu bee*, 月のみちかけの名称は *bee* の項にあり。

潮の干満 *kaaru, ŋaaddau, pərəkčeeni,wəənu.*

気象 *agǰi, boono, simana* (*simatta, lamusu, loopso, puundə, uppakta, xoŋgokto*)，*seero* (*seeronǰini*)，*tallini, tamna* (*tamnaŋi, tamnaska, məəju*)，*təwəskə,* (*təwweegəččini, təwweerini*)，*tugdə* [1] (*purəi* (*kurəi* [2])) ，*xədu* (*suuji*； (敷香・オタスにおける風位による名称) *biǰila, čilaŋai, koŋgori, maaji, munǰee, təəxə, tuwəmǰi*)； *dəruwənǰini, gaalǰini, geewanneeni* (*geewa*)，*maatuwaččni, naŋmeeni* (*naŋmaǰǰini*)，*puujinǰini, toronǰini* (*toro*)，*xawwanǰini.*

気温 *gauruuli, namauli* (*namasini*)，*nuŋǰuuli* (*nuŋǰisini*) *saŋu, səəruuli* (*səərisini*)，*xəkkuuli* (*xəkkusini*)．

地勢 (および植生)

平地 *buuŋi, dətu, dətəə, gada, kaalpa, ləəmul, mooso, naru, ŋəənə, omoo, pəəju, səən, sina, təuktə, toŋdoo, xasiŋi, xəwərə, dəgdə*； 水岸 *kada, kira, oondo, tusigə*； 川・川岸 *buda* [2], *daa* [1], *dawali, dərə, dəun, əuləu, məgǰi, muŋgə, nəə* [1], *nəsəm, opto, paajikta, paakta, pikpiktə, pudali, pujə* [2], *toŋdakto, toowo* [2]，*uni, uniga, xəjə, eerrini*； 海・海岸 *buwaata, giri, kipiri, masačči, muxulə, namu, seela* [2], *siri, uiru.*

丘陵・山岳 *boori, gaunaxi, kada, nalta, naltakta, nogdoŋo* [1]，*nuksa, ŋəəgdə dətu, poro* [2]，*xurigə, suduwə, tukkəə, xotokto, eerrini.*

2. 人体 *bəjə* ; *girapsa, səəksə, sinakta, sumu, ulisə, xərəktə, xogboli, xumukta.*

頭部 *ǰili* ; *gəəri.* 顔 *dərəl* (*boččo, baada*) : *andasi, aŋma* (*goǰǰeekta* (*goǰǰigakta*) , *irki, kərəktə, kərəə, ələlə, pəmu, sinu*) , *daamul, duuruulikta, geega, gudakta, isal* (*buli, kalpikta, kalpirakta, nariga* [1], *saarikta, sirumukta, suǰi* (*isal sooni*) , *taagdakta*) , *seen* [1] (*čimbuktə, təmbuktə*) , *pəəjə, pulči, xoppokto, xuriga* (*sooppo* (*xuriga saŋani*)) ; あたま *apai, niruktə* (*nuriktə*) , *poro* [2] ; くび (あたまの下の) *moŋo: bilda, dəkpə, duurə, məlimu, utumuu, xai* [2], *xapsau, xoombo, xuməə.*

胴体 *muirə, xawani, nirikta, alči, ǰilba, xəŋgəjə, umulbita* ; *tuŋə, kəən, ǰiliga* (*ǰilee*) , *bokko, puxi, xunu* ; *atta, darama, dəwə, ura* (以上の４語の配列は背面の上から下への順による) , *ilmi* ; *əmuwətəə, kəndə* (*pisa*) , *xəučilə, siiwi, xakpina, xosoptu* [2], *xuniga* (*xunee*) , *saŋalta* ; *inikta, tutuu, babuu, paŋna* (*uktə, xaǰu*) ; (陸の哺乳類の) 内臓 *alimatu, bosokto, idə, keuri, meewa, paaxa, siiltə, silokta, xababi.*

肢体 *kotoo, xosikta, panaa, sajaa, xuŋnu, dala, təskəktə, tolimuu* ; 手, 腕 *ŋaala: čurga, komuu, pana* [1] , *sirimi, uitə* ; 五指の名 *pərə, xunigə, taldaawu, gajau, čimutəə* ; 足・脚 *bəgǰi: čida, čimutəə, čuuji, daana, kigəli, muŋgi, pagǰiga, paŋgaučuu, pənə, pərə, saalda, səənə, tarpi* (*talpi*) , *ukči, xəəldə, xuksuwa.*

3. 住居

住居地 *nəŋnədə, duwada, duwadakku, bolodo, bolodokku, tuwədə, tuwədəkku* ; *ŋoowu, duuwu.*

家屋 *duxu, andusini, dugjaal.* 種類 *aundau* (その部分) *bee, beeltu, čirrəukkə* (*čirrəuptəŋi*) , *čokko, čonoo, guidə* (*guiptəŋi*) , *katalai, keeltami, malu, mariptaŋi, ələtələ, sarrini, seesiŋi* [2], *səirini, soono, tawa, tərə, unə, utə, xəundəipi, xuwə*) , *kaura* [1] (*kipərə*) , *səərin(i) bujaa duxu, uutəəmi, palaačikka* (*taččeeni*) , *korima duxu* (*korrini*) , (アイヌの) *xagǰu* (*xagdu*) . 外来家屋の部分 *girkəptu, kookkuna, paawa, sədəxi, usku, xakpi.* 仮小屋 *jaatau, kalaŋari.* 付属施設 *dalu* (その部分 *mələxi, dəduxi, tookpu*) , *gəlləəkku,* (アイヌ, ニブフの) *ikkuči, kərə, kərgini, korree,*

məəluutu, pəulə, saan (*golbo, sairi*) , *xolǰinau, xumunəu.* 付属物 *silpima* (*kauta, musuri*) , *təəkku* (*dooptu, təni*) , *xarpu* (*xalpu*) (*axirikku*) .

4. 被服

衣料, 布地 *ambambusu, bəəsi, busu, čəkkəmi, guluxu, ǰakčee, ǰiligəri, ǰoŋǰo, kədərəktu, səurə, sirəktə, solgeexa, taubu* ; *natta* ; *sugbu.*

衣服 *tətuwə, təččini, təiǰǰini, bagduxu, bagduxxini.* 種類 *kauraktu, nalmaa, pokto, xəktə, wəltəli,* 豪華衣裳 *daanami, gəčuwəri, torgo,* 下着・下体衣・重衣・外被など *balda, bəpii, dalduu, dorokpu, əruwə, istaa, juubukkə, ələtəptu, pəruu* (その部分 *keuwa, xəəgbi*) , *saali, sokkina, səən, ulbaaxu, umul* (付属物 *keemaa*) , *xaragǰi, xossee* ; 衣服の部分 *ačikta* (*sooppo ačikta*) , *bopira, bopiraktu, əərə, karumaanu, keepira, ələtə, pəəriptəŋi, sini, tana, təən, toxo, wəskə.*

頭・くび・手・足に着用するもの *aapu, kəəndori, meetakaa, ǰawaa, seeptu, dərigə, moŋoptu, bilaatu, pəkkə, sotori* ; *kotooptu, tarbaki, mambakka* (*wambakka*) , *ŋaaliptu, xuŋnuptu* ; *utta* (その部分 *pəriskə, səəksə, turəskə, əmərə, miiməttə* ; 付属物 *dokto, kaamdaa, naukta, utaaptu*) , *garu* (*nəlixə, piituu, siliitu*) , *mərəə, pondoo, dupəə, pərimə, taapučika.*

装身具 *anaa* [1] , *əərrəə, giləptu, koso, seega, seegačiga* (*seegačee*) , *səltə, siigə* (その部分 *muriptaŋi*) , *sulčiktə, suurakta*) , *siigəlleeni, xatulleeni, xunaaptu.*

寝具 *čirəptu, naatami, nəmbə, pulta, dappa, kuutu.*

裁縫 *kitaa, səən, dapikku, urpitə, xunaptu, isaaptu, kupə, geula, muiktə, xudəə, xuurə, girrini, kappuunǰini, kaptuunǰini, xatuččini, xədəččini, uldənǰini, urpini* ; 刺繍 *kərkigə, weega, kərkigəmi urpuri, madurukkumi urpuri, məgǰigə, məgǰigəmi urpuri, silitami urpuri, sorko, sorkomi urpuri, suuləmi urpuri, tokpomi urpuri, xuuma, xuumi urpuri.*

調髪 *sigǰipu* (*sigǰini*) , *mərkə, pussini, purreeni* ; 髪容 *keemi, pačita, pataŋi, silita* (*siliččeeni*) , *čočoko.*

5. 食事

たべもの (*dəppi*) , 食材 *ulisə* (*jali*) (*pəətə, tuksa, ulaa* など) , *ari,*

neekta, nəmuu, simurə, xuma ; *suŋdatta* (*dawa, ɵərɵ, arku, biro, juwakkasi, ǰimda, kaaŋai, mokkiri, nalduma, xɵjɵ*など) , *xairi, xusakta, gasa* (*apči, auŋga, ausee, čaččari, keewu, kəŋədəi, kaakaldaaru, koŋolo, kuuttəi, muli, munəi, nudaa, nuŋna, oǰomi, ɵkkɵi, paamalduu, tɵktɵŋɵ, tuwweekkə, uri, xaldu, xočči, xɵɵn* (以上は水鳥) , *bərəmi, kabbeela, kərɵmɵttɵ, saari kurəktə, peegdaanǰi, uksara, oli*など) ; 山菜 *aasi, bookto, čipɵɵ, dudakta, ičalpi, jolo, karka, siduli, xapa* など ; 液果 *dɵsiktə, gaakta, siduxu, xojoo*など (*liŋokkeeni, liŋoo, tɵɵksə* (*tuuksə*)) ; 海草 *ɵtɵ* ; *buda, dausu, ilda* (*simuksə*) , *kattooska, lipeeskə, mɵɵ, satu, saakari, sinǰau, upa uriski, xuisə* ; *arakki* (*ispiiri, kakta, katta*) , *čai.*

調理・調理物 *alaaǰǰini, čerrini, čissaurini, daldačči̇ni, dausulleeni, dərinǰini, əruccini* [2], *geewwini, kombokkeeni, lala, lalleeni, monnini, mɵɵ soorini, ɵlɵsini, puisini, puijuurini, silopulleeni, silleeni* [2], *sirrini* [1] , *urrini, xaagbini, xaagbuǰǰini* ; *əru, alaaǰi, kuwasu* (外来) , *moni, musi* [1] , *soli, silə, silo, silɵunə, suupu, talaa, xɵltɵ.*

調理具 *bədu, ənuwə, itto, monipu, silopu.*

食器 *aliptaŋi, alukku, čaami, čaanikka, čaaska, čakpa, dɵdɵɵ, iiwə, koči, sabuu* (*tugbu*) , *tərəlkə, xuniga, urumkə.*

他の食事用具 *anduma, baanikka, dosobuwa, ičaruu, ilda keurini, kombo* (*kəruskə*) , *kɵččɵɵli, kupta, kurkə* (*sii* [1]) , *mɵrɵčɵɵ, očči̇i, olǰiga, ostooli, poowo, seetta, soddooki, tɵŋgɵ, xauptaŋi.*

食事 *dəpčini, salleerini, simičči̇ni* (*simmini*) , *umnini* ; 一日の食事 *čimmau, inəŋi dəppi, səksəu.*

6. 他の生活用具

入れもの (容器)・ふくろ *dəktəu, gumaarinikka, gumaanikka, iinduwə, jombo, kolmoi, likpitaŋi, missookki, ŋaalikku, putul*(*ik*)*ka, puutaa, səərikku, siltukku* (*miiskə*) , *sittoo, sorpo, sumala, taara, tɵkkɵrɵ, xačuwa, xulda, xuldaa, xulməu, xuurəə.*

いと・ひも・つな・なわ *kupə, illuu, maatu, miimɵttə, madurukku, nusku, saalda, silma, sɵɵksɵ, sunaa, tokpo, xəəxə, xorko, suurini.*

刃もの *irəpčinə, kučigə, geesuu, gisiruu, kaawui, kučigə* (*kučee*) , *lokkoǰi, masaari, məčči̇kku, panču, puupu, sinasuu, suwal, tasuri, toporo, xaǰa, xoopu, xoripu* ; 刃ものの部分・付属物 *čini, dəjə, kuptu, pəsi, xauri* ; 研ぐこと *piiwə, piiwweeni, tuussini, xuraktami* ; *xəmbəəru.*

その他の道具 *boipu, čaawakta, čurupu, jooso, koŋgokto, muktakku, paluwa, piipu, sirɵ* [1], *tugdəučikku, tukpə, tuŋa, wəsku, xəripu.*

鍛冶 *tapiccini* ; 道具 *čiptuwə* (*čiptɵɵ*) , *ənudə, kɵɵdɵ* ; *kaccčeeni* (*katta*) , *siləpčini, taaljeeni.*

火 *tawa: darree* (*darreembini*) , *ikpə* (*ikpəccini*) , *iwanǰini, mɵɵčigə, posseekta* (*posinǰini*) , *puliccini, sugbi, suwərikku, taawullini, təuru, uuŋgisini, xəppəǰǰini* ; 燃料 *moo, daira* ; 照明 *ixərə* (*ixərreeni*) , *peepu* ; 発火用具 *čuun* (*čuunǰeeni*) , *burakta, silčiskə, piičiga, siltuu* ; *piičikka.*

刀 *lauta, kəndərəxi, pəsi.*

弓矢 *burixə, dəuptəŋi, ləkkə, tada, xəmu, xuli*) ; *dapinǰini, garpeeni, koolkoonǰini, tap.*

銃 *moiccča* (*meuccča*) , *durisseenə, winčiisəri, moiccalleeni, aaŋŋeeni, anapoolleeni, čelčillini, naaŋbini, tuurrini, xurraurini* ; 銃の部分・付属物 *baralga, borkookto, čaglaa, čoompira, doroopu, giilǰi, jorikku, kalipu, moosuu, muxali* (*təurini*) , *okto, pistoo, sijǰigakku, səmmɵɵki, suumkə, loosi, xara, xɵɵčikku.*

7. 生活資料の獲得

採集 *əəccini, gatasini, gatannini, gatau, issini* [2]. (食事の食材の山菜, 液果の条参照)

漁労

魚 (*suŋdatta*) の体 外形 *sugbu* ; *andasi, sənə* : (ひれの種類) *gulu* [1] , *urittə, utaa, xawitta, sigdə, məmitə, pačii* ; *xəsiktə, kəəčiktə.* 体の内部 *səəri, xairi, xapuska, xusakta, uləktə.* 生態 *seetosini, summini* ; *jəwərrini, suullini, xulbeeni.* さけ・ますの産卵死亡までの段階名 *tuuli, goodu* (*gooǰǰini*) , *keeŋguči.*

漁法とその用具 *kəərəkku* (*kəərreeni, čissaurini*) , *tuləgdə, aduliganǰini, adulimmeeni, aduli* (*gusa, kərgi, kolčigakta, siixə* (*siikə*) , *tokpotu, xuddəuwə*) , *tummini, tokko* (*tokkeeni, keupu, keuwwini*) , *ločoo* (*bəə, ločokkeeni, ŋiisuwə, ŋiisuwəccčini, puula, siin, ločoočuu, xɵdɵ, xɵdɵnǰini*) , *taasuma* (*taagdakta, duučikku,*

duuč̌čini, xač̌čini) , *gərpəč̌čini, suŋdammeeni, əldəəpu, əlduwə, seetopu, naawi, urai, salpi, goodummeeni, gooduu, mučča.*

魚の加工 *siiwiptəŋi, təli, təllini, təlǰeeni, kəərigənǰini, bukpaa* (*bukpakkeeni*) , *čač̌čabi* (*čač̌čabbini*) , *jaawu* (*jaakkini*) , *kəpč̌əənu* (*kəpč̌əənnini*) , *mauri* (*maurrini*) , *bəkkəi, kaltalima, bəǰi, kaawui, suukpini, saan, golbo, sairi, wəənə.*

あざらし (*pəətə*) 猟 もりとその使用 *dargi* (*ǰogbo, laaxu, maatu, xawa*) , *ajjini, joosseeni, ǰogbolleeni, taummeeni, xalpič̌čini, xaawuǰǰini.* あざらしの体 *keeta, kopč̌o, kəppəsi, ono, piirə, saunaa, xuŋaataa.* あざらしの種類と年齢による名称 *baawui* (*geuksa, baalaŋada, ŋaruuri, ŋəskui kəələ*) , *dauŋgari* (*amuspi, čeeŋa, oǰii, dərigəči* (*dəreeči*)) , *alaxa* (*ləkkə, čeeŋa, oǰii*) , *koŋgori* (*ləkkə, nirakka*) .

くま (*bəjə, naa mapani*) 猟 *bəjəlmeeni, usinǰeeni, gida* (*buligə*) , *bəəpinǰini, giǰǰeeni, gidalleeni, aupsa, waatu, bəǰəskə* (*naata*) , *tədunǰini* ; 生態 *dəəkpənǰini, dubǰisu, əupəč̌čini, ǰawal, kaattoorini, təldəu, xagǰu* (*xagdu*) , *xulləənnini, xumunəu* ; くまの年齢による名称 *siroo, nəlč̌iri, baatana* (2歳 , 満1年過ぎたもの) , *xojol* (3歳) , *pujəl* (4歳) , *ǰaasil* (おすの5歳) , *biri* (めすの5歳) , *ǰəwisəl* (6歳) , *sagǰima* (8歳) .

その他の狩猟 *bəjjəurini*: *bəič̌uuč̌čini, bəič̌uukku, bəiŋə, bəisə, bəič̌čini, bəiŋǰeeni, darimmeeni, duulda, gərəməsini, gobǰeeni, gojjou, goolmosini, jaaŋbeeni, kalaŋari, ǰaun* (*ǰaunǰini*) , *ǰee* [1] , *muujjini, ŋojokkolosini, puŋneeni, tuuč̌čini, tuurrini, waakku, waali, xupalleeni.* 猟具 *bəič̌uu*: *dəəŋgurə* (その部分・付属物 *bəultə, boowo, burixə, čaglaa, pakpara, para, piiməəpu, pinnəul, sirə, tətəptəŋi, xawa, xuli, xumultə*) , *puta* (その部分・付属物 *buŋna, dəuli, dusiptəŋi, gərəi, mugdəə, pakparau, pəəjəptu, surpakta, toowo*) (*puč̌čeeni*) , *badaari, gərigə* (*gərigənǰini*) , *kaattuwa, kapira, kapkaa, naaŋgu* (*naaŋgini*) , *ləwigə* (*ləwigəəč̌čini*) .

となかいい (*ulaa*) 飼養 となかいの体 *bugǰi, əǰugdə, gataja, karau, katuwa* [1] (*katoo* [1]) , *kəəniktə, kəərbəskə, kuǰi, kukča, ləəwul, lipčee, luusima, mai, meeta, meetaska, moosipsa* (*moossini*) , *multama, namaska, ŋiiwəltə, oŋbo, oo, paaxa* (*daaji p., nuuči p.*) , *peemura*, 複胃 (*mee*(*ii*ヵ)*pəə, daaji numisə, nuuči numisə, səəgduu*) , *səinə, silokta* (*xakpi s., ǰiktu s., nəmdə s.*) , *suuli, talaapči, tuurə,*

xoorimu, xəəŋ-ni, xujə, xuksu, xuma, xumu. 性別・年齢による名称 *xakta* (*kəərbə*) , *nami* (*waŋgai*) ; *soondoo, suwə* [2] (*soondoo* または *xəŋdəə*) , *namuwa* (*soondoo* または *xəŋdəə*) , *seepuwa* (*seepoo*) (当歳または1歳) ; *apala, sač̌iga* (*sač̌ee*) (2歳) ; *iktənə, gulu* [2] (3歳) ; *nootono, gulu* [2] *əigəni* (4歳) ; *xamatana* (おす5歳) , *ilaalta puttəŋŋi* (めす5歳) ; *dupči* (おす6歳) , *ǰiiltə puttəŋŋi* (めす6歳) ; おす7歳以上は回数数詞と *dupči* で , めす7歳以上は回数数詞と *puttəŋŋi* で表される . 生態 *aaŋgalleeni, aaŋgeeni, abakkeeni, boorosini, dəuŋəktə, dəərəŋŋini, gələ, gələnǰini, gujjeeni, gupəllini, ilaaragda, jawata, ǰuurəgdə, kəərbeeni, kukč̌anǰeeni, lawikta, məč̌č̌eeni, naanulleeni, okkeeni* (*okko*) , *əmərəgdə, pəktə pəktu, saarukkini, səsi, soorrini, suči, xəŋuč̌čini,* 飼養 *čəəŋgəi, čooraa, čəək čəək, kaaŋalda, kəigəli, kurəi, maatulleeni, nuŋə, uǰǰini, xakčeeni.* となかいのなまえ *Doroukaan, Karaukaan.*

いぬ (*ŋinda*) 飼育 *dallau, dallaurini, dulǰigə, gipali,* (アイヌ・ニブフの) *ikkuči, makč̌ii, səəri, tookku, uinəu.* 性別・年齢による名称 *iwəč̌ə* (*wəč̌č̌ə*) , *ŋinaa* (*ŋinaka*) , 2歳以上は回数数詞と *simattaŋŋi* で表される。 生態 *buunnini, čiiŋŋeeni, dalleeni, guwweeni, iktəmənǰini, kaattukkini, kaksini, laabilleeni, lakpanǰini, laummeeni, laurini, muǰǰini, pəruuptulleeni, puktuurini, siič̌čini, siromusini, sirreeni* [2], *siru, taarini, wau.* いぬのなまえ *Beelka, Čoorinai, Kərəməəsi.*

獣皮 (*natta*)・製革

pəətəskə, ulaaska (*ulaatta*) ; *meeta, meetaska, xooso, xarapsa, kəəniktə* ; *ilta, kič̌iri, ludul, nəttə, ono* ; 製革道具 *kədərə* (*kədərreeni*) , *təttə, xosipu, tələpu* (*təlleeni*) ; *puirini, maaǰǰini, paaǰǰeeni, saanǰini* [2], *xəərrini, monǰini, nəč̌č̌ini, əsəlisini, nuuppini.*

8. 旅行 (*pulipuri*)・移動 (引越) (*nuljǰi*)・運搬

徒歩 *činəpu, pinakku* (*pinalleeni*) , *urəmə, waandakku* (*waanǰeeni*) , *əəč̌čeeni.*

のりもの *ŋənəptəŋi, puliptəŋi, pulipuri xaǰu, səǰə, marisseena, jaamulleeni, uurini, xələnǰini.*

騎乗・となかい曳行 *boddourini, əməə* (*əməənǰini*) , *əlǰeeni, namba* (*nambeeni*) , *čəŋəlpi* (*čəŋəlpinǰini*) , *silma, puŋnəpu, ussiirini.*

スキー *kajama, sumulta, kumultə* (その部分 *munəskə, taapu, wəəsipsə*) ,

pəgbirə, kəigəli, xəmbəəru.

そり *xalleerini.*

となかいぞり *oksoo* (その部分・付属物 *aaji, bəktə, čeeksa, čeembuwa, dəsii, ələndə, kəjuli, paawura, palturi, sučipi, xuligə, joonopu, saalda, səktə*) , そりの形 *bildaŋa* ; *naar(it)ta* ; *dəərəŋŋini, errini, pukčini, tukseeni, daarulleeni, gilbə, gilbənǰini, paara, čooraa.*

いぬぞり *tuči, muttasi, kaurii* (*kauriiččini*) , *nauramǰi, puktu, puldala, sunaa* (*sunaambini*) , *xala.*

人が引くそり *mauwa* (*maukka*) .

ふね *ugda* (その部分・付属物 *geul* (*geullini, geulimǰi*) , *goopu* (*goopulleeni*) , *məəxə, məkkədə, ŋojoo, sari* [1], *səul* (*səullini*) , *soopu, ura, xulči*) ; その他のふね *ada* [2], *ǰai, kaukau, bolootu, poroxootu* (*koojil, kutuli, kaita*) , *təmmə, tərkə* ; *čisseeni, dawweeni* (*dawaitu*) , *əəwwini, eekkuččeeni, laataldusini, məlbini, məəssini, sumneeni, xaagǰini, xoǰǰeeni, xuwarigačči ni, xəmbəəru.*

にもつ *kətələ, ojosko* (*nulǰi* のとき *abdu* をまとめたもの) , *pina, təəwə* (*təəwəlleeni*) , *təurini.*

9. 生殖・妊娠・出産

生殖 *mučči ni, očči oi* (*namuu*) , *paŋgakkini* (*toini*) . 妊娠 *dəlu* (*dəllini*) , *əsərəi* (*əsərəkkini, əsərəigəčči ni*) , *buljini.* 出産 *adau, amurau, baal, baljini, baljiǰǰini, baljimakta, boŋgo, jaačči eeni, jaatau, gaksi, miiwəəčči ni, peskini, purigəčči ni, purrini* [2], *udama.* 妊娠・生後の月数 *geeda bee, dəəǰǰeeni, illeeni, ǰiiǰǰeeni, tunǰeeni, nuŋgeeni, naǰǰeeni, ǰakpeeni, xuǰǰeeni, ǰoojjeeni* (2 − 10 の序数詞＋第３人称語尾) .

10. 保育

授乳 *kəkkəurini, kəəččəənǰini* (*kəə, kəəčči ni*) , *kəəkəəptu* ; *pooto* ; *xuppəəčči ni* ; *alasini, kəmmeeni* ; 育児具 *duri,* ゆりかご *əmuwə* (その部分 *čigəptu, əmuwə ǰiliptuni, əmuwə suuptaŋini, japtuxi, namagda, tuulči, ulduni*) .

幼児語 *ačika, ataku, bəəbə* (*bəəbəkə*) , *bəǰiku, bəǰǰəə, gaaki, gəikkeeni, ǰiliku, koko, kəkə, mammeeni, nəəčikə, ŋatukku, ŋinaka* (*ŋanaka*) .

玩具 *xupikku* (*ačika*) , *gasaa, xarukki, xoxoo.*

遊戯 *bəəbəəkku* (*bəəbəəkkini*) , *dərikəəčči ni, kərgigə* (*kərgigəčči ni*) , *pəkkini, sirikaačči ni, takkaaptu* (*takkaačči ni*) , *taktoopu* (*taktooči ni*) , *tulukpinǰini, xookkaalleeni.*

11. 傷病

外傷 *pujə* [1] ; *kəčigənneeni, kəəčiktənneeni, kombojjeeni, pukkanneeni, putuǰǰeeni, uŋdujjeeni, waarini.*

疾患 *ənuu, ənusini* ; *bulpəčči ni, duulleeni, əəndə, muxakku, naammeeni, nəčikku, əə, paaŋŋeeni, pəuktə, piil, piŋǰičči ni* (*piljǐ*) , *polo, pəərini, seexa, seejjini, soso, suunǰini, suuppačči ni, uksi* (*xap*) , *xana, xaullini, xoksiga, xunikkulleeni* (*xunnini*) , *xusseeni, xuturikku.*

治療 *dookturi, okto* (*okči ni*) , *naudakta, noŋoči ni, peskini, simmoonǰini, xatulleeni, xoojjini* (*xoorini*) , *kalǰami tutuuni, uǰəə gujani, wapaa.* 神像・護符の条参照。

12. 犯罪 *baita, dorommeeni, doromosini, doroosu, xorkeeni* ; 補償 *kərəməsini, kərrəu, kərrəurini.*

13. 娯楽

カルタ *kaar(it)ta, buunəi, čeelba, əurinəikkə, toora, bəi, katu, koloopu, ǰaaragda, jəirəgdə, ǰakpuragda, nadaragda, nuŋərəgdə, moo, tuusi* ; *akkoollini, beettəəriči, nuŋundooriči, okkoorriči* ; *aaŋŋeeni, sarpini* ; *daamukka, tuppa.*

喫煙 *saŋna, dawwi* (*aŋmapu, koči, tuma*) , *moomoo, trubukka, padu* (*čuurəəktə*) ; *gidakku, kəkkərreeni, taawwini, xuməskə.*

楽器 *kuŋgaa* (*kuŋgakkeeni*) , *muxənə* (*muxənneeni*) , *puupuwa, puupooptu* (*puupoočči ni*) , *təkkərə.*

14. 口頭文芸

ジャンル *gajau* (*gajakkini*) , *niŋmaa* (*niŋmaanǰini, niŋmaala*) , *saxuri* (*saxurrini*) , *təəluŋu* (*təəluŋučči ni*) , *xəəgə* (*xəəkkeeni*) , *jaaja* (*jaajjeeni, jaajala*) ; 演じかた *əəwurə, jogjo, jogjonǰini, čəčəəree, tulpi, laarinǰini, darrini, dariččini, gəə.*

15. 信仰・宗教など

神 *dəəttə, əǰəxə, ənduri, tawa maŋani* (*maŋarreeni*), *məə kulambani pulisi səwə, taixunǰi, xaddau*; 祭事 *bəəbəčči̇ni, boroči̇ni, čəəwwini, čəəwuči̇ni*; 用具 *itaŋgi, ittoo, jojoo.*

巫者 *sama*; 巫事 *dotoči̇ni, eerokkeeni, korkiǰǰeeni, laakpini, məu* (*məurini*), *pədənǰini, pukkini, pulleeni*[1], *puulleeni, samalači̇eeni, samalleeni, samambini, səəkkurə, təəpči̇ni*; 服飾・用具 *aalasi* (*aalaxi*), *daali* (*čiimee, daali muuŋni, komuunǰeeni, kuwata, tauŋ*), *gisipu* (*gisinǰini*), *jaakpa, joodopu, nuruwa*; 巫者用語 *daurau, dəəttə, dulənǰi, əəŋinǰee, guulleeni, jaaǰǰeeni, məəkkee, samannee, solǰinnee, eelbinnee, tawaptu, təəmu, təəmunneeni.*

くま儀礼（くままつり） *xurigači̇čuri*; くまの養育 *korree* (*koripsa*), *olii*; 儀礼 *xurigači̇čini* (*xureeči̇čini*), *xurigammeeni* (*xureemmeeni*), *ŋaarreeni, tudə, čuun, maglii tawa, maglii ənuwə, leeduŋa*; 余興 *tukkə, duxinǰini, ŋooči̇ceeni* (*mooči̇ceeni*), *kotorigakpanǰini, ulaaǰi tuksaurini* (そりを引く), *pəkkuri, mambakkaa annauri*; くまの名称 *bəjə, dəəttə* (*dəəttənneeni*), *naa mapani, xoo.*

神像 (*səwə*)・護符など 出産に関するもの *čaalaa, gabala, kaasi*; 病気治癒のためのもの *bokko səwəni, bokkoni kəəŋə səwə, bučča, darama səwəni, əəriptu, ǰiliptu, kaami, ləwigənǰi geegani, muxa, ŋojokko, oktokku, paaŋmi, səwəkku, xunikku*; 巫者の神像など *bəətə, kalgama, maasi, maŋi, siiwurə, duwasu*; その他のもの *kirəu, kutujə* (の偶像), *məkčəŋə səwə, pataxa,* (*puttə jeeni* 参照), *siǰi niriktani, sikpu*[2].

木幣 (*illau*)・神柱など *daruwa, ebuski illau, nanusi, tuuru, tuuruwa*; *darapilleeni*; そのほか *illau* の語の項参照。

葬制 *buǰini, čaxu*; *əpsiǰǰini, siimbini, ləlu, busuu, kinuwə, xoldosko, xoldoskoo lokkeeni, əuriŋŋeeni, xummini, dələ, geesu, buni, nuŋǰikku, nuŋǰini*; *sugǰini, oxuma, sinasalleeni.*

キリスト教 *baači̇kka, kirisi, satana.*

占い *paŋgači̇čini.*

16. 妖怪 *amba* (*kuunni amba*), *oŋdo, čagǰu* (*čagdu*), *xaapsanǰi*; *nuŋmənǰini, oŋdooči̇čini, duuləǰǰini, ambalǰini*; *kalǰami* (*kolmoi, xaan, duwasu*).

17. 世界観 上の世界の人 *bookkeenneeni*; 現世界 *taldaawu naa, taldaawu nari, taldaakki umulu nari*; 下の世界の人 *kəlmənneeni, məəkkeenneeni* (海神), *təəmunneeni* (海神); *nossuurini.*

18. 禁忌 *ənnəuri*

anani, aundau, čaxu, ənneeni, əəktənnee, gaallini, gaǰini の語の項参照。

19. 社会構成

氏族・親族 *xala*[2]; *aŋdai* (*aŋdainnee*), *duxa, gaallini, oisal.* 親族名称（以下，正式名称は第３人称語尾 *-ni* をつけてあげる） *aaŋni, aaŋasani* (*axa, axaŋasa, akkaanoo*), *ači̇ni, amini, amiŋasani, amirani* (*amma, ammaŋasa*), *andani, asini, asiŋasani, əəwəni, əigəni, əigəŋəsəni* (*əgə, əgəŋəsə, əkkəənəə*), *əǰini*[1], *əǰiŋəsəni, ənini, əniŋəsəni, əniranni* (*ənnə, ənnəŋəsə*), *əpini, inani, irgəni, gamasuni, gusini*[2], *mam-ənnə, naadaktani, nəuni, nəuŋəsəni* (*nunee, nukkəənəə*), *poojoini, pundaduni, purigəmǰini, puttəni* (*puttəŋəsə, puttərə*), *sagǰimǰini, səŋgini, taajini, tuwəni*[1].

婚姻 *sajjini, patalammeeni, xasasini, xasakčeeni, bodoči̇čini, maŋaa*; 族外婚 *gaallini* の語の項参照, *gaǰini, torrini* (*tori*), *bəlleeni, asilleeni, asilaǰǰini* (レヴィレート婚), *asilači̇čeeni, əǰilleeni, əǰiləǰǰini* (ソロレート婚); 婚姻に関する禁忌 *gaallini, gaǰini* の項参照; *miirənǰini, miirəmbini, miirəmbuǰǰini, miirəxu, činəpulleeni, bool, aisima mugdəə, kaaŋalda,* (*ənuwə* の語の項参照), *suwaiba, saulu*; *aujaači̇čeeni* (労働婚), *pujjəurini*; *xori*[2], *naawunǰini* (*naawu*), *sinasalleeni, muŋnaanǰini, sirreeni*[2], *giktaiǰǰini, wəəǰǰeeni.*

氏族名 *Daaxinneeni, Geetta, Muigəttə, Naiputunneeni, Səəktə* (*Daaji Səəktə, Taldaawu Səəktə, Nuuči Səəktə*), *Torisa, Waa(l)leetta, Warabainneeni.*

人名 *gəlbu, doowu gəlbu, ojuu gəlbu, gəlbulleeni, gəlburrini, gəlburisini.* (個々の人名は本文参照)

地名 (個々の地名は本文参照)

民族名 *Giləə, Golǰii, Jokko, Kiilləə, Kuuji, Luča, Manǰu, Maŋbu, Sisa, Uilta.*

20. 色 *səəgdə, soogdo, ɲoogdo, geeǰi, məŋuri, saari* (*pakka pakka*), *taagda*; *katta, siloi* (*silleeni* [1]).

21. 数 *taun, taunǰini* (十進法); *geeda* 1, *dөө* (*duu*) 2, *ilaa* 3, *ǰiin* 4, *tunda* 5, *nuŋu* 6, *nada* 7, *ǰakpu* 8, *xuju* 9, *ǰoon* 10, *ǰoon geeda* 11, *ǰoon dөө* 12, *xori* [1] 20, *ilaandoo* 30, *ǰiindoo* 40, *taŋgu* 百, *miŋga* 千, *tumə* 万, *daxu* (*ǰaxu*) 十万, *seen* [2] さらに上の位どり, *xuju miŋga nada taŋgu ǰakpundoo ilaa* 九千七百八十三.

22. 計測・尺度 *sairrini, sairikku*; *baǰǰee muirə, daa* [1], *daarrini, pana, čimna, dapakta, niŋi, sirөgbi, tawal, tawallini*; *təilə* (*naama*); *čoppui, dau*; *puuntu, puuntulleeni.*

23. 伝達 *kəsə, kəənǰini, unǰini*; *lučadairini, sisandairini, uiltadairini*; *sai, sainau, sajjini, saŋinau, saŋŋini, sawiga, saweelleeni, sawilleeni, ullini*; いぬへの合図 *kai, puree, too*; となかいへの合図 *čөөk, ttt.*

24. 時間 *əru* (とき), *əsi* (いま), *ooronnee, čiŋagəənnee, xaalanda, goropči, goroo, siir, otokoo, təəli, xaali, xaaliddaa.*

年 *anani*; ことし *jəə anannee*, 去年 *čiŋaannee*, おととし *čiŋaannee čigaakkeeni*, 来年 *goččii*, 再来年 *goččii čigaakkeeni*; 毎年 *anani anani.*

季節 *nəŋnə, duwa, bolo, tuwə* [2].

月 *bee*, こよみの月名 二月 *gusi beeni*, 三月 *tuwa beeni*, 四月 *xөөn beeni*, 六月 *sillaan beeni*, 九月 *siduxumbə gatapuri bee*, 十月 *puta beeni.* このほかの月の名は *bee, sagǰi* の語の項を参照。

日 *inəŋi*, きょう *əsinəŋi*, きのう *čeennee*, おととい *čeennee čigaapani*, あす *čimanaa*, あさって *čimanaa čigaapani*, さきおととい, しあさって *tari čigaapani*; 毎日 *guppөө*, 先日 *čiisənnee*; 朝 *čimai* (*čimani*), ひるま *inəŋi*, 晩 *səksə* (*səksəni*), 夜 *dolbo* (*dolboni*).

時 *čaasi*, 分 *minuutu.*

基礎単語日本語索引

項目名またはその部分に[+]、[×]、[※]の記号をつけたものがあるが，[+]をつけた項目（または項目の部分）は『アジア・アフリカ言語調査票 上・下』に載るものであり，[×]をつけてあるのは『基礎語彙調査表』に，[※]をつけてあるのはその両者に記載されているものである。なお，これらの記号のついていない項目は，前者の『調査票 上・下』に記載されたものである。→の記号は，索引中の類義の別項目を示すか，または本辞典に載る類義語を示す。前者の場合は，日本語の語だけを記し，ウイルタ語の語は挙げてないので，この索引中のその日本語の語の項をみられたい。

あ

あいさつ（挨拶）→（挨拶のことば，挨拶する） *sorojee, sorojisini*
あい（愛）する→すきだ，かわいがる *ananasini, gujjeeləsini*
あいだ（間）※ *aldaa*
あい（愛）らしい *alamuuli*
あ（会）う *ataallini, baallini, bakkeeni*
あ（合）う *ǰokkini*
あお（青）い※ *geeǰi, ɲoogdo*
あか（垢）※ *naŋisa*
あか（赤）い※ *səəgdə*
あ（明）かり *ixərə*
あが（上）る※ *kaappeeni*
あ（明）かるい※ *ŋəəgdə*
あかんぼう（赤ん坊）※ *baljimakta puttə*
あき（秋）※ *bolo, boloni*
あ（飽）きる *ilčeeni*
あくび（欠伸[+]）※ *dawwaanǰini*
あ（開）ける※ *niirini, turreeni*
（夜が）あ（明）ける *inneeni*
あご（顎[+]）※ *geega*
あごひげ（鬚）→ひげ
あさ（麻）× *piiktə*
あさ（朝）※ *čimai, čimani*
あざ× *tuxə*
あさ（浅）い※ *paaji*
あさって（明後日） *čimanaa čigaapani*
あし（足・脚）※ *bəgǰi*
あし（肢）× *bəgǰi*
あしくび（足首） *kigəli*
あした（明日）×，あす（明日）[+] *čimanaa*
あず（預）かる *ətəxxini*
あせ（汗）※ *ǰilata*
あせ（汗）をかく *ǰilaččeeni*
あそこ※→あそこに *taatadu, tootodu*
あそ（遊）ぶ※ *xuppini*
あたい（価）→ねだん
あた（与）える※ *bөөrini*
あたた（暖）かい※ *namauli*
あたた（暖）める *polokpisini, xuldumullini*
あたま（頭）※ *ǰili*
あたら（新）しい※ *sitəu*
あちら，あっち→あちらの方 *tootowwee*
あちらへ× *tootowosoi*

あつ（厚）い※ *ǰirami*
あつ（暑）い※ *xɔkkuuli*
あつ（熱）い *xulduu*
あつ（集）まる※ *oppourini*
あつ（集）める※［人，物などを］⁺ *oppourini*
あと（跡）× *pokto*
あと（後） *xamarree*
あと（後）に×→あとで *xamarreela*
あな（穴）※ *saŋa*
あなた※ *sii*
あなたたち⁺，あなたがた× *suu*
あに（兄）※ *aaŋni*
→にいさん *axa*
あね（姉）※ *əigəni*
→ねえさん *əgə*
あの× *taatari, tootori*
あばらぼね× *xɔučilə*
あぶら※（脂）⁺（脂肉）×→脂肪 *ilda*
あぶら（油）※ *puliččini*
あぶ（焙）る *dəǰǰuuli*
あま（甘）い※ *pulleeni*
あま（余）る *aduli*
あみ（網）※ *siliččeeni*
あ（編）む※ *tugdə*
あめ（雨）※ *tugǰeeni*
あめ（雨）がふ（降）る※ *silčini*
あら（洗）う※ *gəǰǰini*
あらそ（争）う→競争する *agbinǰini*
あらわ（現）れる *siruktə*
あり（蟻）※ *agdapsee*
ありがとう× *biini*
ある× *giččini*
（が）ある（存在）→ある *pulisini*
（で）ある→だ *taatari, tootori*
ある（歩）く※ *xaali*
→あるいている *xaaliddaa*
あれ※ *tunda*
いっぱい⁺，いっぱいの× *čakkaa*
→いっぱいになる *dalupčini*
いつも※ *guppɵɵ*
いと（糸）※ *kupə, tokpo*
いど（井戸）※ *mɵɵluutu*
いとこ※（従兄弟）⁺（従兄弟，従姉妹）× *gamasu, gusi, naadakta, pundadu, taaji, tuwə*
いなびかり（稲光⁺）※→いなびかりがする *tallini*
いぬ（犬）※ *ŋinda*
いのち（命） *ərgə*
いの（祈）る※ *kɔkkəlleeni*
いびき（鼾）→いびきをかく *liisini*
衣服→きもの
いま（今）※ *ɔsi*
いも（芋⁺）※→じゃがいも *kattooska*
いもうと（妹）※ *nɔu*
いや（no） *anaa*
→いいえ
依頼する→たのむ
いりぐち×→家の出入口 *utə*
い（射）る *garpeeni*
い（居⁺）る※（be）× *biini*
い（要）る※ *naaǰǰeeni*
いれずみ× *pɵɵŋɵrɵ*
い（入）れる※ *iiwwini*
いろ（色）※ *bəxə*
いろいろ→いろいろな *xala xala*
いわ（岩）× *ǰolo*
インク *bəxə*
陰茎※ *tutuu*
陰部［女子の］ *babuu*

う

うえ（上）※→上の方 *uwwee*
うえ（上）へ× *uisəi*
う（飢）える *lallini*
うか（浮）ぶ※，う（浮）く⁺ *koptoonǰini*
うけと（受取）る *allini*
う（受）ける *allini*
うご（動）かす *tuččini*
うご（動）く※ *tuččini*
うさぎ（兎）※ *tuksa*
うし（牛）※ *ixa*
うしな（失）う×→なくす *lɵpɵllini, wɔɔǰǰeeni*
うしろ（後）※ *xamarree*
うす（臼）※→ *itto*
うす（薄）い※ *nɔmilɔttɔ*
うず（埋）める→うめる *ǰillə*
うそ（嘘）× *jaaja*
うた（歌） *jaajjeeni*
うた（歌）う※ *ǰilləpsisini*
うたが（疑）う※ *doo*
うち（内） *xarpu*
うちわ（団扇） *duxinǰini, minǰeeni, paačilleeni, paaččini, panaǰǰeeni, tukpənǰini*
う（打）つ *minǰeeni*
う（撃）つ※ *aja*
うつく（美）しい※ *ŋaala*
うで（腕）※ *tananǰini, dappeeni*
うば（奪）う× *giləptu*
うでわ（腕輪） *muri*
うま（馬）※

うま（生）れる※ *baljini*
うみ（膿）※ *naaksa*
うみ（海）※ *namu*
う（生×，産+）む※ *bakkeeni*,
（人間以外） *tugbini*,
xulbeeni
→分娩する *jaaččeeni*
う（生）む，卵を× *tugbini*, *xulbeeni*
う（埋）める *xummini*
羽毛 *əpuktə*
うら（裏） *dokko*
うらやむ× *orgolisini*
う（売）る※ *xudaaččini*,
xudassini
うるさい *tapsaiwuli*,
xaunuuli
うれ（嬉）しい *agǰeeni*
うろこ（鱗）× *xəsiktə*

え

えさ（餌） *bəə*, *dallau*
えだ（枝）※ *gara*
えび（蝦）× *keekpari*
えもの（獲物）× *waali*
えら（鰓） *sənə*
えら（偉）い *əllə u*
えら（選）ぶ※ *silmasini*
えり（襟）× *sini*
鉛筆 *nurikku*

お

お（尾）※
（さかな） *pačii*
（とり） *xudurə*
（けもの） *xudu*
おい（甥）※ *gamasu*,
naadakta
お（追）いかける※ *xasasini*
おい（美味+）しい※ *aptauli*
お（追）いつく *xaakpanǰini*
お（追）う *xasasini*
王→支配者 *ədə*
王妃→きさき *ədə asini*
おお（多）い※→たくさん（の）
おお（覆）う *dakkanǰini*
おおかみ（狼）× *ŋəələ*
おお（大）きい※，おお（大）きな+
daaji
おおぜい（多勢） *əgǰi*
おか（丘）× *gaunaxi*
おかしい *inəmuuli*
おかず *poojiptaŋi*
おが（拝）む→礼拝する
meexuranǰini
おがわ（小川）→小さい川
uniga
お（起×）きる※（起立）+
təərini
お（置）く※ *əkseeni*
臆病な× *ŋəələəsu*
おく（贈）る *bəərini*
おく（送）る※ *uiǰǰini*
お（起）こす *təəwwini*
おこ（怒）る※ *tagǰeeni*
おさえつける *čirreeni*
おさえる× *čirreeni*
おし※（唖）+（唖者）×
kəsələ anaa
おじ（伯叔父）× *amini*, *amma*,
gusi
おし（教）える※ *allausini*,
tattuuččini
おし（惜）む→おしがる
munalisini
お（押）す※ *anneeni*
おす（雄） *amina*, *xakta*
おそ（遅）い［速度］→のろい
おそ（恐）れる→こわがる
おそ（恐）ろしい *ŋəələpsuuli*
お（落）ちる※ *tukkini*,
（日，月が） *tuuǰǰini*
おっと（夫）※ *əǰi* [1]

おと（音）※ *seesiŋi*
おとうと（弟）※ *nəu*
「弟・妹」の総称× *nəu*
おとこ（男）※ *nari*, *xusə*
おとこきょうだい（兄弟）×→あに，おとうと
おとこきょうだい（兄弟），配偶者の× *ina*
（下へ）おと（落）す *tugbini*
おととい（一昨日） *čigaapani*,
čeennee čigaapani
おとな（大人+）× *daajinnee*, *nari*
おとなしい *bərəu*
おど（踊）り *məu*
おど（踊）る※ *məurini*
おどろ（驚）く※ *olleeni*
おなか→はら
おなかがすく→はらがへる
おな（同）じ※ *əmətte*
おの（斧）× *masaari*, *toporo*
おのおの（各々）→自分自分で
məənə məənə
おば（伯叔母）× *ənini*, *pundadu*,
taaji
→おばさん *nuuči ənnə*
おび（帯）※ *umul*
おまえ× *sii*
おまえたち× *suu*
おも（重）い※ *xudəuli*
おも（思）いだ（出）す※
doonduǰǰini
おも（思）う※｛「…と思う」｝×
mərəččini
おもしろ（面白）い *səbdənuuli*
おもちゃ（玩具） *xupikku*
おもて（表） *ojo*
おや（親）→両親
おやゆび（親指） *pərə*
およ（泳）ぐ※ *paurrini*
お（降）りる *xaagǰini*,
xələnǰini
お（下）りる× *əurini*, *tuuǰǰini*
お（折）る※ *čigallini*,
čigassini,
čiŋgullini,
kapullini,
kapussini
おろ（愚）か *akaari*
おわ（終）る※ *xoǰǰini*
おんな（女）※ *əəktə*
おんなきょうだい（姉妹）×→姉妹
おんなきょうだい（姉妹），配偶者の×→姉妹，配偶者の

か

か（蚊）※ *nalmakta*
蛾 *guuguldu*,
tawalamǰi
かい（櫂）× *geul*
かい（貝）※ *kəjuwə*
海岸 *namu kirani*
外国 *goi naa*
開始する→はじめる
階段 *tookpu*
外套× *səən*
外部→そと
怪物→妖怪 *amba*
か（買）う※ *gaǰini*
か（飼）う※→飼養する
uǰǰini
かえる（蛙） *udala*
かえ（帰）る※ *ŋənnini*
→かえってくる *issini*
か（変）える※ *kalleeni*
かお（顔）※ *dərəl*
かおり（香）→におい
価格→ねだん
かかと（踵） *ukči*
かがみ（鏡）※ *panaapu*
かきね（垣根）※ *kərə*
→さく *kurəi*
か（掻）く※ *xosisini*

か（書）く※ *nurrini*
か（嗅）ぐ※ *ŋooxilleeni*
→かいでいる *ŋoosini*、*ŋooxiččini*
かく（隠+，匿）す※ *dajjini*
かく（隠）れる *sirrini* [1]
かげ（影）※ *pana*
かげ（陰） *əji* [2]
がけ（崖）× *kada*
か（掛）ける※ *lokkeeni*
かご（篭）※ *kurkə*
かさ（傘） *tugdəučikku*、*tugdəučuu*
かさ（重）ねる *dupčini*
かざ（飾）る→模様をつける *irgeeni*
かじ（火事） *taulu*
かしこ（賢）い *əddəəŋgə*、*mərgə*、*mərəlu*、*mərəttu*
かじ（齧）る *mujjini*
か（貸）す※ *nagdaunjini*
かぜ（風）※ *xədu*
かぜ（風邪） *seexa*
かぞ（数）える※ *taunjini*
かた（肩）※ *muirə*
かた（堅+，固）い※ *maŋauli*
かたち（形）※→かっこう *duru*
かたづ（片付）ける *əpsijjini*
かたな（刀）※ *lauta*
かたほう（片方） *gaksee*、*gaksigda*
かた（固）まる *buljini*
かたむ（傾）く *xəujəjjeeni*
かたわら（傍） *xoldo*
か（勝）つ※ *gajini*、*məərini*
かつ（担+）ぐ※ *waapinjini*
学校 *bičixxəə tattuuččuri duxu*
かど（角）× *oo*
かに（蟹）× *taxakka*
かね（金） *gumaska*
かねもち（金持） *baja*
可能だ→できる
かの（彼）女※ *tari əəktə*、*tari əəktənnee*、*nooni*
かの女ら *tari əkkəl*、*tari əəktənneel*
かび（黴）× *puŋdai*
寡婦×→やもめ
かぶせる※ *dakkanjini*
かぶ（被）る *aapulleeni*、*kumalleeni*
かべ（壁）※→小屋のおおい *guidə*
かま（釜）※ *ənuwə*
かま（鎌）× *oroktoo pusikku*
がまんする× *maŋiččeeni*
かみ（髪）→かみのけ
かみ（紙）※ *xausali*
かみ（神）※ *əjəxə*、*ənduri*、*xaddau*
か（咬）みつく※ *iktəmənjini*
かみなり（雷+）※ *agji*
かみ（髪+）のけ（毛+）※ *niruktə*
か（噛+，嚙+）む※ *seerini*
かも（鴨）×→がん *nuŋna*、*auŋga*、*kəŋədəi*、その他
かゆ（粥）× *siləunə*
かゆ（痒）い※ *xuturisini*、*xuturuuli*
から（辛）い *kaktaruuli*、*kaktarisini*
からす（烏+，鴉×）※ *gaaji*、*tuwa*
ガラス *paawa*
からだ（体+）※ *bəjə*
からっぽ（の+） *kəəkku*
→からの *kəəŋə*
か（借）りる※ *iksumasini*、*naŋjeeni*
か（刈）る※ *pussini*

かる（軽）い※ *xənumi*
かれ（彼）※ *nooni*、*tarinnee*
かれ（彼×）ら※ *nooči*、*tarisal*、*tarinneel*
か（枯）れる※ *xaŋmeeni*
かわ（川）※ *uni*
かわ（皮）※ *natta*
（なめした） *xarapsa*
（さかな） *sugbu*
→皮膚
かわ（樹皮）× *talu*、*xurakta*
かわい（可愛）い *alamuuli*
かわいそう *gujjeeləsini*
かわ（乾）いた※ *xoldoxo*
かわ（乾）く※ *xoljeeni*
かわ（変）る※ *kalleeni*
繃 *baanikka*
かんが（考）える※ *bojjeeni*、*mərəččini*、*pərgeeni*
感謝する *agjeeni*
関節 *dala*
肝臓※ *paaxa*
乾燥する→かわく
官吏→巡査 *jaŋgee*

き

き（木）※ *moo*
木（材）×→き
きいろ（黄色+）い※ *ŋoogdo*、*soogdo*
機械 *marisseena*
き（気）がつ（付）く *saajjini*
き（聞）く※ *dooljini*
きこ（聞）える *dooljipčini*
きざ（刻）む *duurini*
きし（岸）※ *kira*
きず（傷）※ *pujə*
きた（汚）ない※ *təlbəənuuli*
きづ（気付）く *saajjini*
きつい×→きつく *čakčaŋ*
きつね（狐）× *suli*
きぬ（絹）× *səurə*
きね（杵）× *monipu*
きのう（昨日）※ *čeennee*
きのこ（茸）× *dudakta*
き（木）のみ（実）× *bootoo*
→（はい松） *bookto*
きば（牙） *sutta*
→犬歯 *guja*
義父× *əpi*
義母× *ači*
き（決）める *toktourini*
きもち（気持） *mərə*
きもの（着物）※ *tətuwə*
きゅう（九） *xuju*
九十※ *xujundoo*
急に *geedara bultai*
牛乳 *ixa kəəni*
急流 *xəjə*
給料 *karu*
きょう（今日）※ *əsinəŋi*
境界→さかい
兄弟※→あに，おとうと
兄弟，配偶者の× *ina*
拒絶する→ことわる
去年 *čiŋaannee*
きら（嫌）う※ *gallini*
きり（霧）※ *tamna*
きり（錐） *piipu*
き（着）る※ *təččini*
き（切）る※ *čigallini*、*čigassini*、*čiŋgullini*、*miinəsini*、*miirini*、*xoorini*
きれい（綺麗）→きれいな
きれいな× *aja*、*gəəgdə*
きれない（鈍） *əsi daara*
きれる（鋭） *daarini*、*xəmbəəru*
金※ *aisi*
銀※ *məŋu*
禁止する，禁ずる *paapulleeni*、

xərəssini
近所 *nimə*
金銭→かね
筋肉→腱 *sumu*

く

く (九) *xuju*
九月 *siduxum(bə)*
gatapu(ri)
bee(ni)
くき (茎)※ *sii*
くぎ (釘)× *tukpə*
くさ (草)※ *orokto*
くさ (臭) い※ *ŋokkuuli*
くさ (腐) った※ *naaxa*
くさり (鎖) *boipu*
くさ (腐) る *naarini*
くし (櫛)※ *mərkə, sigǰipu*
くしゃみ※ *isku*
くじら (鯨)× *kadara*
くすぐったい *čigirisini,*
čigiruuli
くすぐ (擽) る *čigiččini*
くすぶ (燻) る *tawa sugbinǰini*
くすり (薬)※ *okto*
くすりゆび (薬指) *gajau*
くそ (糞) *amu*
くだ (砕+) く※ *pəkpini*
くち (口)※ *aŋma*
くちばし (嘴)※ *xoxoo*
くちひげ (口髭) →ひげ
くちびる (唇)※ *pəmu*
くちぶえ (口笛) *kəjəə*
くつ (靴)※ *utta*
くっつける※ *daksaunǰini*
くに (国) *naa*
くば (配) る→分配する
くび (首+,頸×)※ *moŋo*
くびかざり (首飾) *anaa*
くぼんだ×→くぼみ *toŋdoo*
くま (熊)× *bəjə*
く (汲) む※ *soorini*
くも (雲)※ *təwəskə*
くも (蜘蛛)× *təənənǰi*
くもり (曇) →くも (曇) る
təwweerini
くら (鞍) *əməə*
くら (暗) い※ *pakčirauli*
くら (暮) す *balǰini*
くら (比+, 較×) べる※
unigəččini,
unigəlleeni
く (来) る※ *sinǰeeni*
くる (苦) しい→くるしむ
くる (苦) しむ *siinəǰǰini*
くるぶし (踝) *təskəktə*
くるま (車)※ *marisseena*
(日が) く (暮) れる *pakčirajǰini*
くろ (黒) い※ *saari*
くわ (鍬)※ *tuŋa*
くわ (銜) える→くわえている
iktəməččeeni
君主 *ədə*

け

け※ (毛, 人間の体毛)+ {人体の}×
(動物の毛)+ {動物の}×
sinakta
け (毛) 織物× *sinakta busuni*
けが (怪我) →けがをする
けがわ (毛皮)※ *natta*
(頭) *meeta*
(すね) *xooso*
けさ (今朝) *əsi čimai,*
jəə čimannee
け (消) す※ *siirini,*
xəppəullini
けず (削) る *geerini, xalǰini*
けだもの (獣) *bəjə*
けちな *bilda*
血管 *xumukta*
結婚→結婚する

結婚する×→めとる *gaǰini*
とつぐ *miirənǰini*
けむし (毛虫) *wəərə*
けむり (煙)※ *saŋnaka, sugbi*
けもの (野獣)×→けだもの
下痢 *soso*
け (蹴) る※ *baasalleeni*
剣→かたな
弦→つる *xuli*
けんか (喧嘩) *sorruri*
喧嘩する× *sorrini*
減少する→へる

こ

(人間の) こ (子) *puttə*
(動物の) こ (仔)
(犬) *ŋinaa*
(くま) *siroo*
(となかい) *soondoo*
ご (五) *tunda*
こう×→このように *ərəiŋəči*
高価→たかい (高価)
睾丸× *inikta*
洪水 *məədə*
蝙蝠× *dolbolduu*
こえ (声)※ *ǰilda*
こ (越) える×→こす
dawweeni
こおり (氷)※ *duwə*
こお (凍) る※ *suŋunǰini*
こがたな (小刀)※ *geesuu, gisiruu,*
kučigə
→ほうちょう *sinasuu*
五月 *xunni(i)n beeni*
呼吸する→いきをする
故郷 *balǰixambi naa*
こ (漕) ぐ× *geullini*
穀物→こめ
こけ (苔) *lawikta, ləwiktə,*
namulta, okko,
waxi
ここ (此処) →ここに
ここに× *jədu*
ここのつ※ (九)+ (9)×
xuju
こころ (心)※ *mərə*
こころ (試) みる *pərgeeni*
ござ *kauta, silpima*
こし (腰)※ *darama, dəwə*
こしか (腰掛) けの類×→ざぶとん, こしかけ *təəkku*
こしか (腰掛) ける※
təərini
こじき (乞食) *geuxaatu*
五十※ *tundadoo*
こしらえる→つくる
こす (擦+) る※ *xəərrini*
こた (答) える※ *darreeni*
こちら, こっち→こちらの方
əwwee
こちらへ× *əwəsəi*
こちらへいらっしゃい×→こっちへ来い
əwəsəi sindau
コップ *urum(uk)kə*
ことし (今年) *jəə anannee*
こと (異) なる→ちがう
ことば (言葉+)※ *kəsə*
こども (子供)※ *puttə*
ことわ (断) る *beelbini*
こな (粉+)※→こむぎこ
こな (粉) にする *pəkpini*
この× *əri*
このごろ *əsiməkəə*
この人× *ərinnee*
この (好) む※→すく
このような→こんな
こぶし (拳+)※ *čurga*
こぼす× *xəəlǰini*
こま (困) る *taŋgaǰǰeeni*
ごみ× *ačarai*
こむぎこ (小麦粉) →むぎこ
upa
こめ (米)※ *buda*

こゆび (小指) *čimutəə*
ごらんなさい×→みろ
ittəu
これ※ *əri*
これら→この人たち
ərisəl
ころ (転) がる *puŋgəllini*
ころ (殺) す※ *waarini*
ころ (転) ぶ× *tukkini*
こわ (恐+) がる※ *ŋəəlleeni*
こわ (壊+) す※ *bujaljini*
こわ (毀・壊) れる *bujaǰǰeeni*
こんな *əməčigə*
困難→むずかしい
今晩 *əsi səksə*
今夜 *əsi dolbo, jəə dolbonnee*
婚礼 *suwaiba*

さ

歳 [1歳, 2歳] *anani*
裁縫 *urpuri, kitaanji urpuri*
材木 *moo*
さお (竿) *goopu*
さかい (境) *dakpa*
さが (探) す※ *gələǰǰini, gəlleeni*
さかづき (盃) *koči, urum(uk)kə*
さかな (魚) ※ *suŋdatta*
さかな (魚) {食物として} × *suŋdatta*
さ (下) がる→くだる
əurini, xəjjəənjini
さき (尖) ※ *duwə, suwə*
さき (先) に×→まえに
(より) さきに→ (より) まえに
さく (柵) *kurəi*
さ (裂) く※ *gudəčči ni, gudənjini*
さ (咲) く *sillaanjini*
昨晩 *čeennee səksə*
昨夜 *čeennee dolbo*
さけ (酒) ※ *arakki*
さけ (叫) ぶ※ *murreeni*
さ (裂) ける※ *gudəǰǰeeni*
さじ (匙) ※ *xuniga*
さ (指) ししめ (示) す※ *nuŋjini, nuŋjičči ni*
さ (指) す *nuŋjini*
さ (刺) す *kučilleeni, xatučči ni, xatulleeni*
させる [見させる] →みせる
ittəunjini
砂糖※ *satu*
さび (錆) *səbtu*
さび (寂) しい *səurisini, səuruuli*
さむ (寒) い× *nuŋjuuli*
さ (覚+, 醒×) める※→めざめる
さようなら※ *ajakaanji ŋənnəu, ajakaanji bissəəri*
さら (皿) ※ *tərəl(ik)kə*
ざらざらした× *kəčil kəčil*
さる (猿) ※ *moŋo*
さわ (触) る※ *uktullini*
三 *ilaa*
三月 *tuwa beeni*
三十※ *ilaandoo*
三千× *ilaa miŋga*
三人 *ilaannee*
三番目×→第三
三百× *ilaa taŋgu*

し

し (四) *jiin*
し (死) *bulpuri*
字※ *bičixə*
時 *čaasi*

しお (塩) ※ *dausu*
しおから (塩辛) い※→しょっぱい
goččuuli
しか (鹿) ×
→となかい *sirə, ulaa*
→じゃこうじか *uǰɔɔ*
しかく (四角) い *oolu*
四月 *xəən beeni*
しか (叱) る※ *paallini*
士官 *saldaa ǰaŋgeeni*
時間→とき
色彩→いろ
しきもの (敷物)
(毛皮) *beeltu*
し (敷) く *beelčini*
しごと (仕事) *uiləkku*
自殺 *məəpi waawuri*
四十 *jiindoo*
地震 *naa tučči ni*
した (舌) ※ *sinu*
した (下) ※→下の方
pəǰǰee
したた (滴) る *sabjeeni*
した (下) へ× *pəisəi*
しち (七) *nada*
七月 *tuuliməŋ beeni*
七十※ *nadandoo*
し (知) っている※ *saarini*
しっぽ※ (尻尾) + (尾) ×→お
死人 *bučči nnee*
し (死) ぬ※ *buǰini*
しば (縛) る※ *suurini, ujjini*
支払う *tammeeni*
しびれる *pəərini*
自分※ *məənə*
脂肪
(くま, あざらし) *nəmuu*
しぼ (絞) る *sipirrini*
しま (島) ※ *buwaata*
姉妹※→あね, いもうと
姉妹, 配偶者の× *əəwə*
しまっておく× *əkseeni*
しめ (示) す→みせる
し (締+) めつける※
kaummini
しめ (湿) った→しめる
uksini
し (閉) める※ *sommini*
地面×→土地 *naa*
シャツ× *ulbaaxu*
しゃべ (喋) る *kəənjini*
十 *joon*
十一※ *joon geeda*
十一月 *sagji beeni, bədəl beeni*
十月 *puta beeni*
住居→いえ
十九 *joon xuju*
十五 *joon tunda*
集合する→あつまる
十三※ *joon ilaa*
十四 *joon jiin*
十七 *joon nada*
しゅうと *əpi*
しゅうとめ *ači*
十二※ *joon dəə*
十二月 *girraun beeni*
十八 *joon jakpu*
十万× *joon tumə*
終了する→おわる
十六 *joon nuŋu*
熟した※→熟する
熟する *xurrini*
種子→み
主人※ *duxu ədəni*
出血する→血が出る
səəksə nəərini
出発する *guulinjini*
樹皮 *talu, xurakta*
巡査 *ǰaŋgee*
錠 *jooso*
正月→一月
正午×→おひる *inəŋi taldaani*
賞賛する→ほめる

正直[+]，正直な[×] *toŋdo*
少女[×] *əəktə puttə*
じょうず（上手）[※] *pakči*
使用する→つかう
商店→みせ
商人 *xudaačči nari*
少年[×] *xusə puttə*
丈夫[+]，丈夫な[×] *masi*
小便[※] *čigə*
小便する[×] *čigənjini*
食事 *dəpuri*
食物→たべもの
書物→ほん
し（知）らせる *aldooččini, aldurrini*
しらみ（虱）[※] *čiktə*
しり（尻）[※] *ura*
しる（汁）[×] *silə*
し（知）る[※] *saarini*
しるし（印）[※] *sawiga*
→めじるし *sai*
しろ（白）い[※] *taagda*
しわ（皺）→しわがよる *mosirreeni*
信ずる[※] *tədəssini*
親戚→親類
新鮮な *iimou*
心臓[※] *meewa*
腎臓[※] *bosokto*
身長 *gugdala*
心配する[※] *gasseeni*
親類→（姻戚） *səŋgi*

す

す（巣）[※] *omo*
睡眠 *aami*
す（吸）う[※] *kəəččini, simiččini, simmini*
す（好）きな *ananauli*
す（好）く→すきだ *ananasini*
すく（救）う *xurrini*
すく（掬）う *pasuwalleeni*
すくな（少）い[※]→すこしの
すこ（少）しの[×] *oi, ojuuka*
スコップ[×] *xəripu*
すす（煤）[×] *nuuksə*
すず（鈴） *koŋgokto*
すず（涼）しい[※] *saŋu, səərisini, səəruuli*
すずめ（雀）[×]→ことり *nəəčigə*
す（酸[+]）っぱい[※] *duuruuli*
す（棄）てる[※] *məətəlleeni*
すな（砂）[※] *xonokto*
すね（脛） *xuksuwa*
スプーン→さじ
すべ（滑[+]）っこい[※]→すべる
すべて→全部
すべ（辷）る[×] *baurikpanjini, baurisini, bauruuli*
ズボン[※]→ももひき
すみ（炭）[×] *seelta*
すみ（墨） *bəxə*
すみ（隅） *oo*
す（住）む[※] *biini*
す（為[+]）る[※] *oini*
ずるい[×] *jirəəsu*
するど（鋭）い[※]→きれる
すわ（坐）る[※] *təərini*

せ

生活する *baljini*
清潔→きれいな *gəəgdə*
性交する[×] *paŋnakkini*
成長する→そだつ
生命→いのち
せお（背負）う[※] *pinalleeni*
世界→天地 *boo*
せき（咳[+]）[※] *siikpi*
接触する→さわる

接吻する *kəmmeeni*
せなか（背中）[※] *atta*
せ（背）のたか（高）い[×]→たかい
せま（狭）い[※] *čiŋgi*
せる[※]［行かせる］[+] {「行かせる」}[×]
→行かせる *ŋənnəunjini*
千[※] *miŋga*
先日 *čiisənnee*
先生 *allausi nari*
戦争 *waalli*
戦争する[×] *waallini*
選択する→えらぶ
船舶→ふね
全部 *gəəm*
前方 *dullee*

そ

そう[×]→そのように *taraŋači*
掃除→はく *axirrini*
葬式→ほうむる
騒々しい *xaunuuli*
そこ（其処）→そこに
そこ（底） *pərə*
そこに[×] *čadu*
咀嚼する→かむ
そだ（育）つ[※] *urreeni*
そだ（育）てる *ujjini*
そちら，そっち→そちらの方 *tawwee*
そちらへ[×] *tawasai*
そと（外）[※] *bookkee*
そな（供）える *čəəwwini*
その[×] *tari*
その人[×] *tarinnee*
そのような *tamačiga*
そば（側[+]，傍）[※]→かたわら
祖父[※] *daaji amini*
→おじいさん *daaji amma*
祖母[※] *daaji ənini*
→おばあさん *daaji ənnə*
そ（染）める[×] *xurrini*[2]
そら（空）[※] *boo*
そり（橈）[×] *mauwa, naaritta, oksoo*
そ（剃）る *pussini*
それ[※] *tari*
それから *tamačču*
そんな→そのような

た

だ[※]［助動詞］[+]［be］[×] *biini*
たい[※]［行きたい，見たい］[+] {「行きたい」}[×]
→行きたい *ŋənəmusini*
→みたい *itəmusini*
太鼓 *daali*
だいどころ（台所） *kookkuna*
第三→第３月 *illeeni*
第二→第２月 *dəəjjeeni*
大便[※] *amu*
大便する[×] *amunjini*
たいまつ（松明） *peepu*
太陽[※] *suun*
た（耐）える→がまんする
たお（倒）れる *tukkini*
たか（高）い[※] *gugda*
たか（高）い（高価） *maŋga*
たか（高）い，（背の）[×] *gugda*
たか（高）さ *gugdala*
たがや（耕）す[※] *ussini*
たからもの（宝物） *jakka*
た（焚）く *iwanjini*
だ（抱）く *naamanjini*
たくさん *bara*
たくさんの[×] *bara*
たけ（竹）[×] *xuldukta*
だ（出）す[※] *nəəwwini*
たす（助）ける[※] *xurrini*
たず（尋）ねる[※] *panusini*

たたか（戦）う→戦争する
たた（叩）く　*duxiŋjini*, *paačilleeni*, *paaččini*
ただ（正）しい※　*toŋdo*
たた（畳）む　*muppini*
たちあ（立上）がる　*illini*
た（立）つ　*illini*
た（断）つ　*xətunjini*
（湯気が）たつ→（湯気を）たてる　*sugbinjini*
た（立）っている×　*ilisini*
たづな（手綱）　*silma*
たて（縦）→たてに　*ŋoniptai*
た（立）てる　*illuurini*
た（建）てる※→つくる　*andusini*
たな（棚）　*girkəptu*
たに（谷）※　*nuksa*
他人　*goinnee*
たね（種子+）※→み
たの（頼）む※　*səssini*
たば（束）　*baapu*, *məkpi*, *wəənə*
タバコ+，たばこ×　*saŋna*
たび（旅）→旅行
たび（旅）をする×→旅行する　*pulisini*
た（食）べもの（物）※　*dəppi*
た（食）べる※　*dəpčini*
たまご（卵）※
（鳥）　*ŋojokko*
（さかな）　*xairi*
（しらみ）　*xɵɵktɵ*
（はえ）　*xunakta*
たまご（卵）をう（生）む×　*xulbeeni*
→うむ　*tugbini*
だま（騙+）す※　*argalleeni*
たまねぎ×→あいぬねぎ　*siduli*
だま（黙）る※　*čiptam osini*
→だまって　*xuməə*
た（溜）める　*oddouččini*
たやすい（容易）　*jaa*
たる（樽）　*sittoo*
だれ（誰+）※　*ŋui*
誕生日→誕生の月　*baal*
ダンス→おどり
だんだん　*pakkee*

ち

ち（血）※　*səəksə*
ちい（小）さい※　*nuuči*
ちか（近）い※　*laxa*
ちか（近）く　*laxa*
ちが（違）う×，ちが（違）った+　*goi*
ちか（近）づく　*laksumanjini*
ちから（力）※　*kusu*
ちくび（乳首）×　*kɵɵ jiligani*
ちち（乳）※　*kɵɵ*
ちち（父）※　*amini*
→おとうさん　*amma*
→継父　*amira*
ちぢ（縮）む　*kuurrini*
ちぶさ（乳房）※　*kɵɵ*
茶※　*čai*
茶碗　*čaami*
→入れもの　*alukku*
昼食　*inəŋi dəppi*
長　*bəi*
腸×　*silokta*
頂上　*poro*
朝食　*čimmau*
ちょうちょ（う）（蝶々）×　*guuguldu*
跳躍する→はねる
貯蔵する　*buisini*
ちり（塵）　*puktaa*
賃金　*karu*
ちんば　*jooloi*

つ

ついたち（一日）　*bee dakpa*
つえ（杖）×　*činəpu*
つか（使）う※　*takkurreeni*
つかまえる　*dappeeni*
つか（掴）む※　*dappeeni*
つか（疲）れる※　*aallini*
つき（月）[moon]※　*bee*
つき（月）[month]※　*bee*
つ（突）きさ（刺）す×　*gijjeeni*
つ（突）く　*bagballeeni*, *bagbeeni*
つ（着）く※　*aapčini*, *xaagjini*
つ（注）ぐ×　*sirrini*, *xɵɵljini*
つくえ（机）※→食卓　*ostooli*
つく（作）る※　*andusini*
つ（付）ける　*borreeni*
つける，火を×→ひをつける
つち（槌）×　*paluwa*
つち（土）※　*naa*
つつ（包）む※　*xuullini*
つな（綱）※　*maatu*
→なわ　*madurukku*
つな（繋）ぐ　*ujjini*
つの（角）※　*xujə*
つば+，つばき×（唾）※　*tupi*
つば（唾）をは（吐）く　*tupinjini*
つばさ（翼）※　*xasa*
つぶ（潰+）す※　*čippini*
つま（妻）※　*asi*
つま（摘）む　*passini*
つ（摘）む　*issini*
つめ※（人の爪・動物の爪）+（爪）[nail] [claw]×　*taapa*, *xosikta*
つめ（冷）たい※　*giččuuli*
つゆ（露）　*siləskə*
つよ（強）い※　*maŋga*, *masi*
つりいと（釣糸）　*puula*
つりざお（釣竿）　*ločoo siini*
つ（釣）る※　*ločokkeeni*
つれていく　*orogjini*
つんぼ※（聾）+（聾者）×　*koŋgo*

て

て（手）※　*ŋaala*
であ（出会）う※　*baallini*
でかける　*guulinjini*
てがみ（手紙）　*bičixə*
てき（敵）※→かたき　*baduu*
でき（出来+）る※　*utullini*
て（手）くび×　*komuu*
です×→だ
鉄※　*sələ*
鉄砲×　*moičča*
てつだ（手伝）う　*bələččini*
手に入れる×→自分のものにする　*məəniŋŋilleeni*
てのこう（手甲）　*xuŋnu*
てのひら（掌）　*pana* [1]
て（照）る　*suunneeni*
で（出）る※　*nəərini*
天×→そら
点火する→ひ（火）をつける
天気※，天候+　*boo*
テント　*palaačikka*
天幕×　*palaačikka*

と

と（戸）×　*utə*
ドア→とびら
と（問）う→たずねる
どう※ [how]×→どのように
銅※　*geun*
同一→おなじ

道具※ *xaju*
どうぞ※→さあとれ *maa*
到着する→つく
とうとう *xaulee*
とお※ (十)＋ (10)× *ǰoon*
とお (遠) い※ *goro*
とお (通) る *siirini*
とかげ× *əsələ*
とがった× *suluktu*
とき (時) *əru*
と (研) ぐ× *piiwweeni, tuussini*
とげ (棘)× *kitaa*
→ (はまなすの) *siiməktə*
とけい (時計) *čaasi*
と (溶) ける※ *uunǰini*
どこ→どこに
どこに× *xaidu*
とし (年)※ [year]＋ (年齢)× (歳) [age]＋ *anani*
とし (年×) (を＋) とった※ *sagǰi*
としよ (年寄) り [老人一般] *sagǰinnee*
と (閉) じる→しめる
土地 *naa*
途中で× *aldaandu*
どちら，どっち *xaawu*
→どちらの方 *xawwee*
どちらへ× *xawasai*
とど (届) ける *irreeni*
どなた×→だれ
となり (隣) *nimə*
どの※ [which]×→どちらの *xaawu*
どのような→どんな
どのように *xooni*
とびら (扉) *utə*
と (跳) ぶ×→はねる
と (飛) ぶ※ *səgǰeeni*
と (泊) まる＋、とま (泊) る× *aunjeeni*
と (止) まる※→立ちどまる *illini*
と (止) める *tərrəurini*
とも (友) だち (達＋)※ *andail*
→あいぼう *jee*
(と) ともに→いっしょに *gəsə*
どもり *kələmə*
とら (虎)× *duusə*
とら (捕) える→つかまえる
とり (鳥)※ *gasa* [1]
とりか (取換) える *duwəllini*
と (採＋，取) る※ *dappeeni, waarini*
どれ※ [which]×→どちら
どろ (泥)× *čipaa*
どろぼう (泥坊) *doroosu*
と (富) んだ※ *baja*
どんな *xamačiga*

な

な (姓名の名) →なまえ
な {「飲むな」}× *əǰǰee ummee*
ない※ (無)＋、[there is no]× *anaa*
ない [not]× *əsini*
(で) ない *əsi bee*
ナイフ→こがたな
内部 *doo*
なお (治) す※ *xoojjini*
なお (直＋) す※→修繕する *tauččini*
なお (治) る※ *xoorini*
なか (中)※→内部
→まんなか *taldaa*
なが (長) い※ *ŋonimi*
なが (流) す *xəjjini*
なかゆび (中指) *taldaawu*
なが (流) れる※ *xəjjeeni*
な (泣) く※ *soŋŋeeni*
な (鳴・啼) く※ *ǰildanǰini*
な (無) くなる *wəədəpčini*
なぐ (撲＋、殴×) る※ *paačilleeni, paaččini*
なげす (投棄) てる→すてる
な (投) げる※ *məətəlleeni*
な (為) す→する
なぜ (何故＋)※ *xaimi*
なぞ (謎) →なぞなぞ
なつ (夏)※ *gajau*
ななつ※ (七)＋ (7)× *duwa, duwani*
なで (撫) る *nada*
なに (何＋)※ *bullini*
なにか※ *xai*
なべ (鍋)※ *xaiddaa*
なま (生) →なまの *ənuwə*
なまえ (名前)※ {人の} {物の}× *gəlbu*
なま (怠) ける※ *baajisini, baajuu*
なま (生) の× *naaluu*
なまり (鉛)× *tuda*
なみ (波)※ *laata*
なみだ (涙)※ *indumuska*
なめらか→すべる
な (舐＋・嘗×) める※ *illeeni*
なら (習) う× *taččini*
な (慣・馴) らす→慣らしている *tattuuččini*
な (鳴) る *uisini*
な (生＋，成×) る※ {実が}×→結実する *məmilleeni*
なる [become]× *osini*
(に) な (成，為) る→なる [become]
な (慣・馴) れる＋、な (慣) れる {習熟する}× *əməǰǰini, taččini*
なわ (縄) *madurukku*
なんじ (何時) →何時か *xasu čaasiga*

に

に (二) *dəə*
におい (匂＋)※ *puun*
にお (匂・臭) う *ŋokkisini*
二月 *gusi beeni*
にぎ (握) る→つかむ
肉※ [flesh] [meat]× *ulisə*
肉体→からだ
にく (憎) む *gossini*
に (逃) げる※ *tuččeeni*
にご (濁) る *soktoonǰini*
にし (西)※ *buniǰǰee*
にじ (虹)※ *agǰi seerooni, boo seerooni*
二十※ *xori*
二十一× *xori geeda*
二十三× *xori ilaa*
二十二× *xori dəə*
二千× *dəə miŋga*
にち (日) [1日，2日] *inəŋi*
日数 *inəŋi*
二番目×→第二
二百× *dəə taŋgu*
にぶ (鈍＋) い※ *əsi daara*
二万× *dəə tumə*
尿→小便
に (煮) る※ *ələsini*
にわとり (鶏＋)※ *nakku*
人形 *xoxoo*
人間×→ひと
妊娠→妊娠する，妊娠している *əsərəigəččini*

ぬ

ぬ (縫＋) う※ *urpini*
(運針縫い) *uldənǰini*
(かえし縫い) *xatuččini*
ぬ (抜) く※ *tupullini*

ぬ（脱）ぐ※ *aččini, giirini*
ぬす（盗）む※ *doromosini*
ぬの（布）× *busu*
ぬま（沼）地× *dətu*
ぬ（塗）る※ *borreeni*
ぬ（濡）れた※ *čikpa*
ぬ（濡）れる※ *čikpeeni*

ね

ね（根）※ *daata, muiktə, təkkə*
ねこ（猫）※ *kəskə*
ねじ（捩）る *murrini*
ねずみ（鼠）※ *ačiga*
ねだん（値段） *tama*
熱※ *polo*
熱（病気の熱） *polo*
ね（寝）ている→よこになっている *apaaččini*
ねている｛横たわっている｝× →よこになっている *apaaččini*
ねどこ（寝床）×→寝台 *aukku*
ねむ（眠）い *aamasini, aamauli*
ねむ（眠）る※ *aurini*
ねもと（根元）× *daata*
ねら（狙）う *tuurrini*
ね（寝+）る※，｛横になる｝× *akpanǰini*
年 *anani*
年令 *anani*

の

膿→うみ
脳+，脳みそ× *idə*
のこぎり（鋸）× *puupu*
のこ（残）す *pulləurini*
のこ（残）る※ *dərəiǰǰini* 1
→いのこ（居残）る *dərəǰǰini*
のち（後）※（に）+に×→あと，あとに
のど（喉+）※ *bilda*
のどがかわ（渇+）く※ *bildabi xolǰeeni*
ののし（罵）る *aburreeni*
の（伸）ばす+，のば（伸）す× *saanǰini* 2
の（伸）びる *saanǰini* 1
のぼ（登・昇）る *kaappeeni, mukčeeni, solleeni, toogǰini*
のみ（蚤）※ *sura*
のみ（鑿） *suwal*
のみこ（呑込）む *nuŋbeeni*
の（飲）む※ *ummini*
→のみくだす *nuŋbeeni*
のり（糊）→にかわ *kamdu*
の（乗）る※［車・動物などに］+ *uurini*
のろい× *ərkə*

は

は（歯）※ *kərəktə*
は（刃）※ *dəjə*
は（葉）※ *xamdatta*
はい（灰）※ *punəktə*
はい※［返事］+ *ii*
肺+，肺臓× *xababi*
はい（入）る※ *iirini*
は（這）う※ *miččini*
はえ（蝿）※ *ǰiiluwə*
は（生）える※→そだつ *buni*
ばか（馬鹿）+，馬鹿な× *dəiməu*
→おろか *mərəl(ə) anaa*
→かんがえなし *xənnuulleeni*
ばか（馬鹿）にする *puuntu*
はかり（秤）
はか（計+，測+，量+）る※ *daarrini*
は（吐）きだ（出）す×→はく
は（履）く *təččini, təiǰǰini*
は（吐）く※ *čeellini, xusseeni*
は（掃）く *xarpuurrini*
は（禿）げた× *xoto*
バケツ *kəččəəli*
はこ（箱）※ *xulda, xuldaa*
はこ（運）ぶ※ *dəərisini*
はさみ（鋏）※ *xaǰa*
はし（橋）※ *təktəkku*
（丸木） *tugdulə*
（倒木） *toowo*
はし（箸） *sabuu*
はしご（梯子）※ *muktakku, tookpu*
はしら（柱）※ *soono*
はし（走）る※ *tukseeni*
はずか（恥）しい *ilamauli*
はずか（恥）しがる× *ilamausini*
はた（旗） *nəureepu*
はだ（肌）→皮膚
バター× *ari*
はだか（裸+）※ *nilau*
はたけ（畑）※ *usi*
はだし× *bəgǰini nilau*
はたら（働）く※ *uilleeni*
八 *ǰakpu*
八月 *gooduman beeni*
八十※ *ǰakpundoo*
はな（鼻）※ *xuriga*
はな（花）※ *sillaa*
はなじる（鼻汁） *xuriga naaksani*
はな（話）す※ *kəənǰini*
はな（放）す※ *čiinǰeeni*
はなみず（鼻水） *xuriga məəni*
はね（羽）※ *dəktəktə*
は（跳×）ねる※ *dərinǰini, pəččeeni*
はは（母）※ *ənini*
→おかあさん *ənnə*
→継母 *ənirə*
はば（幅） *darami*
はま（浜） *giri*
はや（速）い※ *kusal*
はや（早）い※→はや（早）く *siir*
はやし（林）※ *mooso*
はら（腹）※ *bokko*
はら（腹）がへる※→うえる
はらわた（腸+）※→腸
はり（針）※ *kitaa*
はる（春）※ *nəŋnə, nəŋnəni*
は（腫）れる *xaullini*
晩※ *səksə, səksəni*
パン※ *lipeeskə*
反対する *beewuččeeni*
半分※ *kaltaa*

ひ

ひ（火）※ *tawa*
ひ（日）※ *inəŋi*
比較する→くらべる
ひがし（東）※ *suunǰee*
ひかり（光）※→日光 *suunə*
ひか（光）る※ *pudənǰini*
ひ（引）く→ひっぱる
ひ（弾）く *kuŋgakkeeni, muxənneeni*
ひく（低）い※ *nəktə*
ひげ※ *gudakta*
鼻孔 *xuriga saŋani*
ひざ（膝）※ *pənə*
ひじ（肱+）※ *uitə*
ひじょう（非常+）に※ *mastaa, maŋga*
ひだ（襞） *bopira*
ひたい（額+）※ *pəəjə*
ひた（浸）す *ulleeni*
ひだり（左）※ *dəunǰee*

ひっか（引掻）く→掻く
びっこ（跛） *jooloi*
びっこをひく× *joolonǰini*
ひっぱ（引張+）る※ *toonisini, toonǰini*
ひづめ（蹄） *kukča*
ひと（人） *nari*
ひとさしゆび（人差指） *xunigə*
ひとつ※（1）× *geeda*
ひとみ（瞳） *nariga*
ひとり（一人） *geedannee*
ひとりで× *əməəkə*
ひな（雛） *čauluu*
皮膚※ *xərəktə*
ひも（紐）※ *illuu, miiməttə, səəksə, tokpo, xəəxə*
百※ *taŋgu*
百一× *taŋgu geeda*
百三× *taŋgu ilaa*
百三十× *taŋgu ilaandoo*
百十× *taŋgu ǰoon*
百十一× *taŋgu ǰoon geeda*
百十二× *taŋgu ǰoon dəə*
百二× *taŋgu dəə*
百二十× *taŋgu xori*
ひ（冷）やす *peskini*
病気※ *ənuu*
病気になる *ənukkəə bakkeeni*
病人 *ənusinnee*
ひよこ *dəurigə*
ひら（開）く *niirini*
ひるま（昼間+）※ *inəŋi*
ひれ（鰭） *xawitta*
ひろ（広）い※ *daraɱi, gurəi*
ひろ（拾）う *təsusini*
ひろ（広）がる *gurəǰǰeeni*
ひろげる× *giirini, gulčini, gurəllini*
ひ（火）をつける※ *taawullini*
→たく *iwanǰini*
塁 *putul(ik)ka*
貧乏→まずしい

ふ

ふえ（笛） *puupuwa*
ふ（増）える※（増殖する） *pusənǰini*
ふか（深）い※ *sukta*
ふ（拭）く※ *xaurini*
ふ（吹）く※ *puurini, xədunǰini*
ふく（脹+）れる※ *puujjini*
ふくろ（袋）※ *padu, puutaa, xuurəə*
ふけ（雲脂） *xalukta*
ふさ（塞）ぐ *likpini*
無事→元気でいる *ajaǰi biini*
ふしぎ（不思議）な *pəskəpsuuli*
ふ（伏）す *xumusəi osini*
ふた（蓋+）※ *kupta*
ぶた（豚）※ *orgee*
ふたご（双子） *adau*
ふたた（再）び→また
ふたつ※（2）× *dəə*
ふたり（二人） *dəənnee*
ふつか（二日） *dəə inəŋi*
ぶつかる *uktullini*
ふで（筆） *nurikku*
ふと（太）い※ *ǰiktu*
ふと（太）った※ *bədə*
ふとん（蒲団） *naatami, pulta*
ふね（船+，舟×）※ *ugda*
ふ（踏）む※→ふみつける *tərəŋəčči ni, tərəŋəlleeni*
ふゆ（冬）※ *tuwə, tuwəni*
ふ（振）る※→ふるう *guppini*
ふる（古）い※ *goropči*
ふる（震）える *sildunǰini, surunneeni*
ふ（触）れる→さわる
糞 *amu*
分 *minuutu*
分配する *borrini*

へ

へ（屁）× *peu*
塀 *kərə*
兵士，兵隊 *saldaa*
へそ（臍+）※ *xunu*
へた（下手） *wəəgə*
別々→別々になった *xaŋŋee xaŋŋee očči či*
別の *goi*
へび（蛇）※ *muigi*
へや（部屋）※ *xakpil*
へ（減）る※（使い古して） *xaǰǰini*
ペン *nurikku*
変化する→かわる
返事→返事する *darreeni*
便所 *amučuu*

ほ

ほ（帆）× *kutuli*
棒 *moo*
ほうき（箒） *xarpu*
膀胱× *xuduu*
帽子※ *aapu*
ぼう（棒）っきれ×→棒
ほうむ（葬）る× *əpsiǰǰini*
ほう（抛）る→なげる
ほ（吠）える *guwweeni*
ほお（頬）→ほほ
ホーク→フォーク *čakpa*
ほか（他+，外×）の※ *goi*
保管する *ətəxxini*
ほくろ×→いぼ *pəuktə*
ほこり（埃+）※ *puktaa*
ほし（星）※ *unigəri, xosikta*
ほ（欲）しい *ananasini, gəlleeni*
ほ（干）す *xolǰini*
ほそ（細）い※ *nəmdə*
ほど（解+）く※ *ačči ni, gurəllini*
ほね（骨）※ *girapsa*
ほほ× *pulči*
ほ（賞+）める※ *dəərrini*
ほ（掘）る※ *xulleeni*
ほ（彫）る※ *kəəllini, tugbini*
ほん（本） *bičixə*
盆 *očči i*
ほんとう（真実）× *tədə*
ほんとう（本当）に *tədəə*

ま

毎あさ（朝） *čimani čimani*
毎日※ *guppəə*
毎年 *anani anani*
毎晩 *səksəni səksəni*
まえ（前）※ [場所] [時間]+ *dullee*
まえ（前）に※ *dulleekkee*
（より）まえに *dulleekkee*
ま（曲）がった *mokčuu*
ま（曲）がる※ *mokčiǰǰeeni*
まき（薪）× *moo*
ま（巻）く※ *morreeni, xuurini*
ま（撒）く *masalleeni*
まくら（枕） *čirəptu*
ま（負）ける※ *dabjeeni*
ま（曲）げる※ *mokčillini*
まご（孫）※ *gamasu, puttəni puttəni*
ま（混）ざる，ま（混）じる *poojipčini*
まず（貧）しい※ *ǰobbee*

ま（混）ぜる※ *poojjini*
また（股） *saalda*
また（again）※ *goči*
まだ※ *nimmaa*
まち（町）※ *xotto*
まちが（間違）える，まちがう *əənǰeeni*, *xaalčeeni*
ま（待）つ※ *əruччini*[1], *xalaччini*
まつげ（睫） *sirumukta*
まっす（真直）ぐ+，まっすぐな× *toŋdo*
マッチ *piičikka*
まつり（祭） *bəjəmbə xurigaччuri*
まど（窓）※ *paawa*
ま（間）にあ（合）う *dugǰeeni*
まね（真似）る※ *alamaччini*, *amǰeeni*
まぶ（眩）しい *taralisini*, *taraluuli*
まぶた（瞼） *isal təmbuktəni*
ままこ（継子） *puttərə*
ままちち（継父） *amira*
ままはは（継母） *ənirə*
まめ（豆）※ *turi*
まゆげ（眉毛+）※，まゆ（眉） *xoppokto*
まよ（迷）う※ *miigəччini*
まる（丸+）い※ *morolisu*
（の）まわりに→まわりを *xərəlimi*
まわ（回+，廻×）る※ *xərəllini*
万 *tumə*
満月 *čeeso bee*
まんなか× *taldaa*

み

み（実）※ *siduxu*
→きのみ
→いちご *xojoo*
みいだ（見出）す→みつける
み（見）える *itəpčini*
みおく（見送）る *səssəuччini*
みが（磨）く *iltaalusini*
みぎ（右）※ *aanǰee*
みさき（岬）× *tusigə*
みじ（短）かい× *xurumi*
みず（水）※ *məə*
みず（水）{飲料} ×→みず
みずうみ（湖）※ *omoo*, *xəwərə*
みせ（店） *laapka*
み（見）せる※ *ittəunǰini*
み（満）たす→いっぱいにする *daluppini*
みち（道）※ *pokto*
み（満）ちた→いっぱいになる *dalupčini*
み（満）ちる→いっぱいになる *dalupčini*
み（見）つける※ *bakkeeni*
みっつ※（3）× *ilaa*
蜜ばち（蜂）×→はち *xapinau*
みどり（緑+）※ *geeǰi*, *ɲoogdo*
みな（皆）→みんな
みなしご× *aŋada puttə*
みなみ（南）※ *suunǰee*
みは（見張）る *ətəurini*
みみ（耳）※ *seen*
みみたぶ（耳朶） *seen təmbuktəni*
脈博 *xogboli*
み（見）る※ *iččeeni*
みんな× *gəəm*

む

むかし（昔） *goropči*
む（剥）く※→はぐ *sinəllini*, *sinneeni*
（獣皮） *puirini*
（くまの皮） *tədunǰini*
（樹皮） *xuralasini*
む（向）く *xalluunǰini*
むこ（婿）× *irgə*
む（向）こう *baǰǰee*
むし（虫）※ *koliga*
むずか（難+）しい※ *ǰoboччuuli*
むすこ（息子）※ *xusə puttəni*
むす（結）ぶ※ *ujjini*, *xunnini*
むすめ（息女）× *əəktə puttəni*
むすめ（娘）※ *patala*
むち（鞭） *puŋnəpu*
むっつ※（6）+ *nuŋu*
むね（胸）※ *tuŋə*
むら（村）※ *gasa*[2]
むれ（群）[動物の] *jawata*, *maanǰi*, *pəktu*, *səsi*

め

め（目+，眼×）※ *isal*
めい（姪）※ *gamasu*, *pundadu*, *taaji*
名称→なまえ
めがね（眼鏡） *isaaptu*
めくら※（盲）+（盲目者）× *bali*
めざ（目覚）める→めをさます *meeljini*
めし（飯） *buda*
めしつか（召使）い×→使用人 *takkuramǰi*
めす（雌） *əninə*, *nami*
めずら（珍）しい *pəskəpsuuli*
めだま（目玉） *buli*

も

も（燃）える※ *dəgǰeeni*
木材×→木（材）
もぐ（潜）る *purrini*
文字→字
もちあ（持上）げる *əurrini*
もち（用）いる→つかう
も（持）つ※→もっている
も（持）ってい（行）く× *orogǰini*
も（持）っている× *dapuччeeni*
も（持）ってく（来）る× *gaǰǰini*
もっと× *goči*
もっと（最）も *tənəə*
もっと（最）もい（良）い→一番いい *tənəə uliŋga*
もっと（最）もわる（悪）い→一番わるい *tənəə orki*
もてなす *təjjeeni*
もと（求）める *gəlleeni*
ものがたり（物語）※→（口頭文芸） *niŋmaa*, *saxuri*, *təəluŋu*
も（揉）む *monǰini*
木綿 *busu*
もも（腿）× *gajaska*
ももひき× *pəruu*
も（燃）やす× *dəgǰini*
→たく *iwanǰini*
→や（焼）く
もり（森）※ *mooso*
も（漏）る
（バケツが） *xəjjeeni*

や

や（矢）※ *ləkkə*
やかま（喧）しい *xaunuuli*
やかん（薬罐） *čaanikka*

や（焼）く※ *daljeeni*
約束する *toktoumaččini*
役人→巡査 *jaŋgəə*
やさ（優）しい※→おとなしい *bərəu*
やさ（易）しい×→たやすい
やしな（養）う *ujjini*
やす（安）い *ǰaa*
やす（休）み *dərukpi*
やす（休）む※ *dərukpini*
や（痩+）せた※ *xumana*
やっつ※（8）× *ǰakpu*
やってみる *pərgeeni*
やぶ（破）く+，やぶ（破）る※ *gudəčči-ni*, *gudənǰini*
やぶ（破）れる→さける *gudəǰǰeeni*
やま（山）※ *xurigə*
や（止）む（雨や雪が） *gaalǰini*
や（止+）める※ *xoǰiǰǰini*
やもめ（寡婦）× *naawu*
やり（槍）※ *gida*
やる *bəərini*
やわ（柔）らかい※ *dəjə*

ゆ

ゆ（湯）※ *xulduu məə*
夕+，ゆうがた（夕方×）※，ゆうぐれ（夕暮）+ *səksə*, *səksəni*
夕食 *səksəu*
ゆか（床）※ *xədəxi*
ゆき（雪）※ *simana*, *simatta*
ゆげ（湯気）×→蒸気 *sugbi*
ゆっくり *ərkəǰi*
ゆで（茹）る *ələsini*
ゆび（指）※ *kotoo*
ゆびわ（指輪）× *xunaaptu*
ゆみ（弓）※ *burixə*
ゆめ（夢） *tolči*
ゆめ（夢）をみ（見）る※ *tolčiččini*
ゆるい× *xəptuu*
ゆる（弛，緩）む→ゆるくなる *xəptuu osini*
ゆる（緩）める *xəptulleeni*
ゆ（揺）れる *bəəbəəkkini*

よ

よ（酔）う※ *sokčeeni*
容易→たやすい
用意する×→支度（を）する *bagduxxini*, *burgini*, *bəlikkini*
よこ（横）※→よこに *xəundəi*
よご（汚）す *bujjini*
よこ（横）たわる→よこになっている *apaačči-ni*
よ（止）す→やめる
よだれ（涎） *ǰeluska*
よっつ※（4）× *ǰiin*
よ（呼）ぶ※ *xəwəčči-ni*
余分 *puləə*
よ（読）む※ *taunǰini*
よめ（嫁）× *irgə*
よる（夜）※ *dolbo*, *dolboni*
よろこ（喜）ぶ※ *agǰeeni*
よわ（弱）い※ *ugdəə*
四分の一×→四半分 *kaltaani kaltaani*

ら

来月 *goi bəə*
来客→客 *andaxa*
来年 *gočči-i anannee*
落下する→おちる
られる［見られる］→みられる *ittəunǰini*
らんぼうな× *ajakta*

り

陸 *naa*
利巧+，悧巧な×→かしこい
猟 *bəjjəuwuri*
両親※ *ənini amini*
猟に行く×→猟をする *bəjjəurini*
料理 *əruččuri*
旅館 *aundaččuri duxu*
旅行 *pulipuri*

れ

れる※［殺される］+ {「殺される」}×→殺される *waawoonǰini*

ろ

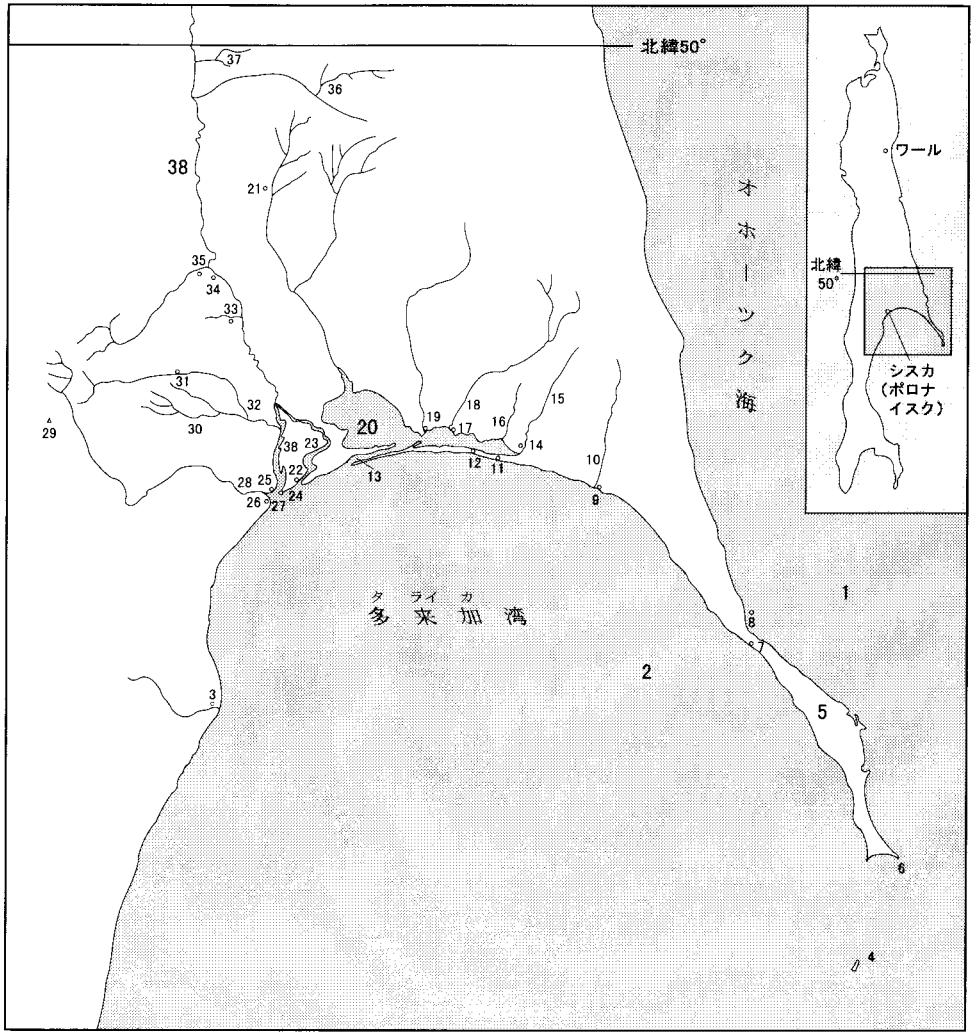
炉×→囲炉裏火 *tawa*
老人× *sagǰinnee*
六 *nuŋu*
六月 *sillaan beeni*
六十※ *nuŋundoo*

わ

わ（輪）※ *kərgi*, *kərgigə*
わか（若）い※ *purigə*
わ（沸）かす *puijuurini*
わかもの（若者）× *purigənnee*
わかる× *saarini*, *utullini*
わか（別）れる *pujəčigəllini*
わきのした× *xawani*
わ（沸）く *puisini*
わけまえ（分前） *ubuu*
わ（分）ける *durallini*
わし（鷲）× *gusi*
わす（忘）れる※ *oŋbeeni*
わた（綿）× *juxa*

わたし（私+）※ *bii*
わたしたち（私達+）※ *buu*
わた（渡）る※ *daurini*
わな（罠）※ *puta*
わ（詫）びる *aaltaallini*
わら（笑）う※ *inəsini*
わ（割）る※ *iwəčči-ni*, *kaltallini*, *kaltassini*
わる（悪）い※ *orki*
わ（割）れる *kaltaǰǰeeni*
椀×→入れもの *alukku*
湾× *oondo*

樺太南部ウイルタ居住地方略図



樺太南部（*Suu naani*）ウイルタ居住地方地名

×印の地名は地図に記載してない。

Ambamaitu 敷香岳 29
Dawaska ダワシカはここか 37
Dəun 毛売川地方にある ×
Ǝəktə namu 北知床半島西側の海 2
Kiwu 毛売（ケウ，ケウリ）17
Kiwu unini 毛売川 18
Korreega コレア 33
Kuuji nəəni 多来加（タライカ）川 13
Ləbləmuu レブレム（幌内川のコレアよりやや下流左岸）×
Luisə 初問川の支流 ×
Luktama 留久玉（ルクタマ）19
Luktama xəwərəni 多来加（タライカ）湖 20
Mama, Mama joloni ろうそく岩（北舟越を越えた東海岸）8
Məgdəmə buwaatani 十三号の島 12
Miiktəisə 十二号 11
Mimita ミミタ（幌内川のコレアと多蘭川分岐点との中間）×
Mimita unigaani ミミタ川（同上）×
Muigə 武意加（ムイカ）川 36
Musibi 舟越（北舟越）7
Naiputu 多蘭（タラン）22
Naiputu nəəni 多蘭川 23
Nəəwə 野頃（ノコロ）9
Nəəwə unini 野頃川 10
Opto unini この川のことだろう 16
Oso 尾曽（オソ）14
Oso unini 尾曽川 15
Paamaitu 幌内川下流の沿岸 ×
Paaxa omoo 十一号（十号と十二号の間）×
Sačigari 佐知 24
Sagǰi Suu, Sagǰi Suu unini, Daaji Sagǰi Suu 幌内（ポロナイ）川 38
Saŋaltu ふたつ岩（北知床半島の先端にある）×
Saudaanu 新問（ニイトイ）3
Soddoi 初問（ショドイ）31
Soddoi unini 初問川 32
Səəktə 敷香（シスカまたはシクカ）26
Səəktə nəəni 敷香川と幌内川の河口近い部分 27
Səəktə unini, Sii, Sii unini 敷香川 28
Tau naani 北知床半島 5
Tau duwəni 北知床岬 6
Tokčipu 十号（野頃と尾曽の間）×
Uktai ウクタイ川（初問川の支流）30
Utasi オタス 25
Xagja 萩矢（ハギヤ）34
Xəldə 振戸（フリト）21
Xərəitu 敷香川の奥にある ×
Xuigii 保恵（ホエ）35
Xurigətəə 海豹島 4
Xusə namu 北知床半島東側の海 1

参考文献

「 」は論文等の題名をくくり，『 』は書名や雑誌名をくくる。「 」のつぎの『 』は「 」内の文が掲載されている単行本か雑誌の名を示す。

池上二良（Jiro IKEGAMI）（1956）「オロッコ語の名詞変化（The Substantive Inflection of Orok）」（英文）『言語研究』30　日本言語学会

————（1959）「オロッコ語の動詞変化（The Verb Inflection of Orok）」（英文）『国語研究』9　国学院大学国語研究会

————（1970）「オロッコ族の親族名称（Orok Kinship Terminology）」（英文）『北方文化研究』4　北海道大学文学部附属北方文化研究施設

————（1971）「十九世紀なかごろのオロッコ語集－サンタン語・ギリヤーク語をふくむ－」『北方文化研究』5　北海道大学文学部附属北方文化研究施設

————（1973）「オロッコ語の動詞語幹形成接尾辞（Orok Verb-stem-formative Suffixes）」（英文）『北方文化研究』7　北海道大学文学部附属北方文化研究施設

————（1979）『ウイルタ古画集録』（＝『ウイルタ民俗文化財緊急調査報告書１』）北海道教育委員会・北海道文化財保護協会

————（1980）『ウイルタ語基礎語彙』（＝『ウイルタ族言語文化調査研究報告２』）北海道大学文学部言語学研究室

————（1982）『ウイルタの暮しと民具』（＝『ウイルタ民俗文化財緊急調査報告書４』）北海道教育委員会・網走市北方民俗文化保存協会

————（1984）『ウイルタ口頭文芸原文集』（＝『ウイルタ民俗文化財緊急調査報告書６』）北海道教育委員会・網走市北方民俗文化保存協会

————（1985）『ウイルタ民俗語彙』（＝『ウイルタ民俗文化財緊急調査報告書７』）北海道教育委員会・網走市北方民俗文化保存協会

————（1987）「ウイルタ語・オルチャ語研究におけるB.ピウスツキ」『国立民族学博物館研究報告』別冊5　国立民族学博物館

————（1989）「ウイルタ語生活語彙」『ウイルタ語生活語彙・ウイルタの刺繍』（＝『ウイルタ民俗文化財緊急調査報告書10』）北海道教育委員会・網走市北方民俗文化保存協会

————（1992）「ウイルタ語生活語彙補編」『カラフト原住民の旧調査資料・ウイルタ語生活語彙補編』（＝『ウイルタ民俗文化財緊急調査報告書13』）北海道教育委員会・網走市北方民俗文化保存協会

————（1993a）「ウイルタ語代名詞とその格変化」『札幌大学女子短期大学部創立25周年記念論文集　地域・情報・文化』札幌　響文社

————（1993b）「ウイルタ語研究小史（A Brief History of the Study of the Uilta Language）」

（英文）村崎恭子編（1993）所収

————（1994a）「ウイルタ語の南方言と北方言の相違点」『北海道立北方民族博物館研究紀要』3　網走

————（1994b）「樺太のウイルタ語の感嘆・疑問その他の語尾について」『北海道方言研究会20周年記念論文集　ことばの世界』北海道方言研究会（電話011-772-1976）

————（1995）「ウイルタ語の場所などを表す語の構成について」『Altai学報』5　韓国Altai学会（Seoul大学校人文大学）

石田英一郎（1941）「邦領南樺太オロッコの氏族に就いて（一）」『民族学年報』3　民族学協会

井上紘一（Koichi INOUE）（1993）「ウイルタとそのトナカイ飼育（Uilta and their Reindeer Herding）」（英文）村崎恭子編（1993）所収

犬飼哲夫（1941）「樺太オロッコの海豹猟」『北海道帝国大学北方文化研究報告』4

————（1942）「流氷期のオロッコ海豹狩」『民族学研究』８巻１号

樺太庁（1914）『樺太動物調査報告』

川村秀弥（1942）「邦領樺太オロッコ・ギリヤークの狩猟並に漁労習俗資料」『民族学研究』８巻１号

————（1983）『川村秀弥採録カラフト諸民族の言語と民俗』（＝『ウイルタ民俗文化財緊急調査報告書５』）北海道教育委員会・網走市北方民俗文化保存協会

北川源太郎（1986, 1988, 1990, 1991）「北川源太郎筆録「ウイルタのことば（１）」」『ぎりやーく・おろっこ器物解説書・北川源太郎筆録「ウイルタのことば（１）』（＝『ウイルタ民俗文化財緊急調査報告書８』）および『北川源太郎筆録「ウイルタのことば（２，３，４）」』（＝『ウイルタ民俗文化財緊急調査報告書９，11，12』）北海道教育委員会・網走市北方民俗文化保存協会

金田一京助（1912）『日本国内諸人種の言語』東京人類学会

黒田信一郎（1979）「ウイルタ（オロッコ）調査覚え書き」『民族学研究』44巻３号

————（1980a）「トゥングース語系諸族の親族体系覚書（一）」『北方文化研究』13　北海道大学文学部附属北方文化研究施設

————（1980b）「民具・世界観・夢」『ウイルタ族言語文化調査研究報告１』北海道大学文学部言語学研究室

河野広道（1935）「樺太奥地土人の風俗　ギリヤークとオロッコ」『蝦夷往来』14

————（1942）「樺太アイヌ，ギリヤーク，オロッコの工芸，特に樹皮工芸に就て」『工芸』107　東京　日本民芸協会

————（1953）「北方のアクセサリ」『暮しの手帖』22　東京　暮しの手帖社

河野本道（1976）『北方の民具１－ニクブン，ウィタ，オロチョンの工芸と刺しゅう－』札幌　北海道出版企画センター

菅原繁蔵（1975）『樺太植物誌』東京　国書刊行会

高倉新一郎（1939）「近世に於ける樺太を中心とした日満交易」『北海道大学北方文化研究報告』1

田中淑乃（1989）「ウイルタの刺繍」『ウイルタ語生活語彙・ウイルタの刺繍』（＝『ウイ

ルタ民俗文化財緊急調査報告書10』）北海道教育委員会・網走市北方民俗文化保存協会
津曲敏郎 (Toshiro TSUMAGARI)（1980）「『ツングース・満州諸語比較辞典』のウイルタ語単語の検討」『ウイルタ族言語文化調査研究報告１』北海道大学文学部言語学研究室
————（1983）「ウイルタ語のアクセント」『アジア・アフリカ文法研究』12　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
————（1985a）「ウイルタ語文法概略（Grammatical Outline of Uilta）」（英文）『アジア・アフリカ文法研究』14　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
————（1985b）「Ｂ．ピウスツキのオロッコ語語彙について（On B.Pilsudski's Orok Vocabulary）」（英文）『「Ｂ．ピウスツキ古蝋管とアイヌ文化」国際シンポジウム報告』（英文）北海道大学
————（1987）「Ｂ．ピウスツキのオロッコ語文法記述について」『国立民族学博物館研究報告』別冊５　国立民族学博物館
長根助八（1925）『樺太土人の生活　アイヌ・オロッコ・ギリヤーク』東京　洪洋社
中目　覚（1917a）『樺太の話』東京　三省堂
————（1917b）『オロッコ文典』東京　三省堂
早田輝洋 (Teruhiro HAYATA)（1979）「オロッコ語名詞形態音韻論（Orok Noun Morphophonology）」（英文）『アジア・アフリカ文法研究』８　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
潤潟久治（1981）『ウイルタ語辞典』網走市北方民俗文化保存協会
宮本馨太郎（1958）「オロッコ・ギリヤークの衣食住」『民族学研究』22巻１・２号
村崎恭子 (Kyoko MURASAKI) 編 (1993)『サハリンの少数民族 (Ethnic Minorities in Sakhalin)』(和英露文) 横浜国立大学教育学部
山本祐弘（1943）『樺太原始民族の生活』東京　アルス
————（1968）『北方自然民族民話集成－オロッコ・ギリヤーク・ヤクート・樺太アイヌ－』東京　相模書房
————（1979）『樺太自然民族の生活』東京　相模書房
和田　完（1958）「南樺太土着民における偶像－特にオロッコ・ギリヤークに関して－」『北海道大学北方文化研究報告』13
————（1978）「オロッコ族の病気に対する呪符」『国立民族学博物館研究報告』３巻４号
————（1980）「ウイルタ族のシャマニズム的偶像」『ウイルタ族言語文化調査研究報告１』北海道大学文学部言語学研究室
T. I. ペトローヴァ（T. I. Petrova）（1967）『オロッコ（ウリタ）族の言語（Jazyk orokov (ul'ta)）』（露文）レニングラード
T. ローン（T. Roon）（1996）『サハリンのウイルタ（Ujl'ta Sakhalina）』（露文）ユジノサハリンスク
B.A. ワシーレフ (B.A.Vasil'ev)（1929）「ウイルタ民族誌の基礎的特質 (Osnovnye čerty ėtnografii orokov)」（露文）*Ėtnografija* 1929, No.1 モスクワ・レニングラード

池上二良（いけがみ じろう）

1920年　長野県松本市に生まれる
東京帝国大学文学部言語学科卒業
東京大学大学院特別研究生，群馬大学助教授，
北海道大学文学部教授（言語学講座・大学院文学研究科担当，北方文化研究施設長併任），
札幌大学女子短期大学部教授を経る。
北海道大学名誉教授
ツングース・満洲語学専攻

ウイルタ語辞典

1997年２月25日　第１刷発行
1997年12月25日　第２刷発行

編　者　池上二良
発行者　菅野富夫

発行所　北海道大学図書刊行会
札幌市北区北９条西８丁目　北海道大学構内（〒060）
Tel. 011(747)2308・振替 02730-1 17011

㈱アイワード／石田製本

© 1997　池上二良

ISBN 4 8329-5821-6